

2024年度

星槎道都大学

授業計画（シラバス）



# 目次

2101001	情報基礎演習 (M)	由水・薦田・佐藤雅	前期	...	1
2101002	情報基礎演習 (S)	宮崎・薦田	前期	...	3
2101003	情報基礎演習 (D)	薦田・佐藤雅	前期	...	5
2101004	情報基礎演習 (A)	薦田・佐藤雅	前期	...	7
3201101	トイ語入門 (M)	河田 一郎	前期	...	9
5301001	基本製図	安藤・向井	前期	...	11
7210001	専門演習 A	由水 伸	前期	...	13
7210002	専門演習 A	信濃 吉彦	前期	...	15
7210003	専門演習 A	河野 善文	前期	...	17
7210005	専門演習 A	鈴木 重政	前期	...	19
7210006	専門演習 A	岡島 徳昭	前期	...	21
7210008	専門演習 A	青山 浩之	前期	...	23
7210009	専門演習 A	石山 玄幸	前期	...	25
7210010	専門演習 A	天野 雅斗	前期	...	27
7210011	専門演習 A	石井 祐治	前期	...	29
7210012	専門演習 A	篠原 諒介	前期	...	31
7210013	専門演習 A	川津 大樹	前期	...	33
7210014	専門演習 A	小林 大州介	前期	...	35
7210062	専門演習 A	小早川 俊哉	前期	...	37
7210063	専門演習 A	上原 正希	前期	...	39
7210064	専門演習 A	藤根 収	前期	...	41
7210065	専門演習 A	松下 守邦	前期	...	43
7210068	専門演習 A	大島 康雄	前期	...	45
7210069	専門演習 A	吉江 幸子	前期	...	47
7210070	専門演習 A	西野 克俊	前期	...	49
7210071	専門演習 A	畠山 明子	前期	...	51
7210074	専門演習 A	堀川 厚志	前期	...	53
7210075	専門演習 A	宮崎 剛司	前期	...	55
7210076	専門演習 A	蝦名 美穂	前期	...	57
7210077	専門演習 A	星野 秀治	前期	...	59
7503000	建築設計演習	佐藤善・向井・矢部	前期	...	61
7541000	建築表現	安藤・君	前期	...	63
1103100	人間と哲学	尾崎 有紀	前期	...	65
1305000	統計学入門	伊藤 裕康	前期	...	67
6101061	基礎ゼミ A	竹内 美帆	前期	...	69
6101062	基礎ゼミ A	後藤 啓倫	前期	...	71
6101063	基礎ゼミ A	戸佐 晃一	前期	...	73
6101064	基礎ゼミ A	米野 宏	前期	...	75
6101065	基礎ゼミ A	佐藤 和裕	前期	...	77
6101068	基礎ゼミ A	三嶋 康嗣	前期	...	79
6101069	基礎ゼミ A	井坂 肇	前期	...	81
6101071	基礎ゼミ A	阿部 一也	前期	...	83
6101072	基礎ゼミ A	篠原 諒介	前期	...	85
6101074	基礎ゼミ A	杉本 大輔	前期	...	87
6101075	基礎ゼミ A	横田 肇	前期	...	89
6101076	基礎ゼミ A	櫻井 美帆子	前期	...	91
6101077	基礎ゼミ A	湯浅 頼佳	前期	...	93
6101078	基礎ゼミ A	尾西 則昭	前期	...	95
6101079	基礎ゼミ A	西崎 毅	前期	...	97
6101082	基礎ゼミ A	宮嶋 達也	前期	...	99
6101083	基礎ゼミ A	横山 哲也	前期	...	101
6101085	基礎ゼミ A	向井 正伸	前期	...	103
6101086	基礎ゼミ A	佐藤 恵利	前期	...	105
6101087	基礎ゼミ A	千葉 聡美	前期	...	107
6101089	基礎ゼミ A	河田 一郎	前期	...	109
6101090	基礎ゼミ A	大島 康雄	前期	...	111
6101092	基礎ゼミ A	山本 一彦	前期	...	113
6101093	基礎ゼミ A	木村 浩紀	前期	...	115
6101094	基礎ゼミ A	薦田 勇智	前期	...	117
6101095	基礎ゼミ A	佐藤 雅一	前期	...	119
6101096	基礎ゼミ A	塩崎 大輔	前期	...	121
7819000	行々漫画概論	竹内 美帆	前期	...	123
1113100	芸術への力	梅田 力	前期	...	125
3103101	英語入門 (M)	石田 暁子	前期	...	127
3103102	英語入門 (S)	横田 肇	前期	...	129
3103103	英語入門 (D・A)	宮嶋 達也	前期	...	131
7302000	立体構成	梅田 力	前期	...	133
7305500	行々演習基礎	佐藤 正人	前期	...	135
6103063	基礎ゼミ A	戸佐 晃一	前期	...	137
6103064	基礎ゼミ A	米野 宏	前期	...	139
6103065	基礎ゼミ A	佐藤 和裕	前期	...	141
6103068	基礎ゼミ A	三嶋 康嗣	前期	...	143
6103069	基礎ゼミ A	井坂 肇	前期	...	145
6103072	基礎ゼミ A	篠原 諒介	前期	...	147
6103073	基礎ゼミ A	後藤 啓倫	前期	...	149

6103074	基礎ゼミナル	A	杉本	大輔	前期	...	151		
6103075	基礎ゼミナル	A	横田	肇	前期	...	153		
6103076	基礎ゼミナル	A	櫻井	美帆子	前期	...	155		
6103077	基礎ゼミナル	A	湯浅	頼佳	前期	...	157		
6103078	基礎ゼミナル	A	尾西	則昭	前期	...	159		
6103079	基礎ゼミナル	A	西崎	毅	前期	...	161		
6103081	基礎ゼミナル	A	小山	尋明	前期	...	163		
6103082	基礎ゼミナル	A	宮嶋	達也	前期	...	165		
6103083	基礎ゼミナル	A	横山	哲也	前期	...	167		
6103085	基礎ゼミナル	A	向井	正伸	前期	...	169		
6103086	基礎ゼミナル	A	佐藤	恵利	前期	...	171		
6103089	基礎ゼミナル	A	大島	康雄	前期	...	173		
6103095	基礎ゼミナル	A	竹内	美帆	前期	...	175		
6103096	基礎ゼミナル	A	千葉	聡美	前期	...	177		
6103097	基礎ゼミナル	A	山本	一彦	前期	...	179		
6103099	基礎ゼミナル	A	河田	一郎	前期	...	181		
6103100	基礎ゼミナル	A	木村	浩紀	前期	...	183		
7702000	マーケティング論		鈴木	重政	前期	...	185		
9110000	社会科・公民科教育法		松下	守邦	前期	...	187		
5203001	平面構成		北嶋	洋一	前期	...	189		
5205000	色彩環境論		安田	祐造	前期	...	191		
5208000	西洋美術史		竹内	美帆	前期	...	193		
5306100	建築環境		佐々木	哲之	前期	...	195		
7330000	漫画		三上	いずみ	前期	...	197		
7516000	建築計画		安藤	淳一	前期	...	199		
7580000	鉄筋コンクリート構造		長森	正	前期	...	201		
7721001	経営情報論		薦田	勇智	前期	...	203		
7721002	経営情報論 (SP)		薦田	勇智	前期	...	205		
7727000	ミカ経済学		河野	善文	前期	...	207		
9107000	社会科・地理歴史科教育法		塩崎	大輔	前期	...	209		
1204000	政治学入門		後藤	啓倫	前期	...	211		
5109100	医学概論		宮崎	剛司	前期	...	213		
5312000	建築施工		小笠原	健	前期	...	215		
7825000	日本画		岡	恵子	前期	...	217		
7828000	建築設備		君	興治	前期	...	219		
5111100	高齢者福祉		櫻井	美帆子	前期	...	221		
5207101	テッサ		西田	陽二	前期	...	223		
5307000	建築構造力学		長森	正	前期	...	225		
7555000	CAD演習		君	向井	前期	...	227		
7826000	洋画		安田	祐造	前期	...	229		
5114100	障害者福祉		畠山	明子	前期	...	231		
5407001	ホ-ツ経営管理論		天野	雅斗	前期	...	233		
5407002	ホ-ツ経営管理論 (SP)		天野	雅斗	前期	...	235		
1206100	日本国憲法 (M)		青山	浩之	前期	...	237		
1206101	日本国憲法 (S・D・A)		後藤	啓倫	前期	...	239		
5206001	テッサ		西田	陽二	前期	...	241		
7566000	建築表現		安藤	淳一	前期	...	243		
5309000	建築法規		佐藤	善太郎	前期	...	245		
7746000	コーポレートファイナンス論		川津	大樹	前期	...	247		
7008100	ソーシャルワークの理論と方法(専門)		大島	康雄	前期	...	249		
7143002	人文地理学		塩崎	大輔	前期	...	251		
7331000	ビジュアルデザイン		田中	靖之	前期	...	253		
7340000	インテリアデザイン		赤木	良子	前期	...	255		
7009100	ソーシャルワークの理論と方法(専門)		大島	康雄	前期	...	257		
7525001	都市計画		安藤	淳一	前期	...	259		
7593002	職業指導 (A)		横山	哲也	前期	...	261		
7787001	ホ-ツビジネス論		鈴木	重政	前期	...	263		
7787002	ホ-ツビジネス論 (SP)		鈴木	重政	前期	...	265		
7052000	生涯学習概論		藤根	収	前期	...	267		
7318100	グラフィックデザイン		北嶋	洋一	前期	...	269		
7569000	アクションプログラム		伊藤	裕康	前期	...	271		
7010100	地域福祉と包括的支援体制		上原	正希	前期	...	273		
7510000	建築設計演習		向井	正伸	前期	...	275		
7723000	商法		青山	浩之	前期	...	277		
7752000	ホ-ツとヘルスケア		佐藤和	三嶋	前期	...	279		
7318200	プロダクトデザイン		林	春生	前期	...	281		
7575000	建築構造力学		小笠原	健	前期	...	283		
9126000	保健体育科教育法		高井	雅一	前期	...	285		
7184000	社会思想史		後藤	啓倫	前期	...	287		
7508000	住宅設計演習		君	興治	前期	...	289		
5119100	刑事司法と福祉		西野	克俊	前期	...	291		
7013100	ソーシャルワーク演習(専門)		小早川	杉本	櫻井	大島	星野	前期	293
7722000	原価計算論		鈴木	重政	前期	...	295		
7821000	写真表現		林	春生	前期	...	297		
7152000	カレリク論		蝦名	美穂	前期	...	299		
5117000	福祉サービスの組織と経営 (S)		大島	康雄	前期	...	301		
5117001	福祉サービスの組織と経営 (M)		大島	康雄	前期	...	303		
7122000	臨床心理学		蝦名	美穂	前期	...	305		
7586000	建築法規		佐藤	善太郎	前期	...	307		
7336000	行ストレーション		浩而	魅諭	前期	...	309		

7589000	建築の職能と倫理	君 興治 前期	...	311
9121001	教育方法論 (M・D・A)	藤根 収 前期	...	313
9121002	教育方法論 (S)	藤根 収 前期	...	315
7331100	キャラクターデザイン	三上 いずみ 前期	...	317
7361000	技法・材料研究	安田 祐造 前期	...	319
7367001	漫画	五十嵐・鴨 前期	...	321
7735000	情報システム論	由水 伸 前期	...	323
7364000	彫刻	梅田 力 前期	...	325
7198000	スクールワーク論	上原 正希 前期	...	327
7556000	応用物理	伊藤 裕康 前期	...	329
7829000	デザイン製図	松岡 龍介 前期	...	331
7366001	工芸実習 (楠本)	楠本 祐弘 前期	...	333
7366002	工芸実習 (中島知)	中島 知之 前期	...	335
7366003	工芸実習 (森迫)	森迫 暁夫 前期	...	337
7366004	工芸実習 (島田)	島田 晶夫 前期	...	339
7366005	工芸実習 (中島義)	中島 義博 前期	...	341
7603000	建築設備	君 興治 前期	...	343
7278000	子ども家庭支援論	杉本 大輔 前期	...	345
7341000	インテリアデザイン	安藤 淳一 前期	...	347
7371000	造形論	松岡 龍介 前期	...	349
7379000	彫刻	国松 明日香 前期	...	351
7481000	子どもの保健	宮崎 剛司 前期	...	353
7483000	保育内容演習 (健康)	宮崎 剛司 前期	...	355
7542200	一級対策製図	君・向井 前期	...	357
7532200	一級建築士演習	伊藤裕・佐々木哲・君 前期	...	359
9127001	教育相談(かべりつ)を含む。)	(M・D・A) 蝦名 美穂 前期	...	361
9127002	教育相談(かべりつ)を含む。)	(S) 蝦名 美穂 前期	...	363
7353000	映像表現	北嶋 洋一 前期	...	365
7532300	一級建築士演習	安藤・佐々木哲 前期	...	367
7597000	建築表現	安藤 淳一 前期	...	369
7733300	体育史	尾西 則昭 前期	...	371
7322200	グラフィックデザイン	林 春生 前期	...	373
7792000	学校保健	天野 雅斗 前期	...	375
7542400	二級対策製図	佐藤善・向井 前期	...	377
7799000	衛生学及び公衆衛生学	宮崎 剛司 前期	...	379
9109000	工業科教育法	横山 哲也 前期	...	381
7522200	二級建築士演習	佐藤善・向井 前期	...	383
7744000	経営分析論	石山 玄幸 前期	...	385
7744001	経営分析論 (SP)	石山 玄幸 前期	...	387
9111000	美術科教育法	竹内 美帆 前期	...	389
7337100	イラストレーション	佐藤 正人 前期	...	391
7522300	二級建築士演習	佐藤善・向井 前期	...	393
7598000	アクションプログラム	伊藤 裕康 前期	...	395
7768001	人的資源管理論	信濃 吉彦 前期	...	397
7768002	人的資源管理論 (SP)	信濃 吉彦 前期	...	399
7806000	精神保健	畠山 明子 前期	...	401
7811000	社会学概論	松下 守邦 前期	...	403
9115000	工業科教育法	三上 いずみ 前期	...	405
7604000	建築積算	佐々木 哲之 前期	...	407
7521100	施工管理技士演習	小笠原 健 前期	...	409
7017100	ワーク実習指導	小早川上原杉本櫻井大島星野 前期	...	411
7795100	球技 (バスケボール)	天野 雅斗 前期	...	413
7796100	球技 (バレーボール)	天野 雅斗 前期	...	415
7802101	球技 (ソフトボール)	米野 宏 前期	...	417
7026100	ワークの理論と方法(専門)	西野 克俊 前期	...	419
7355000	コンテンツデザイン	上坂 恒章 前期	...	421
7804100	球技 (サッカー)	木島・小助川 前期	...	423
7116000	精神保健福祉援助演習	畠山・西野 前期	...	425
7118000	精神保健福祉援助演習	畠山・西野 前期	...	427
7812000	アグリビジネス論	石山 玄幸 前期	...	429
7282000	スクールワーク演習	上原 正希 前期	...	431
7279000	社会的養護	杉本 大輔 前期	...	433
7612000	アクションプログラム	佐藤 善太郎 前期	...	435
7132000	子どもの食と栄養	湯浅 頼佳 前期	...	437
7755000	テーマ-ス論	由水 伸 前期	...	439
7298000	子育て支援	杉本 大輔 前期	...	441
7146000	病弱教育	千葉 聡美 前期	...	443
7754000	国際経営論	岡島 徳昭 前期	...	445
7158000	発達障害等教育総論	堀川 厚志 前期	...	447
7761000	産業社会論	山本 一彦 前期	...	449
7309000	工芸実習	中島義・梅田力・三上 前期	...	451
7015100	ワーク演習(専門)	小早川上原杉本櫻井美大島畠山 前期	...	453
7175100	精神医学と精神医療	伊東 隆雄 前期	...	455
7166000	精神保健福祉援助実習指導	畠山・西野 前期	...	457

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (M) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 雅一(経営学科・専任講師)、由水 伸(経営学科・教授)、薦田勇智		研究室等所在	1号館2階(佐藤)・1号館2階(由水)・2号館7階(薦田)	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 雅一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・インターネットを利用する際のセキュリティやマナーに配慮した利用法を学ぶ。  
 ・Microsoft Teamsを利用したオンライン授業の受け方と、課題の回答方法について学ぶ。  
 ・P Cによる文書作成の方法について理解し、適切なかたちで利用する方法を学ぶ。  
 ・PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨く。  
 ・「数理・データサイエンス」を理解する上で必要な基本的な素養を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。(2024年度)

到達目標

・ネット上のセキュリティやマナーを理解し、他の利用者に配慮しながら、安心安全に利用できる。  
 ・Microsoft Teamsを利用したオンラインまたは対面の受講ができる。  
 ・Microsoft Wordを使った文書作成を学び、他の講義や、レポート、卒業論文に活用できる。  
 ・Microsoft PowerPointを使って発表資料を対象者に応じて視覚的に分かりやすく、かつ効果的に説明できる。

授業全体の内容と概要

・本学のネットワークの利用法とマナーについて説明する。  
 ・実習前半では、Microsoft Wordを使った、文書処理(定型文書やレポートの作成等)を学ぶ。  
 ・実習後半では、Microsoft PowerPointを使った、発表の組み立て、資料の準備、PowerPointの基本的な使い方などを学ぶ。  
 ・本科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム(情報リテラシー)の関連授業科目である。  
 ・本科目は、以下のSDGsに関連授業科目である。  
 「SDGs4:質の高い教育をみんなに」  
 「SDGs9:産業と技術革新の基盤をつくろう」

授業の方法

・ICTを活用した講義体制となる。  
 ・解説・演習時は、大型モニターに教材(スライド資料等)を提示しながら行う。  
 ・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求める。  
 ・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・実習時は、大学に備え付けのP Cの他、自己所有のノートP C(Windows/Mac)を使用してもよい。  
 ・自己所有のノートP Cを使用する場合は、Microsoft Officeを便えるように準備すること。(大学から無償で提供)。  
 ・課題作成については著作物等の盗用(剽窃)無きよう、十分配慮すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。  
 ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、特別な理由がない限りそれ以上の場合は欠席とみなす。  
 ・課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ネット上のセキュリティとマナーの理解	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、自分が守るだけでなく周囲にも働きかけている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、より広い範囲で守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し、正しく守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し守っている。	ネット上のセキュリティとマナーを守ろうとする意識が無い。
Microsoft Teamsを利用した受講法	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。	ログインをして、必要なことはすべてできる。	ログインをして基本的な部分は利用できる。	利用する方法側からない。
Microsoft Word を使った文書作成	文字入力速度が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	文字入力速度が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。	文字入力速度が十分で、Wordの機能を利用して、定型文書作成を制限時間内に作成できる。また、レポートなども作成できる。	文字入力速度が遅めだが、Wordの機能を利用して、定型文書作成を時間がかかりながらも作成できる。	文字入力速度が遅く、Wordの機能活用まで至らない。
PowerPointを使った発表資料作成と表現力	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。	PowerPointを使った発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は十分であった。	PowerPointを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が劣っていた。	発表資料を作成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (M) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 雅一(経営学科・専任講師)、由水 伸(経営学科・教授)、薦田勇智	研究室等所在	1号館2階(佐藤)・1号館2階(由水)・2号館7階(薦田)		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 雅一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション ・シラバスの確認、学内のネットワーク、アカウントとパスワード等の説明	シラバスを読む(45分)	メモやノートを整理する(45分)
2	大学生に必要なネットワーク上のマナー、セキュリティの知識	ネットワーク上のマナーについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
3	Microsoft Officeの全般的な設定	Microsoft Officeについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
4	Wordの基本操作・書式設定(基本編) ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集 ・フォントと文字サイズ、文章と段落	Wordの書式設定について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
5	Wordによる文書作成 ・レイアウトとフォーマット、マージンの設定 段落のインデント、テキストの配置	Wordによる文書作成 ・ビジネス定型文書の作成1 単純な箇文の作成練習	操作方法を復習する(45分)
6	Wordによる文書作成 ・レポート作成の基本 表紙、図形、写真、などの画像の挿入方法	Wordによる文書作成 ・ビジネス定型文書の作成2 複雑な箇文の作成練習	操作方法を復習する(45分)
7	Wordによる文書作成 ・表作成 ページ番号、ヘッダーとフッターの設定	画像や図形の挿入方法について調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
8	Wordによる文書作成 ・複雑な表組	表やヘッダーとフッターについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
9	Wordによる文書作成 ・チラシの作成	表について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
10	Wordによる文書作成 ・チャットの作成	Wordに書かれる文章、構造等を調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
11	Wordまとめ	これまで学んだWordの内容について復習する(45分)	メモやノートを整理する(45分)
12	PowerPoint ・基礎課題を通じてPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本を理解する	PowerPointの基本的な使い方について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
13	PowerPoint ・基礎課題を通じてPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本を理解する2	PowerPointの基本的な使い方について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
14	PowerPoint ・各自自由にテーマ決めをする ・テーマに沿った内容のプレゼンテーション資料を	授業中に終わらなかった作業を行う(45分)	メモやノートを整理する(45分)
15	PowerPoint ・作成の続き	授業中に終わらなかった作業を行う(45分)	メモやノートを整理する(45分)
16	PowerPoint ・PowerPoint資料の完成、動画の提出 ・授業評価改善アンケート	授業中に終わらなかった作業を行い、動画を撮影する(45分)	メモやノートを整理する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (S) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	宮崎 剛司(社会情報学科・専任講師) ・ 薦田勇智(経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階(宮崎)・2号館7階(薦田)	
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・インターネットを利用する際のセキュリティやマナーに配慮した利用方法を学ぶ。  
 ・Microsoft Teamsを利用したオンライン授業の受け方と、課題の回答方法について学ぶ。  
 ・P Cによる文書作成の方法について理解し、適切なかたちで利用する方法を学ぶ。  
 ・PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨く。  
 ・「数値・データサイエンス」を理解する上で必要な基本的な素養を身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP 1、DP 2、DP 4に対応する。(2024年度)

到達目標

・ネット上のセキュリティやマナーを理解し、他の利用者に配慮しながら、安心安全に利用できる。  
 ・Microsoft Teamsを利用したオンラインまたは対面の受講ができる。  
 ・Microsoft Wordを使った文書作成を学び、他の講義や、レポート、卒業論文に活用できる。  
 ・Microsoft PowerPointを使って発表資料を対象者に応じて視覚的に分かりやすく、かつ効果的に説明できる。

授業全体の内容と概要

・本学のネットワークの利用法とマナーについて説明する。  
 ・実習前半では、Microsoft Wordを使った、文書処理(定型文書やレポートの作成等)を学ぶ。  
 ・実習後半では、Microsoft PowerPointを使った、発表の組み立て、資料の準備、PowerPointの基本的な使い方などを学ぶ。  
 ・本科目は、情報リテラシー教育の関連授業科目である。  
 ・本科目は、以下のSDGsに関連授業科目である。  
 「SDGs4:質の高い教育をみんなに」  
 「SDGs9:産業と技術革新の基盤をつくろう」

授業の方法

・ICTを活用した講義体制となる。  
 ・解説・演習時は、大型モニターに教材(スライド資料等)を提示しながら行う。  
 ・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求め。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・実習時は、大学に備え付けのP Cの他、自己所有のノートP C (Windows / Mac) を使用してもよい。  
 ・自己所有のノートP Cを使用する場合は、Microsoft Officeを便えるように準備すること。(大学から無償で提供)。  
 ・課題作成については著作権等の盗用(剽窃)無きよう、十分配慮すること。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。  
 ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、特別な理由がない限りそれ以上の場合は欠席とみなす。  
 ・課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ネット上のセキュリティとマナーの理解	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、自分が守るだけでなく周囲にも働きかけている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、より広い範囲で守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し、正しく守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し守っている。	ネット上のセキュリティとマナーを守ろうとする意識が無い。
Microsoft Teamsを利用した受講法	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。	ログインをして、必要なことはすべてできる。	ログインをして基本的な部分は利用できる。	利用する方法側からない。
Microsoft Word を使った文書作成	文字入力速度が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	文字入力速度が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。	文字入力速度が十分で、Wordの機能を利用して、定型文書作成を制限時間内に作成できる。また、レポートなども作成できる。	文字入力速度が遅めだが、Wordの機能を利用して、定型文書作成を時間がかかりながらも作成できる。	文字入力速度が遅く、Wordの機能活用まで至らない。
PowerPointを使った発表資料作成と表現力	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。	PowerPointを使った発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は十分であった。	PowerPointを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が劣っていた。	発表資料を作成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (S) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	宮崎 剛司(社会情報学科・専任講師) ・ 薦田勇智(経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階(宮崎)・2号館7階(薦田)	
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『P情報リテラシー教科書 Windows11/Office+Access_2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション ・シラバスの確認、学内のネットワーク、アカウントとパスワード等の説明	シラバスを読む(45分)	メモやノートを整理する(45分)
2	大学生に必要なネットワーク上のマナー、セキュリティの知識	ネットワーク上のマナーについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
3	Microsoft Officeの全般的な設定 Wordの基本操作・書式設定(基本編) ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集 ・フォントと文字サイズ、文章と段落	Microsoft Officeについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
4	Wordの基本操作・書式設定(基本編) ・レイアウトとフォーマット、マージンの設定 段落のインデント、テキストの配置	Wordの書式設定について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
5	Wordによる文書作成 ・ビジネス定型文書の作成1 単純な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成1について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
6	Wordによる文書作成 ・ビジネス定型文書の作成2 複雑な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成2について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
7	Wordによる文書作成 ・レポート作成の基本 表紙、図形、写真、などの画像の挿入方法	画像や図形の挿入方法について調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
8	Wordによる文書作成 ・表作成 ・ページ番号、ヘッダーとフッターの設定	表やヘッダーとフッターについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
9	Wordによる文書作成 ・複雑な表組	表について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
10	Wordによる文書作成 ・チラシの作成	どんなチラシがあるか調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
11	Wordまとめ	これまで学んだWordの内容について復習する(45分)	メモやノートを整理する(45分)
12	PowerPoint ・基礎課題を通じてPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本を理解する	PowerPointの基本的な使い方について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
13	PowerPoint ・基礎課題を通じてPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本を理解する2	PowerPointの基本的な使い方について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
14	PowerPoint ・各自自由にテーマ決めをする ・テーマに沿った内容のプレゼンテーション資料を	授業中に終わらなかった作業を行う(45分)	メモやノートを整理する(45分)
15	PowerPoint ・作成の続き	授業中に終わらなかった作業を行う(45分)	メモやノートを整理する(45分)
16	PowerPoint ・PowerPoint資料の完成、動画の提出 ・授業評価改善アンケート	授業中に終わらなかった作業を行い、動画を撮影する(45分)	メモやノートを整理する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (D) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 雅一(経営学科・専任講師)、 薦 田勇智(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階(佐藤)、2号館7階(薦田)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットを利用する際のセキュリティやマナーに配慮した利用法を学ぶ。</li> <li>Microsoft Teamsを利用したオンライン授業の受け方と、課題の回答方法について学ぶ。</li> <li>P Cによる文書作成の方法について理解し、適切なかたちで利用する方法を学ぶ。</li> <li>PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨く。</li> <li>「数理・データサイエンス」を理解する上で必要な基本的な素養を身につける。</li> </ul>
授業の位置づけ
全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。(2024年度)

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>ネット上のセキュリティやマナーを理解し、他の利用者に配慮しながら、安心安全に利用できる。</li> <li>Microsoft Teamsを利用したオンラインまたは対面の受講ができる。</li> <li>Microsoft Wordを使った文書作成を学び、他の講義や、レポート、卒業論文に活用できる。</li> <li>Microsoft PowerPointを使って発表資料を対象者に応じて視覚的に分かりやすく、かつ効果的に説明できる。</li> </ul>

授業全体の内容と概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>本学のネットワークの利用法とマナーについて説明する。</li> <li>実習前半では、Microsoft Wordを使った、文書処理(定型文書やレポートの作成等)を学ぶ。</li> <li>実習後半では、Microsoft PowerPointを使った、発表の組み立て、資料の準備、PowerPointの基本的な使い方を学ぶ。</li> <li>本科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム(情報リテラシー)の関連授業科目である。</li> <li>本科目は、以下のSDGsに関連授業科目である。             <ul style="list-style-type: none"> <li>「SDGs4:質の高い教育をみんなに」</li> <li>「SDGs9:産業と技術革新の基盤をつくろう」</li> </ul> </li> </ul>

授業の方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>I C Tを活用した講義体制となる。</li> <li>解説・演習時は、大型モニターに教材(スライド資料等)を提示しながら行う。</li> <li>Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求める。</li> <li>不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。</li> </ul>

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>実習時は、大学に備え付けのP Cの他、自己所有のノートP C (Windows/Mac) を使用してもよい。</li> <li>自己所有のノートP Cを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。(大学から無償で提供)。</li> <li>課題作成については著作権等の盗用(剽窃)無きよう、十分配慮すること。</li> </ul>

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
教職課程(全教科)必須科目

評価方法・基準

評価前提条件												
<ul style="list-style-type: none"> <li>単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。</li> <li>遅刻及び早退は20分までを限度とし、特別な理由がない限りそれ以上の場合は欠席とみなす。</li> <li>課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。</li> </ul>												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	50%	0%	50%	0%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
50%	0%	50%	0%	0%	0%							

ルーブリック																																			
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>ネット上のセキュリティとマナーの理解</td> <td>ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、自分が守るだけでなく周囲にも働きかけている。</td> <td>ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、より広い範囲で守っている。</td> <td>ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し、正しく守っている。</td> <td>ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し守っている。</td> <td>ネット上のセキュリティとマナーを守ろうとする意識が無い。</td> </tr> <tr> <td>Microsoft Teamsを利用した受講法</td> <td>ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。</td> <td>ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。</td> <td>ログインをして、必要なことはすべてできる。</td> <td>ログインをして基本的な部分は利用できる。</td> <td>利用する方法側からない。</td> </tr> <tr> <td>Microsoft Word を使った文書作成</td> <td>文字入力速度が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。</td> <td>文字入力速度が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。</td> <td>文字入力速度が十分で、Wordの機能を利用して、定型文書作成を制限時間内に作成できる。また、レポートなども作成できる。</td> <td>文字入力速度が遅めだが、Wordの機能を利用して、定型文書作成を時間がかかりながらも作成できる。</td> <td>文字入力速度が遅く、Wordの機能活用まで至らない。</td> </tr> <tr> <td>PowerPointを使った発表資料作成と表現力</td> <td>PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスもしていた。</td> <td>PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。</td> <td>PowerPointを使った発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は十分であった。</td> <td>PowerPointを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が劣っていた。</td> <td>発表資料を作成することができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	ネット上のセキュリティとマナーの理解	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、自分が守るだけでなく周囲にも働きかけている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、より広い範囲で守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し、正しく守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し守っている。	ネット上のセキュリティとマナーを守ろうとする意識が無い。	Microsoft Teamsを利用した受講法	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。	ログインをして、必要なことはすべてできる。	ログインをして基本的な部分は利用できる。	利用する方法側からない。	Microsoft Word を使った文書作成	文字入力速度が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	文字入力速度が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。	文字入力速度が十分で、Wordの機能を利用して、定型文書作成を制限時間内に作成できる。また、レポートなども作成できる。	文字入力速度が遅めだが、Wordの機能を利用して、定型文書作成を時間がかかりながらも作成できる。	文字入力速度が遅く、Wordの機能活用まで至らない。	PowerPointを使った発表資料作成と表現力	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスもしていた。	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。	PowerPointを使った発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は十分であった。	PowerPointを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が劣っていた。	発表資料を作成することができなかった。
評価項目		評価基準																																	
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																														
ネット上のセキュリティとマナーの理解	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、自分が守るだけでなく周囲にも働きかけている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、より広い範囲で守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し、正しく守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し守っている。	ネット上のセキュリティとマナーを守ろうとする意識が無い。																														
Microsoft Teamsを利用した受講法	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。	ログインをして、必要なことはすべてできる。	ログインをして基本的な部分は利用できる。	利用する方法側からない。																														
Microsoft Word を使った文書作成	文字入力速度が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	文字入力速度が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。	文字入力速度が十分で、Wordの機能を利用して、定型文書作成を制限時間内に作成できる。また、レポートなども作成できる。	文字入力速度が遅めだが、Wordの機能を利用して、定型文書作成を時間がかかりながらも作成できる。	文字入力速度が遅く、Wordの機能活用まで至らない。																														
PowerPointを使った発表資料作成と表現力	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスもしていた。	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。	PowerPointを使った発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は十分であった。	PowerPointを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が劣っていた。	発表資料を作成することができなかった。																														

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (D) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 雅一(経営学科・専任講師)、薦田 勇智(経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階(佐藤)、2号館7階(薦田)	
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション ・シラバスの確認、学内のネットワーク、アカウントとパスワード等の説明	シラバスを読む(45分)	メモやノートを整理する(45分)
2	大学生に必要なネットワーク上のマナー、セキュリティの知識	ネットワーク上のマナーについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
3	Microsoft Officeの全般的な設定	Microsoft Officeについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
4	Wordの基本操作・書式設定(基本編) ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集 ・フォントと文字サイズ、文章と段落	Wordの書式設定について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
5	Wordによる文書作成 ・ビジネス定型文書の作成1 単純な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成1について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
6	Wordによる文書作成 ・ビジネス定型文書の作成2 複雑な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成2について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
7	Wordによる文書作成 ・レポート作成の基本 表紙、図形、写真などの画像の挿入方法	画像や図形の挿入方法について調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
8	Wordによる文書作成 ・表作成 ・ページ番号、ヘッダーとフッターの設定	表やヘッダーとフッターについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
9	Wordによる文書作成 ・複雑な表組	表について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
10	Wordによる文書作成 ・チラシの作成	どんなチラシがあるか調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
11	Wordまとめ	これまで学んだWordの内容について復習する(45分)	メモやノートを整理する(45分)
12	PowerPoint ・基礎課題を通じてPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本を理解する	PowerPointの基本的な使い方について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
13	PowerPoint ・基礎課題を通じてPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本を理解する2	PowerPointの基本的な使い方について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
14	PowerPoint ・各自自由にテーマ決めをする ・テーマに沿った内容のプレゼンテーション資料を	授業中に終わらなかった作業を行う(45分)	メモやノートを整理する(45分)
15	PowerPoint ・作成の続き	授業中に終わらなかった作業を行う(45分)	メモやノートを整理する(45分)
16	PowerPoint ・PowerPoint資料の完成、動画の提出 ・授業評価改善アンケート	授業中に終わらなかった作業を行い、動画を撮影する(45分)	メモやノートを整理する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (A) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 雅一(経営学科・専任講師)、 薦 田勇智(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階(佐藤)、2号館7階(薦田)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

- ・インターネットを利用する際のセキュリティやマナーに配慮した利用法を学ぶ。
- ・Microsoft Teamsを利用したオンライン授業の受け方と、課題の回答方法について学ぶ。
- ・P Cによる文書作成の方法について理解し、適切なかたちで利用する方法を学ぶ。
- ・PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨く。
- ・「数理・データサイエンス」を理解する上で必要な基本的な素養を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。(2024年度)

到達目標

- ・ネット上のセキュリティやマナーを理解し、他の利用者に配慮しながら、安心安全に利用できる。
- ・Microsoft Teamsを利用したオンラインまたは対面の受講ができる。
- ・Microsoft Wordを使った文書作成を学び、他の講義や、レポート、卒業論文に活用できる。
- ・Microsoft PowerPointを使って発表資料を対象者に応じて視覚的に分かりやすく、かつ効果的に説明できる。

授業全体の内容と概要

- ・本学のネットワークの利用法とマナーについて説明する。
- ・実習前半では、Microsoft Wordを使った、文書処理(定型文書やレポートの作成等)を学ぶ。
- ・実習後半では、Microsoft PowerPointを使った、発表の組み立て、資料の準備、PowerPointの基本的な使い方などを学ぶ。
- ・本科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム(情報リテラシー)の関連授業科目である。
- ・本科目は、以下のSDGsに関連授業科目である。
  - 「SDGs4:質の高い教育をみんなに」
  - 「SDGs9:産業と技術革新の基盤をつくろう」

授業の方法

- ・ICTを活用した講義体制となる。
- ・解説・演習時は、大型モニターに教材(スライド資料等)を提示しながら行う。
- ・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求める。
- ・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・実習時は、大学に備え付けのP Cの他、自己所有のノートP C (Windows/Mac) を使用してもよい。
- ・自己所有のノートP Cを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。(大学から無償で提供)。
- ・課題作成については著作物等の盗用(剽窃)無きよう、十分配慮すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

- ・単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。
- ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、特別な理由がない限りそれ以上の場合は欠席とみなす。
- ・課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ネット上のセキュリティとマナーの理解	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、自分を守るだけでなく周囲にも働きかけている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、より広い範囲で守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し、正しく守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し守っている。	ネット上のセキュリティとマナーを守ろうとする意識が無い。
Microsoft Teamsを利用した受講法	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。	ログインをして、必要なことはすべてできる。	ログインをして基本的な部分は利用できる。	利用する方法側からない。
Microsoft Word を使った文書作成	文字入力速度が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	文字入力速度が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。	文字入力速度が十分で、Wordの機能を利用して、定型文書作成を制限時間内に作成できる。また、レポートなども作成できる。	文字入力速度が遅めだが、Wordの機能を利用して、定型文書作成を時間がかかりながらも作成できる。	文字入力速度が遅く、Wordの機能活用まで至らない。
PowerPointを使った発表資料作成と表現力	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスもしていた。	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。	PowerPointを使った発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は十分であった。	PowerPointを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が劣っていた。	発表資料を作成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (A) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 雅一(経営学科・専任講師)、 田勇智(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階(佐藤)、2号館7階(田)		
単位数	1 (単位認定責任者: 藤田 勇智)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション ・シラバスの確認、学内のネットワーク、アカウントとパスワード等の説明	シラバスを読む(45分)	メモやノートを整理する(45分)
2	大学生に必要なネットワーク上のマナー、セキュリティの知識	ネットワーク上のマナーについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
3	Microsoft Officeの全般的な設定	Microsoft Officeについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
4	Wordの基本操作・書式設定(基本編) ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集 ・フォントと文字サイズ、文章と段落	Wordの書式設定について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
5	Wordによる文書作成 ・ビジネス定型文書の作成1 単純な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成1について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
6	Wordによる文書作成 ・ビジネス定型文書の作成2 複雑な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成2について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
7	Wordによる文書作成 ・レポート作成の基本 表紙、図形、写真などの画像の挿入方法	画像や図形の挿入方法について調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
8	Wordによる文書作成 ・表作成 ・ページ番号、ヘッダーとフッターの設定	表やヘッダーとフッターについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
9	Wordによる文書作成 ・複雑な表組	表について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
10	Wordによる文書作成 ・チラシの作成	どんなチラシがあるか調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
11	Wordまとめ	これまで学んだWordの内容について復習する(45分)	メモやノートを整理する(45分)
12	PowerPoint ・基礎課題を通じてPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本を理解する	PowerPointの基本的な使い方について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
13	PowerPoint ・基礎課題を通じてPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本を理解する2	PowerPointの基本的な使い方について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
14	PowerPoint ・各自自由にテーマ決めをする ・テーマに沿った内容のプレゼンテーション資料を	授業中に終わらなかった作業を行う(45分)	メモやノートを整理する(45分)
15	PowerPoint ・作成の続き	授業中に終わらなかった作業を行う(45分)	メモやノートを整理する(45分)
16	PowerPoint ・PowerPoint資料の完成、動画の提出 ・授業評価改善アンケート	授業中に終わらなかった作業を行い、動画を撮影する(45分)	メモやノートを整理する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ドイツ語入門 (M) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	河田 一郎(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河田 一郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ドイツ語の初級文法と簡単な会話をマスターする。グローバル化に対応するため、コミュニケーションの手段としてドイツ語を学び、自らの世界を広げることを目標とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP2に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

ドイツ語検定試験5級合格のための基礎を固める。ドイツ語圏への観光・留学をした際に困らない程度の日常会話を身につける。

授業全体の内容と概要

授業ではドイツ語初級文法を基礎から指導を行う。一年後には辞書を使えば、簡単な文章を理解できるようになることを目標とする。ドイツに関連することで、学生が興味を持ちそうなこと、また教養として知ってほしいことについて紹介および解説を行う。  
\*SDS 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では板書をしながら、ドイツ語の文法・文化を紹介する。ドイツのDVD等も見て講義形式で行う。また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

新しいことばかりなので、とにかく授業に参加すること。ドイツ語検定試験受験希望者には特別講義を行なう。再試験の評価は内容の理解度を重視する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ドイツ語の初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
基礎的な文法を用いて、平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる。	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組みしたが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
ドイツ語の基本的な語彙を修得し、発音が正確にできる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ドイツ語入門 (M) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	河田 一郎(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河田 一郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『気分はドイツ(改訂版)』	渡辺・黒瀬ほか	三修社	2021	9784384123012	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	【ガイダンス】 授業の進め方・シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。	シラバスの内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
2	【ドイツ語の発音について】 発音問題の基本的な発音、ドイツ語特有な発音について学習する。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
3	【ドイツ語の動詞について】 動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
4	【不規則変化動詞について】 不規則変化動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
5	【SEINとHABENについて】 SEINとHABENについて学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
6	【名詞と冠詞について】 名詞と冠詞について学び、格変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
7	【名詞の複数形について】 ドイツ語の名詞の複数形について学び、格変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
8	【人称代名詞について】 人称代名詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
9	【定冠詞について】 ドイツ語の定冠詞類とはどのような変化をするのかを学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
10	【不定冠詞について】 ドイツ語の不定冠詞類とはどのような変化をするのかを学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
11	【前置詞について】 ドイツ語の前置詞について学び、英語との違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
12	【3・4格支配の前置詞について】 3・4格支配の前置詞について学び、3格と4格の違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
13	【接続詞について】 ドイツ語の接続詞の特徴を学び、文章を書き換えることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
14	【ヒアリング練習】 ヒアリングに関するポイントを学ぶ。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
15	【前期学修内容の復習】 前期で学んだ文法項目をチェックする。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
16	【定期試験および解説】 60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う。授業改善アンケートの実施	試験に向け全体を復習すること。(90分)	試験および解説を受けて講義全体を復習すること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	基本製図 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	向井正 伸(建築学科・講師)	研究室等所在	2号館3階	2号館7階
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所での設計業務経験を図面作成能力育成に活かすことができる		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

実技形式の授業であり、建築製図に必要な道具とその使い方、手書きによる製図法の基本から木造建築の基図面作成の手順や表現内容を理解する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)  
 建築学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度)  
 建築学科のDP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

図面作成の基礎的能力、木造建築の基本図面の理解と作図方法ならびに期限内課題提出のための基本的自己管理能力を習得する。

授業全体の内容と概要

課題内容は、毎回授業時間内に完成できる程度のものである。ただし時間内に完成できない場合は、演習室で引き続き作業を進めるか自宅での作業とし、次回授業開始時まで完成させること。  
 「SDGs11・住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

建築製図の基礎能力を身につけるためのカリキュラムであるため、毎回課題のテーマがありその内容に従って授業が進められる。課題内容は配布資料と、当日板書した情報をもとに詳細な説明をおこなう。作成した図面については、提出ごとにチェックをし、不備・誤りの部分についての指摘をおこない、手直し後に再提出する。なお、指導教員がSAの学生とともに、一人ひとりの理解度や進捗状況を確認しながら授業を進める。基本的に授業は対面で実施するが、不測の事態が起きた際に、授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

実技科目であること、建築製図能力養成の最も根幹となる授業であるため、欠席せず毎回課題の説明を聞き期限内に課題提出ができるよう努めなければならない。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格科目」必修科目、教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数2回以上)、積極的に基礎技術習得に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
製図道具を自己で事前に準備し、それを十分に使いこなせる。	道具をすべて事前に準備し、十分に使いこなすことができた。	道具をすべて準備し、十分に使いこなすことができた。	道具をすべて準備し、使いこなすことができた。	道具をすべて準備し、おおむね使いこなすことができた。	道具を準備できない、使いこなすことができなかった。
木造建築を理解した上で正確な図面を作成する。	すべての点で正確な図面作成ができ、自分で誤りを見つけることができた。	すべての点で正確な図面作成ができた。	正確な図面を作成できた。	おおむね図面は作成できた。	理解不足のため、図面を作成することができなかった。
製図課題をスケジュールに則り提出期限内に作成・完了する。	すべての課題を余裕をもって期限内に作成・完了することができた。	すべての課題を期限内に作成・完了することができた。	ほとんどの課題を期限内に作成・完了できた。	おおむね期限内に課題を作成・完了できた。	すべての課題が期限内に作成・完了することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	基本製図 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	向井正 伸(建築学科・講師)	研究室等所在	2号館3階 2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 設計事務所での設計業務経験を図面作成能力育成に活かすことができる			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『コンパクト設計資料集 住居』	日本建築学会	丸善	2006	4621076884	なし
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明, 授業改善アンケート結果反映の説明, 授業の進め方, 授業スケジュールの解説	シラバスの事前確認(90分)	授業を受ける際の注意事項と製図道具の確認(90分)
2	ガイダンス(製図道具及び製図台の解説)	シラバスの確認(90分)	際の注意事項と製図道具の確認(90分)
3	線の練習1-1 実線・破線の種類	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
4	線の練習1-2 実線・破線の描き分け	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
5	線の練習2-1 線の太さと強さの意味	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
6	線の練習2-2 線の太さと強さの描き分け	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
7	建築記号1-1(文字・数字の表記方法)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
8	建築記号1-2(階段の表現)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
9	建築記号2-1(壁・開口部の表現)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
10	建築記号2-2(平面図の表現)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
11	木造住宅模写1-1(配置図)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
12	木造住宅模写1-2(配置図)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
13	木造住宅模写2-1(平面図)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
14	木造住宅模写2-2(平面図)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
15	木造住宅模写3-1(断面図)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
16	木造住宅模写3-2(断面図)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	木造住宅模写4-1(立面図)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
18	木造住宅模写4-2(立面図)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
19	木造住宅模写5-1(1階平面図 柱の割り付け)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
20	木造住宅模写5-2(1階平面図 詳細表現)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
21	木造住宅模写5-3(1階平面図 外構の表現)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
22	木造住宅模写6-1(2階平面図 柱の割り付け)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
23	木造住宅模写6-2(2階平面図 詳細表現)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
24	木造住宅模写7-1(エスキース図面の解説)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
25	木造住宅模写7-2(柱の割付の考え方)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
26	木造住宅模写7-3(建具の表記)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
27	木造住宅模写7-4(設備の表記)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
28	木造住宅模写7-5(家具の表記)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
29	木造住宅模写7-6(外構の表記)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
30	木造住宅模写7-7(図面の確認)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
31	講評会1(提出課題の講評と解説)	制作課題の提出状況の確認(90分)	建築図面の理解の再確認(90分)
32	講評会2(提出課題の講評と解説) 授業アンケートの実施	制作課題の提出状況の確認(90分)	建築図面の理解の再確認と振り返り(90分)



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

情報通信技術の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かす専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

多岐にわたる情報分野と経営学の知識を総合的に理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

ICT活用に必要な応用知識の獲得の方向で演習が進められる。

授業の方法

講義、ゼミナール、実験、制作等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

30分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。授業内容は前後の相関関係があるため、欠席するとそれ以降の理解が難しくなる。全ての授業に出席することが望ましい。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業16回のうち出席13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。毎回の授業における課題の過程と結果が得点として積算される。最終評価はルーブリックに従い、総合的に判断し決定する。原則としてS評価は授業全回出席者に限る。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
30%	20%	50%	%	%	%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	真摯に取り組み、高いレベルで知識・技能を獲得する事ができた。また、独自の発想で課題に取り組み、高い結果を出していた。	真摯に取り組み、高いレベルで知識・技能を獲得する事ができた。	まじめに取り組み、知識・技能の獲得につなげていた。	知識・技能を得るための最低限の活動は行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	真摯に取り組み、深いレベルで思考力・判断力・表現力を獲得する姿勢が感じられた。また、独自の発想で課題に取り組み、高い結果を出していた。	真摯に取り組み、深いレベルで思考力・判断力・表現力を獲得する姿勢が感じられた。	まじめに取り組み、思考力・判断力・表現力の獲得につなげていた。	概ね、まじめに取り組んだが、思考力・判断力・表現力の獲得は不十分であった。	取り組みが不十分で、思考力・判断力・表現力の獲得に対する姿勢が全く見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組んできた。また、課題解決後もさらなる研究・改善に努めた。	与えられた問題解決に前向きで、努力して取り組むが疎忽した。	不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれた。	何とか授業はこなすものの、集中力が欠けていて理解する姿勢が不十分であった。	内容を身につけようとする姿勢が全く見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明、本専門演習の学習上の注意点 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	学習環境の整備 ・PCの設定確認 ・PCの性能測定	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
3	ハードウェア(1) PCの分解 各パーツの役割の理解	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
4	ハードウェア(2) PCの組み立て 各パーツの性能とPCの総合性能	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
5	オペレーティングシステム(1) インストール(Windows)と環境設定	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
6	オペレーティングシステム(2) インストール(Linux)と環境設定	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
7	オペレーティングシステム(3) Linuxの利用方法	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
8	アプリケーション(1) ・オフィスソフト	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
9	アプリケーション(2) ・画像編集ソフト	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
10	アプリケーション(3) ・音声編集ソフト	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
11	アプリケーション(4) ・動画編集ソフト	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
12	アプリケーション(4) ・ユーティリティソフト	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
13	ネットワーク ・TCP/IP ・ファイル共有	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
14	セキュリティと知的財産権 ・マルウェア ・ネットワークセキュリティ	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
15	生成AI ・生成AIの種類と利用 ・効果的な利用法	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
16	定期試験 定期試験と解答解説	授業振返り作成(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考、研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナル担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを旨として、研究を着実に進めることが一層求められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナル、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う。テーマ別にディスカッションやディベートを行う。グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

各担当教員が授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業16回のうち13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常生活を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が向上した。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も積極的であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかかわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	担当教員による授業 授業改善アンケートの実施	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	担当教員による授業 およびまとめと評価について	授業振り返り作成(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

日常のさまざまな疑問を経済学的観点からとらえるための知識を身につける。また、経済学の基礎知識を活用して、日常の問題を経済学的に考察する能力を身につける。さらには、演習内での議論を通して、人と協働して課題解決にあたるコミュニケーション能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

日常のさまざまな事象を経済学的観点でとらえる取組みができる。  
課題の解決にむけて経済学の考え方の活用に取りくめる。  
経済学の考えにもとづいたコミュニケーションに取りくめる。

授業全体の内容と概要

経済学の概念とその応用を学ぶ。経済学について学んだことを知識としてた理解するだけでなく、その考えの日常生活の事象への応用について、グループワークをおりませて演習する。演習では、日常のさまざまな不思議・疑問から出発して、具体的な問題・課題を見出し、その解決にむけて経済学の考え方の活用を議論する。

授業の方法

各回の計画にそって、まず経済学の重要概念からテーマを選んで解説する。次に、その学んだ考え方を、日常生活の身近な疑問や不思議にあてはめて考察することを演習する。演習では、個人的考察にくわえてグループ討議による考察も行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する可能性がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

グループワークやディスカッションを基本とした少人数授業であるため、受講人数を10人から12人程度までに制限する。ただし、具体的な人数は、当該年度の対象学年の学生数を考慮して年度ごとに決める。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	10%	0%	90%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
疑問への経済学的観点の適用	日常生活の疑問に経済学的観点を用いて経済学的問題としてとらえることができた。	日常生活の疑問に経済学的観点を用いて経済学的問題としてとらえることができた。	日常生活の疑問に経済学的観点を用いて経済学的問題としてとらえることができた。	日常生活の疑問への経済学的観点の適用に取り組めた。	日常生活の疑問に経済学的観点を適用できなかった。
問題の経済学的考察	日常生活の問題の経済学的考察を導くことができた。	日常生活の問いを経済学的に考察できた。	日常生活の問いについてある程度経済学的に考察できた。	日常生活の問いに関する経済学的考察に取りくめた。	日常生活の問いに関する経済学的考察ができなかった。
経済学的な議論の実践	経済学的思考にもとづいて意見をまとめることができた。	経済学的思考にもとづいて討議できた。	経済学的思考にもとづいてある程度討議できた。	経済学的思考にもとづいた討議に取りくめた。	経済学的思考にもとづいた討議ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む(45分)	シラバス等の確認とまとめ(45分)
2	経済的厚生について	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
3	経済的厚生に関する事例演習(1) 集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
4	経済的厚生に関する事例演習(2) 個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
5	経済的厚生に関する発表とまとめ	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
6	経済学的費用について	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
7	経済学的費用の事例演習(1) 集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
8	経済学的費用の事例演習(2) 個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
9	経済学的費用に関するまとめ・発表	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
10	合理性の問題について	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
11	合理性の問題の事例演習(1) 集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
12	合理性の問題の事例演習(2) 個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
13	合理性の問題に関するまとめ・発表	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
14	前期演習のまとめ	これまでの演習について振り返る(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
15	前期学生生活の振り返り	半期の学生生活について振り返る(45分)	半期の学生生活について振り返りをまとめる(45分)
16	補講・課題等 授業改善アンケートの実施	これまでの演習課題等を再確認・整理してたりないものを補う(45分)	演習ノートの整理(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義 演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照 Teamsによるチャットは平日午前9時から午後5時まで対応				

概要

履修目標

目標は『未来を見通しビジネスを創造する力をつける』である。コロナ禍や強権国家の台頭など世界の環境の変化は目まぐるしく、未来を見通すには高度な分析力と総合力そして実行力が必要となる。『分析力、総合力、実行力を涵養することを目標とする。』

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

経営学の視点に立つ分析力、総合力、実行力を身につける。

授業全体の内容と概要

北海道の北広島市、由仁町、神恵内村でのフィールドワークを中心に、実用的な活動を行う。SDGsでは「4. 質の高い教育をみんなに」「8. 働きがいも経済成長も」「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」「11. 住み続けられるまちづくりを」「12. つくる責任 つかう責任」「14. 海の豊かさを守ろう」「15. 陸の豊かさを守ろう」に関連する。

授業の方法

授業はフィールドワーク(北広島市、由仁町、神恵内村)が中心となる。研究室にて企画を立て、対象地域の人々とともに行動する。したがってコミュニケーション力も必要となる。フィールドワーク終了後はレポートを作成する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する可能性がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

分析力、総合力、実行力、改善力を存分に発揮すること。積極的な発言を望む。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要とされる最低出席回数は13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経営学の視点に立つ分析力	経営学の視点に立つ分析力が極めて高い	経営学の視点に立つ分析力がやや高い	経営学の視点に立つ分析力が高い	経営学の視点に立つ分析力がある	経営学の視点に立つ分析力が不足している
経営学の視点に立つ立案力	経営学の視点に立つ立案力が極めて高い	経営学の視点に立つ立案力がやや高い	経営学の視点に立つ立案力が高い	経営学の視点に立つ立案力がある	経営学の視点に立つ立案力が不足している
運営能力	経営学の視点に立つ運営能力が極めて高い	経営学の視点に立つ運営能力がやや高い	経営学の視点に立つ運営能力が高い	経営学の視点に立つ運営能力がある	経営学の視点に立つ運営能力が不足している
評価能力	経営学の視点に立つ評価能力が極めて高い	経営学の視点に立つ評価能力がやや高い	経営学の視点に立つ評価力が高い	経営学の視点に立つ評価力がある	経営学の視点に立つ評価力が不足している
改善能力	経営学の視点に立つ改善力が極めて高い	経営学の視点に立つ改善力がやや高い	経営学の視点に立つ改善力が高い	経営学の視点に立つ改善力がある	経営学の視点に立つ改善力が不足している

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義 演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 地域活性化の定義	地域活性化の定義を考える	地域の分析を行う
2	フィールドワーク(北広島市 エスコフィールド)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
3	フィールドワーク(北広島市)の振り返り 由仁町での事業計画	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
4	フィールドワーク(由仁町)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
5	フィールドワーク(由仁町)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
6	フィールドワーク(由仁町)の振り返り	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
7	フィールドワーク(神恵内村)計画	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
8	フィールドワーク(神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
9	フィールドワーク(神恵内村)振り返り	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
10	フィールドワーク(由仁町)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
11	フィールドワーク(由仁町)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
12	フィールドワーク(北広島市)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
13	フィールドワーク(北広島市)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
14	フィールドワーク(北広島市)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
15	フィールドワーク(北広島市)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
16	フィールドワーク(北広島市)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国際言語としての英語理解を基本とし様々な国際関係の時事問題を通して、経営学部生として主体的な学が姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考・研究方法の基礎を磨く。さらにそれらを発展させ、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身につけ、就職活動や卒業論文へ活かす専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

「異文化コミュニケーション」の学びに沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを旨として、研究を着実に進めることが一層求められる。

授業の方法

講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態をとる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習		反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

10名を上限とする。毎回授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業16回のうち13以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価はすべての活動を通して加味し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な理解力を獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も積極的であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	授業 授業改善アンケートの実施	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	担当教員による授業 およびまとめと評価について	授業振り返り作成(45分)	全体振り返り(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。法的なものの考え方を身につけ、ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を修得することとする。さらにビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を修得することを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

会社を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる。法的な側面から会社とは何かを考えることができる。

授業全体の内容と概要

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。

- 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。
- 「SDG 8.働きがいも経済成長も」の関連科目。
- 「SDG 10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

専門演習を進める上で、「商法」「会社法」(講義)を受講することが前提条件になります。専門演習は基本的に講義・発表(報告者はあらかじめ決めて順次報告)・討論する方法をとります。確認テストなどはプリント配布で実施のほか、Microsoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・演習科目なので、積極的な出席が必要
- ・私語などの迷惑行為は厳禁
- ・講義中スマホの操作は厳禁
- ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。  
 ・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。  
 ・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	0%	70%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に授業に取り組み、実社会で対応し得る様々なスキルを学び、社会に貢献するための努力をしている。	各回の授業に真摯に取り組み、十分な実践力の獲得へ向けた理解が深まりつつある。	各回の授業に取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られる。	授業にまじめに取り組み、日常生活を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	授業への取り組みが不十分で、知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、主体的に活動を行っている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり、活動を実社会で生かすことに前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的である。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られない。
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明ができる	事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を理解できる	事例を読み取れず、法律の条文を理解できない
課題に対し、問題可決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えている	解答は答えているが、一部に解答と関係ないことを答えている	解答が一通り答えているが、改善すべき点がある	解答を部分的には答えているが、的確ではない	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション 個別面談・履修登録チェック 授業改善アンケート結果反映の説明	授業への参加の心構えを考える。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
2	オリエンテーション・アセスメントテスト 株式会社(1)・設立・株式 キャリアデザイン(1)キャリアデザインとは	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
3	株式会社(2)・設立・株式 キャリアデザイン(2)キャリアデザインとは	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
4	株式会社の機関設計(1) キャリアデザイン(3)大学で何を学び身につけなければならないか	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
5	株式会社の機関設計(2) キャリアデザイン(4)大学で何を学び身につけなければならないか	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
6	株式会社の機関設計(3) キャリアデザイン(5)大学で何を学び身につけなければならないか	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
7	株式会社の機関設計(4)事例研究 キャリアデザイン(6)キャリアイメージ	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
8	株式会社の機関設計(5)事例研究 キャリアデザイン(7)キャリアイメージ	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
9	株式会社の機関設計(6)事例研究 キャリアデザイン(8)自分を知る	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
10	株式会社の経営体制・骨格と役割(1)株主総会 キャリアデザイン(9)自分を知る	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
11	株式会社の経営体制・骨格と役割(2)株主総会・取締役・取締役会 キャリアデザイン(10)キャリアゴール	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
12	株式会社の経営体制・骨格と役割(3)取締役・取締役会 キャリアデザイン(11)キャリアゴール	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
13	株式会社の経営体制・骨格と役割(4)取締役・取締役会 キャリアデザイン(12)大学とキャリア	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
14	株式会社の経営体制・骨格と役割(5)事例研究 キャリアデザイン(13)大学とキャリア	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
15	株式会社の経営体制・骨格と役割(6)事例研究 キャリアデザイン(14)大学とキャリア 個別面談・履修指導	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
16	株式会社の経営体制・骨格と役割(7)事例研究 個別面談・履修指導 授業改善アンケートの実施	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	前期全体の振り返りを行う。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標
当ゼミナールは、グループディスカッションを基本として、ゼミナールで実施するテーマの決定から実行、検証までを学生主体で進めることで、将来的に社会人として活躍できる人材に成ることを目的としている。

授業の位置づけ
経営学科のDP全てに対応する。(2023・2022年度)

到達目標
当ゼミナールの到達目標は、グループワークの基本ルールを身に付け、他人の意見を尊重しながらも、自分の意見もきちりと発言できること。そして、他人の意見から、多面的かつより深い議論ができるようになること。

授業全体の内容と概要
当ゼミナールは、グループディスカッションの基本を学ぶことから始める。基本を学んだ後は、ゼミナールでの研究テーマの決定、実行、検証、つまりPDCAサイクルを活用しながら、組織で行動しながら、成果を出すという方法を学んでいきます。

授業の方法
当ゼミナールは、毎回、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを基本として、研究テーマを決定した後は、フィールドワーク、PBL、調査学習を中心に進める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法							
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
当ゼミナールは、提出物等の期限が守れること、無断欠席はしないこと、ゼミで積極的に発言・参加すること。この3つを重視する。この3つを守れない場合は減点対象とする。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準												
評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	0%	100%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	0%	100%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技能</td> <td>知識・技能を得るために十分積極的に活動した。</td> <td>知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。</td> <td>知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。</td> <td>知識・技能を得るための最低限の活動を行った。</td> <td>知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。</td> <td>各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な理解力を深めることができた。</td> <td>各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。</td> <td>ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。</td> <td>ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。</td> </tr> <tr> <td>主体性</td> <td>自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。</td> <td>授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も積極的であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに前向きで、努力が窺える。</td> <td>積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。</td> <td>何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。</td> <td>自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。	思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な理解力を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。	主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も積極的であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。																								
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な理解力を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。																								
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も積極的であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション:シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	グループディスカッションの基本	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
3	グループディスカッションによる研究テーマ選定 (研究テーマの候補をいくつか挙げる)	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
4	研究テーマの決定	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
5	研究テーマの実施計画の策定	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
6	研究テーマの実施計画の策定	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
7	研究の実行(フィールドワーク、調査学習、PBL)	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
8	研究の実行(フィールドワーク、調査学習、PBL)	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
9	研究の実行(フィールドワーク、調査学習、PBL)	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
10	調査のまとめ(報告書の作成)	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
11	調査のまとめ(報告書の作成)	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
12	調査のまとめ(報告書の作成)	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
13	プレゼンテーション(研究成果の発表)と質疑応答	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
14	本研究の検証(振り返り)	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
15	本研究の検証(後期に向けた改善点) 授業改善アンケートの実施	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
16	担当教員による講評と評価についての説明	授業振返り作り作成(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	天野 雅斗(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 天野 雅斗)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考、研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

スポーツパフォーマンスを感覚だけでなく客観的事実(データ)からも評価できるようにする。その過程を通して、保健体育・スポーツ分野の専門家としての基礎的な知識の定着、様々な人々と一緒に仕事をしていくための人間力の育成、プロジェクトを遂行するためのマネジメント力、学んだ知識を現場に適用し有効に活用していくための社会人基礎力を向上させることを目標とする。

授業全体の内容と概要

スポーツパフォーマンス研究の現状を知る。調査から提案までのプロセスについて、実践を通して理解する。データの収集・統計分析・結果報告・改善方法の立案(Excel、flord、Power Pointなどを使用)について学ぶ。グループ毎にプロジェクト内容を決め計画・実行する。

授業の方法

大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う。テーマ別にディスカッションやディベートを行う。グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

実践経験(体験活動)に重点を置いているため、好奇心を持って積極的に取り組むこと。また、パソコンを使用してデータ分析も行うのでパソコンを用意すること。そのほか授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業16回のうち出席13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとし判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自然科学における基本的な思考法やスポーツ科学の基礎知識・技能を身につけている	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常生活の実践を身につけるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が向上した。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに關して前向きで、努力が見える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかかわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	天野 雅斗(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 天野 雅斗)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	スポーツ科学のスポーツ現場への応用	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	研究法の基礎(実験系)	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	研究法の基礎(調査系)	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	研究法の基礎(文献系)	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	実験・調査・分析法の基礎 柔軟性	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	実験・調査・分析法の基礎 筋力	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	実験・調査・分析法の基礎 瞬発力、アジリティ、クイックネス、反応速度	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	実験・調査・分析法の基礎 持久力(30-151FT、YOYOIRT、他)	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	研究計画の立案	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	研究計画の立案	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	実地調査	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	実地調査	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	調査データの分析	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	調査結果のまとめ、プレゼンテーション資料作成	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	調査結果発表まとめと評価について	授業振り返り作成(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義、実技	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	石井 祐治(経営学科・特任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石井 祐治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・自分自身で行っているトレーニングの効果を実験などを踏まえて検証する。  
 ・トレーニング内容の改善および実践。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

データ分析、パワーポイント、ワードでのまとめ方を覚える。  
 統計処理まで行い、より詳しい分析方法やデータ処理を身につける。

授業全体の内容と概要

主にデータ収集、テーマを各自で決めて、その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して、論文の書き方などの指導を行う。  
 ・トレーニング  
 ・各部活における新たな指導法  
 ・レース分析  
 ・簡単な動作分析 など

授業の方法

自分が行いたいテーマを決め、スケジュールを組みトレーニングの実践。  
 トレーニング経過を発表し、意見交換を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

状態に応じてトレーニング内容を変更するなど、日程調整などもあるため継続することが大事となってくる。トレーニング結果をもとに試合など評価する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	25%	25%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていない力所がある	全く行われていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義、実技	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	石井 祐治(経営学科・特任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石井 祐治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明	ガイダンス (45分)	学習内容の復習(45分)
2	各テーマの論文検索	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
3	各テーマの論文検索	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
4	各テーマの論文検索	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
5	各テーマの論文検索	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
6	論文発表	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
7	論文発表	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
8	論文発表	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
9	論文発表	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
10	トレーニング実践	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
11	トレーニング実践	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
12	トレーニング実践	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
13	トレーニング実践	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
14	トレーニング実践	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
15	トレーニング実践	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
16	まとめ・発表	パワーポイントでの作成 (45分)	学習内容の復習(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

- ・自分自身で行っているトレーニングの効果を実験などを踏まえて検証する。
- ・新たな指導法を確立する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

データ分析、パワーポイント、ワードでのまとめ方を覚える。  
統計処理まで行い、より詳しい分析方法やデータ処理を身につける。

授業全体の内容と概要

主にデータ収集、テーマを各自で決めて、その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して、論文の書き方などの指導を行う。

- ・トレーニング
- ・各部活における新たな指導法
- ・ゲーム分析
- ・簡単な動作分析 など

授業の方法

- ・自分が行いたいテーマを決め、スケジュールを組み、測定を行う。
- ・途中経過をパワーポイントで発表し、意見交換を行う。
- ・不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。
- ・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

データをとるなどの細かい作業もあり、日程調整などもあるため継続することが大事となる。データをもとに発表などから評価する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	25%	25%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていない力所がある	全く行われていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む(45分)	学習内容の復習(45分)
2	各テーマの論文検索	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
3	各テーマの論文検索	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
4	各テーマの論文検索	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
5	各テーマの論文検索	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
6	論文発表	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
7	論文発表	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
8	論文発表	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
9	論文発表	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
10	ブレ測定	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
11	ブレ測定	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
12	ブレ測定	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
13	ブレ測定	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
14	ブレ測定	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
15	ブレ測定	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
16	まとめ・発表 授業改善アンケートの実施	パワーポイントでの作成(45分)	学習内容の復習(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	川津 大樹(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 川津 大樹)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体(商工会)に勤務し、地域の中小企業に対して金融・税務指導を行った経験に基づき、財務会計に関する理論、制度および実務を総合的に取り上げる。		
オフィスアワー	初回講義で説明、または研究室前の掲示等を参照。				

概要

履修目標

財務会計に関する知識を習得するとともに、経営分析等を通じてそれを活用する力を身につける。  
また、4年次の卒業論文の執筆に向けて、その論点(財務会計の問題点)を自ら発見するため、自発的に考える力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

- ・財務会計の理論、国内外の会計基準およびそれらに基づく実務にまつわる知識を身につける。
- ・有価証券報告書等の公表資料を用いて、実際の企業を分析する力を身につける。
- ・卒業論文の書き方や参考文献等の資料収集を体得するとともに、卒業論文のテーマ・論点を見つける。

授業全体の内容と概要

3年次では、財務会計にまつわる文献を精読し、近年における財務会計の動向を把握する。その中で、自分なりに財務会計における論点(問題点)を見つけ、卒業論文の執筆に備える。授業最終回では、半年間のまとめとして、財務会計の動向または実際の企業に関する経営分析をテーマとしたプレゼンテーション回を行う予定である(具体的なテーマや実施形式は、受講生との話し合いによって決定する)。このほか、卒業論文の書き方や文献収集について随時指導していく。

授業の方法

テキスト等の指定された文献の箇所・テーマを各自レポート形式で事前にまとめ、当日はそれに基づいてディスカッションを深めていく。ディスカッションにおいては、積極的な発言を期待する。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供することがあり得る。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

他の会計科目を履修済みもしくは今年度に履修予定であることが望ましい。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。  
自主的・積極的な演習内での発言を評価する一方、無断欠席は大きな減点要因となるので要注意。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
財務会計にまつわる知識の習得	財務会計の知識を踏まえ、経営分析等、授業以外の場でもそれを活用することができた。	財務会計の知識を踏まえ、経営分析等、授業以外の場でもそれをある程度活用することができた。	財務会計の知識を踏まえ、経営分析等、授業以外の場でもそれを活用しようとした。	授業で取り上げた財務会計の知識を最低限習得できた。	授業で取り上げた財務会計の知識を習得できなかった。
財務会計に対する問題意識の醸成と論点の発見	財務会計の論点・問題点を見つけ、その解決に向けた考察を行っている。	財務会計の論点・問題点を見つけた。	財務会計に対する問題意識を抱き、その論点となる問題を探している。	財務会計に対する問題意識を抱き始めた。	財務会計に対する問題意識を全く抱かなかった。
主体的・意欲的な授業への参加	自分だけでなく、他の受講者も巻き込んだ形で授業に参加し、授業全体の活発化に取り組んだ。	積極的に質問やディスカッションを行い、能動的に授業に参加した。	積極性は乏しいものの、質問やディスカッションに一部参加した。	授業には参加したものの、質問やディスカッションについて、受動的に姿勢に終始した。	授業に意欲的に参加しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	川津 大樹(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 川津 大樹)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体(商工会)に勤務し、地域の中小企業に対して金融・税務指導を行った経験に基づき、財務会計に関する理論、制度および実務を総合的に取り上げる。		

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『新・現代会計入門 第6版』	伊藤邦雄	日経BPM	2024年		
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション:自己紹介・講義の方針確認 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	現代会計のフレームワーク	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
3	現代会計のフレームワーク	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
4	財務会計制度の概観 企業会計原則	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
5	財務会計制度の概観 概念フレームワーク	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
6	損益計算書 総論	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
7	損益計算書 収益	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
8	損益計算書 費用	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
9	損益計算書 個別論点	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
10	キャッシュフロー計算書	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
11	貸借対照表 総論	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
12	貸借対照表 資産	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
13	貸借対照表 負債	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
14	貸借対照表 純資産(資本)	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
15	プレゼンテーション報告会の準備	プレゼンテーションの準備(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
16	プレゼンテーション報告会(本番)と総評 授業改善アンケートの実施	プレゼンテーションの準備(45分)	報告会での指摘事項を再確認(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	小林 大州介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小林 大州介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	初回に周知する。また各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考、研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ
経営学科のDP全てに対応する。(2023・2022年度)

到達目標
多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要
それぞれのゼミナル担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを旨として、研究を着実に進めることが一層求められる。
「SDS 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナル、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う。テーマ別にディスカッションやディベートを行う。グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法							
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
各担当教員が授業時にアナウンスする。授業中に指定された課題は必ず行うこと。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
--------

評価方法・基準

評価前提条件												
授業16回のうち13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	0%	100%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	0%	100%	0%							

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な理解力を発揮することができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常生活を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	小林 大州介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小林 大州介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	初回オリエンテーション 授業内容の説明 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
3	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
4	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
5	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
6	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
7	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
8	前半授業の振り返り	前半授業の復習(45分)	授業の復習(45分)
9	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
10	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
11	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
12	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
13	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
14	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
15	担当教員による授業 授業改善アンケートの実施	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
16	前期授業の総括について	前期授業の復習(45分)	全体の復習(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	小早川俊哉(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小早川俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

社会の変化から社会政策(福祉政策)の変化を理解できるようになる。文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどを通して、社会システム理解を目指す。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

- ・自の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
- ・個々の「勉強テーマ」の糸口を掴む。
- ・自らの研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
- ・研究テーマに対する論理的背景(要因、理由、原因等)自身の言葉で表現できるスキルを身につける。
- ・研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

大学生として理解すべき社会システム、特に政治経済の基礎、並びに、社会福祉学部学生として福祉制度変革の背景の理解を主目的に議論中心の授業を展開する。  
\*SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

教員の指導方針及び学生の資質・要望のもとに行うので、講義・ゼミナール・ディスカッション・見学・調査等様々は授業形態を採る。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。  
質問は随時対応し、プレゼンやレポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。  
Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

2月時点で配布された担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。「専門演習 A」で所属した教員が後期の「専門演習 B」を担当する。尚、不測の事態が生じた際の授業や補講をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。その他、個別案件に対しては要相談。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11/16回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット等検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
自らの研究テーマの背景を論理的に表現できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、研究課題を発見して、それをプレゼンやレポートに構成できるスキルを獲得する。	論理的背景と自らの結論を結び付けることができる。	論理的背景を見出し、論理的に表現できる。	論理的背景を見出せる。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	小早川俊哉(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小早川俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーションとシラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業1	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
3	担当教員による授業2	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
4	担当教員による授業3	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
5	担当教員による授業4	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
6	担当教員による授業5	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
7	担当教員による授業6	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
8	担当教員による授業7	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
9	担当教員による授業8	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
10	担当教員による授業9	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
11	担当教員による授業10	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
12	担当教員による授業11	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
13	担当教員による授業12	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
14	担当教員による授業13	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
15	担当教員による授業14	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

## 基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義・演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

## 概要

<b>履修目標</b> 専門演習 A・Bの授業の目的は「卒業論文のテーマを見つける」ことである。卒業論文のテーマを見つけるためには、いろいろな視点から物事を考え、広い視野を持つことが必要である。様々な学問分野や福祉・保育・教育などの社会福祉学科で学んできた領域にふれたり、ボランティアや実習の体験など、多くのことに興味、関心を抱くことが大切で、その中から自分の興味の対象を徐々に絞り込んでいき、最終的に卒業論文のテーマを決め、卒業論文に取り組むことができる。よって、専門演習 A・専門演習 Bは、その過程を生み出す学習である。
--

<b>授業の位置づけ</b> 社会福祉学部のDP1, DP2, DP3, DP4, DP5に対応する。(2022年度)
--

<b>到達目標</b> 卒業論文は、大学での学業生活の総決算とも言えるものであるとともに、自らの主体性によって学問の世界に踏み込み、本格的に研究し、自分自身の成果を創造することが到達目標である。
--

<b>授業全体の内容と概要</b> 1. 卒業論文のテーマを見つける。 2. 卒業論文のテーマを見つけるために、様々な学問分野や福祉・保育・教育などの社会福祉学科で学んできた領域にふれる。 3. 卒業論文のテーマを見つけるために、ボランティア体験などを行う。 4. 卒業論文のテーマを確定させる。 5. 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。
---

<b>授業の方法</b> 1. 授業形態は講義やグループワークやディスカッション、地域へ出向き活動を行う。 2. 適宜、質疑応答を交える。 3. 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。 4. 地域の福祉・保育・教育の活動をしている実践家やボランティア団体のお話を聞く授業等もある。 5. 大学のバーバル化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。
--

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

<b>履修上の注意事項</b> 1. 3年生前期に専門演習 A、その後、後期に専門演習 Bを担当する。 2. 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。 3. 必要な資料等は適宜配布する。 4. 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。 5. ソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。
---

<b>修学サポート(合理的配慮)</b> 事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
<b>資格指定科目</b>

## 評価方法・基準

<b>評価前提条件</b> 最低10回は出席をしなければならない。												
<b>評価方法</b>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	0%	0%	100%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	0%	0%	100%							

<b>ルーブリック</b>					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ネット検索やボランティア活動で研究テーマを検索できるようにする。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇算できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてのネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義・演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	*別途指示します*					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	*別途指示します*					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業及び地域活動1	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
3	担当教員による授業及び地域活動2	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
4	担当教員による授業及び地域活動3	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
5	担当教員による授業及び地域活動4	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
6	担当教員による授業及び地域活動5	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
7	担当教員による授業及び地域活動6	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
8	担当教員による授業及び地域活動7	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
9	担当教員による授業及び地域活動8	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
10	担当教員による授業及び地域活動9	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
11	担当教員による授業及び地域活動10	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
12	担当教員による授業及び地域活動11	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
13	担当教員による授業及び地域活動12	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
14	担当教員による授業及び地域活動13	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
15	担当教員による授業及び地域活動14	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階研究室		
単位数	1 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や教育行政経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育や今日的な教育課題について指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

専門演習担当各教員の専門分野を中心に、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

- ・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
- ・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
- ・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
- ・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
- ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

特別支援教育や今日的な教育課題等についてテーマを設け、探究、整理、協議、発表を行う。  
各自が関心をもつ内容について整理、焦点化などを通して研究の方向付けを行う。  
調査研究や文献研究の方法、情報の整理の仕方やまとめ方について、主体的に演習に取り組む。  
「SG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々な授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。  
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。  
Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教職課程を履修している学生で特別支援教育や教育の今日的な課題に対して、関心をもって主体的に学ぶとする者を対象とする。  
担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に努めること。  
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。  
不測の事態が起きた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇算できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート執筆ができる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階研究室		
単位数	1 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や教育行政経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育や今日的な教育課題について指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『生徒指導提要 改訂版』	文部科学省	東洋館出版社	2023	978-4491051758	
2	『特別支援教育の基礎・基本2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジヤース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 「担当教員によるガイダンス」	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業1 「課題演習の進め方について」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
3	担当教員による授業2 「演習等の役割分担、ディスカッション」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
4	担当教員による授業3 「教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
5	担当教員による授業4 「教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
6	担当教員による授業5 「教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
7	担当教員による授業6 「教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
8	担当教員による授業7 「教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
9	担当教員による授業8 「教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
10	担当教員による授業9 「教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
11	担当教員による授業10 「教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
12	担当教員による授業11 「教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
13	担当教員による授業12 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
14	担当教員による授業13 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
15	担当教員による授業14 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
16	総括 専門ゼミ Aのまとめ・発表	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	社会福祉学科・教授		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsチーム(演習科目)には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

卒論準備(アカデミック・シンキング)の基礎理解をおこなう。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2024・2023・2022年度)  
社会福祉学科のDP2、DP3、DP4、DP5、DP6、DP7、DP9に対応する。(2021年度)

到達目標

卒論執筆準備のため、学術レポート作成の基礎を理解する。  
学術作法にもとづいて、社会科学の疑問をあきらかにする方法を習得する。

授業全体の内容と概要

専門演習 ABでは、アカデミック・シンキングを学修する。  
SSG4「質の高い教育をみんなに」の関連科目。  
次の から について段階的理解をすすめる。  
学術論文のスタイルを確認する。  
(書く作業のなかで思考を深める、先行研究理解、引用など、学術研究ルールを学ぶ)  
大学教員や研究者が執筆した学術論文を自分の関心にあわせて  
図書館情報レファレンスサービスをうけ取寄せる。  
学術論文、文献を読み、要旨をまとめる。  
社会的現象について、複数文献を精読し、視点、考察方法の違い等を報告する。  
学術論文、文献の読解作業をふまえ、先行研究の批評的思考をおこなう。  
(定義を確認する、比較する、相違点や類似点を見つける)

授業の方法

社会福祉学科Teams「2024年度 専門演習 履修方法」(2024年1月開示)には、「専門ゼミテーマ、内容一覧」(PDF)がある。アカデミック・シンキングのための文献講読は、ゼミメンバー確定後、演習にて選書、決定する。  
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・授業科目Teamsを利用する。履修学生はチームメンバーになり、以下のコースパケット利用が可能になる。  
コースパケットは、履修学生に必要なと思われる教材資料をまとめたものである。

準備学習に必要な教材(論文コピー、報告書など)  
課題(練習問題、レポートの指示と執筆のための参考資料)  
授業のなかでは扱いきれなかった、関連文献、補足情報  
授業者への相談質問のための案内

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。  
高校までにうけた支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら、科目サポートを進める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数10回以上をクリアすること。これは、必要とされる量の基準であるけれども、十分条件ではない。学修は最後まで継続しベストを尽くすことを期待する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	0%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心のある主題について、信頼性のある情報を整理し、論点を抽出する。	信頼性の高い情報を網羅して調べ、多様な見解を整理している。専攻とそれに関連する領域の先行研究を統合させて、問題背景を的確に説明している。	信頼性を保ちながら情報を調べ、見解を適切に整理している。専攻領域の代表的な先行研究をふまえながら、問題背景を説明していた。	信頼性のある情報を調べ、いくつかの見解を整理している。自らの専攻についていくつかの先行研究を確認し、問題背景を設定していた。	インターネット情報の信頼性を理解して文献収集してまとめた。大学、研究機関などの資料を収集するが、自らの専攻と先行研究に関する絞込みは十分ではなかった。	インターネット情報の信頼性の理解が十分ではない。Wikipediaなど、「いきなり検索」の情報収集にとまった。
学術論文スタイルを理解し、学術レポートを作成する。	主題、内容、方法はキーワード、学術概念による適切な筋立の構成である。学術論文の引用が明確に示されていた。	キーワード、学術概念をもとにして適切な論点を見出している。引用形式は適切であり、その解釈は文脈をふまえていた。	キーワード、学術概念を用いており、論理的説明の基となる筋立の作成、本文の注、引用形式は適切であった。	学術概念に利用、引用、参照文献リストの作成が試みられているが、本文と文献の照合は十分ではなかった。	文章は個人的経験、感想もとづく「素朴理論」である。引用、参照文献のリストが示されていない。
ゼミメンバーとして、学術環境を創造していく役割を自覚し、自分と異なる意見を統合させて、学修経験を高めていこうとする、関心・意欲・態度	ゼミメンバーとして、役割と責任を自覚して、積極的、協同的に行動することができた。	ゼミメンバーとしての役割はおおむね理解しており、他のメンバーに配慮する行動をおこなうことができた。	ゼミメンバーとしての役割は、基本的な行動についておこなうことができた。	ゼミメンバーとして自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	ゼミメンバーとして自分の役割を理解すること、主体的な行動はできなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	社会福祉学科・教授		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						テキストは初回ゼミにて相談決定する。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』	井下千以子	慶応義塾大学出版会	2019		
2	『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド』	佐渡島沙織ほか	大修館	2015		
3	『コピペと言われないレポートの書き方教室』	山口裕之	新曜社	2013		
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、演習ガイダンス	シラバス、科目Teamsの確認(45分)	スケジュールと準備学習の整理(45分)
2	アカデミック・シンキング基礎1(学術文献の種類)	テキスト資料の読解(45分)	テキスト、資料の整理(45分)
3	アカデミック・シンキング基礎2(調べ学習、自由研究、学術研究)	テキスト資料の読解(45分)	テキスト、資料の整理(45分)
4	アカデミック・シンキング基礎3(研究不正;捏造、剽窃、ほう助、自己剽窃)	テキスト資料の読解(45分)	テキスト、資料の整理(45分)
5	アカデミック・シンキング基礎4(学術倫理;ハラスメント、研究協力者への配慮)	テキスト資料の読解(45分)	テキスト、資料の整理(45分)
6	アカデミック・シンキング基礎5	テキスト資料の読解(45分)	テキスト、資料の整理(45分)
7	アカデミック・シンキング基礎6	テキスト資料の読解(45分)	テキスト、資料の整理(45分)
8	アカデミック・シンキング基礎7	テキスト資料の読解(45分)	テキスト、資料の整理(45分)
9	アカデミック・シンキング基礎8	テキスト資料の読解(45分)	テキスト、資料の整理(45分)
10	文献講読1(文献の選書、報告割当、レジュメ作成、準備学習)	テキスト資料の読解(45分)	テキスト、資料の整理(45分)
11	文献講読2(分担報告)	テキスト資料の読解(45分)	テキスト文献精読(45分)
12	文献講読3(分担報告)	テキスト資料の読解(45分)	テキスト文献精読(45分)
13	文献講読4(分担報告)	テキスト資料の読解(45分)	テキスト文献精読(45分)
14	文献講読5(分担報告)	テキスト資料の読解(45分)	テキスト文献精読(45分)
15	文献講読6(分担報告)	テキスト資料の読解(45分)	テキスト文献精読(45分)
16	まとめ	テキスト資料の読解(45分)	次学期への課題設定(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )		
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在	
単位数	1 (単位認定責任者: )	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		
オフィスアワー			

概要

履修目標

--

授業の位置づけ

--

到達目標

--

授業全体の内容と概要

--

授業の方法

--

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

--

修学サポート(合理的配慮)

--

資格指定科目

--

評価方法・基準

評価前提条件

--

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )		
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在	
単位数	1 (単位認定責任者: )	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

子ども・高齢・障害分野に興味関心をもち、文献を調べる方法を理解する。  
 積極的に意見を出し合い、周囲とのコミュニケーションを図る。  
 主体的に研究テーマを決め、討論などを通して専門的な知識を深める。  
 討論、発表を繰り返すことで周囲との意見の違いにも気づき、チームワークの大切さや自分の強みに気付く。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP 1, DP 2, DP 3, DP 4, DP 5に対応する。(2022年度)

到達目標

- ・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
- ・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
- ・研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
- ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

「専門テーマ：自分発見」に沿った形で資料を活用し、要約の方法などを考察する。  
 「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・ゼミナール・実験・制作・見学・調査等様々な授業形態で実施する。  
 大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。  
 質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。  
 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
- ・吉江ゼミでは、学生の企画立案、実践、事後評価の流れを汲んで積極的参加を求める。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数11回以上とするが全回出席が望ましい。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できそこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できそこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート執筆ができる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 ゼミ内容のガイダンスと今後実践したい内容の意見 収集	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	ゼミ内の役割分担の話し合い	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
3	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
4	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
5	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
6	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
7	発表と討論・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
8	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
9	発表と討論・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
10	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
11	発表と討論・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
12	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
13	発表と討論・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
14	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
15	発表と討論・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
16	総括としての評価・ディスカッション	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

ソーシャルワークの基礎知識・基礎技術の習得を図り、自身の考えるテーマを深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

福祉の現場や働いている専門職役割を知識として学習する。専門職になるために、学ぶ・考える・関わるの基礎を学習する。自ら目標達成のために、計画性・実行性を習得する。コミュニケーション能力などの向上を図る。

授業全体の内容と概要

現場の話を聞き、現場の様子や現状を知り、それをもとにゼミ内でディスカッションをしながら知識を広げる。状況に応じて、現場交流や技術習得を目指すためのボランティア活動への参加。個人だけでなくゼミとして専門職として必要と考えられる知識や経験などを検討し、必要な計画を立て実行する。最終には知り得た知識の中で、何か一つテーマを見つけそのテーマに沿った内容を深く掘り下げる。「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・ゼミナール・実験・制作・見学等様々は授業形態を行う。質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 西野 克俊)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	グループワーク 準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
3	グループワーク 実施	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
4	グループワーク 準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
5	グループワーク 実施	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
6	グループワーク 準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
7	グループワーク 実施	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
8	グループワーク 準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
9	グループワーク 実施	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
10	グループワーク 準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
11	グループワーク 実施	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
12	グループホーム振り返り	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
13	グループワーク振り返り	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
14	まとめ	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
15	まとめ	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

専門演習担当各教員の専門分野を中心に、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2022年度)

到達目標

- ・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
- ・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
- ・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
- ・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
- ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナル担当教員が提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。  
「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナル・実験・製作・見学・調査等様々な授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナル紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。「専門演習 A」に所属した教員が後期の「専門演習 B」を担当する。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できた。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができた。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できた。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できた。	左記の内容が何一つできなかった。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得できた。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できた。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できた。	具体的なレポートを執筆できた。	左記の内容が何一つできなかった。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができた。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができた。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができた。	自分の研究テーマを明確に説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	テキスト購読・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
3	テキスト購読・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
4	テキスト購読・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
5	テキスト購読・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
6	テキスト購読・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
7	テキスト購読・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
8	テキスト購読・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
9	テキスト購読・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
10	テキスト購読・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
11	調査活動準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
12	調査活動準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
13	調査活動準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
14	調査活動準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
15	調査活動準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	社会福祉学科・堀川厚志		研究室等所在	堀川研究室(2号館・8階)	
単位数	1 (単位認定責任者: 堀川 厚志)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

特別支援教育、障がいのある子に応じた教育を中心とする関連分野について、教育学、社会福祉学をはじめとする教育科学、社会科学の方法論を文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

自身の関心のあるテーマを探り、研究を方向付けるために必要な文献・資料・データの活用方法を身につける。  
 個々の研究テーマを追究するための研究方法に関するノウハウを理解する。  
 研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。  
 自身の研究内容について、プレゼンテーションによる発表するスキルを身につける。  
 学友の発表を傾聴し、内容の理解と的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

特別支援教育、障害のある子に応じた教育を中心に、関連する内容や今日的課題について探究、整理、発表、協議を行う。  
 各自が関心をもつ内容について整理、焦点化などを通して研究の方向付けを行う。  
 調査研究や文献研究の方法、情報の整理の仕方やまとめ方について、主体的に取り組む。  
 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

プレゼンテーション資料等によるテーマの焦点化、調査方法、文献研究の方法について説明する。  
 プレゼンテーション等の試行により関心事、文献研究・調査研究内容を焦点化し整理し、随時グループワークを実施する。  
 プレゼンテーションの発表を通して、調査研究等の報告、情報共有を行う。  
 質問には随時対応し、各自の調査・収集・整理した内容については、コメント等によりフィードバックを行う。  
 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、所属を決定すること。  
 「専門演習 A」を担当した教員が後期の「専門演習 B」を担当する。  
 特別支援教育、障害のある子に応じた教育を中心に、教育に関連する内容や今日的な課題について、関心をもつ者とする。  
 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。  
 事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容と授業と評価の成立要件等を調整し、修学サポートを実施する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	20%	0%	10%	70%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてのネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート執筆ができる。	左記の内容が何一つできていない。
自身の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	社会福祉学科・堀川厚志		研究室等所在	堀川研究室(2号館・8階)	
単位数	1 (単位認定責任者: 堀川 厚志)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明(活動の目的、方法、年間の活動計画等)	所属研究室選択資料の確認(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
2	特別支援教育、障害のある子に対する教育の今日的課題等の確認1	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
3	特別支援教育、障害のある子に対する教育の今日的課題等の確認2 関連する各自の関心事、課題等の提起	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
4	特別支援教育、障害のある子に対する教育に関連する各自の関心事、課題等の提起と確認1	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
5	特別支援教育、障害のある子に対する教育に関連する各自の関心事、課題等の提起と確認2	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
6	特別支援教育、障害のある子に対する教育に関連する各自の関心事、課題等の確認と全体共有	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
7	特別支援教育、障害のある子に対する教育に関連する各自の関心事、課題等の焦点化	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
8	全体発表会(中間報告) (各自の関心事、課題等の検討状況、経過、その後の方針)	前半の振り返り(4.5分)	振り返りの確認(4.5分)
9	その後の推進方法の説明 特別支援教育、障害のある子に対する教育に関連する各自の関心事、課題等の焦点化	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
10	特別支援教育、障害のある子に対する教育に関連する各自の関心事、課題等の焦点化 各自の追究する内容等(概要)の設定と説明	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
11	各自の追究する内容等(概要)の設定と説明	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
12	各自の追究する内容等(概要)の設定と説明 一般的な調査研究、文献研究の方法等の説明	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
13	一般的な調査研究、文献研究の方法等の説明 各自の追究する内容等に基づく文献研究、調査研究等の計画(時期、内容、方法)の立案	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
14	各自の追究する内容等に基づく文献研究、調査研究等の計画(時期、内容、方法)の立案 全体発表資料の作成	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
15	全体発表会1(各自の追究する内容等に基づく文献研究、調査研究等の計画発表、全体の振り返りとその後の取組方針)	全体の振り返り(4.5分)	全体の振り返りと次年度方針の確認(4.5分)
16	全体発表会2(各自の追究する内容等に基づく文献研究、調査研究等の計画発表、全体の振り返りとその後の取組方針)	全体の振り返り(4.5分)	全体の振り返りと次年度方針の確認(4.5分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	宮崎 剛司(社会福祉学科・講師)	研究室等所在	1号館2階専任講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 宮崎 剛司)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

専門演習担当各教員の専門分野を中心に、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP1, DP2, DP3, DP4, DP5に対応する。(2022年度)

到達目標

- ・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
- ・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
- ・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
- ・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
- ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。  
「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々な授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。質問は随時対応し、Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。「基本は対面授業の実施」であるが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。  
「専門演習 A」に所属した教員が後期の「専門演習 B」を担当する。  
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート執筆ができる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	宮崎 剛司(社会福祉学科・講師)	研究室等所在	1号館2階専任講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 宮崎 剛司)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業1	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
3	担当教員による授業2	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
4	担当教員による授業3	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
5	担当教員による授業4	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
6	担当教員による授業5	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
7	担当教員による授業6	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
8	担当教員による授業7	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
9	担当教員による授業8	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
10	担当教員による授業9	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
11	担当教員による授業10	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
12	担当教員による授業11	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
13	担当教員による授業12	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
14	担当教員による授業13	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
15	担当教員による授業14	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	蝦名 美穂(社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 蝦名 美穂)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、教育領域、福祉領域、司法・矯正領域、産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後調整をし、研究室で対応。				

概要

履修目標	臨床心理学を中心に、社会科学の方法論を文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。
------	---

授業の位置づけ	社会福祉学部のDP 1, DP 2, DP 3, DP 4, DP 5に対応する科目(2022年度)。
---------	---

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の方向性を見つけ、自ら解決できる力をつける。</li> <li>個々の学生がそれぞれの「勤学のテーマ」の糸口をつかんでいる。</li> <li>上記の研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。</li> <li>研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。</li> <li>自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。</li> </ul>
------	--

授業全体の内容と概要	<p>「居場所」とはどのようなものか?をテーマとして、それに関連するテキストを講読する。各章の担当を決め、レジュメを作成し発表を行う。テキスト講読後は、卒業論文のテーマを考える。「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。</p>
------------	--

授業の方法	講義・ゼミナール・見学・調査・発表等さまざまな形態が取られる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										

履修上の注意事項	オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。「専門演習 A」に所属した教員が後期の「専門演習 B」を担当する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。テキストを必ず購入すること。
----------	---

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
---------------	---

資格指定科目	
--------	--

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な出席回数11回以上。												
評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	0%	0%	100%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
0%	0%	0%	0%	0%	100%								

ルーブリック	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>提示した課題について情報獲得ツールを駆使できる</td> <td>ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに自分の学習課題として昇華できる。</td> <td>ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。</td> <td>ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。</td> <td>提示された課題についてネット検索を行い、資料を体系的に検索できる。</td> <td>左記の内容が何一つできていない。</td> </tr> <tr> <td>論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。</td> <td>論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこからさらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。</td> <td>論文・レポート執筆スキルを獲得し、その方法に沿って、レポート執筆でき、さらに研究課題を発見できる。</td> <td>論文・レポート執筆スキルを獲得し、その方法に沿って、レポート執筆できる。</td> <td>具体的なレポートを執筆できる。</td> <td>左記の内容が何一つできていない。</td> </tr> <tr> <td>自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。</td> <td>自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生を納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。</td> <td>自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生を納得させることができ、それについてディスカッションができる。</td> <td>自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生を納得させることができる。</td> <td>自分の研究テーマを明確に説明できる。</td> <td>左記の内容が何一つできていない。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	提示した課題について情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を体系的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。	論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこからさらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆スキルを獲得し、その方法に沿って、レポート執筆でき、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆スキルを獲得し、その方法に沿って、レポート執筆できる。	具体的なレポートを執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。	自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生を納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生を納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生を納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。
評価項目	評価基準																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																									
提示した課題について情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を体系的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。																									
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこからさらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆スキルを獲得し、その方法に沿って、レポート執筆でき、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆スキルを獲得し、その方法に沿って、レポート執筆できる。	具体的なレポートを執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。																									
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生を納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生を納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生を納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。																									

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	蝦名 美穂(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 蝦名 美穂)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、教育領域、福祉領域、司法・矯正領域、産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『心理臨床と「居場所」』	中藤信哉	創元社	2017	9784422116433	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	テキスト講読と発表	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	テキスト講読と発表	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	テキスト講読と発表	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	テキスト講読と発表	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	テキスト講読と発表	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	テキスト講読と発表	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	テキスト講読と発表	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	テキスト講読と発表	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	テキスト講読のまとめ	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	テキスト講読のまとめ	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	テキスト講読のまとめ	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	卒業論文のテーマを探す	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	卒業論文のテーマを探す	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	卒業論文のテーマを探す	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	星野 秀治(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 星野 秀治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	地域若者サポートステーションなどでの実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

専門演習担当各教員の専門分野を中心に、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

- ・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
- ・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
- ・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
- ・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
- ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。  
「SDGs4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々な授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。質問は随時対応し、Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。なお、不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。「専門演習 A」に所属した教員が後期の「専門演習 B」を担当する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート執筆ができる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	星野 秀治(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 星野 秀治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	地域若者サポートステーションなどでの実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業1	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
3	担当教員による授業2	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
4	担当教員による授業3	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
5	担当教員による授業4	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
6	担当教員による授業5	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
7	担当教員による授業6	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
8	担当教員による授業7	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
9	担当教員による授業8	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
10	担当教員による授業9	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
11	担当教員による授業10	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
12	担当教員による授業11	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
13	担当教員による授業12	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
14	担当教員による授業13	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
15	担当教員による授業14	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・専任講師)・矢部か		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	向井・矢部 実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所における実務経験を活かし、実践的な指導を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

建築設計を学ぶはじめての授業として、空間デザインと設計、そして製図を含むプレゼンテーションの基礎を学ぶ。本講では、併用住宅の設計を通して、コンセプト立案からゾーニング・プランニングを行い計画内容を的確に表現する能力を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)  
 建築学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度)  
 建築学科のDP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

与条件を踏まえ、自分なりの考えを持って建築が設計ができる。製図規約に従って設計図面の描写によって表現することができる。

授業全体の内容と概要

建築設計は思いつきのアイデアをカタチにするだけでは不十分で、明確なビジョンと多角的な視点を持って設計を行うことが大切である。そのため、授業は対話によるエスキスを中心に展開し、エスキスを通じてビジョンを明確化し、多角的視点での設計ができるよう指導する。作品提出後は発表会を行い、他の作品から多様な考えと自分の作品を比較し、学ぶ機会を設ける。「SDG11・住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は、初めに板書と配布資料等により課題解説をおこない、エスキス・作図を個別でチェックをする。最後の講評会は全員による発表会形式で行う。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

製図道具は必ず携帯すること。授業では途中成果の提示と中間指導を受け、PDCAサイクル(Plan、Do(or Design)、Check、Action)を積極的に行うこと。授業はエスキスを中心に展開するため、授業時間外、自宅での制作が必要である。課題制作のために、自宅に製図道具を備えておくことも不可欠である。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

「建築士試験受験資格科目」必修科目、教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(単位認定に必要となる最低出席回数は11回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造力が習得できたか。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することができた。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することがほぼできた。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することがある程度以上できた。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することがある程度できた。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することができなかった。
木造住宅を設計するにあたり、各図面を正しく描画することができるか。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことができた。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことがほぼできた。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことがある程度以上できた。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことがある程度できた。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことができなかった。
明確なプレゼンテーションと説明によって自身の計画内容を他者に伝えることができるか。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがほぼできた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度以上できた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度できた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・専任講師)・矢部か		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	向井・矢部 実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所における実務経験を活かし、実践的な指導を展開する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。ガイダンス 授業の進め方と課題提出までのスケジュール 授業改善アンケート結果反映の説明	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	課題内容を復習(90分)
2	第一課題 エスキスチェック1	課題コンセプト立案(90分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(90分)
3	第一課題 エスキスチェック2	改善案を作成する(90分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(90分)
4	第一課題 エスキスチェック3	改善案を作成する(90分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(90分)
5	第一課題 発表・講評会	プレゼン資料にまとめ提出(90分)	講評内容を振り返る(90分)
6	第二課題 課題発表	敷地調査を行う(90分)	課題内容を復習(90分)
7	第二課題 エスキスチェック1	コンセプトを立案する(90分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(90分)
8	第二課題 エスキスチェック2	改善案を作成する(90分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(90分)
9	第二課題 エスキスチェック3	改善案を作成する(90分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(90分)
10	第二課題 エスキスチェック4	改善案を作成する(90分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(90分)
11	第二課題 作図・プレゼンテーション作成	作図準備をする(90分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(90分)
12	第二課題 作図・プレゼンテーション作成	作図準備をする(90分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(90分)
13	第二課題 作図・プレゼンテーション作成	作図準備をする(90分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(90分)
14	第二課題 作図・プレゼンテーション作成	作図準備をする(90分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(90分)
15	提出・プレゼンテーション・講評会 授業改善アンケートの実施	プレゼンテーション準備(90分)	感想レポート提出(90分)
16	振り返り(予備日)	ポートフォリオ作成準備(90分)	ポートフォリオ作成(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授) 君 興 治(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館3階	2号館4階	
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築は、図面や模型に表現されたものによってその内容を理解してもらえ、そのためには、考え出された建築をどのように表現するかということがとても重要となる。「建築表現」では、空間表現や建築図面表現に必要な平面系の基礎力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)  
 建築学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度)  
 建築学科のDP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

平面系の建築表現に必要な道具の基本的使い方を習得する。また時間内に課題を製作するための時間配分、期限内に課題を提出するという自己管理及び基本姿勢を身に付けることができる。

授業全体の内容と概要

毎回、課題の制作を主とした実技形式の授業をおこなう。基礎的練習課題とその作品の講評会を2週ごとにおこなう。課題製作は、原則として授業時間内におこない即日提出とする。やむを得ず授業時間内に完成させられなかった場合は、次週授業開始時まで完成させ提出する。

授業の方法

シリーズごとに課題の目的・到達目標等について説明をし、課題制作に取り組む。ひとつの課題シリーズ終了ごとに講評会を開催し、各自作品のプレゼンテーションをおこない、その後指導教員が講評・評価をおこなう。基本的に授業は対面で実施するが、不測の事態が起きた際に、授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

実技科目であるため、全授業に出席し期限内に課題を製作し提出すること。また作品講評会に出席し自分の作品の解説(プレゼンテーション)することも評価する。原則授業にはすべて出席し、授業時間内に課題制作をおこなうこととする。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(ただし最低出席回数10回以上)とし、積極的に課題に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	85%	0%	15%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
平面系の建築表現に必要な道具の基本的使い方を理解し習得した上で実践する。	基本的使い方に加え応用的な使い方ができた。	基本的使い方が十分にできた。	基本的な使い方を理解し実践できた。	基本的な使い方を理解しおぼわねできた。	必要な道具が準備されず実践できなかった。
期限内に課題を制作し提出するというスケジュール管理及び基本姿勢を身に付ける。	すべての課題を期限内に余裕をもって作成完成することができた。	すべての課題を期限内に作成完成することができた。	課題を期限内に作成完成することができた。	おおむね課題を期限内に作成完成することができた。	期限内に課題を提出できなかった。
平面系の建築空間の発想・発想力を作品にすることとそれを表現するための技術を修得する。	技術を身につけ非常に優れた発想力と表現力による作品が制作できた。	技術を身につけ発想力と表現力による作品が制作できた。	技術を身につけおおむね発想力と表現力による作品が制作できた。	技術を身につけ作品をすべて制作できた。	技術を身につけることができず、作品を制作することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	君 興 治(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館3階 2号館4階	
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明, 授業改善アンケート結果反映の説明, 授業計画の説明	シラバスの事前確認(45分)	授業内容の確認(45分)
2	使用する道具と材料の種類と使い方の説明	授業資料の確認(45分)	使用道具の確認(45分)
3	点景1(空の表現)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
4	点景2(樹木の表現 立面図)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
5	講評会(点景)	使用道具の確認と準備(45分)	講評内容の振り返り(45分)
6	色彩1(建具)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
7	色彩2(建築外観)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
8	講評会(色彩)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
9	トレードマークの製作	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
10	表札の製作	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
11	講評会(トレードマークと表札)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
12	フリーハンド表現 課題説明 平面図・立面図	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
13	フリーハンド表現 平面図	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
14	フリーハンド表現 立面図	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
15	講評会(平面図と立面図)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
16	総評(全作品の講評) 授業改善アンケートの実施	提出作品の最終確認(45分)	総評の振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人間と哲学 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	尾崎 有紀(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 尾崎 有紀)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室で対応。				

概要

<b>履修目標</b>
過去の哲学や具体例を踏まえながら、合理的に考える力と自他の心の支えとなるような価値観を形成する。

<b>授業の位置づけ</b>
経営学科のDP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度) 社会福祉学科のDP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度) デザイン学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度) 建築学科のDP2、DP3、DP4に対応する。(2023・2022年度)

<b>到達目標</b>
推論や論証についての基礎知識を身につける。また、道徳哲学における主要な立場の考え方を理解し、具体的なケースに照らして各立場の考え方についてのみずからの見解を述べ他者と議論することができる。

<b>授業全体の内容と概要</b>
過去の哲学の考えを紹介するとともに、質疑応答やディベートなどを通して、学生自身がみずからの価値観を形成していく。そのためには、学生自身がみずから主体的に考え、積極的に授業に参加し、発言することが不可欠である。

<b>授業の方法</b>
認識論と道徳哲学を中心とした哲学の概要を講義形式で説明する。また、講義内容について自らの知識として定着が図れるよう、レポート作成やグループディスカッション等を実施する。

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

<b>履修上の注意事項</b>
・レポート課題については、その都度指示する。 ・配布する講義資料を活用し、講義内容の理解に努めること。 ・不測の事態が起きた際には、オンライン授業を実施する場合がある。

<b>修学サポート(合理的配慮)</b>
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

<b>資格指定科目</b>

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>												
単位の認定に必要な最低出席回数は11回。定期試験(期末試験)は行わないが、数回のレポート課題(グループディスカッション課題を含む)に対するレポートの論理構成と内容、講義期間中に行う中間テストの結果などを総合して評価する。												
<b>評価方法</b>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	60%	0%	20%	20%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	60%	0%	20%	20%	0%							

<b>ルーブリック</b>					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
推論や論証に関する基礎概念の理解	推論や論証に関する基礎概念を深く理解でき、実践に応用できた。	推論や論証に関する基礎概念を深く理解できた。	推論や論証に関する基礎概念をよく理解できた。	推論や論証に関する基礎概念を理解できた。	推論や論証に関する基礎概念を理解できなかった。
道徳哲学における様々な立場の考え方の理解	道徳哲学における様々な立場の考え方を深く理解でき、実践に応用できた。	道徳哲学における様々な立場の考え方を深く理解できた。	道徳哲学における様々な立場の考え方をよく理解できた。	道徳哲学における様々な立場の考え方を理解できた。	道徳哲学における様々な立場の考え方を理解できなかった。
ディベートとグループワーク	ディベートとグループワークで中心的役割を演じた。	ディベートとグループワークで積極的に質の高い発言ができた。	ディベートとグループワークで積極的に発言できた。	ディベートとグループワークで発言できた。	ディベートとグループワークで発言できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人間と哲学 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	尾崎 有紀(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 尾崎 有紀)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス、シラバスの説明 授業改善アンケート結果の反映の説明 イントロダクション	シラバスを読む(90分)	第1回講義の復習(90分)
2	認識論(1):F. ベーコンの経験主義と帰納法	第1回講義の復習と第2回講義の予習(90分)	第2回講義の復習(90分)
3	認識論(2):R. デカルトの理性主義と演繹法	第2回講義の復習と第3回講義の予習(90分)	第3回講義の復習(90分)
4	認識論(3):J. ハーシェル の説話演繹法とC. S. パースのアダクション	第3回講義の復習と第4回講義の予習(90分)	第4回講義の復習(90分)
5	認識論(4): 確率の哲学	第4回講義の復習と第5回講義の予習(90分)	第5回講義の復習(90分)
6	認識論(5):R. カルナップの帰納論理	第5回講義の復習と第6回講義の予習(90分)	第6回講義の復習(90分)
7	道徳哲学(1): ケーススタディ(トロロク問題)	第6回講義の復習と第7回講義の予習(90分)	第7回講義の復習(90分)
8	道徳哲学(2): I. カントの義務論	第7回講義の復習と第8回講義の予習(90分)	第8回講義の復習(90分)
9	道徳哲学(3): I. カントの義務論	第8回講義の復習と第9回講義の予習(90分)	第9回講義の復習(90分)
10	道徳哲学(4): J. ベンサムの「最大多数の最大幸福」	第9回講義の復習と第10回講義の予習(90分)	第10回講義の復習(90分)
11	道徳哲学(5): J. S. ミルの質的功利主義	第10回講義の復習と第11回講義の予習(90分)	第11回講義の復習(90分)
12	道徳哲学(6): ケーススタディ(ミニョネット号事件)	第11回講義の復習と第12回講義の予習(90分)	第12回講義の復習(90分)
13	全体討論	第12回講義の復習と第13回講義の予習(90分)	第13回講義の復習(90分)
14	道徳哲学(7): R. ノージックのリパタリアニズム	第13回講義の復習と第14回講義の予習(90分)	第14回講義の復習(90分)
15	道徳哲学(8): J. ロールズの正義論	第14回講義の復習と第15回講義の予習(90分)	第15回講義の復習(90分)
16	課題(レポート)に対するフィードバック 授業改善アンケートの実施	第15回講義の復習(90分)	第16回講義の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	統計学入門 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	伊藤 裕康(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

自然科学や社会科学、医学などの学問分野だけでなく、ビジネスの世界でも統計学は活用されている。目的に応じて調査や実験が行われているが、そこで得られたデータには「ばらつき」が存在する。この「ばらつき」の大きさを分析し、データから有益な情報を導き出すための統計的手法について、記述統計を中心とした統計学の基礎を学ぶ。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。(2024年度)  
 全学科のDP2に対応する。(2023・2022年度)  
 経営学科のDP2、DP6、社会福祉学科のDP2、DP8、デザイン・建築学科のDP1、DP4に対応する。(2021年度)

到達目標

記述統計において、集めたデータを分析するための度数分布表とヒストグラムを作成することができるほか、確率変数や確率分布について理解し、正規分布表から確率変数に対応する確率を求めることができる。

授業全体の内容と概要

教理・データサイエンス・AI教育プログラム(教理基礎)の関連授業科目。  
 『SG4 質の高い教育をみんなに』の関連科目。  
 記述統計は、度数分布表やヒストグラムの作成と平均値、分散、標準偏差などの特性値の理解と導出を中心に行う。また、確率変数と正規分布などの確率分布の特徴や標準化について学ぶ。授業は、コンピュータ室において表計算ソフトExcelを活用してデータ処理を行う。統計学の専門用語が多く出てくるため、理解するには時間がかかるが、多くの練習問題に触れることで処理手順と専門用語の意味を理解してもらおう。

授業の方法

授業はパワーポイント及び教科書・配布資料で実施し、必要な統計的処理の流れを説明した後に、演習問題を行う。表計算ソフトExcelを使用する場合と手計算の場合がある。一つのデータ処理をするたびに机間巡視を行って学生の計算状況を確認するとともに、学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。その後、授業内で解答を呈示してフィードバックする。  
 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。  
 欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・Excelを活用して問題を解く場合に、自分のノートPCを用いて良い。
- ・大学のPCを利用する場合にはUSBメモリを持参すること。
- ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	15%	0%	0%	25%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
記述統計についての理解	度数分布表とヒストグラムを作成し、表から平均値や分散、標準偏差も求めることができた。	与えられた統計データの平均値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	平均値などの代表値や、分散、標準偏差などの散布度について理解できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できなかった。
確率と確率分布についての理解	確率変数と確率分布について理解し、与条件から確率変数の期待値や分散、標準偏差を求めることができた。	確率変数の期待値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	確率変数の期待値や分散の性質について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できなかった。
標本分布についての理解	正規分布に従う確率変数に対して、データの標準化を行い、標準正規分布表を用いて確率を求めることができた。	データの標準化について理解することができた。	正規分布の特徴について理解し、期待値および標準偏差との関係を理解できた。	正規分布表の見方を理解し、必要な確率を求めることができた。	正規分布表の見方を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	統計学入門 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	伊藤 裕康(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『身につく統計学』	伊藤正義/伊藤公紀	森北出版	2018	9784627082113	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明/情報モラル及び情報セキュリティ/データの整理について	シラバスと教科書をよく読み、専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
2	度数分布表の作成	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
3	ヒストグラムと相対度数	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
4	代表値の考え方	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
5	度数分布と平均値	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
6	散布度と偏差	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
7	分散と標準偏差	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
8	相関係数と回帰直線	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
9	演習問題(度数分布表・平均値・分散)	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
10	確率の考え方	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
11	確率変数について	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
12	確率変数の平均値と分散	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
13	確率分布について	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
14	正規分布と標準化について	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
15	正規分布表を用いた演習	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
16	授業改善アンケートの実施/定期試験(60分の試験終了後、解説を行う)	試験範囲について復習すること(90分)	試験内容について復習すること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関する様々な現象、表現、歴史を考えることを通して、大学での学修に必要な基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習によって学ぶ。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)  
 デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2022・2023年度)  
 デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP8に対応する。(2021年度)

到達目標

マンガを中心とした表現の特性や、専門用語などの知識を身に付け理解する。  
 文献や資料を考察するための基礎能力を身に付ける。  
 ディスカッションや発表などを通して、大学で学ぶための基礎的な学力(プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など)を身に付ける。

授業全体の内容と概要

マンガを中心としたトピックについての講義やグループワーク、ディスカッションを行い、作品の読解の仕方、文献調査の方法や発表資料の作り方などを学ぶ。後半では、各自でマンガやアニメ、ゲームなどのポピュラーカルチャーについて調査分析を行い、発表・ディスカッションを行う。

授業の方法

授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。  
 授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収のほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。  
 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

自ら行う資料調査では、図書館などの機関を積極的に利用すること。個人発表では、自ら行った調査について短い時間でプレゼンテーションを行う。授業内でグループワークやディスカッションなどを行うので、積極的に参加すること。  
 授業の内容は、集まった参加者の興味・関心等に合わせ適宜変更する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	30%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を超えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を超えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力(プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力)	授業で学んだことを超えて、自分の視点について他者に伝わりやすく述べ、他者と積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の視点について述べて、積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の意見を述べることができた。	促されれば自分の意見や考えを述べることができた。	授業内で自分の意見を述べられなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション 自己紹介など	シラバスを読んでおく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
2	学内施設・システムの活用方法(1) 文献調査の方法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
3	学内施設・システムの活用方法(2) 図書館の活用方法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
4	マンガの特徴について考える(1)メディア	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
5	マンガの特徴について考える(2) 表現 ジャンル	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
6	マンガの特徴について考える(3) アニメーションとの比較	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
7	読解の仕方、調査・発表資料の作り方を学ぶ(1) マンガ作品の分析	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
8	読解の仕方、調査・発表資料の作り方を学ぶ(2) プレゼンテーションの方法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
9	読解の仕方、調査・発表資料の作り方を学ぶ(1) 資料のまとめ方	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
10	個人発表(1)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りをする(45分)
11	個人発表(2)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りをする(45分)
12	個人発表(3)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りをする(45分)
13	個人発表(4)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りをする(45分)
14	レポートの書き方について	レポート作成の準備をする(45分)	レポートを作成する(45分)
15	まとめ	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく(45分)	授業内容を復習する(45分)
16	期末レポートの解説 フィードバック 授業改善アンケート実施	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく(45分)	授業内容を復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

大学での学習の基礎になる、文献の読み方、発表の仕方、議論の仕方、レポートの書き方等の技能を修得する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。  
自分で調べ構想したことを、レジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表できる。  
学習の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。

授業全体の内容と概要

講義の受け方・レポート作成方法といった学習のためのスキル、自発的に問題を発見し解決する力といった、大学生としてふさわしい能力や姿勢を修得するために、このゼミナルでは、学生自身によるテキストの読解、内容の報告、参加者による討論、レポートの作成を行う。

授業の方法

授業は次のように進める。  
報告者はテキストの内容要約と議論すべきポイントに関するプレゼンテーションを行う。  
司会役の進行の下、報告者のプレゼン内容について参加者全員で討論をする。  
担当教員による講評を行う。  
レポート作成に向けた準備を進める。  
レポート作成は、社会福祉と政治・行政に関する文脈のなかから受講生と相談の上で決める。  
Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合には、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。  
自主的な参加が求められるので、テキストは必ず事前に読んでおくこと  
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自分で調べ構想したことをレジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表できる。	プレゼンテーション等において、問題の核心をよく理解し、的確にまとめたり表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心をよく理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、部分的に問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできなかった。
学習の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。	独自の着眼点で設定されたテーマに基づいてレポートが作成された。	工夫を凝らして設定されたテーマに基づいてレポートが作成された。	テーマ設定ができたレポートが作成された。	テーマ設定が概ねできたレポートが作成された。	レポートの提出がなされなかった。
自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。	積極的に討論に参加し、リーダーシップを発揮できた。	他者に協力しながら積極的に討論に参加することができた。	積極的に討論に参加することができた。	討論に参加することができた。	討論に参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						相談の上決定。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜指示する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、自己紹介、テキストの決定	シラバスを読む。(45分)	議論内容の整理(45分)
2	テキストの内容報告と討論(1)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
3	テキストの内容報告と討論(2)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
4	テキストの内容報告と討論(3)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
5	テキストの内容報告と討論(4)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
6	テキストの内容報告と討論(5)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
7	テキストの内容報告と討論(6)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
8	テキストの内容報告と討論(7)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
9	テキストの内容報告と討論(8)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
10	テキストの内容報告と討論(9)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
11	テキストの内容報告と討論(10)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
12	テキストの内容報告と討論(11)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
13	レポートの進捗状況の報告(1)	関連資料の収集(45分)	議論内容の整理(45分)
14	レポートの進捗状況の報告(2)	関連資料の収集(45分)	議論内容の整理(45分)
15	レポート作成(1)	レポート(課題)の準備(45分)	レポート(課題)の準備(45分)
16	レポート作成(2)	レポート(課題)の準備(45分)	レポート(課題)の仕上げ(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	戸佐 晃一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 戸佐 晃一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

本授業では、学生生活において健康の保持増進を目指すために必要な食事(栄養)、睡眠、運動などについて理解を深める。また、人体の構造と機能について理解を深めることで、生活習慣との関係性についても学習する。健康の保持増進に向けて運動習慣、食生活・睡眠の見直しなどを実践し健康的な学生生活を旨とする。また、生涯にわたって運動習慣(軽スポーツ)を継続することで高齢になっても健康で長寿であることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

各自、無理のない体力・健康目標を設定し、健康で活力ある学生生活を送るために必要な食事・睡眠・運動の正しい知識を学び健康の維持・増進を実践できるようにする。

授業全体の内容と概要

各自自身自身の食生活・睡眠・運動について健康状態を把握する。  
各自人体の脳や骨格・筋肉・内臓臓器の構造や機能を理解し健康の維持増進に努める。  
各自栄養素について理解を深め健康的な学生生活を送るために食生活を見直す。

授業の方法

DVDなど動画を参考に基本的な人体の構造や機能を理解する。  
グループワークで互いが課題の発見や指摘をし合い、ディスカッションを通して正しい理解ができるように進めていく。  
Teamsを活用して連絡・レポート提出を行う。  
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	30%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
人体の骨格の構造や機能の理解	人体の骨格の構造や機能を良く理解している	人体の骨格の構造や機能をほぼ理解している	人体の骨格の構造や機能がある程度理解している	人体の骨格の構造や機能を理解している	人体の骨格の構造や機能を理解していない
人体の筋肉の構造や機能の理解	人体の筋肉の構造や機能を良く理解している	人体の筋肉の構造や機能をほぼ理解している	人体の筋肉の構造や機能がある程度理解している	人体の筋肉の構造や機能を理解している	人体の筋肉の構造や機能を理解していない
人体の脳の構造や機能の理解	人体の脳の構造や機能を良く理解している	人体の脳の構造や機能をほぼ理解している	人体の脳の構造や機能がある程度理解している	人体の脳の構造や機能を理解している	人体の脳の構造や機能を理解していない

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	戸佐 晃一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 戸佐 晃一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンス内容を理解しておく(45分)
2	個人面談(履修方法・時間割・学生生活)	履修方法・時間割を確認しておく(45分)	履修方法・時間割を把握しておく(45分)
3	個人面談(履修方法・時間割・学生生活)	履修方法・時間割を確認しておく(45分)	履修方法・時間割を把握しておく(45分)
4	人体の骨格の構造や機能の理解	人体の骨格の構造や機能を確認しておく(45分)	人体の骨格の構造や機能を理解しておく(45分)
5	人体の骨格の構造や機能の理解	人体の骨格の構造や機能を確認しておく(45分)	人体の骨格の構造や機能を理解しておく(45分)
6	人体の骨格の構造や機能の理解	人体の骨格の構造や機能を確認しておく(45分)	人体の骨格の構造や機能を理解しておく(45分)
7	人体の筋肉の構造や機能の理解	人体の筋肉の構造や機能を確認しておく(45分)	人体の筋肉の構造や機能を理解しておく(45分)
8	人体の筋肉の構造や機能の理解	人体の筋肉の構造や機能を確認しておく(45分)	人体の筋肉の構造や機能を理解しておく(45分)
9	人体の筋肉の構造や機能の理解	人体の筋肉の構造や機能を確認しておく(45分)	人体の筋肉の構造や機能を理解しておく(45分)
10	人体の筋肉の構造や機能の理解	人体の筋肉の構造や機能を確認しておく(45分)	人体の筋肉の構造や機能を理解しておく(45分)
11	人体の脳の構造や機能の理解	人体の脳の構造や機能を確認しておく(45分)	人体の脳の構造や機能を理解しておく(45分)
12	人体の脳の構造や機能の理解	人体の脳の構造や機能を確認しておく(45分)	人体の脳の構造や機能を理解しておく(45分)
13	人体の脳の構造や機能の理解	人体の脳の構造や機能を確認しておく(45分)	人体の脳の構造や機能を理解しておく(45分)
14	人体の脳の構造や機能の理解	人体の脳の構造や機能を確認しておく(45分)	人体の脳の構造や機能を理解しておく(45分)
15	まとめ 授業改善アンケート結果反映の説明	授業内容を振り返り確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
16	フィードバック	授業内容を振り返り確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	米野 宏(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 米野 宏)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力の向上をはかる。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答やディスカッションも行う。入前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、新聞やインターネットによるニュース等を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は、欠席扱いとする。対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	10%	0%	70%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとて巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通でできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取られた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまらず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をするのが普通でできた。	討議の中で、対話することが苦手で、ほとんど受け身であった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	米野 宏(経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者: 米野 宏)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明)	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	注意事項を確認する。(45分)
2	レポートの作成(スポーツと私)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
3	発表と意見交換 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
4	発表と意見交換 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
5	発表と意見交換 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
6	ニューススポーツを考える(屋外競技)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
7	ニューススポーツを考える(屋内競技)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
8	プレゼンテーションの準備 1(グループに分かれて)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
9	プレゼンテーションの準備 2(グループに分かれて)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
10	プレゼンテーション(屋外競技) 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
11	プレゼンテーション(屋外競技) 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
12	プレゼンテーション(屋外競技) 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
13	プレゼンテーション(屋内競技) 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
14	プレゼンテーション(屋内競技) 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
15	プレゼンテーション(屋内競技) 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
16	ふりかえり	ノートに記載された内容を再度確認する。(45分)	評価等の内容を確認する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制	演習		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

「健康とスポーツ」というテーマを基に、学生と教員双方の人間関係を築き、また大学での学習を進めるにあたり、コミュニケーション能力や思考力・判断力・表現力の能力及び意欲を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

健康とスポーツについて理解し知識を身に付け、自分に必要な課題探求の道筋を明らかにする事ができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は自立学習シートのレポートを作成し発表する。発表に対してディスカッションを行う。後半はグループでテーマを決めプレゼンテーションを行い、質疑応答も行う。  
「SDG4.質の高い教育をみんなに」

授業の方法

授業は配布資料で実施し、レポートの書き方については板書または資料にて説明する。授業によってはグループワークで思考・考察・発表を行い学習していく。課題や発表に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する可能性がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は欠席扱いとする。欠席をする場合は必ず事前に連絡すること。注意事項の詳細についてはガイダンスにて説明する。発表と意見交換の機会が多いので、主体的で能動的な姿勢で取り組むこと。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	10%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康とスポーツについての基礎的な知識を深く理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を比較的理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を多少理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力の能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルに達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体的・多様性・協調性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協調性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協調性に関して期待されるレベルに達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協調性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協調性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制	演習		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験を授業関連内容として活用する。学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明)	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	自立学習シートの作成(自己紹介)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
3	自立学習シートの作成(大学生に必要な事は何か)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
4	自立学習シートの作成(どのような学生生活を送りたいか)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
5	自立学習シートの作成(自分の将来について)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
6	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
7	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
8	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
9	プレゼンテーションの準備(グループ別)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
10	「健康とスポーツ」について考える(グループワーク)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
11	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
12	「生涯スポーツ」について考える(グループワーク)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
13	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
14	「生活と健康」について考える(グループワーク)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
15	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
16	まとめ	ノートに記載された内容を復習し理解する。(45分)	評価の内容を確認し自己評価を行うこと。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三嶋 康嗣)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力の向上をはかる。

授業の位置づけ
---------

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標
------

自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要
------------

授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答やディスカッションも行う。入前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法
-------

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、書籍や新聞、インターネット等の情報を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法
-----------------

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
----------

20分以上の遅刻は、欠席扱いとする。対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。

修学サポート(合理的配慮)
---------------

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
--------

評価方法・基準

評価前提条件
--------

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。

評価方法
------

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	10%	0%	70%	10%

ルーブリック
--------

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとて巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通でできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をするのが普通でできた。	討議の中で、対話することが苦手で、ほとんど受け身であった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三嶋 康嗣)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明)	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	注意事項を確認する。(45分)
2	レポートの作成(スポーツとの関わり)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
3	発表と意見交換 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
4	発表と意見交換 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
5	発表と意見交換 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
6	スポーツを考える(ゴール型競技) 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
7	スポーツを考える(ゴール型競技) 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
8	スポーツを考える(ネット型競技) 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
9	スポーツを考える(ネット型競技) 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
10	プレゼンテーションの準備 1 グループ別ディスカッション	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
11	プレゼンテーションの準備 2 グループ別ディスカッション	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
12	プレゼンテーション (ゴール型競技) 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
13	プレゼンテーション (ゴール型競技) 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
14	プレゼンテーション (ネット型競技) 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
15	プレゼンテーション (ネット型競技) 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
16	ふりかえり	ノートに記載された内容を再度確認する。(45分)	評価等の内容を確認する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎セミナー A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	井坂 肇(経営学科・助教)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 井坂 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

スポーツパフォーマンスを最大化するために、データを活用しながら不足している体力要素を特定していく。さらには、その体力要素の向上のためのトレーニング方法を理解する。科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行うために、論文を読むようにする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

トレーニング理論について理解できる。  
課題解決のために他者と討議することができる。  
トレーニングを実践することができる。  
論文を読んで内容について理解することができる。

授業全体の内容と概要

スポーツパフォーマンスを最大化するために、データを活用しながらトレーニングを進めていく。論文を読み、科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行う。

授業の方法

講義はパワーポイント及び配布資料で実施し、資料にて説明した後、グループワークを行う。データやトレーニング方法について考察し、他者と共有する機会を設ける。  
学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

15分以上の遅刻は欠席とみなす。  
遅刻2回で1回の欠席とみなす。  
トレーニングデータの題材として野球の投手を利用することがある。  
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	30%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
科学的なエビデンスに基づいたトレーニングの理解	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめた。また様々なケースにおいて採用されたトレーニングの方法について意見を持っていた。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめた。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べた。	トレーニング理論を説明できた。	トレーニング理論を説明できなかった。
他者との討議	他者と討議しながら解決のための具体策を提示すると共に、意見を集約してまとめることができた。さらには新たな課題を自ら発見し、他者との討議の場を生み出すことができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示すると共に、意見を集約してまとめることができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示できた。	他者と討議できた。	他者と討議できなかった。
データに対する思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを達成した。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	井坂 肇(経営学科・助教)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者: 井坂 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	シラバスの内容を理解しておく(45分)
2	エビデンスに基づいたトレーニング 論文の読み方	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
3	エビデンスに基づいたトレーニング 論文の読み方	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
4	エビデンスに基づいたトレーニング 論文の読み方	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
5	エビデンスに基づいたトレーニング 論文の読み方	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
6	トレーニングデータの収集と理解 データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
7	トレーニングデータの収集と理解 データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
8	トレーニングの実践	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
9	トレーニングの実践	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
10	トレーニングデータの収集と理解 データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
11	トレーニングデータの収集と理解 データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
12	トレーニングの実践	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
13	トレーニングの実践	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
14	トレーニングデータの収集と理解 データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
15	エビデンスに基づいたトレーニング 論文の読み方	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	講義全体を振り返り質問事項をまとめておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	阿部 一也(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 阿部 一也)	CAP制	演習		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

陸上競技(駅伝)を通じて、生活の多様な側面から人間の生活と健康を理解し、より健康な生活を創りだして行くための必要な知識を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

陸上競技(駅伝)を通じて、家族、個人という様々なレベルにおける健康的な生活について理解し、知識を身につけ、健康観について一層関心を持つことができる。

授業全体の内容と概要

陸上競技(駅伝)を通じて、生活の多様な側面に焦点を当て、個人、家族、地域社会という様々なレベルにおける人間の健康的な生活について詳しく解説する。

授業の方法

資料を通読し、その内容にかかわった説明や質疑応答及びディスカッションを行います。板書や教材提示装置を活用します。健康に関するキーワードについての調べ学習及びその発表を行います。課題や発表等に対応するフィードバックや要望等への対応は、小人数集団の利点を生かし、口頭で行います。不測の事態の際に授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合があります。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	80%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	陸上(駅伝)を通じて、健康についての基礎的な知識を深く理解できた。	陸上(駅伝)を通じて、健康についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	陸上(駅伝)を通じて、健康についての基礎的な知識を比較的理解できた。	陸上(駅伝)を通じて、健康についての基礎的な知識を多少理解できた。	陸上(駅伝)を通じて、健康についての基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	陸上(駅伝)を通じて、健康の基本を踏まえた健康内容の展開について十分に考察できた。	陸上(駅伝)を通じて、健康の基本を踏まえた健康内容の展開についておおむね考察できた。	陸上(駅伝)を通じて、健康の基本を踏まえた健康内容の展開について比較的考察できた。	陸上(駅伝)を通じて、健康の基本を踏まえた健康内容の展開について多少考察できた。	陸上(駅伝)を通じて、健康の基本を踏まえた健康内容の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度	陸上(駅伝)を通じて、健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	陸上(駅伝)を通じて、健康の多様な展開について理解したことをおおむねわかりやすく説明できた。	陸上(駅伝)を通じて、健康の多様な展開について理解したことを比較的わかりやすく説明できた。	陸上(駅伝)を通じて、健康の多様な展開について理解したことを多少わかりやすく説明できた。	陸上(駅伝)を通じて、健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できなかった。



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	阿部 一也(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 阿部 一也)	CAP制	演習		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス 「シラバスの説明」	事前にシラバスを読んで確認にする。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
2	陸上競技(駅伝)を通じて、人間の生活と健康の調査説明	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
3	陸上競技(駅伝)を通じて、人間の生活と健康の調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
4	陸上競技(駅伝)を通じて、人間の生活と健康の調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
5	陸上競技(駅伝)を通じて、人間の生活と健康の調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
6	陸上競技(駅伝)を通じて、人間の生活と健康の調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
7	陸上競技(駅伝)を通じて、人間の生活と健康の調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
8	陸上競技(駅伝)を通じて、人間の生活と健康の調査(まとめ)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
9	陸上(駅伝)と健康プログラムを素材にした発表会・討議	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
10	陸上(駅伝)と健康プログラムを素材にした発表会・討議	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
11	陸上(駅伝)と健康プログラムを素材にした発表会・討議	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
12	陸上(駅伝)と健康プログラムを素材にした発表会・討議	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
13	陸上(駅伝)と健康プログラムを素材にした発表会・討議	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
14	陸上(駅伝)と健康プログラムを素材にした発表会	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
15	陸上(駅伝)と健康プログラム調査・講評	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
16	(まとめ)		ノートに記載された内容を再復習し、理解する。(4.5分) 解説の内容を確認する。(4.5分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

国際的に活躍するエリートアスリートとともに働く世界の著名なスポーツ科学者達のリカバリーに関する最新の科学的データを理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

「パフォーマンスを向上させたい」、「オーバーテイングや怪我を予防したい」と考えているすべてのアスリートやコーチを目指している学生のために、科学的なエビデンスに基づいた情報、また、エリートスポーツに携わるコーチやスポーツ科学者が、成功へと導いた競技現場でのリカバリーの応用例を実践する。

授業全体の内容と概要

すべてのアスリートやコーチを目指している学生がトレーニングや試合などの競技活動におけるオーバーロードや怪我のリスクを低下させ、最終的にはそれぞれのパフォーマンスを改善するリカバリープロセスを学ぶ。

授業の方法

- ・授業はパワーポイントを使用し、DVDの視聴、レポートなどの講義形式で実施します。
- ・不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。
- ・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻3回で1回の欠席とみなします。不測の事態の際はオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	30%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修した知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修した知識・技能を修得できなかった
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
2	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
3	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
4	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
5	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
6	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
7	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
8	リカバリーの確認	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
9	リカバリーの実践 スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
10	リカバリーの実践 スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
11	リカバリーの実践 スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
12	リカバリーの実践 スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
13	リカバリーの実践 筋機能・動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
14	リカバリーの実践 筋機能・動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
15	リカバリーの実践 筋機能・動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

本基礎ゼミナールでは社会科学に関する専門書を全員で音読し、現代社会における処々の課題を歴史的・グローバルに俯瞰し、現代社会の諸問題を解析するための基本的視座を獲得する。基礎ゼミナール Aでは「憲法」をテーマにし、その歴史的意義と現代日本における諸課題を検討する。

授業の位置づけ

全学科のDP 1, 2, 3, 4に対応する。(2024年度)

到達目標

- ・社会科学に対する興味を喚起し、自発的に文献を読み込む技術を習得できる。
- ・現代社会が抱える諸課題について、各媒体を検索する技術を習得できる。
- ・社会科学全体に共通する諸課題を検討することによって、2年時以降の社会福祉学の学習の基盤となる視座を構築できる。

授業全体の内容と概要

小室直樹著『日本人のための憲法原論』(集英社インターナショナル)を主要参考文献とし(各講義ごとに講読パートを教員がコピーする)、その他『NEWS W E E K』等の記事を適宜配布し、国際社会を視野に入れたグローバルな社会分析ができる。

授業の方法

- ・各講義ごとに教員が資料を配布し、個々に音読してもらい、内容を解説・議論する。
- ・講義プリントは講義の前の週に配布するので熟読しておくこと。
- ・学生からの要望には可能な限り答えるが、教育上不適切と思える要望には応じない。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

全学科の全コースが履修可能である。  
ライン、チャット等に「欠席」の申告がない、あるいは公欠等の連絡がない場合は欠席とみなす。  
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席日数10回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	30%	70%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
「憲法」に関する参考文献・資料の内容を理解する	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容についての確に説明でき、且つ、自分の意見を述べる事ができた。	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容について明確に説明できた。	高校のテキストの政治・憲法についての基本的知識を習得できた。	高校のテキストの「世界史」の基本的知識を習得できた。	左記の内容が何一つできなかった。
中世の欧米社会史から近世日本社会史までの外観を理解する	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容についての確に説明でき、且つ、自分の意見を述べる事ができた。	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容について明確に説明できた。	高校のテキストの「社会史」「近世日本史」の基本的知識を習得できた。	高校のテキストの「世界史」の基本的知識を習得できた。	左記の内容が何一つできなかった。
憲法が効果的に機能するための要因を理解する。	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容についての確に説明でき、且つ、自分の意見を述べる事ができた。	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容について明確に説明できた。	日本国憲法と大日本帝国憲法の違いと各々の課題を理解できた。	高校のテキスト「日本の政治」の基本的知識を習得できた。	左記の内容が何一つできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	高校のテキストの読み直し(45分)	配布資料の読み込み(45分)
2	日本国憲法は生きているか	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
3	誰のために憲法はあるか	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
4	全ては議会から始まった	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
5	民主主義は神様が作った	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
6	かくして議会は誕生した－イギリス憲法小史	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
7	民主主義と資本主義は双子だった	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
8	初めに契約ありき	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
9	「民主主義のルール」とは	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
10	憲法の敵は何か	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
11	平和主義者が戦争を作る	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
12	20世紀を変えたヒトラーとケインズ	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
13	天皇教の原理	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
14	田中角栄の遺産	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
15	憲法は甦るか	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
16	総括	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

学生が世界と日本の歴史と文化について、基礎的な知識と考え方を身につける。初歩的なプレゼンテーション、文章作成の技術を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。(2024年度)

到達目標

受講者において、初歩的なプレゼンテーションとコミュニケーションの技術が身についていること。基礎的な文章作成ができること。受講者において、北海道を中心に世界と日本の歴史と文化についての基礎的な知識が習得され、説明でせらるること。

授業全体の内容と概要

毎回、受講者が北海道を中心に日本内外の歴史と文化に関する事項の調査・学習を行い、その結果を発表する。合わせて、毎回、討論を実施し、教員よりのコメントとアドバイスを加える。レポートとプレゼンテーションの基礎の学習も折り返す。

授業の方法

- 1) 毎回、発表者を決め、短いプレゼンテーションを行なう。
  - 2) 1) に対する質疑応答を行なう。
  - 3) 出席者全員で討論をする。
  - 4) 教員の講評によるフィードバック。
- 1) ~ 4) を毎時間くり返す。合わせて、適宜、レポート作成の練習を行なう。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

欠席、遅刻はしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録音・録音を認める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	0%	50%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
調査・情報収集能力	多様で正確な調査・情報収集ができ、的確に編集と整理ができた。	正確な情報収集ができ、的確な整理ができた。	情報収集と整理の基礎が身に付いていた。	指示によって情報収集と整理が遂行できた。	指示による情報収集と整理ができなかった。
コミュニケーション能力	積極的な議論と明確な主張・提案ができ、しっかりと情報発信ができた。	的確な議論と提案ができ、情報発信がある程度できた。	議論と提案、情報発信の基礎が身に付いていた。	指示によって議論と情報発信が遂行できた。	指示による議論と情報発信ができなかった。
好奇心・態度	文化を理解し、知ろうとする意欲と好奇心に富み、発展的な学習が遂行できた。	文化に関する好奇心があり、自発的な学習ができた。	文化に関する知識を意欲的に学んでいた。	指示する内容の学習を遂行することができた。	指示する内容の学習を遂行できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						適宜指示する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、ガイダンス、諸注意。	シラバスを読む。(45分)	歴史と文化の基礎事項の復習(45分)
2	歴史と文化一般に関する講義	歴史と文化の基礎事項の予習(45分)	歴史と文化の基礎事項の復習(45分)
3	北海道の歴史と文化に関する講義	北海道史の基礎事項の予習(45分)	北海道史の基礎事項の復習(45分)
4	北海道の歴史と文化に関する調査と発表(1)	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習(45分)	北海道史の基礎事項の復習(45分)
5	北海道の歴史と文化に関する調査と発表(2)	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習(45分)	北海道史の基礎事項の復習(45分)
6	北海道の歴史と文化に関する調査と発表(3)	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習(45分)	北海道史の基礎事項の復習(45分)
7	北海道の歴史と文化に関する調査と発表(4)	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習(45分)	北海道史の基礎事項の復習(45分)
8	北海道の歴史と文化に関する調査と発表(5)	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習(45分)	北海道史の基礎事項の復習(45分)
9	北海道の歴史と文化に関する調査と発表(6)	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習(45分)	北海道史の基礎事項の復習(45分)
10	北海道の歴史と文化に関する調査と発表(7)	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習(45分)	北海道史の基礎事項の復習(45分)
11	北海道の歴史と文化に関する調査と発表(8)	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習(45分)	北海道史の基礎事項の復習(45分)
12	北海道の歴史と文化に関する調査と発表(9)	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習(45分)	北海道史の基礎事項の復習(45分)
13	北海道の歴史と文化に関する調査と発表(10)	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習(45分)	北海道史の基礎事項の復習(45分)
14	北海道の歴史と文化に関する調査と発表(11)	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習(45分)	北海道史の基礎事項の復習(45分)
15	レポート作成(1)	レポート(課題)の準備(45分)	レポート(課題)の準備(45分)
16	レポート作成(2)、授業改善アンケートの実施。	レポート(課題)の準備(45分)	レポート(課題)の仕上げ(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会福祉に対する視野を広げるとともに、福祉従事者としての基本的な態度を涵養する。

授業の位置づけ

全学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。(2024年度)

到達目標

職業の一つとして社会福祉を捉えたいうえで、チームワークについて理解できる。

授業全体の内容と概要

様々な福祉実践の場を知るとともに、そこで求められる社会福祉の知識や技術の概要について学ぶ。  
「SDG3:すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

基本は、テーマの内容についてグループで議論をした内容をまとめ、代表者が発表をする展開とする。  
一部、講義形式で展開をする。講義の際には随時質問を行うので答えること。  
2回以降は授業毎に記録を提出する。記録物はコメントを添えて返却する。  
授業に関する資料を毎回配布する。  
不測の事態における授業や補講等にてオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は欠席とする。  
出席を重視するので、欠席や遅刻をする際には事前に連絡をすること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

10回以上の出席があること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
クラスのメンバーと協働できる。	リーダーシップを発揮し、他者へのサポートができた。	他者を尊重するとともに、自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
第三者が理解できる記録を作成できる。	記録をもとに考察ができた。	SW1HIに沿って記述できた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
社会福祉の視点を持つことができる。	他の職業と比較し、福祉の仕事の独自性を述べることができた。	福祉の仕事の独自性を述べることができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に対する理解を深めていく。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 アイスブレイキング	自己紹介を行うので、内容を整理しておく(45分)。	アイスブレイキングの効果を考察する。(45分)
2	記録の書き方	今回の内容について、書籍やインターネットで調べ。(45分)	記録のポイントを配布資料ノートで確認する。(45分)
3	福祉の仕事のイメージ	今回の内容の発表内容を整理する。(45分)	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。(45分)
4	福祉の仕事を目指す理由	今回の内容の発表内容を整理する。(45分)	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。(45分)
5	福祉の仕事を目指す理由	今回の内容の発表内容を整理する。(45分)	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。(45分)
6	福祉の職場	今回の内容について、書籍やインターネットで調べ。(45分)	役割分担した内容について調べて整理する。(45分)
7	福祉の職場	今回の内容について、書籍やインターネットで調べ。(45分)	役割分担した内容について調べて整理する。(45分)
8	中間まとめ	1回から7回の内容を振り返り、疑問点や議論したい点を整理する。(45分)	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。(45分)
9	福祉に関する資格	今回の内容について、書籍やインターネットで調べ。(45分)	役割分担した内容について調べて整理する。(45分)
10	福祉に関する資格	今回の内容について、書籍やインターネットで調べ。(45分)	役割分担した内容について調べて整理する。(45分)
11	福祉従事者の手記から福祉の仕事を考える。	福祉従事者が著した書籍を図書館で借りる。(45分)	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。(45分)
12	福祉従事者の手記から福祉の仕事を考える。	福祉従事者が著した書籍を読む。(45分)	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。(45分)
13	福祉サービス利用者の手記から福祉の仕事を考える。	福祉サービス利用者が著した書籍を図書館で借りる。(45分)	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。(45分)
14	福祉サービス利用者の手記から福祉の仕事を考える。	福祉サービス利用者が著した書籍を読む。(45分)	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。(45分)
15	福祉従事者に求められる資質を考える。	発表内容を整理する。(45分)	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	15回までの授業内容を振り返り、疑問点や議論したい点を整理する。(45分)	全体を振り返り、今後の課題を考察する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「食生活の重要性を考える」というテーマを基に、学生と教員双方の人間関係を築き、「課題探求能力」養成を軸とした学習活動やその意義を理解する。提示されたテーマの他様々な事柄への好奇心・探求心・向学心を刺激しながら学習能力が高まり、また、「学びの方法」を修得する。

授業の位置づけ

全学科の DP 1、DP 2、DP 5 に対応する。(2024年度)

到達目標

上記の授業内容や目的・ねらいを理解し、自分に必要な課題探求の道筋を明らかにすることができる。

授業全体の内容と概要

人間は食べることのみによって栄養を取り入れ、様々な活動を可能としている。乳幼児から高齢者まで各々の目的や問題の違いはあれ、それぞれ生活リズムの確立や健康、QOL、疾病防止などを目的として望ましい食生活を営むことが必要となる。学生それぞれが自分自身の食生活だけでなく職業的(保育士、社会福祉士、スポーツトレーナー、教員等)に必要な問題意識を持ち知識を身につけることを目標とする。SDG3「すべての人に健康と福祉を」の関連科目。

授業の方法

食生活や栄養に関する問題の中からそれぞれが研究テーマを見つけ、プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等を実施する。また必要に応じて教員がテーマに関連した講義も行い、カレントトピックスについても解説する。質疑応答には随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・出席を重視する。欠席をする場合は必ず事前に連絡をすること。出席数を満たしていてもゼミの運営を乱す行為があった場合は評価をしない場合がある。また同じくゼミの運営に支障を来す行為があった場合は途中でゼミ異動を宣告する場合がある。  
 ・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

出席状況(3分の2以上)。ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	30%	50%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解(協調性、傾聴力)	ゼミ内でのプレゼンテーションに積極的に耳を傾け、タイムラグよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け、タイムラグよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け、質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け何回か質問することができなかった。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾けることは出ることができなかった。
知識・理解(興味、関心)	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち積極的に食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを概ね発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち努力をしながら食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができなかった。
汎用的機能(トークスキル、表現力)	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう資料を十分揃えわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいようわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができなかった。
態度・志向性(リーダーシップ、態度)	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し、積極的にゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し、ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し、ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し、ゼミ運営に多少関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識できなかった。
態度・志向性(意欲)	休まずゼミに出席できた。(出席16回)	概ねゼミに出席できた。(出席15~14回)	休みがちではあるが出席できた。(出席13~12回)	欠席が目立つが出席できた。(出席11~10回)	評価前提条件を満たす事ができなかった。(出席9~0回)

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション及びシラバスの説明	ゼミ初回に必要な事項について考える。(45分)	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える(45分)
2	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
3	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
4	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
5	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
6	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
7	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
8	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
9	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
10	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
11	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
12	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
13	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
14	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
15	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
16	まとめ	まとめの準備を行う。(45分)	まとめの振り返りを行う。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	尾西則昭(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制	演習		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

生活の多様な側面から人間の生活と健康を理解し、より健康な生活を創りだして行くための必要な知識を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

家族、個人という様々なレベルにおける健康的な生活について理解し、知識を身につけ、健康観について一層関心を持つことができる。

授業全体の内容と概要

生活の多様な側面に焦点を当て、個人、家族、地域社会という様々なレベルにおける人間の健康的な生活について詳しく解説する。

授業の方法

資料を通読し、その内容にかかわった説明や質疑応答及びディスカッションを行います。板書や教材提示装置を活用します。健康に関するキーワードについての調べ学習及びその発表を行います。課題や発表等に対応するフィードバックや要望等への対応は、小人数集団の利点を生かし、口頭で行います。不測の事態の際に授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合があります。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	80%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康についての基礎的な知識を深く理解できた。	健康についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康についての基礎的な知識を比較的理解できた。	健康についての基礎的な知識を多少理解できた。	健康についての基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について十分に考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開についておおむね考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について比較考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について多少考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度	健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことをおおむねわかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを比較的理解しやすき説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを多少わかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	尾西則昭(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制	演習		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス 「シラバスの説明」	事前にシラバスを読んで確認にする。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
2	人間の生活と健康の調査説明	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
3	人間の生活と健康の調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
4	人間の生活と健康の調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
5	人間の生活と健康の調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
6	人間の生活と健康の調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
7	人間の生活と健康の調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
8	人間の生活と健康の調査(まとめ)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
9	健康プログラムを素材にした発表会・討議	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
10	健康プログラムを素材にした発表会・討議	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
11	健康プログラムを素材にした発表会・討議	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
12	健康プログラムを素材にした発表会・討議	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
13	健康プログラムを素材にした発表会・討議	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
14	健康プログラムを素材にした発表会	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
15	健康プログラム調査・講評	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(4.5分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(4.5分)
16	(まとめ)	ノートに記載された内容を再復習し、理解する。(4.5分)	解説の内容を確認する。(4.5分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )					
授業担当者(所属・職名)	西崎 毅(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1	(単位認定責任者: 西崎 毅)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学修姿勢や探究力を培う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標
教員になるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等及び主体的な学修態度を身に付ける。

授業の位置づけ
全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標
教育の現状(全国・全道・地域)や教育制度等を理解することができる。 教育の諸問題について、自分で考える、詳しく調べる、自分の意見を表現することができる。 教員になるために必要な事項を理解することができる。

授業全体の内容と概要
教育の諸問題についての探究的な学修 教育法規、学習指導要領、中央教育審議会答申の学修 教員に求められる基本的資質の獲得(漢字、一般教養等) 学校体験活動等への参加 「SDG4・質の高い教育をみんなに」関連科目

授業の方法
各回のテーマに基づいて、探究的な学修(自分で考える、詳しく調べる、自分の意見を表現する等)を行う。 教育法規、学習指導要領、中央教育審議会答申を講読する。 教員に求められる基本的資質を獲得するための演習を行う。(漢字、一般教養等) 学校体験活動等の成果を発表・共有する。 毎時間、事前事後課題を課す。 課題や発表等に対するフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。 Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問対応、小テスト、教材配布等を行う。 不測の事態が生じた際に、授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>○以下を履修条件とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職課程に登録し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意志を持つこと。</li> <li>・サマージャーナル・プログラムの「教員採用試験対策プログラム」を履修すること。</li> <li>・担当教員が紹介する学校体験活動等に積極的に取り組むこと。</li> <li>・事前事後学修に真剣に取り組むこと。</li> <li>・漢字検定に真剣に取り組むこと。(受検級に合格するまで毎回確実に受検すること。)</li> <li>・各自、B5版のノートを用意すること(ルーズリーフは不可)。</li> </ul> </li> </ul>

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
---

資格指定科目
--------

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要な最低出席回数は11回。

評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	20%	0%	80%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	20%	0%	80%	0%							

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルに達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルに達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	西崎 毅(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 西崎 毅)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学修姿勢や探究力を培う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	別途購入案内する。a					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	別途購入案内する。a					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明を含む)自己紹介, 決意表明	シラバスを熟読し, 履修条件を確認すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
2	学力とは何か考える。(個人の思考・発表・意見交換)一般教養演習, 教育法規演習, 学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
3	学力とは何か調べる。(調査・まとめ)一般教養演習, 教育法規演習, 学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
4	学力とは何か調べる。(調査・まとめ)一般教養演習, 教育法規演習, 学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
5	学力とは何か発表する。(発表・質疑応答)一般教養演習, 教育法規演習, 学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
6	国際社会が育成を目指す学力について調べる。(調査・まとめ)一般教養演習, 教育法規演習, 学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
7	我が国が育成を目指す学力について調べる。(調査・まとめ)一般教養演習, 教育法規演習, 学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
8	国際社会と我が国が育成を目指す学力について発表する。(発表・質疑応答)一般教養演習, 教育法規演習, 学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
9	国際的な学力調査及びその結果について調べる。(調査・まとめ)一般教養演習, 教育法規演習, 学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
10	国際的な学力調査及びその結果について発表する。(発表・質疑応答)一般教養演習, 教育法規演習, 学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
11	我が国の学力調査及びその結果について調べる。(調査・まとめ)一般教養演習, 教育法規演習, 学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
12	我が国の学力調査及びその結果について発表する。(発表・質疑応答)一般教養演習, 教育法規演習, 学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
13	北海道の学力調査の結果について調べる。(調査・まとめ)一般教養演習, 教育法規演習, 学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
14	北海道の学力調査の結果について発表する。(発表・質疑応答)一般教養演習, 教育法規演習, 学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
15	北広島市の小中学校の学力調査の結果について調べる。(調査・まとめ)一般教養演習, 教育法規演習, 学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
16	北広島市の小中学校の学力調査の結果について発表する。(発表・質疑応答)前期の学修の総括及び反省	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	1年間の学修を振り返り、自己評価を行うこと。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
<p>デザインを通し自由な発想でプランニングからデザイン制作まで地域で必要とされることをゼミ活動で、できる限り一貫して実践することを目標とする。</p> <p>自らデザインした形を地域社会の中に残し貢献する。地域との取り組みに自分の創作意欲を掻き立てながらSDGsの達成のために、どんなことができるのか、地域イベントやワークショップなどに企画参加し、自ら学び、考え、そして楽しく活動する。</p> <p>昨年度の主な活動：食品パッケージデザイン、イベントポスター、行政・企業とのイベント企画、ビクトグラム制作、企業へのPOP制作、企業ロゴマーク、教育施設でのデザインワークショップや美術部とのアートセッションなど</p>

授業の位置づけ
<p>全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)</p> <p>デザイン・建築学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。(2023・22年度)</p> <p>全学科のDP2、DP3、DP6、DP7、DP8、DP11に対応する。(2021年度)</p>

到達目標
<p>(1) 制作活動を通して何を学ぶのか、各自の問題意識を明確にすることができる。</p> <p>(2) 適切なコミュニケーションを取りながら、他者との関わりをもつことができる。</p> <p>(3) 活動経験を振り返り、今後進めていく上での自己の課題を設定することができる。</p>

授業全体の内容と概要
<p>授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティビティを多く取り入れる。各自が問題意識を持ち、考察結果などをグループ全体で共有しながら、目標達成に向けて活動をする。地域との取り組みに自分の好きなデザインを交えながら、どんなことができるのか考え楽しく活動する</p>

授業の方法
<p>グループワークを中心とした活動が多いため、一人ひとりが自主性を持ち、他人任せになるようなことがないように、常に問題意識を持ち、議論しながら問題解決し、積極的に活動に励む。授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティビティを多く取り入れる。</p>

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
<p>受講定員15名</p> <p>受講条件</p> <p>本ゼミを希望する学生は必ず活動内容の説明を聞きに選択志望する前に研究室へ来ること。</p> <p>受講に関して以下の心構えがある学生を条件といたします。</p> <p>社会に役立って達成感を得たり、自分に自信をつけたい人</p> <p>やる気があり、最後まで活動をやり通す気力を持ち合わせている人</p> <p>協力し合いながら目標に向かい活動を成功させる意気込みがある人</p> <p>不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>

修学サポート(合理的配慮)
<p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
資格指定科目

評価方法・基準												
評価前提条件												
<p>単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上とする。</p>												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	40%	30%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	40%	30%	0%	30%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を越えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>積極性、社会理解</td> <td>積極的にアイデアを出し、採用された。他人の発言を聴き、積極的に意見した。</td> <td>積極的にアイデアを出した。他人の発言を聴き、十分な理解に努めた意見した。</td> <td>それなりにアイデアを出した。他人の発言を聞き、ある程度意見した。</td> <td>アイデアを殆ど出せなかった。他人の意見をあまり理解できなかった。</td> <td>アイデアを出せなかった。他人の意見を殆ど理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>課題解決能力と創造性</td> <td>仕事を的確に発見し、進め方を共有しあいながら適切に検討し、実行できた。</td> <td>仕事を進んで発見し、進め方を適切に検討し、実行できた。</td> <td>仕事を発見し、進め方を検討し、ある程度実行できた。</td> <td>仕事をあまり発見できず、依頼されたことだけ実行できた。</td> <td>仕事を発見できず、依頼されたことも、ほとんど実行できなかった。</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション能力と行動力</td> <td>他者をリードする態度で積極的に活動に取り組み、高いコミュニケーション能力と行動力があった。</td> <td>自主的・協働的に活動に取り組み、コミュニケーション能力や行動力があった。</td> <td>自らの考えでアクションを起すことはあまりないが、必要なコミュニケーション能力や行動力はあった。</td> <td>自らの考えでアクションを起すことは最低限度のコミュニケーション能力や行動力はあった。</td> <td>自らの考えでアクションを起すことができない。最低限度のコミュニケーション能力や行動力もほとんどなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	積極性、社会理解	積極的にアイデアを出し、採用された。他人の発言を聴き、積極的に意見した。	積極的にアイデアを出した。他人の発言を聴き、十分な理解に努めた意見した。	それなりにアイデアを出した。他人の発言を聞き、ある程度意見した。	アイデアを殆ど出せなかった。他人の意見をあまり理解できなかった。	アイデアを出せなかった。他人の意見を殆ど理解できなかった。	課題解決能力と創造性	仕事を的確に発見し、進め方を共有しあいながら適切に検討し、実行できた。	仕事を進んで発見し、進め方を適切に検討し、実行できた。	仕事を発見し、進め方を検討し、ある程度実行できた。	仕事をあまり発見できず、依頼されたことだけ実行できた。	仕事を発見できず、依頼されたことも、ほとんど実行できなかった。	コミュニケーション能力と行動力	他者をリードする態度で積極的に活動に取り組み、高いコミュニケーション能力と行動力があった。	自主的・協働的に活動に取り組み、コミュニケーション能力や行動力があった。	自らの考えでアクションを起すことはあまりないが、必要なコミュニケーション能力や行動力はあった。	自らの考えでアクションを起すことは最低限度のコミュニケーション能力や行動力はあった。	自らの考えでアクションを起すことができない。最低限度のコミュニケーション能力や行動力もほとんどなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
積極性、社会理解	積極的にアイデアを出し、採用された。他人の発言を聴き、積極的に意見した。	積極的にアイデアを出した。他人の発言を聴き、十分な理解に努めた意見した。	それなりにアイデアを出した。他人の発言を聞き、ある程度意見した。	アイデアを殆ど出せなかった。他人の意見をあまり理解できなかった。	アイデアを出せなかった。他人の意見を殆ど理解できなかった。																								
課題解決能力と創造性	仕事を的確に発見し、進め方を共有しあいながら適切に検討し、実行できた。	仕事を進んで発見し、進め方を適切に検討し、実行できた。	仕事を発見し、進め方を検討し、ある程度実行できた。	仕事をあまり発見できず、依頼されたことだけ実行できた。	仕事を発見できず、依頼されたことも、ほとんど実行できなかった。																								
コミュニケーション能力と行動力	他者をリードする態度で積極的に活動に取り組み、高いコミュニケーション能力と行動力があった。	自主的・協働的に活動に取り組み、コミュニケーション能力や行動力があった。	自らの考えでアクションを起すことはあまりないが、必要なコミュニケーション能力や行動力はあった。	自らの考えでアクションを起すことは最低限度のコミュニケーション能力や行動力はあった。	自らの考えでアクションを起すことができない。最低限度のコミュニケーション能力や行動力もほとんどなかった。																								

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明	演習の準備 シラバスの熟読(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
2	Planning1	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
3	Planning2	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
4	Planning3	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
5	Research activities 1	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
6	Research activities 2	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
7	Research activities 3	事前に作業しておくなどの準備をすること(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
8	Creative activities 1	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
9	Creative activities 2	事前に作業しておくなどの準備をすること(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
10	Creative activities 3	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
11	Creative activities 4	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
12	Creative activities 5	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
13	presentation	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
14	presentation	事前に作業しておくなどの準備をすること(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
15	レポート・前期活動のまとめ	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
16	前期活動における総括と振り返り	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が大学で必要となる数学の基礎知識及び2年のゼミナールで行うSPIに必要な知識及び思考過程をしっかりと身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)  
 全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)  
 全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP8に対応する。(2021年度)

到達目標

大学で必要となる数学の基礎知識及び2年のゼミナールで行うSPIに必要な知識及び思考過程を修得できる。

授業全体の内容と概要

数から始まり数の計算及び式の計算等を練習問題を計算することによって、数学の問題を解く実感及びSPIに必要な数学の知識をつかませる。

授業の方法

授業は、板書で実施し、板書にて説明しながら、演習を行う。課題は学生が提出後、解説を行う。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

ゼミナールの内容を十分に理解するために予習・復習を怠らず、また講義や演習に対して積極的に取り組むこと。レポート等の提出方法についてはゼミナール時間中に指示するので、ゼミナールを欠席することのないよう留意すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	30%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
数学及びSPIに必要な基礎知識の修得	数学及びSPIに必要な基礎知識及び計算過程(思考過程)が100%理解できた。	数学及びSPIに必要な基礎知識及び計算過程(思考過程)が90%理解できた。	数学及びSPIに必要な基礎知識及び計算過程(思考過程)が80%理解できた。	数学及びSPIに必要な基礎知識及び計算過程(思考過程)が70%理解できた。	数学及びSPIに必要な基礎知識及び計算過程(思考過程)が70%も理解できなかった。
計算過程において必要な記述内容の修得	演習問題は計算過程を100%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を90%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を80%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を70%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を70%も記述したレポートにならなかった。
思考過程のプレゼンテーション	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。また、質問にも正確に対応した。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	一部筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	筋道の立った思考過程のプレゼンテーションが出来なかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス及びシラバスの説明	シラバスを読んでおくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
2	数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
3	整数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
4	分数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
5	小数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
6	展開(1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
7	展開(2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
8	因数分解(1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
9	因数分解(2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
10	因数分解(3)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
11	平方根(1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
12	平方根(2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
13	複素数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
14	分数式(1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
15	分数式(2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
16	まとめ及び要点のフィードバック	総復習(45分)	総理解(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義及び演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	向井 正伸(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、課題解決法や様々な事例を紹介する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

都市や建築を構想することは、行政や都市計画家、建築家だけの仕事ではない。住民や地域に係る皆が、より良い暮らしを考え実践した積み重ねが都市を形づくる。ゼミでは、より良い未来を提案するための基礎を身につけることを目標とする。ゼミでは都市や建築を空間的な問題として扱う。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)  
 建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)  
 建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP8に対応する。(2021年度)

到達目標

都市や建築の変遷やその社会的背景を理解し、都市や建築について自分なりの意見をもつことができる。

授業全体の内容と概要

前半では都市や建築が時代とともにどのように変化し今に至ったかを学ぶ。特に現代都市や建築の骨格とも言える機能主義に至るまでの過程を学び、都市や建築が抱える課題を理解する。適宜中間テスト又はレポートを実施し、理解度を確認する。後半では主に北広島市及び近隣都市を中心に都市や建築について調査分析を行い、都市空間をアップデートする提案を構想し、表現・発表を行う。  
 SDGs 3.すべての人に健康と福祉を SDGs 11.住み続けられるまちづくりを SDGs 12.つくる責任 つかう責任

授業の方法

前半ではパワーポイントを用いた講義を行う。資料として適宜プリントを配布する。重要だと思われるキーワードは必ずメモし、示された図式等はノートにスケッチすることが望まれる。参考となる書籍・建築等を授業中に適宜紹介する。後半では各自調査分析等を行う。各自のパソコンを使う場合がある。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する可能性がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

能動的な学習姿勢を望む。授業中に引用された建築、書籍に積極的に触れること。20分以上の遅刻は欠席とする。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	40%	20%	10%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理解度	授業内容を越えた自主的な学習を行なった。	授業内容を理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自分なりの意見をもつことができた。	授業内容を理解しなかった。
調査・課題解決能力	独自の視点で調査し、独自の手法で課題を解決することができた。	独自の視点で調査し、独自の手法で課題を解決することができた。	独自で調査し、課題を解決することができた。	アドバイスをもとに、調査・課題を解決することができた。	アドバイスがあっても自発的に課題を解決することができなかった。
表現力	構想したものを、独自性のある手法で表現し、考えを第三者に共感させることができた。	構想したものを、独自性のある手法で表現し、考えを第三者に理解させることができた。	構想したものを、独自の工夫で表現することができた。	構想したものを表現することができた。	構想したものを表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義及び演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	向井 正伸(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 計画設計等の実務経験を活かし、課題解決法や様々な事例を紹介する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを事前に把握する(45分)	紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
2	さまざまな都市・建築空間	参考書籍等を用いて予習する(45分)	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
3	建築都市の歴史1(古代)	参考書籍等を用いて予習する(45分)	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
4	建築都市の歴史2(古代・中世)	参考書籍等を用いて予習する(45分)	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
5	建築都市の歴史3(近世)	参考書籍等を用いて予習する(45分)	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
6	建築都市の歴史4(近代 パリ大改造)	参考書籍等を用いて予習する(45分)	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
7	建築都市の歴史4(近代 田園都市)	参考書籍等を用いて予習する(45分)	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
8	建築都市の歴史5(近代 モダニズム)	参考書籍等を用いて予習する(45分)	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
9	建築都市の歴史6(現代)	参考書籍等を用いて予習する(45分)	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
10	現代のまちを考える	参考書籍等を用いて予習する(45分)	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
11	グループワーク 説明	対象を事前に調べる(45分)	エスキスを反映する(45分)
12	グループワーク 調査	対象を事前に調べる(45分)	エスキスを反映する(45分)
13	グループワーク 作業	対象を事前に調べる(45分)	エスキスを反映する(45分)
14	グループワーク 作業	対象を事前に調べる(45分)	エスキスを反映する(45分)
15	グループワーク 発表	プレゼンテーションをまとめる(45分)	発表を自己評価する(45分)
16	まとめ及び振り返りテストの実施 授業改善アンケートの実施	今までの授業を振り返る(45分)	学習を振り返り、自己評価を行う(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期		授業形態	演習・実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )					
授業担当者(所属・職名)	佐藤 恵利(国際交流センター・センター員)		研究室等所在	本部棟3階 国際交流センター		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 恵利)		CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	基礎ゼミ A			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応。					

概要

履修目標
<p>交流を通じ、日本の時事問題や日本文化、日本の習慣などをトピックに挙げながら日本語の4技能を育成する。トピックを題材に、ディスカッションやグループワークなどの活動をし、自身の専門分野でも自分のことが十分に表現できる能力を身に付ける。大学間、または地域との交流活動に参加、また交流活動を企画、実施し、異文化理解、相互理解を得ること。</p>
授業の位置づけ
<p>経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)</p>
到達目標
<p>日本語での表現力を身に付け、自分の意見を正しい日本語で伝えることができる。他者の意見を聞き、そこから自分の意見を生み出し相手に伝えることができる。多文化との交流を積極的に楽しみ、異国(日本)での生活、大学生活をより豊かなものにする。</p>

到達目標
<p>日本語での表現力を身に付け、自分の意見を正しい日本語で伝えることができる。他者の意見を聞き、そこから自分の意見を生み出し相手に伝えることができる。多文化との交流を積極的に楽しみ、異国(日本)での生活、大学生活をより豊かなものにする。</p>

到達目標
<p>日本語での表現力を身に付け、自分の意見を正しい日本語で伝えることができる。他者の意見を聞き、そこから自分の意見を生み出し相手に伝えることができる。多文化との交流を積極的に楽しみ、異国(日本)での生活、大学生活をより豊かなものにする。</p>

到達目標
<p>日本語での表現力を身に付け、自分の意見を正しい日本語で伝えることができる。他者の意見を聞き、そこから自分の意見を生み出し相手に伝えることができる。多文化との交流を積極的に楽しみ、異国(日本)での生活、大学生活をより豊かなものにする。</p>

到達目標
<p>日本語での表現力を身に付け、自分の意見を正しい日本語で伝えることができる。他者の意見を聞き、そこから自分の意見を生み出し相手に伝えることができる。多文化との交流を積極的に楽しみ、異国(日本)での生活、大学生活をより豊かなものにする。</p>

到達目標
<p>日本語での表現力を身に付け、自分の意見を正しい日本語で伝えることができる。他者の意見を聞き、そこから自分の意見を生み出し相手に伝えることができる。多文化との交流を積極的に楽しみ、異国(日本)での生活、大学生活をより豊かなものにする。</p>

到達目標
<p>日本語での表現力を身に付け、自分の意見を正しい日本語で伝えることができる。他者の意見を聞き、そこから自分の意見を生み出し相手に伝えることができる。多文化との交流を積極的に楽しみ、異国(日本)での生活、大学生活をより豊かなものにする。</p>

<p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
<p>資格指定科目</p>

評価方法・基準

<p>評価前提条件</p> <p>全授業回数16回のうち、単位認定に必要な最低出席回数は13回とする。授業への参加、授業態度、ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。</p>												
<p>評価方法</p> <table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>35%</td> <td>5%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	30%	30%	0%	35%	5%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	30%	30%	0%	35%	5%							

<p>ループリック</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技能</td> <td>自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の間違いがほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。</td> <td>自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法の間違いが目立つ。声の大きさが発音もよかった。</td> <td>自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法、発音に問題があり、聞き取りにくかった。</td> <td>自身で考えているが、他者の協力がなく自分の言葉で表現することができない。文法、発音に問題があった。</td> <td>他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようとする姿勢が見られない。文法、発音に問題があった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・日本語での表現力等</td> <td>毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加している。発言も多かった。</td> <td>毎回の授業に参加し、授業に対し意欲的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱かった。</td> <td>最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいる。積極的に活動に参加していた。</td> <td>最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的であった。</td> <td>最低出席日数分授業に参加してあらず、授業態度も問題があった。</td> </tr> <tr> <td>主体性・多様性・協働性</td> <td>与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった。</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。</td> <td>与えられた課題に真面目に取り組まなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の間違いがほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法の間違いが目立つ。声の大きさが発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法、発音に問題があり、聞き取りにくかった。	自身で考えているが、他者の協力がなく自分の言葉で表現することができない。文法、発音に問題があった。	他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようとする姿勢が見られない。文法、発音に問題があった。	思考力・判断力・日本語での表現力等	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加している。発言も多かった。	毎回の授業に参加し、授業に対し意欲的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱かった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいる。積極的に活動に参加していた。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的であった。	最低出席日数分授業に参加してあらず、授業態度も問題があった。	主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識・技能	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の間違いがほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法の間違いが目立つ。声の大きさが発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法、発音に問題があり、聞き取りにくかった。	自身で考えているが、他者の協力がなく自分の言葉で表現することができない。文法、発音に問題があった。	他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようとする姿勢が見られない。文法、発音に問題があった。																								
思考力・判断力・日本語での表現力等	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加している。発言も多かった。	毎回の授業に参加し、授業に対し意欲的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱かった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいる。積極的に活動に参加していた。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的であった。	最低出席日数分授業に参加してあらず、授業態度も問題があった。																								
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。																								

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習・実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 恵利(国際交流センター・センター員)	研究室等所在	本部棟3階 国際交流センター		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 恵利)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	基礎ゼミ A		

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバス、授業、評価の説明)、自己紹介	シラバスを読む・自己紹介の練習(45分)	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える(45分)
2	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
3	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
4	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
5	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
6	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	授業内容復習(45分)
7	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
8	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
9	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
10	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
11	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
12	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
13	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
14	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
15	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
16	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	千葉 聡美(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 千葉 聡美)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政職員としての経験を活かして教職に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
教員になるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び意欲を身に付ける。

授業の位置づけ
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標
教育制度や内容についてその概要を理解することができる。 教育の諸問題についてその概要を理解することができる。 教員になるために必要な事項についてその概要を理解することができる。 教員として必要な国語力を身に付けることができる。

授業全体の内容と概要
各回の授業テーマについて考える 教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などの通読 教育に関する基本的事項についての調べ学習 教員として求められる一般教養及び教職教養の学修 漢字検定等への参加練習を 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法
教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッションを行う。教育に関するキーワードについての調べ学習及びその発表を行う。 並行して教員として求められる一般教養及び教職教養について演習を行う。テーマの考察や使用テキスト要約など、端的に文章にまとめる練習を行う。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。 サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。 漢字検定取得に真剣に取り組むこと。 各自、ノートを用意すること。(ルースリーフは不可) プリント類はプラットフォームに格納し、毎回授業に持参すること。 ○不測の事態の際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は11回。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	20%	0%	80%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	20%	0%	80%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>知識・技能</td> <td>学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。</td> <td>学修した知識・技能を十分に修得することができた。</td> <td>学修した知識・技能を修得することができた。</td> <td>学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。</td> <td>学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力等</td> <td>与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルにとどまった。</td> <td>与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>主体性・多様性・協働性</td> <td>与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルにとどまった。</td> <td>与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。	思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。	主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。																								
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。																								
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。																								



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	千葉 聡美(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 千葉 聡美)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 学校現場や教育行政職員としての経験を活かして教職に関連する指導を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	※別途購入案内する。a					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	※別途購入案内する。a					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明含む) 自己紹介(教員になるための抱負を含む)	教職志望の理由をまとめること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
2	教員になるために必要なことを考える 自分の出合った先生 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
3	教員になるために必要なことを考える 意見交流 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
4	教員という仕事について考える 体験から考える ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
5	教員という仕事について考える 意見交流 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
6	教員に求められる資質能力について考える 各自の考えのまとめ 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
7	教員に求められる資質能力について考える 意見交流 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
8	子供たちを取り巻く状況を知る 各自の考えのまとめ 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
9	子供たちを取り巻く状況を知る 意見交流 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
10	子どもたちに身に付けさせるべき資質・能力について考える 各自の考えのまとめ 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
11	子どもたちに身に付けさせるべき資質・能力について考える 意見交流 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
12	子どもたちに身に付けさせるべき資質・能力について考える 意見の整理 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
13	学習指導要領について考える 学習指導要領とは何か 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
14	学習指導要領について考える 学習指導要領の歴史 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
15	学習指導要領について考える 現在の学習指導要領 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
16	前期の学修の総括及び反省	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	1年間の学修を振り返り、自己評価を行うこと。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	河田 一郎(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 河田 一郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築・絵画・音楽などウィーン文化を考察し、ウィーンでの研修(希望者のみ)の準備を行う。また、このゼミナールでは就職活動時に必要になるスキルの修得を早い段階から始める。キャンパス・ライブを楽しみながら、自由な発想の展開、自己実現などをテーマに学びを広げる。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

ドイツ語圏への旅行、留学の際に、困らない程度の日常会話を身につける。

授業全体の内容と概要

ウィーンといえば、クラシック音楽である。毎回、クラシック音楽をBGMに、ゆったりとしたペースで授業を行う。ウィーン文化・見どころについてプリントを配布し、説明を行う。各自のテーマが決まった時点で、少しずつテーマについて調べ、ゼミ終了時にレポートを提出してもらう。「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では板書をしながら、ドイツ語の文法・文化を紹介する。ドイツのDVD等も見て講義形式で行う。また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。

不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

ドイツ語検定試験受験希望者には特別講義を行う。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限確認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組みしたが、最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題には積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	河田 一郎(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 河田 一郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	[ガイダンス] 授業の進め方・シラバスの説明。 授業改善アンケート結果反映の説明。	シラバスの内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
2	[ウィーンの文化・生活について]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
3	[シェーンブルン宮殿について]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
4	[美術史美術館について]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
5	[ベルヴェデーレ宮殿について]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
6	[シュテファン寺院について]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
7	[ウィーン大学について]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
8	[楽友協会について]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
9	[ウィーンの音楽について]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
10	[モーツァルトについて]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
11	[ベートーヴェンについて]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
12	[シューベルトについて]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
13	[ウィーンの建築について]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
14	[セセッションについて]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
15	[ユークラントシュティールについて]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
16	[フンデルトバッサーについて] 授業改善アンケートの実施。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。				

概要

履修目標
社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル(問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等)を身に付ける。また、ゼミナールことにキャリア支援教育が組まれており、身に付けたスキルを将来に生かす方法を探求する。
授業の位置づけ
全学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。(2004年度)

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。</li> <li>・ 各自の関心に基づき社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。</li> <li>・ 関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。</li> <li>・ 研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。</li> </ul>

授業全体の内容と概要
それぞれのゼミナール担当教員が学生に提示する「基礎テーマ」に沿った形で進められる。「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・制作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
各担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に務めること。大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。後期の「基礎ゼミナール B」も、この演習の担当教員が継続して担当する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位取得の最低出席条件 10 回以上をクリアすること。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	0%	0%	100%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	0%	0%	100%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ゼミ研究のテーマをが明確になっている。</td> <td>ゼミ研究のテーマが明確になっている。</td> <td>ゼミ研究のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の研究予定を説明できる。</td> <td>ゼミ研究のテーマに沿って着手してきており、研究を開始している。</td> <td>ゼミ研究のテーマが明確になっている。</td> <td>左記の内容が何一つできていない。</td> </tr> <tr> <td>研究テーマに関するディスカッションができる。</td> <td>ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。</td> <td>ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。</td> <td>ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望を報告できる。</td> <td>ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。</td> <td>左記の内容が何一つできていない。</td> </tr> <tr> <td>自分の研究テーマについてのプレゼンテーションができる。</td> <td>自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。</td> <td>自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。</td> <td>自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる。</td> <td>自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。</td> <td>左記の内容が何一つできていない。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	ゼミ研究のテーマをが明確になっている。	ゼミ研究のテーマが明確になっている。	ゼミ研究のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の研究予定を説明できる。	ゼミ研究のテーマに沿って着手してきており、研究を開始している。	ゼミ研究のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。	研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。	自分の研究テーマについてのプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる。	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
ゼミ研究のテーマをが明確になっている。	ゼミ研究のテーマが明確になっている。	ゼミ研究のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の研究予定を説明できる。	ゼミ研究のテーマに沿って着手してきており、研究を開始している。	ゼミ研究のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。																								
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。																								
自分の研究テーマについてのプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる。	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。																								

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『相模原事件・裁判傍聴記「役に立ちたい」と「原告者ヘイト」のあいだ』	雨宮処凛	太田出版	2020	9784778317096	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	担当教員によるガイダンス(シラバスの説明を含む)	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業2	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業3	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業4	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業5	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業6	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業7	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業8	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業9	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業10	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業11	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業12	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業13	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業14	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	担当教員による授業15	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館 8F		
単位数	1 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代社会での大学生生活の意義や「青年期」の意味、そして「自分が何者なのか」を考えていく「アイデンティティ形成」の重要性を、広い視点での「キャリア形成」としてとらえて、理解を目指す。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

学生生活や青年期問題、またアイデンティティ形成について、単に知識を習得するだけでなく、自らの問題としてそれらを考える姿勢をもつ。

授業全体の内容と概要

まず、受講者が何を目標として大学生生活を送ろうとしているのか考えることを促し、学生生活が青年期の一時期、さらに、アイデンティティ形成を求められる中で置かれるものであることを考察する。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は対話形式と板書筆記を併用して行ない、必要な場合には資料を配布する。テーマによっては小文を提出してもらい、概要を発表する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	○	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習		反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自らが考える「主体的・能動的」な姿勢での参加が必要である。  
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針および規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は13回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	学修した知識を確実に修得し、求められる水準を大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できる水準にとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力等	ゼミナール・テーマに積極的に取り組み、求められる水準を大きく超えて考察できていた。	ゼミナール・テーマに積極的に取り組み、求められる水準で考察できていた。	ゼミナール・テーマに取り組み、広く一般的な水準の考察に達していた。	ゼミナール・テーマに取り組みしたが、考察が最低限の水準に留まっていた。	ゼミナール・テーマへの取り組みが不十分で、内容が理解できていなかった。
テーマへの分析力・主体性	ゼミナール・テーマについて、現代社会の中の自己の問題として十分に主体的な分析ができていた。	左記事項について、主体的な分析が概ねできていた。	左記事項について、広く一般的な水準の分析には達していた。	左記事項について分析が最低限の水準に留まっていた。	分析が最低限の水準に届かず、ゼミナール・テーマが理解できていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館 8F		
単位数	1 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	科目ガイダンス ゼミナール内容等シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの事前確認(45分)	ガイダンス内容および履修登録結果確認(45分)
2	・大学生活への導き 1. 大学での学びの留意点	学生便覧の確認(45分)	不明点などの確認(45分)
3	・(続き) 2. 4年間で何をを目指すのか?	自分の目的を明確にする(45分)	目的の再確認(45分)
4	・大学生生活と青年期 1. 青年期とは何だろうか?	児童期・成人期とは異なる青年期のイメージ化(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
5	・(続き) 1. (続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
6	・(続き) 1. (続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
7	・(続き) 1. (続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
8	・(続き) 2. 現代青年期の問題点	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
9	・(続き) 2. (続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
10	・青年期とアイデンティティ形成	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
11	・(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
12	・(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
13	・(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
14	・(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
15	・1年次前期学生生活の振り返り 授業改善アンケートの実施	前期すべての学生生活の振り返り(45分)	振り返り内容の再確認(45分)
16	総まとめ	15回分の内容の振り返り(45分)	総まとめの再確認(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	木村 浩紀(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 木村 浩紀)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教師に求められる能力、使命感や責任感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的な知識、実践的指導力、総合的人間力、コミュニケーション能力、ファシリテーション能力等を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

教育の諸課題についてその概要を理解することができる。  
教師に必要な知識・技能等について、理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

教育の諸課題について、各回のテーマごとに考える。  
教育にかかわる法令、答申などの通読  
教育に関する諸課題についての調べ学習  
教師に求められる教職教育等の学修  
「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

教育にかかわる法令、答申などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッション等を行う。  
教育課題に関するキーワードについての調べ学習及びその発表を行う。  
教師に求められる教職教育等について演習を行う。  
課題や発表等に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。  
板書や教材提示装置を活用する。  
Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。  
サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。  
各自、ノートを用意すること。(ルーズリーフは不可)  
プリント類はフラットファイルに格納し、毎回授業に持参すること。  
オンライン授業やハイブリッド授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、1回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	20%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
課題に取り組む意欲・態度	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	木村 浩紀(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 木村 浩紀)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『別途案内する』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明含む) 自己紹介 教育の諸課題について	教育の諸問題についてまとめること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
2	教育の諸課題について考える 個人の考えのまとめ ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
3	教育の諸課題について考える 意見交換 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
4	教育の諸課題について考える 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
5	教育の諸課題の解決策を考える 1 ・教師の仕事について考える 個人の考えのまとめ	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
6	教育の諸問題の解決策を考える 2 ・教師の仕事について考える 意見交換	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
7	教育の諸課題の解決策を考える 3 ・教師の仕事について考える 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
8	教育の諸課題の解決策を考える 1 ・特別な教育的支援を必要とする生徒について (通常の学級・通級指導教室)	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
9	教育の諸課題の解決策を考える 2 ・特別な教育的支援を必要とする生徒について (通常の学級・通級指導教室)	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
10	教育の諸課題の解決策を考える 3 ・特別な教育的支援を必要とする生徒について (特別支援学校)	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
11	教育の諸課題の解決策を考える 4 ・特別な教育的支援を必要とする生徒について (特別支援学校)	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
12	教育の諸課題の解決策を考える 5 ・特別な教育的支援を必要とする生徒について (通常の学級・通級指導教室、特別支援学校)	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
13	教育の諸課題の解決策を考える 1 ・不登校について 個人の考えのまとめ	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
14	教育の諸課題の解決策を考える 2 ・不登校について意見交換 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
15	教育の諸課題の解決策を考える 3 ・不登校について 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
16	前期の学修の総括及び反省 授業改善アンケートの実施	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	前期の学修を振り返り、自己評価を行うこと。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

- ・ただの趣味ではなく、学問の一つとしてeスポーツを捉えることができるようになる。
- ・適切なコミュニケーションを取ることができるようになる。
- ・視野(選択肢)を広く持つことができるようになる。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

- ・大学という環境に早く慣れる
- ・eスポーツとは何なのかを知る

授業全体の内容と概要

- ・履修登録や授業、Microsoft関係等新しく扱うものについて学ぶ。
- ・日本、全世界でプレイされているeスポーツタイトルについて学ぶ。
- ・eスポーツプレイヤーを取り囲む環境について知り、それを体感する。
- ・プレゼンテーションを行い、自分の考えをアウトプットする場を設ける。

授業の方法

- ・不測の事態が無い限り対面にて行う。
- ・Microsoft Teamsにて課題提示、提出を求める。
- ・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・欠席は認めない。体調不良等の場合は、必ず事前に連絡をすること。
- ・課題の提出は必ず期限内に行う。遅れた場合は、単位取得を認めない。
- ・遊びではなく学習の場であることを理解する。
- ・自身のPC(できればデスクトップPC)を持っていることが望ましい。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	50%	50%	%	%	%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
eスポーツについての理解	eスポーツについて何を聞かれても説明をすることが出来る。	eスポーツとは何なのかを理解している。	自分の興味がある分野のeスポーツについて理解している。	eスポーツをプレイすることが出来る。	eスポーツについて理解していない。
自身のアウトプット	レポートやプレゼンテーションを作成し、自分の考えを相手に正しく伝えることが出来る。	誰かに手伝ってもらったことでも、自分の考えを相手に伝えることが出来る。	資料の作成は出来ないが、自分の考えを相手に話せる。	自分の考えを相手に正しく伝えることが出来ない。	全く自分を表現することが出来ない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	・オリエンテーション ・大学生活について知る	シラバスを読む(45分)	履修登録を行う(45分)
2	・レクリエーションを通してゼミ内で仲間、自分の居場所を作る	学生便覧を読み込む(45分)	メモやノートを整理する(45分)
3	・勉強の仕方を知る ・課題の取り組み方について知る	学生便覧を読み込む(45分)	メモやノートを整理する(45分)
4	・グループワークについて知る ・プレゼンテーションについて知る	学生便覧を読み込む(45分)	メモやノートを整理する(45分)
5	・eスポーツの基礎知識を学ぶ ・チームを作る	eスポーツについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
6	・eスポーツの実践 (VALORANT)	チームで作戦を考え、練習する(45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出(45分)
7	・eスポーツの実践 (VALORANT) ・発表資料の作成	チームで作戦を考え、練習する(45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出(45分)
8	・eスポーツの実践 (VALORANT) ・発表資料の作成	チームで作戦を考え、練習する(45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出(45分)
9	・eスポーツの実践 (VALORANT) ・発表資料の作成	チームで作戦を考え、練習する(45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出(45分)
10	・中間発表	発表準備(45分)	批評を受けた部分を修正する(45分)
11	・eスポーツの実践 (VALORANT) ・発表資料の作成・修正	チームで作戦を考え、練習する(45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出(45分)
12	・eスポーツの実践 (VALORANT) ・発表資料の作成・修正	チームで作戦を考え、練習する(45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出(45分)
13	・eスポーツの実践 (VALORANT) ・発表資料の作成・発表練習	チームで作戦を考え、練習する(45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出(45分)
14	・eスポーツの実践 (VALORANT) ・発表資料の作成・発表練習	チームで作戦を考え、練習する(45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出(45分)
15	・eスポーツの実践 (VALORANT) ・発表資料の作成・発表練習	チームで作戦を考え、練習する(45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出(45分)
16	・最終発表	発表準備(45分)	批評を受けた部分を復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )					
授業担当者(所属・職名)	佐藤 雅一(経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 雅一)		CAP制	全学科・3年		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

みずからの価値観、教育観、教育の方法論、思考力、創造力、リーダーシップ等を身につけることができる。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

具体例(ビデオ、資料等)やディスカッション等を通じて、みずからの価値観や人生観、そして道徳観を確立するとともに、道徳教育の理想像とその方法論を形成する。  
みずからの考えを明確に表現する能力やコミュニケーション能力を身につける。  
現代社会が抱える問題点やその価値観をしっかりと把握する。  
過去の歴史を踏まえつつ、これからの時代に必要な価値観や教育の全体像を構築する。

授業全体の内容と概要

脳科学や精神医学、臨床心理学等の最新成果を踏まえ、みずからの価値観や人生観を形成し、これからの時代に必要教育とその方法論を模索する。  
「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

講義。対話や個人発表、ディベート、構成的グループエンカウンターなどによるアクティブラーニング。適宜、平常点を付与する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

講義中はスマホ等の電源を必ずOFFにし、机の上に置かないこと。置いている場合は、講義終了まで預かる。授業に関係のない私語禁止。座席を指定することもあり。遅刻は一回につき一点減点。居残り厳禁。レポートの採点基準は、「どれだけ講義の内容を理解し、自分のものになっているか」ということ。自分自身との対話を通し、自分のことばで語る事が重要。講義で扱っていない内容や自分の考えばかりを書いても合格点に達することはできない。コピーは100%単位認定されない。最後に、全体的感想や自分の意見をつけ加えよう。レポートは、原稿用紙換算5枚以上(2千字以上)、文字数を明記する。書式は問わない。公欠や特別な事由で欠席した場合、課題を提出しなければ、授業回数に反映されないことに留意。最終レポートの提出期限は、第13回の講義当日。一日遅れるごとに1点減点となる。学務課に成績票を提出した後は受領できない。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(中学)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、12回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	0%	70%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
前に踏み出す力	一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができる。目的を持って行動することができた。	一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができる。	一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができた。	一定の行動について主体的に取り組みることができた。	ほぼ全ての行動について主体的に取り組みすることができなかった。
考え抜く力	課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考案することができた。その解決策が効果的で新たな価値を創造することができた。	課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考案することができた。	課題を発見し、解決策を見出すことができた。	課題を発見することができた。	課題を発見することができなかった。
チームで働く力	他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して意見集約ができ、反対意見に対しても柔軟に対応することができた。	他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して、意見集約することができた。	他の学生の意見をしっかりと傾聴することができた。	他の学生の意見を最低限傾聴することができた。	他の学生の意見を傾聴することができなかった。
成果物の完成度と関与(学習意欲)	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として十分に関与し、完成させることができた。	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として十分に関与し、完成させることができた。	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として十分に関与し、完成させることができた。	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として最低限関与し、完成させることができた。	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として関与せず、完成させることができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 雅一(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 雅一)	CAP制	全学科・3年		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	【オリエンテーション】 シラバスの説明等	シラバスを確認する(45分)	履修登録結果を確認する(45分)
2	【ビギナーズセミナー】 大学生としての心構え、大学における単位制と学修の考え方について説明する。	学生便覧を読む(45分)	グループディスカッションの反省点を整理する(45分)
3	【ビギナーズセミナー】 大学生としての心構え、大学における単位制と学修の考え方について説明する。	学生便覧を読む(45分)	不明な点をまとめ、調べる(45分)
4	【コンセンサスゲーム・ディスカッション基礎】 グループディスカッションへの取り組み方について解説する。	グループディスカッションのコツについて調べる(45分)	授業内容をまとめる(45分)
5	【コンセンサスゲーム・演習課題】 グループディスカッションの練習を行う。	第4回講義の復習と第5回講義の予習(90分)	第5回講義の復習(90分)
6	【コンセンサスゲーム・演習課題】 グループディスカッションの練習を行う。	前回のグループディスカッションの反省点を確認する(45分)	グループディスカッションの反省点を整理する(45分)
7	【コンセンサスゲーム・プレゼンテーション基礎】 プレゼンテーションの目的や構成などについて解説する。	プレゼンテーションのコツについて調べる(45分)	授業内容をまとめる(45分)
8	【コンセンサスゲーム・事例研究】 提示された企業活動の事例について、グループごとに調査・分析を行い、プレゼンテーションを行う。	前回の授業内容を確認する(45分)	グループディスカッションの反省点を整理する(45分)
9	【コンセンサスゲーム・事例研究】 提示された企業活動の事例について、グループごとに調査・分析を行い、プレゼンテーションを行う。	前回のプレゼンテーションの反省点を確認する(45分)	グループディスカッションの反省点を整理する(45分)
10	【総合演習】 提示された内容について、グループごとに取り組み。	これまでの授業内容を確認する(45分)	グループディスカッションの反省点を整理する(45分)
11	【総合演習】 提示された内容について、グループごとに取り組み。	前回までの授業内容を確認する(45分)	グループディスカッションの反省点を整理する(45分)
12	【総合演習】 提示された内容について、グループごとに取り組み。	前回までの授業内容を確認する(45分)	グループディスカッションの反省点を整理する(45分)
13	【総合演習】 提示された内容について、グループごとに取り組み。	前回までの授業内容を確認する(45分)	グループディスカッションの反省点を整理する(45分)
14	【総合演習】 提示された内容について、グループごとに取り組み。	前回までの授業内容を確認する(45分)	グループディスカッションの反省点を整理する(45分)
15	【総合演習(成果発表会)】 提示された内容について、グループごとに取り組み、発表を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	フィードバックの内容を整理する(45分)
16	【まとめ・総評】	前回までの授業内容を確認する(45分)	フィードバックの内容を整理する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	塩崎 大輔(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

地域調査を通して地域への理解を深め、その中で多面的・多角的な視点を養い、地域分析や地域課題解決のための基礎的な能力を養う。

授業の位置づけ
---------

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標
------

フィールドワークの基礎を習得する。  
調査結果をレポートにまとめる能力の基礎を習得する。

授業全体の内容と概要
------------

本授業は北広島市や北海道におけるフィールドワークを通して、地域に対する理解度を高め、地域課題の発見や課題解決のための基礎的な能力を育成することを目標とする。またそうして得られた調査結果や課題をレポートにまとめ表現する能力を育成する。  
\*SDG11「住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法
-------

基本的には徒歩または公共交通機関を利用した、フィールドワークを中心に行う。  
フィールドワークで得た結果をまとめ、発表する。  
資料やレポート等のやり取りはTeamsを活用する。  
地理院地図などの地理情報システム(GIS)を活用する。

アクティブラーニングの実施方法
-----------------

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク	<input type="radio"/>	PBL
<input type="radio"/>	模擬授業	<input type="radio"/>	ロールプレイ	<input type="radio"/>	調査学習	<input type="radio"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="radio"/>	実験・実習・実技	<input type="radio"/>	双方向授業	<input type="radio"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
----------

出席について  
毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合には、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。

フィールドワークについて  
フィールドワークの性質上、土曜等に授業を実施する場合がある。  
フィールドワーク中に発生する交通費等は自己負担とする。  
フィールドワーク中は必ず教員の指示に従うこと。

その他  
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
---------------

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
--------

評価方法・基準

評価前提条件
--------

単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上。

評価方法
------

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック
--------

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
地域調査法の基礎	レポート課題において、9割以上の得点を上げた。	レポート課題において、8割以上の得点を上げた。	レポート課題において、7割以上の得点を上げた。	レポート課題において、6割以上の得点を上げた。	レポート課題において、6割未満の得点であった。
フィールドワークの基礎	フィールドワークを通して、高いレベルで情報を収集し活用することができた。	フィールドワークを通して、情報を収集し活用することができた。	フィールドワークを通して、情報を収集することができた。	フィールドワークをすることができた。	フィールドワークをすることができなかった。
空間的な見方	地域調査において、高いレベルで地図やその他の空間情報を活用することができた。	地域調査において、地図やその他の空間情報を活用することができた。	地域調査において、地図を活用することができた。	地図を活用することができた。	地図を活用することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	塩崎 大輔(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業の内容・進め方・評価の仕方 ガイダンス	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
2	地域調査法	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
3	地域調査法	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
4	地域調査法	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
5	フィールドワーク	フィールドワークの準備をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
6	フィールドワーク	フィールドワークの準備をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
7	フィールドワーク	レポート課題等を作成すること。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
8	フィールドワーク	フィールドワークの準備をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
9	フィールドワーク	フィールドワークの準備をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
10	フィールドワーク	フィールドワークの準備をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
11	調査結果まとめ	フィールドワークのまとめをしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
12	調査結果まとめ	フィールドワークのまとめをしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
13	調査結果発表	発表準備をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
14	調査結果発表	発表準備をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
15	レポート作成	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
16	まとめ、課題(レポートなど)の解説 授業改善アンケートの実施	レポート課題等を作成すること。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	イラスト漫画概論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	マンガミュージアムでの勤務や、公的なメディア芸術関連事業に関わった経験をもとに、イラストやマンガに関わる表現や文化について講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
<p>社会や文化におけるイラスト・マンガ表現の意義や歴史 これまで問われてきたことを学び、知識や多様な視点を身に付ける。 イラストやマンガをめぐる様々な現象や象徴、歴史を学ぶことを通して、私たちがそれらの文化とどのように関わっているかを考え、当たり前だと思っていた文化を捉えなおし、語文化や社会について多様な視点から考える力を養う。</p>

授業の位置づけ
<p>デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。(2024年度) デザイン学科のDP 1、DP 2、DP 4に対応する。(2023年度)</p>

到達目標
<p>現代社会におけるメディアとしてのマンガやアニメに関わる知識を身に付け理解する。 芸術・文化についての興味や関心、批判的思考を養う。 自分の考えを根拠づけ明確に他者に表現する力を身につける。</p>

授業全体の内容と概要
<p>これまでイラストやマンガ表現に関して問われてきたさまざまなトピックを考えることを通じて、作品とその社会的位置づけについて多様な視点から考える力を養い、自身の制作に生かす。</p>

授業の方法
<p>講義形式で、パワーポイントやレジュメ、視聴覚メディア等を使って実施する。授業内のトピックについてグループワークやディスカッションも取り入れる。 授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。</p>

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td>○</td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	P B L	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業	○	ディスカッション	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	P B L															
模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業															
○	ディスカッション	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
<p>事前学習として、授業内で取り上げるテーマについて事前に書籍やインターネット等で予習し、事後学習として取り上げたテーマを掘り下げて調べると、より理解が深まる。 授業内で提示するマンガ作品について可能な限り事前に読むか、授業で取り上げた後に読むと理解度が高まる。</p>

修学サポート(合理的配慮)
<p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
<p>単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。</p>												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	40%	20%	0%	40%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	40%	20%	0%	40%	0%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業内容の理解</td> <td>授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。</td> <td>授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。</td> <td>授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。</td> <td>授業で得た用語や概念が理解できた。</td> <td>授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。</td> </tr> <tr> <td>批判的思考力・視点の多様性</td> <td>対象に対する、さらに自分なりの新しい視点や考えを生み出すことができた。</td> <td>授業で取り上げた内容を超えて、作品に対して多様な視点から考えることができた。</td> <td>授業で取り上げた内容に基づき、多様な視点から作品を考察することができた。</td> <td>授業で取り上げた内容に基づき、作品に対する多様な視点があることを理解できた。</td> <td>当初の意見から意見を広げたり視点を多様化させることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>論理・文章表現力</td> <td>自身の観点から、深い洞察をもって論考を書くことができた。</td> <td>自身の観点から、十分に考えられた内容の論考を書くことができた。</td> <td>自身の観点はまだ不十分だが、十分に考えられた内容の論考を書くことができた。</td> <td>課題に応じた内容・形式の論考を書くことができた。</td> <td>課題に応じた内容・形式の論考を書くことができなかった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。	批判的思考力・視点の多様性	対象に対する、さらに自分なりの新しい視点や考えを生み出すことができた。	授業で取り上げた内容を超えて、作品に対して多様な視点から考えることができた。	授業で取り上げた内容に基づき、多様な視点から作品を考察することができた。	授業で取り上げた内容に基づき、作品に対する多様な視点があることを理解できた。	当初の意見から意見を広げたり視点を多様化させることができなかった。	論理・文章表現力	自身の観点から、深い洞察をもって論考を書くことができた。	自身の観点から、十分に考えられた内容の論考を書くことができた。	自身の観点はまだ不十分だが、十分に考えられた内容の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができなかった。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。																																				
批判的思考力・視点の多様性	対象に対する、さらに自分なりの新しい視点や考えを生み出すことができた。	授業で取り上げた内容を超えて、作品に対して多様な視点から考えることができた。	授業で取り上げた内容に基づき、多様な視点から作品を考察することができた。	授業で取り上げた内容に基づき、作品に対する多様な視点があることを理解できた。	当初の意見から意見を広げたり視点を多様化させることができなかった。																																				
論理・文章表現力	自身の観点から、深い洞察をもって論考を書くことができた。	自身の観点から、十分に考えられた内容の論考を書くことができた。	自身の観点はまだ不十分だが、十分に考えられた内容の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができなかった。																																				



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	イラスト漫画概論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	マンガミュージアムでの勤務や、公的なメディア芸術関連事業に関わった経験をもとに、イラストやマンガに関わる表現や文化について講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『日本イラストレーション史』	美術手帖編集部	美術出版社	2010	978-4568430691	
2	『女性マンガ研究 欧米・日本・アジアをつなぐ MANGA』	大城房美編	青弓社	2015	978-4787233868	
3	『マンガ文化 55のキーワード』	竹内オサム、西原麻里編	ミネルヴァ書房	2016	978-4623075409	
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 授業のオリエンテーション 表現・メディア文化として捉えるイラスト・マンガ	シラバスを読んでおく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
2	文化としてのマンガ・イラスト(1)グローバル化する日本の「キャラ」文化	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
3	文化としてのマンガ・イラスト(2)複製芸術としてのイラスト・マンガ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
4	性別文化としてのマンガ(1)「少女」という言説 少女雑誌	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
5	日本の雑誌文化性別文化としてのマンガ(2)少女マンガの革新性 竹宮惠子『風と木の詩』(1976)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
6	イラスト表現の位置づけ(1)世界のポスター文化から見たイラスト文化	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
7	イラスト表現の位置づけ(2)日本のイラストレーション史	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
8	AI時代のイラスト・マンガを考える	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
9	震災とマンガ(1)「少女マンガ」と現実の社会問題 ももち贈子『デイズ』(2012)、教屋望都『なのは』	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
10	震災とマンガ(2)他メディアとの比較 しりあがり寿『あの日からのマンガ』(2011)、竜田一人『いちえふ』(2014)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
11	新型コロナとマンガ/感染症とマンガ 朱戸アオ『リウーを待ちながら』(2017)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
12	マンガとミュージアム(1)マンガミュージアムとは何か?	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
13	マンガとミュージアム(2)マンガミュージアムの役割	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
14	マンガとミュージアム(3)マンガ・アーカイブの意義 海外のマンガ展 北海道マンガミュージアム構想	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
15	まとめ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
16	期末レポートの解説 授業改善アンケート実施	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	これまでの授業内容を復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	芸術へのアプローチ (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	アトリエ棟2F		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

アート思考の特性を理解し、活用する素地を備えている

授業の位置づけ

全学科のDP 2に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

アート思考の特性を理解している

授業全体の内容と概要

芸術へのアプローチとして、「アート思考」と呼ばれる芸術家の創造的な思考法やものの見方・捉え方を、画像や映像を多く使いながら紹介していく。また、現代アートを中心とした芸術作品の鑑賞法も紹介する。様々な作品や思考法から新たな視点や感覚を感じ取る力を養うことを目指す。ビジネスイノベーションから、人生をより豊かにするためのヒントまで、芸術(特に現代アート)をキーワードに考える教養講座である。

授業の方法

パワーポイント等を用いて作品画像や映像を多く取り入れた講義形式で行う。学生は各自スケッチブックを1冊準備し、そこに講義で得た知識や感覚を『描く』事、また授業内ではディスカッションの場を設けるので、積極的な発言をすることが望ましい。最終的には、講義で紹介した「アート思考」に関する事や、作品に対する独自の批評をまとめ、レポートとして提出する事。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

各自スケッチブック(又は自由帳)を1冊(大きさは任意)必ず用意する事。  
11回以上出席をしないと評価の対象としない。  
第16回目の講義までにレポートを提出しない場合は評価の対象としない。  
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

毎回提出するスケッチブックによる点数(課題点30点+平常点30点の計60点)、最終課題であるレポート(40点)の計100点で評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	30%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
アート思考の特性を理解している(知識・理解)	アート思考の特性を理解し、なぜ現代社会の中で必要なのか、またデザイン思考や論理的思考との違いを説明する事ができる。	アート思考の特性を理解し、なぜ現代社会の中で必要なのか説明する事ができる	アート思考の特性を理解している	アート思考の特性を概ね理解している	アート思考の特性を理解していない
アート思考の活用(思考力・表現力・判断力等)	様々な視点からアート作品を批判的に考察し、作家の思考法を参考に自らも思考する事ができる	様々な視点からアート作品を考察し、作家の思考法を参考に思考する事ができる	自分なりにアート作品を楽しみ、それを伝える事が出来る	自分なりにアート作品を味わう事が出来る	アート作品を鑑賞する事が出来ない
アートへの関心と探求(主体的に学びに向かう力)	講義内で取り上げた作家だけでなく、様々な作品や作家に興味・関心を持ち、実際に展覧会等へ鑑賞しに行っている	講義内で取り上げたアート作品だけでなく、作品や作家に関心を持ち、書籍等でさらに探求をしている	講義内で取り上げたアート作品や作家に興味・関心を持ち、理解しようと努力している	講義内で取り上げたアート作品や作家を味わった。	アート作品や作家に関心がない

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	芸術へのアプローチ (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	アトリエ棟2F		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション (講座の概要・シラバス説明) 授業改善アンケートの意義と目的について	シラバスをよく読んでおく事	レポート作成準備(90分)
2	アートの分類と定義	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと(90分)	レポート作成準備(90分)
3	現代アート 概観	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと(90分)	レポート作成準備(90分)
4	アート思考	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと(90分)	レポート作成準備(90分)
5	制作による研究	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと(90分)	レポート作成準備(90分)
6	素材	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと(90分)	レポート作成準備(90分)
7	概念	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと(90分)	レポート作成準備(90分)
8	表現	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと(90分)	レポート作成準備(90分)
9	物語	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと(90分)	レポート作成準備(90分)
10	空間	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと(90分)	レポート作成準備(90分)
11	社会への介入	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと(90分)	レポート作成準備(90分)
12	実践紹介1 アート実践と国際協力	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと(90分)	レポート作成準備(90分)
13	実践紹介2 アート実践と地域創生	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと(90分)	レポート作成準備(90分)
14	アーティスト取り扱い説明書	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと(90分)	レポート作成準備(90分)
15	芸術産業創出へ向けて	レポート作成(90分)	レポート作成(90分)
16	レポートまとめ・講評 授業改善アンケートの結果を今後の授業に反映させる	レポート作成(90分)	

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門 (M) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	石田 暁子(非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 石田 暁子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標
------

英文法の基本を身に付けし、ビジネスでも使われるものを含め、理解できる語彙を増やす。音声変化に慣れることにより、リスニングの能力をつける。

授業の位置づけ

全学科のDP 2 に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

今後の英語学習の土台となるよう、語彙、文法、発音面での英語の基本を身につける。

授業全体の内容と概要

各ユニットはリーディング、文法、リスニングの3つのセクションで構成されている。ビジネスに関する内容を取り上げているため、「ビジネス英語」への橋渡しにもなっている。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で、重要事項は板書によって注意を促し、じっくりと確実に反復学習を進める。発音練習にも力を入れる。各自の理解度を知るため、授業では毎回できるだけ多くの学生を指名し、解答を聞く。テキストのリーディングパートについては、必ず予習で翻訳しておくことを課題とする。学生は授業で自分の訳に間違いがないかどうかを確認し、最後にまとめたものを教員が最終チェックして返却する。これも評価の対象となる。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教科書を必ず用意し、予習をしておくこと。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	30%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容(語彙・文法・音声変化等)の理解度	授業の範囲を超え、関連事項への興味があった。また、自分から発信する意欲が見られる。	授業内容をほぼ理解している。	基本的な語彙や文法事項の理解はできているが、長文の理解にやや不安がある。音声変化を理解し、発音できる。	基本的な事項のみ理解できている。音声変化については、注意をすることで訂正できる。	基本的な事項が身についていない。
練習問題や発音練習の参加度	積極的に参加し、授業の進行に貢献していた。	説明をよく聞き、発音練習や練習問題にも真剣に取り組んだ。ミスを指摘された際、自分で訂正することができ、意欲が認められた。	発音練習や練習問題に真剣に取り組んだ。	自分の力で問題を解くことをあきらめてしまっていたが、解答を聞いた後に理解しようとする努力がみられた。	授業中の活動に集中できなかった。
課題(英文翻訳)への取り組み	予め語や語句の意味を調べ、場面にふさわしい英文の訳ができる。疑問点を自覚した上で授業に臨み、解決することができた。	予習にきめ細かさはないが、ほぼ満足な訳ができた。	毎回予習をせず、復習によって挽回を図ることもあった。	復習だけのことが多く、課題は提出したが、期限を守ることができなかった。	課題を提出しなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門 (M) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	石田 暁子(非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 石田 暁子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『Good Choice!新入社員ショウタと学ぶ大学基礎英語』	津村 修志 他	金星堂	2017	9784764740372	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『英和辞典』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 be 動詞の変化・役割	テキストp.9-12 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
2	つながる音	テキストp.13-14 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
3	be 動詞 否定・疑問文	テキストp.15-18 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
4	聞こえなくなる[t]の音	テキストp.19-20 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
5	一般動詞現在形	テキストp.21-24 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
6	聞こえなくなる[k]の音	テキストp.25-26 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
7	一般動詞 否定・疑問文	テキストp.27-30 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
8	聞こえなくなる[d]の音	テキストp.31-32 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
9	3人称単数現在	テキストp.33-36 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
10	つながる音	テキストp.37-38 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
11	3人称単数現在 否定・疑問文	テキストp.39-42 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
12	[sh]や[s]の音	テキストp.43-44 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
13	代名詞	テキストp.45-48 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
14	主語+be動詞の短縮形の音	テキストp.49-50 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
15	総復習・要点整理	期末試験準備 (90分)	期末試験準備 (90分)
16	授業改善アンケートの実施 期末試験(60分)・解説(30分)	期末試験準備 (90分)	期末試験内容復習 (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門 (S) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

学生が英文法、読解、作文、会話の基礎的な知識と運用方法を身に付ける。合わせて、平易な英文の読解と作文の能力を身に付ける。なお、この科目はグローバル化に対応するための一助として「外国語」を学ぶための科目である。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP2に対応する。(2023年度)

到達目標

受講者において、英文法、読解、作文、会話の基礎的な知識と運用能力の習得ができていないこと。特に、基礎的な英文法の知識が身に付いていないこと、基礎的な英文の読解力が身に付いていないこと。

授業全体の内容と概要

毎回、基礎的な英文法、読解、作文、会話の練習問題を解いてもらう。合わせて、適宜、必要最小限の補足説明を行なう。授業の最後にその回の内容についてのまとめと質問への回答(フィードバック)を行う。

授業の方法

毎回、所定のテキストに沿って、1)その回の説明を行ない、2)英文法、読解、作文、会話の練習問題を解いてもらい、3)その後解答と説明を行なう。必要に応じて、補足教材(コピー)を配布、使用する。解答と説明は、適宜、口頭と板書、パワーポイントを使って行う。授業の最後にまとめと質問の時間(フィードバック)を設ける。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

欠席と遅刻をしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録音・録画を認める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
英文法の基礎的事項の理解	テキストの説明が完全に理解されており、テキストの問題がほぼ完全に解けた。	テキストの説明がほぼ理解されており、テキストの問題がほぼ解けた。	テキストの説明の主要な部分が理解されており、テキストの問題が大体解けた。	英文法の初歩がほぼ理解されており、テキストの問題の基本的な部分が解けた。	英文法の初歩が理解されておらず、テキストの問題が全く解けなかった。
英文読解・作文の理解	テキストの英文が完全に読解でき、基本的な英文がしっかり書けた。	テキストの英文がほぼ読解でき、基本的な英文が大体書けた。	テキストの英文が大体読解でき、簡単な英文が書けた。	テキストの英文の主要な部分が理解でき、単純な英文が書けた。	テキストの英文が全く理解できず、単純な英文が書けなかった。
英会話の能力	テキストの英会話文が完全に理解でき、応用的な展開がしっかりできた。	テキストの英会話文がほぼ理解でき、応用ができた。	テキストの英会話文が大体理解でき、若干応用ができた。	テキストの英会話文の主要な部分が理解できた。	テキストの英会話文が全く理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門 (S) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	"English! Once More!"	Y.Aiko、他	朝日出版社	2018	978-4-255-15547-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜指示。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、ガイダンス。	シラバスを読む。(90分)	Unit1の予習(90分)
2	Unit1: be動詞の使い方(1)	Unit1の予習(90分)	Unit1の復習(90分)
3	Unit1: be動詞の使い方(2)	Unit1の予習(90分)	Unit1の復習(90分)
4	Unit2: 一般動詞現在形の使い方(1)	Unit2の予習(90分)	Unit2の復習(90分)
5	Unit2: 一般動詞現在形の使い方(2)	Unit2の予習(90分)	Unit2の復習(90分)
6	Unit3: 過去形の使い方(1)	Unit3の予習(90分)	Unit3の復習(90分)
7	Unit3: 過去形の使い方(2)	Unit3の予習(90分)	Unit3の復習(90分)
8	Unit4: 現在進行形の使い方(1)	Unit4の予習(90分)	Unit4の復習(90分)
9	Unit4: 現在進行形の使い方(2)	Unit4の予習(90分)	Unit4の復習(90分)
10	Unit5: 未来形の使い方(1)	Unit5の予習(90分)	Unit5の復習(90分)
11	Unit5: 未来形の使い方(2)	Unit5の予習(90分)	Unit5の復習(90分)
12	Unit6: 助動詞の使い方(1)	Unit6の予習(90分)	Unit6の復習(90分)
13	Unit6: 助動詞の使い方(2)	Unit6の予習(90分)	Unit6の復習(90分)
14	Unit6: 助動詞の使い方(3)	Unit6の予習(90分)	Unit6の復習(90分)
15	既習事項のまとめ	Unit1から6を通読する。(90分)	Unit1から6を通読する。(90分)
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。	Unit1から6を通読する。(90分)	Unit1から6を通読する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年、建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	英語入門 (D・A) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
グローバル化に対応し、多様な人と協働するための表現力やコミュニケーション力を学ぶ。講義と演習(ペアワークとグループワーク)を通じて英語コミュニケーションを学ぶ。将来のキャリアと継続教育に役立つ語彙や表現を修得し英語コミュニケーション能力の向上につなげる。

授業の位置づけ
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度) デザイン・建築学科のDP(2)に対応する。(2023・22年度) デザイン・建築学科のDP2、DP3、DP8に対応する。(2021年度)

到達目標
英会話の自信を裏付けるためのスピーキング、リスニング能力のスキルアップを目的とする。相手と快適にコミュニケーションを取るための応答やリアクション等、コミュニケーションの技法も修得する。ペアワークを通して、パターンプラクティス等により定型表現を習得し、相手とのコミュニケーションを円滑にするようになる。

授業全体の内容と概要
リーディングや様々なアクティビティを中心に、既存の英語知識を活用させ、スピーキングのスキルを身につけることにフォーカスする。最低限必要な語彙力や文法力を身につけながら、テキスト中のクリティカルシンキングを学び、様々なコミュニケーションの構造を理解し、表現する。

授業の方法
授業では英語によるコミュニケーションへ接続するための運用能力を身に付けることを目的とする。テキストの練習問題を解き、疑問点などは個々に対応、或いはクラス全体への解答を解説し学生へのフィードバックを行う。授業中の発表、ペアワーク、ロールプレイでの活動を取り入れ、コミュニケーション能力向上のために、積極的かつ協力的に行う。テキストの音声ファイルを無料でダウンロードし自習用音声として活用する。NAU'UN-DO(htt p://nanun-do.com)提供

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	PBL
模範授業	○	ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
15分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻2回で欠席1回とします。授業には必ずテキスト、辞書を持参すること。テキストを忘れ、授業前に申し出ない場合は欠席扱いとする。授業計画に基づき、事前に各回の授業範囲のリスニングと意味調べをしておくこと。授業を休んだ場合は、次の授業までに、休んだ回の授業内容を担当教員又はクラスメートに確認し、課題など必要な情報を入手してください。不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定の必要となる最低出席回数は10回以上とする。授業の参加姿勢も評価の対象になります。授業活動に積極的に参加することで、授業外での学習成果を実感できます。予習と復習は授業の内容を理解し、学習効果を上げるために必要です。積極的に授業に参加するようにしてください。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	10%	0%	40%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業の理解度	授業内容を超えた学修が認められる	授業内容を十分に理解している	授業内容を理解している	授業内容の理解に不足がある	授業内容を理解していない
英語表現能力(スピーキング)	優れた創造的表現を行うことができる	文献等を参考としながら、創造的表現を行うことができる	自在に定型的表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができない
授業の積極的参加	授業全体の流れを理解し、疑問・問題提起により授業展開に貢献する	授業全体の流れを理解し、発問に対して積極的に応じる	発問に対して、指名されれば正しく応じることができる	授業に集中して理解しようとする態度が見られる	授業に集中できず、授業放棄の態度が見られる
事前・事後学修	自ら進んで学修範囲を超えて調べている	学修範囲を十分に調べて、授業内容を他人に説明できる	学修範囲の理解に曖昧な点がある	指示された範囲の事前・事後学修はするが、理解が不十分である	指示された範囲の事前・事後学修をほとんどせず理解が不十分である。
リーディング技能	授業内で取り扱った単語・文章を完璧に理解し、問題なく正確に運用できる	授業内で取り扱った単語・文章の大部分を理解し、問題なく正確に運用できる	授業内で取り扱った単語・文章の大部分を習得し、ほぼ正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・文章を部分的に習得しているが、運用に不適切な部分が見受けられる。	授業内で取り扱った単語・文章の習得が不十分であり、運用に不正確さが目立つ。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年、建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	英語入門 (D・A) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	*Project English <sub>a</sub>	Vivian Morooka	南雲堂	2021	978452317936-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション 英語で自己紹介文作成 シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを参照しながらテキスト内容を理解する。 (90分)	授業各回のテーマを理解しておくこと。(90分)
2	Grammar 5sentence patterns (5文型)	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
3	Pre-Unit from A to D	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
4	Unit 1 Where are you from?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
5	Unit 2 How are you?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
6	Unit 3 How many classes do you have?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
7	Review Units 1-3	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
8	Unit4 How much food do you need for your party?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
9	Grammar Gerunds and Infinitive (動名詞&不定詞)	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
10	Grammar Gerunds and Infinitive (動名詞&不定詞)	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
11	Mid-term Exam.	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
12	Unit 5 How many people are there in your family?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
13	Unit 6 When is your report due?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
14	Review Units 4-6	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
15	Review 1	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
16	Final Exam. 試験終了後、授業改善アンケートの実施	試験範囲の復習。(90分)	試験後に説明を受けた解説を復習。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	立体構成 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	アトリエ棟 2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標
------

立体の構成原理を活用し、構造的にも安定した美しい作品を制作することができる。

授業の位置づけ
---------

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)  
 デザイン学科のDP1、DP3、DP 5に対応する。(2023・2022年度)  
 デザイン学科のDP1、DP 5に対応する。(2021年度)

到達目標
------

立体の基本的な構成原理を活用し、作品を制作することができる。

授業全体の内容と概要
------------

授業毎に設定された課題を基に、立体作品の制作を行いながら実践的に立体の構成原理を学ぶ。また、作品の見せ方、発表の仕方学ぶ。

授業の方法
-------

スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、作品評価及び講評を行う。学生は各自で画像を撮影して保存する。最終的に保存した画像を編集し、ポートフォリオを作成し提出する。

アクティブラーニングの実施方法
-----------------

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
----------

制作した作品は毎回撮影して保存し、最終的にはポートフォリオにまとめて提出すること。  
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
---------------

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
--------

教職課程(美術・工芸)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件
--------

20回以上の出席がない場合は評価の対象としない。ポートフォリオが提出されない場合は評価の対象としない。  
 評価は作品点(40%)、ポートフォリオ点(30%)、及び主体的に学ぶ姿勢「平常点」(30%)の基準で行う。  
 講義の前半で課題を説明するため、30分以上の遅刻は出席として認めない。

評価方法
------

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック
--------

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
立体の基本的な特性の理解(知識・理解)	作品が自立し、構造的にも安定している。また、デザイン原理を理解し、上手く活用しており、美しい造形である。	作品が自立し、構造的にも安定している。また、デザイン原理を理解し、活用している。	作品が自立し、構造的にも安定している。また、デザイン原理を活用しようとしている。	作品が自立し、構造的にも安定している。	作品が自立せず、立体として成立していない。
編集と発表の能力(思考力・表現力・判断力等)	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、美しくデザインされたポートフォリオを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、ポートフォリオを作成した。	制作した作品に加え、スケッチや文章等も取り入れたポートフォリオを作成した。	制作した作品を収めたポートフォリオを作成した。	制作した作品を収めずポートフォリオを作成しなかった。
主体的に学習に取り組む態度(主体性・多様性・協働性)	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	立体構成 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	アトリエ棟2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『美の構成学』 パウハウスからフラクタルまで	三井秀樹	中公新書	1996	4121012968	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業アンケート結果反映の説明	シラバスをよく読んでおくこと(45分)	オリエンテーションを振り返り内容を理解する事(45分)
2	立体構成とは何か	立体構成という言葉について調べてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
3	立体構成基礎1 四角形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
4	立体構成基礎1 四角形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
5	立体構成基礎2 三角形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
6	立体構成基礎2 三角形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
7	立体構成基礎3 円形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
8	立体構成基礎3 円形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
9	立体構成基礎4 不定形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
10	立体構成基礎4 不定形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
11	紙の加工法1 切る・組み合わせる	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
12	紙の加工法1 切る・組み立てる	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
13	紙の加工法2 折る・貼る・組み合わせる	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
14	紙の加工法2 折る・貼る・組み合わせる	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
15	構成原理より1 リビテーション	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
16	構成原理より1 リビテーション	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	構成原理より2 シンメトリー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
18	構成原理より2 シンメトリー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
19	構成原理より3 アシンメトリー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
20	構成原理より3 アシンメトリー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
21	構成原理より4 アクセント	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
22	構成原理より4 アクセント	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
23	構成原理より5 ハーモニー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
24	構成原理より7 ハーモニー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
25	構成原理の活用1	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
26	構成原理の活用1	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
27	構成原理の活用2	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
28	構成原理の活用2	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
29	ポートフォリオ作成(チュートリアル)	ポートフォリオ作成(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
30	ポートフォリオ作成(チュートリアル)	ポートフォリオ作成(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
31	講評	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと(45分)	講評を再考し、理解を深めること(45分)
32	講評、授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと(45分)	講評を再考し、理解を深めること(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション基礎 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 正人(デザイン学科・客員教授)	研究室等所在	2号館7階・1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 正人)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年に携わる実務経験者が実践に促した実務を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標
------

イラスト制作に必要なさまざまな画材の使い方、表現方法などを基礎から学び習得する。

授業の位置づけ
---------

デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。(2024年度)  
 デザイン学科のDP 1、DP 2、DP 3に対応する。(2023・2022年度)  
 デザイン学科のDP 1、DP 4に対応する。(2021年度)

到達目標
------

各画材の性質、多様な表現方法を習得して更なる独自のイラスト制作の技術向上に繋げることができる。

授業全体の内容と概要
------------

透明水彩、アクリル絵の具を使用して各課題を製作しながら様々なイラスト表現を身につける。

授業の方法
-------

各課題ごとに課題説明書記載の画材類を毎回持参して授業内で作業を行い、作品提出がある。

アクティブラーニングの実施方法
-----------------

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
----------

遅刻3回で欠席1回とみなす。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
---------------

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
--------

評価方法・基準

評価前提条件
--------

単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上。

評価方法
------

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック
--------

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イラストレーションに対する制作意欲及び授業態度	授業の事前事後学習を進め意欲的な制作態度、取り組みがなされ模範的な授業態度であった。	授業の事前事後学習を進め、真面目に授業課題の作品制作に取り組んでいた。	授業課題、内容に真面目に取り組んでいた。	授業課題に取り組みながらも制作意欲が乏しかった。	授業に対する意欲が感じられず制作態度の取り組みに欠けていた。
イラスト表現に於ける画材の知識及び理解	授業内容に積極的に真剣に取り組む、知識の習得と理解度を深めた。	授業内容に真剣に取り組む、授業内容を充分理解していた。	授業内容を真面目に取り組み概ね理解していた。	授業内容への最低限の理解がみられた。	授業内容を理解していなかった。
イラスト表現への研究及び習得	授業内容を深く理解して研究心、習得への向上心が著しくあり実践的にも優れていた。	授業内容を充分理解して研究心があり習得して形になっていた。	授業内容を概ね理解して真面目に研究、習得していた。	授業内容への最低限の理解がみられた。	授業内容を理解せず研究心、習得への意欲に欠けていた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション基礎 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 正人(デザイン学科・客員教授)	研究室等所在	2号館7階・1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 正人)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 デザイン業界で長年に携わる実務経験者が実践に促した実務を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(イラストについての全般的な講義、イラストレーターの仕事、画材類について) シラバスの説明、授業改善アンケート結果反	シラバスを読んでおくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
2	オリエンテーション(イラストについての全般的な講義、イラストレーターの仕事、画材類について) シラバスの説明。	シラバスを読んでおくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
3	各画材の実践的使用をイラスト見本に合わせて実技を披露することで画材の使い方や特徴を習得。	配布資料を読み画材の特性を理解しておくこと。(45分)	各画材の特性や使い方を復習しておくこと。(45分)
4	各画材の実践的使用をイラスト見本に合わせて実技を披露することで画材の使い方や特徴を習得。	配布資料を読み画材の特性を理解しておくこと。(45分)	各画材の特性や使い方を復習しておくこと。(45分)
5	透明水彩絵具を使用して色の作製、画材の特徴を体験しながら描き方を研究。イラストラフ制作。	課題説明書を読み学習内容をイメージしておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
6	透明水彩絵具を使用して色の作製、画材の特徴を体験しながら描き方を研究。イラストラフ制作。	課題説明書を読み学習内容をイメージしておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
7	ラフ完成後トレースして透明水彩で着色作業 1	イラストラフ制作を進めておくこと。(45分)	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
8	ラフ完成後トレースして透明水彩で着色作業 1	イラストラフ制作を進めておくこと。(45分)	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
9	透明水彩で着色作業 2。作品提出。	透明水彩による着色作業の準備をしておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
10	透明水彩で着色作業 2。作品提出。	透明水彩による着色作業の準備をしておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
11	線画イラストの下絵制作。ラフ制作後に透明水彩で着色作業 1。	課題説明書を読み線画イラストの構想を練っておくこと。(45分)	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
12	線画イラストの下絵制作。ラフ制作後に透明水彩で着色作業 1。	課題説明書を読み線画イラストの構想を練っておくこと。(45分)	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
13	線画イラストを制作して透明水彩で着色作業 2。	イラストラフ制作を進めておくこと。(45分)	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
14	線画イラストを制作して透明水彩で着色作業 2。	イラストラフ制作を進めておくこと。(45分)	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
15	線画イラストを制作して透明水彩で着色作業 3。コンセプトシートを記載してプレゼン後に作品提出	作品のプレゼンテーションに向けて準備をしておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
16	線画イラストを制作して透明水彩で着色作業 3。コンセプトシートを記載してプレゼン後に作品提出	作品のプレゼンテーションに向けて準備をしておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『マイワーク31』	北海道イラストレーターズクラブアルファ		2019年		
2	『雑誌イラストレーション』		玄光社			バックナンバー
3	『イラストノート』		誠文堂新光社			バックナンバー
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	アクリル絵具の画材の特性や使用方法を描写し画材研究。	教科書・参考文献等を活用し、アクリル絵具について調べておくこと。(45分)	アクリル絵具の画材の特性や使い方を復習しておくこと。(45分)
18	アクリル絵具の画材の特性や使用方法を描写し画材研究。	教科書・参考文献等を活用し、アクリル絵具について調べておくこと。(45分)	アクリル絵具の画材の特性や使い方を復習しておくこと。(45分)
19	アクリル絵具による様々なタッチ表現実習 1	参考文献等を活用し、アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
20	アクリル絵具による様々なタッチ表現実習 1	参考文献等を活用し、アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
21	アクリル絵具による様々なタッチ表現実習 2	参考文献等を活用し、アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
22	アクリル絵具による様々なタッチ表現実習 2	参考文献等を活用し、アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
23	課題に沿ってアクリル絵具を使用して作品制作過程を習得。	参考文献等を活用し、アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
24	課題に沿ってアクリル絵具を使用して作品制作過程を習得。	参考文献等を活用し、アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
25	アクリル画制作・1	制作作業の準備を行い道具の準備をしておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
26	アクリル画制作・1	制作作業の準備を行い道具の準備をしておくこと。(45分)	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
27	アクリル画制作・2	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
28	アクリル画制作・2	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと。(45分)	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
29	アクリル画制作・3	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
30	アクリル画制作・3	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと。(45分)	作品最終提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
31	アクリル画制作・4。コンセプトシートを記載してプレゼン後に作品提出。	作品の完成、プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
32	アクリル画制作・4。コンセプトシートを記載してプレゼン後に作品提出。授業アンケート実施。	作品の完成、プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	戸佐 晃一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 戸佐 晃一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本授業では、1年時に実施したトレーニングの成果を体力・形態測定を実施することで確認し足りない体力の強化に向けて、様々なトレーニングを実践する。また、生涯にわたって運動習慣を継続することで高齢になっても体力の維持、健康で長寿であることを目的とする。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

各自、1年時からの体力向上を参考に到達目標を設定し、様々なトレーニング方法を理解し実践できることを目標とする。生涯を通じて定期的に運動する習慣を養う。

授業全体の内容と概要

体力測定、形態測定により自分の体力の変化や状態を知る。様々な種類のトレーニングに関する1年時に学んだ基礎から応用理論を学び、正しいトレーニングの方法を学習する。

授業の方法

教室、体育館を中心に授業を行う。様々なトレーニング方法をグループワークによる実践を通して、課題の見方や指摘をし合い、ディスカッションではタブレット、スマートフォンの活用することで正しい技術を習得できるように進めていく。レポートなどの解説のフィードバックを実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

競技経験があり体力があること。遅刻は2回につき1回欠席とする。運動着、飲料水、上靴、タオルの用意。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	30%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ウエイトトレーニングの基本	ウエイトトレーニングの基本を良く理解している	ウエイトトレーニングの基本をほぼ理解している	ウエイトトレーニングの基本をある程度理解している	ウエイトトレーニングの基本を理解している	ウエイトトレーニングの基本を理解していない
体幹トレーニングの基本	体幹トレーニングの基本を良く理解している	体幹トレーニングの基本をほぼ理解している	体幹トレーニングの基本をある程度理解している	体幹トレーニングの基本を理解している	体幹トレーニングの基本を理解していない
ラダートレーニングの基本	ラダートレーニングの基本を良く理解している	ラダートレーニングの基本をほぼ理解している	ラダートレーニングの基本をある程度理解している	ラダートレーニングの基本を理解している	ラダートレーニングの基本を理解していない

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	戸佐 晃一(経営学科・特任教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 戸佐 晃一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	個人面談(GPA・単位取得状況・学生生活など)	GPA・単位取得状況を確認しておく(45分)	面談内容を理解しておく(45分)
3	個人面談(GPA・単位取得状況・学生生活など)	GPA・単位取得状況を確認しておく(45分)	面談内容を理解しておく(45分)
4	ウエイトトレーニングの基本	ウエイトトレーニングの基本を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
5	職業レディネス・テストの実施(キャリア支援センター)	職業レディネス・テストの実施を確認しておく(45分)	職業レディネス・テストの学習内容を復習し理解しておく(45分)
6	ウエイトトレーニングの基本	ウエイトトレーニングの基本を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
7	ウエイトトレーニングの基本	ウエイトトレーニングの基本を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
8	体幹トレーニングの基本	体幹トレーニングの基本を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
9	体幹トレーニングの基本	体幹トレーニングの基本を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
10	職業レディネス・テストのフィードバック(キャリア支援センター)	職業レディネステストについて調べる(45分)	職業レディネステストの感想を書く(45分)
11	ラダートレーニングの基本	ラダートレーニングの基本を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
12	ラダートレーニングの基本	ラダートレーニングの基本を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
13	体力測定	体力測定種目の確認をしておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
14	形態測定	形態測定種目の確認をしておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	授業内容を振り返り確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
16	フィードバック	体力・形態測定結果を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	米野 宏(経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者: 米野 宏)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標
------

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力の向上をはかる。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答やディスカッションも行う。入前て話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、新聞やインターネットによるニュース等を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は、欠席扱いとする。対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	10%	0%	70%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとて巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通でできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取られた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまらず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をするのが普通でできた。	討議の中で、対話することが苦手で、ほとんど受け身であった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	米野 宏(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 米野 宏)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明) 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	注意事項を確認する。(45分)
2	レポートの作成 (アダプテッドスポーツの創造)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
3	発表と意見交換 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
4	発表と意見交換 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
5	職業レディネス・テストの実施(キャリア支援センター)	職業レディネステストについて調べる(45分)	職業レディネステストの感想を書く(45分)
6	アダプテッドスポーツを考える(屋内競技)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
7	プレゼンテーションの準備 1 (グループに分かれて)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
8	プレゼンテーションの準備 2 (グループに分かれて)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
9	プレゼンテーション (屋外競技) 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
10	職業レディネス・テストのフィードバック(キャリア支援センター)	職業レディネステストについて調べる(45分)	職業レディネステストの感想を書く(45分)
11	プレゼンテーション (屋外競技) 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
12	プレゼンテーション (屋外競技) 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
13	プレゼンテーション (屋内競技) 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
14	プレゼンテーション (屋内競技) 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
15	プレゼンテーション (屋内競技) 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
16	ふりかえり 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再度確認する。(45分)	評価等の内容を確認する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制	演習		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

「健康とスポーツ」というテーマを基に、学生と教員双方の人間関係を築き、また大学での学習を進めるにあたり、コミュニケーション能力や思考力・判断力・表現力の能力及び意欲を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

健康とスポーツについて理解し知識を身に付け、自分に必要な課題探求の道筋を明らかにする事ができる。

授業全体の内容と概要

授業に関しては、健康とスポーツについて調査し、発表と意見交換を行う。「SDG 4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は配布資料で実施し、レポートの書き方については板書または資料にて説明する。授業によってはグループワークで思考・考察・発表を行い学習していく。課題や発表に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は欠席扱いとする。欠席をする場合は必ず事前に連絡すること。注意事項の詳細についてはガイダンスにて説明する。発表と意見交換の機会が多いので、主体的で能動的な姿勢で取り組むこと。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	10%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康とスポーツについての基礎的な知識を深く理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を比較的理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を多少理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルに達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体的・多様性・協調性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協調性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協調性に関して期待されるレベルに達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協調性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協調性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制	演習		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験を授業関連内容を学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明)	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	健康とスポーツについて考える(種目は各自で調査)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
3	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
4	健康とスポーツについて考える(種目は各自で調査)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
5	職業レディネス・テストの実施(キャリア支援センター)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
6	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
7	健康とスポーツについて考える(種目は各自で調査)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
8	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
9	健康とスポーツについて考える(種目は各自で調査)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
10	職業レディネス・テストのフィードバック(キャリア支援センター)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
11	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
12	健康とスポーツについて考える(種目は各自で調査)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
13	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
14	健康とスポーツについて考える(種目は各自で調査)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
15	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
16	まとめ	ノートに記載された内容を復習し理解する。(45分)	評価の内容を確認し自己評価を行うこと。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三嶋 康嗣)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力の向上をはかる。

授業の位置づけ
---------

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標
------

自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要
------------

授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答やディスカッションも行う。入前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法
-------

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、書籍や新聞、インターネット等の情報を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法
-----------------

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
----------

20分以上の遅刻は、欠席扱いとする。対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。

修学サポート(合理的配慮)
---------------

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
--------

評価方法・基準

評価前提条件
--------

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。

評価方法
------

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	10%	0%	70%	10%

ルーブリック
--------

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとて巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取られた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をするのが普通にできた。	討議の中で、対話することが苦手で、ほとんど受け身であった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三嶋 康嗣)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明) 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	注意事項を確認する。(45分)
2	レポートの作成 (スポーツと遊び)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
3	発表と意見交換 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
4	発表と意見交換 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
5	職業レディネス・テストの実施(キャリア支援センター)	職業レディネステストについて調べる(45分)	職業レディネステストの感想を書く(45分)
6	スポーツと遊びを考える	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
7	グループ別プレゼンテーションの準備 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
8	グループ別プレゼンテーションの準備 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
9	プレゼンテーション 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
10	職業レディネス・テストのフィードバック(キャリア支援センター)	職業レディネステストについて調べる(45分)	職業レディネステストの感想を書く(45分)
11	プレゼンテーション 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
12	スポーツと健康を考える	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
13	プレゼンテーション 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
14	プレゼンテーション 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
15	プレゼンテーション 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
16	ふりかえり 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再度確認する。(45分)	評価等の内容を確認する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	井坂 肇(経営学科・助教)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 井坂 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

スポーツパフォーマンスを最大化するために、データを活用しながら不足している体力要素を特定していく。さらには、その体力要素の向上のためのトレーニング方法を理解する。科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行うために、論文を読むようにする。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

トレーニング理論について理解できる。  
課題解決のために他者と討議することができる。  
トレーニングを実践することができる。  
論文を読んで内容について理解することができる。

授業全体の内容と概要

スポーツパフォーマンスを最大化するために、データを活用しながらトレーニングを進めていく。論文を読み、科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行う。

授業の方法

講義はパワーポイント及び配布資料で実施し、資料にて説明した後、グループワークを行う。データやトレーニング方法について考察し、他者と共有する機会を設ける。  
学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○ ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

15分以上の遅刻は欠席とみなす。  
遅刻2回で1回の欠席とみなす。  
トレーニングデータの題材として野球の投手を利用することがある。  
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	30%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
科学的なエビデンスに基づいたトレーニングの理解	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめた。また様々なケースにおいて採用されたトレーニングの方法について意見を持っていた。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめた。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べた。	トレーニング理論を説明できた。	トレーニング理論を説明できなかった。
他者との討議	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができた。さらには新たな課題を自ら発見し、他者との討議の場を生み出すことができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示できた。	他者と討議できた。	他者と討議できなかった。
データに対する思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを達成した。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	井坂 肇(経営学科・助教)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者: 井坂 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	シラバスの内容を理解しておく(45分)
2	エビデンスに基づいたトレーニング 論文の読み方	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
3	エビデンスに基づいたトレーニング 論文の読み方	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
4	エビデンスに基づいたトレーニング 論文の読み方	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
5	職業レディネス・テストの実施	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
6	トレーニングデータの収集と理解 データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
7	トレーニングデータの収集と理解 データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
8	トレーニングの実践	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
9	トレーニングの実践	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
10	職業レディネス・テスト フィードバックの実施	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
11	トレーニングデータの収集と理解 データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
12	トレーニングデータの収集と理解 データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
13	トレーニングの実践	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
14	トレーニングの実践	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
15	トレーニングデータの収集と理解 データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	講義全体を振り返り質問事項をまとめておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

動作の質的測定を行うためのシステム「ファンクショナルムーブメントスクリーン:FMA」と「セレクトティブ・ファンクショナルムーブメントアセスメント:SFMA」を理解する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

様々な対象者の動作パターンを調べ、一貫性のある基準を用いて問題の有無を判断する方法と、その問題を修正するために適切なエクササイズを見つける。

授業全体の内容と概要

日本においてもファンクショナルムーブメントスクリーンは、プロのアスリートだけでなく一般のスポーツ愛好家にも行われるようになってきているが、医療の専門家の中ではまだ十分に認識されていないのが現状である。スポーツやフィットネス、リハビリテーションには様々な専門分野の人が関わっているが、ファンクショナルムーブメントスクリーンとセレクトティブ・ファンクショナルムーブメントアセスメントはこのような専門分野の溝を埋めるツールとなりうることを理解し、自身の競技力向上に繋げる。

授業の方法

- ・各回のテーマについてテキストを使用しながら講義をし、さらに、理解を深めるために医学的ビデオも視聴します。
- ・授業はパワーポイントを使用し、DVDの視聴、レポートなどの講義形式で実施します。
- ・不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。
- ・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻3回で1回の欠席とみなします。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	30%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修した知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組まなかった
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
2	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
3	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
4	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
5	職業レディネス・テストの実施(キャリア支援センター) FMSとSFMAの理解と習得	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
6	FMSとSFMAの理解と習得 4つの基本的なフィルター	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
7	FMSとSFMAの理解と習得 4つの基本的なフィルター	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
8	FMSとSFMAの確認	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
9	FMSとSFMAの実践 実施中の疼痛や違和感	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
10	職業レディネス・テストのフィードバック(キャリア支援センター) FMSとSFMAの実践	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
11	FMSとSFMAの実践 実施中の疼痛や違和感	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
12	FMSとSFMAの実践 採点方法・結果の序列化	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
13	FMSとSFMAの実践 採点方法・結果の序列化	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
14	FMSとSFMAの実践 採点方法・結果の序列化	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
15	FMSとSFMAの実践 採点方法・結果の序列化	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

大学での学習の基礎になる、文献の読み方、発表の仕方、議論の仕方、レポートの書き方等の技能を修得する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023年度)

到達目標

自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。  
自分で調べ構想したことを、レジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表できる。  
学習の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。

授業全体の内容と概要

講義の受け方・レポート作成方法といった学習のためのスキル、自発的に問題を発見し解決する力といった、大学生としてふさわしい能力や姿勢を修得するために、このゼミナルでは、学生自身によるテキストの読解、内容の報告、参加者による討論、レポートの作成を行う。

授業の方法

授業は次のように進める。  
報告者はテキストの内容要約と議論すべきポイントに関するプレゼンテーションを行う。  
司会役の進行の下、報告者のプレゼン内容について参加者全員で討論をする。  
担当教員による講評を行う。  
レポート作成に向けた準備を進める。  
レポート作成には、社会福祉と政治・行政に関する文献のなかから受講生と相談の上で決める。  
Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合には、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。  
自主的な参加が求められるので、テキストは必ず事前に読んでおくこと  
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自分で調べ構想したことをレジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表できる。	プレゼンテーション等において、問題の核心をよく理解し、的確にまとめたり表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心をよく理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、部分的に問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできなかった。
学習の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。	独自の着眼点で設定されたテーマに基づいてレポートが作成された。	工夫を凝らして設定されたテーマに基づいてレポートが作成された。	テーマ設定ができたレポートが作成された。	テーマ設定が概ねできたレポートが作成された。	レポートの提出がなされなかった。
自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。	積極的に討論に参加し、リーダーシップを発揮できた。	他者に協力しながら積極的に討論に参加することができた。	積極的に討論に参加することができた。	討論に参加することができた。	討論に参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						相談の上決定。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜指示する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、自己紹介、テキストの決定	シラバスを読む。(45分)	議論内容の整理(45分)
2	テキストの内容報告と討論(1)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
3	テキストの内容報告と討論(2)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
4	テキストの内容報告と討論(3)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
5	職業レディネス・テストの実施(キャリア支援センター)	テスト実施要領の確認(45分)	テストのふり返り(45分)
6	テキストの内容報告と討論(4)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
7	テキストの内容報告と討論(5)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
8	テキストの内容報告と討論(6)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
9	テキストの内容報告と討論(7)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
10	職業レディネス・テストのフィードバック(キャリア支援センター)	テスト実施要領の確認(45分)	テストのふり返り(45分)
11	テキストの内容報告と討論(8)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
12	テキストの内容報告と討論(9)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
13	レポートの進捗状況の報告(1)	関連資料の収集(45分)	議論内容の整理(45分)
14	レポートの進捗状況の報告(2)	関連資料の収集(45分)	議論内容の整理(45分)
15	レポート作成(1)	レポート(課題)の準備(45分)	レポート(課題)の準備(45分)
16	レポート作成(2)	レポート(課題)の準備(45分)	レポート(課題)の仕上げ(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

本ゼミナールでは「天皇」を取り上げ、明治時代以降「天皇」が日本の近代化にいかに関与したか、を社会的に考察する。イデオロギーに染まることなく、「天皇」という存在を社会的・構造神学的に考察する。

授業の位置づけ

全学科のDP1, DP2, DP3, DP4に対応する(2023年度)

到達目標

- ・明治時代以降の近代日本社会において、天皇が果たした順機能、潜在機能を理解できる。
- ・仏教、キリスト教、儒教、イスラム教との比較から、天皇が持つ神性を考察し、理解できる。
- ・平安時代末期の保元の乱が示した根本的規範の崩壊と、そこから派生する急性アノミー(無運帯・無規範)の恐怖と、現代日本社会に共通する要因を理解できる。

授業全体の内容と概要

小室直樹『天皇畏るべし—日本の夜明け、天皇は神であった—』(ビジネス社)を基本参考文献とし(ゼミごとに教員が購読パートをコピーし配布する)、併せて、山本七平、橘川大三郎、大澤真幸、宮台真司の文献を参照し、ゼミを進める。

授業の方法

- ・購読パートを音読してもらい、必要に応じて教員が説明を加え、併せてディスカッションを行う。
- ・ゼミで使用するプリントは前の回に配布する。熟読することが望ましい。
- ・学生の要望には可能な限り応えるが、教育上問題のある要望には応えられない。
- ・不測の事態が生じたときは補講、オンライン等で講義を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

主体的・積極的参加を望む  
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定の最低出席回数10回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	30%	70%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
明治時代における天皇が果たした機能を理解する。	ディスカッションにおいて、「自分の意見を明確に言えるだけでなく、他者の意見について明確で理屈の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を明確に表現できた。	「明治維新」「明治時代」についての基本的知識を習得できた。	ゼミで購読したパートを説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
仏教、キリスト教、イスラム教、儒教と比較した天皇の神性を理解する。	ディスカッションにおいて、「自分の意見を明確に言えるだけでなく、他者の意見について明確で理屈の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を明確に表現できた。	高校のテキスト「宗教」の基本的知識を習得できた。	ゼミで購読したパートを説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
保元の乱における根本的規範の崩壊と、そこから派生する急性アノミーの恐怖を理解する。	ゼミで購読したパートを説明できる。ディスカッションにおいて、「自分の意見を明確に言えるだけでなく、他者の意見について明確で理屈の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を明確に表現できた。	保元の乱以降の日本史の基本的知識を習得できた。	ゼミで購読したパートを説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	高校のテキストの読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
2	明治維新における天皇1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
3	明治維新における天皇2	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
4	神の機能(正統性の付与)1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
5	職業レジネステスト	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
6	教育勅語に込められた革新	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
7	キリスト教の論理	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
8	儒教の論理	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
9	天皇の神性1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
10	職業レジネステストのフィードバック	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
11	天下大乱はなぜ起きたか	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
12	日本皇道の失墜	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
13	摩訶不思議なるもの	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
14	天皇が秘める深淵1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
15	天皇が秘める深淵2	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
16	天皇が秘める深淵3	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

学生が世界と日本の歴史と文化について、資料と文献によって基礎的な知識を身につける。合わせて、プレゼンテーションと文章作成の基礎的な能力を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

受講者において、日本と世界の歴史・文化についての基本的な理解ができており、プレゼンテーションと文章作成の基礎的な能力が身につけている。

授業全体の内容と概要

毎回、受講者が日本と世界の歴史と文化に関する学習(文献調査)とプレゼンテーションを行い、合わせて、教員による説明を加える。適宜、文章作成の練習も取り入れる。

授業の方法

毎回、1)受講者による文献調査、2)プレゼンテーション・質疑応答、3)教員による補足・講評(フィードバック)を行う。合わせて、文章作成の練習も加える。プレゼンテーション、講評では板書、ボード、スライドを使用。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

欠席、遅刻をしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	20%	60%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報収集・分析能力	多様で正確な情報の収集と分析ができ、的確な発信ができた。	正確な情報収集と整理ができ、適切な発信ができた。	情報収集と整理の基本が身に付いており、発信の基本ができた。	指示によって情報収集と整理が実行でき、指示によって発信ができた。	指示による情報収集と整理が実行できなかった。
コミュニケーション・プレゼンテーション能力	的確な議論と明確なプレゼンテーションができ、適切な質疑応答ができた。	適切な議論とプレゼンテーションができた。	議論とプレゼンテーションの基本が身に付いた。	指示によって議論とプレゼンテーションが実行できた。	指示による議論とプレゼンテーションが実行できなかった。
歴史と文化に関する理解・認識	ヨーロッパの歴史と文化に関する深く深い理解ができており、発展的な学習ができた。	ヨーロッパの歴史と文化に関する理解ができており、発展的な学習が期待できた。	ヨーロッパの歴史と文化に関する基本的な理解ができた。	指示によってヨーロッパの歴史と文化に関する理解ができた。	指示によるヨーロッパの歴史と文化に関する理解ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						教科書なし
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						適宜指示
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、教員によるヨーロッパの歴史と文化の基礎に関する講義	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
2	受講者による調査とプレゼンテーション(1)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
3	受講者による調査とプレゼンテーション(2)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
4	受講者による調査とプレゼンテーション(3)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
5	職業レディネス・テストの実施(キャリア支援センター)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
6	受講者による調査とプレゼンテーション(4)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
7	受講者による調査とプレゼンテーション(5)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
8	受講者による調査とプレゼンテーション(6)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
9	受講者による調査とプレゼンテーション(7)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
10	職業レディネス・テストのフィードバック(キャリア支援センター)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
11	受講者による調査とプレゼンテーション(8)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
12	受講者による調査とプレゼンテーション(9)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
13	受講者による調査とプレゼンテーション(10)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
14	受講者によるレポート作成(1)	レポート作成の準備(45分)	レポート作成の準備(45分)
15	受講者によるレポート作成(2)	レポート作成の準備(45分)	レポート作成の準備(45分)
16	受講者によるレポート作成(3)	レポート作成の準備(45分)	レポート作成の準備(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会福祉実践に用いられることが多い用語と意味を覚える。  
 チームワーク力を涵養する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023年度)

到達目標

福祉に関する専門用語を覚える。  
 自分に適した暗記方法を身につける。  
 協調性を身につける。

授業全体の内容と概要

福祉現場で使われることが多い専門用語と、その意味を暗記する。  
 暗記方法の工夫ができるようになる。  
 他者を尊重しながら自己主張できるようになる。  
 「SDG3:すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

基本は、テーマに沿ったグループワークでの展開とする。グループで課題に取り組み、代表者が発表をする展開とする。  
 一部、講義形式で授業を展開する。講義の際は随時質問をするので答える事。  
 随時記録物を提出する。記録物はコメントを添え返却する。  
 内容により、使用する資料を配布する。  
 不測の事態における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="radio"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は欠席とする。  
 出席を重視するので、遅刻や欠席をする場合は事前に連絡をすること。授業を妨害したり他者の学ぶ権利を侵害する場合は、注意をするが、改善がない場合には単位を認定しない。  
 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

10回以上の出席があること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉の仕事の場で用いられることが多い用語と意味を理解できる。	用語の意味を自分の言葉で言い換えながら、解説ができた。	用語の意味を自分の言葉で言い換えることができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
暗記ができる。	自分に適した方法を用いて、暗記ができた。	指導方法に従って暗記ができた。	助言があればできた。	助言があれば一部出来た。	助言があってもできなかった。
チームで目標を達成できる。	状況に応じてリーダーシップをとったら、他のメンバーへのサポートができた。	他のメンバーを尊重できた。	自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があってもできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館4階	
単位数	1 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						『使用しない』
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						『使用しない』
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 福祉の現場で用いられることが多い用語	福祉の授業の中で知った「あ」の単語を書き出す。(4.5分)	単語カードを作る。(4.5分)
2	福祉の現場で用いられることが多い用語	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「か」の単語を書き出す。(4.5分)	単語カードを作る。(4.5分)
3	福祉の現場で用いられることが多い用語	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「か」の単語を書き出す。(4.5分)	単語カードを作る。(4.5分)
4	福祉の現場で用いられることが多い用語	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「さ」の単語を書き出す。(4.5分)	単語カードを作る。(4.5分)
5	職業レディネス・テストの実施(キャリア支援センター)	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「さ」の単語を書き出す。(4.5分)	単語カードを作る。(4.5分)
6	福祉の現場で用いられることが多い用語	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「た」の単語を書き出す。(4.5分)	単語カードを作る。(4.5分)
7	中間まとめ	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「た」の単語を書き出す。(4.5分)	単語カードを作る。クラスのメンバーの暗記方法を参考にし、暗記方法の工夫を試みる。
8	福祉の現場で用いられることが多い用語	単語カードを見直す。福祉の中で知った「な」の単語を書き出す。(4.5分)	単語カードを作る。(4.5分)
9	福祉の現場で用いられることが多い用語	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「は」の単語を書き出す。(4.5分)	単語カードを作る。(4.5分)
10	職業レディネス・テストのフィードバック(キャリア支援センター)	卒業後の進路について考える。(4.5分)	卒業後の進路について考える。(4.5分)
11	福祉の現場で用いられることが多い用語	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「は」の単語を書き出す。(4.5分)	単語カードを作る。(4.5分)
12	福祉の現場で用いられることが多い用語	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「ま」の単語を書き出す。(4.5分)	単語カードを作る。(4.5分)
13	福祉の現場で用いられることが多い用語	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「ま」の単語を書き出す。(4.5分)	単語カードを作る。(4.5分)
14	福祉の現場で用いられることが多い用語	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「や」の単語を書き出す。(4.5分)	単語カードを作る。(4.5分)
15	福祉の現場で用いられることが多い用語	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「ら」「わ」の単語を書き出す。(4.5分)	単語カードを作る。(4.5分)
16	まとめ	単語カードを見直す。(4.5分)	自分の暗記の方法を考察する。(4.5分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

基礎ゼミナール の目的を踏襲しながら無理なく専門課程へ移行できる様「学びの方法」を修得する。

授業の位置づけ

全学科の DP2、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

基礎ゼミナール から継続して考えていながら、学生それぞれが1つのテーマを上げレポートを作成し発表する事を目標とする。

授業全体の内容と概要

人間は食べることのみによって栄養を取り入れ、様々な活動を可能としている。乳幼児から高齢者まで各々の目的や問題の違いはあれ、それぞれ生活リズムの確立や健康、QOL、疾病防止などを目的として望ましい食生活をする事が必要となる。学生それぞれが自分自身の食生活だけでなく職業的(保育士、社会福祉士、スポーツトレーナー、教員等)に必要な問題意識を持ち知識を身につけることを目標とする。

授業の方法

食生活や栄養に関する問題の中からそれぞれが研究テーマを見つけ、プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等を実施する。また必要に応じて教員がテーマに関する講義も行い、カレントトピックスについても解説する。質疑応答には随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・出席を重視する。欠席をする場合は必ず事前に連絡をすること。出席数を満たしていてもゼミの運営を乱す行為があった場合は評価をしない場合がある。また同じくゼミの運営に支障を来たす行為があった場合は途中でゼミ異動を宣告する場合がある。  
・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

出席状況(3分の2以上)。ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	30%	50%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解(協調性、傾聴力)	ゼミ内でのプレゼンテーションに積極的に耳を傾けることができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け、タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾けることができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け何回か質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾けることは出ることが出来なかった。
知識・理解(興味、関心)	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち積極的に食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを概ね発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち努力しながら食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができなかった。
汎用的機能(トークスキル、表現力)	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう資料を十分揃えわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいようわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう概ねわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができなかった。
態度・志向性(リーダーシップ、態度)	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し、積極的にゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し、ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し、ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し、ゼミ運営に多少関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識できなかった。
態度・志向性(意欲)	休まずゼミに出席できた。(出席16回)	概ねゼミに出席できた。(出席15-14回)	休みがちではあるが出席できた。(出席13-12回)	欠席が目立つが出席できた。(出席11-10回)	評価前提条件を満たす事ができなかった。(出席9-0回)

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション及びシラバスの説明	ゼミ初回に必要な事項について考える。(45分)	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える(45分)
2	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
3	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
4	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
5	職業レディネス・テストの実施(キャリア支援センター)	職業レディネス・テストについて内容を予習する。(45分)	職業レディネス・テストの実施について振り返りを行う。(45分)
6	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
7	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
8	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
9	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
10	職業レディネス・テストのフィードバック(キャリア支援センター)	「職業レディネステスト」についてポイントを整理する。(45分)	「職業レディネステストのフィードバック」について再度振り返りを行う。(45分)
11	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
12	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
13	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
14	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
15	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
16	まとめ	まとめの準備を行う。(45分)	まとめの振り返りを行う。(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	尾西 則昭 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制	演習		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

生活の多様な側面から人間の生活と健康を理解し、より健康な生活を創り出して行くための必要な知識を理解する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

個人、家庭という様々なレベルにおける健康的な生活について理解し、知識を身につけ、健康について、一層の関心を持つことができる。

授業全体の内容と概要

生活の多様な側面に焦点を当て、個人、家族という様々なレベルにおける人間の健康的な生活について詳しく説明する。

授業の方法

資料を通読し、その内容の説明や質疑応答及びディスカッションを行います。健康に関するキーワードについて調べ、発表を行います。課題や発表等に対応するフィールドワークや要望等への対応は、少人数集団の利点を生かし、口頭で説明を行います。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合があります。」

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

積極的に取り組むことを期待します。  
20分以上の遅刻は欠席とします。  
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康について基礎的な知識を深く理解できた。	健康について基礎的な知識を理解できた。	健康について基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康について基礎的な知識を多少理解できた。	健康について基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に十分に考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開におおむね考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に多少考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に考察できなかった。
主体的に取り組む態度	健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを説明できた。	健康の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	尾西 則昭 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制	演習		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス 「シラバス説明」	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
2	健康に関する調査についての説明	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
3	健康に関する研究調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
4	健康に関する研究調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
5	職業レディネス・テスト実施(キャリア支援センター)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
6	健康に関する研究調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
7	健康に関する調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
8	健康に関する研究調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
9	健康に関する調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
10	職業レディネス・テストのフィードバック(キャリア支援センター)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
11	健康に関する研究調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
12	健康に関する研究調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
13	健康に関する研究調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
14	健康に関する研究調査のまとめ	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
15	健康に関する研究調査のまとめ	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
16	全体のまとめ	ノートに記載された内容を再復習し、理解する。(45分)	解説の内容を確認する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )					
授業担当者(所属・職名)	西崎 毅(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1	(単位認定責任者: 西崎 毅)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学修姿勢や探究力を培う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照					

概要

履修目標
教員になるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び意欲を身に付ける。

到達目標
教育制度についてその概要を理解することができる。 教育にかかわる諸問題についてその概要を理解することができる。 教員になるために必要な事項についてその概要を理解することができる。

授業の位置づけ
全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標
教育制度についてその概要を理解することができる。 教育にかかわる諸問題についてその概要を理解することができる。 教員になるために必要な事項についてその概要を理解することができる。

到達目標
教育制度についてその概要を理解することができる。 教育にかかわる諸問題についてその概要を理解することができる。 教員になるために必要な事項についてその概要を理解することができる。

授業全体の内容と概要
各回の授業テーマについて考える 教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などの通読 教育に関する基本的事項についての調べ学習 教員として求められる一般教養及び教職教養の学修 学校視察やボランティア活動等への参加 漢字検定等への参加 「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法
教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッションを行う。 板書や教材提示装置を活用する。教育に関するキーワードについての調べ学習及びその発表を行う。 教員として求められる一般教養及び教職教養について演習を行う。 課題や発表等に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。 不測の事態が生じた際に、授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
教職課程を履修し、大学卒業後に教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。 サブジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。 漢字検定の受検級合格まで毎回必ず検定を受けることを履修の条件とする。(目標準2級) ○紹介する体験活動に積極的に取り組むことを履修の条件とする。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は11回。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	20%	0%	80%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	20%	0%	80%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>知識・技能</td> <td>学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。</td> <td>学修した知識・技能を十分に修得することができた。</td> <td>学修した知識・技能を修得することができた。</td> <td>学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。</td> <td>学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力等</td> <td>与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関するレベルを大きく超えることができた。</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。</td> <td>与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>主体性・多様性・協働性</td> <td>与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。</td> <td>与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。	思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関するレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。	主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。																								
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関するレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。																								
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。																								



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	西崎 毅(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 西崎 毅)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学修姿勢や探究力を培う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	*授業内で別途指示する。*					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明含む) 学修計画の作成	教職志望の理由をまとめること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
2	中学校学習指導要領総則についての学修 教育課程の編成・実施 評価 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)
3	中学校学習指導要領総則についての学修 生徒の発達の支援 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
4	中学校学習指導要領総則についての学修 学校運営上の留意事項 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
5	職業レディネス・テストの実施(キャリア支援センター)	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
6	中学校学習指導要領道徳についての学修 目標・内容 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
7	中学校学習指導要領道徳についての学修 指導計画の作成 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
8	中学校学習指導要領道徳についての学修 内容の取扱い 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
9	中学校学習指導要領についての学修 専門教科の目標 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
10	職業レディネス・テストのフィードバックの実施(キャリア支援センター)	職業レディネステストについて調べる(45分)	職業レディネステストの感想を書く(45分)
11	中学校学習指導要領についての学修 専門教科各科目の目標と内容 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
12	中学校学習指導要領についての学修 専門教科各科目の目標と内容 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
13	中学校学習指導要領についての学修 専門教科各科目の目標と内容 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
14	中学校学習指導要領についての学修 専門教科の指導計画の作成 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
15	中学校学習指導要領についての学修 専門教科の内容の取扱い 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
16	前期の学修の総括及び反省	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	1年間の自らの学修姿勢を評価すること。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	小山 尋明(建築学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小山 尋明)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

競技スポーツの基礎的トレーニングを基礎ゼミナール A・Bより更に深く学び、個人に必要なトレーニングを自ら実践できるよう知識を身につける。携っている競技の試合分析をする知識と理解力を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)  
 全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・22年度)  
 経営学科のDP1、DP8に対応する。(2021年度)  
 社会福祉学科のDP2、DP4、DP8、DP10に対応する。(2021年度)  
 デザイン学科のDP1、DP8に対応する。(2021年度)  
 建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP8に対応する。(2021年度)

到達目標

競技及び個人の特性を理解し、安全にトレーニングできるようにする。また、試合の分析・考察(心理的)も出来る。

授業全体の内容と概要

基礎ゼミナール A・Bを基に個人に必要なフィジカルとメンタルトレーニングを実践し、自分の競技の試合をどのように分析・考察(心理的)すればよいかを考える。

授業の方法

プリントなど資料にて説明したのち、トレーニング室及び体育館などで実際にトレーニング(フィジカルとメンタル)をする。また、コンディショニングの方法・心理的などについての分析を行い、次の大会などに活かせるようにする。なお、今回の授業において前回の反省と確認を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

男子バスケットボール部に所属の学生を対象とする。注意事項等の詳細については、ガイダンスにて説明する。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	60%	40%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度・判断	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことが7割程度できた。	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことが5割程度できた。	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことが3割程度できた。	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことができなかった。
競技及び個人の特性を理解し、安全にトレーニングができる	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことができた。	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことが7割程度できた。	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことが5割程度できた。	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことが3割程度できた。	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことができなかった。
知識・理解	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、心理的スキルも含め分析・考察ができた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、心理的スキルも含め分析・考察が7割程度できた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、心理的スキルも含め分析・考察が5割程度できた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、心理的スキルも含め分析・考察が3割程度できた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、心理的スキルも含め分析・考察ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	小山 尋明(建築学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小山 尋明)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバス説明)。	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	トレーニング実践 1 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
3	トレーニング実践 2 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
4	トレーニング実践 3 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
5	トレーニング実践 4 (フィジカルとメンタル) 職業レディネス・テストの実施(キャリア支援セン)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
6	トレーニング実践 5 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
7	トレーニング実践 6 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
8	試合分析 1 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
9	試合分析 2 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
10	試合分析 3 (心理的・コンディショニングの方法) 職業レディネス・テストのフィードバック(キャリア)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
11	試合分析 4 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
12	試合分析 5 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
13	試合分析 6 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
14	試合分析 7 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
15	試合分析 8 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
16	振り返りと確認	内容を確認し理解を深めておくこと(45分)	専門用語の意味を理解しておくこと(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

学生時代に創作し、制作した作品で地域に貢献するには、その地域や社会(企業)の理解や課題認識が必要であり、また、自らの学習成果を地域社会の中で試し検証する絶好の機会となる。更に、本学の教育理念に「必要とする人々のために新たな道を創造し、人々が共生しえる社会の実現をめざし、それを成し遂げる」を具現する活動でもある。そうした位置付けで、リサーチ・プランニング・クリエイション・プレゼン・制作活動まで一貫して実践する。

授業の位置づけ

全学科のDP 1、DP 2、DP5に対応する。(2024年度)  
 デザイン・建築学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。(2023・22年度)  
 全学科のDP 2、DP3、DP6、DP7、DP8、DP11に対応する。(2021年度)

到達目標

- (1) 制作活動を通して何を学ぶのか、各自の問題意識を明確にする。
- (2) 様々な活動場面に応じて、適切なコミュニケーションを取りながら、他者との関わりをもつ。
- (3) 各自の活動経験を振り返り、今後進めていく上での自己の学習課題を設定する。

授業全体の内容と概要

授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティビティを多く取り入れる。各自が問題意識を持ち、考察結果などをグループ全体で共有しながら、目標達成に向けて活動をする。地域との取り組みに自分のデザインを交えながら、どんなことができるのか考え楽しく活動する。

授業の方法

グループワークを中心とした活動が多いため、一人ひとりが自主性を持ち、他人任せになるようなことがないように、常に問題意識を持ち、議論しながら問題解決し、積極的に活動に励む。授業では、グループワーク、討論、ワークショップ等のアクティビティを多く取り入れる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

受講に関して以下の心構えがある学生を条件といたします。  
 社会に役立って達成感を得たり、自分に自信をつけたい人  
 やる気があり、最後まで活動をやり通す気力を持ち合わせている人  
 協力し合いながら目標に向かい活動を成功させることができる人  
 不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	30%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
積極性、社会理解	積極的にアイデアを出し、採用された。他人の発言を聞き、積極的に意見した。	積極的にアイデアを出した。他人の発言を聞き、十分な理解に努めた意見した。	それなりにアイデアを出した。他人の発言を聞き、十分な程度意見した。	アイデアを殆ど出せなかった。他人の意見をあまり理解できなかった。	アイデアを出せなかった。他人の意見を殆ど理解できなかった。
課題解決能力と創造性	仕事を的確に発見し、進め方を共有しあいながら適切に検討し、実行できた。	仕事を進んで発見し、進め方を適切に検討し、実行できた。	仕事を発見し、進め方を検討し、ある程度実行できた。	仕事をあまり発見できず、依頼されたことだけ実行できた。	仕事を発見できず、依頼されたことも、ほとんど実行できなかった。
コミュニケーション能力と行動力	他者をリードする態度で積極的に活動に取り組み、高いコミュニケーション能力と行動力がある。	自主的・協働的に活動に取り組み、コミュニケーション能力や行動力がある。	自らの考えでアクションを起すことはあまりないが必要なコミュニケーション能力や行動力はある。	自らの考えでアクションを起すことは最低限度のコミュニケーション能力や行動力はある。	自らの考えでアクションを起すことができない。最低限度のコミュニケーション能力や行動力もほとんどない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明	演習の準備 シラバスの熟読(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
2	Planning1	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
3	Planning2	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
4	Planning3	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
5	職業レディネス・テスト	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
6	Research activities 1	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
7	Research activities 2	事前に作業しておくなどの準備をすること(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
8	Creative activities 1	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
9	Creative activities 2	事前に作業しておくなどの準備をすること(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
10	職業レディネス・テスト フィードバック	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
11	Creative activities 3	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
12	Creative activities 4	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
13	presentation	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
14	presentation	事前に作業しておくなどの準備をすること(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
15	レポート・前期活動のまとめ	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
16	前期活動における総括と振り返り	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が就職活動を行う時に必要なSPIの基礎知識(非言語分野)及び解き方(思考過程)の基本をしっかりと身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)  
 全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)  
 全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP8に対応する。(2021年度)

到達目標

SPIの基礎知識(非言語分野)と解き方(思考過程)の基本を修得できる。

授業全体の内容と概要

金銭に関する問題、速さ・時間・距離、確率、推論、集合、論証、グラフの領域等を豊富な練習問題を解くことによって、SPIの基礎知識(非言語分野)と解き方の基本について実感をつかませる。

授業の方法

授業は、板書で実施し、板書にて説明しながら、演習を行う。課題は学生が提出後、解説を行う。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

ゼミナールの内容を十分に理解するために予習・復習を怠らず、また講義や演習に対して積極的に取り組むこと。レポート等の提出方法についてはゼミナール時間中に指示するので、ゼミナールを欠席することのないよう留意すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	30%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
SPIに必要な基礎知識の修得	SPIの基礎知識(非言語分野)及び解き方(思考過程)が100%理解できた。	SPIの基礎知識(非言語分野)及び解き方(思考過程)が90%理解できた。	SPIの基礎知識(非言語分野)及び解き方(思考過程)が80%理解できた。	SPIの基礎知識(非言語分野)及び解き方(思考過程)が70%理解できた。	SPIの基礎知識(非言語分野)及び解き方(思考過程)が70%も理解できなかった。
計算過程において必要な記述内容の修得	演習問題は解き方(思考過程)を100%記述したレポートになった。	演習問題は解き方(思考過程)を90%記述したレポートになった。	演習問題は解き方(思考過程)を80%記述したレポートになった。	演習問題は解き方(思考過程)を70%記述したレポートになった。	演習問題は解き方(思考過程)を70%も記述したレポートにならなかった。
思考過程のプレゼンテーション	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。また、質問にも正確に対応した。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	一部筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	筋道の立った思考過程のプレゼンテーションが出来なかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス及びシラバスの説明	シラバスを読んでおくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
2	濃度(1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
3	濃度(2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
4	濃度(3)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
5	職業レディネス・テストの実施(キャリア支援センター)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
6	速さ・距離・時間(1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
7	速さ・距離・時間(2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
8	速さ・距離・時間(3)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
9	ものの値段と個数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
10	職業レディネス・テストのフィードバック(キャリア支援センター)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
11	定価・原価・利益	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
12	割合と値段(1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
13	割合と値段(2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
14	仕事算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
15	表の読み取り	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
16	まとめ及び要点のフィードバック	総復習(45分)	総理解(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	向井 正伸(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、課題解決法や様々な事例を紹介する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

都市や建築を構想することは、行政や都市計画家、建築家だけの仕事ではない。住民や地域に係る皆が、より良い暮らしを考え実践した積み重ねが都市を形作る。ゼミでは、一人ひとりより良い未来を提案するための基礎を身につけることを目標とする。ゼミでは都市や建築を空間的な問題として扱う。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)  
 建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)  
 建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP8に対応する。(2021年度)

到達目標

都市や建築の変遷やその社会的背景を理解し、都市や建築について自分なりの意見をもつことができる。

授業全体の内容と概要

1年生での学びをさらに発展、空間的な提案力向上を目的とし、複数の課題を通して、各自の空間に対する興味や関心を掘り下げ、都市や建築空間の楽しみ方を学び、提案の幅を広げるトレーニングを行う。個人ワークを基本とし、調査・構想・表現を行う。SDGs3.すべての人に健康と福祉を SDGs11.住み続けられるまちづくりを SDGs12.つくる責任 つかう責任

授業の方法

課題の説明はパワーポイント等を用いる。また、課題表現として模型・スケッチ・レイアウト・プレゼンテーション等を用いる。模型製作に必要なカッターマット(A3サイズ推奨)、カッター、ポンド、定尺(15cm、30cm)、スコヤを用意すること。調査や作業、発表はPC作業となることから、各自のノートパソコンを準備すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

能動的な学習姿勢を望む。授業中に引用された建築、書籍に積極的に触れること。20分以上の遅刻は欠席とする。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	10%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理解度	授業内容を越えた自主的な学習を行なった。	授業内容を理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自分なりの意見をもつことができた。	授業内容を理解しなかった。
調査・課題解決能力	独自の視点で調査し、独自の視点で調査し、独自の手法で課題を解決することができた。	独自の視点で調査し、独自の手法で課題を解決することができた。	独自で調査し、課題を解決することができた。	アドバイスをもち、調査・課題を解決することができた。	アドバイスがあっても自発的に課題を解決することができなかった。
表現力	構想したものを、独自性のある手法で表現し、考えを第三者に共感させることができた。	構想したものを、独自性のある手法で表現し、考えを第三者に理解させることができた。	構想したものを、独自の工夫で表現することができた。	構想したものを表現することができた。	構想したものを表現できなかった。



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	向井 正伸(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、課題解決法や様々な事例を紹介する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明	シラバスを事前に把握する(45分)	紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
2	課題1(空間を楽しむ) 説明・調査	対象を事前に調べる(45分)	エスキスを反映しまとめる(45分)
3	課題1(空間を楽しむ) 作業	課題の関連事項を調べる(45分)	エスキスを反映する(45分)
4	課題1(空間を楽しむ) 発表	課題の関連事項を調べる(45分)	プレゼンをまとめる(45分)
5	職業レディネス・テストの実施(キャリア支援センター)	プレゼンをまとめる(45分)	発表を自己評価すること(45分)
6	課題2(模型) 課題説明	対象を事前に調べる(45分)	課題の関連事項を調べる。(45分)
7	課題2(模型) 作業	課題の関連事項を調べる(45分)	エスキスを反映する(45分)
8	課題2(模型) 作業	課題の関連事項を調べる(45分)	作品を仕上げる(45分)
9	課題2(模型) 発表	プレゼンをまとめる(45分)	発表を自己評価する(45分)
10	職業レディネス・テストのフィードバック(キャリア支援センター)	職業レディネステストについて調べる(45分)	職業レディネステストの感想を書く(45分)
11	課題3(設計提案) 説明・調査	対象を事前に調べる(45分)	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
12	課題3(設計提案) 作業	提案を事前に考える(45分)	エスキスを反映する(45分)
13	課題3(設計提案) 作業	提案を事前に考える(45分)	エスキスを反映する(45分)
14	課題3(設計提案) 作業	提案を事前に考える(45分)	エスキスを反映する(45分)
15	課題3 発表	プレゼンテーションをまとめる(45分)	発表を自己評価する(45分)
16	課題3 発表・まとめ	今までの授業を振り返る(45分)	学習を振り返り、自己評価を行う(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期		授業形態	演習・実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )					
授業担当者(所属・職名)	佐藤 恵利(国際交流センター・センター員)		研究室等所在	本部棟3階 国際交流センター		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 恵利)		CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	基礎ゼミ A			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応。					

概要

履修目標
大学間、または地域との交流活動に参加、また交流活動を企画、実施し、異文化理解、相互理解を得ること。

授業の位置づけ
交流を通じ、日本の時事問題や日本文化、日本の習慣などをトピックに挙げながら日本語の4技能を育成する。トピックを題材に、ディスカッションやグループワークなどの活動をし、自身の専門分野でも自分のことが十分に表現できる能力を身に付ける。日本文化や日本事情を通して「SDG3.すべての人に健康と福祉を」「SDG7.エネルギーをみんなに」「そしてクリーンに」「SDG10.人や国の不平等をなくそう」について考え、知識を深める。

到達目標
全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

授業全体の内容と概要
学内異文化交流会や合同授業の内容を企画し、準備、実施する。学生間での交流を通じ、相互理解や異文化理解を得る。交流では、母国紹介や母国の文化紹介等を行うこともある。それらを正しい日本語で伝えることや、他者からの意見を尊重することを学ぶ。大学祭ブースへの参加や、地域の施設見学等に参加し、地域交流を楽しむとともに、北広島市、北海道の問題や課題について考える。

授業の方法
教材は教師が用意する。教材は紙媒体だけでなく、プロジェクターやパソコン、レリアなどを使用する。授業は学生が主体となり、学生間で話し合いながら教師が与える課題や課題に取り掛かる。授業内では決まった人たちのコミュニケーションに終わらず、様々なクラスメートとグループワークやディスカッションをし、自分を表現できる能力を養う。その成果をプレゼンテーションやレポートで表す場合もある。レポートはテーマ、内容、正確さ、長さ、表現力の5項目で評価する。「内容」の項目は特に重要で、自分の言葉でわかりやすく表現できているかを評価する。「正確さ」では文法や文字表記の誤りを提示するので、各自でフィードバックすること。災害等の不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td>○</td> <td>フィールドワーク</td> <td>○</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td>○</td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL		模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業	○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL																	
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
遅刻、欠席をしないこと。15分以上の遅刻は欠席とみなす。3回遅刻すると1回の欠席とみなす。授業内は原則母語は禁止とする。学生間での交流でも授業中の母語が多い学生は評価に影響する。授業中は携帯電話や辞書、タブレットの使用は原則禁止とする。わからないことがあったら教師に聞くこと。平常点が評価に大きく影響する。授業中は真面目に取り組み、「日本語で表現できない」と思わずなんでもチャレンジすることが求められる。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件
全授業回数16回のうち、単位認定に必要な最低出席回数は13回とする。授業への参加、授業態度、ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。

評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>35%</td> <td>5%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	30%	30%	0%	35%	5%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	30%	30%	0%	35%	5%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>知識・技能</td> <td>自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の間違いがほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。</td> <td>自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法の間違いが目立つ。声の大きさが、発音もよかった。</td> <td>自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法、発音に問題があり、聞き取りにくかった。</td> <td>自身で考えているが、他者の協力がなく自分の言葉で表現することができないという姿勢が見られない。文法、発音に問題があった。</td> <td>他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようとする姿勢が見られない。文法、発音に問題があった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・日本語での表現力等</td> <td>毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加している。発言も多かった。</td> <td>毎回の授業に参加し、授業対し意欲的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱かった。</td> <td>最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいる。積極的に活動に参加していた。</td> <td>最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的であった。</td> <td>最低出席日数分授業に参加してあらず、授業態度も問題があった。</td> </tr> <tr> <td>主体性・多様性・協働性</td> <td>与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった。</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。</td> <td>与えられた課題に真面目に取り組まなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の間違いがほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法の間違いが目立つ。声の大きさが、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法、発音に問題があり、聞き取りにくかった。	自身で考えているが、他者の協力がなく自分の言葉で表現することができないという姿勢が見られない。文法、発音に問題があった。	他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようとする姿勢が見られない。文法、発音に問題があった。	思考力・判断力・日本語での表現力等	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加している。発言も多かった。	毎回の授業に参加し、授業対し意欲的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱かった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいる。積極的に活動に参加していた。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的であった。	最低出席日数分授業に参加してあらず、授業態度も問題があった。	主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識・技能	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の間違いがほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法の間違いが目立つ。声の大きさが、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法、発音に問題があり、聞き取りにくかった。	自身で考えているが、他者の協力がなく自分の言葉で表現することができないという姿勢が見られない。文法、発音に問題があった。	他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようとする姿勢が見られない。文法、発音に問題があった。																								
思考力・判断力・日本語での表現力等	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加している。発言も多かった。	毎回の授業に参加し、授業対し意欲的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱かった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいる。積極的に活動に参加していた。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的であった。	最低出席日数分授業に参加してあらず、授業態度も問題があった。																								
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。																								

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習・実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 恵利(国際交流センター・センター員)	研究室等所在	本部棟3階 国際交流センター		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 恵利)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	基礎ゼミ A		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバス、授業、評価の説明)、自己紹介・授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む・自己紹介の練習(45分)	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える(45分)
2	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
3	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
4	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
5	職業レディネス・テストの実施(キャリア支援センター)	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
6	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
7	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
8	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
9	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
10	職業レディネス・テストのフィードバック(キャリア支援センター)	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
11	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
12	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
13	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
14	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
15	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
16	前期学習範囲の総括および反省・最終課題の提出(担当:佐藤)	最終課題提出の準備(45分)	授業内容復習(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	大島康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 大島康雄)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

福祉現場で使われることが多い技術などを学ぶ。  
フィールドワークや参加を体験を通して、福祉の現場を学ぶ。  
チームワーク力を涵養する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023年)

到達目標

福祉に関する専門用語を覚える。  
自分に適した暗記方法を身につける。  
協調性を身につける。

授業全体の内容と概要

福祉現場で使われることが多い技術などを学ぶ。  
フィールドワークや参加を体験を通して、福祉の現場を学ぶ。  
他者を尊重しながら自己主張できるようになる。  
「SDG3:すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

基本は、テーマに沿ったグループワークでの展開とする。グループで課題に取り組み、代表者が発表をする展開とする。  
一部、講義形式で授業を展開する。講義の際は随時質問をするので答える事。  
随時記録物を提出する。記録物はコメントを添え返却する。  
内容により、使用する資料を配布する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は欠席とする。  
出席を重視するので遅刻や欠席をする場合は事前に連絡をすること。授業を妨害したり他者の学ぶ権利を侵害する場合は、注意をする注意をする注意をするが、改善がない場合には単位を認定しない。  
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

10回以上の出席があること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉の仕事の場で用いられることが多い技術を使うことができる。	相談援助技術を適切に使用できる。	相談援助技術を使用できる。	相談援助技術を助言の中、使用することができる。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
フィールドワーク、参加、体験を通じて、福祉現場を学ぶことができる。	フィールドワークなどに積極的に参加した。	フィールドワークなどに参加した。	フィールドワークなどを見学した。	見守りの中、フィールドワークなどを見学できた。	フィールドワークなどができなかった。
チームで目標を達成できる。	状況に応じてリーダーシップをとったら、他のメンバーへのサポートができた。	他のメンバーを尊重できた。	自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があってもできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	大島康雄(社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者: 大島康雄)		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						※使用しない。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						※使用しない。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術	相談援助技術を調べる。(45分)	相談援助技術をロールプレイする。(45分)
2	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術	相談援助技術を調べる。(45分)	相談援助技術をロールプレイする。(45分)
3	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術	相談援助技術を調べる。(45分)	相談援助技術をロールプレイする。(45分)
4	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術	相談援助技術を調べる。(45分)	相談援助技術をロールプレイする。(45分)
5	職業レディネス・テストの実施(キャリア支援センター)	職業レディネステストの準備を行う。(45分)	職業レディネステストの振り返りを行う。(45分)
6	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術	相談援助技術を調べる。(45分)	相談援助技術をロールプレイする。(45分)
7	中間まとめ	相談援助技術を調べる。(45分)	相談援助技術をロールプレイする。(45分)
8	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)
9	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)
10	職業レディネス・テストのフィードバック(キャリア支援センター)	職業レディネステストの振り返りをする。(45分)	フィードバックの振り返りを行う。(45分)
11	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)
12	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)
13	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)
14	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)
15	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)
16	まとめ	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関するさまざまな現象、表現、歴史を考えるを通して、大学での学修に必要な基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習によって学ぶ。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)  
 デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2022・2023年度)  
 デザイン学科のDP1、DP8に対応する。(2021年度)

到達目標

マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関する様々な事象、表現の特性、歴史などを考えるを通して、大学での学修に必要な基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習によって学び、自身の大学における活動と連動させながら新たな視点を獲得する。

授業全体の内容と概要

マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関する講義やグループワーク、ディスカッションを行い、作品の読解の仕方、文献調査の方法や発表資料の作り方などを学ぶ。後半では、各自で自身の活動と関連する作品について調査分析を行い、発表・ディスカッションを行う。

授業の方法

授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。  
 授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収のほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

自ら行う資料調査では、図書館などの機関を積極的に利用すること。個人発表では、自ら行った調査について短い時間でプレゼンテーションを行う。授業内でグループワークやディスカッションなどを行うので、積極的に参加すること。授業の内容は、集まった参加者の興味・関心等に合わせ適宜変更する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	30%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力(プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力)	授業で学んだことを超えて、自分の視点について他者に伝わりやすく述べ、他者と積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の視点について述べて、積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の意見を述べることができた。	促されれば自分の意見や考えを述べることができた。	授業内で自分の意見を述べられなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『文学・芸術は何のためにあるのか?』	吉岡洋、岡田映生編	東信堂	2009	978-4-88713-894-0	
2	『マンガ産業論』	中野晴行	筑摩書房	2004	978-4480873460	
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション 自己紹介など	シラバスを読んでおく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
2	学内施設・システムの活用方法(1) 文献調査の方法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
3	資料を読む(1) 文献の読解・調査	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
4	資料を読む(2) 文献についてのディスカッション	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
5	職業レディネス・テストの実施(キャリア支援センター)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
6	読解の仕方、調査・発表資料の作り方などを学ぶ(1) 作品分析: 近藤聡乃のマンガ作品を例に	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
7	読解の仕方、調査・発表資料の作り方などを学ぶ(2) 作品分析: 近藤聡乃のアニメーション作品を例に	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
8	読解の仕方、調査・発表資料の作り方などを学ぶ(3) プレゼンテーションの方法とレポートの書き方	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
9	個人発表(1)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
10	職業レディネス・テストのフィードバック(キャリア支援センター)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
11	個人発表(2)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りをする(45分)
12	個人発表(3)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りをする(45分)
13	個人発表(4)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りをする(45分)
14	個人発表(5)	レポート作成の準備をする(45分)	レポートを作成する(45分)
15	まとめ	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく(45分)	授業内容を復習する(45分)
16	期末レポートの解説 フィードバック	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく(45分)	授業内容を復習する(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	千葉 聡美(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 千葉 聡美)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、公務員としての資質向上に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標	公務員という仕事の理解を深めるため、行政各種の取り組みを調べ、自らの向かうべき公務員の姿を明らかにして、そのために必要な学習を自ら行えるようにする。
授業の位置づけ	全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023年度)

到達目標	行政の制度や服務について概要を理解することができる。 社会人として必要な基礎学力とマナーを身に付けることができる。
------	--

授業全体の内容と概要	公務員の種類と職務について調べ学習 行政の機構と今日的課題についてリサーチ SP13対策を通した一般教養の学修 漢字検定等への参加 「SDG11 住み続けられるまちづくりを」の関連内容
------------	--

授業の方法	任意のテーマを選択し、計画、調査、探究、整理、資料作成等の一連の活動を行う。 公務員として求められる一般教養、文筆力、語彙力の向上のための演習を行う。 資料内容、発表内容等に対する振り返りや、自己評価を下にしたフィードバックを行う。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	教育または行政に強い関心がある者とする。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
----------	---

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
---------------	---

資格指定科目	
--------	--

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上とする。												
評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>10%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	20%	50%	0%	20%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
0%	20%	50%	0%	20%	10%								

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、関連する事項にも知識を深めることができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが達成は十分ではなかった。	学修した知識・技能を期待するレベルまで到達することができなかった。
テーマに基づく内容の整理、資料作成、報告、発表等による思考等の思考力、判断力、表現力の向上	内容的確かつ発展的に整理し、理解しやすい報告、発表等をおして、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	内容を的確に整理し、理解しやすい報告、発表等をおして、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	内容を整理し、報告、発表等をおして、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	内容を整理し、報告、発表等をおして、部分的に思考力、判断力、表現力を高めることができた。	内容を整理できず、報告、発表等をする事がなかったため、思考力、判断力、表現力を高めることができなかった。
授業への参加意欲や学修に向かう姿勢・態度	授業には意欲的に参加し、常に自ら課題を見つけ積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、自ら課題を見つけ積極的に取り組むことができた。	授業に関心をもって参加し、自ら課題を見つけ関心をもち、自ら取り組むことができた。	授業に対して程度関心をもち、自ら取り組むことができた。	授業に対して消極的であり、自ら行動して取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	千葉 聡美(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 千葉 聡美)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、公務員としての資質向上に関連する指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(取組の概要、シラバスの説明等)一般的な発達論の考え方等について	シラバスを読む(45分)	説明内容を整理する(45分)
2	公務員の種類と服務について 漢字小テスト 自己アピール文作成	公務員について調べる。漢字練習(45分)	内容を整理し復習する(45分)
3	公務員の種類と服務について 漢字小テスト 自己アピール文作成	公務員について調べる。漢字練習(45分)	内容を整理し復習する(45分)
4	公務員の種類と服務について 漢字小テスト 文章読解と要約	公務員について調べる。漢字練習(45分)	内容を整理し復習する(45分)
5	職業レディネステスト(キャリア支援センター)		
6	公務員の種類と服務について 漢字小テスト 文章読解と要約	公務員について調べる。漢字練習(45分)	内容を整理し復習する(45分)
7	公務員の種類と服務について 漢字小テスト 文章読解と要約	公務員について調べる。漢字練習(45分)	内容を整理し復習する(45分)
8	公務員の種類と服務について 漢字小テスト 文章読解と要約	公務員について調べる。漢字練習(45分)	内容を整理し復習する(45分)
9	公務員の倫理について 漢字小テスト 文章読解と要約	公務員について調べる。漢字練習(45分)	内容を整理し復習する(45分)
10	職業レディネステストフィードバック(キャリア支援センター)		結果を自己分析する(45分)
11	公務員の倫理について 漢字小テスト 文章読解と要約	公務員について調べる。漢字練習(45分)	内容を整理し復習する(45分)
12	自治体の行政について 漢字小テスト 英語読解	各自治体のHPを閲覧する。漢字練習(45分)	内容を整理し復習する(45分)
13	自治体の行政について 漢字小テスト 英語読解	各自治体のHPを閲覧する。漢字練習(45分)	内容を整理し復習する(45分)
14	自治体の行政について 漢字小テスト 英語読解	各自治体のHPを閲覧する。漢字練習(45分)	内容を整理し復習する(45分)
15	自治体の行政について 漢字小テスト 英語読解	各自治体のHPを閲覧する。漢字練習(45分)	内容を整理し復習する(45分)
16	自治体の行政について 漢字小テスト 英語読解	各自治体のHPを閲覧する。漢字練習(45分)	内容を整理し復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

基礎ゼミナール A・Bを土台とし、ライフコースが多様化した現代社会でのキャリア形成に向けて「働くこと」や「職業活動」の意義を考察し、理解を目指す。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

ライフコースの多様化、労働および職業について単に知識を習得するだけでなく、自らの問題として考える姿勢をもつ。

授業全体の内容と概要

まず、受講者がどのようなキャリア形成.....働くこと、仕事、職業、活動分野.....を目指すのか意識することを促し、現代社会の中での可能性を考察する。  
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は対話形式と板書筆記を併用して行ない、必要な場合には資料を配布する。テーマによっては小文を提出してもらい、概要を発表する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	○	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習		反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自らが考える「主体的・能動的」な姿勢での参加が必要である。  
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限確認できるレベルにとどまっていた。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力等	ゼミナールテーマに積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えて考察できていた。	ゼミナールテーマに積極的に取り組み、求められるレベルで考察できていた。	ゼミナールテーマに取り組み、広く一般的水準の考察に達していた。	ゼミナールテーマに取り組み、考察が最低限の水準にとどまっていた。	ゼミナールテーマへの取り組みが不十分で、内容が理解されていなかった。
テーマへの分析力・主体性	ゼミナールテーマについて、現代社会の中の自己の問題として十分に主体的分析できていた。	左記事項について、主体的分析が概ねできていた。	左記事項について、広く一般的水準の分析には達していた。	左記事項の分析が最低限の水準にとどまっていた。	分析が最低限の水準に届かず、ゼミナールテーマが理解されていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	科目ガイダンス ゼミ内容等シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの事前確認(45分)	ガイダンス内容および履修登録結果確認(45分)
2	現代社会の「労働」 1.「労働」観の移り変わり	「働くこと」に対する自分の価値観の意識化(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
3	. 1.(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
4	. 1.(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
5	職業レディネス・テストの実施(キャリア支援センター)	レディネス・テストの意義確認(45分)	レディネス・テストの振り返り(45分)
6	. 2. 現代の「労働」の特質	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
7	. 2.(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
8	現代社会の「職業」 1.「職業」活動の意味	「職業」とはどのような活動であるかの意識化(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
9	. 1.(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
10	職業レディネス・テストのフィードバック(キャリア支援センター)	レディネステスト結果の自己予想(45分)	レディネステスト結果の自己確認(45分)
11	. 1.(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
12	. 2. 「職業」の選択に向けて	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
13	. 2.(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
14	. 2.(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
15	前期学生生活の振り返り 授業改善アンケートの実施	前期のすべての活動の振り返り(45分)	振り返り内容の再確認(45分)
16	総括・振り返り	15回分の内容の振り返り(45分)	総括の再確認(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	河田 一郎(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 河田 一郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

基礎ゼミナール に引き続き、建築・絵画・音楽などウィーン文化を考察する。さらにドイツ語学修に動きを置き、ドイツ語検定試験5級合格のための基礎を固める。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

ドイツ語検定試験5級合格のための基礎を固める。観光・留学などドイツ語圏で困らない程度の日常会話を身につける。

授業全体の内容と概要

ドイツと言えば、クラシック音楽である。クラシックをBGMに用いたリラックスした学習環境の中で、ドイツ語の文法と会話を学修する。「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では板書をしながら、ドイツ語の文法・文化を紹介する。ドイツのDVD等も見て講義形式で行う。また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

ウィーンを含めたヨーロッパの絵画、建築、音楽等に興味があり、ドイツ語を修得したい学生であればだれでも受講可能。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規定等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限確認できるレベルにとどまった。	学修した知識が修得できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組み、最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組みなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題には積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組みなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	河田 一郎(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 河田 一郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	【ガイダンス】 授業の進め方・シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明。	シラバスの内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
2	【ドイツ語の発音について】 基本的な発音、ドイツ語特有な発音について学習する。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
3	【ドイツ語の動詞について】 動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
4	【不規則変化動詞について】 不規則変化動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
5	職業レディネス・テストの実施(キャリア支援センター)	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
6	【名詞と冠詞について】 名詞と冠詞について学び、格変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
7	【名詞の複数形について】 ドイツ語の名詞の複数形について学び、格変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
8	【特殊な動詞の変化について】 特殊な動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
9	【特殊な動詞の変化について】 特殊な動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
10	職業レディネス・テストのフィードバック(キャリア支援センター)	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
11	【前置詞について】 ドイツ語の前置詞について学び、英語との違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
12	【3・4格支配の前置詞について】 3・4格支配の前置詞について学び、3格と4格の違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
13	【接続詞について】 ドイツ語の接続詞の特徴を学び、文章を書き換えることができる。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
14	【ヒアリング練習】 ヒアリングに関するポイントを学ぶ。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
15	【ドイツ語検定5級について】 問題の傾向と対策を学ぶ。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
16	【前期学修内容の復習】 前期で学んだ文法項目をチェックする。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )					
授業担当者(所属・職名)	木村 浩紀(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 木村 浩紀)		CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

教師に求められる能力、使命感や責任感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的な知識、実践的指導力、総合的人間力、コミュニケーション能力、ファシリテーション能力等を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

教育の諸課題についてその概要を理解することができる。  
教師に必要な知識・技能等について、理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

教育の諸課題について、各回のテーマごとに考える。  
教育にかかわる法令、答申などの通読  
教育に関する諸課題についての調べ学習  
教師に求められる教職教育等の学修  
SDG4「質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

教育にかかわる法令、答申などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッション等を行う。  
教育課題に関するキーワードについての調べ学習及びその発表を行う。  
教師に求められる教職教育等について演習を行う。  
課題や発表等に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。  
板書や教材提示装置を活用する。  
Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。  
サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。  
各自、ノートを用意すること。(ルーズリーフは不可)  
プリント類はフラットファイルに格納し、毎回授業に持参すること。  
オンライン授業やハイブリッド授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	20%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
課題に取り組む意欲・態度	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	木村 浩紀(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 木村 浩紀)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する指導を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『別途案内する』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明含む) ・自己紹介 ・教員法について	教育の諸問題についてまとめること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
2	教育政策・教育行政と法 ・関係資料の通読 ・ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
3	日本国憲法の教育条項 ・関係資料の通読 ・ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
4	日本国憲法の教育条項 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
5	職業レディネス・テストの実施(キャリア支援センター)	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	今後の進路について考え、整理すること。(45分)
6	教育基本法 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
7	国・地方の教育行政の組織・機能と法 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
8	国・地方の教育行政の組織・機能と法 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
9	教育委員会制度と法 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
10	職業レディネス・テストのフィードバック(キャリア支援センター)	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	今後の進路について考え、整理すること。(45分)
11	教育財政と法 関係資料の通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
12	教育財政と法 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
13	学校制度・就学制度と法 関係資料の通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
14	学校制度・就学制度と法 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
15	教育免許・養成制度と法 関係資料の通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
16	教育免許・養成制度と法 学修発表 前期の学修の総括及び反省	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	1年間の学修を振り返り、自己評価を行うこと。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	マーケティング論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	鈴木重政(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木重政)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照 Teamsによるチャットは平日午前9時から午後5時まで対応				

概要

履修目標

マーケティング論の基本を習得すると共に、実践に活用できるマーケティング的な思考・発想が身につく。

授業の位置づけ

経営学科のDP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

マーケティング論の基本を習得すると共に、実践に活用できるマーケティング的な思考・発想が身につく。

授業全体の内容と概要

マーケティングのプロセス、マーケティングミックス4P(製品、価格、チャネル、販売促進の各領域)の体系的理解を重点とする。また、身近な事例を学ぶことでより実践的なマーケティングを理解する。

授業の方法

パワーポイントによるプロジェクター投影と配布レジメによる講義とディスカッションをまじえた授業を行い理解度を高める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席を重視し、15分以上の遅刻・途中退出は欠席扱いとする。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(商業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
マーケティングの戦略プロセスの基本的理解。	戦略プロセスの基本を完全に理解し、事例に対し自らの革新的な戦略プロセスを策定できる。	戦略プロセスの基本を十分に理解し、事例に対し自らの戦略プロセスを策定できる。	戦略プロセスの基本的を理解し、事例に対し戦略プロセスを当てはめることができる。	戦略プロセスの基本を理解できる。	戦略プロセスの基本を理解していない。
マーケティング環境分析及びUS・T・Pの理解。	環境分析、STPの基本を完全に理解し、事例に対し自らの環境分析による革新的なSTP戦略を策定できる。	環境分析、STPの基本を十分に理解し、事例に対し自らの環境分析、STP戦略を策定できる。	環境分析、STPの基本を理解し、事例に対し現状の環境分析、STPを当てはめることができる。	環境分析、STPの基本を理解できる。	環境分析、STPの基本を理解していない。
マーケティングのブランド戦略、ブルーオーシャン戦略等の理解。	ブランド等の戦略の基本を完全に理解し、事例に対し自らの革新的な戦略を策定できる。	ブランド等の戦略の基本を十分に理解し、事例に対し自らの戦略を策定できる。	ブランド等の戦略の基本を理解し、事例に対し戦略を当てはめることができる。	ブランド等の戦略の基本を理解できる。	ブランド等の戦略の基本を理解していない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	マーケティング論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	鈴木重政(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木重政)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	アフターコロナのマーケティング ケース1 USJとディズニーリゾート 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
2	4つのコンセプト ケース2 アップル	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
3	マーケティング戦略 ケース3 スターバックス	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
4	SWOT分析 ケース4 JR北海道	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
5	市場需要 ケース5 藤丸	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
6	顧客ロイヤリティ ケース6 スバル	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
7	消費者市場 ケース7 ナイキ	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
8	ビジネス市場 ケース8 SAP	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
9	市場セグメントとターゲティング ケース9 セコマ	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
10	ブランド・エクイティ ケース10 グーグル	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
11	ポジショニング ケース11 P&G	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
12	ライフサイクル ケース12 スタインウェイ	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
13	サービス設計	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
14	価格戦略 ケース14 プレステーション	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
15	バリューネットワーク ケース15 ユニクロ	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
16	試験 授業改善アンケート実施	試験に向け全体を復習する。(90分)	試験及び解説を受けて講義全体を復習する。(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・公民科教育法 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	松下 守邦(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム(本科目)には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

授業の目的は、以下の2つが具体化内容である。  
 中学校社会科の公民的分野、高等学校公民科における資質育成のねらい、教科内容を学修する。  
 授業実践のための教材作成を学修する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP2、DP3、DP5に対応する。(2022年度)

到達目標

・社会福祉学の学科専攻領域をこえ、広く社会科学の専門性を理解し説明できる。  
 ・専門知をふまえて高等学校、中学校レベルの学習内容を抽出できる。  
 ・授業づくりは、「ここは重要だから、アンダーラインを引いておこうではない。学んだことを活用して他の事例についておなじことがいえるかを見つける」学びである。(編譯実業 2022:76)  
 ・公民的資質の育成にもとづく分析説明ができる。教科学習内容の概念的枠組みを説明できる。教材研究に主体的な取り組みができる。  
 下記ルーブリックの合格最低レベル(C)、到達目標にとどまることのないよう留意する。相対性と絶対性を動察するのでベストを尽くすこと。

授業全体の内容と概要

「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。  
 公民科の教科目標と内容を把握し、学習指導理論をふまえ、デジタルコンテンツ、大学図書館等の資料を利用するうえで学術資料の信頼性と妥当性を確保し、現代社会における社会的現象等についての概念や理論を教材研究するため、公民科教科指導方法の基礎を学修する。  
 授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

・前期10科目では、教材研究を主におこなう。講義形式と作業提出が学修の主になる。  
 ・文献読解、教材の取捨選択作業をおこなう。(PBL 問題基礎型学習 プレゼンテーション)  
 ・教育機関HPを閲覧し実践資料を収集する。(AL; その他 情報機器利用)  
 ・授業中の作業課題報告と文献読解レポートは評価対象になる。  
 ・「課題に関する説明-課題に対するフィードバック」:各課題フィードバックを次の授業にて模範回答例が紹介されるので、次回の課題提出の改善材料として利用してほしい。  
 ・大学から交付される学生メールアドレスを使い、マイクロソフトTeams科目チャネル、Formsを学修利用する。パソコンスキル(レポート作成、準備学修の確認、教員への授業外連絡など、情報通信機器利用マナー)を高めていく。  
 ・「要望等への対応方法」:授業の課題の取り組みなど質問、要望、相談は、随時、対応する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。  
 ・教職課程科目(中学社会・高校公民)必修。教材研究は、単に教えられたことを暗記し再現するものでなく、「深い理解、深い学習、深い関与」(松下佳代;2015)のアウトプットである。  
 ・新聞記事時事ニュースを収集する。「試験に出るところや楽して点を取る方法を伝える」ことではない「勉強の面白さを伝える」ための学修準備をする。  
 ・「社会科・公民科教育法」,「社会科・公民科教育法」は、順序性のある段階的履修が基本である。単独目履修希望の場合、教員に事前相談してほしい。  
 ・「社会科・公民科教育法」に「社会科・公民科教育法」の指定テキストは共通のものである。  
 ・教職課程学生は、教員の出陣に立つ行動がもたらされる。中学・高校時の公民系教材(教科書、ノート)を準備する。  
 ・授業関連情報コースバケットをマイクロソフト社Teams科目チャネル、過去の科目情報は、大学HP教員個人ページにあるので参照すること。  
<https://www.seisadohto.ac.jp/~mmatsu/index.html>

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。  
 高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進めるので、授業開始前に授業者へ相談すること。

資格指定科目

教職課程(社会・公民)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定のためには、授業第1回から第15回までに計10回以上の出席が必要になる。  
 ・文献読解(読解);文献要旨報告、文部省(2018)、プレゼンテーション;口頭発表をおこなう。学修のまとめとしてレポート作成提出する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	60%	0%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
テキスト資料により学修した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することできる。情報分析力として学ぶことについて、複数例をあげながら、自分の言葉でていねいに説明ができた。	テキスト資料の要旨をていねいにまとめてあり、これまでの学修内容のいくつかを関連づけて説明ができた。	テキスト資料の要旨をまとめてあり、これまでの学修内容のいくつかを関連づけて説明ができた。	テキスト資料の要旨をまとめてあり、新しく学ぶことについて、自分の言葉で説明ができた。	テキスト資料の要旨は、改善の余地があるが、まとめられている。新しく学ぶことについて、改善の余地はあるが、自分の言葉で説明ができた。	テキスト資料の要旨をまとめる作業が難しい。新しく学ぶことについて、説明は難しく、知識・技能は修得できなかった。
文献資料の信頼性を保ちながら、学術概念を使って考察すること、客観的立場から社会的現象について論理的に分析表現をすることができる。思考力・判断力・表現力	課題に関連して、信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用している。新しく学ぶことは、自らの知見と既知の事項を整理して表現することができた。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、適切な手紙で引用している。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現ができた。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、引用している。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現ができた。	課題に関連して、改善の余地があるが、文献資料を適切に引用している。新しく学ぶことは、充分ではないが、これまでのものを関連づけて表現ができた。	課題に関連して、文献資料を選び、引用することが難しい。新しく学ぶことは、表現することが難しく、思考力・判断力・表現力は修得できなかった。
大学の学修環境を創造するメンバー(教職課程の教生)として自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めることとする。関心・意欲・態度	大学生(教職課程の教生)として役割と責任を自覚し、積極的、協同的に行動することができた。	大学生(教職課程の教生)として役割は、おおむね理解しており、行動することができた。	大学生(教職課程の教生)として自分の役割は、基本的な行動をすることができた。	大学生(教職課程の教生)として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	大学生(教職課程の教生)として自分の役割は、自らの理解して行動することが難しく、関心・意欲・態度はみられなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・公民科教育法 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	松下 守邦(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校社会 公民 ともに生きる』	成田 ほか	教育出版	2020		17教出公民902(中学検定済)
2	『詳述公』	中村 ほか	実教出版	2021		7実教公民703(高校検定済教科)
3	『ズ-ムアップ公共資料 2024』	実教出版編集部	実教出版	2024	9784407363128	
4	『中学校社会科教育の実践と方法』	小泉博明 ほか	清水書院	2015	9784389225735	
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会科』	文部科学省	東京書籍	2018	9784491034713	https://www.mext.g
2	『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 公民科』	文部科学省	東洋館出版社	2019	9784487286331	https://www.mext.g
3	『ベストをつくす教育実習-強みを活かし実力を伸ばす』	岡井 美紀/遠藤野ゆり	有斐閣	2017	9784641174320	
4	『詳説政治・経済研究 第3版』	藤井剛	山川出版社	2016	9784634050242	
5	『中学校社会 指導スキル大全』	梅津正美	明治図書	2022	9784184522336	

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス; シラバスの説明、前年度本科目、授業改善アンケート結果反映の説明 公民科の教育目標と教科内容の基礎理解	シラバスをあらかじめ確認する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
2	中学校社会科と公民の資質	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
3	高等学校公民科と公民の資質	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
4	問題解決学習と課題解決学習	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
5	概念的枠組み、事実的知識と汎用的理論	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	授業1-5回学習整理する。(90分)
6	資料作成の概念	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	教育課程企画特別部会資料を確認する。(学習の浅さと深さ)(2015/03/24/1355105_07.pdf)(90分)
7	時案作成の概念	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
8	教科書の理解、学習指導要領と教科書	テキスト(検定教科書)、学習指導要領を予習する。(90分)	文科省HP 現行学習指導要領(本文、解説、資料等)を確認する。(90分)
9	教科書の理解、本文、図表、重要用語	テキスト(検定教科書)、学習指導要領を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。図書情報館、専門辞典の確認(90分)
10	教科書の理解、中学校公民科の分野と高校公民の比較	テキスト(検定教科書)、学習指導要領を予習する。(90分)	学習課題(中学校、高校の教科書比較)作成提出する。(90分)
11	教科書の理解、高校公民同一教科各教科書の記述分析	テキスト(検定教科書)、学習指導要領を予習します。(90分)	学習課題(高校同一教科の教科書比較)を作成提出します。(90分)
12	教科書の理解、教科書と副教材資料集	テキスト(検定教科書)、学習指導要領を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。教職センター資料の確認する。(90分)
13	教科書の理解、まとめ	テキスト(検定教科書)、学習指導要領を予習します。(90分)	授業6-13回の学習整理をします。(90分)
14	教育実践支援ICT、政府研究所HP、教育委員会HP	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	川嶋直KP法、YouTubeチャンネルKP法を学習する。(90分)
15	公民科の教育目標と学習内容の基礎理解、総括	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	授業全体の学習整理する。(90分)
16	本科目のまとめ(授業総括と学修の教員講評) 授業改善アンケートの実施	全授業のまとめを準備する。(90分)	全授業を振り返り、学習内容の内省的レポートを期日までに提出する。(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	平面構成 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	グラフィックデザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

デザインの成り立ちに於いて重要とされる要素(エレメント)と原則(プリンシプル)を平面上の造形を通じて学ぶことにより、後に様々な制作活動で応用可能な造形力を養う。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)  
 デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2023・2022年度)  
 デザイン学科のDP1、DP2、DP5、DP7に対応する。(2021年度)

到達目標

デザインの要素(エレメント)である「色」「形」「線」「スペース」「バランス」「テクスチャ」「フォーム」「明暗」の存在を実感し、それらを「統一性」「調和」「多様性」「強弱」などの原則(プリンシプル)を理解した上で効果的に演出し、作品制作に応用できる造形力を身に付ける。

授業全体の内容と概要

与えられたテーマやモチーフを基に平面を表現する課題の繰り返しを行う。  
 課題の内容については、段階を経て複雑かつ高度な内容へと進化するように設定する。

授業の方法

各課題作品のテーマや補助的な知識について適宜講義し、制作を進めて行く。  
 制作は伝統的なアナログ作業とし、デジタルでの制作は行わない。  
 画材はアクリルガッシュ、筆、パレット、鉛筆、定規、コンパス、カッターナイフ、スケッチブックなどを用い、課題の提出形態はA3サイズのケントボードを用いる。  
 不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

制作に必要な画材(アクリルガッシュ、筆、パレット、鉛筆、定規、コンパス、カッターナイフ、スケッチブック、ケントボードなど)を各自用意し、毎授業に持参すること。  
 課題によっては上記の他にも必要な画材が発生する可能性があるが、その際は授業の中で指示する。  
 不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。  
 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。  
 板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

教職課程(美術)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
画材の扱い方を習得しており、丁寧な作業ができる。	画材の扱い方に慣れており、丁寧な仕上がりを意識しながら作品を完成させることができる。	画材の扱い方に問題はなく、丁寧な仕上がりを意識した作業ができる。	画材の扱い方に未熟な点はあるが、概ね正しい作業ができる。	画材の扱い方については作業が可能な最低限と言える。	画材を全く使いこなせていなかった。
テーマを理解し、その内容に沿った課題の制作が行える。	十分に理解し、制作が行っていた。	概ね理解し、作業に取り組んでいた。	不十分ではあるが、理解している部分があった。	あまり理解できていなかった。	全く理解できていなかった。
デザインの要素(エレメント)と原則(プリンシプル)を理解しながら、効果的に演出した制作を行える。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが、出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	平面構成 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務。グラフィックデザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験に基づいて指導をする経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 ガイダンス-平面構成の作品鑑賞	シラバスの確認(90分)	情報の整理と画材のまとめ(90分)
2	デザインの要素(エレメント)と原則(プリンシプル)	シラバスの確認(90分)	情報の整理(90分)
3	実験「画材について」	シラバスの確認(90分)	実験の復習(90分)
4	実験「画面の分割・作図・着彩」	シラバスの確認(90分)	実験の復習(90分)
5	基礎的な実験課題	シラバスの確認(90分)	課題の制作(90分)
6	基礎的な実験課題	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
7	基礎的な実験課題	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
8	基礎的な実験課題	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
9	講評	課題の制作(90分)	講評内容の整理(90分)
10	幾何形体を用いた課題	シラバスの確認(90分)	課題の制作(90分)
11	幾何形体を用いた課題	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
12	幾何形体を用いた課題	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
13	幾何形体を用いた課題	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
14	幾何形体を用いた課題	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
15	プレゼンテーション - 講評	課題の制作(90分)	講評内容の整理(90分)
16	平面構成 の予告 授業改善アンケートの実施	講評内容の整理(90分)	平面構成 の予習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	色彩環境論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安田 祐造)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年以上にわたり画家として色彩に関わって来たことと、当科目については、過去に10年以上本学で担当した実績を有する。、		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
美術に携わる者にとり、色彩を抜きにしては語れない必須の要件である。色彩についての基本を体得し、作品の制作に活用させられるようにすること。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP 1、DP 3、DP4に対応する科目(2024年度) デザイン学科のDP 1、DP 3に対応する科目(2022年度、2023年度) デザイン学科のDP 1、DP7に対応する科目(2021年度)

到達目標
無数にある色彩を識別し分類することができるようにすること。及びポスターカラーを用いて、正確な色彩を作り出せるようにすること。

授業全体の内容と概要
色彩の分類、配色の仕方、光と色の関係、色彩の心理的效果、色の名前等について、テキストに沿って講義し、適宜、それぞれの項目について、ポスターカラーを用いての実習を行ってもらう。

授業の方法
テキストの中身や補足的な資料をパソコンとプロジェクターとを利用し講義する。そして適宜重要な点について、色材を用いて色彩をより正確に再現したり、美しく描写したりできるように訓練を行う。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	P B L
模範授業	○	ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
テキストだけでなく、スケッチブックや絵の具などの用材をすべて揃えられることを前提に履修登録を行うこと。

修学サポート(合理的配慮)
---------------

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック					
--------	--	--	--	--	--

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
色彩の三属性について、それぞれを識別できているか。	色彩の三属性それぞれについて、十分に理解し、微妙な差異を感じ取り、十分に正確に表現できている。	色彩の三属性それぞれについて、ほぼ理解し、あらかたの差異を感じ取り、ほぼ正確に表現できている。	色彩の三属性それぞれについて、ある程度理解し、大まかな差異を感じ取り、ある程度正確に表現できている。	色彩の三属性それぞれについて、不十分ながら理解し、少しは差異を感じ取り、不十分ながら表現できている。	色彩の三属性それぞれについて、理解できておらず、差異を感じ取れず、表現できていない。
効果的な配色を行えるか。	配色のルールについて、十分に理解し、十分効果的に表現できている。	配色のルールについて、ほぼ理解し、ほぼ的確に表現できている。	配色のルールについて、ある程度理解し、ある程度の確に表現できている。	配色のルールについて、不十分ながら理解し、不十分ながら表現できている。	配色のルールについて、理解できておらず、表現できていない。
絵の具や筆等の用材を的確に使用できているか。	絵の具の水分量の調整を微妙なところまで行えて、筆の扱いも巧みに的確に行えている。	絵の具の水分量の調整をほぼ十分に行えて、筆の扱いもほぼ的確に行えている。	絵の具の水分量の調整をある程度行えて、筆の扱いもある程度の確に行えている。	絵の具の水分量の調整を不十分ながら行えて、筆の扱いも不十分ながら的確に行えている。	絵の具の水分量の調整を行えず、筆の扱いも的確に行えていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	色彩環境論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安田 祐造)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	60年以上にわたり画家として色彩に関わってきたこと、当科目については、過去に10年以上本学で担当した実績を有する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『色彩検定 出る順』	カラポ色大学	ナツメ社	2020年	9784816368707	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業計画について、テキスト、用材について色の三属性についての概説	あらかじめ必要なテキストや用材を準備しておく。(90分)	色の三属性について復習する。(90分)
2	色相と色相環について	色相と色相環について予習しておく。(90分)	色相と色相環について復習し、色相環図に不備がある場合には修正しておく。(90分)
3	明度について	明度について予習しておく。(90分)	明度について復習し、作図に不備がある場合には修正しておく。(90分)
4	彩度について	明度について予習しておく。(90分)	彩度について復習し、作図に不備がある場合には修正しておく。(90分)
5	色立体について純色、清色、中間色について	色立体の構造と純色等について予習しておく。(90分)	色立体の構造と純色等について復習し、作図に不備がある場合には修正しておく。(90分)
6	トーンについて	トーンについて予習しておく。(90分)	トーンについて復習し、分布図に不備がある場合には修正しておく。(90分)
7	配色についての概説色相差による配色	配色について予習しておく。(90分)	配色について復習し、作図に不備がある場合には修正しておく。(90分)
8	トーンから考える配色	トーンから考える配色について予習しておく。(90分)	トーンから考える配色について復習し、作図に不備がある場合には修正しておく。(90分)
9	アクセントカラーとセパレーションについて	アクセントカラーとセパレーションについて予習しておく。(90分)	アクセントカラーとセパレーションについて復習し、作図に不備がある場合には修正しておく。(90分)
10	光と色について	光と色について予習しておく。(90分)	光と色について復習し、作図に不備がある場合には修正しておく。(90分)
11	混色について	混色について予習しておく。(90分)	混色について復習し、作図に不備がある場合には修正しておく。(90分)
12	色彩の心理について	色彩の心理について予習しておく。(90分)	色彩の心理について復習し、作図に不備がある場合には修正しておく。(90分)
13	色の視覚的効果について	色の視覚的効果について予習しておく。(90分)	色の視覚的効果について復習し、作図に不備がある場合には修正しておく。(90分)
14	配色イメージについて	配色イメージについて予習しておく。(90分)	配色イメージについて復習し、作図に不備がある場合には修正しておく。(90分)
15	色の名前について	色の名前について予習しておく。(90分)	色の名前について復習しておく。(90分)
16	総括とまとめ	これまでの学習について総括しておく。(90分)	これまでの学習について総括し、これまでのすべての作図に不備がある場合には修正しておく。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	西洋美術史 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ルネサンス以降の西洋の絵画を中心とする美術の歴史を理解する。各時代を代表する画家の主要作品を通して、西洋美術に慣れ親しむとともに、その画家や作品を生み出した社会や文化に対する理解を深める。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)  
 デザイン学科のDP1、DP2、DP4に対応する。(2022・2023年度)  
 デザイン学科のDP1、DP4、DP5、DP7に対応する。(2021年度)

到達目標

西洋美術史の時代区分、様式、流派、個々の美術作品などに対する基礎的な知識を習得する。個々の作品の特徴や社会的背景などについて自分の言葉で説明することができる。

授業全体の内容と概要

西洋美術の流れを概観し、具体的な作品を取り上げながら、個々の美術作品の特徴や時代区分、様式、流派について学び、作品の背景にあるものを含めて、美術作品を「視る」能力を高める。

授業の方法

講義形式で、パワーポイントやレジュメ、視聴覚メディア等を使って実施する。グループワークやディスカッションも取り入れる。授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

事前学習として、授業内で取り上げる作品について事前にテキストやインターネット等で予習し、事後学習として取り上げた作家の他の作品について調べると、理解が深まる。教科書は西洋美術史でも使用するため、必ず購入すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程必修 高・美術、工芸

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
30%	0%	0%	30%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
美術史の内容に対する理解度	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力	他人が納得できるように、自分独自の視点を論理的妥当性・整合性をもって述べることができた。	授業で学んだことを生かして、自分独自の視点を、論理的妥当性・整合性をもって述べることができた。	授業で学んだことを生かして、論理的妥当性・整合性をもって自分の考えを述べることができた。	自分の意見を述べることができた。	講義中や期末テストで自分の意見を述べられなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	西洋美術史 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『いちばん親切な西洋美術史』	池上英洋、川口清香、荒井咲紀	新星出版社	2016	9784405072282	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『美術でめぐる 西洋史年表』	池上英洋、青野尚子	新星出版社	2021	9784405108134	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業についてのオリエンテーション、授業改善アンケート結果反映の説明 なぜ美術史を学ぶのか、プロト・ルネサンス	シラバスを読んでおく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
2	初期ルネサンス(1)遠近法の発見 ルネサンスの背景 プルネッレスキ、マザッチョ、ドナテッロ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
3	初期ルネサンス(2)古典復興と芸術革新、ポッティエリ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
4	盛期ルネサンス(1)レオナルド・ダ・ヴィンチ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
5	盛期ルネサンス(2)ミケランジェロ、ラファエッロ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
6	盛期ルネサンス(3)ティツィアーノとヴェネツィア派	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
7	小テスト(1) 北方ルネサンス(1)ヤン・ファン・エイク、ボス、デューラー	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
8	マニエリスム 古典的理想美からの逸脱	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
9	バロック美術(1)イタリアにおけるバロックの成立 カラッチ、カラヴァッジョ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
10	バロック美術(2)絶対王政を支えた画家たち ルーベンス	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
11	小テスト(2) バロック美術(3)スペイン・ベラスケス	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
12	バロック美術(4)オランダ 風景画の成立 静物画とヴァニタス	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
13	バロック美術(5)オランダ フェルメール レンブラント	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
14	ロココ美術	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
15	まとめ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
16	定期試験 フィードバック 授業改善アンケート実施	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	授業内容を復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築環境 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 哲之(建築学科・特任教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 哲之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築の目的はその発生の当初から、外界の厳しい自然環境から人間生活を護ることにあり、快適な室内環境の実現には建築技術の長い発展の不断の目標である。そのために空気、熱、光、音の基本性質を学習し、それらが建築環境にどのように関わるかを理解・修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1, DP3, DP4に対応する。(2024年度)  
 建築学科のDP1, DP2, DP3に対応する。(2023・22年度)  
 建築学科のDP1, DP2, DP7に対応する。(2021年度)

到達目標

空気、熱、光、音が建築物に与える影響を知り、建築物の配置計画、平面計画を実施する際の建築計画の基本となる知識として身に付け、応用できる。

授業全体の内容と概要

自然(外部)環境が室内環境に及ぼす要因と空気環境の基準を学ぶ。また、自然環境が建築物に与える功罪を知る手がかりとして日照と日射の基礎的取扱いからその建築計画上の方法の理解。採光計画における昼光率、設計用天空照度、照度の計算そして、換気と通風の理論、及びその応用など大別して講義展開をする。また「SDGs:すべての人に健康と福祉を」の関連授業である。

授業の方法

テキストに加えて、プロジェクターによる画像、図表で解説するので、ノートに講義内容と資料を整理すること。また、課題は各単元ごとに出題し、それはレポート、小テストの形式とする。課題返却後、解説をする。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施し、欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業成果の確認のため単元ごとに小テストを行うので、講義にはテキスト、過去のノート、電卓は必ず持参すること。30分以上の遅刻は欠席とする。また、遅刻3回で欠席1回とみなすので注意すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」必修科目、教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	10%	10%	10%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築環境に関わる基礎的知識について	知識を十分に習得しており、それを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得しており、それを応用できた。	知識を十分に習得していた。	基礎的な知識を理解できていた。	基礎的な知識が不足していた。
光環境に関わる知識や計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができた。さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。
採光と照明に関わる知識と計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができた。さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。
通風と換気に関わる知識と計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができた。さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築環境 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 哲之(建築学科・特任教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 哲之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新 建築環境工学』	田中俊六	井上書院	2022	978-4-7530-1757-7	
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 建築環境の概要	シラバスにより次回の部分を予習すること(90分)	授業内容を復習すること(90分)
2	快適環境-1 人体生理と室内環境	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
3	快適環境-2 空気環境の基準	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
4	快適環境-3 温熱環境 絶対湿度と相対湿度 有効湿度	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
5	光環境-1 日照と住環境	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
6	光環境-2 日照と日射 昼光照度と日射量、日照と建築計画	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
7	光環境-3 日影曲線、日影図、日影時間、日影の検討方法	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
8	光環境-4 日射と日照調整	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
9	採光と照明-1 測光量とその単位 照度、光束、輝度	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
10	採光と照明-2 昼光光源 設計用天空照度 照度の計算	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
11	採光と照明-3 昼光率とその計算法	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
12	換気と通気-1 人体と必要換気量 用途に応じた必要換気量と換気方式	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
13	換気と通気-2 室内通風 通風の現象、通風による温熱効果	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
14	換気と通気-3 圧力差と換気量 温度差による換気、換気計算	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
16	定期試験(60分)及び解説(30分)	これまでの授業範囲を見直し予習すること(90分)	試験内容を振り返り、特に専門用語を復習すること(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして漫画の描き方を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標	漫画の構成・特徴についての理解を深める。 漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術を習得する。 漫画の仕組みを理解した上で、漫画での表現方法を身につける。																					
授業の位置づけ	デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度) デザイン学科のD P 1、DP 3、DP 5に対応する。(2023、2022年度) デザイン学科のDP 2、DP 3、DP 5に対応する。(2021年度)																					
到達目標	漫画の構成・特徴について知る。 漫画を描くために必要な道具の使い方を理解する。 漫画の仕組みを理解し、表現方法を学ぶ。																					
授業全体の内容と概要	漫画とはなにか、その本質について考え、漫画の定義を知り、実際に漫画を描く。また、漫画を描くための基本的な技法(アナログ表現)を学ぶ。漫画の形式に沿って課題に取り組み、制作し、発表する。																					
授業の方法	授業は板書・パワーポイント・資料配布・実演等の方法で説明する。プロジェクター使用。授業後にデジタル資料はTeam s に保存するので振り返り可能。漫画を描くための道具(アナログ)を使用する。漫画を描くための基本的な技法の課題がある。課題は授業内で実践し、授業後に練習して提出する。漫画を作成するときは段階ごとに個別に対応する。課題は添削、講評にてフィードバックする。																					
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)																
履修上の注意事項	必要な漫画道具を購入すること。 授業開始から30分間で学習内容の説明を行うので遅刻しないこと。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。																					

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件	最低出席回数2回以上。 完成した課題を期日までに提出すること。												
評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	50%	0%	50%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
0%	0%	50%	0%	50%	0%								

ルーブリック	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を越えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>漫画の構成・特徴についての理解を深める。</td> <td>漫画の構成・特徴について理解を深め、作品に活かすことができた。</td> <td>漫画の構成・特徴について理解を深めることができた。</td> <td>漫画の構成・特徴について理解を深めることに努めた。</td> <td>漫画の構成・特徴について知る事ができた。</td> <td>漫画の構成・特徴について知る事ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術を習得する。</td> <td>漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術を習得し、磨くことができた。</td> <td>漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術を習得した。</td> <td>漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術の習得に努めた。</td> <td>漫画を描くために必要な道具の使い方を理解した。</td> <td>漫画を描くために必要な道具の使い方を理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>漫画の仕組みを理解した上で、漫画での表現方法を身につける。</td> <td>漫画の仕組みを理解した上で、漫画での独自の表現方法を身につけることができた。</td> <td>漫画の仕組みを理解した上で、漫画での表現方法を身につけることができた。</td> <td>漫画の仕組みを理解した上で、表現方法を身につけることに努めた。</td> <td>漫画の仕組みを理解し、表現方法を学ぶことができた。</td> <td>漫画の仕組みを理解し、表現方法を学ぶことができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	漫画の構成・特徴についての理解を深める。	漫画の構成・特徴について理解を深め、作品に活かすことができた。	漫画の構成・特徴について理解を深めることができた。	漫画の構成・特徴について理解を深めることに努めた。	漫画の構成・特徴について知る事ができた。	漫画の構成・特徴について知る事ができなかった。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術を習得する。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術を習得し、磨くことができた。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術を習得した。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術の習得に努めた。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解した。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解できなかった。	漫画の仕組みを理解した上で、漫画での表現方法を身につける。	漫画の仕組みを理解した上で、漫画での独自の表現方法を身につけることができた。	漫画の仕組みを理解した上で、漫画での表現方法を身につけることができた。	漫画の仕組みを理解した上で、表現方法を身につけることに努めた。	漫画の仕組みを理解し、表現方法を学ぶことができた。	漫画の仕組みを理解し、表現方法を学ぶことができなかった。
評価項目	評価基準																													
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																									
漫画の構成・特徴についての理解を深める。	漫画の構成・特徴について理解を深め、作品に活かすことができた。	漫画の構成・特徴について理解を深めることができた。	漫画の構成・特徴について理解を深めることに努めた。	漫画の構成・特徴について知る事ができた。	漫画の構成・特徴について知る事ができなかった。																									
漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術を習得する。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術を習得し、磨くことができた。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術を習得した。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術の習得に努めた。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解した。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解できなかった。																									
漫画の仕組みを理解した上で、漫画での表現方法を身につける。	漫画の仕組みを理解した上で、漫画での独自の表現方法を身につけることができた。	漫画の仕組みを理解した上で、漫画での表現方法を身につけることができた。	漫画の仕組みを理解した上で、表現方法を身につけることに努めた。	漫画の仕組みを理解し、表現方法を学ぶことができた。	漫画の仕組みを理解し、表現方法を学ぶことができなかった。																									



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして漫画の描き方を指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 漫画道具の説明	シラバスを読んでおくこと(45分)	必要な道具を準備する。(45分)
2	自己紹介イラスト 下書き	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
3	自己紹介イラスト 完成	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
4	自己紹介イラスト 冊子作成・発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
5	つけペンの練習	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
6	顔を描く	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
7	カメラミ技法	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
8	全身を描く	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
9	効果線の描き方	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
10	背景の描き方	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
11	漫画の構成・特徴・形式について	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
12	1ページ漫画 ネーム	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
13	1ページ漫画 下書き	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
14	1ページ漫画 ペン入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
15	1ページ漫画 スクリーントーン	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
16	1ページ漫画 仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	1ページ漫画 ネーム	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
18	1ページ漫画 下書き	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
19	1ページ漫画 ペン入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
20	1ページ漫画 仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
21	2ページ漫画 ネーム	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
22	2ページ漫画 下書き	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
23	2ページ漫画 ペン入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
24	2ページ漫画 仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
25	4ページ漫画 プロット	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
26	4ページ漫画 プロット	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
27	4ページ漫画 ネーム	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
28	4ページ漫画 下書き	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
29	4ページ漫画 ペン入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
30	4ページ漫画 スクリーントーン	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
31	製本・発表・鑑賞	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
32	講評・展示 授業改善アンケートの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築計画 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会構造や価値観の多様化が顕著な今日の状況を的確に捉え、建築が社会に果たす役割や意味を再考すると共に、将来の建築のあり方を考える力を養う。また建築士試験科目の「建築計画」に対応すべく、建築計画全般(住宅地計画、都市計画等含む)にわたる基礎知識を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)  
 建築学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度)  
 建築学科のDP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

建築の基本原理を知ることによって建築に対する興味が広がり、建築の仕事の魅力とやり甲斐を会得する。また、建築士試験の建築計画科目の設問に対する理解と解く力を養うことができる。

授業全体の内容と概要

授業内容を網羅した資料を毎回配布し、その授業資料に沿って授業を進める。毎回の授業のポイントが演習問題として課せられ、さらに詳細な解説も行うので集中して聴くことが求められる。  
 「SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

板書事項は授業内容を記した資料で賄う。プロジェクターで画像や図表を投影して解説するのが、授業内容の理解度を確認するため授業ノートを取りまとめた演習を毎回授業終了後提出してもらい、情報量は多く見て、聴いて、理解できる授業である。基本的に授業は対面を実施するが、不測の事態が起きた際に、授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する可能性がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業開始時に配布する着席票に氏名を記入した後に回収するので、遅刻者は欠席扱いとなる。また、着席票をもとに意見発表を求め、授業中の態度もチェックされるので留意すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格科目」必修科目、教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)、毎回の授業後に提出する演習の評価点(平常点)が単位認定(成績評価)の一部を占めるので、授業欠席や演習未提出は不合格または低評価に直結することになる。最終評価は定期試験と平常点、その他(授業態度等)による総合評価とする。なお、演習は当日の授業後提出のみ受理し、それ以外は受け付けない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	30%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築が社会にはたす役割や意味を理解すると共に、将来の建築のあり方を考える力を修得する。	建築が社会にはたす役割を理解でき、今後の建築のあり方に対して建築のあり方を考えることができた。	建築が社会にはたす役割を理解でき、今後の建築のあり方が変化することを理解することができた。	建築が社会にはたす役割を理解できた。	建築が社会にはたす役割をおおむね理解できた。	建築が社会にはたす役割を理解できなかった。
建築士試験科目の「建築計画」に対応する建築計画全般(住宅地計画、都市計画等含む)にわたる基礎知識を修得する。	基礎知識を習得し、さらに建築士試験問題に取り組むことができた。	基礎知識を習得し、さらに建築士試験内容を理解することができた。	基礎知識を修得することができた。	基礎知識をおおむね修得することができた。	基礎知識を修得することができなかった。
建築の基本原理を知ることによって建築に対する興味が広がり、建築の仕事の魅力とやり甲斐を会得する。また、建築士試験の建築計画科目の設問に対する理解と解く力を養うことができる。	建築の基本原理に興味を持ち、さまざまな建築のあり方に対しても理解することができた。	建築の基本原理に興味を持ち理解することができた。	建築に対する興味を持つことができた。	建築に対する興味をおおむね持つことができた。	建築に対する興味を持つことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築計画 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一 (建築学科・教授)	研究室等所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明, 授業改善アンケート結果反映の説明, 「建築計画」で学ぶこと	シラバス事前確認(90分)	配布資料の確認(90分)
2	建築のかたち(1) 建築のかたちを規定する自然的条件 温湿度, 風, 日照・日射, 敷地形状, 街路	資料参照(90分)	授業資料の振り返り(90分)
3	建築のかたち(2) 建築のかたちを規定する人為的要素 起居方式, 歴史・伝統, 社会構造, 機能	資料参照(90分)	授業資料の振り返り(90分)
4	建築空間の性能(1) 快適性 熱環境, 光環境, 音環境, 空気環境, 心理環境	資料参照(90分)	授業資料の振り返り(90分)
5	建築空間の性能(2) 利便性 面積・容積, 高さ,ゾーニング, 動線計画, 空間の質と量	資料参照(90分)	授業資料の振り返り(90分)
6	建築空間の性能(3) 安全性 災害と安全, 避難計画, 内装制限, 排煙, 防火	資料参照(90分)	授業資料の振り返り(90分)
7	建築空間の性能(4) 耐久性と経済性 耐用年数, ライフサイクルコスト, S I方式, 保存・再生	資料参照(90分)	授業資料の振り返り(90分)
8	建築計画の基礎(1) 空間知覚の原理 五感と空間知覚, 視認距離, 囲み感, 黄金分割	資料参照(90分)	演習資料の振り返り(90分)
9	建築計画の基礎(2) 形態知覚と空間特性 ゲンシュタルト心理学, 空間感覚	資料参照(90分)	授業資料の振り返り(90分)
10	建築計画の基礎(3) 色彩, 色彩と心理, 色彩と環境	資料参照(90分)	授業資料の振り返り(90分)
11	建築計画の基礎(4) 寸法と規模と単位空間 人体寸法, 動作寸法, 規模算定, 単位空間, 階段・斜路	資料参照(90分)	授業資料の振り返り(90分)
12	建築計画の基礎(5) 空間の仕切り方とディテール 仕切りの手法, 収まりの手法	資料参照(90分)	授業資料の振り返り(90分)
13	居住施設計画(1) 戸建住宅と住宅地計画 住居の種類, 生活と間取り, 住環境計画, 日影規制	資料参照(90分)	授業資料の振り返り(90分)
14	居住施設計画(2) 集合住宅の計画 近隣組織, 地域福祉計画, 家族と住居	資料参照(90分)	授業資料の振り返り(90分)
15	居住施設計画(3) 住宅地計画 地域居住, 近隣組織, 地域福祉計画, 家族と住居	資料参照(90分)	授業資料の振り返り(90分)
16	試験(試験結果・解説ならびに提出課題の総評) 授業改善アンケートの実施	資料参照(90分)	最終振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	鉄筋コンクリート構造 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	長森 正 (建築学科・特任教授)	研究室等所在	アトリエ棟 1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義をします。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

鉄筋コンクリート構造は鉄とコンクリートからなる一種の複合構造物である。鉄筋コンクリート構造の仕組みとそれを構成する部材断面の設計方法を修得する。力学や材料の専門知識を応用して部材断面の応力と変形などの性質を理解し、断面設計方法を学習する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)  
 建築学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度)  
 建築学科のDP1、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

鋼材とコンクリート材料をどのように活かしているかを把握した上で、鉄筋コンクリート構造の構造計画、許容応力度設計法などの基本的な設計原理を修得する。鉄筋コンクリート構造の仕組み・名称・規準などが理解できる。軸力や曲げを受ける部材の性状を理解し、各部材断面の設計ができる。

授業全体の内容と概要

鉄筋コンクリート構造の概要・構造形式・規準などを学び、許容応力度設計法、梁・柱・スラブなどの各部材の断面設計を中心に講義・演習を行う。

授業の方法

授業は教科書を中心にパワーポイント及び配布資料で講義形式で行う。また構造設計問題を参考にして演習課題を実施して理解を深める。フィードバックとして課題の解説を行う。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

講義内容を要領よくまとめ、ノート整理を欠かさないこと。講義には設計演習等を頻繁に実施するので必ず電卓を持参すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工業)選択科目、建築士試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	30%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
鉄筋コンクリート構造の概要	RC構造の特徴・構造形式・規準等について明確に説明でき、他の人に正確に説明できた。	RC構造の特徴・構造形式・規準等について明確に説明できた。	RC構造の特徴について説明でき、他の人に説明できた。	RC構造の特徴について説明できた。	RC構造の特徴について説明できなかった。
鉄筋コンクリート構造の構成と力学	鉄筋とコンクリートの機械的性質および許容応力度設計法について明確に説明でき、他の人に説明できた。	鉄筋とコンクリートの機械的性質および許容応力度設計法について明確に説明できた。	許容応力度設計法について説明でき、他の人に説明できた。	許容応力度設計法について説明できた。	許容応力度設計法について説明できなかった。
鉄筋コンクリート部材の設計演習	RC構造各部材(梁・柱・スラブ)の演習問題を正確に解くことができ、他の人に説明できた。	RC構造各部材(梁・柱・スラブ)の演習問題を正確に解くことができた。	RC構造各部材(梁・柱・スラブ)の基本的な演習問題を解くことができ、他の人に説明できた。	RC構造各部材(梁・柱・スラブ)の基本的な演習問題を解くことができた。	RC構造各部材(梁・柱・スラブ)の基本的な演習問題を解くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	鉄筋コンクリート構造 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	長森 正 (建築学科・特任教授)	研究室等所在	アトリエ棟 1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義をします。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『図説やさしい構造設計』	浅野 清昭	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『RC規程による鉄筋コンクリートの構造設計』	佐藤立美・荒木秀夫・森村毅	鹿島出版会			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケートの結果反映の説明 シラバスの説明 鉄筋コンクリート構造の概論	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
2	鉄筋コンクリート構造の歴史・特徴	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
3	構造形式、規準等	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
4	鉄筋・コンクリートの機械的性質	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
5	コンクリートの調合設計	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
6	許容応力度設計法(1)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
7	許容応力度設計法(2)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
8	RC部材の複合材料力学	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
9	梁の設計(1)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
10	梁の設計(2)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
11	柱の設計(1)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
12	柱の設計(2)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
13	床(スラブ)の設計(1)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
14	床(スラブ)の設計(2)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
15	構造計画・地震と建物の構造(1)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
16	定期試験60分の試験終了後、残りの30分で解説する。	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営情報論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

・企業経営における情報の役割と管理の重要性や方法、そして課題について理解を深める。  
 ・ビッグデータ、IoT、プラットフォームの登場などに代表される、近年の情報技術の発達に連関する競争環境の変化を理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

・企業が扱う情報の種類や特徴、技術進歩による変化および近年の動向について説明できる。  
 ・企業の情報管理活動に連関する経営学の理論を知り、企業活動を自ら分析することができる。  
 ・上記を通じて、企業が情報を取得・活用・管理する際に注意すべき点や工夫すべき点を主体的に考え、課題解決に活かすことができる。

授業全体の内容と概要

企業経営における情報の役割と管理について学習する。企業が扱う情報は、製品の製造を管理するためのものや、従業員に関するもの、顧客の購買データなど多岐に渡る。これらの情報を経営資源として最大限に活用していくことは企業経営における重要課題である。特にビッグデータ、IoT、AIといった新技術の登場を受け、その重要性はさらに増してきている。こうした近年の動向を、事例をみながら理解し、企業と情報との向き合い方について考えていく。

授業の方法

授業はパワーポイントの資料を用いて行う。履修者には、毎週授業の終わりにその日の講義内容をまとめた小レポートを提出してもらう。なお、小レポート課題は Moodle で提出する。  
 また、授業の最後には次回の授業で取り上げるテーマやキーワードについて概説するが、そのテーマやキーワードについて事前に自分自身で調べ、レポートにまとめて提出を求めることがある。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は特に言及がない限り禁止とする。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

・毎週課されるレポート課題の期限内の提出が出席の条件である。  
 ・単位認定に必要な最低出席回数は11回以上である。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経営情報論に関する知識・理解	経営情報論の基本的な用語と意味は覚え、説明することができ、近年の情報社会と関連づけて考察することもできた。さらに、今後の情報社会のあり方や企業の課題についても言及できた。	経営情報論の基本的な用語と意味は覚え、説明することができ、近年の情報社会と関連づけて考察することもできた。	経営情報論の基本的な用語と意味は覚え、説明することができ、近年の情報社会について最低限理解できた。	経営情報論の基本的な用語と意味は覚え、説明することができた。	経営情報論の基本的な用語と意味を覚え、説明することができなかった。
レポートを作成する能力	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出し、非常にわかりやすくまとめられており、講義内容以上の知識も自身で調べ、まとめることができた。	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出し、わかりやすくまとめられていた。	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出し、わかりやすくまとめようとする工夫がみられた。	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出することができた。	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出することができなかった。
自身の生活や進路と関連づけて学ぶ能力	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容の活用策を提案・実行し、一定の成果をあげることができた。	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容の活用策を提案し、実行することができた。	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容の活用策を提案することができた。	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容を活かそうと努力した。	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容を活かそうとしなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営情報論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『大学基礎データサイエンス』	伊藤大河・川村和也・内田瑛・河合麗奈	実教出版	2023	9784407361223	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	イントロダクション: 授業の概要と全体のレビュー -本イントロダクション 授業の概要と全体のレビュー、本授業のシラバス	テキストのはしがきを読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
2	企業経営と情報 企業経営と情報にはどのようなものがあるのか、情報社会とはどのようなものかを解説する。	テキストの第1章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
3	企業の情報管理と経営学の基礎理論 情報管理の活動を分析するための経営学の基本的な理論を振り返る。	テキストの第2章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
4	情報通信技術の発達 情報通信技術がどのような発展を遂げてきたのかを振り返る。	テキストの第4章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
5	経営情報システムとその変遷 経営情報システムにはどのようなものがあるのか、どのように変化してきたのかを解説する。	テキストの第3章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
6	経営情報システムの設計と開発 経営情報システム開発の方法論を解説する。	テキストの第5章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
7	顧客情報の収集と活用 企業が顧客情報をどのように収集し活用しているのかについて先進企業の事例を用いて解説する。	これまでの学習内容を振り返ること。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
8	情報通信技術とビジネス革新 情報通信技術の発達に伴いビジネス全体がどのように変化しているのかを解説する。	テキストの第7章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
9	情報通信技術とビジネス革新 前回に引き続き、近年のビジネスの変化を追う。特に、XaaSやAIといった、最近注目されるキーワード	ビジネス・経済の専門誌(日経ビジネスや東洋経済)の記事から情報管理に関連するものを見つけて読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
10	情報管理と組織コミュニケーション 情報管理を行う主体の組織にはどのような能力が必要か、情報通信技術の発展によってどのような変化	テキストの第9章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
11	情報管理と知識創造 知識創造とイノベーションの観点から、今日の情報管理の課題について考える。	テキストの第10章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
12	経営情報システムの運用と保守 経営情報のシステム化と保守に関する問題を解説する。	テキストの第6章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
13	情報管理と対顧客コミュニケーション 情報通信技術の発達に伴う顧客とのコミュニケーションの多様化・複雑化を理解し、失敗事例などを	SNSで企業が失敗した例を見つけ、何が悪かったのか、どうするべきかについて考えておく。	小レポートの作成・提出(90分)
14	まとめと期末レポート課題に関する案内 講義を振り返り、期末レポート課題の内容について案内する。	これまで授業の復習をし、わからない点を質問にまとめておく(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
15	期末レポート課題の発表 希望者に期末レポートの内容をプレゼンテーションしてもらおう。	これまでの授業内容の復習をしていただくこと。(90分)	期末レポートを作成する。(90分)
16	期末レポート課題の講評とガイダンス 提出された期末レポート課題を講評し、今後の自主学習のための案内をする。	これまでの授業内容の復習をしていただくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営情報論 (SP) (科目ナンバリング: )				
授業担当者 (所属・職名)	薦田 勇智 (経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

・企業経営における情報の役割と管理の重要性や方法、そして課題について理解を深める。  
 ・ビッグデータ、IoT、プラットフォームの登場などに代表される、近年の情報技術の発達に連関する競争環境の変化を理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

・企業が扱う情報の種類や特徴、技術進歩による変化および近年の動向について説明できる。  
 ・企業の情報管理活動に連関する経営学の理論を知り、企業活動を自ら分析することができる。  
 ・上記を通じて、企業が情報を取得・活用・管理する際に注意すべき点や工夫すべき点を主体的に考え、課題解決に活かすことができる。

授業全体の内容と概要

企業経営における情報の役割と管理について学習する。企業が扱う情報は、製品の製造を管理するためのものや、従業員に関するもの、顧客の購買データなど多岐に渡る。これらの情報を経営資源として最大限に活用していくことは企業経営における重要課題である。特にビッグデータ、IoT、AIといった新技術の登場を受け、その重要性はさらに増してきている。こうした近年の動向を、事例をみながら理解し、企業と情報との向き合い方について考えていく。

授業の方法

授業はパワーポイントの資料を用いて行う。履修者には、毎週授業の終わりにその日の講義内容をまとめた小レポートを提出してもらう。なお、小レポート課題は Moodle で提出する。  
 また、授業の最後には次回の授業で取り上げるテーマやキーワードについて概説するが、そのテーマやキーワードについて事前に自分自身で調べ、レポートにまとめて提出を求められることがある。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は特に言及がない限り禁止とする。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

・毎週課されるレポート課題の期限内の提出が出席の条件である。  
 ・単位認定に必要な最低出席回数は11回以上である。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経営情報論に関する知識・理解	経営情報論の基本的な用語と意味は覚え、説明することができる。近年の情報社会と関連づけて考察することもできた。さらに、今後の情報社会のあり方や企業の課題についても言及できた。	経営情報論の基本的な用語と意味は覚え、説明することができる。近年の情報社会と関連づけて考察することもできた。	経営情報論の基本的な用語と意味は覚え、説明することができる。近年の情報社会について最低限理解できた。	経営情報論の基本的な用語と意味は覚え、説明することができる。	経営情報論の基本的な用語と意味を覚え、説明することができなかった。
レポートを作成する能力	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出し、非常にわかりやすくまとめられており、講義内容以上の知識も自身で調べ、まとめることができた。	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出し、わかりやすくまとめられていた。	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出し、わかりやすくまとめようとする工夫がみられた。	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出することができた。	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出することができなかった。
自身の生活や進路と関連づけて学ぶ能力	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容の活用策を提案・実行し、一定の成果をあげることができた。	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容の活用策を提案し、実行することができた。	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容の活用策を提案することができた。	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容を活かそうと努力した。	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容を活かそうとしなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営情報論 (SP) (科目ナンバリング: )				
授業担当者 (所属・職名)	薦田 勇智 (経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『大学基礎データサイエンス』	伊藤大河・川村和也・内田瑛・河合麗奈	実教出版	2023	9784407361223	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	イントロダクション: 授業の概要と全体のレビュー -本イントロダクション 授業の概要と全体のレビュー、本授業のシラバス	テキストのはしがきを読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
2	企業経営と情報 企業経営と情報にはどのようなものがあるのか、情報社会とはどのようなものかを解説する。	テキストの第1章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
3	企業の情報管理と経営学の基礎理論 情報管理の活動を分析するための経営学の基本的な理論を振り返る。	テキストの第2章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
4	情報通信技術の発達 情報通信技術がどのような発展を遂げてきたのかを振り返る。	テキストの第4章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
5	経営情報システムとその変遷 経営情報システムにはどのようなものがあるのか、どのように変化してきたのかを解説する。	テキストの第3章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
6	経営情報システムの設計と開発 経営情報システム開発の方法論を解説する。	テキストの第5章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
7	顧客情報の収集と活用 企業が顧客情報をどのように収集し活用しているのかについて先進企業の事例を用いて解説する。	これまでの学習内容を振り返ること。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
8	情報通信技術とビジネス革新 情報通信技術の発達に伴いビジネス全体がどのように変化しているのかを解説する。	テキストの第7章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
9	情報通信技術とビジネス革新 前回に引き続き、近年のビジネスの変化を追う。特に、XaaSやAIといった、最近注目されるキーワード	ビジネス・経済の専門誌(日経ビジネスや東洋経済)の記事から情報管理に関連するものを見つけて読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
10	情報管理と組織コミュニケーション 情報管理を行う主体の組織にはどのような能力が必要か、情報通信技術の発展によってどのような変化	テキストの第9章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
11	情報管理と知識創造 知識創造とイノベーションの観点から、今日の情報管理の課題について考える。	テキストの第10章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
12	経営情報システムの運用と保守 経営情報のシステム化と保守に関する問題を解説する。	テキストの第6章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
13	情報管理と対顧客コミュニケーション 情報通信技術の発達に伴う顧客とのコミュニケーションの多様化・複雑化を理解し、失敗事例などを	SNSで企業が失敗した例を見つけ、何が悪かったのか、どうするべきかについて考えておく。	小レポートの作成・提出(90分)
14	まとめと期末レポート課題に関する案内 講義を振り返り、期末レポート課題の内容について案内する。	これまで授業の復習をし、わからない点を質問にまとめること(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
15	期末レポート課題の発表 希望者に期末レポートの内容をプレゼンテーションしてもらおう。	これまでの授業内容の復習をしていただくこと。(90分)	期末レポートを作成する。(90分)
16	期末レポート課題の講評とガイダンス 提出された期末レポート課題を講評し、今後の自主学習のための案内をする。	これまでの授業内容の復習をしていただくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ミク経済学 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ミク経済学の基礎的な用語や考え方を学ぶことで、ミク経済学の考え方や仕組みを理解し、身近な経済のさまざまな事象を分析するための思考力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

基礎的なミク経済学の用語を説明できる。  
身近な経済事象をミク経済学の視点から考察できる。  
市場で決まる価格のしくみと意味がわかる。

授業全体の内容と概要

トレード・オフや機会費用などの経済学の考え方について、身近な事例をもとにした演習も行いながら学ぶ。また、余剰の計算や限界概念にかんする演習をつうじて、市場で価格が決まるしくみやその社会的な意味について理解する。

授業の方法

各回の計画にそって、板書やスライドによる講義とノートをもちいた演習とを組み合わせた授業をおこなう。講義では、ミク経済学の用語や基本的な考え方について事例をまじえて解説する。演習では、ミク経済学に関連する計算問題やグラフの作成、例をあげた用語の説明などの問題に取り組む。また、理解の確認の意味もふくめて、解説と演習のあいまに受講生に対して随時質問をして意見をもとめながら授業をすすめる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

履修人数によっては座席を指定する場合がある。また、質問や演習問題の回答・解答を書くために必ずノートが必要である。平常点は、この演習課題への取り組みを評価する。このため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ミク経済学の用語の理解	事例をあげてミク経済学の用語を的確に説明できた。	事例をあげてミク経済学の用語を説明できた。	ミク経済学の用語を説明できた。	ミク経済学の用語をある程度説明できた。	ミク経済学の用語を説明できなかった。
ミク経済理論の理解	図や式を利用して、ミク経済の考え方を的確に説明できた。	図や式を利用して、ミク経済の考え方を説明できた。	ミク経済理論の基礎的な図や式を正確に書き・計算できた。	ミク経済理論の基礎的な図や式をある程度書くことができた。	ミク経済学の図や式を書けなかった。
ミク経済事象の考察	ミク経済学の視点から身近な経済事象を的確に考察できた。	ミク経済学の視点から身近な経済事象をある程度考察できた。	ミク経済学の視点を身近な経済事象に適用できた。	ミク経済学の視点を身近な経済事象にある程度適用できた。	ミク経済学の視点を身近な経済事象に適用できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ミ加経済学 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文(経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『マンキュー入門経済学(第3版)』	N・グレイジー・マンキュー	東洋経済新報社	2019	4492315217	
2	『スタンフォード大学で一番人気の経済学入門ミクロ論』	ティモシー・テイラー	かんき出版	2013	9784761268947	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ミクロ経済学とは: ・授業改善アンケート結果反映の説明 ・授業計画(シラバス)の説明	ミクロ経済学という用語について調べる(90分)	ミクロ経済学とは何かについてノートにまとめる(90分)
2	希少な資源とトレードオフ・ ・トレードオフとは、資源の希少性と経済学の目的	用語「トレード・オフ」・「資源の希少性」について調べる(90分)	資源の希少性とトレード・オフの関係についてノートにまとめる(90分)
3	経済学的費用とは ・ある行動の経済学的費用とは、機会費用の考え方	「機会費用」について調べる(90分)	経済学的費用の考え方についてノートにまとめる(90分)
4	インセンティブと効用: ・意思決定と意志力	「インセンティブ」「効用」について調べる(90分)	経済学におけるインセンティブの考え方についてノートにまとめる(90分)
5	現在価値: ・現在価値と将来価値 ・割引現在価値の演習	「割引現在価値」について調べる(90分)	割引現在価値の考え方についてノートにまとめる(90分)
6	買手の行動について: ・意思決定と機会費用、コミットメント	「コミットメント」について調べる(90分)	買手の意思決定についてノートにまとめる(90分)
7	需要曲線と消費者余剰: ・商品に対する買手の評価と需要 ・消費者余剰とは	「消費者余剰」について調べる(90分)	買手の評価と需要曲線、消費者余剰についてノートにまとめる(90分)
8	需要の変化と需要曲線: ・需要曲線上の変化 ・需要曲線のシフト	「需要曲線」について調べる(90分)	需要の変化と需要曲線との関係についてノートにまとめる(90分)
9	財と財との関係: ・代替財とは ・補充財とは	「代替財」「補充財」について調べる(90分)	代替財と補充財について事例もまじえてノートにまとめる(90分)
10	需要の価格弾力性: ・需要の価格弾力性とは ・価格弾力性と需要曲線	「需要の価格弾力性」について調べる(90分)	需要の価格弾力性と需要曲線との関係についてノートにまとめる(90分)
11	売手の費用と行動: ・価格と供給量	価格と供給量との関係について調べる(90分)	供給曲線についてまとめる(90分)
12	限界的な変化:経済学における限界概念 ・限界効用とは ・限界費用とは	「限界効用」と「限界費用」について調べる(90分)	経済学の限界概念についてノートにまとめる(90分)
13	市場機構(1): ・需要と供給 ・需要曲線と買手の限界的な評価 ・供給曲線と売手の限界的な費用	「市場価格」について調べる(90分)	需要曲線・供給曲線の高さの意味についてノートにまとめる(90分)
14	市場機構(2): ・市場の均衡 ・均衡価格と買手の評価・売手の費用	経済学における均衡について調べる(90分)	市場均衡のしくみと市場価格の意味についてノートにまとめる(90分)
15	市場の効率性と市場の失敗 全体のまとめ	市場の失敗について調べる(90分)	不明な点を確認して授業ノートを完成させる(90分)
16	定期試験(60分)と試験の説明 授業改善アンケートの実施	各回の演習問題に再度とりくむ(90分)	試験で間違えた問題に再度とりくむ(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・地理歴史科教 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	塩崎 大輔(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

中学校社会科および高等学校地理歴史科の目標および学習指導要領に示された学習内容について理解し、授業計画を作成・研究することができる能力を身に付け、教壇に立てるだけの最低限のスキルを身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP 4、DP 5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

「社会科」・「地理歴史科」の目標および学習指導要領に示された学習内容について理解し、実際に教壇に立って授業を行うことができるように、授業計画を作成することや教壇に立てるだけの最低限のスキルを身につけ、教材研究ができる。

授業全体の内容と概要

教育実習の準備として、基本的な教科の理解及び教科の授業計画、教材研究、模擬授業(後期)等をマスターするので、教員の立場として物事を考えることが望まれる。前期は、社会・地理歴史科の基礎的な内容を学修して教材研究の方法を学び、後期には実践的な模擬授業を実施する。  
「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目  
授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

授業形態はスライドを用いた講義形式が中心であるが、グループ学習・ディスカッションも含まれる。また、指導案やレポート等は、コメントによりフィードバックを行う。なお、野外調査活動の一環として、地域のフィールドワークを行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

レポートは、指示した「レポート作成要領」に準拠したものを提出すること。  
教育実習の準備として、基本的な教科の理解及び教科の授業計画、模擬授業の方法等をマスターするので、教員の立場として物事を考えること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(社会・地理歴史)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上である。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	50%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。
思考力・判断力・表現力	右の記述を高いレベルで実現できた。	ディスカッションの課題などで、論理的に自分の意見をまとめ、たいへんわかりやすく説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、わかりやすく説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができなかった。
関心・意欲・態度	右の記述を高いレベルで実現できた。	フィールドワークを通して、調査の観点に基づいて、詳細に観察し情報を集めることができた。	フィールドワークを通して、調査の観点に基づいて、観察し情報を集めることができた。	フィールドワークを通して、調査の観点に基づいて、観察し情報を集めることができた。	フィールドワークを通して、調査の観点に基づいて、観察し情報を集めることができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・地理歴史科教 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	塩崎 大輔(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領解説 社会編』	文部科学省	東洋館出版社	2018	9784491034713	
2	『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』	文部科学省	東洋館出版社	2019	9784491036410	
3	『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 社会』	文部科学省	東洋館出版社	2020	9784491041339	
4	『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 地理歴史』	文部科学省	東洋館出版社	2021	9784491047010	
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業の内容・進め方・評価方法のガイダンス 前年度の授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
2	社会科教育の歴史(1)戦後教育の歩みについて	事前にテキストの範囲を読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
3	社会科教育の歴史(2)学習指導要領改訂の経過について	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
4	中学校社会科の目標分析	事前にテキストの範囲を読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
5	高校地理歴史科の目標分析	事前にテキストの範囲を読んでいること。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
6	中学校社会科の構造	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
7	高校地理歴史科の構造	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
8	社会科・地理歴史科教育の方法 グループワーク	ディスカッションの準備学習をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
9	社会科・地理歴史科教育の方法 ブレインストーミング	ディスカッションの準備学習をしておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
10	社会科・地理歴史科教育の方法 ディベート	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
11	中学校社会科地理分野の指導と評価について	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
12	中学校社会科歴史分野の指導と評価について	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
13	高校地理分野の指導と評価について	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
14	高校歴史分野の指導と評価について	フィールドワークの準備学習をしておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
15	フィールドワーク 郷土資料館	フィールドワークの準備学習をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
16	まとめ、課題(レポートなど)の解説 授業改善アンケートの実施	まとめの準備(90分)	まとめの振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・3年、社会福祉学科・3年、デザイ		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	政治学入門 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代日本政治を中心に、政治を考察するための基礎概念、制度、歴史に関する知識を正確に理解し、それらを用いて政治に対する自分の考えを説明する能力を身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP2、DP5に対応する。(2023・2022年度)  
 デザイン学科のDP2に対応する。(2023・2022年度)  
 建築学科のDP2に対応する。(2023・2022年度)  
 経営学科のDP2に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

政治に関する基礎的な概念を理解し、説明することができる。  
 日本政治の歴史、制度に関する基礎的な知識を修得し、説明することができる。  
 概念、歴史、制度に基づいて日本政治に関する自分なりの考えを説明することができる。

授業全体の内容と概要

政治というものは日常生活を送るうえで避けて通ることができないものであるが、目に見えない政治という現象を捉えようとする学問である。この講義では、現代日本政治を題材に政治学の成り立ち、基本的な概念について学ぶ。具体的には、日本の政治がどのような仕組みになっているのか、その制度を学ぶ。次に、日本の政治がこれまでどのように展開してきたのか、その歴史を学ぶ。そのうえで、現代日本政治の課題について学ぶ。「SDG1.貧困をなくそう」、「SDG10.人や国の不平等をなくそう」、「SDG16.平和と公正をすべての人に」の関連授業

授業の方法

授業は講義形式で行う。書き込み式のレジュメを配布して補足の説明を行う。  
 書き込む内容は板書またはパワーポイントで示す。  
 教科書を使用しないので講義をしっかりと聴いてメモをとること。  
 毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布し、次回授業時にフィードバックを行う。  
 TeamsやFormsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は厳禁、受講マナーを守ること  
 正当な理由のない20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。  
 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(社会・公民)の必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
政治に関する基礎的な概念を理解し、説明することができる。	政治に関する基礎的な概念を発展的に理解し、説明することができた。	政治に関する基礎的な概念を正確に理解し、説明することができた。	政治に関する基礎的な概念をある程度理解し、説明できた。	政治に関する基礎的な概念を理解し、説明できた。	政治に関する基礎的な概念を理解し、説明できなかった。
日本政治の歴史、制度に関する基礎的な知識を修得し、説明することができる。	日本政治の歴史、制度に関する基礎的な知識を発展的に修得し、説明することができた。	日本政治の歴史、制度に関する基礎的な知識を正確に修得し、説明することができた。	日本政治の歴史、制度に関する基礎的な知識をある程度修得し、説明することができた。	日本政治の歴史、制度に関する基礎的な知識を修得し、説明することができた。	日本政治の歴史、制度に関する基礎的な知識を修得し、説明できなかった。
概念、歴史、制度に基づいて日本政治に関する自分なりの考えを説明することができる。	概念、歴史、制度に基づいて日本政治に関する自分なりの考えを発展的に説明できた。	概念、歴史、制度に基づいて日本政治に関する自分なりの考えを十分に説明できた。	概念、歴史、制度に基づいて日本政治に関する自分なりの考えをある程度説明できた。	概念、歴史、制度に基づいて日本政治に関する自分なりの考えを説明できた。	概念、歴史、制度に基づいて日本政治に関する自分なりの考えを説明できなかった。



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・3年、社会福祉学科・3年、デザイ		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	政治学入門 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜紹介する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認 (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
2	政治学の基礎概念	授業テーマに関する新聞記事の熟読 (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
3	政治の役割	授業テーマに関する新聞記事の熟読 (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
4	日本の内閣	授業テーマに関する新聞記事の熟読 (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
5	日本の国会	授業テーマに関する新聞記事の熟読 (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
6	日本の政党	授業テーマに関する新聞記事の熟読 (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
7	日本の政治家	授業テーマに関する新聞記事の熟読 (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
8	日本の選挙制度	授業テーマに関する新聞記事の熟読 (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
9	日本の選挙の課題	授業テーマに関する新聞記事の熟読 (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
10	日本の官僚制	授業テーマに関する新聞記事の熟読 (90分) 熟読 (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
11	日本の地方自治	授業テーマに関する新聞記事の熟読 (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
12	地方自治の課題	授業テーマに関する新聞記事の熟読 (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
13	日本の外交	授業テーマに関する新聞記事の熟読 (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
14	日本政治の課題	授業テーマに関する新聞記事の熟読 (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業テーマに関する新聞記事の熟読 (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
16	定期試験 (試験60分+解説30分)	試験の準備 (90分)	試験のふり返り (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	医学概論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	宮崎 剛司(社会福祉学科・講師)	研究室等所在	1号館2階常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮崎 剛司)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践と看護教育の実務経験を踏まえ、人の成長過程と体のしくみ、その破綻(病氣・障がいなど)の考え方を生活と関連させ学びます。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

人の体の成り立ちやしくみ、さまざまな疾病について、人の成長過程における老化や日常生活との関係を踏まえて理解を深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP4、DP5に対応する。(2023年度)

到達目標

社会福祉職に求められる人の成長・発達過程を理解し、人体の機能・構造と病的状態を関連させて説明できる。

授業全体の内容と概要

人体の構造と生理機能を関連させて学習し、正常と病的状態を比較しながら代表的な疾患や障害について理解する。特に将来致命的となる疾患や注目されている疾患については予防対策も含めて講義を行ない、福祉に必要な知識を身につける。また、ICFの基本的な考え方やリハビリテーションの概念についても学習する。

授業の方法

講義形式、テキストの活用を中心とし、板書や配布資料を適宜使い解説を行う。また、確認のために小試験を課題とし、添削後、返却し解説・解説を行いフィードバックする。  
「基本は対面授業の実施」であるが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教科書は必ず持参すること。  
必要な資料等は適宜配布するため持参すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。  
20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	20%	10%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
人の成長・発達過程や体の成り立ち・しくみの理解	人の成長・発達過程や体の成り立ち・しくみについて非常に理解できた。	人の成長・発達過程や体の成り立ち・しくみについて概ね理解できた。	人の成長・発達過程、人体について部分的に理解できた。	人の成長・発達、人体について助言により部分的に理解できた。	助言しても理解できなかった。
各疾病、障がいの概要	各疾病・障がいの概要を人体の機能・構造と関連させて詳しく説明できた。	各疾病・障がいの概要を人体の機能・構造と関連させて概ね説明できた。	各疾病・障がいの概要、人体の機能・構造を部分的に説明できた。	各疾病、障がいの概要を助言により説明できた。	助言しても説明できなかった。
疾病予防や健康のとらえ方、ICFの基本的考え方	疾病予防や健康のとらえ方、ICFの基本的考え方を詳細に説明できた。	疾病予防や健康のとらえ方、ICFの基本的考え方を概ね説明できた。	疾病予防や健康のとらえ方、ICFについて部分的に説明できた。	疾病予防や健康のとらえ方、ICFの基本的考え方を助言により説明できた。	助言しても説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	医学概論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	宮崎 剛司(社会福祉学科・講師)	研究室等所在	1号館2階常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮崎 剛司)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 看護実践と看護教育の実務経験を踏まえ、人の成長過程と体のしくみ、その破綻(病氣・障がいなど)の考え方を生活と関連させ学びます。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 1 医学概論』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021	978-4-8058-8231-3	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 医学と福祉について	事前に教科書全体に目を通しておく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
2	ライフステージにおける心身の変化と健康課題	教科書の第一章について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
3	ライフステージにおける心身の変化と健康課題	教科書の第一章について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
4	ライフステージにおける心身の変化と健康課題	教科書の第一章について事前に読んでおく(90分)	配布資料と理解しておく(90分)
5	身体構造と心身機能	教科書の第三章について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
6	身体構造と心身機能	教科書の第四章について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
7	身体構造と心身機能	教科書の第五章について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
8	前半のまとめと学習到達度の確認テスト	前半の授業・資料・ノートを見直しテストに臨むこと(90分)	問題を見直し自己採点しておく(90分)
9	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション	教科書の第六章について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
10	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション	教科書の第六章について事前に読んでおく(90分)	配布資料と理解しておく(90分)
11	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション	教科書の第六章について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
12	健康および疾病の捉え方	教科書の第六章について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
13	健康および疾病の捉え方	教科書の第二章について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
14	公衆衛生	教科書の第七章について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
15	総括と今後の課題 授業改善アンケート実施	これまで授業で行ったことを振り返り準備しておく(90分)	医療と福祉の課題に今後取り組んでいく(90分)
16	定期試験60分後終了後、残り30分間で解説する。	講義を通して質問事項をまとめておくこと(90分)	試験及び解説を受けて講義全体の理解を深めること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築施工 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

人命を預かる建築物を造り出す過程において、建築が社会に果たす意味や役割を考える力を養う。さらに、建築士試験の「建築施工」および建築施工管理技術士試験に対応した基本事項の理解を深める。

授業の位置づけ

建築学科のD P 2に対応する。(2024年度)  
 建築学科のD P 2に対応する。(2023・2022年度)  
 建築学科のD P 2に対応する。(2021年度)

到達目標

設計図書には詳しく表現されていない建築施工の各工程を学び、施工管理者としての実務に向けた知識と建築士ならびに建築施工管理技術士試験を見据えた学力を修得できる。

授業全体の内容と概要

配布資料を中心に授業を行い、建築技術者に必要な知識の修得を行う。また、建築士試験にも対応した授業を実施する。

授業の方法

配布資料を基本に板書中心の授業を行うが、その分野ごとに建築士試験の過去問題も提供し、その解説を行うことで、建築士試験を意識させた授業を実施していく。不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○ その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

配布資料を必ず持参すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」必修科目、教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	10%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度の問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。
「建築施工」の基礎知識を習得することができる。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組むことができた。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組む必要性を理解できた。	基礎知識を修得することができた。	基礎知識をおおむね修得することができた。	基礎知識を修得することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築施工 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『建築施工テキスト』		建築資料研究社	2020		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 授業改善アンケート結果に関する説明(小笠原)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
2	事前準備:地盤調査	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
3	仮設工事計画:仮設建物・工作物	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
4	地下工事:土工事・山留め工事	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
5	地下工事:基礎工事(直接基礎および各種杭基礎)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
6	鉄筋コンクリート工事:鉄筋工事	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
7	鉄筋コンクリート工事:型枠工事	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
8	鉄筋コンクリート工事:コンクリート工事	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
9	鉄筋コンクリート工事:プレキャスト・ブロック工事・ALC工事	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
10	鉄骨工事:鉄骨の種類と加工	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
11	鉄骨工事:鉄骨の接合方法・溶接接合	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
12	鉄骨工事:鉄骨の接合方法・高力ボルト接合	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
13	鉄骨工事:工事現場作業(工事現場作業工程等)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
14	木質系工事:木造の接合部・造作工事	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
15	木質系工事:小屋組と工法・枠組壁工法	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う) 授業改善アンケートの実施	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える(90分)	定期試験内容を整理して、復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年3年4年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	日本画 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	岡 恵子(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡 恵子)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本画家としての活動履歴を有する教員が、実践に即した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標
<ol style="list-style-type: none"> <li>身近な自然物、静物、人物、風景をよく観察し、日本画の表現に欠かせない基礎的な描写力を身に付けることができる。</li> <li>写生から絵、本画の制作を進め、日本画制作の基本的な手順を知ることができる。</li> <li>水干絵の具・膠・箔・筆・絵絹などの日本画画材と用具を知り、基本的な扱い方を知ることができる。</li> </ol>

授業の位置づけ
デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。(2024年度)

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> <li>写生を通して対象を的確に描写することができる。</li> <li>写生から下絵の制作そして本画へと、日本画制作の手順を知り制作を進めることができる。</li> <li>日本画画材と用具についての基礎的な知識と扱い方を身につけることができる。</li> </ol>

授業全体の内容と概要
<p>季節の自然物、身の回りの静物、人物、風景など、興味を抱いた対象を観察し写生をする。色鉛筆で彩色する。木枠に絵絹を貼り込む。膠水を引く。写生した対象を直接または臨摹アプリ等を利用して画面上に構成する。先人の作品を鑑賞し、筆と墨を使った運筆演習をする。下図の輪郭線を具墨で帯描きする。膠・胡粉・水干絵の具の特徴を知り、これらを使った日本画の表現技法の基礎を学ぶ。希望に応じて箔表現も扱う。絵絹という基底材の特性を生かして塗りを重ねる。絹の透け感を生かした装丁を考える。作品の制作を通して自己を見つめ表現することを目標とする。</p>

授業の方法
<p>授業は、TEAMSのパワーポイント資料、または授業担当者作成のテキストによる日本画の基礎知識についての講義と、日本画の画材の扱いや表現についての実技指導によって構成される。日本画の基礎知識を問う筆記テストを授業内初期段階で行う。作品の制作過程で、毎時間「創作レポート」を記入することを通して、作品制作の構想と日本画の知識の定着をはかる。作品の構想段階と制作の終盤で、作品についての個人発表(プレゼンテーション)と相互評価を行う。作品完成時に提出する作者のコメントには講評を添え、作品と共に学内に掲示する。実技では写生を重視する。希望者は戸外(大学構内)での写生を行う(フィールドワーク)。制作途中、墨を擦る、横写運筆演習、胡粉を溶く、カラ刷毛を使ったグラデーション技法などはグループで協力して行う。</p>

アクティブラーニングの実施方法					
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業
					その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
<p>使用する絹枠・絵絹は各自で購入するものとする。時価(1,500円程度)制作スペースと用具の関係から履修人数を24名程度に制限する。毎授業前にTEAMSに当該授業の内容の紹介と連絡などを提示するので、目を通しておくこと。日本画の画材に早く慣れるために、授業当番を設ける。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準												
<p>評価前提条件</p> <p>単位認定に必要な最低出席回数は2回以上とする。</p> <p>以下の3点が期日までに提出されていること</p> <p>写生(TEAMS課題欄に提出)、絹本に書写した日本画作品1点、創作レポート</p> <p>日本画についての基礎知識を持っていること(基礎知識を問うテストを授業内で実施する)</p>												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>70%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	20%	70%	10%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	20%	70%	10%	0%	0%							

ルーブリック																																			
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>写生力</td> <td>対象の色と形をよく観察し、対象の色と形を的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を豊かに表現することができた。</td> <td>対象の色と形を的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を表現することができた。</td> <td>対象の色と形を的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を試みることができた。</td> <td>対象の色と形を描写することができた。</td> <td>対象の色と形を描写できなかった。</td> </tr> <tr> <td>構成力</td> <td>写生を通して自らの感性に触れた対象を選択し、作品の主題を定め、主題に沿って取材した写生を画面上に的確に構成し、独創的な表現を目指すことができた。</td> <td>写生を通して自らの感性に触れた対象を選択し、作品の主題を定め、主題に沿って取材した写生を画面上に的確に構成することができた。</td> <td>写生を通して作品の主題を定め、主題に沿って取材した写生を画面上に構成することができた。</td> <td>取材した写生を画面上に配置し画面構成することができた。</td> <td>取材した写生を画面上に構成することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>表現力</td> <td>絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗り技法を熟知し、その美しさを生かした独創的な表現を実現することができた。</td> <td>絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗り技法を熟知して、その美しさを生かした独創的な表現を実現することができた。</td> <td>絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗り技法を知り、その美しさを生かした表現を実現することができた。</td> <td>絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗り技法を知り、表現することができた。</td> <td>絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗り技法を知り、表現することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>知識</td> <td>日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識を完全に習得することができた。</td> <td>日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識を習得することができた。</td> <td>日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識をほぼ習得することができた。</td> <td>日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識を習得することができた。</td> <td>日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識を習得できなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	写生力	対象の色と形をよく観察し、対象の色と形を的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を豊かに表現することができた。	対象の色と形を的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を表現することができた。	対象の色と形を的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を試みることができた。	対象の色と形を描写することができた。	対象の色と形を描写できなかった。	構成力	写生を通して自らの感性に触れた対象を選択し、作品の主題を定め、主題に沿って取材した写生を画面上に的確に構成し、独創的な表現を目指すことができた。	写生を通して自らの感性に触れた対象を選択し、作品の主題を定め、主題に沿って取材した写生を画面上に的確に構成することができた。	写生を通して作品の主題を定め、主題に沿って取材した写生を画面上に構成することができた。	取材した写生を画面上に配置し画面構成することができた。	取材した写生を画面上に構成することができなかった。	表現力	絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗り技法を熟知し、その美しさを生かした独創的な表現を実現することができた。	絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗り技法を熟知して、その美しさを生かした独創的な表現を実現することができた。	絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗り技法を知り、その美しさを生かした表現を実現することができた。	絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗り技法を知り、表現することができた。	絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗り技法を知り、表現することができなかった。	知識	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識を完全に習得することができた。	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識を習得することができた。	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識をほぼ習得することができた。	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識を習得することができた。	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識を習得できなかった。
評価項目		評価基準																																	
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																														
写生力	対象の色と形をよく観察し、対象の色と形を的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を豊かに表現することができた。	対象の色と形を的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を表現することができた。	対象の色と形を的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を試みることができた。	対象の色と形を描写することができた。	対象の色と形を描写できなかった。																														
構成力	写生を通して自らの感性に触れた対象を選択し、作品の主題を定め、主題に沿って取材した写生を画面上に的確に構成し、独創的な表現を目指すことができた。	写生を通して自らの感性に触れた対象を選択し、作品の主題を定め、主題に沿って取材した写生を画面上に的確に構成することができた。	写生を通して作品の主題を定め、主題に沿って取材した写生を画面上に構成することができた。	取材した写生を画面上に配置し画面構成することができた。	取材した写生を画面上に構成することができなかった。																														
表現力	絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗り技法を熟知し、その美しさを生かした独創的な表現を実現することができた。	絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗り技法を熟知して、その美しさを生かした独創的な表現を実現することができた。	絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗り技法を知り、その美しさを生かした表現を実現することができた。	絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗り技法を知り、表現することができた。	絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗り技法を知り、表現することができなかった。																														
知識	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識を完全に習得することができた。	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識を習得することができた。	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識をほぼ習得することができた。	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識を習得することができた。	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識を習得できなかった。																														



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年3年4年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	日本画 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	岡 恵子(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡 恵子)		CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本画家としての活動履歴を有する教員が、実践に即した実習を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション ・「日本画とは」概説 ・シラバスの説明・授業改善アンケート結果反映	シラバスを読む(45分)	シラバスを確認し、日本画の概説と授業の流れを確認する。(45分)
2	提示された先輩の作品鑑賞し、作品の構想のヒントとする ・創作レポートに感想を書く	テキスト、パワーポイント資料、創作レポートを確認する。木枠の組み方の解説を確認する。(45分)	提示してある先輩の作品を鑑賞し興味を抱いた点を記録する。捨て際の意味確認。感想を創作レポートに記入する。(45分)
3	日本画の画材と用具の紹介	テキストの用具と画材の欄を事前学習すること、写生に必要な筆記具の準備(45分)	泥・筆・刷毛など形状、名称、用途、特徴などテキストを見て復習する。(45分)
4	モチーフを写生する ・絹柱に陰を施す	作品の主題を想定しモチーフの選択と制作の動機づけを行う。(45分)	テキストとパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
5	基底材としての絵絹の特性を知る ・絹本作品の掛け軸の鑑賞	テキストの絵絹の欄を事前学習する。写生に必要な筆記具の準備(45分)	絹の性質と貼り方、表現の可能性を復習する。描きたいものを選択する。(45分)
6	モチーフを写生する ・絹の文化と特性を知る ・絹柱に絵絹を貼る	作品の主題を想定しモチーフの選択と制作の動機づけを行う。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
7	膠、明礬、ドウサを知る ・絵絹に滑引きをする ・ドウサをひく	テキストの膠と礬水の欄を事前学習する。写生に必要な筆記具の準備(45分)	滑引きの目的、礬水と礬水刷毛の役割を復習すること。描きたい対象を絞り意欲を深める。(45分)
8	モチーフを写生する ・大学構内に出て写生しよう	作品の主題を想定しモチーフの選択と制作の動機づけを行う。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
9	日本画基礎知識ドリルテスト	日本画基礎知識ドリルを学習しておくこと、写生に必要な筆記具の準備(45分)	基礎ドリルの復習を通して知識の定着を確認する。(45分)
10	モチーフを写生する ・大学構内に出て写生しよう	作品の主題を想定しモチーフの選択と制作の動機づけを行う。モチーフを選択する。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
11	墨を知る、墨を摺る ・墨による線描模写演習	墨の濃淡・線質について資料等を閲覧しイメージする。(45分)	墨の摺り方、保管、日本画の線描、骨描きについて演習を通して確認する。(45分)
12	の写生を使って画面を構成する ・骨描きをする	墨の種類、摺り方、粉本を用いた運筆演習を通して線描の多彩さを知る。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
13	胡粉を知る ・胡粉を溶いてみる	授業テキストの胡粉団子の作り方を事前学習する。(45分)	日本画の色材の基本である胡粉の伝統的な扱い方と美しい発色を知る。(45分)
14	絹に胡粉を塗る	胡粉の原料、溶き方、塗り方と目的を復習する。資料を確認して具引きの方法を知る。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
15	水干絵の具を知る ・水干絵の具を美しく溶く	授業テキストの水干絵具の欄を事前学習する。(45分)	水干絵具の美しい溶き方を確認する。(45分)
16	日本画の染りの技法演習 ・絵具の処理と筆の手入れ方法	水干絵具の美しい溶き方、表現技法を繰り返し確認する。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	相互鑑賞	作品の背景色と塗りの方法を決定する。(45分)	作品の相互鑑賞を通して表現の多彩さに気付き互いに技法を学び合う。(45分)
18	絵絹作品の彩色 ・表彩色と裏彩色の違い	テキスト、パワーポイント資料、創作レポートを確認する。背景色を想定する。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
19	絵絹作品の彩色	絹の透ける性質を利用した裏箔表現を取り入れるか想定する。(45分)	写生での観察をもとに水干絵具での表現を深めて行くことを確認する。(45分)
20	絵絹作品の彩色 ・箔を使った表現、裏箔と砂子	テキストやTEAMSの箔の資料を確認する。	テキストとTEAMSの箔の資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
21	絵絹作品の彩色	絹本の彩色に必要な事前準備を行う。(45分)	写生での観察をもとに水干絵具での表現を深めて行くことを確認する。(45分)
22	絵絹作品の彩色	絹本の彩色に必要な事前準備を行う。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
23	絵絹作品の彩色	学習内容に必要な事前準備を行う。裏装丁を工夫した表現を考える(45分)	絹本の彩色を進めて技法と進度を確認する。(45分)
24	絵絹作品の彩色 ・絹の透ける色を生かした表現を考える	絹本の彩色に必要な事前準備を行う。(45分)	これまでの課題として復習テスト問題を考える。テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
25	絵絹作品の彩色	作品の裏装丁を施す。(45分)	絹本の彩色を進めて技法と進度を確認する。(45分)
26	絵絹作品の彩色	絹本の彩色に必要な事前準備を行う。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
27	画印を考える ・画印を描く	*画印のデザインを考える 相互鑑賞で自作を語る準備(45分)	復習テスト問題を集約する(45分)
28	相互鑑賞	絹本の彩色に必要な事前準備を行う。作品についての乾燥を考える。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
29	創作ノートの記入完成 ・画印を描く	創作ノートの記入(一部復習テストあり)	創作ノートの完成
30	作品完成と鑑賞 作品を鑑賞する	作品の装丁に必要な素材や額を選択する。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
31	課題に対する解説・フィードバック	講義全体を通して質問事項をまとめておく。(45分)	講義内容全体を振り返り自己評価表を記入する。(45分)
32	課題課題に対する解説・フィードバック 授業改善アンケートの実施	講義内容全体を振り返り自己評価表を記入する。(45分)	解説・フィードバックを受けて講義全体の理解を深める。(45分)



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築設備 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	君 興治(建築学科・特任准教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 君 興治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長として設計監理をしている経験から、躯体、断熱、金物との干渉やスペースの確保、またどのタイミングで設備工事が行われるかをイメージしながら設備計画を進める。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。				

概要

履修目標
<p>建築にはどのような設備があり、その設備をどう計画し、どう作るのか。本講義では、快適な住空間を構成するために必要な給水給湯設備・衛生排水設備・空調調設備・電気設備・照明設備の知識、ならびに設備計画技術の基本を習得する。</p>
授業の位置づけ
<p>建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)                  建築学科のDP3、DP4に対応する。(2023・2022年度)                  建築学科のDP2、DP3に対応する。(2021年度)</p>

到達目標
住宅建築の各設備の必要性を理解した上で、仕組みを知り、用途に合った設備を計画・作図表現ができる。

授業全体の内容と概要
<p>給水給湯設備・衛生排水設備・空調調設備・電気設備・照明設備について、そのシステムとメカニズムを中心に解説し、各種設備の役割を学ぶ。                  「SDG7 エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」                  「SDG12 つくる責任 つかう責任」                  これからの時代のエネルギーに合わせた設備設計や設備図面の描き方を指導していく</p>

授業の方法
<p>授業では、板書やICT(チームスを使用しながら、設備図をオンライン上その場で液晶ペンタブレットで添削し、毎事業ごとに保存することで、授業の課題経過をデジタル的に残し、振り返りの自習を実現する。)を活用しながら事例を紹介し、双方向授業で実施する。                  また、授業中毎回、設備計画図を提出し添削を行いフィードバックする。                  不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
授業ごとに行われる課題をすべて提出することが単位履修の条件とする。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」必修科目、教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	70%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	70%	0%	30%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>住宅規模の設備の種類を理解し、設備計画、正確な作図表現ができていたか。</td> <td>各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。</td> <td>各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。</td> <td>各種設備図を正しく描くことができた。</td> <td>各種設備図を描くことができた。</td> <td>設備図の作図ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>使用者が利用しやすい設備計画となっていたか。</td> <td>各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。</td> <td>各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。</td> <td>各種設備図を正しく描くことができた。</td> <td>各種設備図を描くことができた。</td> <td>設備図の作図ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>設備の能力上支障がなかったか。</td> <td>各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。</td> <td>各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。</td> <td>各種設備図を正しく描くことができた。</td> <td>各種設備図を描くことができた。</td> <td>設備図の作図ができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	住宅規模の設備の種類を理解し、設備計画、正確な作図表現ができていたか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。	使用者が利用しやすい設備計画となっていたか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。	設備の能力上支障がなかったか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
住宅規模の設備の種類を理解し、設備計画、正確な作図表現ができていたか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。																								
使用者が利用しやすい設備計画となっていたか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。																								
設備の能力上支障がなかったか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築設備 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	君 興治 (建築学科・特任准教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 君 興治)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長として設計監理をしている経験から、躯体、断熱、金物との干渉やスペースの確保、またどのタイミングで設備工事が行われるかをイメージしながら設備計画を進める。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『やさしい建築設備図面の見方・かき方』	千葉 孝男	オーム社	1999	9784274102509	
2	『世界で一番やさしい 建築設備』	山田浩幸	エクスナレッジ	2013	9784767815480	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと (90分)	プリントを読んで理解しておくこと (90分)
2	給水設備・給湯設備の概要と計画 (1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
3	給水設備・給湯設備の概要と計画 (2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
4	給水設備・給湯設備の概要と計画 (3)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
5	衛生設備・排水設備の概要と計画 (1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
6	衛生設備・排水設備の概要と計画 (2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
7	衛生設備・排水設備の概要と計画 (3)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
8	空調設備の概要と計画 (1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
9	空調設備の概要と計画 (2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
10	空調設備の概要と計画 (3)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
11	電気設備の概要と計画 (1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
12	電気設備の概要と計画 (2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
13	電気設備の概要と計画 (3)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
14	照明設備の概要と計画 (1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
15	照明設備の概要と計画 (2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
16	照明設備の概要と計画 (3) 授業改善アンケートの実施	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	高齡者福祉 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、高齡者福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

高齡者の生活に対する理解を深め、相談援助活動において必要となる諸制度やサービスの知識と活用方法について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3、DP5に対応する。(2023年度)

到達目標

高齡者の福祉ニーズの理解と、関する制度やサービスの知識を会得できる。

授業全体の内容と概要

高齡者福祉サービスの利用者の理解と、支援の基盤となる理念及び、高齡者福祉に関する諸制度やネットワークについて学ぶ。  
「SDGs3:すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

教科書に沿って、講義形式で展開していく。授業内で小試験(中間試験)を行い、その中から60点分、定期試験に出題する。不測の事態における授業や補講等にオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は、欠席とする。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程科目である。

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	20%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
高齡者の特性について理解できる。	高齡者が生活してきた時代背景を含めて、説明できる。	身体的、精神的、社会的特徴の説明ができる。	身体的、精神的、社会的特徴の説明ができる。	助言があれば理解できる。	助言があっても理解できない。
高齡者を取り巻く環境と、生活実態の理解ができる。	社会環境と、生活実態、近年の高齡者に関する問題と、今後の課題について説明できる。	社会環境と、生活実態、近年の高齡者に関する問題について説明できる。	社会環境と、生活実態、近年の高齡者について理解できる。	助言があれば理解できる。	助言があっても理解できない。
高齡者支援に対する関連制度の理解ができる。	高齡者福祉に対する諸制度の概要と、各々の課題について説明できる。	高齡者福祉に対する諸制度の概要について説明できる。	高齡者福祉に対する諸制度の概要について理解できる。	助言があれば理解できる。	助言があっても理解できない。
高齡者と家族の支援におけるソーシャルワーカーの役割を理解できる。	関連する機関や地域の中でソーシャルワーカーが担う役割を事例を用いて説明できる。	関連する機関や地域の中でソーシャルワーカーが担う役割を説明できる。	関連する機関や地域の中でソーシャルワーカーが担う役割を理解できる。	助言があれば理解できる。	助言があっても理解できない。

基本情報

科目分類区分	専門	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	高齢者福祉 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館4階	
単位数	2 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、高齢者福祉に対する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新社会福祉士養成講座高齢者福祉』	荘村明彦	中央法規	2021年	978-4-8058-8245-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 高齢者の定義と、少子高齢社会 授業改善アンケート結果反映の説明	教科書の目次に目を通す。新聞の高齢者にかんする記事をスクラップする。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
2	高齢者の特性	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
3	高齢者の生活実態と、高齢者を取り巻く社会環境	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
4	高齢者福祉の歴史	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
5	高齢者福祉の法体系 老人福祉法	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
6	高齢者福祉の法体系 高齢者医療確保法、高齢者虐待防止法	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
7	高齢者福祉の法体系 パリアフリー法、高齢者住まい法等	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
8	小試験	1回から7回の内容を復習する。(90分)	試験の自己採点をする。(90分)
9	高齢者福祉の法体系 介護保険法	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
10	高齢者福祉の法体系 介護保険制度によるサービス体系	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
11	高齢者福祉の法体系 介護保険制度によるサービス体系	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
12	高齢者支援における関連機関と専門職	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
13	高齢者支援の実際	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
14	高齢者支援の実際	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
15	定期試験	1回から14回の復習をする。(90分)	試験の自己採点をする。(90分)
16	試験解説とまとめ 授業改善アンケートの実施	1回から15回を振り返り、質問事項があればまとめる。(90分)	試験の不正解部分について復習する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	デッサン (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザイナーとして、アーティストとして、美術の教員として「デッサン」が全ての基礎基本であることを十分に認識させ、単に技能や知識の向上にとどまらず、美術を愛好し積極的に、学生がそれぞれの専門分野に活かそうとする態度を養うこと。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)  
 デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2023・2022年度)  
 デザイン学科のDP1、DP2、DP3に対応する。(2021年度)

到達目標

モチーフのかたちを客観的に把握できるようにすること。素描の楽しさや重要性について理解できる。  
 卒業後の社会での生活を想定した専門性に関する意識の高揚と実践的態度を養成する。

授業全体の内容と概要

デッサンの材料・用具・その要素としてのプロポーション・明暗・質感・空間表現などについての実習。

授業の方法

プレゼンテーションは板書にて行う。授業形態は実技を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

知性と感性を十分に発揮し、根気強くたゆまなく努力すること。  
 作品の質・課題に取り組む姿勢・鑑賞力などを重視する。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
適正な構図、形のバランス(比例)が正しく捉えられていることを基準とする	バランスよく配置や大きさが捉えられていた	ほぼバランスよく配置されていた	大きさ等が大体捉えられていた	左右上下にバランスよく配置されていた	左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等
光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする	自然な光の流れが表現出来ていた	ほぼ光の方向が表現出来ていた	明るい、暗いの描き分けが出来ていた	明暗で表現しているた	輪郭線等で囲って色を付けていた
陰影法を正しく理解できているかを基準とする	陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ていた	陰で立体表現が出来ていた	光の流れで立体表現をしていた	色の濃淡で表現していた	輪郭の中に単色の調子を塗り込んでいた

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	デッサン (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 デッサンのための用具野説明、授業の流れと目的などについて。	シラバスを読んでおくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
2	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
3	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
4	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
5	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
6	石膏像 (胸像) のデッサン 作品画像保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
7	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
8	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
9	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
10	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
11	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
12	石膏像 (胸像) のデッサン 作品画像保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
13	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
14	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
15	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
16	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
18	石膏像 (胸像) のデッサン 作品画像保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
19	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
20	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
21	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
22	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
23	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
24	石膏像 (胸像) のデッサン 作品画像保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
25	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
26	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
27	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
28	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
29	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
30	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
31	石膏像 (胸像) のデッサン 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
32	採点及び講評会 (解説・フィードバック) 授業改善アンケート実施	講評会の準備を行うこと (45分)	解説・フィードバックを受けて講義内容のふりかえりを行うこと (45分)

## 基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築構造力学 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	長森 正(建築学科・特任教授)	研究室等所在	アトリエ棟 1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

## 概要

### 履修目標

建築技術者に必要な建築構造力学のうち、力と構造物の関係・力の釣り合い・静定構造物の特徴や解法を学習する。物理学や数学をベースとして、構造計算の基礎知識を修得し、それらに応用する能力を身につける。

### 授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)  
 建築学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度)  
 建築学科のDP1、DP5、DP7に対応する。(2021年度)

### 到達目標

建築構造物に起きている力学的諸現象がイメージし、把握できる。力の釣り合いを理解し、静定はり・静定ラーメンなどの支点反力・応力を計算して断面力図を描くことができる。建築施工管理技士・建築士の構造力学分野の問題を解くことができる。

### 授業全体の内容と概要

取扱う内容は静力学の基礎知識・初等弾性力学及び静定構造物の応力と変形等である。力の表示・合成・分解・釣り合い等から構造物の荷重・反力、応力などの事項を講義する。

### 授業の方法

教科書の例題に沿って解説しながら板書にて講義する。積み重ねが重要な科目であるので出席を特に重視し、授業毎に簡単な演習を出題する。参考資料無しで演習が自力で解けるように講義する。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

### アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

### 履修上の注意事項

教科書の例題と配布資料を中心に講義を進めるので、休まず出席して知識を集積することが重要。講義を理解し演習を行うには十分な予習が必要であり、知識の定着には復習(反復演習)が必要である。

### 修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

### 資格指定科目

教職課程(工業)必修科目、建築士試験受験資格課程

## 評価方法・基準

### 評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

### 評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%

## ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
力に関する基礎知識	複数の力のベクトル表示から力の合成・分解ができ、他の人に説明できた。	複数の力のベクトル表示から力の合成・分解ができた。	複数の力のベクトル表示ができた。	ある点の作用するベクトル表示ができた。	ある点の作用するベクトル表示ができなかった。
静定構造物に生じる力学的諸現象	様々な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができ、他の人に説明できた。	様々な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができた。	基本的な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができ、説明できた。	基本的な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができた。	基本的な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができなかった。
建築士・建築施工管理技士の試験問題対応力	2級建築士問題(構造部門)を解答でき、他の人に説明できた。	2級建築士問題(構造部門)を解答できた。	施工管理技士試験問題(構造部門)を解答でき、他人に説明できた。	施工管理技士試験問題(構造部門)を解答できた。	施工管理技士試験問題(構造部門)を解答できなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築構造力学 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	長森 正 (建築学科・特任教授)	研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技術士・測量士・コンクリート技術士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『図説やさしい構造力学』	浅野 清昭	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『初めての建築構造力学』	建築のテキスト編集委員会編	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 構造力学に必要な算術計算	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(90分)	授業内容を整理して、演習問題を復習する(90分)
2	力に関する基礎知識 (1)力・力のモーメント	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
3	力に関する基礎知識 (2)合力・分布荷重	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
4	力の釣り合い	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
5	構造物(荷重)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
6	構造物(反力)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
7	部材の生じる力 (1)(基礎)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
8	部材の生じる力 (2)(単純梁)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
9	部材の生じる力 (3)(片持梁)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
10	部材の生じる力 (4)(せん断力図・曲げモーメント図)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
11	荷重の重ね合わせ	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
12	静定ラーメン(1)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
13	静定ラーメン(2)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
14	静定ラーメン(3)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
15	まとめ	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
16	授業改善アンケートの実施 定期試験60分の試験終了後、残りの30分で解説を行います。	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える(90分)	授業内容全体について資料を整理する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CAD演習 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	君 興治(建築学科・特任准教授)、向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1	(単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所にてARCHICAD・Vector Worksを用いた設計監理業務を行なった経験を基に授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「CAD演習」を受けて本講ではJW CADより高機能なBIM (Building Information Modeling) であるARCHICAD・Vector Works の作図操作について学ぶ。設計演習科目に関連する課題を通して、図面表現が単なる「お絵かき」ではなく、「建築製図」として仕上がる段階までCADが設計ツールとして扱えるように修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)  
 建築学科のDP1、DP5に対応する。(2023・2022年度)  
 建築学科のDP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

3次元CADを使い、自分で計画した建築物が手描き図面のように作図できる。

授業全体の内容と概要

コンピュータ室にて、ARCHICAD・Vector Worksを用いたモデリング・作図操作の演習を行う。設計演習科目に関連する課題を実施し、ARCHICAD・Vector Worksを用いて自由にモデリング・作図できるスキルを習得する。

授業の方法

コンピュータ室にて、ARCHICAD・Vector Worksの作図操作画面を大型ディスプレイに表示しながら説明し、学生に操作方法を修得してもらう。作図操作に慣れたら、本講またはRC造の設計課題を提示し、まずはエスキスを作成させる。個別にプレゼンしてもらい、それに対して確認と修正指導を行う。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業ではコンピュータ室にて授業を行うことから、使用するパソコンを指定するが、ノートパソコンを持っている場合は持参することを推奨する。USBメモリは持参すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ARCHICAD・Vector Worksを用いて正しいモデルが表現ができる。	ARCHICAD・Vector Worksを用いて、的確で美しいモデル表現が完璧にできた。	ARCHICAD・Vector Worksを用いて、的確で美しいモデル表現が8割方できた。	ARCHICAD・Vector Worksを用いて、的確で美しいモデル表現がほぼ6割方できた。	ARCHICAD・Vector Worksを用いて、モデル表現ができた。	ARCHICAD・Vector Worksを用いて、モデル表現ができなかった。
ARCHICAD・Vector Worksを用いて正しい作図表現ができる。	ARCHICAD・Vector Worksを用いて、的確で美しい作図表現が完璧にできた。	ARCHICAD・Vector Worksを用いて、的確で美しい作図表現が8割方できた。	ARCHICAD・Vector Worksを用いて、的確で美しい作図表現がほぼ6割方できた。	ARCHICAD・Vector Worksを用いて、作図表現ができた。	ARCHICAD・Vector Worksを用いて、作図表現ができなかった。
相手に伝わるプレゼンテーション(レイアウト)ができる。	CADを用いて相手に正確に意図を伝えるプレゼンテーションが完璧にできた。	CADを用いて相手に正確に意図を伝えるプレゼンテーションが8割方できた。	CADを用いて相手に正確に意図を伝えるプレゼンテーションがほぼ6割方できた。	CADを用いて相手に意図を伝えるプレゼンテーションができた。	CADを用いて相手に意図を伝えるプレゼンテーションができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CAD演習 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	君 興治(建築学科・特任准教授)、向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験を基に授業を行う。 設計事務所にてARCHICAD・Vector Works を用いた設計監理業務を行なった経験を基に授業を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『10日間でマスター! VectorWorks(ver.2018/2017対応)』	山川佳伸	エクスタレッジ	2018	9784767825199	
2	『Archicad 26ではじめるBIM設計入門 [企画設計編]』	BIM LABO	エクスタレッジ	2022	9784767830803	
3	『ARCHICAD21ではじめるBIM設計入門 [基本・実務設計編]』	BIM LABO	エクスタレッジ	2019	9784767825946	
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 作品紹介 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	ARCHICAD・Vector Works 基本操作	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	ARCHICAD・Vector Works 基本操作	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	ARCHICAD・Vector Works 基本操作	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	作図演習課題1(3階建てビル・モデリング)	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	作図演習課題1(3階建てビル・モデリング)	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	作図演習課題1(3階建てビル・モデリング)	授業の作図の継続(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	作図演習課題1(3階建てビル・モデリング)	授業の作図の継続(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	作図演習課題1(3階建てビル・作図)	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
10	作図演習課題1(3階建てビル・レイアウト出力)	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
11	作図演習課題2(住宅課題・モデリング)	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業の作図の継続(45分)
12	作図演習課題2(住宅課題・モデリング)	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
13	作図演習課題2(住宅課題・モデリング)	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
14	作図演習課題2(住宅課題・作図)	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
15	作図演習課題2(住宅課題・レイアウト出力)	レイアウト準備(45分)	レイアウト提出(45分)
16	講評会 授業改善アンケートの実施	講評会準備(45分)	振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	洋画 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安田 祐造)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照してください。				

概要

履修目標

洋画の技法は、今日の我が国では油彩が一般的だが、欧州における長い洋画の歴史を顧みれば、油彩技法が確立される以前のエッグテンペラの技法は欠かせない。この授業では油彩とエッグテンペラによる絵画制作に用いる用材についての基本を学び、それぞれの技法の良さを活かすことにより、各々の履修生の表現の幅を広げるための道を拓くことを目的とするものである。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)  
 デザイン学科のDP1、DP3、DP5に対応する。(2023・2022年度)  
 デザイン学科のDP2、DP3、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

油彩やエッグテンペラの技法、それらの用材の特徴や使用法と管理の仕方などの基本を理解し、それぞれの特徴を活かした絵画制作を行えるようにすることや自分に相応しい表現方法を探究する態度を養成することを目標とする。

授業全体の内容と概要

油彩のみならず、エッグテンペラなどに関する様々な技法や材料について、支持体の種類とそれぞれの作り方と特徴、顔料の種類と性質、展色剤の種類と特徴、様々な用具の使用法や管理の仕方などについての基本を学修し表現の幅を広げるための科目である。

授業の方法

油彩とエッグテンペラによる「混合技法」で作品を制作する実技形式の授業である。履修者各自が設定したテーマに則り、それを有効に表現した作品を創り上げることを課題とする。実習のみならず視聴覚機器を十分に活用し参考資料等の紹介や説明を行い、普段の授業や合評会においては、適切なコメントによりフィードバックに寄与させようとするものである。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

この授業を履修するに当たっては、芸術文化の素養らしさを追求するばかりか、自然環境やものを大切にする態度なども身につける意欲を持ち合わせた人を対象とした授業であることを十分に認識したうえで履修すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は22回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
支持体について	基底材の裁断と組み立て、地塗り、研磨などの基本について十分に身についた。	基底材の裁断と組み立て、地塗り、研磨などの基本について身についた。	基底材の裁断と組み立て、地塗り、研磨などの基本についてほぼ身についた。	基底材の裁断と組み立て、地塗り、研磨などの基本についてある程度身についた。	基底材の裁断と組み立て、地塗り、研磨などの基本について身につかなかった。
彩色材料について	エッグテンペラの展色剤の処方と管理の仕方、油彩の材料の特性などについての基本が十分に身についた。	エッグテンペラの展色剤の処方と管理の仕方、油彩の材料の特性などについての基本が身についた。	エッグテンペラの展色剤の処方と管理の仕方、油彩の材料の特性などについての基本がほぼ身についた。	エッグテンペラの展色剤の処方と管理の仕方、油彩の材料の特性などについての基本がある程度身についた。	エッグテンペラの展色剤の処方と管理の仕方、油彩の材料の特性などについての基本が身につかなかった。
描写について	モチーフの面やバルールなどを十分的確にとらえた描写が行えた。	モチーフの面やバルールなどを的確にとらえた描写が行えた。	モチーフの面やバルールなどをほぼ的確にとらえた描写が行えた。	モチーフの面やバルールなどをある程度的確にとらえた描写が行えた。	モチーフの面やバルールなどを的確にとらえた描写が行えなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	洋画 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安田 祐造)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
		50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスについて 古今の作品について。(構図を主に) 授業改善アンケート結果反映の説明	予めシラバスに目を通す。(45分)	これから制作する作品の構想を練る。(45分)
2	洋画作品の構造と用材 木材の性質について	基底材として使用する木材の性質について予習する。(45分)	本時の内容についての復習と自らの作品に相応しい支持体について検討する。(45分)
3	支持体製作 木材の取断について 木工具の取り扱いについて	基本的な木工具の取り扱い方について予習する。(45分)	作品のテーマとモチーフを検討する。(45分)
4	支持体製作 木材の組み立てについて 木材の接着について	接着剤の種類や用法について予習する。(45分)	本時の内容についての復習と地塗り材についての予習を行う。(45分)
5	支持体製作 地塗り材の処方について	地塗り材による作品に対する効果について予習する。(45分)	様々な地塗り材の特徴と取り扱いとを復習する。(45分)
6	支持体製作 地塗りの仕方について	地塗り材の塗りの方法について予習する。(45分)	新作として構想したものを下絵として用意する。(45分)
7	支持体製作 地塗り面の研磨について 下絵の転写作業について	ヤスリなどの研磨材や用具について予習しておく。(45分)	様々な転写方法について復習する。(45分)
8	エッグテンペラでの下描き エッグテンペラ用展色剤の処方について	面や陰影の把握の重要性について予習する。(45分)	エッグテンペラ用展色剤の処方について復習する。(45分)
9	エッグテンペラでの下描き エッグテンペラでの描法について	エッグテンペラメディウムの特徴について予習する。(45分)	作品創りに不足している用材等を補充しておく。(45分)
10	エッグテンペラでの下描き エッグテンペラでの描法について	エッグテンペラ絵具での描法について練習を行う。(45分)	本時の内容を復習し、古今のエッグテンペラを用いた作品を分析する。(45分)
11	混合技法(油彩とエッグテンペラ)による本制作 A エッグテンペラでの描法について	制作が遅れている場合、自ら制作を進め、遅れを取り戻す。(45分)	エッグテンペラの特徴を踏まえた描法について復習する。(45分)
12	混合技法による本制作 B エッグテンペラでの描法について	前回の制作を振り返り、自らの課題を明確化しておく。(45分)	描写に不足がある場合は、自らそれを補っておく。(45分)
13	混合技法による本制作 C 油彩の特徴について	油彩の特徴を活かした描法について予習する。(45分)	古今の油彩や混合技法による作品の良さを画集やインターネットを活用して味わう。(45分)
14	混合技法による本制作 D エッグテンペラでの下層を活かす油彩描法について	油彩絵具の透明性について予習する。(45分)	進捗状況を点検し、足りない部分を補う。(45分)
15	混合技法による本制作 E 質感の表現法について	質感表現について予習する。(45分)	本時の内容に照らし、遅れている点や不足している点がないか検討する。(45分)
16	混合技法による本制作 F 陰影のコントラストについて	陰影のコントラストの重要性について予習する。(45分)	より良いものを求め不足している部分を補い、過ぎた部分については修正する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	混合技法による本制作 G 色彩の調和と色の三属性について	表現の意図に相応しい配色の仕方について予習する。(45分)	本時の内容を復習し理解する。(45分)
18	混合技法による本制作 H 色彩の調和と色の三属性について	前回の内容で理解できていない点を明らかにする。(45分)	色彩について着目し、制作の進め方について検討する。(45分)
19	混合技法による本制作 I 色彩の調和と色の三属性について	色彩に着目し、自らの作品の進捗を確認する。(45分)	色彩について、これまでに学んだことを復習する。(45分)
20	混合技法による本制作 J エッグテンペラでの上描きについて	油彩絵具の層の上にエッグテンペラ絵具を乗せたことによる効果について予習する。(45分)	油彩絵具の層の上にエッグテンペラ絵具を乗せて表現した古今の作品を参照する。(45分)
21	混合技法による本制作 K エッグテンペラでの上描きについて	油彩絵具の層の乾き具合とエッグテンペラ絵具の乗り具合の関係について予習する。(45分)	本時の制作体験から、油彩絵具の具だけでは得られないものが何か検討する。(45分)
22	混合技法による本制作 L エッグテンペラ絵具の浮き出し効果について	油彩絵具の具での光の表現と混合技法でのそれとの効果の差異について予習する。(45分)	本時の制作体験により得られたものを、これからの制作にどのように活かすべきかを検討する。(45分)
23	混合技法による本制作 M 個別的な課題について	これまでの制作を振り返り、自らの課題が何かを明らかにする。(45分)	自らが抱く作品についての構想を再確認する。(45分)
24	混合技法による本制作 N 個別的な課題について	本時の制作で解決すべき点についてまとめる。(45分)	本時の制作で解決した点とそうではなかった点について検討する。(45分)
25	混合技法による本制作 O 個別的な課題について	前回の制作で行き詰った点があれば、それを明らかにし、他者からの助言を受ける用意を行う。(45分)	作品仕上げの期限も近いことから、空き時間を利用して完成度を高められるように制作に取り組む。(45分)
26	混合技法による本制作 P 個別的な課題について	制作当初の表現の意図が具現化されたかを確認する。(45分)	表現の意図を確かにするために必要な点があるかを明らかにする。(45分)
27	混合技法による本制作 Q 個別的な課題について	作品の細部と全体とに目をやり、改めるべき点や補うべき点などを明らかにする。(45分)	他者から意見や感想を寄せてもらい、制作の糧とする。(45分)
28	混合技法による本制作 R 個別的な課題について	これまでの授業で取りあげられたそれぞれのテーマについて、自らの作品を客観的に検討する。(45分)	足りない点や過ぎた点などを加筆したり修正したりして完成度を高める。(45分)
29	混合技法による本制作 S 個別的な課題について	作品提出を前に完成度を点検する。(45分)	冷静に客観的にできるだけ広い視野で自らの作品を検討する。(45分)
30	混合技法による本制作 T 個別的な課題について	完成に向けて、様々な点について検討を行う。(45分)	これまでの制作で果たせたことや果たしきれなかったことについて検討する。(45分)
31	合評 A	自らの作品について自己評価を行う。(45分)	他者の意見や助言や感想を参考に、自らの作品についての評価を再検討する。(45分)
32	合評 B 授業改善アンケートの実施	感性や価値観の相違、多様性などについての考えをまとめる。(45分)	合評会での他者の意見や助言を参考に、これからの制作の仕方について検討する。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	障害者福祉 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標	<p>障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。                  障害者福祉の歴史と障害者の変遷、制度の発展過程について理解する。                  障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。                  障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。</p>
------	---

授業の位置づけ	社会福祉学科のDP1、DP2、DP3に対応する(2023年度)。
---------	----------------------------------

到達目標	<p>障害者の取り巻く社会情勢と生活実態について、データを用いて説明し課題を指摘できる。                  障害者にかかわる法体系について、その成立の過程や概要について理解する。                  障害者福祉にかかわる制度の体系とその概要について理解し、課題を指摘できる。</p>
------	--

授業全体の内容と概要	<p>障害概念の特性、障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境、障害者福祉の歴史、障害者に対する法制度、障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割、障害者と家族に等に対する支援の実態                  「SDG3.すべての人に健康と福祉を」、「SDG8.働きがいも経済成長も」、「SDG16.平和と公正をすべての人に」、「SDG17.パートナーシップで目標を達成しよう」の関連授業</p>
------------	--

授業の方法	<p>教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習(グループワーク等)も取り入れる。配布された資料には板書事項を記述すること。                  毎回の振り返り(小テスト・感想・質問等)をMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。                  第10回目の前半には中間テストを実施し、理解度を確認する(出題形式・試験時間等は授業内で説明)。                  授業資料の配信等においてMicrosoft Teamsを活用する。                  基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。</p>
-------	--

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	<p>教科書は毎回持参すること。                  配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。                  ニュースなどで報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。                  新聞記事などを題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。</p>
----------	---

修学サポート(合理的配慮)	<p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
資格指定科目	<p>社会福祉士国家試験受験資格課程, 精神保健福祉士国家試験受験資格課程</p>

評価方法・基準

評価前提条件	出席回数は定期試験前までに10回以上あることを評価の前提条件とし、第10回目に実施する中間テスト(30点)、第16回に実施する定期試験(70点)の結果を総合して評価する。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	70%	0%	0%	30%	0%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
障害者の取り巻く社会情勢と生活実態について、データをを用いて説明し課題を指摘できる。	関係するデータを用いて障害者を取り巻く社会情勢と生活実態について具体的に説明・記述できた。	関係するデータを用いて障害者を取り巻く社会情勢と生活実態についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者を取り巻く社会情勢と生活実態について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者を取り巻く社会情勢と生活実態についておおむね説明・記述できた。	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態についてキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。	
障害者にかかわる法体系について、その成立の過程や概要について理解する。	障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要について具体的に説明・記述できた。	障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要についておおむね説明・記述できた。	障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。	
障害者福祉にかかわる制度の体系とその概要について理解し、課題を指摘できる。	障害者にかかわる制度の体系と概要、課題について具体的に説明・記述できた。	障害者にかかわる制度の体系と概要、課題についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる制度の体系と概要、課題について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる制度の体系と概要、課題についておおむね説明・記述できた。	障害者にかかわる制度の体系と概要、課題について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。	



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	障害者福祉 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 8 障害者福祉』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021年	978-4-8058-8238-2	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	本講義の進め方、シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、障害者福祉の概説、障害概念と特性	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
2	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境、障害者福祉の歴史 障害者福祉の理念・障害観の変遷	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
3	障害者福祉の歴史 障害者処遇の変遷、障害者の権利条約と障害者基本法	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
4	障害者に対する法制度 障害者総合支援法(障害者総合支援法の概要、障害福祉サービス及び相談支援 障害支援区分及び支給決定)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
5	障害者に対する法制度 障害者総合支援法(自立支援医療・補装具・地域生活支援事業、障害福祉計画)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
6	障害者に対する法制度 身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
7	障害者に対する法制度 児童福祉法・発達障害者支援法・障害者虐待防止法	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
8	障害者に対する法制度 障害者差別解消法・バリアフリー法・障害者雇用促進法・障害者優先調達推進法	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
9	障害者概念の特性、障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境、障害者福祉の歴史、障害者に対する法制度の振り返り	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
10	中間テスト、振り返り	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	試験で間違えた箇所、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
11	障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割 関係機関と専門職等の役割	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
12	障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割 事例検討	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
13	障害者と家族等に対する支援の実態 障害領域における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割・障害者と家族等に対する支援の実態	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
14	障害者と家族等に対する支援の実態 事例検討	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
15	授業のまとめ	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
16	定期試験(60分の試験後、残りの30分で解説)、授業改善アンケートの実施	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えた箇所、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ経営管理論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	天野 雅斗(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 天野 雅斗)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

体育・スポーツを経営学の視点から捉え、指導者(リーダー)として、体育・スポーツ経営管理に必要な基本的知識や基礎理論を理解し、体育・スポーツ経営管理の考え方や各領域の具体的な動向について学ぶ。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

学校教育およびスポーツ団体における経営の問題点や課題について理解し、各種スポーツの運営や学校教育における体育やスポーツ活動に関して理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

体育・スポーツ経営管理について、知識や理論として学ぶだけでなく、実践的な能力を身につけることを目指す。学校における教科体育や体育的行事、運動部活動、職場・地域のスポーツクラブ等様々な領域におけるスポーツ経営管理の内容・方法・形態・評価など、具体的な実践事例を挙げ授業を進める。

授業の方法

講義形式で授業を行う。既習範囲の内容やハンドアウトを利用し、スポーツにおけるマネジメントの在り方を理解する。ノートの作り方や課題、予習復習の内容・やり方についてはその都度授業中に指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は指示があるとき以外は認めない。板書の写真撮影は認めるが次回の授業までに必ずノートに転記すること。講義資料はその都度配布する。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する可能性がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席および授業参加度を重視する。出席とは、教科書・ノート・筆記用具の3点セットを持参することを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為およびテキストを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとする。中間試験は実施しない。課題提出を複数回行う。ノート提出を1回課し、最終評価の対象とする。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツソーシャルワーカー資格課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、試験実施回を含めて11回以上とする。遅刻は20分までとし2回の遅刻を1回の欠席として扱う。予習復習を心がけ、知らない・分からない事柄は必ず調べてノートに記録すること。ノート提出は平常点の最大50%に換算する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で90点以上の得点を挙げた。	定期試験で80点以上の得点を挙げた。	定期試験で70点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、マネジメントの真髓や各種理論への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランスへの理解に対する進歩が見られず、自分自らのデータベースができていない。
主体性	自己の目標をしっかりと設定し、データベース化に取り組み、余った時間をさらに定義や理論の研究・理解に振り分けている。	質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学における意思決定やデータベース化に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	<b>スポーツ経営管理論</b> (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	天野 雅斗(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 天野 雅斗)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『体育・スポーツ経営学講義』	八代 勉・中村 平	大修館書店	2002	9784469264807	2013年第11刷発行
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション:シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 現代スポーツと体育・スポーツ経営学 <スボ	専用のノートを準備する(90分)	ノートによる情報のデータベース化を行うこと(90分)
2	体育・スポーツ経営とは	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
3	体育・スポーツ経営とは	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
4	体育・スポーツ事業と経営資源	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
5	体育・スポーツ事業と経営資源	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
6	体育・スポーツ事業の進め方	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
7	体育・スポーツ事業の進め方	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
8	よい体育・スポーツ経営の条件	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
9	よい体育・スポーツ経営の条件	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
10	学校週5日制時代の体育・スポーツ経営	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
11	学校週5日制時代の体育・スポーツ経営	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
12	『みるスポーツ』の経営	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
13	『みるスポーツ』の経営	ノート提出に備える(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
14	ノートチェック	ノート提出に備える(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
15	テストレビュー&ノートチェック 授業改善アンケートの実施	ノート提出に備える(90分)	試験に備える(90分)
16	試験および総括	試験に備える(150分)	本科目の総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	スポーツ経営管理論 (SP) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	天野 雅斗 (経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 天野 雅斗)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

体育・スポーツを経営学の視点から捉え、指導者(リーダー)として、体育・スポーツ経営管理に必要な基本的知識や基礎理論を理解し、体育・スポーツ経営管理の考え方や各領域の具体的な動向について学ぶ。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

学校教育およびスポーツ団体における経営の問題点や課題について理解し、各種スポーツの運営や学校教育における体育やスポーツ活動に関して理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

体育・スポーツ経営管理について、知識や理論として学ぶだけでなく、実践的な能力を身につけることを目指す。学校における教科体育や体育的行事、運動部活動、職場・地域のスポーツクラブ等様々な領域におけるスポーツ経営管理の内容・方法・形態・評価など、具体的な実践事例を挙げ授業を進める。

授業の方法

講義形式で授業を行う。既習範囲の内容やハンドアウトを利用し、スポーツにおけるマネジメントの在り方を理解する。ノートの作り方や課題、予習復習の内容・やり方についてはその都度授業中に指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は指示があるとき以外は認めない。板書の写真撮影は認めるが次回の授業までに必ずノートに転記すること。講義資料はその都度配布する。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席および授業参加度を重視する。出席とは、教科書・ノート・筆記用具の3点セットを持参することを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為およびテキストを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとする。中間試験は実施しない。課題提出を複数回行う。ノート提出を1回課し、最終評価の対象とする。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツソーシャルワーカー資格課程科目 保健体育教員養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、試験実施回を含めて13回以上とする。遅刻は20分までとし2回の遅刻を1回の欠席として扱う。予習復習を心がけ、知らない・分からない事柄は必ず調べてノートに記録すること。ノート提出は平常点の最大50%に換算する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で90点以上の得点を挙げた。	定期試験で80点以上の得点を挙げた。	定期試験で70点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、マネジメントの真髄や各種理論への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランスへの理解に対する進歩が見られず、自分自らのデータベースができていない。
主体性	自己の目標をしっかりと設定し、データベース化に取り組み、余った時間をさらに定義や理論の研究・理解に振り分けている。	質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学における意思決定やデータベース化に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかかわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	実 <sup>o</sup> -ツ経営管理論 (SP) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	天野 雅斗 (経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 天野 雅斗)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『体育・スポーツ経営学講義』	八代 勉・中村 平	大修館書店	2002	9784469264807	2013年第11刷発行
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 現代スポーツと体育・スポーツ経営学 <スボ	専用のノートを準備する (90分)	ノートによる情報のデータベース化を行うこと (90分)
2	体育・スポーツ経営とは	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
3	体育・スポーツ経営とは	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
4	体育・スポーツ事業と経営資源	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
5	体育・スポーツ事業と経営資源	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
6	体育・スポーツ事業の進め方	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
7	体育・スポーツ事業の進め方	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
8	よい体育・スポーツ経営の条件	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
9	よい体育・スポーツ経営の条件	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
10	学校週5日制時代の体育・スポーツ経営	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
11	学校週5日制時代の体育・スポーツ経営	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
12	『みるスポーツ』の経営	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
13	『みるスポーツ』の経営	ノート提出に備える (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
14	ノートチェック	ノート提出に備える (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
15	テストレビュー&ノートチェック 授業改善アンケートの実施	ノート提出に備える (90分)	試験に備える (90分)
16	試験および総括	試験に備える (150分)	本科目の総復習 (90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本国憲法 (M) (科目ナンバリング: )				
授業担当者 (所属・職名)	青山 浩之 (経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

憲法は、国家権力の濫用を抑制し、国民の権利・自由を守るための基本法である。法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できるよう、条文を理解し、適用・解釈する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

憲法を学ぶことにより、法律に対して感じるむずかしさや抵抗感を取り除き、法律の基本知識を修得する。法律の基本知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる。

授業全体の内容と概要

法律の基本となる知識を修得することを目的とし、法律の条文を理解し、個々の事例に対して適用・解釈できるようになることを目標とする。さらには、法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できる人材を育成することを目標とする。憲法は、国民主権・基本的人権の尊重・平和主義の三つを基本原理とする日本の基本となる法律である。憲法の基本となる知識を修得し、実例に即し講義を行う。具体的には、憲法総論、人権分野、統治分野に関し条文をベースに解説する。<sup>1</sup>SDG 10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業は、資料をパワーポイントで投影し、資料(第3回から第14回の計12回)を配布して実施する。授業の進行は、前回の復習から始まり、本日の講義の内容を講義形式で解説を行う(調査実習含む)。確認テストは、講義の理解を深めるために2回(前年実績)実施する。ビデオ視聴は、課題解決力を養うために2回(オンライン授業の場合は実施しない)実施する。課題は、講義の理解を深めるために1回(前年実績)実施する。についてのフィードバックは、講義内で解説を行う。補講は原則2回を限度として実施する(公欠などの学生に対しては、補講を出席することによって単位認定基準を満たす場合のみ実施する。)。確認テストなどはMicrosoft Formsの小テストから実施し、学生全体の理解度を把握し、指導する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・私語などの迷惑行為は厳禁。
- ・講義中スマホの操作は厳禁、マナーモードで受講してください。
- ・六法を持参することを推奨。
- ・確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。  
 ・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。  
 ・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

教職課程(社会・公民)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上  
 課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の4割を占めるので、12回以上の出席を推奨。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	10%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
法律の条文を読み取り、理解できる	法律の条文を読み取り、理解でき、さらに自分の意見を述べる事ができた	法律の条文を読み取り、理解でき、自分なりの説明できた	法律の条文を読み取り、理解できた	法律の条文を読み取れた	法律の条文を読み取れなかった
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる事ができた	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できた	事例を理解し、法律の条文を適用できた	事例を理解し、法律の条文を理解できた	事例を読み取れず、法律の条文を理解できなかった
課題に対し、問題解決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えていた	一部に解答と関係ないことを答えているが、解答は答えていた	改善すべき点があるが、解答が一連し答えていた	的確ではないが、解答を部分的には答えていた	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本国憲法 (M) (科目ナンバリング: )				
授業担当者 (所属・職名)	青山 浩之 (経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『一步先への憲法入門』	片桐直人・井上武史・大林啓吾	有斐閣	2021年	9784641131965	
2	『ポケット六法 令和6年版』	佐伯仁志・大村敦志・荒木尚志 / 編集代表	有斐閣	2023年	9784641009240	
3	『憲法 (ファーストラックシリーズ 1)』	伊藤真	弘文堂	2014年	9784335314513	
4	『大学生活と法学』	江藤祥平・大塚智見・遠藤聡太・豊谷しのぶ・辰野嘉則・田原	有斐閣	2022年	9784641126312	
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス	シラバスの確認 (90分)	復習 (90分)
2	シラバスの説明 ガイダンス 憲法とは何か - 憲法の特徴と基本原理	シラバスの確認 憲法の特徴と基本原理の調べ学習 (90分)	復習 (90分)
3	憲法とは何か - 憲法の基本原理と構造	憲法の基本原理と構造についての調べ学習 (90分)	配布資料の復習 (90分)
4	基本的人権 総論・幸福追求権	総論・幸福追求権の調べ学習 (90分)	配布資料の復習 (90分)
5	基本的人権 各論 - 法の下平等・精神的自由権	法の下平等・精神的自由権についての調べ学習 (90分)	配布資料の復習 (90分)
6	基本的人権 各論 - 精神的自由権 確認テスト1 (前年実績)	精神的自由についての調べ学習 (90分)	配布資料の復習 (90分), 確認テストの復習
7	基本的人権 各論 - 経済的自由権・社会権	経済的自由権・社会権についての調べ学習 (90分)	配布資料の復習 (90分)
8	基本的人権 各論 - 人身自由権・国務請求権・参政権	人身自由権・国務請求権・参政権についての調べ学習 (90分)	配布資料の復習 (90分)
9	基本的人権のまとめ	基本的人権についての調べ学習 (90分)	配布資料の復習 (90分)
10	統治機構 総論	統治機構について考える (90分)	配布資料の復習 (90分)
11	統治機構 各論 - 国会	国会についての調べ学習 (90分)	配布資料の復習 (90分)
12	統治機構 各論 - 内閣 確認テスト2 (前年実績)	内閣についての調べ学習 (90分)	配布資料の復習 (90分), 確認テストの復習
13	統治機構 各論 - 裁判所	裁判所についての調べ学習 (90分)	配布資料の復習 (90分)
14	統治機構 各論 - 財政・地方自治・統治機構のまとめ 課題1 (前年実績)	財政・地方自治についての調べ学習。統治機構のまとめ (90分)	配布資料の復習 (90分), 課題を作成
15	まとめ 授業改善アンケートの実施 定期試験の説明	課題作成。第3回から第14回まで復習 (90分)	試験範囲の確認により, 第3回から第14回まで復習 (90分)
16	定期試験 (60分) 定期試験の解説, 採点方法の説明 授業改善アンケートの実施	試験範囲の確認, 第3回から第14回まで復習 (90分)	復習 (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年、デザイン学科・3年、建		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本国憲法（S・D・A）（科目ナンバリング：）				
授業担当者（所属・職名）	後藤 啓倫（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2（単位認定責任者：後藤 啓倫）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標
------

憲法の由来と立憲主義、権力分立などの基本原理を把握し、日本国憲法における人権保障の内容を、現在の社会問題を踏まえて、理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP2、DP5に対応する。（2023・2022年度）  
デザイン学科のDP2に対応する。（2023・2022年度）  
建築学科のDP2に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

憲法の歴史的背景と基本原理について概念を用いて説明することができる。  
日本国憲法の人権保障について概念を用いて説明することができる。  
憲法の基本原理と日本国憲法の人権規定に基づいて現代の社会問題を考察できる。

授業全体の内容と概要

憲法の内容は、総論、人権論、統治機構論に分類される。本講義では人権論を中心に具体的な事例を取り上げながら解説し、市民・労働者・教育者として必要な人権の内容について学ぶ。  
「SDG 5：ジェンダー平等を実現しよう」、「SDG 10：人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業は講義形式で行う。書き込み式のレジュメを配布して補足の説明を行う。  
書き込む内容は板書またはパワーポイントで示す。  
教科書を使用しないので講義をしっかりと聴いてメモをとること。  
毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布し、次回授業時にフィードバックを行う。  
TeamsやFormsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は厳禁、受講マナーを守ること。  
正当な理由のない20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。  
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
---

資格指定科目

教職課程（全教科）の必修科目、教職課程（社会・公民）必修科目
--------------------------------

評価方法・基準

評価前提条件
--------

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
憲法の歴史的背景と基本原理について概念を用いて説明することができる。	憲法の歴史的背景と基本原理について概念を発展的に理解し、説明することができた。	憲法の歴史的背景と基本原理について概念を正確に理解し、説明することができた。	憲法の歴史的背景と基本原理について概念をある程度理解し、説明することができた。	憲法の歴史的背景と基本原理について概念を理解し、説明することができた。	憲法の歴史的背景と基本原理について概念を理解し、説明することができなかった。
日本国憲法の人権保障について概念を用いて説明することができる。	日本国憲法の人権保障について概念を発展的に理解し、説明することができた。	日本国憲法の人権保障について概念を正確に理解し、説明することができた。	日本国憲法の人権保障について概念をある程度理解し、説明することができた。	日本国憲法の人権保障について概念を理解し、説明することができた。	日本国憲法の人権保障について概念を理解し、説明することができなかった。
憲法の基本原理と日本国憲法の人権規定に基づいて現代の社会問題を考察できる。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権規定に基づいて、現代の社会問題を発展的に考察できた。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権規定に基づいて、現代の社会問題を十分に考察できた。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権規定に基づいて現代の社会問題をある程度理解し、説明することができた。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権規定に基づいて現代の社会問題を考察できた。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権規定に基づいて現代の社会問題を考察できなかった。



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年、デザイン学科・3年、建		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本国憲法（S・D・A）（科目ナンバリング：）				
授業担当者（所属・職名）	後藤 啓倫（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	1号館4階	
単位数	2	（単位認定責任者：後藤 啓倫）	CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜紹介する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
2	憲法と生活	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
3	憲法とは何か	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
4	人権の享有主体・公共の福祉・私人間効力	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
5	象徴天皇制	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
6	平和主義	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
7	平等権	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
8	幸福追求権・自己決定権	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
9	自由権	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
10	信教の自由・表現の自由	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
11	経済的自由権・身体的自由権	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
12	社会権・生存権	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
13	教育を受ける権利・労働基本権	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
14	三権分立（国会・内閣・裁判所）	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
16	定期試験（試験60分＋解説30分）	試験の準備（90分）	試験のふり返り（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	デッサン (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標					
1. 質感・量感の描き方を理解する。 2. 陰影と固有色の描き分けを理解する。					
授業の位置づけ					
デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度) デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2023・2022年度) デザイン学科のDP1、DP2、DP3に対応する。(2021年度)					
到達目標					
1. 基本形体の描法を身につけることができる。 2. 細部表現を身につけることができる。					
授業全体の内容と概要					
立方体・円柱・円錐・球体などの基本形体を基に正確な描写を行った後、石膏像頭像を描く。					
授業の方法					
プレゼンテーションは板書にて行う。授業形態は実技を行う。					
アクティブラーニングの実施方法					
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業
					その他(授業の方法参照)
履修上の注意事項					
知性と感性を十分に発揮し、根拠強かつゆまなく努力すること。 作品の質・課題に取り組む姿勢・鑑賞力などを重視する。 不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。					

修学サポート(合理的配慮)					
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。					
資格指定科目					
教職課程(美術)必修科目					

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
適正な構図、形のバランス(比例)が正しく捉えられていることを基準とする	バランスよく配置や大きさが捉えられていた	ほぼバランスよく配置されていた	大きさ等が大体捉えられていた	左右上下にバランスよく配置されていた	左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等
光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする	自然な光の流れが表現出来ていた	ほぼ光の方向が表現出来ていた	明るい、暗いの区分が出来ていた	明暗で表現していた	輪郭線等で囲って色を付けていた
陰影法を正しく理解できているかを基準とする	陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ていた	陰で立体表現が出来ていた	光の流れで立体表現をしようとして言えた	色の濃淡で表現していた	輪郭の中に単色の調子を塗り込んでいた

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	デッサン (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション デッサンのための用具の説明や目的について授業の流れについての説明	シラバスを読んでおくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
2	立方体 (幾何形体) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
3	立方体 (幾何形体) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
4	立方体の箱を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
5	レンガとブロックを描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
6	レンガとブロックを描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
7	円柱 (幾何形体) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
8	焼き丸太を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
9	バケツとタオルを描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
10	バケツとタオルを描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
11	ビール瓶とグラスを描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
12	ビール瓶とグラスを描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
13	球体 (幾何形体) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
14	紙風船を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
15	サッカーボール (白と黒) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
16	サッカーボール (赤と黒) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	石膏像 (白い布で覆う) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
18	石膏像 (白い布で覆う) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
19	石膏像 (白い布で覆う) を描く 作品画像を保存	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
20	石膏像 (頭像) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
21	石膏像 (頭像) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
22	石膏像 (頭像) を描く 作品画像を保存	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
23	石膏像 (頭像) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
24	石膏像 (頭像) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
25	石膏像 (頭像) を描く 作品画像を保存	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
26	石膏像 (頭像) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
27	石膏像 (頭像) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
28	石膏像 (頭像) を描く 作品画像を保存	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
29	石膏像 (頭像) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
30	石膏像 (頭像) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
31	石膏像 (頭像) を描く 作品画像を保存	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと (45分)
32	採点及び講評会を行う (解説・フィードバック) 授業改善アンケートの記入	講評会の準備を行うこと (45分)	解説・フィードバックを受けて講義内容のふりかえりを行うこと (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授) 君 興 治(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館3階	2号館4階	
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標

前半は、建築の正面(ファサード)に限定したデザイン能力を養う課題と各種建築図面を用いて彩色・配色する能力を養う課題に取り組む。後半は、この前半の内容を統合させた課題に取り組むことで、建築のトータルデザイン能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3, DP4, DP5に対応する。(2024年度)  
 建築学科のDP1, DP2に対応する。(2023・2022年度)  
 建築学科のDP2, DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

建築用途・建築形態に対し、建築要素をどのように取り入れデザインしていくかを考慮し、どのように表現するかが求められる。各シリーズとも3課題ごとに講評会を実施するが、作品に対するさまざまな評価から自己の作品に対する客観視できる能力を養うことができる。

授業全体の内容と概要

各シリーズとも3課題ごとに講評会をおこなう。課題制作は、原則として授業時間内におこない即日提出とするが、やむを得ず授業時間内に完成させられなかった場合は、次週授業開始時まで完成させ提出する。

授業の方法

シリーズごとに課題の目的・到達目標等について説明の後、課題制作に取り組む。課題のシリーズ終了ごとに講評会開催し、各自作品のプレゼンテーションをおこない、その後指導教員が講評・評価をおこなう。基本的に授業は対面を実施するが、不測の事態が起きた際に、授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する可能性がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

実技科目であるため、全授業に出席し期限内に課題を制作し提出すること。また作品講評会に出席し自分の作品の解説(プレゼンテーション)することも評価する。原則授業にはすべて出席し、授業時間内に課題制作をおこなうこと。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席する(ただし最低出席回数10回以上)こととし、積極的に課題に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	85%	0%	0%	15%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築用途・建築形態に対し、建築要素をどのように取り入れデザインしていくかを構想し表現する。	非常に優れた構想力と表現力を身につけることができた。	優れた構想力と表現力を身につけることができた。	優れた表現力を身につけることができた。	おおむね表現できる力を身につけることができた。	作品を作成しなかったやめ表現できる力を身につけることができなかった。
講評会をとおし、作品に対するさまざまな評価から自己の作品に対する客観視できる能力を修得する。	自己の作品を積極的にプレゼンしそれに対する評価を客観的に捉えられ、他人の作品への評価ができた。	自己の作品をプレゼンしそれに対する評価を客観的に捉えることができた。	自己の作品をプレゼンしそれに対する評価を理解することができた。	自己の作品のプレゼンをすることができた。	講評会に出席しなかったため、プレゼンをすることができなかった。
建築の重要な要素である正面(ファサード)に対し、形態・材質感など建築要素を組み合わせ彩色・配色のデザインを彩色用の道具を使用し作成する。	配色・彩色できる非常に優れた力を身につけることができた。	配色・彩色できる優れた力を身につけることができた。	配色できる優れた力を身につけることができた。	おおむね配色表現できる力を身につけることができた。	作品を制作しなかったため表現できる力を身につけることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授) 君 興 治(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館3階 2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明, 授業改善アンケート結果反映の説明, 授業計画の説明	シラバスの事前確認(45分)	授業内容の確認(45分)
2	ファサードデザイン1(商業建築)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
3	ファサードデザイン2(住宅)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
4	講評会(ファサードデザイン)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
5	色彩表現のための道具と材料の説明	配布資料の確認(45分)	追加作業(45分)
6	色彩1(街区・配置図)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
7	色彩2(立面図)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
8	講評会(色彩)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
9	彩色によるファサードデザインのねらい	配布資料の確認(45分)	授業の振り返り(45分)
10	ファサードデザイン+色彩1	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
11	ファサードデザイン+色彩2	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
12	講評会(ファサードデザイン+色彩)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
13	建築構造模型の解説	配布資料の確認(45分)	授業の振り返り(45分)
14	建築構造模型の制作	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
15	講評会(建築構造模型)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
16	総評(全作品の講評) 授業改善アンケートの実施	提出作品の最終確認(45分)	総評の振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築法規 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築関係法令は建築基準法をはじめとして関連する法律が非常に多く、生活環境・社会構造の変化と共により複雑化してきている。ここでは建築関係法令のうち種幹である建築基準法・建築基準法施行令をメインとして、建築に関する法律の仕組みと体系について学習し、建築法規を手がかりに建築への理解を実務的視点から深める。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)  
 建築学科のDP1、DP3に対応する。(2023・2022年度)  
 建築学科のDP2、DP7に対応する。(2021年度)

到達目標

建築関係法令の全体像を把握して、建築基準法の概要及び使用される重要な用語の意義・定義を理解できる。基準法の中でも、人々の生活に密接な係わりを持つ・敷地・構造・建築設備・建築環境に関する条文を理解できる。

授業全体の内容と概要

建築基準法を理解する上で重要な条文について、図解を交えてわかりやすく解説する。更に主要な制度規定について、条文の成立から実例まで併せて解説すると共に、条文の理解を深めるための演習を行う。  
 「SDs11、住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は条文の重要項目のチェックと線引きをおこない、板書と配布資料により進めていく。随所に出現する法令独特の語彙の解釈や考え方にも触れて、きめ細やかに進めていく。また、理解度を測るため、単元ごとに課題提示・小テストを行い、必ず答え合わせ・質疑応答の時間を設ける。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

法令集と赤ペン、青ペンを必ず持参のこと。また、本講義にあたっては電卓や携帯電話、スマートフォンなどの計算機能を使った計算を禁止する。必ず筆算のこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」必修科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築基準法の位置づけ、建築用語の定義及び確認申請業務の理解	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項の法体系での位置づけをすべて理解できた。	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項の法体系での位置づけを8割方理解できた。	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項の法体系での位置づけを6割方理解できた。	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項を理解できた。	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項を理解できなかった。
建築物の敷地に関連する規定(道路、用途地域、建築容積率、高さ等)の理解	建築基準法における建築物の敷地に関連する規定を正確に理解できた。	建築基準法における建築物の敷地に関連する規定を8割方正確に理解できた。	建築基準法における建築物の敷地に関連する規定を6割方正確に理解できた。	建築基準法における建築物の敷地に関連する規定を理解できた。	建築基準法における建築物の敷地に関連する規定を理解できなかった。
その他の建築関連法規の理解	その他の建築関連法規に関する規定を正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を8割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を6割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築法規 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎 (建築学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『建築基準法関係法令集 2024年』	日建学院編	建築資料研究社	2024		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明。建築関係法令とその背景(歴史的経緯と位置づけ・施行令・規則・人間・居住・都市・環境)	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
2	建築基準法の概要(法令構成・文脈・総則)	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
3	建築基準法各論-1 事例から読み取る身近な建築基準法	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
4	建築基準法各論-2 敷地・居室・主要構造部・構造体力上主要な部分	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
5	建築基準法各論-3 工作物, 特殊建築物, 建築行為	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
6	建築基準法各論-4 面積および階数の算定・建物の高さの算定	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
7	建築基準法各論-5 許可申請等の手続規定	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
8	建築基準法各論-6 耐火・準耐火・防火構造	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
9	建築基準法各論-7 特殊建築物の役割とその定義・別表第1	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
10	建築基準法各論-8 防火関係条文の構造とその理解	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
11	建築基準法各論-9 居室の採光と生活空間	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
12	建築基準法各論-10 床高・軒高・天井高	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
13	建築基準法各論-11 階段	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
14	建築基準法各論-12 居住環境と換気	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
15	建築基準法各論-13 建築基準法と倫理 授業改善アンケートの実施	事前提示の条文熟読(90分)	本授業の振り返り(90分)
16	理解度診断試験・試験解説	事前提示の条文熟読(90分)	試験の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	コーポレートファイナンス論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	川津 大樹(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 川津 大樹)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体(商工会)に勤務し、地域の中小企業に対して金融・経営指導を行った経験も踏まえて、資金調達と資金運用にまつわる中小企業の実務についても取り上げていく。		
オフィスアワー	初回講義で説明、または研究室前の掲示等を参照。				

概要

履修目標

経営環境が大きく変化化する中、資金調達を行い、その資金を効率的に投資・運用することは、企業にとって重要な経営課題である。本講義では、企業価値に関わる財務的意思決定の論点を取り上げ、経営者として必要な意思決定能力を身につけることを目標とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

- ・コーポレートファイナンスに関する用語を正確に理解できるようになる。
- ・資本コストの考え方について理解し、計算できるようになる。
- ・サステナブルファイナンスなど、資金調達にまつわる新たな論点について理解する。

授業全体の内容と概要

本講義では、コーポレートファイナンスに関するテーマを取り上げる。授業では、テキストと配布資料の解説を行った後、練習問題を解く実習の時間を設ける。また、必要に応じて、日経新聞の記事を題材とした時事問題についても解説を行う。本授業科目は、「SDG12 つくる責任 つかう責任」と「SDGs 13 気候変動に具体的な対策を」の関連授業であり、SDGs と関わりのあるサステナブルファイナンスやサステナビリティ報告についても取り上げる。

授業の方法

本講義は、テキストの解説のみならず、受講者自らが実践的に分析を行う機会を設ける。日経新聞の記事や資金調達と運用にまつわる中小企業の実務も紹介し、実社会との関わりを意識して講義を進める。授業では、小テストを毎回実施する。その解答状況や質問欄に記載された内容は、次回以降の授業に反映していく。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供することがあり得る。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席確認は、授業で毎回実施する小テストの提出をもって行う。計算が必要となる場面が多く予定されているので、電卓の持参を推奨する。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。  
「評価方法」にある平常点(30%)は、小テストで評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	30%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コーポレートファイナンスに関する用語を正確に理解できる。	コーポレートファイナンスに関する用語とそれに関する理論について詳細に説明できる。	コーポレートファイナンスに関する用語とそれに関する理論について十分に理解している。	コーポレートファイナンスに関する用語の意味を理解するとともに、それに関する理論についてもある程度理解している。	コーポレートファイナンスに関する用語の意味を最低限理解している。	コーポレートファイナンスに関する用語を理解できなかった。
資本コストの考え方について理解し、計算できる。	資本コストの重要性を理解した上で、WACC(資本コスト)を正確かつ素早く計算できる。	資本コストの重要性を理解した上で、WACC(資本コスト)を正確に計算できる。	資本コストの重要性を理解した上で、時間をかけつつも、計算できる。	資本コストの意味について最低限理解している。	資本コストの意味について理解できなかった。
資金調達の重要性について理解できる。	資金調達に関する理論と実務について総合的に説明できる。	サステナブルファイナンスなどの新しい論点を含め、自分なりの問題意識を持って、資金調達に関して考察している。	資金調達の重要性を理解した上で、サステナブルファイナンスなどの新しい論点について関心を抱き始めた。	資金調達の重要性について最低限理解している。	資金調達の重要性について理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	コーポレートファイナンス論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	川津 大樹(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 川津 大樹)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体(商工会)に勤務し、地域の中小企業に対して金融・経営指導を行った経験も踏まえて、資金調達と資金運用にまつわる中小企業の実務についても取り上げていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『[新解釈]コ-ポレ-トファイナンス理論』	宮川壽夫	ダイヤモンド社	2022年		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『コーポレートファイナンス入門 第2版』	砂川伸幸	日本経済新聞社出版社	2017年		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(講義の進め方、コーポレートファイナンスを学ぶ意義)	シラバスとテキストの序文を読んでおく(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
2	企業の目的とコーポレートガバナンス	事前配布資料を予習する(90分)	配布資料の内容を復習する(90分)
3	投資のリスクとリターン	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
4	資本コスト	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
5	CAPM	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
6	正味現在価値	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
7	WACC	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
8	効率的市場仮説	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
9	キャッシュフロー	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
10	M&A	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
11	財務分析	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
12	資金調達と資本構成	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
13	ペイアウト政策	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
14	株主主義とステークホルダー主義	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
15	資金調達の新たな潮流 - サステナブルファイナンス - 授業改善アンケートの実施	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
16	定期試験と解説(60分の試験終了後、残りの30分で解説)	これまでの内容を復習する(90分)	定期試験の解説内容を復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	大島康雄(社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2	(単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

実践的な、包括的、総合的なソーシャルワークの知識と技術を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3に対応する科目。(2023年度)

到達目標

実践的な、包括的、総合的なソーシャルワークの知識と技術の基本について理解する。

授業全体の内容と概要

ソーシャルワーカーとして、複雑化、多様化する問題に対応するための理論と方法、および、連携や協働をする人や機関との間で構築する関係について学ぶ。  
「SDGs3.すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

教科書に沿って、講義形式で展開していく。授業内で小試験(中間試験)を行い、その中から60点分定期試験に出題する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

15分以上の遅刻は欠席とする。  
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程科目、保育士課程科目(選択)である。

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	30%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
総合的、包括的なソーシャルワークの意義について理解できる	事例を用いながら説明できた。	基本的な考えかたを説明できた。	基本的な考えかたを理解できた。	助言があれば理解できた。	助言があっても理解できなかった。
ソーシャルワーカーとクライアントの援助関係について理解できる。	援助対象の特性に留意した知識と技術を説明できた。	原則的な考えかたと技術について説明できた。	原則的な考えかたと技術について理解できた。	助言があれば理解できた。	助言があっても理解できなかった。
ソーシャルワークにおけるネットワークについて理解できる。	ミクロ、メソ、マクロ各々の特性に留意しながら事例を用いて説明できた。	基本的な意義、方法を説明できた。	基本的な意義、方法を理解できた。	助言があれば理解できた。	助言があっても理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	大島康雄(社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に対する理解を深めていく。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法 社会専門』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021	978-4-80588249-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 今日のソーシャルワークの対象	新聞やインターネットでソーシャルワークの対象と 考えられる記事をスクラップする。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
2	複雑化、多様化した生活問題への対応	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
3	家族支援におけるソーシャルワーク	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
4	地域支援におけるソーシャルワーク	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
5	非常時、災害時のソーシャルワーク	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
6	地域包括ケアシステムとソーシャルワーク	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
7	中間試験	1回から6回の内容を復習する。(90分)	授業(90分)
8	中間試験解説 ソーシャルワークにおける援助関係形成の意義	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
9	援助関係形成方法と留意点	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
10	ネットワーキングの意義	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
11	ネットワーキングの方法と留意点	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
12	コーディネーションの意義	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
13	コーディネーションの方法と留意点	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
14	まとめ	1回から14回の復習し、理解が不十分な点をあ げる。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
15	定期試験	1回から14回の復習をする。(90分)	試験の自己採点をする。(90分)
16	定期試験解説 授業改善アンケートの実施	全体を振り返り、質問事項を整理する。(90分)	試験の不正解部分を復習する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人文地理学 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	塩崎 大輔(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標

本授業は地理学の基礎を学ぶことによって人と土地との関係を考えるという地理学的なものの見方を身につける。また地域と災害の関係を地理学的に学ぶことで、地域や教育に活用できるスキルを身につけることを目的とする。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP4、5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

1. 人文地理学の基礎を理解し、基本的な知識を説明できること。
2. 災害関連情報を収集し、活用するスキルを身に付ける。

授業全体の内容と概要

地理学とは土地と人との関係を議論する学問である。高等学校教育までの地理教育は「どこに」「なに」があるのかを知識として学んできた。この授業ではそこから一歩先に進み「なぜ」そこにあるのかを考える力を養うことを目的とする。本講義は地理学の中でも人文地理学の基礎を解説する。地理学は学際的な分野と言われ、その研究対象は幅広い。そこでまず地理学の中でも農業、工業、商業、都市、開発という各分野の概説を日本の事例を中心に解説し、これまでの地理学の成果を学んでいく。「SDGs4.質の高い教育をみんなに」および「SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連科目。

授業の方法

授業は講義形式で行い、スライド資料及び映像資料を使用して行う。また授業中・授業後に適宜、課題に沿った作業・レポート作成を行う。その過程で国土地理院地理院地図や地域分析ソフトRESASといった、WebGISの活用方法を解説する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業内で適宜連絡する。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(社会・地理歴史)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
人文地理学の理解	レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。
多面的多角的な視点	右の記述を高いレベルで実現できた。	人文地理的要因(工業・商業・都市・観光・開発等)を深く理解することができた。	人文地理的要因(工業・商業・都市・観光・開発等)を理解することができた。	人文地理的要因(工業・商業・都市・観光・開発等)をやや理解することができた。	人文地理的要因(工業・商業・都市・観光・開発等)を理解することができなかった。
災害情報の活用	災害情報を地理的に理解し、高いレベルで活用することができた。	災害情報を地理的に理解し、活用することができた。	災害情報を地理的に理解することができた。	災害情報を地理的にやや理解することができた。	災害情報を地理的に理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人文地理学 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	塩崎 大輔(社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業の内容・進め方・評価の仕方 ガイダンス	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
2	地理学概説 地理学の成り立ち	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
3	地理学概説 系統地理学と地誌学	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
4	立地論	レポート課題等を作成すること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
5	工業地理学	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
6	都市地理学	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
7	商業地理学	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
8	観光地理学	レポート課題等を作成すること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
9	開発地理学	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
10	地図の歴史	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
11	地理学とフィールドワーク	レポート課題等を作成すること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
12	地理学と災害	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
13	北海道における災害リスク	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
14	地域防災とハザードマップ	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
15	これからの地理学	レポート課題等を作成すること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
16	まとめ、課題(レポートなど)の解説 授業改善アンケートの実施	事前にテキストの範囲を読んでいること。(90分)	まとめの振り返り。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ビジュアルデザイン (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	田中 靖之(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 田中 靖之)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの現場において実務経験者である教員が、その経験を基に実践的な授業を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

1. グラフィックレイアウトの基本ルールを理解する。  
 2. アートディレクションの位置づけを理解する。  
 3. グラフィックデザイン実務の概念を理解する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。(2024年度)  
 デザイン学科のDP 3、DP 4 に対応する。(2023・2022年度)  
 デザイン学科のDP 1、DP 2、DP 3、DP 5 に対応する。(2021年度)

到達目標

レイアウトパターンを分類し、試行を重ねてグラフィックデザインとして実施制作ができる。

授業全体の内容と概要

デザイン業界の仕組みを、概説を含め、広告・出版に関するコミュニケーションを意識した基本レイアウト(サムネール主体)とプレゼンテーションシステムを理解する。「SDGs12: つくる責任つかう責任」の関連授業。

授業の方法

板書とオリジナルプリント配布を併用し実技形式で行う。また、プレゼンテーションに耐えうる内容を吟味し、デザイン要素のフィードバックを繰り返したのち、演習課題を完成させ提出する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

サムネールやスケッチの実技が重要なため、ノート・筆記具を常備すること。  
 不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談で相談のもと、事前に参考資料を提供することがある。

資格指定科目

教職課程(美術・工芸)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は20回以上。  
 完成度の高い作品を合格とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	60%	0%	10%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
グラフィックレイアウトの基本ルール	レイアウトパターンの分類ができ、その2つ以上で、基本ルールにのっとったオリジナルリティを發揮できた。	レイアウトパターンの分類ができ、その2つ以上でデザインができた。	レイアウトパターンの分類ができ、その1つでデザインができた。	レイアウトパターンの分類ができた。	レイアウトパターンの分類ができなかった。
アートディレクションの位置づけ	アートディレクションの意味を理解でき、ビジュアルとコピーを駆使して応用・展開できるデザインができた。	アートディレクションの意味を理解でき、ビジュアル要素を1つ以上とコピーレイアウトを含めたデザインができた。	アートディレクションの意味を理解でき、ビジュアル要素を1つ以上含んだデザインができた。	アートディレクションの意味が理解できた。	アートディレクションの意味が理解できなかった。
グラフィックデザイン実務の概念	グラフィックデザインの実務を理解し、複数の実例を参考にしたオリジナルかつトレンドを吟味したデザインパターン演習ができた。	グラフィックデザインの実務を理解し、複数の実例を参考にしたオリジナルなデザインパターン演習ができた。	グラフィックデザインの実務を理解し、その実例を2つ以上(異種)提示することができた。	グラフィックデザインの実務を理解し、その実例を1つ提示することができた。	グラフィックデザインの実務の現状が理解できなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ビジュアルデザイン (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	田中 靖之(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 田中 靖之)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの現場において実務経験者である教員が、その経験を基に実践的な授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明シラバスについての説明 アートデザインについて	「ビジュアルデザイン」語句の認識(45分)	「アート・デザイン」の位置づけ確認(45分)
2	「ことばと物」コミュニケーションのためのゲーム演習	「ことばと物」語句の認識(45分)	「ことば」の自己復習(45分)
3	ビジュアルデザインの歴史(DTPまで)	「DTP」語句の認識(45分)	「DTP」の歴史的理解(45分)
4	JIS用紙、テキストポイントについて	A4・A3用紙サイズの認識(45分)	「用紙サイズの使用実例について」(45分)
5	レタリングとフォントの現状について	「フォントバリエーション」の認識(45分)	「明朝体・ゴシック体」及び「セリフ・サンセリフ」の理解(45分)
6	レタリング演習と基本形態	基本となる書体の認識(45分)	レタリング演習 下書き(45分)
7	レイアウトの基本パターンについて	「レイアウト例の資料収集」(45分)	レイアウトパターンのサムネール作成(45分)
8	フォーマット用紙のレタリング演習	演習用具の確認と役割チェック(45分)	レタリング演習 仕上げ(45分)
9	素材(イラスト、写真)とテキストの役割	「レイアウトのサムネール体験」(45分)	「レイアウトサムネール」の修正及び変更(45分)
10	基本レイアウト演習(サムネール)	素材(イラスト・収集)とテキストのボリューム確認(45分)	「レイアウトのサムネール演習」(45分)
11	広告デザインと編集デザイン	「広告・編集」語句の認識(45分)	「広告・編集デザイン」の実例を収集(45分)
12	メディアに対応した企画デザイン	「マスメディア・ソーシャルメディア」の位置づけと認識(45分)	アイデアフラッシュ(メディアに対応)(45分)
13	RGB & CMYK及び印刷技術	「RGB & CMYK」語句の認識(45分)	「CMYK・オフセット印刷機」の資料収集(45分)
14	広告デザイン演習 *意見広告	「意見広告」語句の認識(45分)	サムネール演習(45分)
15	SNSと企業戦略	「GAFA」戦略の認識(45分)	「メタバース」に対する最新情報収集(45分)
16	広告デザイン演習 *企業広告	「企業広告」語句の認識(45分)	サムネール演習(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	広告・出版・印刷業界の現状	業界大手企業群の情報収集(45分)	大手企業群の活動資料収集(45分)
18	編集デザイン演習 *フライヤー編	「フライヤー」の資料収集(45分)	サムネール演習(45分)
19	コミュニケーションツールとしての役割と現状	「ツールの種類」の資料収集(45分)	ツール毎の比較・検討(45分)
20	編集デザイン演習 *雑誌編	「雑誌類資料収集」(45分)	サムネール演習(45分)
21	最終課題のためのオリエンテーション	アイデアフラッシュ準備(45分)	具体的アイデアを記述(45分)
22	アイデアフラッシュと方向性の決定	アイデアの精査と方向性をイメージング(45分)	「方向性の決定」(45分)
23	課題演習 -1 ・サムネール制作	素材・コピー類のボリュームチェック(45分)	素材・コピーのおおまかなレイアウト作業(45分)
24	課題演習 -2 ・レイアウトの決定	複数のラフサムネールを準備(45分)	サムネール制作・完成(45分)
25	課題演習 -1 ・レタリング制作	レイアウト及びレタリング準備(45分)	レイアウト及びレタリングの微調整(45分)
26	課題演習 -1 ・レイアウト修正	レイアウトアイテム(素材・コピー)の最終チェック(45分)	レタリング完成(45分)
27	課題演習 -1 ・カラーリング制作	カラーリング準備(45分)	カラーリング用具(PC及び色エンピツ)での練習(45分)
28	課題演習 -2 ・カラーリング修正	PCはモニターでのチェック、アナログでは着色でのチェック(45分)	カラーリング完成(45分)
29	課題演習 ・仕上げ	仕上げに向けて準備(45分)	仕上げ作業(45分以上)
30	課題提出	仕上げの最終チェック(45分以上)	講義全体の振り返りを行う(45分)
31	課題に対する解説・フィードバック	講義全体を通して質問事項をまとめておく(45分)	質問に対する解説等の理解(45分)
32	課題に対する解説・フィードバック 授業改善アンケートの実施	総体的な質問項目のまとめ(45分)	解説・フィードバックを受けて講義全体の理解を深める(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	インテリアデザイン (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	赤木 良子(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 赤木 良子)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	インテリアデザイン事務所での実務経験 インテリアコーディネーター資格保有		
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

概要

履修目標
------

インテリアデザインの実務に必要な最低限の基本や図面の描き方などを習得することを目標とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)  
建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)  
建築学科のDP1、DP3、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

インテリアデザイン特有の図面の表現方法を理解し、美しく正確に描くこと、また、与えられた課題の内容を顧客(相手)の立場になって考え、理解し、それを美しく的確に表現できることを目標とする。

授業全体の内容と概要

課題を通して、大まかな実務的な仕事の流れや必要な知識を学ぶ。  
図面の書き方については、インテリアコーディネーター試験における実技試験(製図)のレベルでの表現方法を基本とする。  
なお、講義の部分については、インテリアコーディネーター試験の範囲は網羅していない。  
課題については、理解度やクラスの雰囲気を見極めて、グループワークを行う場合がある。  
授業の中では、プレゼンテーションの場面も想定している。

授業の方法

講義や説明は、教科書及び、パワーポイントや補足資料などを用いて行う。  
図面の実技演習は、インテリアコーディネーター2時試験用のデキストを用いて実際の過去問なども参照しながら図面表現を学ぶ。  
学生同士で相談などしても良い。  
課題に対するフィードバックは適宜行う。  
基本的に授業は対面で実施するが、不測の事態が起きた際に、授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

【必要な道具(以下)】は各自で準備のこと。(推奨商品リストを配布します)  
製図用シャーペン(芯の太さ0.5、濃さB以上推奨)必須。その他、0.3,0.7などの太さがあっても良い。  
定規(15cm、できれば30cmも)、三角定規、三角スケール、コンパス、カッターナイフ、スケッチブック(クロッキー帳でも良い)、色鉛筆、製図用ブラシ、インテリアコーディネーター試験対応テンプレート  
その他通常の文具。  
正当な理由なき10分以上の遅刻に関して、遅刻3回を1回欠席とみなす。  
課題の進行に関しては、クラス内の進捗を見て、予定を変更することがある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

11回以上の出席と全課題の完成・提出を必須とする。  
(先述のように正当な理由なき10分以上の遅刻に関して、遅刻3回を1回欠席とみなす。)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
インテリアデザイン特有の図面の表現方法を理解し、美しく正確に描くことができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
与えられた課題の内容を顧客(相手)の立場になって考え、理解することができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
与えられた課題に対し、美しく的確な提案をすることができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	インテリアデザイン (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	赤木 良子(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 赤木 良子)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	インテリアデザイン事務所での実務経験 インテリアコーディネーター資格保有		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	初めてのインテリア製図合格する図面の描き方(第4版)	星野智子	ハウジングエージェンシー	2023	978-4-89990-246-1	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 イントロダクション: インテリアデザインの仕事と現状	シラバスを読んでおくこと(90分)	課題の制作(90分)
2	課題(1) コンセプトメイキング	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
3	課題(1) 図面制作1	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
4	課題(1) 図面制作2	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
5	課題(1) 図面制作3	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
6	課題(1) 図面制作4	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
7	課題(1) 仕上げ・提出	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
8	課題(1) 発表・講評	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
9	課題(2) の提示と説明 エスキス	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
10	課題(2) コンセプトメイキング	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
11	課題(2) 図面制作1	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
12	課題(2) 図面制作2	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
13	課題(2) 図面制作3	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
14	課題(2) 図面制作4	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
15	課題(2) 仕上げ・提出	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
16	課題(2) 発表・講評・総評・授業改善アンケート	課題の制作(90分)	総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	大島康雄(社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2	(単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に関する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

包括的、総合的なソーシャルワーク実践を効果的かつ効率的に行うために必要な知識と技術を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3に対応する科目。(2023年度)

到達目標

実践的なソーシャルワーク実践に必要な知識と技術を具体的に理解できる。

授業全体の内容と概要

ソーシャルワーカーとして、複雑化、多様化する問題に対応するための理論と方法、および関連する技法について学ぶ。  
「SDGs3. すべての人に健康と福祉を」の関連授業。

授業の方法

教科書に沿って、講義形式で展開していく。授業内で小試験(中間試験)を行い、その中から60点分定期試験に出題する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

15分以上の欠席は遅刻とする。  
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程科目、保育士課程科目(選択)である。

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	30%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会資源の活用、調整、開発について実践方法を理解できる。	実践モデルを提示しながら説明できた。	基本的な考え方と実践に必要な技術を説明できた。	基本的な考え方と実践に必要な技術を理解できた。	助言があれば理解できた。	助言があっても理解できなかった。
事例研究を行い、会議形式でプレゼンテーションができる。	ソーシャルワークの視点に則った発言と議論ができた。	第三者にも理解できる内容の発言と議論ができた。	第三者にも理解できる内容の発言ができた。	助言があればできた。	助言があってもできなかった。
ソーシャルワークの関連技法について理解できる。	各技法について、ソーシャルワーク実践に活用する場合の特徴を加えて説明できた。	各技法の説明ができた。	各技法の理解ができた。	助言があれば理解できた。	助言があっても理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	大島康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に関する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法 社会専門』	日本ソーシャルワーカー教育学校連盟	中央法規	2021	978-4-8058-8249-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 ソーシャルワーク実践と社会資源	ソーシャルワークの理論と方法(専門)1のノートを読み返す。	授業内容をノートに整理する。(90分)
2	社会資源の種類と活用方法 社会資源の調整方法	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
3	社会資源の開発 ソーシャルアクションの意義、目的	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
4	ソーシャルアクションの方法	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
5	カンファレンスの種類と意義、目的 カンファレンスの方法	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
6	マイクロ、メソ、マクロの会議	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
7	中間試験	1回から6回の内容を復習する。(90分)	試験を自己採点する。(90分)
8	中間試験解説 事例分析の意義、目的	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	試験の不正解部分を復習する。授業内容をノートに整理する。(90分)
9	事例分析	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
10	事例分析 プレゼンテーション	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
11	交渉の種類と原則 ネゴシエーションの方法	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
12	コンフリクトのとらえ方と対処方法	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
13	ファシリテーションの意義、目的 ファシリテーションの方法	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
14	ソーシャルマーケティング 今後の課題	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
15	試験	1回から14回の復習をする。(90分)	試験の自己採点をする。(90分)
16	試験解説 授業改善アンケートの実施	全体を振り返り、質問事項を整理する。(90分)	試験の不正解部分を復習する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	都市計画 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標

「ひとと建築を取り巻く環境」を都市空間と捉え、都市の発展を計画する上で必要な知識を修得する。また、都市計画の基礎とともに、人口増加を前提とした都市化の時代は終焉を迎え、人口減少・高齢社会となったわが国における新たな時代に必要となる都市計画・まちづくりを計画できる知識を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)  
 建築学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度)  
 建築学科のDP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

めまぐるしく変化する社会や都市の将来を見据え、働く機会と生活する場所が確保され、平和で安全に、そして安心して暮らすことの出来る都市がどのように形成され、今後どのような方向を目指すのかを理解し、これからの都市を計画立案できるための基礎能力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

指定テキストのほか毎回資料を配布し、援用しながら講義を進める。授業内容の記録を演習として作成し、毎回授業終了後提出する。都市計画に係る研究課題を課し、その研究成果を発表する。演習と研究課題により評価する。  
 [SDGs11.住み続けられるまちづくりを]の関連授業

授業の方法

板書事項は授業資料として記したものを配布する。プロジェクターで画像や図表を投影して解説するのが、授業内容の理解度を確保するため授業ノートを取り、毎回授業終了後提出してもらい、情報量は多く、見て、聴いて、理解できる授業である。基本的に授業は対面で実施するが、不測の事態が起きた際に、授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業開始時に着席票を回すので、遅刻し記載できない場合は欠席とみなし、配布資料を入手することができなくなるため注意すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格科目」必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)。毎回の授業内で行う演習の評価点(平常点)と研究課題提出(課題・作品)と発表(その他)が単位認定の過半を占めるので、授業欠席や演習未提出は不合格に直結することになる。なお演習は当日の授業終了後提出とし、それ以外は受理しない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	30%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
世界の中から抽出した都市が、古代から現代までを時間軸に則し、どのように成り立ち、展開してきたかを理解する。	時間軸の中で都市の成り立ちを理解し、発展に寄与した要素と経緯を関連付けることができた。	時間軸のなかで都市の発展に寄与した要素を理解できた。	時間軸で都市の変化を理解することができた。	都市の変化に時間という要素が不可欠であること理解できた。	都市を時間軸で捉えることができなかった。
都市を成り立たせるための法制度と都市計画の関わり、地方自治体の都市計画と都市の関係性を理解する。	都市が国家から自治体に至るまで法制度により統一的に統制されていること、地方自治体の都市計画と都市のあり方との関係を理解できた。	都市が国家から自治体に至るまで法制度により統一的に統制されていることを理解できた。	都市計画に係る法律の存在とその内容を理解することができた。	都市計画にかかわる法律があることを理解できた。	都市計画のための法律を理解することができなかった。
現代の都市計画においてまちづくりが重要度を高めていることの認識と、都市計画との違いを理解する。	現代社会の都市計画にとりまちづくりの重要性と必要性を理解できた。	現代都市における都市計画とまちづくりの違い、まちづくりのために必要な事項を理解できた。	都市計画とまちづくりの違いを理解できた。	まちづくりがめざすものが理解できた。	まちづくりの重要性を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	都市計画 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『都市計画とまちづくりがわかる本』	伊藤雅春他	彰国社	2018	9784395320936	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、課題説明、授業の進め方	シラバスの事前確認(90分)	配布資料から授業内容確認(90分)
2	「都市計画」で学ぶこと	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
3	都市の遺産 都市の防御性と効率性	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
4	都市の遺産 社会改良思想の都市	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
5	都市計画制度 日本の都市計画史	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
6	都市計画制度 日本の都市計画の枠組み	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
7	都市計画制度 現代都市計画の思潮	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
8	都市計画制度 まちづくりの担い手と進め方	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
9	都市計画制度 人口減少社会のまちづくり	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
10	都市計画制度 都市交通計画	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
11	都市計画制度 都市の防災計画	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
12	都市計画制度 都市の緑地・景観計画	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
13	研究発表 委と将来像 「都市マス」からみたわたしの都市の	発表資料の予習(90分)	発表内容の振り返り(90分)
14	研究発表 委と将来像 「都市マス」からみたわたしの都市の	発表資料の予習(90分)	発表内容の振り返り(90分)
15	研究発表 委と将来像 「都市マス」からみたわたしの都市の	発表資料の予習(90分)	発表内容の振り返り(90分)
16	総評(演習課題の提出状況と評価・解説) 授業改善アンケートの実施	演習課題提出確認(90分)	最終振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	職業指導 (A) (科目ナンバリング: )				
授業担当者 (所属・職名)	横山 哲也 (建築学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が高等学校において職業教育を指導する立場の時、職業についての基礎知識・技能を重んじ、個性に応じた進路を選択させる能力を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)  
 建築学科のDP2に対応する。(2023・2022年度)  
 建築学科のDP1、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

職業についての基礎知識・技能を重んじ、個性に応じた進路を選択させる能力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

職業の考え方、職業と社会、個人と職業、職業の選択、職業を生きる、進路指導、職業適性及び検査等について理解し、その指導法を学ぶ。

授業の方法

授業は、板書で実施し、板書にて説明しながら、演習を行う。また、課題の提出後講義中に解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

積極的に教育に関心をもつこと。  
 授業時間の半分以上の遅刻は欠席とみなします。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

11回以上の出席、レポート課題の提出と平常点の結果を総合して判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	20%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
個性に応じた進路指導方法の修得	個性に応じた進路指導方法について完璧に理解した。	個性に応じた進路指導方法について理解した。	個性に応じた進路指導方法についてほぼ理解した。	個性に応じた進路指導方法について大体理解した。	個性に応じた進路指導方法について理解しなかった。
職業の考え方や選び方についての理解	講義の内容から職業の考え方や選び方について完璧に理解した。	講義の内容から職業の考え方や選び方について理解した。	講義の内容から職業の考え方や選び方についてほぼ理解した。	講義の内容から職業の考え方や選び方について大体理解した。	職業の考え方や選び方について理解しなかった。
職業適性や検査法の理解	講義の内容から職業適性や検査法について完璧に理解した。	講義の内容から職業適性や検査法について理解した。	講義の内容から職業適性や検査法についてほぼ理解した。	講義の内容から職業適性や検査法について大体理解した。	職業適性や検査法について理解しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	職業指導 (A) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	<sup>F</sup> 適宜指示。					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス、シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
2	職業の意味1(労働分担の原理)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
3	職業の意味2(欲求の層構造)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
4	職業と社会	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
5	個人と職業	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
6	職業選択1(自己と職業のかかわり)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
7	職業選択2(レディネス)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
8	自己理解	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
9	職業適性の概念	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
10	職業適性検査について	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
11	職業適性検査の実施1(筆記)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
12	職業適性検査の実施2(器具)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
13	職業適性検査の採点・評価	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
14	進路指導に関する活動1(位置づけ)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
15	進路指導に関する活動2(組織)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
16	授業改善アンケートの実施及び総解説しフィードバックします	総復習(90分)	総理解(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	スポーツビジネス論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照 Teamsによるチャットは平日午前9時から午後5時まで対応				

概要

履修目標

世界のスポーツビジネスの事例を学び、北広島に建設されるBPをケースとしてスポーツビジネスの発展をリアルタイムで学ぶことにより、成長産業としてのスポーツビジネスを理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP2、DP3、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

スポーツビジネスにおけるマーケティング、経営戦略、会計の知識を用いて、スポーツ業界・企業の分析ができる能力を会得する。

授業全体の内容と概要

スポーツビジネスにおけるマーケティング、経営戦略、会計の知識を用いて、スポーツ業界・企業の分析ができる能力を会得する。

授業の方法

ケースを中心に講義を進める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
○	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業に集中しない学生には退出を指示する。授業中の問いに対する積極的な発言を歓迎する。履修にあたりマーケティング論、経営戦略論、財務会計論を履修済みであることが望ましい。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(保健体育)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツビジネスにおける、国別、種目別のビジネスモデルを理解し、経営戦略を策定することができる。	野球団の新規事業を作成することができた。	アメリカメジャーリーグのビジネスモデルを理解していた。	日本のプロ野球のビジネスモデルの変遷を理解していた。	スポーツビジネスのビジネスモデルの基本を理解していた。	スポーツビジネスのビジネスモデルの理解が不足していた。
オリンピックとワールドカップに関するビジネスモデルを理解する	オリンピックのビジネスモデルと課題解決策を明確にすることができた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルへ課題の解決策を導くことができた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルの課題を抽出することができた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルの基本的理解していた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルへの理解が不足していた。
新たなスポーツビジネスの理解と創造力を養う	北海道ボールパークの課題を抽出し高度な事業計画を策定することができた。	北海道ボールパーク構想の課題を抽出し解決策を策定することができた。	北海道ボールパーク構想について、価値や意義ならびに経済効果などに対して理解を深めていた。	E-SportsやBP(ボールパーク)について基本的に理解していた。	E-SportsやBP(ボールパーク)について理解が不足していた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	スポーツビジネス論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政 (経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明)スポーツビジネスの概要 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	レポート作成(90分)
2	スポーツビジネスモデル	ケースを読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
3	日本のスポーツビジネスモデル(体育からスポーツへ)	ケースを読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
4	日本のスポーツビジネスモデル(鹿島アントラーズ)	ケースを読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
5	日本のスポーツビジネスモデル(プロ野球 楽天・ロッテ・日本ハム)	ケースを読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
6	米国のスポーツビジネスモデル(MLB)	ケースを読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
7	米国のスポーツビジネスモデル(NFL)	ケースを読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
8	米国のスポーツビジネスモデル(中国に進出するバスケットボールビジネス)	ケースを読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
9	英国におけるサッカービジネスモデル	ケースを読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
10	英国におけるサッカービジネスモデル	ケースを読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
11	FIFAのビジネスモデル	ケースを読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
12	オリンピックビジネス	ケースを読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
13	eスポーツ	ケースを読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
14	ボールパーク	ケースを読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
15	ボールパーク 授業改善アンケートの実施	ケースを読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
16	レポート講評	解説フィードバック(90分)	総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	スポーツビジネス論（SP）（科目ナンバリング： ）				
授業担当者（所属・職名）	鈴木 重政（経営学科・教授）	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2（単位認定責任者：鈴木 重政）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照 Teamsによるチャットは平日午前9時から午後5時まで対応				

概要

履修目標	世界のスポーツビジネスの事例を学び、北広島に建設されるBPをケースとしてスポーツビジネスの発展をリアルタイムで学ぶことにより、成長産業としてのスポーツビジネスを理解する。
授業の位置づけ	経営学科のDP2、DP3、DP5に対応する。(2023・2022年度)
到達目標	スポーツビジネスにおけるマーケティング、経営戦略、会計の知識を用いて、スポーツ業界・企業の分析ができる能力を会得する。

到達目標	スポーツビジネスにおけるマーケティング、経営戦略、会計の知識を用いて、スポーツ業界・企業の分析ができる能力を会得する。
------	---

授業全体の内容と概要	スポーツビジネスにおけるマーケティング、経営戦略、会計の知識を用いて、スポーツ業界・企業の分析ができる能力を会得する。
------------	---

授業の方法	ケースを中心に講義を進める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法					
	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク		PBL
	模範授業	ロールプレイ	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項	授業に集中しない学生には退出を指示する。授業中の問いに対する積極的な発言を歓迎する。履修にあたりマーケティング論、経営戦略論、財務会計論を履修済みであることが望ましい。
----------	--

修学サポート（合理的配慮）	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目	教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上												
評価方法	<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	70%	0%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
0%	70%	0%	0%	30%	0%								

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツビジネスにおける個別、種目別のビジネスモデルを理解し、経営戦略を策定することができる。	野球団の新規事業を作成することができた。	アメリカメジャーリーグのビジネスモデルを理解していた。	日本のプロ野球のビジネスモデルの変遷を理解していた。	スポーツビジネスのビジネスモデルの基本を理解していた。	スポーツビジネスのビジネスモデルの理解が不足していた。
オリンピックとワールドカップに関するビジネスモデルを理解する	オリンピックのビジネスモデルと課題解決策を明確にすることができた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルへ課題の解決策を導くことができた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルの課題を抽出することができた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルの基本的理解していた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルへの理解が不足していた。
新たなスポーツビジネスの理解と創造力を養う	北海道ボールパークの課題を抽出し高度な事業計画を策定することができた。	北海道ボールパーク構想の課題を抽出し解決策を策定することができた。	北海道ボールパーク構想について、価値や意義ならびに経済効果などに対して理解を深めていた。	E-SportsやBP（ボールパーク）について基本的理解していた。	E-SportsやBP（ボールパーク）について理解が不足していた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	スポーツビジネス論（SP）（科目ナンバリング： ）				
授業担当者（所属・職名）	鈴木 重政（経営学科・教授）	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2（単位認定責任者：鈴木 重政）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明） スポーツビジネスの概要 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	レポート作成（90分）
2	スポーツビジネスモデル	ケースを読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
3	日本のスポーツビジネスモデル（体育からスポーツへ）	ケースを読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
4	日本のスポーツビジネスモデル（鹿島アントラーズ）	ケースを読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
5	日本のスポーツビジネスモデル（プロ野球 楽天・ロッテ・日本ハム）	ケースを読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
6	米国のスポーツビジネスモデル（MLB）	ケースを読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
7	米国のスポーツビジネスモデル（NFL）	ケースを読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
8	米国のスポーツビジネスモデル（中国に進出するバスケットボールビジネス）	ケースを読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
9	英国におけるサッカービジネスモデル	ケースを読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
10	英国におけるサッカービジネスモデル	ケースを読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
11	FIFAのビジネスモデル	ケースを読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
12	オリンピックビジネス	ケースを読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
13	eスポーツ	ケースを読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
14	ボールパーク	ケースを読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
15	ボールパーク 授業改善アンケートの実施	ケースを読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
16	レポート講評	解説フィードバック（90分）	総復習（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生涯学習概論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(生涯学習)について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

生涯学習についての基礎的・基本的事項を理解し、生涯学習の学習者・支援者としての知識・態度を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科・経営学科スポーツマネジメントコースのDP2、DP5に対応する。(2023・2022年度)  
 社会福祉学科のDP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)  
 デザイン学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)  
 建築学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

生涯学習に関連する基礎的知識を身に付け、生涯学習社会における学校教育、社会教育、家庭教育等の役割やリカレント教育など生涯学習の取組について理解できる。

授業全体の内容と概要

毎回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換(グループ)、発表等の一連の活動を行う。また、できるだけ具体的な事例から生涯学習の理解を深め、生涯においてどう関わるか、また、支援者としての関わりを考えられるように構成する。  
 「SDG4. 質の高い教育をみんなに。」の関連科目。

授業の方法

授業ではパワーポイント及び配布物(レジメ)で実施し、資料にて説明した後、グループワーク等で思考・考察、意見交換・討論、発表等の一連の活動を行う。また、実践事例のVTR教材視聴後に事例に基づくレポート提出を行う。レポートにはコメントにてフィードバックする。なお、学生の質問などには、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。  
 全学科が同一クラスで授業を行うため、無断でのスマホ使用、私語の禁止、座席の指定など、受講に当たっての注意事項を必ず厳守すること。また、グループワークなど主体的な学修態度が求められる。  
 不測の事態が起きた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)の選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	10%	0%	20%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
生涯学習理論等の理解	生涯学習理論等について、学修したを知識・技能を基礎に、さらに知識等を深めようとする事ができた。	生涯学習理論等について、意欲的に学び、必要な知識・技能を理解する事ができた。	生涯学習理論等について必要な知識・技能を理解できた。	生涯学習理論等についての知識・技能を一定程度理解できた。	生涯学習理論等について、理解が不十分だった。
生涯学習に関する情報や実践に対する思考・判断・表現	生涯学習について積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して表現する事ができた。	生涯学習について思考・判断し、個人やグループで表現する事ができた。	生涯学習について、個人やグループで思考活動等に取り組む、表現しようとする事ができた。	生涯学習について思考活動等に一定程度取り組み、表現しようとしていた。	生涯学習理論等について、理解が不十分だった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加する事ができた。	授業に積極的に参加する事ができた。	授業に関心をもって参加する事ができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度に課題があった。



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生涯学習概論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(生涯学習)について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『よくわかる生涯学習(改訂版)』	香川正弘 ほか	ミネルブ書房	2016	978-4-623-07631-4	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『テキスト生涯学習「新訂2版」』	田中雅文 ほか	学文社	2020	978-4-7620-2966-0	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション - シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、生涯学習とは何か -	教科書から「生涯学習」についての課題を整理する(90分)	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること(90分)
2	「生涯学習とは？」 1 生涯学習の概念と生涯学習社会の形成	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
3	「生涯学習とは？」 2 「生涯教育」と「生涯学習」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
4	「生涯学習とは？」 3 ライフサイクル論と生涯発達	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
5	生涯学習社会における各機能の役割 学校教育の役割 「生涯学習と学校教育」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
6	生涯学習社会における各機能の役割 社会教育の役割 「生涯学習と社会教育」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
7	生涯学習社会における各機能の役割 家庭教育の役割 「生涯学習と家庭教育」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
8	生涯学習社会における各機能の役割 行政機関の役割 「行政機関による生涯学習の振興」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
9	生涯学習社会における各機能の役割 民間団体・機関の役割 「民間団体等による生涯学習支援」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
10	生涯学習社会における各機能の役割 大学の役割 「生涯学習支援としての大学開放」 (中間テスト)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
11	生涯学習の多様な学習方法1 学習方法の種類と具体的な方法	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
12	生涯学習の多様な学習方法2 メディア活用やワークショップなどによる学習方法	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
13	生涯学習とリカレント教育1 リカレント教育の意義	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
14	生涯学習とリカレント教育2 リカレント教育の方策、職業能力開発の生涯学習	講義内容を整理し、レポート作成の課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
15	生涯学習と生涯学習社会の今後の課題について 授業改善アンケートの実施	講義内容を整理し、レポート作成の課題を整理する(90分)	レポートを作成する(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説する。)	教科書等で講義内容を整理する(90分)	試験の結果を見直す(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	グラフィックデザイン (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの基礎から応用までを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

デザインにおけるグラフィックデザインについて正しい認識を持ち、その可能性と将来の展望ができる知識と技術を身につける。

授業の位置づけ
---------

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)  
 デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP5に対応する。(2023・2022年度)  
 デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標
------

広告、出版、WEB、映像、各種アプリケーションなど、現代の視覚伝達メディアにおけるデザイン制作業務に携わるために必要な知識と技術を身につけることができる。

授業全体の内容と概要
------------

特定の情報を市場に提供する手段として適切なメディアを選択し、それを効果的に運用できるよう企画・設計段階を重視した課題制作を行う。但し、制作内容は単体のメディアコンテンツが中心となる。  
 「SDGs9・産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法
-------

始めにグラフィックデザインを正しく認識させるためのワークを行う。  
 その際には、ChatGPT及びCANVAを始めとする生成AIも積極的に活用する。  
 次に単体のメディアによる用途に合わせたバリエーションを制作する実技課題に続く。  
 後半ではオリジナルメディア広告企画をプレゼンテーションするためのツール(フリップ又はPowerPoint)を制作し発表する。  
 各種メディアや情報形態についての調査・取材は必要に応じて必ず行い企画内で報告させる。  
 制作中における技術的な指導は個別に行い、質問については随時対応する。  
 授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。  
 不測の授業や補講等ではオンラインで実施する可能性がある。

アクティブラーニングの実施方法
-----------------

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
----------

主として商業美術を志向する者のための演習が中心の授業である。  
 中でも情報メディアにおけるデザインとビジネスを前提とした内容であるから、そのスタンスがアート系分野とは相反することを理解し、それを前提として履修しなければならない。  
 課題の制作はAdobe IllustratorとPhotoshopを用いるので、その基本的な操作を身につけていなければならない。  
 授業内でアプリケーションの操作講習などは一切しないということにも留意しなければならない。  
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)
---------------

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。  
 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。  
 板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目
--------

評価方法・基準

評価前提条件
--------

単位認定に必要な最低出席回数は26回以上

評価方法
------

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック
--------

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「グラフィックデザインを分野として正しく認識できている」	グラフィックデザインに対する正しい認識を持ち、適切なメディアへ効果的な情報の投下の重要性を認識し、それが可能な知識と技能を身につけた。	グラフィックデザインに対する正しい認識を持ち、適切なメディアへ効果的な情報の投下が必要であること認識した。	グラフィックデザインに対する正しい認識を持つことはできたが、適切なメディアの選択と情報の処理が不十分であった。	グラフィックデザインに対する認識が曖昧で、メディアと情報の関連性を捉え切れていない。	グラフィックデザインを認識できていない。
思考力・判断力・表現力 「グラフィックデザインの分野としての特性を踏まえた作品制作が行える」	グラフィックデザインの特性を理解し、適切なメディアの選択や表現を行うための技能を基に、完成度の高い作品制作が行えた。	グラフィックデザインの特性を理解し、適切なメディアの選択や表現を行うための技能を作品制作に反映させることができた。	グラフィックデザインの特性を理解したが、メディアの選択や表現について、適切に反映させられていない。	グラフィックデザインの特性を理解しきれておらず、適切なメディアの選択や表現が不十分であった。	グラフィックデザインの特性が理解できず、メディアの選択や表現ができなかった。
主体性・多様性・協働性 「グラフィックデザインの分野としての特性を基にしたメディアの構築を行い、プレゼンテーションを行った」	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組み、適切なプレゼンテーションを行った。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組み、適切なプレゼンテーションを行った。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組んだが、適切なプレゼンテーションには至っていない。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的でなく、プレゼンテーションも不完全であった。	グラフィックデザインにおける問題解決ができず、プレゼンテーションが行えなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	グラフィックデザイン (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの基礎から応用までを指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス-シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 「伝統的なグラフィックデザインの捉え方」	シラバスを一読しておく・グラフィックデザインの意味を調べておく(45分)	シラバスを一読しておく・グラフィックデザインの意味を調べておく(45分)
2	「伝統的なグラフィックデザインの捉え方」 現行分野と制作工程について	シラバスを一読しておく・グラフィックデザインの意味を調べておく(45分)	分野への理解を深めるためのノート整理(45分)
3	「生成AIによる情報の視覚化」 企画文書作成のシミュレーション	使用するアプリと機材の準備・整理(45分)	課題の継続作業(45分)
4	「生成AIによる情報の視覚化」 企画文書作成のシミュレーション	課題の継続作業(45分)	課題の継続作業(45分)
5	「生成AIによる情報の視覚化」 デザインの美装シミュレーション	課題の継続作業(45分)	課題の継続作業(45分)
6	「生成AIによる情報の視覚化」 デザインの美装シミュレーション	課題の継続作業(45分)	課題の継続作業(45分)
7	「生成AIによる情報の視覚化」 講評と展開の可能性について	課題の継続作業(45分)	分野への理解を深めるためのノート整理(45分)
8	様々な情報メディアの特性について	分野への理解を深めるためのノート整理(45分)	分野への理解を深めるためのノート整理(45分)
9	情報メディアデザイン 「パナー広告デザイン」 企画・立案	シラバスの確認と情報整理(45分)	課題の継続作業(45分)
10	情報メディアデザイン 「パナー広告デザイン」 生成AIによるシミュレーション	課題の継続作業(45分)	課題の継続作業(45分)
11	情報メディアデザイン 「パナー広告デザイン」 デザインラフ作成	課題の継続作業(45分)	課題の継続作業(45分)
12	情報メディアデザイン 「パナー広告デザイン」 デザインラフ作成	課題の継続作業(45分)	課題の継続作業(45分)
13	情報メディアデザイン 「パナー広告デザイン」 プレゼンテーション	課題の継続作業(45分)	課題の継続作業(45分)
14	情報メディアデザイン 「パナー広告デザイン」 プレゼンテーション	課題の継続作業(45分)	課題の継続作業(45分)
15	情報メディアデザイン 「パナー広告デザイン」 プレゼンテーション	課題の継続作業(45分)	課題の継続作業(45分)
16	情報メディアデザイン 「パナー広告デザイン」 完成-講評	課題の継続作業(45分)	内容修正(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	情報メディアデザイン "中" 「UIデザイン」 企画立案	UIとは何か?(45分)	分野への理解を深めるためのノート整理(45分)
18	情報メディアデザイン "中" 「UIデザイン」 生成AIによるシミュレーション	分野への理解を深めるためのノート整理(45分)	課題の継続作業(45分)
19	情報メディアデザイン "中" 「UIデザイン」 ラフデザイン	課題の継続作業(45分)	課題の継続作業(45分)
20	情報メディアデザイン "中" 「UIデザイン」 ラフデザイン	課題の継続作業(45分)	課題の継続作業(45分)
21	情報メディアデザイン "中" 「UIデザイン」 ラフデザイン	課題の継続作業(45分)	課題の継続作業(45分)
22	情報メディアデザイン "中" 「UIデザイン」 ラフデザイン	課題の継続作業(45分)	課題の継続作業(45分)
23	情報メディアデザイン "中" 「UIデザイン」 プレゼンテーション	課題の継続作業(45分)	課題の継続作業(45分)
24	情報メディアデザイン "中" 「UIデザイン」 プレゼンテーション	課題の継続作業(45分)	課題の継続作業(45分)
25	情報メディアデザイン "中" 「UIデザイン」 プレゼンテーション	課題の継続作業(45分)	課題の継続作業(45分)
26	情報メディアデザイン "中" 「UIデザイン」 完成-講評	課題の継続作業(45分)	内容修正(45分)
27	レイアウトとフィニッシュワーク デザインツールの習得度確認課題	シラバスの確認と情報整理(45分)	課題の継続作業(45分)
28	レイアウトとフィニッシュワーク デザインツールの習得度確認課題	課題の継続作業(45分)	課題の継続作業(45分)
29	レイアウトとフィニッシュワーク デザインツールの習得度確認課題	課題の継続作業(45分)	課題の継続作業(45分)
30	レイアウトとフィニッシュワーク デザインツールの習得度確認課題	課題の継続作業(45分)	課題の継続作業(45分)
31	レイアウトとフィニッシュワーク デザインツールの習得度確認課題	課題の継続作業(45分)	課題の継続作業(45分)
32	授業改善アンケートの実施	全授業内容のまとめ(45分)	完成シミュレーション(45分)

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	必修・選択
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: )		
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在	
単位数	1 (単位認定責任者: )	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		
オフィスアワー			

概要

履修目標

授業の位置づけ

到達目標

授業全体の内容と概要

授業の方法

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL		
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業		
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)		

履修上の注意事項

修学サポート(合理的配慮)

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	必修・選択
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: )		
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在	
単位数	1 (単位認定責任者: )	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域福祉と包括的支援 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 上原 正希)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

1. 地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。
2. 地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。
3. 地域福祉を推進するための、福祉行政の実施体制と果たす役割について理解する。
4. 地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。
5. 包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。
6. 地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する(2022年)。

到達目標

1. 地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解することができる。
2. 地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解することができる。
3. 地域福祉を推進するための、福祉行政の実施体制と果たす役割について理解することができる。
4. 地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解することができる。
5. 包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解することができる。
6. 地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解することができる。

授業全体の内容と概要

1. 地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について学ぶ。
2. 地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を学ぶ。
3. 地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を学ぶ。
4. 包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について学ぶ。
5. 地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を学ぶ。
6. テキストを中心に関連文献を適宜紹介し、参考文献として、その他文献資料も活用して学ぶ。
7. 授業内容は、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験と関連付けて学ぶ。
5. 「SDGs3. すべての人に健康と福祉を」、「SDGs4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

1. 授業形態は講義形式だが、適宜、グループワークやディスカッションを含む。
2. テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。
3. 適宜、質疑応答を交える。
4. 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
5. ソーシャルワーカーのお話を聞く授業等もある。
6. 大学のペーパーレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

1. 教科書は必ず持参すること。
2. 必要な資料等は適宜配布する。
3. とは同じ教科書を使用する。
4. 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
5. ソーシャルワーカーのお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

1. 出席回数は最低10回なければ試験を受験することはできない。
2. その他については、出席状況30%の評価となる。
3. 成績評価分布の目標について「S」は履修者の10%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の40%以内とする。但し、履修者が10人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする(絶対評価と相対評価を併用する)。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
【知識】地域福祉の基本的な考え方について理解する。	地域福祉の基本的な考え方について非常に理解できた。	地域福祉の基本的な考え方についておおむね理解できた。	地域福祉の基本的な考え方について理解できた。	地域福祉の基本的な考え方について理解が一部できなかった。	地域福祉の基本的な考え方について全体的に理解ができなかった。
【知識】地域福祉の組織や役割について理解する。	地域福祉の組織や役割について非常に理解できた。	地域福祉の組織や役割についておおむね理解できた。	地域福祉の組織や役割について理解できた。	地域福祉の組織や役割について理解が一部できなかった。	地域福祉の組織や役割について全体的に理解ができなかった。
【知識】コミュニティソーシャルワークについて理解する。	コミュニティソーシャルワークについて非常に理解できた。	コミュニティソーシャルワークについておおむね理解できた。	コミュニティソーシャルワークについて理解できた。	コミュニティソーシャルワークについて理解が一部できなかった。	コミュニティソーシャルワークについて全体的に理解ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域福祉と包括的支援 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上原 正希)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『地域福祉と包括的支援体制』	福祉臨床シリーズ編集委員会	弘文堂	2022年	9784336612152	価格 \2,750(本体 \2,500)
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『別途指示します。』 <sup>a</sup>					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(授業改善アンケート結果反映及びシラバスの説明)、地域福祉とは	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
2	地域福祉の発展過程について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
3	地域福祉の発展過程 - 行政と住民の協働・新しい生活課題	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
4	地域福祉の発展過程 - 新しいサービスシステム・地域福祉の主体	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
5	地域福祉の基本的考え方 - 地域福祉理論の発展・理念	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
6	地域福祉の基本的考え方 - 地域コミュニティ型組織とアソシエーション型組織	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
7	地域福祉の主体と福祉教育について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
8	行政組織と民間組織の役割と実際 - 地域福祉計画	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
9	行政組織と民間組織の役割と実際 - 社会福祉協議会・社会福祉法人	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
10	行政組織と民間組織の役割と実際 - NPO・民生委員児童委員など	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
11	コミュニティソーシャルワークについて - 考え方	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
12	コミュニティソーシャルワークについて - 展開とシステム	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
13	コミュニティソーシャルワークについて - 方法	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
14	コミュニティソーシャルワークについて - チームアプローチ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
15	コミュニティソーシャルワークについて - 専門職と住民 授業改善アンケートの実施	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
16	【定期試験】60分の試験終了後、残りの30分で解説	テスト勉強をしておくこと(90分)	テストの振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	向井 正伸(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所にて教育、交通、宿泊、居住、文化施設といった様々な用途・規模の施設設計経験を踏まえ、学生との対話を重視した建築設計教育を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標
公共建築の設計・プレゼンテーションを通じて、高い社会性と機能を持った建築の設計手法を学ぶ。そのため、建築学科で学んだ知識や人生経験もフル活用しながら、地域の環境や歴史のリサーチ等を通して住民の未来へ意識を向け、未来をつくる建築の設計をおこなう。この授業では特に、「思想をもってデザインする」、そして「考えたことを説得力を持たせて他者に伝える」ことに重きを置く。

授業の位置づけ
建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度) 建築学科のDP2、DP3に対応する。(2023・2022年度) 建築学科のDP1、DP2、DP3、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標
小中規模の建築の計画と条件を満たし、設計者の考え方や主旨を盛り込んだ建築の設計ができる。また、その考え方や主旨をわかりやすく表現するプレゼンテーションができる。

授業全体の内容と概要
公共建築を成立させるためには、思い付きのアイデアをカタチにするだけでは不十分である。そのため、本授業では対話を中心としたエスキスを実施する。エスキスを通して、学生自身が多量のPOCAサイクル(Plan、Do(or Design)、Check、Action)を回す過程でアイデアを明確にし、より良い建築となるよう指導する。作品提出後は発表会を行い、他の作品から多様な考えと自分の作品を比較し、学ぶ機会を設ける。 「SDGs 1 2 つくる責任、つかう責任」 「SDGs 1 1 住み続けられるまちづくりを」

授業の方法
授業では、板書やICTを活用しながら構造の考え方を説明し、双方向授業で実施する。また、授業中毎回、進行状況と中間指導を行い添削する。プレゼンテーションに対しては授業内で講評フィードバックする。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
授業には必ず出席し、途中成果の提示と中間指導を受け、POCAサイクル(Plan、Do(or Design)、Check、Action)を自主的に行うこと。授業ではエスキスを中心に展開するため、授業時間外、自宅での制作が不可欠である。製図道具やケント紙、トレーシングペーパー、模型材料などは、各自が用意すること。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上。提出課題と受講態度で総合判定を行う。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	70%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	70%	0%	30%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を越えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>計画の強さ : 自分なりの思想をもち、説得力のある計画をし、説明ができたか。</td> <td>自分なりの思想をもち、説得力のある計画ができた。</td> <td>自分なりの思想をもち、説得力のある計画ができた。</td> <td>自分なりの思想をもち、説得力のある計画ができた。</td> <td>思想をもって計画ができた。</td> <td>思想をもち計画ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>計画の正確性 : 与条件や建築基準法に則った計画ができて、正確に作図ができていたか。</td> <td>条件に適した施設として計画し、各種図面が正しく作図することができた。</td> <td>条件に合った施設として計画し、各種図面が正しく作図することができた。</td> <td>条件を踏まえた施設として計画し、各種図面を作図することができた。</td> <td>各種図面を作図することができた。</td> <td>各種図面を作図することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>表現力 : 考えや設計内容をダイアグラムやパース、模型などを用いて的確に表現できたか。人に伝えるプレゼンテーションができたか。</td> <td>考えをダイアグラムやパース、模型などを用いて的確に表現ができ、他者を共感させることができた。</td> <td>考えをダイアグラムやパース、模型などを用いて的確に表現ができた。</td> <td>考えをダイアグラムやパース、模型などを用いて表現ができた。</td> <td>ダイアグラムやパース、模型などを用いて表現ができた。</td> <td>ダイアグラムやパース、模型などを用いて表現ができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	計画の強さ : 自分なりの思想をもち、説得力のある計画をし、説明ができたか。	自分なりの思想をもち、説得力のある計画ができた。	自分なりの思想をもち、説得力のある計画ができた。	自分なりの思想をもち、説得力のある計画ができた。	思想をもって計画ができた。	思想をもち計画ができなかった。	計画の正確性 : 与条件や建築基準法に則った計画ができて、正確に作図ができていたか。	条件に適した施設として計画し、各種図面が正しく作図することができた。	条件に合った施設として計画し、各種図面が正しく作図することができた。	条件を踏まえた施設として計画し、各種図面を作図することができた。	各種図面を作図することができた。	各種図面を作図することができなかった。	表現力 : 考えや設計内容をダイアグラムやパース、模型などを用いて的確に表現できたか。人に伝えるプレゼンテーションができたか。	考えをダイアグラムやパース、模型などを用いて的確に表現ができ、他者を共感させることができた。	考えをダイアグラムやパース、模型などを用いて的確に表現ができた。	考えをダイアグラムやパース、模型などを用いて表現ができた。	ダイアグラムやパース、模型などを用いて表現ができた。	ダイアグラムやパース、模型などを用いて表現ができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
計画の強さ : 自分なりの思想をもち、説得力のある計画をし、説明ができたか。	自分なりの思想をもち、説得力のある計画ができた。	自分なりの思想をもち、説得力のある計画ができた。	自分なりの思想をもち、説得力のある計画ができた。	思想をもって計画ができた。	思想をもち計画ができなかった。																								
計画の正確性 : 与条件や建築基準法に則った計画ができて、正確に作図ができていたか。	条件に適した施設として計画し、各種図面が正しく作図することができた。	条件に合った施設として計画し、各種図面が正しく作図することができた。	条件を踏まえた施設として計画し、各種図面を作図することができた。	各種図面を作図することができた。	各種図面を作図することができなかった。																								
表現力 : 考えや設計内容をダイアグラムやパース、模型などを用いて的確に表現できたか。人に伝えるプレゼンテーションができたか。	考えをダイアグラムやパース、模型などを用いて的確に表現ができ、他者を共感させることができた。	考えをダイアグラムやパース、模型などを用いて的確に表現ができた。	考えをダイアグラムやパース、模型などを用いて表現ができた。	ダイアグラムやパース、模型などを用いて表現ができた。	ダイアグラムやパース、模型などを用いて表現ができなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	向井 正伸(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所にて教育、交通、宿泊、居住、文化施設といった様々な用途・規模の施設設計経験を踏まえ、学生との対話を重視した建築設計教育を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『第4版 コンパクト建築設計資料集』	日本建築学会	丸善株式会社	2024	978-4621307427	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと (90分)	プリントを読んで理解しておくこと(90分)
2	課題1 小さな公共建築 課題説明	プリントを読んで理解しておくこと (90分)	課題のプリントを読み、デザイン検討する(90分)
3	課題1 エスキスチェック	デザインしたものを表現する(90分)	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
4	課題1 エスキスチェック	デザインを改善し、表現する(90分)	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
5	課題1 発表・質疑応答・課題2 発表	デザインを改善し、表現する(90分)	講評会の内容をまとめる(90分)
6	課題2 課題説明	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	現地見学のポイントをピックアップする(90分)
7	課題2 敷地 見学会	取り組みスケジュールを作成する(90分)	敷地調査結果をまとめデザインアイデアを作成する (90分)
8	課題2 中間指導 セプトと全体計画 (エスキスチェック:コン)	アイデアをカタチにし、表現する (90分)	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
9	課題2 中間指導 セプトと全体計画 (エスキスチェック:コン)	デザインを改善し、表現する(90分)	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
10	課題2 中間指導 ドスケープと平面計画 (エスキスチェック:ラン)	デザインを改善し、表現する(90分)	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
11	課題2 中間指導 計画と断面構成 (エスキスチェック:平面)	デザインを改善し、表現する(90分)	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
12	課題2 中間指導 計画と断面構成 (エスキスチェック:平面)	デザインを改善し、表現する(90分)	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
13	課題2 中間指導 ダイアグラム プレゼンテーション (エスキスチェック:作図)	デザインを改善し、表現する(90分)	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
14	課題2 中間指導 ダイアグラム プレゼンテーション (エスキスチェック:作図)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
15	課題提出・講評会	プレゼンテーションにまとめる(90分)	改善点をまとめる(90分)
16	合同発表会	プレゼンテーションにまとめる(90分)	ポートフォリオに使用できるようにプレゼンを行う (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	商法 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

企業を巡る法律関係を規定する商法および手形法・小切手法、その関連法規について、基本となる知識を修得することを目的とする。法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できるよう、条文を理解し、適用・解釈できるようになる。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

企業を巡る法律関係を規定する商法および手形法・小切手法、その関連法規について、基本となる知識を修得することを目的とする。法律の基本知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できるようになる。

授業全体の内容と概要

商法および手形法・小切手法、その関連法規について、基本となる知識を修得することを目的とし、条文を理解し、適用・解釈できるようになることを目標とし、さらに法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できる人材の育成することを目的とする。商法は、法律の全体像をつかむことに主眼に、企業法といわれる商法・会社法の基本的な説明を行い、具体的には、商法総則・商行為・手形法・小切手法などの分野を解説する。  
「SDG 10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業は、資料をパワーポイントで投影し、資料(第3回から第15回の計13回)を配布して実施する。授業の進行は、前回の復習から始まり、本日の講義の内容を講義形式で解説を行う。  
確認テストは、講義の理解を深めるために5回(前年実績)実施する。ビデオ視聴は、課題解決力を養うために2回(前年実績なし)(受講人数・使用教室などによっては実施しない)実施する。課題は、講義の理解を深めるために1回(前年実績)実施する。 についてのフィードバックは、講義内で解説を行う。  
補講が必要な場合は実施する(欠かすなどの学生に対しては補講を実施する)。  
確認テストなどはMicrosoft Formsの小テストから実施し、学生全体の理解度を把握し、指導する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・私語などの迷惑行為は厳禁。
- ・講義中スマホの操作は厳禁、マナーモードで受講してください。
- ・六法を持参することを推奨。
- ・確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。
- ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。  
・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。  
・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

教職課程(商業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上  
課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の4割を占めるので、12回以上の出席を推奨。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	10%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
法律の条文を読み取り、理解できる	法律の条文を読み取り、理解でき、さらに自分の意見を述べた	法律の条文を読み取り、理解でき、自分なりの説明できた	法律の条文を読み取り、理解できた	法律の条文を読み取れた	法律の条文を読み取れなかった
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べた	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できた	事例を理解し、法律の条文を適用できた	事例を理解し、法律の条文を理解できた	事例を読み取れず、法律の条文を理解できなかった
課題に対し、問題解決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えられた	解答は答えているが、一部に解答と関係ないことを答えた	解答が一通り答えているが、改善すべき点があった	解答を部分的には答えているが、的確ではなかった	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	商法 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『商法 第2版(ファーストラックシリーズ4)』	伊藤真	弘文堂	2018年	9784335314599	
2	『ポケット六法 令和6年版』	佐伯仁志・大村敦志・荒木尚志 / 編集代表	有斐閣	2023年	9784641009233	
3	『法学入門』	穴戸常寿・石川博康	有斐閣	2021年	9784641126183	
4	『大学生活と法学』	江藤祥平・大塚智見・遠藤聡太・豊谷しのぶ・辰野嘉則・田原	有斐閣	2022年	9784641126312	
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 商法の意義・目的・全体像	シラバスの確認(90分)	復習(90分)
2	ガイダンス シラバスの説明 商法総則・商行為の概要	シラバスの確認。 商法総則・商行為についての調べ学習(90分)	復習(90分)
3	商人と商行為 商取引と一般取引	商人と商行為、商取引と商行為についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
4	知的財産権と商号・商標	知的財産権と商号・商標についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)、確認テストの復習
5	商号・類似商号事例研究、名板貸し 確認テスト1(前年実績)	類似商号・名板貸しについての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
6	営業譲渡、商業帳簿	営業譲渡と商業帳簿についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)、確認テストの復習
7	代理商、商業使用人	代理商、商業使用人についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)、確認テストの復習
8	商業使用人、表見支配人 課題1(前年実績)	商業使用人、表見支配人についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)、確認テストの復習
9	商業登記	商業登記についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
10	商行為法、商行為の代理	商行為法・商行為の代理についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
11	契約の成立、債務の履行・債券担保 確認テスト2(前年実績)	契約の成立・債務の履行・債券担保についての調べ学習(90分)	課題の作成 配布資料の復習(90分)
12	商人間の留置権 手形小切手法・有価証券(手形、小切手) 確認テスト3(前年実績)	課題の作成 商人間の留置権、手形小切手法・有価証券(手形、小切手)についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
13	手形小切手法・有価証券(手形、小切手) 手形の要件、白地手形、債権譲渡 確認テスト4(前年実績)	手形小切手法・有価証券(手形、小切手)・手形の要件・白地手形・債権譲渡についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
14	裏書、手形の抗弁・物的抗弁・人的抗弁 善意取得・人的抗弁の切斷 確認テスト5(前年実績)	裏書・手形の抗弁・物的抗弁・人的抗弁・善意取得・人的抗弁の切斷についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
15	支払免除・満期前の支払い、手形行為独立の原則 まとめ、定期試験の説明 授業改善アンケートの実施	支払免除・満期前の支払い・手形行為独立の原則 第3回から第14回まで復習(90分)	配布資料の復習(90分) 試験範囲の確認により、第3回から第15回まで復習(90分)
16	定期試験(60分) 定期試験の解説、採点方法の説明 授業改善アンケートの実施	試験範囲の確認、第3回から第15回まで復習(90分)	復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツとヘルスケア (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕(経営学科・准教授)、三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制	講義		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツとヘルスケアについての基礎的な科学的知識を深め指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標
身体運動に異常が出ればスポーツ選手個人がもつパフォーマンスの発揮ができないばかりか、障害をまねく危険性がある。そこで外傷・障害の予防とコンディショニングの手法に関して学習する。
授業の位置づけ
経営学科のDP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)
到達目標
スポーツを見つめる科学的な視点。スポーツにおける基礎理論の理解と実践の応用について理解することができる。

授業の内容と概要
アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画(実施上の留意点、進め方)、予防・治療・再発防止のテーピングの解説と演習。スポーツマッサージの解説。アイシング・ストレッチングなどの解説。特殊環境下での対応。アンチテーピング(ドーピング防止とドーピングコントロール)。トップアスリートの育成・強化の方法とその評価。競技力向上のためのチームマネジメント。について分かりやすく講義する。 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目
授業の方法
授業はパワーポイント及び配布資料で実施しコンディショニングの事例を紹介しコンディショニングのDVDも活用しながら講義形式で行う。授業によってはグループワークで思考・考察・発表を行い学習していく。また、授業の終わりに振り返りを行う。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
ノートやプリントは毎回必ず持参すること、授業中は口頭説明にも注意を向けノートやプリント等にメモしながらノート作成を行うこと。口頭で説明したことにも重要な事柄が含まれる。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
--------

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な出席回数は、11回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>60%</td> <td>10%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	30%	60%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	30%	60%	10%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業に対する積極性</td> <td>準備学習、事後学習はもとより積極的に授業に参加するなど、他の学生の模範となる授業態度であり、板書や課題提出ができた。</td> <td>準備学習、事後学習がなされ理解を深めるために受講し、板書や課題提出ができた。</td> <td>準備学習、事後学習がなされ普通に受講し、板書や課題提出ができた。</td> <td>準備学習、事後学習がなされていないが、板書や課題提出ができた。</td> <td>準備学習、事後学習がなかつた。板書や課題提出ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>コンディショニングについての基礎知識・領域理解</td> <td>幅広い領域について基礎的な知識を持ち、それぞれの領域について理解し説明できた。</td> <td>多様な領域からの見解を深く理解できた。</td> <td>多様な領域からの見解を一定程度理解できた。</td> <td>多様な領域からの見解をある程度理解できた。</td> <td>多様な領域からの見解をまったく理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>知識に基づく思考・判断</td> <td>幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考力・判断力を行うことができた。</td> <td>多様な思考力・判断力が身につけることができた。</td> <td>多様な思考力・判断力が一定程度身につけることができた。</td> <td>多様な思考力・判断力がある程度身につけることができた。</td> <td>多様な思考力・判断力がまったく身につけることができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	授業に対する積極性	準備学習、事後学習はもとより積極的に授業に参加するなど、他の学生の模範となる授業態度であり、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ理解を深めるために受講し、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ普通に受講し、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされていないが、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなかつた。板書や課題提出ができなかった。	コンディショニングについての基礎知識・領域理解	幅広い領域について基礎的な知識を持ち、それぞれの領域について理解し説明できた。	多様な領域からの見解を深く理解できた。	多様な領域からの見解を一定程度理解できた。	多様な領域からの見解をある程度理解できた。	多様な領域からの見解をまったく理解できなかった。	知識に基づく思考・判断	幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考力・判断力を行うことができた。	多様な思考力・判断力が身につけることができた。	多様な思考力・判断力が一定程度身につけることができた。	多様な思考力・判断力がある程度身につけることができた。	多様な思考力・判断力がまったく身につけることができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
授業に対する積極性	準備学習、事後学習はもとより積極的に授業に参加するなど、他の学生の模範となる授業態度であり、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ理解を深めるために受講し、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ普通に受講し、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされていないが、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなかつた。板書や課題提出ができなかった。																								
コンディショニングについての基礎知識・領域理解	幅広い領域について基礎的な知識を持ち、それぞれの領域について理解し説明できた。	多様な領域からの見解を深く理解できた。	多様な領域からの見解を一定程度理解できた。	多様な領域からの見解をある程度理解できた。	多様な領域からの見解をまったく理解できなかった。																								
知識に基づく思考・判断	幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考力・判断力を行うことができた。	多様な思考力・判断力が身につけることができた。	多様な思考力・判断力が一定程度身につけることができた。	多様な思考力・判断力がある程度身につけることができた。	多様な思考力・判断力がまったく身につけることができなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツとヘルスケア (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕(経営学科・准教授)、三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制	講義		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツとヘルスケアについての基礎的な科学的知識を深め指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSPQ	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明) 授業改善アンケート結果反映の説明(佐藤和裕)	事前にシラバスを読んで確認しておく(90分)	ガイダンスの内容を理解しておく(90分)
2	指導者の心構え・視点(佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
3	スポーツと健康・アスリートの件超え管理(佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
4	アスリートの内科的障害と対策(佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
5	女性アスリートの障害と対策(佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
6	スポーツによる精神障害と対策(佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
7	外傷・障害の予防(佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
8	コンディショニングの手法、ストレッチング・アイシング(佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
9	コンディショニングの手法、テーピング基本(佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
10	救急処置、救急蘇生法(佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
11	救急処置、外科的応急処置(佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
12	アンチドーピング(三嶋康嗣)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
13	コーチング環境の特徴(三嶋康嗣)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
14	スポーツ組織のマネジメント(三嶋康嗣)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
15	障がい者とスポーツ(三嶋康嗣)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
16	まとめ・授業改善アンケートの実施(三嶋康嗣)	ノート、プリントで講義内容を確認しておく(90分)	専門用語の意味や授業内容を理解しておく(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	プロダクトデザイン (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	X		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義である。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板を参照の事				

概要

履修目標

モノ、コト、商品等をデザインするプロダクトデザイナーになる為に必要な知識、技術、プロセスを習得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)  
 デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2023・2022年度)  
 デザイン学科のDP1、DP2、DP3に対応する。(2021年度)

到達目標

プロダクトデザイナーとしてモノの見方、考え方、問題解決の為のアイデア展開、造形力、表現技術、プレゼンテーション技術を習得する。

授業全体の内容と概要

デザインするテーマをマーケットリサーチし、現状を把握、問題点抽出、アイデア展開、造形、ボスター等、表現方法を考察、可視化しプレゼンテーションして第三者の意見を考察し、自分の力量を認識する。

授業の方法

課題に沿ってマーケットリサーチをグループで行い、現状とモノの潜在価値を把握する。問題点を抽出しアイデアを発想し、デザインして第三者にプレゼンテーションする。ディスカッションをして自分の考察し、デザインの深さを認識する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

積み重ねの授業ですので、欠席するとついていけない。欠席しないように。  
 履修者は鉛筆(ハイユニA3-B4)、PM-PAD A3(マーカー用紙)、コピックマーカー(クールグレイC1-C8,黒)、バステル用意の事。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は20回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
モノの本質を捉え、新しい価値を創り出せる。	モノの本質を完璧に捉え、新しい価値を創造出来た。	モノの本質を上手く捉え、今まで以上の価値を創造出来た。	モノの本質を捉え、今まで以上の価値を創造出来た。	モノの本質を捉え、価値を創造出来た。	モノの本質を捉えられず、価値を創造出来なかった。
問題解決のアイデアを出せる。	問題解決のアイデアを完璧に出し、従来の価値以上のものを創造することに繋がられた。	問題解決のアイデアを上手く出し、従来の価値以上のものを創造できた。	問題解決のアイデアを出し、従来の価値以上のものを創造できた。	問題解決のアイデアを幸うじて出し、従来の価値以上のものを発想できた。	問題解決のアイデアが出せず、従来の価値以上のものを発想できなかった。
新デザインを提案することが出来る。	自分のアイデアを完璧に可視化出来て、造形力やアプローチも完璧である。周りを巻き込む力があった。	自分のアイデアを上手に可視化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを可視化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを幸うじて可視化出来て、造形力やアプローチも幸うじて出来た。	自分のアイデアを可視化出来ず、造形力やアプローチも出来なかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	プロダクトデザイン (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	X		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義である。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 プロダクトデザインとは デザインテーマ表	プロダクトデザインとは?調べておく、シラバスを読む。(45分)	プロダクトデザインとは?調べておく、シラバスを読む。(45分)
2	マーケットリサーチ 潜在意識探求、問題点抽出	プロダクトデザインとは?調べておく、シラバスを読む。(45分)	プロダクトデザインとは?調べておく、シラバスを読む。(45分)
3	グループに分かれてブレインストーミング	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
4	マーケットチャート作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
5	まとめ グループごとに見解を発表	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
6	問題定義から解決アイデアを展開 アイデアスケッチスタート	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
7	アイデアスケッチ 多様な方向でスケッチする	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
8	アイデアスケッチまとめ1	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
9	アイデアスケッチ1プレゼンテーション 第三者の意見を汲む	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
10	アイデアスケッチ2 改良し新しい価値を入れ込む	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
11	アイデアスケッチ2まとめ 第三者に伝えるように	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
12	アイデアスケッチ2プレゼンテーション デザイン審議会	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
13	デザイン方向決定 デザイン作業、最終デザインの検討	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
14	デザイン作業 アイデアスケッチから起こす	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
15	デザイン作業 アイデアの中から気づきを探す	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
16	デザイン作業 コンセプトを決める	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	デザイン審査 自分で評価を下す。	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
18	デザイン再考 自分で否定して もう一度、再考する。	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
19	デザイン修正 完成度を上げる。	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
20	デザイン完成。 確認	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
21	レンダリング 特徴が出ているか?	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
22	レンダリング 構図は良いか	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
23	レンダリング 使用する色味の吟味	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
24	レンダリング 適した手法か?	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
25	レンダリング 完成度をあげる	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
26	レンダリング 細かい調整	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
27	レンダリングを完成させる	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
28	ポスター作成 プレゼンボード作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
29	ポスター作成 プレゼンボード作成 第三者に伝えるか	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
30	ポスター作成 プレゼンボード作成 最後のチェック	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
31	プレゼンテーション 第三者の意見をしっかりと聞く。	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
32	総評 授業改善アンケートの実施	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	授業全体を俯瞰して、今後の計画を考察する。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築構造力学 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

社会で建築されている建築物のほとんどは不静定構造物であり、これらの実構造物の基本となるのが、力学である。「建築構造力学」では、静定構造物の知識を基礎に不静定構造物の解法の修得を目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のD P 2に対応する。(2024年度)  
 建築学科のD P 2に対応する。(2023・2022年度)  
 建築学科のD P 2に対応する。(2021年度)

到達目標

簡単な不静定構造物の合理的かつ経済的な設計ができる。  
 梁の変形、応力法、変位法について説明できる。

授業全体の内容と概要

「建築構造力学」の知識を基礎に、一級建築士レベルの不静定構造物の解法について修得する。

授業の方法

授業は配布物と板書を中心に講義形式で行う。授業では、講義と問題・解説を交えた内容とする。不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	〇 双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

事前に配布した資料は必ず持参のこと。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
100%	0%	0%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
梁の変形について修得する。	変形について簡単に説明できた。	曲げについて簡単に説明できた。	曲げについてほぼ簡単に説明できた。	曲げについて説明できた。	曲げについて簡単に説明できなかった。
応力法について修得する。	応力法をトラスやラーメンに適用することができた。	静定梁および不静定梁について簡単に説明できた。	静定梁および不静定梁についてほぼ簡単に説明できた。	静定梁を簡単に説明できるが不静定梁については説明できなかった。	静定梁を簡単に説明できるが不静定梁について簡単に説明できなかった。
変位法について修得する。	変位法を理解し、不静定梁を解くことができた。	変位法を簡単に説明できた。	たわみとたわみ角について簡単に説明できた。	たわみとたわみ角について説明できた。	たわみとたわみ角について簡単に説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築構造力学 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『建築構造テキスト』		建築資料研究社	2020		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 授業改善アンケート結果に関する説明(小笠原)	シラバス資料を確認して、構造力学の復習を行う。(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
2	静定構造物と不静定構造物との違いの説明	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
3	静定構造物と不静定構造物との違いの説明	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
4	不静定構造物の判別式	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
5	応力度と許容応力度	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
6	部材の変形(ひずみ・座屈・たわみ・たわみ角)	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
7	モールの定理	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
8	マックスウェルの相反定理・ラーメンの変形	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
9	不静定構造物の応力(重ね合わせの原理)	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
10	不静定ラーメン(分割・到達モーメント)	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
11	固定モーメント法	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
12	ラーメンの水平変位と水平剛性	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
13	固有周期(振動)のメカニズム	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
14	加速度応答スペクトル	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
15	崩壊メカニズム(仮想仕事の原理)	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説) 授業改善アンケートの実施	全体内容の再確認及び理解(90分)	試験内容の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保健体育科教育法 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	高井 雅一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法に関する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する				

概要

履修目標

保健体育科の意義や内容をはじめ、各領域の内容・計画方法・評価等を学ぶ科目であり、授業設計を身につけ、保健体育科教師としての基本的な学習指導理論を理解できるようにする。

授業の位置づけ

経営学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

保健体育科の目標・内容をはじめ、体育の指導計画の作成や評価の在り方並びに基礎的な学習指導理論を理解し、子どもの実態に応じた効果的な授業設計をする。

授業全体の内容と概要

・中学校及び高等学校教育の目的・目標を明確にするとともに、保健体育科教育としての独自の役割をわかりやすく理解させる。  
 ・保健体育科の授業を行うための必要な知識と指導技術について、意見交換で自分の意見を述べることができ、グループ学習の中で、多様な指導方法を身につける活動を行う。『SDG4』質の高い教育を目指す。  
 ・授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

・各回のテーマに関してプリント等を併用して説明を行う。  
 ・各テーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察・意見交換・発表等の一連の活動を行う。  
 ・各自がパソコンを使用し、計画書の作成を協力し合い実施する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・講義で配布するプリント類や課題プリントはファイル等に整然と保管し必要時に参照できるようにすること。  
 ・講義中、スマホや飲食物等はカバン等の中に入れておくこと。但し、指示のある場合は可。  
 ・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とみなす。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(保健体育)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、12回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	20%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保健体育科教育の目的・目標についての認識・理解できる	保健体育科教育の目的・目標を認識し独自の役割と学修の基本事項、実務的事項を理解できた。(9割)	保健体育科教育の目的・目標を認識し独自の役割と学修の基本事項、実務的事項を理解できた。(8割)	保健体育科教育の目的・目標を認識し独自の役割と学修の基本事項、実務的事項を理解できた。(7割)	保健体育科教育の目的・目標を認識し独自の役割を理解できた。	保健体育科教育の目的・目標を認識し独自の役割を理解できなかった。
保健体育科教育の意義や基本的構造に基づく授業設計ができる	教育の意義・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解し、授業の特質を考慮し、授業設計を身につけた。(9割)	教育の意義・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解し、授業の特質を考慮し、授業設計を身につけた。(8割)	教育の意義・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解し、授業の特質を考慮し、授業設計を身につけた。(7割)	保健体育科教育の意義や基本的構造について考え、授業設計を身につけた。	保健体育科教育の意義や基本的構造について考えて、授業設計ができなかった。
意見交換における主体性・協働性を身につける	授業を行うための必要な知識と指導技術について自分の意見を述べながら意見交換を交わし、協働作業ができた。(9割)	授業を行うための必要な知識と指導技術について自分の意見を述べながら意見交換を交わし、協働作業ができた。(8割)	授業を行うための必要な知識と指導技術について自分の意見を述べながら意見交換を交わし、協働作業ができた。(7割)	授業を行うための必要な知識と指導技術について自分の意見を述べながら意見交換ができた。	授業を行うための必要な知識と指導技術について自分の意見を述べながら意見交換できなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保健体育科教育法 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	高井 雅一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法 に関する諸事項を講義する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編』	文部科学省	東山書房	2018	9784827815603	
2	『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編 体育編』	文部科学省	東山書房	2019	9784827815689	
3	『新しい保健体育』	戸田芳雄 他	東京書籍	2024	9784487123711	中学校の教科書
4	『現代高等保健体育』	衛藤 隆 他	大修館	2024	9784469663198	高等学校の教科書
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説』	文部科学省	東山書房	2018		
2	『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説』	文部科学省	東山書房	2019		
3	『中学校・高等学校体育科教育法』	白旗和也・岡出美則・今関豊一	建帛社	2022		
4						
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 保健体育科改定の要点について	改訂の要点について簡単に説明できるようにしておく。(90分)	改訂の要点を理解する。(90分)
2	保健体育科の目標と内容について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べる事ができるよう準備する。(90分)
3	中学「体育分野」、高等学校の科目「体育」の目標と内容について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べる事ができるよう準備する。(90分)
4	体育教育の今日的課題について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べる事ができるよう準備する。(90分)
5	指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べる事ができるよう準備する。(90分)
6	中学校の「体育分野」の領域と内容について(1)A-Dの領域について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べる事ができるよう準備する。(90分)
7	中学校の「体育分野」の領域と内容について(2)E-Hの領域について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べる事ができるよう準備する。(90分)
8	高等学校の科目「体育」の領域と内容について(1)A-Dの領域について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べる事ができるよう準備する。(90分)
9	高等学校の科目「体育」の領域と内容について(2)E-Hの領域について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べる事ができるよう準備する。(90分)
10	選択授業・男女共習授業のねらいと進め方について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べる事ができるよう準備する。(90分)
11	効果的な指導を実践するための情報機器の活用及び教材の選び方について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べる事ができるよう準備する。(90分)
12	年間指導計画の作成について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べる事ができるよう準備する。(90分)
13	各種目の単元計画の作成について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べる事ができるよう準備する。(90分)
14	体育授業の指導上の留意点について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べる事ができるよう準備する。(90分)
15	体育授業の評価と方法について 授業改善アンケートの実施	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	講義の内容を総復習する。(90分)
16	定期試験(60分)、終了後、試験の解説(30分)	全講義内容の復習(90分)	本時の学修内容をまとめて提出する。(90分)

授業計画			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会思想史 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ヨーロッパ社会に登場した思想の特徴と歴史的展開に関する基本的な知識を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP 2、DP 8に対応する。(2021年度)

到達目標

ヨーロッパの社会思想に関する基礎的な概念を理解し、説明することができる。  
 ヨーロッパ社会思想の歴史的展開を説明することができる。  
 社会思想の概念を用いて現代社会を考察することができる。

授業全体の内容と概要

社会とはどのようなもので、どうあるべきなのか、私たちは人生のどこかでこの問いに直面するだろう。この授業では、これからの社会を考えていくための思考の基礎体力を養うことを目標に、主にヨーロッパの社会思想家たちの考えを歴史的に学び、思想家たちがどのような歴史的文脈のなかで、なぜ社会のことを考えたのかを振り返ることは、自分自身のあり方を振り返るきっかけとなるはずである。

「SDGs1.貧困をなくそう」、「SDGs10.人や国の不平等をなくそう」、「SDGs16.平和と公正をすべての人に」の関連授業

授業の方法

授業は講義形式で行う。書き込み式のレジュメを配布して補足の説明を行う。  
 書き込む内容は板書またはパワーポイントで示す。  
 教科書を使用しないので講義をしっかりと聴いてメモをとること。  
 毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布配布し、次回授業時にフィードバックを行う。  
 TeamsやFormsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は厳禁、受講マナーを守ること。  
 正当な理由のない20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。  
 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(社会・地歴公民)の選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ヨーロッパの社会思想に関する概念を理解し、説明することができる。	社会思想に関する基礎的な概念を発展的に理解し、説明することができた。	社会思想に関する基礎的な概念を正確に理解し、説明することができた。	社会思想に関する基礎的な概念をある程度理解し、説明することができた。	社会思想に関する基礎的な概念を理解し、説明することができた。	社会思想に関する基礎的な概念を理解し、説明することができなかった。
ヨーロッパ社会思想の歴史的展開を説明することができる。	ヨーロッパ社会思想の歴史的展開を発展的に理解し、説明することができた。	ヨーロッパ社会思想の歴史的展開を正確に理解し、説明することができた。	ヨーロッパ社会思想の歴史的展開をある程度理解し、説明することができた。	ヨーロッパ社会思想の歴史的展開を理解し、説明することができた。	ヨーロッパ社会思想の歴史的展開を理解し、説明することができなかった。
社会思想の概念を用いて現代社会を考察することができる。	社会思想の概念を用いて現代社会を発展的に考察することができた。	社会思想の概念を用いて現代社会を十分に考察することができた。	社会思想の概念を用いて現代社会をある程度考察することができた。	社会思想の概念を用いて現代社会を考察することができた。	社会思想の概念を用いて現代社会を考察することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会思想史 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜紹介する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
2	社会思想史とは何か	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
3	民主主義とは何か	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
4	ソクラテス・プラトン	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
5	アリストテレス・ヘレニズム	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
6	ユダヤ教とキリスト	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
7	キリスト教の発展	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
8	中世ヨーロッパの社会思想	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
9	ルネサンスと宗教改革	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
10	ベーコン・デカルト	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
11	カント	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
12	ホブズ・ロック・ルソー	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
13	アダム・スミス・マルクス	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
14	現代の社会思想	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
16	定期試験 (試験60分+解説30分)	試験の準備 (90分)	試験のふり返り (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	住宅設計演習 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	君 興治(建築学科・特任准教授) 向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館4階	
単位数	1 (単位認定責任者: 君 興治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。				

概要

履修目標

課題として、住宅建築の計画・設計・作図を行う。土地、地域、利用者、建物の規模、をもとに、利用の目的やそれに合わせた動線計画を行う。本科目では、課題に合わせた平面計画をし、それを正しく作図し、プレゼンテーションする手法を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)  
 建築学科のDP3、DP4に対応する。(2023・2022年度)  
 建築学科のDP2、DP3に対応する。(2021年度)

到達目標

住宅建築の主要条件、付帯条件を満たし、建築関係法規に則った計画に、設計者の考え方設計主旨を盛り込み、その内容をわかりやすく表現する建築計画とプレゼンテーションができる。

授業全体の内容と概要

木造・RC壁式構造で住宅の計画とコンセプトを段階的に指導することで、設計者の意図をダイアグラム、パースもしくは模型を使い、伝わるような表現方法を修得する。提出後は、作品の発表会を行い、他の作品から多様な考えと自分の作品を比較し、学ぶ機会を設ける。  
 「SDGs 1 2 つくる責任 つかう責任」  
 「SDGs 1 1 住み続けられるまちづくりを」  
 狭い視野での設計だけでなく町や地域を念頭にいた設計を指導する。

授業の方法

授業では、板書やICT(チームスを使用しながら、図面をオンライン上その場で液晶ペンタブレットで添削し、毎事業ごとに保存することで、授業の課題経過をデジタル的にの残し、振り返りの自習を実現する。)をしなが詳細図をもとに構造の考え方を説明し、双方授業で実施する。また、授業中毎回、進行状況と中間指導を行い添削する。プレゼンテーションに対しては授業内で講評しフィードバックする。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

課題を構築するために、授業には必ず出席し、成果の提示と中間指導を受けなければならない。また、課題の説明等主要な説明は授業の最初に行われるため遅刻は厳禁とする。時間割上の授業時間内だけで図面を完成させることはむずかしいと思われるので、時間外、および自宅での製図が不可欠である。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上。提出課題と受講態度との総合判定

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
住宅建築において、主要条件、付帯条件に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
建築関係法規に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
設計主旨に合った建築計画が出来ていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
初めてこの作品を見た人が理解しやすいプレゼンテーションで表現されていたか。	各種図面が適したデザインであり、正しく表現することができていた。	各種図面のデザインができ、正しく表現することができていた。	各種図面を正しく表現することができていた。	各種図面を表現することができていた。	各種図面を表現することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	住宅設計演習 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	君 興治(建築学科・特任准教授) 向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館4階	
単位数	1 (単位認定責任者: 君 興治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『コンパクト建築設計資料集 第3版』 日本建築学会編	日 村田誠四郎	丸善株式会社	2005	9784621075098	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『矩計図で徹底的に学ぶ住宅設計「RC編」』	中山 繁信	オーム社	2016	9784274218828	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと (90分)	プリントを読んで理解しておくこと(90分)
2	即日課題 1 住宅とは	即日課題 住宅とはについて考えをまとめる (90分)	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
3	即日課題 2 敷地と家の関係	即日課題 敷地と家の関係について考えをまとめる (90分)	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
4	即日課題 3 これからの家族について	即日課題 これからの家族についてについて考えをまとめる (90分)	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
5	即日課題 4 地域と家族	即日課題 地域と家族について考えをまとめる (90分)	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
6	設計課題 住宅計画 木構造・RC造 (課題説明、集合住宅の解説)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
7	設計課題 住宅計画 木構造・RC造 (課題説明、集合住宅の解説)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
8	中間指導 コンセプトと全体計画 (エスキスチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
9	中間指導 全体計画とランドスケープ (エスキスチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
10	中間指導 ランドスケープと平面計画 (エスキスチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
11	中間指導 平面計画と断面構成 (エスキスチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
12	中間指導 平面計画と断面構成 (ダイアグラムについて)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
13	中間指導 模型とプレゼンテーション (模型の造り方 レイアウトチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
14	中間指導 プレゼンテーション (レイアウトチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
15	課題提出・講評会	提出課題の準備をしておくこと(90分)	他の学生の発表内容をまとめる(90分)
16	最終指導 プレゼンテーションの指導 解説し、フィードバック 授業改善アンケートの実施	講評会の内容からさらにどのようにプレゼンするか 考えておくこと(90分)	作品の調整、ポートフォリオに使用できるように プレゼンを行う(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	刑事司法と福祉 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、医療観察法等の基礎となる知識等習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標
今日求められている社会福祉と刑事司法の連携強化を視野に、ソーシャルワーカーに必要とされる刑事司法制度に関する知識・役割について理解を深める。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP1、DP2、DP6、DP7、DP9に対応する。(2021年度)

到達目標
刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを理解する。 刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について理解する。 刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割について理解する。

到達目標
刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを理解する。 刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について理解する。 刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割について理解する。

授業全体の内容と概要
刑事司法の仕組みを学ぶとともに、犯罪をした者や非行のある少年に対する社会のなかでの処遇に関するソーシャルワーカーの関わりを考える。 「SDG1:貧困をなくそう」、「SDG10:人や国の不平等をなくそう」の関連授業

授業の方法
授業形態は講義形式で行う。 テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとすべき箇所は説明、板書を行う。 質問等に関しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。 確認テストを実施し、解答回収後説明を行う。 Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法			
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
教科書は必ず持参すること。 必要な資料等は適宜配布する。 20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程・精神保健福祉士国家試験受験資格過程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	30%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	履修目標を越えて広く刑事司法と福祉に関する知識を理解できた。	社会福祉と刑事司法の連携の必要性を視野にソーシャルワーカーに必要な刑事司法に関する知識を理解できた。	社会福祉と刑事司法の連携の必要性を知ることができた。	刑事司法の意義と仕組みを説明することができた。	刑事司法の意義と仕組みを説明することができなかった。
思考・判断	刑事司法と司法福祉のあり方について考えることができた。	保護観察官、社会復帰調整官の具体的業務について考えることができた。	刑事司法におけるソーシャルワーカーの役割を考えることができた。	刑事司法におけるソーシャルワーカーの役割を考える姿勢を示した。	刑事司法におけるソーシャルワーカーの役割を考える姿勢を示せなかった。
関心・意欲	社会福祉と刑事司法との連携について課題を提示することができた。	刑事司法におけるソーシャルワーカーの役割について意見を述べることができた。	刑事司法度の現状を踏まえたその課題について考える姿勢を示した。	刑事司法の現状について自分の意見を示すことができた。	刑事司法の現状について考える姿勢を示せなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	刑事司法と福祉 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、医療観察法等の基礎となる知識等習得のための指導をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座10 刑事司法と福祉』	一般社団法人、日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集	中央法規出版	2021	978-4-8058-8240-5	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 近年の犯罪の特徴と社会内処遇の重要性・高齢者、軽度の知的障害や発達障害をもつ犯罪者の増加など	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	教科書を読み授業範囲の復習をする(90分)
2	刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く社会環境(1)・近年の動向・社会環境	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	教科書を読み授業範囲の復習をする(90分)
3	刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く社会環境(2)・社会福祉士・精神保健福祉士の役割	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	教科書を読み授業範囲の復習をする(90分)
4	刑事司法・刑法・刑事事件の手続き、処遇	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	教科書を読み授業範囲の復習をする(90分)
5	少年法・少年法・少年事件の手続き、処遇	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	教科書を読み授業範囲の復習をする(90分)
6	更生保護制度(1)・制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	教科書を読み授業範囲の復習をする(90分)
7	更生保護制度(2)・生活環境の調整	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	教科書を読み授業範囲の復習をする(90分)
8	更生保護制度(3)・仮釈放等	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
9	更生保護制度(4)・保護観察	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	教科書を読み授業範囲の復習をする(90分)
10	更生保護制度(5)・更生緊急保護・団体、専門職等の役割と連携	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	教科書を読み授業範囲の復習をする(90分)
11	医療観察制度(1)・制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	教科書を読み授業範囲の復習をする(90分)
12	医療観察制度(2)・審判、処遇の流れと内容・関係機関、専門職等の役割と連携	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	教科書を読み授業範囲の復習をする(90分)
13	犯罪被害者支援(1)・犯罪被害者の法的地位	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	教科書を読み授業範囲の復習をする(90分)
14	犯罪被害者支援(2)・犯罪被害者支援に関する法	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	教科書を読み授業範囲の復習をする(90分)
15	犯罪被害者支援(3)・犯罪被害者支援に関する制度・団体、専門職等の役割と連携	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	教科書を読み授業範囲の復習をする(90分)
16	試験(60分の試験終了後、授業評価アンケートの実施)	全授業を振り返り試験に向けた準備(90分)	試験内容をふまえ授業全体を振り返る(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク演習(専門) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)・ 櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験者が、実践現場における相談業務、介護業務の事例を参考に講義を展開する。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標	ソーシャルワーカーとしての姿勢(自己理解、他者理解、倫理観等)と相談業務の基本的技法(コミュニケーション、面接技法、記録技法、ケースカンファレンス、実践評価)をディスカッション、ロールプレイ、DVD鑑賞等を通して体得する。												
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP1, DP2, DP3, DP4, に対応する(2023年度)												
到達目標	様々な援助技術(スキル)を習得することや技法の統合のための理解を深めることができるようになる。また、次年度の相談援助実習に向けて、積極的な討議参加や自己表現ができる。												
授業全体の内容と概要	個人・家族、グループ、地域社会への支援をイメージし、ロールプレイ等の学習を通じて、面接や記録などの技法の実際を学ぶ。												
授業の方法	3-4つのグループ(1グループ20名以内)に分かれて、テキストの事例を実際にロールプレイしたり、小グループに分かれてディスカッションを行う。その中で教員のスーパービジョンを受け、自己の振り返りをし、自己覚知を促す。また、不測の事態が生じたときは、補講、オンライン等での講義を行う。												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										
履修上の注意事項	この科目の単位を取得できなかった場合、次年度の相談援助実習及び保育実習を履修できないので注意すること。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。												

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目	社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、保育士養成課程、スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数20回以上をクリアすること。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	30%	0%	0%	0%	70%

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワークにおける自己理解、他者理解の重要性を理解する。	自己覚知の概念、自己開示の実践、他者理解における実践理論を言語で説明できた。	自己覚知の概念、他者理解における実践理論を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念、自己開示の実践、他者理解における実践理論を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念を言語で明確に理解できた。	左記の専門用語を一つも説明できなかった。
ソーシャルワークにおける面接技法を理解する。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスと重要タームをマイクロカウンセリング技法の用語を用いて説明できた。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスの重要タームを説明できた。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスを説明できた。	面接における身体技法を実践できた。	左記の専門ターム及び実践技法を一つも説明及び実践できなかった。
ソーシャルワークにおけるアセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について理解する。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について明確に言語で説明できる。且つ各々の矢区割りをロールプレイングで実践できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価における各々の役割をロールプレイングで実践できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、評価、モニタリングの理論と重要性を言語で明確に説明できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価の重要性を説明できた。	左記の用語の説明およびロールプレイング実践を一つもできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク演習(専門) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)・ 櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験者が、実践現場における相談業務、介護業務の事例を参考に講義を展開する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ソーシャルワーク演習ワークブック』	相澤譲治 植戸貴子	(株)みらい	2013年	978-4-86015-123-2	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(グループ分け 自己紹介) シラバスの説明	1年時の関連科目の復習(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
2	演習に向けての準備(自己紹介 アイスブレイキング)	1年時の関連科目の復習(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
3	自己理解1「自己概念を学ぶ」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
4	自己理解2「自身のルーツ 家族関係を知る」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
5	自己開示と他者理解1「自己開示」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
6	自己開示と他者理解2「共感について」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
7	自己開示と他者理解3「価値観の違い」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
8	コミュニケーション1「コミュニケーションの基本」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
9	コミュニケーション2「言語的コミュニケーション」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
10	コミュニケーション3「非言語的コミュニケーション」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
11	ソーシャルワークの価値と倫理1「価値とは何か」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
12	ソーシャルワークの価値と倫理2「倫理とは何か」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
13	面接技法1「面接の意義」	テキストの読み込み(90分)	DVD鑑賞による面接技法ポイントのまとめ(90分)
14	面接技法2「面接の基本」	テキストの読み込み(90分)	DVD鑑賞による面接技法ポイントのまとめ(90分)
15	記録技法1「面接場面での記録」	テキストの読み込み(90分)	記録技法のまとめ(90分)
16	記録技法2「ケース記録」	テキストの読み込み(90分)	記録技法のまとめ(90分)

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	アセスメント1「アセスメントの意義」	テキストの読み込み(90分)	アセスメントのまとめ(90分)
18	アセスメント2「利用者の背景を知る」	テキストの読み込み(90分)	アセスメントのまとめ(90分)
19	アセスメント3「事例によるロールプレイ」	テキストの読み込み(90分)	ロールプレイ中の自己の言動の振り返り(90分)
20	プランニング「アセスメントからの支援計画作成」	テキストの読み込み(90分)	ロールプレイ中の自己の言動の振り返り(90分)
21	ケースカンファレンスの方法	テキストの読み込み(90分)	ケースカンファレンスのポイントのまとめ(90分)
22	模擬ケースカンファレンス	テキストの読み込み(90分)	ケースカンファレンスのポイントのまとめ(90分)
23	評価と効果測定1「利用者の満足度」	テキストの読み込み(90分)	効果測定技法のまとめ(90分)
24	評価と効果測定2「支援内容の評価」	テキストの読み込み(90分)	効果測定技法のまとめ(90分)
25	コミュニティワーク1「地域ニーズの把握」	テキストの読み込み(90分)	地域診断のまとめ(90分)
26	コミュニティワーク2「北広島市の福祉課題明確化」	テキストの読み込み(90分)	地域診断のまとめ(90分)
27	コミュニティワーク3「課題解決への方法」	テキストの読み込み(90分)	地域支援方法のまとめ(90分)
28	コミュニティワーク4「広報誌の作成」	テキストの読み込み(90分)	地域支援方法のまとめ(90分)
29	支援事例を用いたロールプレイング1	テキストの読み込み(90分)	演習を通しての自己覚知について文章化(90分)
30	支援事例を用いたロールプレイング2	テキストの読み込み(90分)	演習を通しての自己覚知について文章化(90分)
31	事例研究へのイントロダクション	テキストの読み込み(90分)	自己総括(90分)
32	相談援助演習 総括	テキストの読み込み(90分)	自己総括(90分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	原価計算論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照 Teamsによるチャットは平日午前9時から午後5時まで対応				

概要

履修目標

製造業を対象として発展した原価計算は、現在サービス業も含めすべての企業を対象としている。伝統的な原価計算を学んだうえで、最新の原価計算の展開を学び、経営の意思決定力を養う。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

企業経営における適正なコスト把握を行う能力を有する。短期的な経営の意思決定能力を有する。

授業全体の内容と概要

テーマの説明を行い、練習問題を解きながら講義を進めていく。また時事問題についても解説を行い、学生から意見を発言してもらう。

授業の方法

毎回プリントを配布し、講義内容の原価計算における位置づけを説明し、本題に入る。毎回の課題について、学生によるプレゼンテーションを実施する。講義の最後にミニテストを毎回実施する。ミニテスト、試験などの解説のフィードバックを実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

正当な理由のない遅刻・途中退席は認めない、電卓を持参すること。ノートをしっかり取ること。毎回講義の最後に小テスト(2点満点×15回=30点)を行う。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
伝統的な原価計算を理解し活用できる	伝統的な原価計算とABC(活動基準原価計算)との相違を指摘できた。	個別原価計算と総合原価計算が適正に行えた。	間接費の配賦を理解し、正しい費用を算出できた。	直接費と間接費、そして原材料費、労務費、経費を正しく計算できた。	直接費と間接費を算定できなかった。
新しい原価計算を理解し活用できる	ABC(活動基準原価計算)を用いて事業変革を提案できた。	ABCを用いて業務改善提案ができた。	ABCを用いて無駄なコストを発見することができた。	ABCを用いたコスト計算ができた。	ABCを用いたコスト計算ができなかった。
原価計算を用いた短期的な経営意思決定能力を有する	埋没原価、ライフサイクルコストおよび失敗原価の概念を駆使して、短期的な経営の意思決定力を有していた。	CVP分析を用いて経営戦略を策定できた。	CVP分析を用いた損益分岐点、利益目標を算出できた。	原価計算を用いた短期的な経営の意思決定のための計算ができた。	原価計算を用いた短期的な経営の意思決定のための計算ができなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	原価計算論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明など)、企業経営と原価計算の目的、授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
2	材料費(先入先出法・移動平均法)・労務費・経費の計算	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
3	個別原価計算	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
4	総合原価計算(先入先出法)	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
5	標準原価計算と原価差異	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
6	伝統的な原価計算とABC(活動基準原価計算)	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
7	ABCの適用事例	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
8	CVP分析の基本(固定費と変動費、損益分岐点)	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
9	CVP分析と利益計画	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
10	意思決定のための原価計算 機会原価の概念、販売先の選別	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
11	意思決定のための原価計算 特別注文受諾の可否、資産売却	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
12	投資の意思決定 キャッシュフロー	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
13	投資の意思決定 資本コスト	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
14	ライフサイクルコスト、バリューチェーン(予防原価失敗原価)、試験の説明	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
15	定期試験および解説(60分の試験終了後、残りの30分で解説)、授業改善アンケートの実施	総復習(90分)	管理会計への取り組み(90分)
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	写真表現 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業でデザイン実務40年間の実績を活かした写真表現講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

表現者になる為に必要な基礎写真技術を習得する。  
頭の中にイメージを形成出来るようにして、そのイメージを第三者へ伝達、表現出来るようにする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)

到達目標

自分のイメージを具体的に効果的に写真を使って表現出来るようにする。

授業全体の内容と概要

学生の脳内にイメージが形成出来るように、写真のアイデアスケッチを行う。  
自分の想像(脳内のイメージ)を完成した作品に自分の意図したポイントや表現を発表して第三者と意見交流をする。  
SDG 12., つくる責任、つかう責任に準じる。

授業の方法

写真機の構造や成り立ちを理解しつつ、自分のイメージが的確に表現出来るように切磋琢磨する。  
写真をプレゼンテーションして第三者の意見を考察する。課題に対するフィードバックを得る。  
カメラ機材、ストロボ機材は少数だが用意する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようにすること。  
個人用のSDメモリーカードを用意の事。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上  
課題提出は全点必ず。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イメージを頭の中に形成出来て、それを写真で表現する事を学ぶ。	イメージを頭の中に完璧に描くことができる。それを写真として完璧に表現できる。	イメージを頭の中に描くことができる。それを写真として完璧に表現できる。	イメージを頭の中に描くことができる。それを写真として表現できる。	イメージを頭の中に辛うじて描くことができる。それを写真として表現できる。	イメージを頭の中に辛うじて描くことができる。それを写真として辛うじて表現できる。
写真の原理、器材の使い方を学ぶ。	自分のイメージしたモノを効果的に完璧に表す為の機材を使用できる。写真を通して表現を完璧に出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を良く使用できる。写真を通して表現が良く出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を使用できる。写真を通して表現が出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を辛うじて使用できる。写真を通して表現が出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を辛うじて使用できる。写真を通して表現が辛うじて出来る。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	写真表現 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業でデザイン実務40年間の実績を活かした写真表現講義です。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、写真とは？ 写真の歴史	シラバスを読んでおく。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
2	写真機材の特性、使い方	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
3	レンズの特性、シャッタースピードの特性、絞りの特性、撮像素子の特性	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
4	自分の取りたい写真イメージを作成、コンテ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
5	作品を撮影	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
6	撮影	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
7	撮影	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
8	作品をプレゼンテーション、評価	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
9	次作品撮影	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
10	作品撮影	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
11	作品撮影	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
12	作品中間審査1	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
13	作品中間審査2	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
14	最終作品撮影	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
15	最終作品撮影	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
16	最終作品プレゼンテーション 総評 授業改善アンケート	要求された課題を作成する。(90分)	全授業を俯瞰して、今後の行動計画を建てる。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	<b>カウンセリング論</b> (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	蝦名 美穂(社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2	(単位認定責任者: 蝦名 美穂)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、教育領域、福祉領域、司法・矯正領域、産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後に調整をし、研究室で対応。				

概要

<b>履修目標</b> 「カウンセリング」とは何についてを基礎理論、技法などを中心に解説を行う。その上で、ロールプレイを通して日常行われている「友人同士の相談」と「カウンセリング」の違いについて体験し、理解を深めていく。この授業を通して、各個人が自己理解を深めるきっかけとなることを期待する。
---

<b>授業の位置づけ</b> 社会福祉学部のDP 1, DP 2, DP 5, DP 7, DP 9に対応する科目(2021年度)。
---

<b>到達目標</b> カウンセリングのなりたち、基礎理論、技法について理解する。通して、人の話を聴くことの難しさについて体験する。 <span style="float: right;">ロールプレイを</span>
--

<b>授業全体の内容と概要</b> カウンセリングとは何かについて、これまでの歴史、基本的な原理や理論、技法について解説する。講義の後半では、ロールプレイを通して学びを深める。「SDG.質の高い教育をみんなに」の関連科目。
--

<b>授業の方法</b> 授業では、教科書や配布資料等を使いながら、カウンセリングの技法を学んでいく(グループワーク、ロールプレイ、ディスカッション含む)。授業の終わりに質問や感想(リアクションシート)をTeamsの課題から提出する。質問は随時受け付ける。
---

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

<b>履修上の注意事項</b> 授業の進行を妨害するような行為、他の受講者の迷惑となる行為を慎む。座席を指定します。ロールプレイに積極的に参加することを望みます。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合があります。テキストを必ず購入してください。
---

<b>修学サポート(合理的配慮)</b> 事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
---

<b>資格指定科目</b>
---------------

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b> 単位認定に必要な最低出席回数は11回とします。レポート、授業態度等、授業の終わりに提出する感想等(リアクションシート)を評価の対象とする。												
<b>評価方法</b>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	50%	0%	0%	50%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	50%	0%	0%	50%	0%							

<b>ルーブリック</b>					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	授業で学んだ内容を理解し、カウンセリングの応答技法をスムーズに使うことができた。	授業で学んだ内容を理解し、カウンセリングの応答技法を概ね使うことができた。	授業で学んだ内容を理解し、カウンセリングの応答技法を一定程度使うことができた。	授業で学んだ内容を理解し、カウンセリングの応答技法を部分的に使うことができた。	授業で学んだ内容を理解し、カウンセリングの応答技法を部分的にも使うことができなかった。
知識の応用・実践	カウンセリングの基本を踏まえて、やり取りの中で起きていることについて気づき、言葉にすることができた。	カウンセリングの基本を踏まえて、やり取りの中で起きていることの意味について気がつくことができた。	カウンセリングの基本を踏まえて、やり取りの中で起きていることに気がつくことができた。	カウンセリングの基本を踏まえて、やり取りの中で起きていることに部分的に気がつくことができた。	カウンセリングの基本を踏まえて、やり取りの中で起きていることに全く気がつくことができなかった。
授業に主体的に取り組む態度(リアクションシート含む)	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想だけでなく、疑問点を明確にすることができ、自分なりの考えを述べられた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想を述べ、疑問点を明確にすることができた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想を述べられた。	授業内容を振り返り感想を述べられた。	左記の内容が何一つすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	加セラリク論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	蝦名 美穂(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 蝦名 美穂)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、教育領域、福祉領域、司法・矯正領域、産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『やさしく学ぶカウンセリング26のレッスン』	長尾 博	金子書房	2008	978-4-7608-3609-3	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『新・カウンセリングの話』	平木典子	朝日新聞出版	2020	978-4-02-263099-5	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明 カウンセリングとは?カウ	カウンセリングについて調べる(90分)	授業で学ぶ内容について振り返る(90分)
2	カウンセリングの諸理論	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
3	カウンセリングの諸理論	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
4	カウンセリングを始める前に、セッティング、守秘義務など	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
5	カウンセリングの中での話を「きく」とは?	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
6	カウンセリングの中での「話す」とは?	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
7	信頼関係(ラポール)形成について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
8	応答技法について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
9	ロールプレイ 共感	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
10	ロールプレイ 開かれた質問、閉ざされた質問	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
11	ロールプレイ 繰り返し、明確化	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
12	ロールプレイ 直面化	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
13	ロールプレイ 支持	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
14	ロールプレイ お互いの話を聴いてみよう	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
15	エンカウンターグループを体験する	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
16	カウンセリングの限界について。これまでの振り返り。レポート作成についての説明。質疑応答。授業改善アンケートの実施。	レポート作成についての準備・疑問点の整理(90分)	レポート作成(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉サービスの組織と経 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	独立型社会福祉士事務所を営んでいる教員が準市場における、社会福祉士のビジネスモデルを提示していきます。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標
福祉サービスでは組織論や経営論が必要になっている背景を理解する。将来、社会福祉領域で活躍する時に必要な知識であるため、組織論、リーダーシップ、経営論などを理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP1、DP3、DP4、DP8に対応する。(2021年度)

到達目標
リーダーシップ論、組織論、経営論など説明できる。福祉組織の課題を具体的に述べることができる。

授業全体の内容と概要
福祉サービスに係る種々の組織や団体について理解し、組織のマネジメントに関する基礎理論、多様な知識にもとづくマネジメント論の観点から経営戦略のあり方「SDGs 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
授業では教科書と板書を活用しながら知識を獲得していきます(プレゼンテーション・グループワーク・ディスカッション含む)。また、確認テストを時間内に実施し、フィードバックとして回収後、回答の解説を行う。ICT活用(双方向型授業・自主学習支援など、Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う)。

アクティブラーニングの実施方法							
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上の出席が必要。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	50%	0%	0%	30%	20%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
50%	0%	0%	30%	20%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業に参加し、教科書や板書、確認テストを受けている。</td> <td>15回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。</td> <td>14回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。</td> <td>13回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。</td> <td>12~10回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。</td> <td>9回以下しか授業しておらず、消極的な学習しかできなかった。</td> </tr> <tr> <td>確認テストの内容を理解し、定期試験の成績が60点以上である。</td> <td>確認テストを受けて、定期試験の成績が100~90点獲得できた。</td> <td>確認テストを受けて、定期試験の成績が89~80点以上獲得できた。</td> <td>確認テストを受けて、定期試験の成績が79~70点以上獲得できた。</td> <td>確認テストを受けて、定期試験の成績が69~60点以上獲得できた。</td> <td>確認テストをある程度受け、定期試験の成績が59点以下しか取れなかった。</td> </tr> <tr> <td>教科書、資料の内容を理解するため事前学習を行い、授業内で質問や自分の意見をプレゼンテーションする。</td> <td>事前学習を行い、授業中に5回以上質問や意見を述べることができた。</td> <td>事前学習を行い、授業中に4回質問や意見を述べることができた。</td> <td>事前学習を行い、授業中に3回質問や意見を述べることができた。</td> <td>事前学習を行い、授業中に2回質問や意見を述べることができた。</td> <td>事前学習や質問、意見などを答えることが出来なかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	授業に参加し、教科書や板書、確認テストを受けている。	15回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	14回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	13回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	12~10回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	9回以下しか授業しておらず、消極的な学習しかできなかった。	確認テストの内容を理解し、定期試験の成績が60点以上である。	確認テストを受けて、定期試験の成績が100~90点獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が89~80点以上獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が79~70点以上獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が69~60点以上獲得できた。	確認テストをある程度受け、定期試験の成績が59点以下しか取れなかった。	教科書、資料の内容を理解するため事前学習を行い、授業内で質問や自分の意見をプレゼンテーションする。	事前学習を行い、授業中に5回以上質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に4回質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に3回質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に2回質問や意見を述べることができた。	事前学習や質問、意見などを答えることが出来なかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
授業に参加し、教科書や板書、確認テストを受けている。	15回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	14回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	13回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	12~10回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	9回以下しか授業しておらず、消極的な学習しかできなかった。																								
確認テストの内容を理解し、定期試験の成績が60点以上である。	確認テストを受けて、定期試験の成績が100~90点獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が89~80点以上獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が79~70点以上獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が69~60点以上獲得できた。	確認テストをある程度受け、定期試験の成績が59点以下しか取れなかった。																								
教科書、資料の内容を理解するため事前学習を行い、授業内で質問や自分の意見をプレゼンテーションする。	事前学習を行い、授業中に5回以上質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に4回質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に3回質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に2回質問や意見を述べることができた。	事前学習や質問、意見などを答えることが出来なかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉サービスの組織と経営 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	独立型社会福祉士事務所を運営している教員が準市場における、社会福祉士のビジネスモデルを提示していきます。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『福祉サービスの組織と経営』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟・編集	中央法規	2021年	978-4-8058-8244-	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、福祉サービスにおけるマネジメント。授業改善アンケート結果反映の説明	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
2	福祉サービスに係る組織・団体(1) 法人とは	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
3	福祉サービスに係る組織・団体(2) 社会福祉法人	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
4	福祉サービスに係る組織・団体(3) 医療法人	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
5	福祉サービスに係る組織・団体(4) NPO法人その他	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
6	組織のマネジメントに関連する基礎理論(1) マネジメントの本質	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
7	組織のマネジメントに関連する基礎理論(2) 組織のあり方	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
8	組織のマネジメントに関連する基礎理論(3) 意思決定論	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
9	組織のマネジメントに関連する基礎理論(4) リーダーシップ論	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
10	経営戦略の構築(1) サービスマネジメント	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
11	経営戦略の構築(2) リスクマネジメント	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
12	経営戦略の構築(3) ヒューマンリソースマネジメント【人材採用】	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
13	経営戦略の構築(4) ヒューマンリソースマネジメント【能力開発】	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
14	経営戦略の構築(5) ヒューマンリソースマネジメント【評価処遇】	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
15	経営戦略の構築(6) 会計・財務マネジメント【会計基準】	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
16	テスト及び試験問題の解説。授業改善アンケートの実施。	確認テストの学習(90分)	テストの復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉サービスの組織と経 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	独立型社会福祉士事務所を営んでいる教員が準市場における、社会福祉士のビジネスモデルを提示していきます。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標
福祉サービスでは組織論や経営論が必要になっている背景を理解する。将来、社会福祉領域で活躍する時に必要な知識であるため、組織論、リーダーシップ、経営論などを理解する。

授業の位置づけ
経営学科のDP1、DP3、DP4、DP8に対応する。(2021年度)

到達目標
リーダーシップ論、組織論、経営論など説明できる。福祉組織の課題を具体的に述べることができる。

授業全体の内容と概要
福祉サービスに係る種々の組織や団体について理解し、組織のマネジメントに関する基礎理論、多様な知識にもとづくマネジメント論の観点から経営戦略のあり方「SDGs 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
授業では教科書と板書を活用しながら知識を獲得していきます(プレゼンテーション・グループワーク・ディスカッション含む)。また、確認テストを時間内に実施し、フィードバックとして回収後、回答の解説を行う。ICT活用(双方向型授業・自主学習支援など、Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL		模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上の出席が必要。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	50%	0%	0%	30%	20%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
50%	0%	0%	30%	20%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業に参加し、教科書や板書、確認テストを受けている。</td> <td>15回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。</td> <td>14回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。</td> <td>13回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。</td> <td>12~10回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。</td> <td>9回以下しか授業に参加せず、消極的な学習しかできなかった。</td> </tr> <tr> <td>確認テストの内容を理解し、定期試験の成績が60点以上である。</td> <td>確認テストを受けて、定期試験の成績が100~90点獲得できた。</td> <td>確認テストを受けて、定期試験の成績が89~80点以上獲得できた。</td> <td>確認テストを受けて、定期試験の成績が79~70点以上獲得できた。</td> <td>確認テストを受けて、定期試験の成績が69~60点以上獲得できた。</td> <td>確認テストをある程度受け、定期試験の成績が59点以下しか取れなかった。</td> </tr> <tr> <td>教科書、資料の内容を理解するため事前学習を行い、授業内で質問や自分の意見をプレゼンテーションする。</td> <td>事前学習を行い、授業中に5回以上質問や意見を述べることができた。</td> <td>事前学習を行い、授業中に4回質問や意見を述べることができた。</td> <td>事前学習を行い、授業中に3回質問や意見を述べることができた。</td> <td>事前学習を行い、授業中に2回質問や意見を述べることができた。</td> <td>事前学習や質問、意見などを答えることが出来なかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	授業に参加し、教科書や板書、確認テストを受けている。	15回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	14回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	13回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	12~10回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	9回以下しか授業に参加せず、消極的な学習しかできなかった。	確認テストの内容を理解し、定期試験の成績が60点以上である。	確認テストを受けて、定期試験の成績が100~90点獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が89~80点以上獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が79~70点以上獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が69~60点以上獲得できた。	確認テストをある程度受け、定期試験の成績が59点以下しか取れなかった。	教科書、資料の内容を理解するため事前学習を行い、授業内で質問や自分の意見をプレゼンテーションする。	事前学習を行い、授業中に5回以上質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に4回質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に3回質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に2回質問や意見を述べることができた。	事前学習や質問、意見などを答えることが出来なかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
授業に参加し、教科書や板書、確認テストを受けている。	15回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	14回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	13回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	12~10回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	9回以下しか授業に参加せず、消極的な学習しかできなかった。																								
確認テストの内容を理解し、定期試験の成績が60点以上である。	確認テストを受けて、定期試験の成績が100~90点獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が89~80点以上獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が79~70点以上獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が69~60点以上獲得できた。	確認テストをある程度受け、定期試験の成績が59点以下しか取れなかった。																								
教科書、資料の内容を理解するため事前学習を行い、授業内で質問や自分の意見をプレゼンテーションする。	事前学習を行い、授業中に5回以上質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に4回質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に3回質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に2回質問や意見を述べることができた。	事前学習や質問、意見などを答えることが出来なかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉サービスの組織と経営 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	独立型社会福祉士事務所を運営している教員が準市場における、社会福祉士のビジネスモデルを提示していきます。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『福祉サービスの組織と経営』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟・編集	中央法規	2021年	978-4-8058-8244-	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、福祉サービスにおけるマネジメント。授業改善アンケート結果反映の説明	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
2	福祉サービスに係る組織・団体(1) 法人とは	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
3	福祉サービスに係る組織・団体(2) 社会福祉法人	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
4	福祉サービスに係る組織・団体(3) 医療法人	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
5	福祉サービスに係る組織・団体(4) NPO法人その他	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
6	組織のマネジメントに関連する基礎理論(1) マネジメントの本質	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
7	組織のマネジメントに関連する基礎理論(2) 組織のあり方	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
8	組織のマネジメントに関連する基礎理論(3) 意思決定論	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
9	組織のマネジメントに関連する基礎理論(4) リーダーシップ論	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
10	経営戦略の構築(1) サービスマネジメント	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
11	経営戦略の構築(2) リスクマネジメント	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
12	経営戦略の構築(3) ヒューマンリソースマネジメント【人材採用】	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
13	経営戦略の構築(4) ヒューマンリソースマネジメント【能力開発】	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
14	経営戦略の構築(5) ヒューマンリソースマネジメント【評価処遇】	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
15	経営戦略の構築(6) 会計・財務マネジメント【会計基準】	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
16	テスト及び試験問題の解説。授業改善アンケートの実施。	確認テストの学習(90分)	テストの復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	臨床心理学 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	蝦名 美穂(社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2	(単位認定責任者: 蝦名 美穂)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、教育領域、福祉領域、司法・矯正領域、産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前に連絡後に調整し、研究室にて対応。				

概要

履修目標
対人援助に必要な臨床心理学の知識を習得する。臨床心理学の発想を自分の日常の生活に結びつけて考えることができる。

授業の位置づけ
社会福祉学部DP2, DP4, DP5に対応する科目(2022年度)

到達目標
臨床心理学の成り立ちについて概説できる。 乳幼児から青年期・成人期にかけての心身の問題について理解できる。 心理臨床の諸理論の特徴や方法を理解し、臨床実践の基礎を理解できる。

到達目標
臨床心理学の成り立ちについて概説できる。 乳幼児から青年期・成人期にかけての心身の問題について理解できる。 心理臨床の諸理論の特徴や方法を理解し、臨床実践の基礎を理解できる。

授業全体の内容と概要
臨床心理学の成り立ち、臨床心理学の代表的な基礎理論とアプローチの方法について解説する。また、臨床心理学実践を各領域事に紹介する。他の科目との重複があるかもしれないが、身近な問題の具体例を挙げ、理解を深められるよう解説する。 「SDG.3すべての人に健康と福祉を」、「SDG.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
授業では、テキスト、パワーポイント、配布資料等を適宜活用した講義形式で行う。 内容によってはグループワークをすることがある。 授業の終わりに質問や感想(リアクションシート)をteamsの課題から提出する。質問は随時受け付ける。

アクティブラーニングの実施方法			
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
授業の進行を妨害するような行為、他の受講者の迷惑となる行為を慎む。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。 テキストを必ず購入すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
---

資格指定科目
--------

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要な最低出席回数は11回とする。 授業の終わりに提出する感想(リアクションシート)等も評価の対象とする。

評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	授業で扱った内容について理解し、臨床心理学に関する用語の説明を資料等を見ずに説明することができた。	授業で扱った内容について理解し、臨床心理学に関する用語の説明を資料等を見ずに説明することができた。	授業で扱った臨床心理学に関する用語の説明を資料等の中から採ることができるようにノートや資料がまとめられた。	授業で扱った臨床心理学の用語について、ノートにまとめることができた。	授業で扱った内容について、ノートにまとめることができなかった。
知識の応用	臨床心理学の知識を活用して、人の心のあり方について考え、そのメカニズムについて、資料も見ずに説明することができた。	臨床心理学の知識を活用して、人の心のあり方について考え、そのメカニズムについて、資料も見ながら説明することができた。	臨床心理学の知識を活用して、人の心のあり方について考えることができた。	臨床心理学の知識を活用して、人の心のあり方について多少考えることができた。	左記の内容が何一つすることができなかった。
授業に主体的に取り組む態度(リアクションシート含む)	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想だけでなく、疑問点を明確にすることができ、自分なりの考えを述べられた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想を述べ、疑問点を明確にすることができた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返り感想を述べられた。	授業内容を振り返り感想を述べられた。	左記の内容が何一つすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	臨床心理学 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	蝦名 美穂(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 蝦名 美穂)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、教育領域、福祉領域、司法・矯正領域、産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『完全カラー図解よくわかる臨床心理学』	岩壁 茂	ナツメ社	2020	978-4-8163-6854-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『よくわかる心理臨床』	皆藤章	ミネルヴァ書房	2007	9784623048557	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明 臨床心理学とはどのような学問なのだろうか？	臨床心理学について調べる(90分)	授業で学ぶ内容について振り返る(90分)
2	不適応をどのように捉えるか？	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
3	主な理論と歴史	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
4	臨床心理学の活用	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
5	心理学的支援の流れ：面接の流れ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
6	心理検査：パーソナリティ検査、知能検査	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
7	心理検査：発達認知機能の検査、精神疾患の診断基準	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
8	代表的な心理療法：精神分析的アプローチ、認知行動的アプローチ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
9	代表的な心理療法：ヒューマニスティックアプローチ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
10	代表的な心理療法：心理療法の新たな流れ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
11	主な心理的障害について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
12	主な心理的障害について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
13	主な心理的障害について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
14	各領域での活動	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
15	職業倫理と職業的成長	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
16	レポート作成についての説明。質疑応答。授業改善アンケートの実施。	レポート作成についての準備・疑問点の整理(90分)	レポート作成(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築法規 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
日本の都市は遥か昔より火災との戦いであった。古の為政者達は皆この問題に頭を痛めていたが、これは今も同様で、都市防災は地震対策とともに建築行政でも重要な課題であることを認識する。ここでは建築関係法令のうち建築基準法・建築基準法施行令を中心に構造・避難・防災に関する関係法令を計算例を交えて学び理解する。

授業の位置づけ
建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度) 建築学科のDP1、DP3に対応する。(2023・2022年度) 建築学科のDP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標
建築基準法に定める性能評価基準の持つ意味・定義を理解でき、都市防災に密接な係わりを持つ構造・計算・防火・避難などに関する条文を理解できる。

授業全体の内容と概要
建築基準法を理解する上で重要な条文について図解を交えてわかりやすく解説する。更に主要な制度規定について、条文の成立から実例まで併せて解説すると共に条文の理解を深めるための演習を行う。 「SDG11、住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法
授業は条文の重要項目のチェックと線引きを行い、板書と配布資料により進めていく。随所に出現する法令独特の語彙の解釈や考え方にも触れて、きめ細やかに進めていく。また、理解度を測るため、単元ごとに課題提示・小テストを行い、解説も行う。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
法令集と赤ペン・青ペンを必ず持参のこと。また、本講義にあたっては電卓や携帯電話、スマートフォンなどの計算機能を使った計算を禁止する。必ず筆算のこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>80%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	80%	0%	0%	0%	0%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
80%	0%	0%	0%	0%	20%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>建築物の防災規定に関する理解</td> <td>基準法に規定された建築物の防災に関する規定を正確に理解することができた。</td> <td>基準法に規定された建築物の防災に関する規定を8割方正確に理解することができた。</td> <td>基準法に規定された建築物の防災に関する規定を6割方正確に理解することができた。</td> <td>基準法に規定された建築物の防災に関する規定を理解することができた。</td> <td>基準法に規定された建築物の防災に関する規定を理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>建築物の避難規定に関する理解</td> <td>基準法に規定された建築物の避難に関する規定を正確に理解することができた。</td> <td>基準法に規定された建築物の避難に関する規定を8割方正確に理解することができた。</td> <td>基準法に規定された建築物の避難に関する規定を6割方正確に理解することができた。</td> <td>基準法に規定された建築物の避難に関する規定を理解することができた。</td> <td>基準法に規定された建築物の避難に関する規定を理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>その他の建築関連法規の理解</td> <td>その他の建築関連法規に関する規定を正確に理解できた。</td> <td>その他の建築関連法規に関する規定を8割方正確に理解できた。</td> <td>その他の建築関連法規に関する規定を6割方正確に理解できた。</td> <td>その他の建築関連法規に関する規定を理解できた。</td> <td>その他の建築関連法規に関する規定を理解できなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	建築物の防災規定に関する理解	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を8割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を6割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を理解することができなかった。	建築物の避難規定に関する理解	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を8割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を6割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を理解することができなかった。	その他の建築関連法規の理解	その他の建築関連法規に関する規定を正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を8割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を6割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
建築物の防災規定に関する理解	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を8割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を6割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を理解することができなかった。																								
建築物の避難規定に関する理解	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を8割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を6割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を理解することができなかった。																								
その他の建築関連法規の理解	その他の建築関連法規に関する規定を正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を8割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を6割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築法規 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎 (建築学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『基準法関係法令集 2023年版』	建築資料研究社	建築資料研究社	2023		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明。建築設備等1 授業改善アンケート結果反映の説明	建築法規 の振返り(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
2	建築設備等2	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
3	構造強度	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
4	構造計算1	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
5	構造計算2	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
6	構造設計	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
7	防火区画・防火構造1	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
8	防火区画・防火構造2	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
9	防火区画・防火構造3	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
10	避難施設等1	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
11	避難施設等2	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
12	内装制限1	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
13	内装制限2	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
14	雑則・その他1	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
15	雑則・その他2 授業改善アンケートの実施	事前提示の条文熟読(90分)	本講義の振返り(90分)
16	理解度診断試験(60分)・試験解説(30分)	事前提示の条文熟読(90分)	試験の振返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	浩而魅論(デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 浩而魅論)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家(パレオアーティスト)、野生動物画家(ワイルドライフアーティスト)、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、その経験を活かして条件のある「仕事」の中での個人的な表現について実習を通して指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室などで対応。				

概要

履修目標	学生が、イラストレーションを仕事にしていく上で必要とされる基本的技術や社会人としての素養を身に付けることを目的とする。
授業の位置づけ	デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。(2024年度)

到達目標	学生が、自分の個性に気付きそれをイラストレーションで表現するための基本となる技術を身に付ける事ができる。 学生が、仕事をしていく上での社会人としての最低限の素養を身に付けることができる。 学生が、依頼者の希望に沿うイラストレーションを制作するためには何をすればいいかを考えることが出来る。
------	--

授業全体の内容と概要	学生が、イラストレーションを理解し己の個性をイラストレーションで表現しつつ、依頼者の希望を理解し応えることが出来るようになるための基本を身に付けられるよう、教師は経験を生かし実践的な教授を行う。
------------	---

授業の方法	授業は、各課題の説明の後、実技制作にあたる。板書や実際の作品を用いた講義形式の一斉授業と、こまめな机間巡視による個々の学生への個別の指導とを組み合わせで行う。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																

履修上の注意事項	指定した用具、用品、各自が必要に応じて用意する材料、道具などは毎回必ず持ってくること。 課題の締め切りを遵守すること。 実際の仕事の納期を意識すること。 家庭学習(持参して見せてください)は評価の対象となる。 授業は第一回目からの積み重ね型の形態で行われるので欠かさず出席する事が大前提。 受講人数や前年度などによりシラバスの内容の順番を組み替えたり、削ったりすることもある。 (その都度説明しますのでご理解ください。) 不測の事態の際にオンライン授業を実施する可能性がある。
----------	---

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
---------------	---

資格指定科目	
--------	--

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は2/2回以上。												
評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	70%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
0%	0%	70%	0%	30%	0%								

ルーブリック	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自己表現と技術</td> <td>基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作を十分確に行えた。</td> <td>基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作を的確に行えた。</td> <td>基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作をほぼ確に行えた。</td> <td>基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作がある程度確に行えた。</td> <td>基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作を十分確に行うことができなかった。</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度・絵に携わる社会人としての素養</td> <td>イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事が十分できた。</td> <td>イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事ができた。</td> <td>イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事がほぼできた。</td> <td>イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事が一定程度できた。</td> <td>イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>依頼作品(課題)</td> <td>依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を十分確に行なえた。</td> <td>依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を的確に行なえた。</td> <td>依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作をほぼ確に行なえた。</td> <td>依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作がある程度確に行なえた。</td> <td>依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を的確に行う事ができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>					評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	自己表現と技術	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作を十分確に行えた。	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作を的確に行えた。	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作をほぼ確に行えた。	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作がある程度確に行えた。	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作を十分確に行うことができなかった。	関心・意欲・態度・絵に携わる社会人としての素養	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事が十分できた。	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事ができた。	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事がほぼできた。	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事が一定程度できた。	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事ができなかった。	依頼作品(課題)	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を十分確に行なえた。	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を的確に行なえた。	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作をほぼ確に行なえた。	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作がある程度確に行なえた。	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を的確に行う事ができなかった。
評価項目	評価基準																																	
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																													
自己表現と技術	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作を十分確に行えた。	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作を的確に行えた。	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作をほぼ確に行えた。	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作がある程度確に行えた。	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作を十分確に行うことができなかった。																													
関心・意欲・態度・絵に携わる社会人としての素養	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事が十分できた。	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事ができた。	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事がほぼできた。	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事が一定程度できた。	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事ができなかった。																													
依頼作品(課題)	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を十分確に行なえた。	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を的確に行なえた。	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作をほぼ確に行なえた。	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作がある程度確に行なえた。	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を的確に行う事ができなかった。																													



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	浩而魅諭(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 浩而魅諭)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家(パレオアーティスト)、野生動物画家(ワイルドライフアーティスト)、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、その経験を活かして条件のある「仕事」の中での個人的な表現について実習を通して指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 オリエンテーション 授業概要について。	シラバスを読んでおくこと。(45分)	概要について見直す。(45分)
2	自分を見つめる 課題1自己紹介カード 制作	概要について見直す。(45分)	イラストレーションについて考えておくこと。(45分)
3	講評会	自分の作品を見つめ直す(45分)	他人の作品の良さを考える(45分)
4	講評会	自分の作品を見つめ直す(45分)	他人の作品の良さを考える(45分)
5	イラストレーションの大前提 物を見る力をつける 課題2デッサン よく見てものの形を理解しよう	指定したモチーフを用意する(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
6	課題2デッサン 360度色々な角度から見よう	指定したモチーフを用意する(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
7	課題2デッサン 触ってみよう・触感を描き表そう	指定したモチーフを用意する(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
8	課題2デッサン 内部構造を理解しよう	指定したモチーフを用意する(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
9	講評会 自分の表現を理解する 他人の表現の良いところをに気付き吸収する	自分の作品を見つめ直す(45分)	他人の作品の良さを考える(45分)
10	講評会 自分の表現を理解する 他人の表現の良いところをに気付き吸収する	自分の作品を見つめ直す(45分)	他人の作品の良さを考える(45分)
11	線画の基礎 点描、ハッチング、タッチなど	中学校の教科書を読み直す。(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
12	線画の基礎 点描、ハッチング、タッチなど	各自資料を用意。(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
13	課題3線画 課題2を通して物の形を深く理解できたモチーフを用い線画で表現してみよう	各自資料を用意。(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
14	課題3線画 線画の基礎で学んだ中から自分らしさを表現できる技法を用い制作しよう	各自資料を用意。(45分)	授業内容を復習する。(45分)
15	講評会	自分の作品を見つめ直す(45分)	他人の作品の良さを考える(45分)
16	講評会	自分の作品を見つめ直す(45分)	他人の作品の良さを考える(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	線の整理 課題2の作品を基に線の整理をしよう	課題2の作品を見つめ直しておく(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
18	線の整理 課題2の作品を基に簡潔な線でそのものの本質を捉えられるようなエスキースを幾パターンも描いてい	課題2の作品を見つめ直しておく(45分)	自宅でも課題を進める(45分)
19	線の整理・色の基本 前回の幾パターンの中から一つを選出し、配色計画を立てる	中学校や高校の美術の教科書や資料集を目をとしておく(45分)	中学校や高校の美術の教科書や資料集を目をとしておく(45分)
20	色の基本 着彩の基本を学ぼう	中学校や高校の美術の教科書や資料集を目をとしておく(45分)	中学校や高校の美術の教科書や資料集を目をとしておく(45分)
21	課題4制作 すでに授業で線を整理し、配色計画を立ててある作品に着彩しよう	中学校や高校の美術の教科書や資料集を目をとしておく(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
22	課題4制作 制作していた作品を仕上げよう	中学校や高校の美術の教科書や資料集を目をとしておく(45分)	授業内容を復習する。(45分)
23	課題5イラストレーションの依頼を受ける 社会人としての基礎知識、素養 今までの授業で学んだことを生かし自分らしい作品	今までの授業を振り返る(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
24	課題5イラストレーションの依頼を受ける 引き続き制作	今までの授業を振り返る(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
25	課題5イラストレーションの依頼を受ける 引き続き制作	今までの授業を振り返る(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
26	課題5イラストレーションの依頼を受ける 引き続き制作	今までの授業を振り返る(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
27	課題5イラストレーションの依頼を受ける 引き続き制作	今までの授業を振り返る(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
28	課題5イラストレーションの依頼を受ける 引き続き制作 完成	今までの授業を振り返る(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
29	講評会	自分の作品を見つめ直す(45分)	他人の作品の良さを考える分(45分)
30	講評会	自分の作品を見つめ直す(45分)	他人の作品の良さを考える(45分)
31	講評会	自分の作品を見つめ直す(45分)	他人の作品の良さを考える(45分)
32	授業改善アンケートの実施	授業で学んだことを以後の制作にどう反映させていくか考える(45分)	授業で学んだことを以後の制作にどう反映させていくか考える(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築の職能と倫理 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	君 興治(建築学科・特任准教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 君 興治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計業務・施工業務の実験あり。建築業務における人間性と判断力、責任について、実務経験から講義をする。		
オフィスアワー	月曜日、火曜日、金曜日 teamsで、事前に予約すること。				

概要

履修目標

ケーススタディや、グループディスカッションを通して、建築業に携わる者としてや、建築士としての人格や考え方、社会的な役割と重要性、責任性を養い、職業倫理の大切さや判断力を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)  
 建築学科のDP3、DP4に対応する。(2023・2022年度)  
 建築学科のDP2、DP3に対応する。(2021年度)

到達目標

建築士、建築技術者、建築施工者として社会的役割を担うにあたり、責任や倫理において必要とされる、人間性や考え方、判断力の重要性を習得する。

授業全体の内容と概要

建築は、電能的に幅広い分野が含まれるため、社会と広く深く関わりを持った分野である。そのため、施主・建築士・建設技術者・販売業者などいろいろな立場それぞれ責任や考え方がある。  
 「SDGs12 つくる責任 つかう責任」  
 その倫理は何かを学び、自覚できるよう、教科書と内容に沿った事例を用いて学習する。

授業の方法

実際の事例を基にケーススタディをグループディスカッションで行い、またそれをプレゼンテーションして発表を行い、グループ同士で意見交換することである。欠席者の理由によっては、または不測の事態にはオンライン授業を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

学生の状態をみて、学生に寄り添ったを指導に改善しながら行う。欠席者・遅刻者に対しては、その旨、理由を連絡すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則的に毎回の出席を重要視し、必要な課題の提出も判断基準とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	60%	0%	0%	40%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
技術者が遭遇する事例の検証をおこなうことから、将来建築技術者として同様な場面に遭遇した際に求められる倫理的な判断力となる基礎的知識を修得する。	事例検証から、最善の判断力を倫理的視点から判断する力を修得することができた。	事例検証から、より良い判断を倫理的視点から判断する力を修得することができた。	事例検証から、倫理的視点から判断する力を修得することができた。	事例検証から、倫理的視点にほぼ近い判断する力を修得することができた。	倫理的視点から判断する力を修得することができなかった。
人間としてのモラルを醸成させ、グループディスカッションを適切に実施し、自己の意思を伝える能力を修得する。	積極的にディスカッションに参加し、自己の意思を伝えることができた。	ディスカッションに参加し、自己の意思を伝えることができた。	ディスカッションに参加し、自己の意思をおおむね伝えることができた。	ディスカッションに参加し、自己の意思をほぼ伝えることができる。	ディスカッションに参加しても自己の意思を伝えることができなかった。
建築技術者の判断・行動が社会や環境に与える影響について、紹介事例(ケーススタディ)をもとに理解する。	判断・行動が社会や環境に与える影響を理解し想像することができた。	判断・行動が社会や環境に与える影響を理解しおおむね想像することができた。	判断・行動が社会や環境に与える影響を理解することができた。	判断・行動が社会や環境に与える影響をおおむね理解することができた。	紹介事例(ケーススタディ)をもとに理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築の職能と倫理 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	君 興治 (建築学科・特任准教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 君 興治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計業務・施工業務の経験あり。建築業務における人間性と判断力、責任について、実務経験から講義をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『建築倫理用教材』	社団法人日本建築学会	丸善株式会社	2010年2月1日	978-4-8189-2211-2 C3052	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『日本建築学会の技術者倫理教材』	社団法人日本建築学会	丸善株式会社	2009年6月10日	978-4-8189-2221-1 C3052	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	授業ガイダンス シラバスの説明, 授業改善アンケート結果反映の説明、授業の進め方と到達目標について	シラバスの事前確認	授業内容の確認 (90分)
2	建築職能論とは ケーススタディ	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく(90分)	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること(90分)
3	建築の職能の歴史 ケーススタディ	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく(90分)	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること(90分)
4	建築士の活動事例による社会的役割 ケーススタディとグループディスカッション 1	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく(90分)	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること(90分)
5	1のプレゼンテーション、発表	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく(90分)	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること(90分)
6	建築計画の立場から見た職能論 ケーススタディとグループディスカッション 2	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく(90分)	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること(90分)
7	2のプレゼンテーション、発表	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく(90分)	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること(90分)
8	都市計画の立場から見た職能論 ケーススタディとグループディスカッション 3	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく(90分)	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること(90分)
9	3のプレゼンテーション、発表	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく(90分)	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること(90分)
10	景観・環境・歴史まちづくり法における建築士の役割 ケーススタディとグループディスカッション 4	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく(90分)	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること(90分)
11	4のプレゼンテーション、発表	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく(90分)	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること(90分)
12	防災における建築士の責任 ケーススタディとグループディスカッション 5	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく(90分)	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること(90分)
13	5のプレゼンテーション、発表	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく(90分)	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること(90分)
14	環境保全、修復に関わる活動や建築士の責任 ケーススタディとグループディスカッション 6	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく(90分)	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること(90分)
15	6のプレゼンテーション、発表	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく(90分)	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること(90分)
16	総括(レポート提出状況と解説, 評価) 授業改善アンケートの実施	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく(90分)	全体の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・デザイン学科・建築学科 2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教育方法論 (M・D・A) (科目ナンバリング: )				
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館 7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題 (教育方法論) について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

教師のもつべき専門的教養の中核となる教育の方法と技術について、現実的な課題を整理しながら、実践的技術を解明するための知識を習得する。

授業の位置づけ

経営学科・経営学科スポーツマネジメントコースのDP1、DP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)  
 デザイン・建築学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

児童生徒に正しい効果的な学び方を指導し、自ら学ぶ力をつけさせる方法論を会得し、具体的に述べる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換発表等の一連の活動を行う。内容は、教育論、児童生徒理解、カリキュラム、授業づくり、学力と教育評価等について扱う。  
 授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。  
 『SDG4 - 質の高い教育をみんなに』の関連科目。

授業の方法

教科書を輪読し、パワーポイント及び配布資料で教科書の内容を確認するとともに、テーマに関する事項について、思考・考察、意見交換、討議、発表等の一連の活動を行うなどして、総合的に教育の方法を習得させる。グループワークにて発表及びレポート提出も行う。また、授業におけるICT活用についても講義の中で実践的に扱うとともに、質問等は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。なお、グループワーク発表、レポートにはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク	<input type="radio"/>	PBL
<input type="radio"/>	模擬授業	<input type="radio"/>	ロールプレイ	<input type="radio"/>	調査学習	<input type="radio"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="radio"/>	実験・実習・実技	<input type="radio"/>	双方向授業	<input type="radio"/>	その他 (授業の方法参照)

履修上の注意事項

教職を目指す学生としてふさわしい受講態度で履修すること。遅刻は3回で欠席1回とみなす。  
 全学科同一クラスで授業を行うので、受講に当たっての注意事項を守ること。

修学サポート (合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程 (全教科) 必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	20%	0%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
教育方法論の理解	教育方法論について学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとする事ができた。	教育方法論について意欲的に学び、必要な知識・技能を理解することができた。	教育方法論についての知識・技能を理解できた。	教育方法論について、知識・技能を一定程度理解できた。	教育方法論について、理解ができなかった。
教育技術の思考・判断・表現	教育技術について積極的に思考・判断し、自ら表現することができた。	教育技術について思考・判断し、自ら表現することができた。	教育技術について、思考活動に取り組み、表現することができた。	教育技術について、一定程度思考活動に取り組み、表現しようとした。	教育技術について、思考・判断・表現について必要な取組ができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業にとっても積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・デザイン学科・建築学科 2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教育方法論 (M・D・A) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館 7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(教育方法論)について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『教育の方法と技術 第三版』	柴田義松・山崎準二編	学文社	2019	978-4-7620-2869-4	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)』	文部科学省	東山書房	2018	978-4827815580	
2	『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)』	文部科学省	東山書房	2018	978-4827815672	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション - シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、教育方法論の概要	シラバスを確認しておくこと。(90分)	配布資料に基づき「教育方法論」について概念を確認すること。(90分)
2	教育方法論の歴史 ・ ソクラテス法、コメニウスの教授法の特徴、ルソーの教育方法上の位置ほか	指定した教科書の「問題1-5」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
3	教育方法論の歴史 ・ 20世紀初頭の教育運動、集団主義教育と総合技術教育の思想ほか	指定した教科書の「問題6-9」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
4	現代社会と教育	指定した教科書の「問題10-12」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
5	学校の現在と学校論	指定した教科書の「13-14」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
6	教育改革の内容	指定した教科書の「問題15-16」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
7	カリキュラム ・ 児童中心カリキュラム、学問中心カリキュラムほか	指定した教科書の「問題17-18」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
8	カリキュラム ・ 子どもの発達段階と教育との関係、「総合的な学習の時間」の意義と課題ほか	指定した教科書の「問題19-23」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
9	カリキュラム ・ 「教科書を教える」と「教科書で教える」、プログラム学習ほか	指定した教科書の「問題24-29」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
10	授業論(授業の構造、学習指導案、発問等)	指定した教科書の「問題30-35」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
11	授業改善と情報機器(ICT等)の活用	指定した教科書の「問題36-39」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
12	授業改善と視聴覚教材の活用	指定した教科書の「問題40-48」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
13	模擬授業(学習指導案、板書とノート指導、机間巡視)	指定した教科書の「問題49-54」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
14	学力と教育評価 ・ 相互評価と絶対評価、自己評価、「到達目標と方	指定した教科書の「問題55-60」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
15	学力と教育評価 ・ 指導要領「障害のある児童生徒(発達障害など)の教育ほか	指定した教科書の「問題61」と配布資料を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説)	指定した教科書や講義内容について整理しておくこと。(90分)	試験の結果を見直す。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修(教)
科目名称	教育方法論(S) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2	(単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(教育方法論)について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

教師のもつべき専門的教養の中核となる教育の方法と技術について、現実的な課題を整理しながら、実践的技術を解明するための知識を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

児童生徒に正しい効果的な学び方を指導し、自ら学ぶ力をつけさせる方法論を会得し、具体的に述べる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換発表等の一連の活動を行う。内容は、教育論、児童生徒理解、カリキュラム、授業づくり、学力と教育評価等について扱う。授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。  
SDG4「質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

教科書を輪読し、パワーポイント及び配布物資料で教科書の内容を確認するとともに、テーマに関する事項について、思考・考察、意見交換、討議、発表等の一連の活動を行うなどして、総合的に教育の方法を習得させる。グループワークにて発表及びレポート提出も行う。また、授業におけるICT活用についても講義の中で実践的に扱うとともに、質問等は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。なお、グループワーク発表、レポートにはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク	<input type="radio"/>	PBL
<input type="radio"/>	模擬授業	<input type="radio"/>	ロールプレイ	<input type="radio"/>	調査学習	<input type="radio"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="radio"/>	実験・実習・実技	<input type="radio"/>	双方向授業	<input type="radio"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教職を目指す学生としてふさわしい受講態度で履修すること。遅刻は3回で欠席1回とみなす。全学科同一クラスで授業を行うので、受講に当たっての注意事項を厳守すること。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程(全教科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	20%	0%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
教育方法論の理解	教育方法論について学修した知識・技能を基礎に、さらに学修を深めようとする事ができた。	教育方法論について意欲的に学び、必要な知識・技能を理解することができた。	教育方法論についての知識・技能を理解できた。	教育方法論について、知識・技能を一定程度理解できた。	教育方法論について、理解ができなかった。
教育技術の思考・判断・表現	教育技術について積極的に思考・判断し、自ら表現することができた。	教育技術について思考・判断し、自ら表現することができた。	教育技術について、思考活動に取り組み、表現することができた。	教育技術について、一定程度思考活動に取り組み、表現しようとした。	教育技術について、思考・判断・表現について必要な取組ができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業にとっても積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度が不十分だった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修(教)
科目名称	教育方法論 (S) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(教育方法論)について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『教育の方法と技術 第三版』	柴田義松・山崎準二編	学文社	2019	978-4-7620-2869-4	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)』	文部科学省	東山書房	2018	978-4827815580	
2	『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)』	文部科学省	東山書房	2018	978-4827815672	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション - シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、教育方法論の概要	シラバスを確認しておくこと。(90分)	配布資料に基づき「教育方法論」について概念を確認すること。(90分)
2	教育方法論の歴史 ・ ソクラテス法、コメニウスの教授法の特徴、ルソーの教育方法上の位置ほか	指定した教科書の「問題1-5」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
3	教育方法論の歴史 ・ 20世紀初頭の教育運動、集団主義教育と総合技術教育の思想ほか	指定した教科書の「問題6-9」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
4	現代社会と教育	指定した教科書の「問題10-12」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
5	学校の現在と学校論	指定した教科書の「13-14」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
6	教育改革の内容	指定した教科書の「問題15-16」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
7	カリキュラム ・ 児童中心カリキュラム、学問中心カリキュラムほか	指定した教科書の「問題17-18」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
8	カリキュラム ・ 子どもの発達段階と教育との関係、「総合的な学習の時間」の意義と課題ほか	指定した教科書の「問題19-23」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
9	カリキュラム ・ 「教科書を教える」と「教科書で教える」、プログラム学習ほか	指定した教科書の「問題24-29」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
10	授業論(授業の構造、学習指導案、発問等)	指定した教科書の「問題30-35」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
11	授業改善と情報機器(ICT等)の活用	指定した教科書の「問題36-39」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
12	授業改善と視聴覚教材の活用	指定した教科書の「問題40-48」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
13	模擬授業(学習指導案、板書とノート指導、机間巡視)	指定した教科書の「問題49-54」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
14	学力と教育評価 ・ 相互評価と絶対評価、自己評価、「到達目標と学習目標」	指定した教科書の「問題55-60」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
15	学力と教育評価 ・ 指導要領「障害のある児童生徒(発達障害など)の教育ほか」	指定した教科書の「問題61」と配布資料を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説)	指定した教科書や講義内容について整理しておくこと。(90分)	試験の結果を見直す。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	キャラクターデザイン (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標	キャラクターデザインについての理解を深める。 キャラクターデザイナーの役割を実践形式で学ぶ。 魅力的なオリジナルキャラクターを生み出す。																					
授業の位置づけ	デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度) デザイン学科のDP1、DP3、DP5に対応する。(2023、2022年度) デザイン学科のDP2、DP3、DP5に対応する(2021年度)																					
到達目標	キャラクターデザインについて知る。 キャラクターデザイナーの役割を実践形式で体験する。 オリジナルキャラクターを生み出す。																					
授業全体の内容と概要	2つのテーマ別課題に沿ったキャラクターをデザインし、発表する。制作はアナログ・デジタルどちらでも可。課題は授業内で説明、ラフデザインから完成まで段階を踏みながら制作する。完成したビジュアルはプレゼンボードにて展示する。																					
授業の方法	授業は板書・パワーポイント・資料配布・実演等の方法で説明する。プロジェクター使用。授業後にデジタル資料はTeam s に保存するので振り返り可能。段階ごとにグループワークでのディスカッションを行い、また個別にも対応する。完成作品は発表し学生同士で評価しあう。また、添削、講評にてフィードバックする。発表後、パネルにして展示する。																					
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○ ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○ ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																
○ ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)																
履修上の注意事項	デジタルで課題制作を行う場合は教室で制作できるように機材を持参すること。 アナログで課題制作を行う場合は画材を持参すること。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。																					

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件	最低出席回数11回以上。 課題は期日までに提出すること。												
評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	50%	0%	50%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
0%	0%	50%	0%	50%	0%								

ルーブリック	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>キャラクターデザインについての知識</td> <td>キャラクターデザインについての理解を深め、作品に活かすことができた。</td> <td>キャラクターデザインについての理解を深めることができた。</td> <td>キャラクターデザインとは何かを知り、理解を深めることができた。</td> <td>キャラクターデザインについて知ることができた。</td> <td>キャラクターデザインについて知ることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>キャラクターデザイナーの役割を実践形式で学ぶ</td> <td>キャラクターデザイナーの役割を実践形式で学び、作品に活かすことができた。</td> <td>キャラクターデザイナーの役割を実践形式で学ぶことができた。</td> <td>キャラクターデザイナーの役割を体験し、学ぶことができた。</td> <td>キャラクターデザイナーの役割を体験することができた。</td> <td>キャラクターデザイナーの役割を体験できなかった。</td> </tr> <tr> <td>魅力的なオリジナルキャラクターを生み出す</td> <td>魅力的なオリジナルキャラクターを生み出し、完成度の高い作品ができた。</td> <td>魅力的なオリジナルキャラクターを生み出すことができた。</td> <td>魅力的なオリジナルキャラクターを生み出すことに努めた。</td> <td>オリジナルキャラクターを生み出すことができた。</td> <td>オリジナルキャラクターを生み出すことができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>					評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	キャラクターデザインについての知識	キャラクターデザインについての理解を深め、作品に活かすことができた。	キャラクターデザインについての理解を深めることができた。	キャラクターデザインとは何かを知り、理解を深めることができた。	キャラクターデザインについて知ることができた。	キャラクターデザインについて知ることができなかった。	キャラクターデザイナーの役割を実践形式で学ぶ	キャラクターデザイナーの役割を実践形式で学び、作品に活かすことができた。	キャラクターデザイナーの役割を実践形式で学ぶことができた。	キャラクターデザイナーの役割を体験し、学ぶことができた。	キャラクターデザイナーの役割を体験することができた。	キャラクターデザイナーの役割を体験できなかった。	魅力的なオリジナルキャラクターを生み出す	魅力的なオリジナルキャラクターを生み出し、完成度の高い作品ができた。	魅力的なオリジナルキャラクターを生み出すことができた。	魅力的なオリジナルキャラクターを生み出すことに努めた。	オリジナルキャラクターを生み出すことができた。	オリジナルキャラクターを生み出すことができなかった。
評価項目	評価基準																																	
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																													
キャラクターデザインについての知識	キャラクターデザインについての理解を深め、作品に活かすことができた。	キャラクターデザインについての理解を深めることができた。	キャラクターデザインとは何かを知り、理解を深めることができた。	キャラクターデザインについて知ることができた。	キャラクターデザインについて知ることができなかった。																													
キャラクターデザイナーの役割を実践形式で学ぶ	キャラクターデザイナーの役割を実践形式で学び、作品に活かすことができた。	キャラクターデザイナーの役割を実践形式で学ぶことができた。	キャラクターデザイナーの役割を体験し、学ぶことができた。	キャラクターデザイナーの役割を体験することができた。	キャラクターデザイナーの役割を体験できなかった。																													
魅力的なオリジナルキャラクターを生み出す	魅力的なオリジナルキャラクターを生み出し、完成度の高い作品ができた。	魅力的なオリジナルキャラクターを生み出すことができた。	魅力的なオリジナルキャラクターを生み出すことに努めた。	オリジナルキャラクターを生み出すことができた。	オリジナルキャラクターを生み出すことができなかった。																													

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	キャラクターデザイン (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 キャラクターデザインとは	シラバスを読んでおくこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
2	フォルムについて	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
3	ポーズについて	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
4	構図について	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
5	キャラクターデザイン制作 ラフデザイン	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
6	キャラクターデザイン制作 ブラッシュアップ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
7	キャラクターデザイン制作 発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
8	キャラクターデザイン制作 ディスカッション	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
9	キャラクターデザイン制作 ラフデザイン	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
10	キャラクターデザイン制作 ブラッシュアップ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
11	キャラクターデザイン制作 発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
12	キャラクターデザイン制作 ディスカッション	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
13	プレゼンボードの作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
14	プレゼンボードの作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
15	展示の準備	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
16	展示 授業改善アンケートの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	技法・材料研究 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安田 祐造)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照してください。				

概要

履修目標
洋画の技法として、油彩やエッグテンペラのみにとどまらず、この授業では他のテンペラや水彩などについても学修する。さらに支持体についてもより高度なもの製作方法を身につける。それぞれの技法や材料及び支持体製作についての知識や技術を身につけることにより、各々の履修生の感性や個性をより一層的確に表現することを目標とする。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP3、DP4、DP54に対応する。(2024年度) デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2023・2022年度) デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標
油彩やエッグテンペラ、その他のテンペラ、水彩等の技法、それらの用材の特徴や使用法と管理の仕方などに習熟すること。また、新たな支持体づくりについても関心を高めること。そして各々の履修生が絵画制作をとおして自らを見つめる態度を養成することを目標とする。

授業全体の内容と概要
油彩やエッグテンペラとそれ以外の様々な技法や材料、新たな支持体について学修し、個々の履修者の判断で、表現の意図に照らし最も相応しい技法や絵具や展色剤などを用意し、それらの特徴を活かした制作を行えるようにする。また、客観的評価を得て自らの表現力を検証する意味で公募展にも挑む。

授業の方法
自らが選択した技法で自己表現する実技形式の授業で、自らが主体的に設定したテーマに則り表現した作品を創り上げることを課題とする。実習や視聴覚機器を活用するだけでなく、美術館や公募展の作品展覧等にも積極的に取り組む。授業担当者や他の履修生のみならず外部の人々からも批評や助言を得られるように環境を整え、より確かな自己実現に寄与させようとするものである。

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
この授業を履修するに当たっては、間もなく卒業し社会に出ることを前提として、以後美術をとおして何が出来るかを探索するものでもあることを十分に認識したうえで履修すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は2回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	70%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	70%	0%	30%	0%							

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
支持体について	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を十分に理解し製作することができた。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を理解し製作することができた。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴をほぼ理解し製作することができた。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴をある程度理解し製作することができた。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を理解することなく十分なものを製作することができなかった。
彩色材料について	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を十分に理解し、制作にそれを十分に活かすことができた。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を理解し、制作にそれを活かすことができた。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴をほぼ理解し、制作にそれを活かすことができた。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴をある程度理解し、制作にそれをある程度活かすことができた。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を理解することなくし、制作にそれを活かすことができなかった。
描写について	モチーフの面やパルルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法を十分に取り入れられた。	モチーフの面やパルルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法を取り入れられた。	モチーフの面やパルルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法をほぼ取り入れられた。	モチーフの面やパルルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法をある程度取り入れられた。	モチーフの面やパルルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法を取り入れられなかった。
自らについて	自らの感性や個性について十分に意識した制作を行えた。	自らの感性や個性について意識した制作を行えた。	自らの感性や個性についてほぼ意識した制作を行えた。	自らの感性や個性についてある程度意識した制作を行えた。	自らの感性や個性について意識した制作を行えなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	技法・材料研究 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安田 祐造)		CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスについて、授業改善アンケートについて、 公募展について	予めシラバスに目とおし、出品予定の公募展についても下調べをしておく。(45分)	シラバスの中身に従い、自らの制作についての計画を立てる。(45分)
2	オリエンテーション シラバスについて、公募展について	自らの感性や表現の意図に相応しい公募展について下調べをしておく。(45分)	どの公募展を目指すかを決め、新作のテーマやモチーフについて検討する。(45分)
3	支持体製作(支持体をどの様にどれだけの大きさのものにするかは任意選択) 様々な基底材の特徴について	自らの新作の構想をまとめるに当たり、十分に教師や他の学生の意見や助言を取り入れる。(45分)	構想を取りまとめ下絵を作成する。(45分)
4	支持体製作 布や紙の貼り方、基底材の組み立てと接合について	自らの作品の描法に相応しい支持体を検討する。(45分)	ことに紙や布を使用する場合、満足のいかない状態にある場合は、手直しを行う。(45分)
5	支持体製作 地塗り材の処方と地塗り作業について	描法に相応しい地塗り材を予め決める。(45分)	支持体製作の進捗を確かめる。(45分)
6	支持体製作 地塗り作業について	描法に相応しい地塗り材の塗り方を決める。(45分)	構想を下絵としてまとめ上げる。(45分)
7	支持体製作 地塗り面の研磨と仕上げについて	描法に相応しい地塗り面の仕上げ方について決める。(45分)	下絵の転写の仕方について検討する。(45分)
8	下絵の支持体への転写 その方法と転写作業について	下絵の転写の仕方について決める。(45分)	次回からの彩色の仕方について計画を立てる。(45分)
9	下描き(下描きの有無、その材料は任意選択) 描法に応じた様々な方法について	各々の描法に応じた材料や用具を、各自自らが準備する。(45分)	本時の制作を振り返り、進捗を確かめる。(45分)
10	下描き 描法に応じた様々な方法について	これまでの制作で、修正すべき点を明らかにする。(45分)	本時の制作を省みて、足りない点や過ぎた点についての修正を行う。(45分)
11	本制作 A(制作のための描法・技法・は任意選択) 大まかな色面把握について	大まかな色面把握ということについて予習する。(45分)	細部に捉われて基本的な骨格を見失っていないかを検討する。(45分)
12	本制作 B 大まかな色面把握について	足りない点や過ぎた点について検討する。(45分)	他の学生の制作を参考として、自らの制作の進め方について検討する。(45分)
13	本制作 C 大まかな色面把握	明度、彩度、色相のそれぞれの差異に目をやり、自らの制作の進捗を検討する。(45分)	本時の制作を省みて、足りない点や過ぎた点についての修正を行う。(45分)
14	本制作 D 大まかな色面把握	上描きを繰り返しながら制作を進めることを念頭に、初期段階から細部に捉われすぎないように注意する。(45分)	今一度、色の三属性のそれぞれの要素について大まかに捉えられているかを確かめ、必要に応じて修正を行う。(45分)
15	本制作 E 上描きによる細部の表現について	局部的に細密に描写するのではなく、常に全体的に、次第に細部に目をやるように注意する。(45分)	全体に目をやり、全体的にかつ段階的に描き込みが行われているかを確認する。(45分)
16	本制作 F 上描きによる細部の表現について	色の三属性のそれぞれの要素は、周囲の色との関係から変化して見えることを再確認する。(45分)	ことに、写実的な描写を行う場合には、まず明度について、構想したものの間に隔たりが生じていないかを検討する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	本制作 G 上描きによる細部の表現について	色の明度の観点から、足りない点や過ぎた点がないかを確認する。(45分)	同様に、彩度や色相についても、周囲の色の影響も考慮し、構想したものの間に隔たりが生じていないかを検討する。(45分)
18	本制作 H 上描きによる細部の表現について	過ぎた点については、必要に応じて、削ったり拭いたりして後戻りすることを検討する。(45分)	削除したり加筆したりする場合、描画材料により、溶剤や用具について慎重に検討する。(45分)
19	中間発表	これまでの自らの制作を振り返る。(45分)	中間発表会で寄せられた他者の意見や助言や感想について取りまとめる。(45分)
20	中間発表	他の学生の制作について、各々の感性や表現の仕方など、それぞれの良さを見つけ出すように努める。(45分)	他者の意見や感想などを糧として、これからの制作の仕方について計画を立てる。(45分)
21	本制作 I さらなる描き込みについて(質感表現を主に)	ことに、明度に着目し、質感表現について検討する。(45分)	明度差・コントラストやタッチにより質感が変化することに着目して検討する。(45分)
22	本制作 J さらなる描き込みについて(質感表現を主に)	それぞれの色相の明度を見極めて、質感が十分に表現されつつあるかを検討する。(45分)	色合いのある色面の明度について着目し、古今の作品などを参照する。(45分)
23	本制作 K さらなる描き込みについて(陰影表現を主に)	明部と暗部のそれぞれの明るさの差を見極められるように努める。(45分)	次第に作品の構成要素が増加し複雑化するが、部分と部分だけでなく部分と全体との関係についても、隔たりが生じていないかを検討する。(45分)
24	本制作 L さらなる描き込みについて(陰影表現を主に)	確かな陰影表現により、空気感が表現できるように努める。(45分)	陰影の部分と明部との関係について、明度だけでなく、彩度や色相についても検討する。(45分)
25	本制作 M さらなる描き込みについて(色彩調和を主に)	かたちや立体感などを追い求めるのと同時に、表現の意図に合った色彩調和について目をやる。(45分)	美しい調和だけでなく、良い調和とはどういうことかについて検討する。(45分)
26	本制作 N さらなる描き込みについて(色彩調和を主に)	かたちを損なうことのないように色彩調和を求める。(45分)	立体感や奥行きの感を損なうことなく、色彩調和をはかるための要点は何かについて検討する。(45分)
27	本制作 O 仕上げに向けて	さらに全体を見渡して、部分どうしや全体とのバランスや調和について検討する。(45分)	仕上げに向け、かたちや色についてだけでなく、質感の表現についても検討する。(45分)
28	本制作 P 仕上げに向けて	立体感や空気感が表現できているかを検討する。(45分)	明部と暗部について、かたちや色彩調和を描くことなく、足りない点や過ぎた点について修正を行う。(45分)
29	本制作 Q 仕上げに向けて	構想や表現の意図が作品に反映されているかの検討を行う。(45分)	構想や表現の意図に照らし、的確な色彩表現が行われているかを検討する。(45分)
30	本制作 R 仕上げに向けて	色彩調和について、全体調整を行う。(45分)	発表を前に、さらに全体に目をやり、自らの構想に照らし調整を行う。(45分)
31	合評 A	これまでの制作活動を振り返り足りない点や足りない点などについて検討する。(45分)	他者の意見や助言や感想を参考とし、自らの作品についての自己評価を行う。(45分)
32	合評 B、授業改善アンケートについて	他者との感性や価値観の相違、多様性などを認め、社会生活のあり方についての考えをまとめる。(45分)	合評会での他者の意見や助言を参考に今後の制作の仕方について検討する。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	五十嵐 優美子(デザイン学科・客員教授)	鴨 修平(デザイン学科・非常勤)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 鴨 修平)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画の連載・単行本出版経験のある教員が、漫画の描き方を基礎から指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

漫画を表現していく上で必要とされる基礎的な知識とそのテクニックを学習し、独自の個性と可能性を発掘し、自らが創作したものを他者に伝える表現技術や理論を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。(2024年度)  
 デザイン学科のDP 1、DP 3、DP 5に対応する。(2023・2022年度)  
 デザイン学科のDP 2、DP 3、DP 5、DP 6に対応する。(2021年度)

到達目標

漫画制作の基礎的な技術を身につけ、自分の漫画作品の方向性を決めて制作することができる。

授業全体の内容と概要

各自で漫画作品の制作を行いながら、漫画道具の使い方、ストーリー構成、ネーム作成、コマ割りや画面構成などの基礎的な知識を身につける。個人の能力にあわせて指導し、漫画を完成させる。

授業の方法

板書及び参考資料とプリントを使って説明をし、各自で制作の実技を行う。制作の際は適宜講師との打ち合わせを行う。制作期間中は宿題とし、期限内に提出する。作品によってはその日の授業内に提出するものもある。提出物にはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

作品制作に応じて必要な画材があれば持参すること。デジタル作品を制作する場合はノートパソコンやタブレットを持参すること。(持参できない場合は講師と相談)。  
 3回の遅刻で1回の欠席とみなす。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上。  
 授業内で示した作業スケジュールを遵守し、期日内に作品を提出する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
漫画表現(知識と理論の理解)	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論を十分に理解し、それらを自らの創作に活かして作品を完成できた。	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論を理解し、それらを自らの創作に活かして作品を制作できた。	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論をある程度理解し、それらを自らの創作に活かす努力ができた。	漫画・イラスト制作における知識を理解できた。	漫画・イラスト制作における知識を理解できなかった。作品を提出できなかった。
漫画制作(ストーリー創作技術)	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを十分に理解し、自らの表現したいテーマを決めて創作し作品を完成できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解し、作品を創作できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックをある程度理解し、作品を創作する努力をした。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解できなかった。作品を創作できなかった。
漫画制作(作画技術)	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し適切に使用して、自らの考えたテーマや個性を十分に表現し、完成できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し適切に使用して、自らのテーマや個性を表現できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し、使用できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	五十嵐 優美子(デザイン学科・客員教授)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 鴨 修平)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 漫画の連載・単行本出版経験のある教員が、漫画の描き方を基礎から指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	*必要に応じて参考資料を提示、プリントを配布					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
2	好きな作品のプレゼンイラスト	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
3	クロッキーとディフォルメ1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
4	クロッキーとディフォルメ2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
5	アオリと俯瞰 各アングルの説明と実技1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
6	アオリと俯瞰 各アングルの説明と実技2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
7	背景表現 パースの説明と実技1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
8	背景表現 パースの説明と実技2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
9	1ページ漫画 起承転結とプロット1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
10	1ページ漫画 起承転結とプロット2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
11	1ページ漫画 ネーム・下書き1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
12	1ページ漫画 ネーム・下書き2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
13	1ページ・4コマ漫画 ペン入れ・仕上げ1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
14	1ページ・4コマ漫画 ペン入れ・仕上げ2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
15	いがらしゆみこ特別講座	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
16	いがらしゆみこ特別講座	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	ストーリー漫画制作 プロット1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
18	ストーリー漫画制作 プロット2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
19	ストーリー漫画制作 ネーム1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
20	ストーリー漫画制作 ネーム2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
21	ストーリー漫画制作 下書き1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
22	ストーリー漫画制作 下書き2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
23	ストーリー漫画制作 ペン入れ1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
24	ストーリー漫画制作 ペン入れ2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
25	ストーリー漫画制作 ベタ塗り・効果線	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
26	ストーリー漫画制作 背景	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
27	ストーリー漫画制作 スクリーントーン1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
28	ストーリー漫画制作 スクリーントーン2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
29	ストーリー漫画制作 仕上げ1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
30	ストーリー漫画制作 仕上げ2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
31	授業改善アンケートの実施 講評	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
32	講評	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義全体の内容を振り返ること。(45分)



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	情報システム論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 由水 伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの開発経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報機材の特徴とシステム構築に必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	講義時間以外は随時来室可(会議等で不在時を除く) 詳しくは研究室前の掲示板等を参照。				

概要

履修目標

情報システムの構築を行うには、コンピューター、ネットワーク、OSなど総合的な仕組みを理解していることが必要である。本講義では、PCほか情報機器を駆使して企業内で活躍できる人材の育成を目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

コンピューターシステムのハードウェアを理解し、オフィス内の情報システムの提案ができる。  
各種OSやアプリケーションソフトの特徴や用途を理解する。  
組織や企業などの情報インフラを保守するための知識を獲得し、適切な対応ができる。

授業全体の内容と概要

コンピューター本体や周辺機器などのハードウェアについての知識を得る。同時に、OSとアプリケーションソフトの役割を理解する。また、ネットワークと企業内業務についても学習し、コンピューターシステムの総合的な利用法を身につける。「SDG 9.産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法

授業はスライドとプリントを利用した講義形式で進行する。  
授業中、スマートフォンを利用したオンライン小テストまたはアンケートを行う。  
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・毎回の授業でオンライン小テストを行う。PC、タブレットまたはスマートフォンを持ってくること。(充電量確認)
- ・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は11回以上。  
30分以上の遅刻は欠席とみなす。  
講義で毎回行われるオンライン小テストの結果は成績に参入するので、出席は評価に直結する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	50%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コンピュータ技術の基本を踏まえて、ハードウェアとソフトウェア、ネットワークを活用できる。	コンピュータや情報技術、ハードウェアとソフトウェアについてICTの理解が深くハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの最適な設定と運用・保守ができるようになった。	ICTの理解が深くハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの最適な設定と運用・保守ができるようになった。	ICTの理解が進みハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの適切な設定と運用・保守ができるようになった。	ICTの理解が浅くハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの適切な設定と運用・保守には他者の助けがあればできるようになった。	ICTの理解が浅くハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの適切な設定と運用・保守には無理がある。
代表的なOSやソフトウェアについて知識を持ち、使用目的に応じて使い分けができる。	Windows、MacOS、Unix、Linuxなどの代表的なOSの特性を熟知し利用目的に合わせた選択ができる。また、ソフトウェアも最適なものを選択でき、業務に適したシステム構築ができるようになった。	Windows、MacOS、Unix、Linuxなどの代表的なOSの特性を理解し利用目的に合わせた選択ができる。また、ソフトウェアも適切なものを選択できるようになった。	Windowsの特性を理解し利用目的に合わせた選択ができる。また、ソフトウェアも適時扱えるようになった。	Windowsの特性を理解し利用目的に合わせた操作ができる。また、ソフトウェアも適時扱えるようになった。	コンピュータとソフトウェアの理解が不十分で、操作し目的を達することが難しい。
長期間にわたって、安定した性能で稼働するよう保守を行い、システムを維持できる。	情報機器の特性を熟知し、ハードウェア、ソフトウェア両面で、長期にわたって性能を維持できる。また、必要に応じて機能や性能を拡張することができるようになった。	情報機器の特性を熟知し、ハードウェア、ソフトウェア両面で、長期にわたって性能を維持できるようになった。	情報機器の特性を理解し、一定期間、ハードウェアの保守を行うことかできるようになった。	情報機器の特性を理解し、消耗品等の補充で一定期間、動作を維持できるようになった。	情報機器の特性が理解できず、保守を行うことは困難である。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	情報システム論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの開発経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報機材の特徴とシステム構築に必要な知識について講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業改善アンケート結果について コンピューターの歴史・2進数・16進数	2進数、16進数の復習(90分)	コンピューターの歴史をノートにまとめる(90分)
2	PCの基本構成とパーツの役割(概要) PCの基本構成とは何か	「コンピューターの5大装置」について調べる(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
3	中央処理装置(CPU) コンピューターの五大装置 制御装置・演算装置	「intel 4004から80486までの歴史」を調べる(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
4	主記憶装置(メモリー) キャッシュメモリー	「RAM」「ROM」について調べておく(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
5	補助記憶装置とデータの保存	「電気と磁石」「レーザー光線」について調べる(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
6	グラフィックスカードとディスプレイ	「液晶ディスプレイと有機ELディスプレイ」について調べる(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
7	入出力デバイス	「USB 3.2規格」について調べる(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
8	接続コネクタとケーブル	「HDMIとケーブル規格」について調べる(90分)	授業で紹介された新しい用語をノートに整理(90分)
9	プリンター	「DTP」について調べる(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
10	OS(オペレーティングシステム) ・Windowsとシステムツール	Windows10の「設定」の設定項目を確認しておく(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
11	OS(オペレーティングシステム) ・Windows以外のOS ・UNIX・Linux・MacOS・iOS・Android 他	UNIXとその歴史について調べておく(90分)	授業で紹介された新しい用語をノートに整理(90分)
12	ネットワーク入門 LANの構築要素 インターネットとTCP/IP	「LAN」「WAN」を調べておく(90分)	授業で紹介された新しい用語をノートに整理(90分)
13	インターネットとWebサービス	Webブラウザの種類について調べておく(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
14	セキュリティと知的財産権	「マルウェア」について調べる(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
15	コンピューターのメンテナンスと運用 トラブルシューティング	コンピューター部品の平均寿命について調べる(90分)	課題の修正・完成(90分)
16	定期試験(60分) 解答解説 (授業アンケート実施回)	定期試験に備えて全講義内容を復習(90分)	総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	アトリエ棟 2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標
彫刻の特性を活かして、構造的にも安定した美しい作品を制作することが出来る。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度) デザイン学科のDP1、DP3、DP5に対応する。(2023・2022年度) デザイン学科のDP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標
彫刻の特性を理解して作品を制作することが出来る。

授業全体の内容と概要
彫刻では、具象表現(塑像)制作を通じて、彫刻の基礎的な表現力を身につける。また最終回では講評会を行い、プレゼンテーション能力を養う。

授業の方法
スライドを使って課題の説明を行なった後、各自でモチーフ「動物」を選んで作品制作を行っていく。必要な資料は各自で用意する。作品完成後、講評会でプレゼンテーションを行う。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
立体構成1及び2を履修している事が望ましい。未履修者は、事前に講義担当者に相談する事。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
---

資格指定科目
教職課程(美術・工芸)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要な最低出席回数は20回以上

評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	70%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	70%	0%	30%	0%							

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
彫刻の基本的な特性の理解(知識・理解)	作品が自立し、構造的にも安定している。また、彫刻の特性を理解し、上手く活用しており、美しかった。	作品が自立し、構造的にも安定している。また、彫刻の特性を理解し、活用していた。	作品が自立し、構造的にも安定している。また、彫刻の特性を活用しようとしていた。	作品が自立し、構造的にも安定していた。	作品が自立せず、彫刻として成立していなかった。
編集と発表の能力(思考力・表現力・判断力等)	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、美しくデザインされたボードを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、ボードを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を全て収めたボードを作成した。	制作した作品を収めたボードを作成した。	制作した作品を収めずボードを作成しなかった。
主体的に学習に取り組む態度(主体性・多様性・協働性)	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	アトリエ棟2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスをよく読んでおくこと(45分)	オリエンテーション振り返り(45分)
2	彫刻とは何か	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
3	動物彫刻 ドローイング	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
4	動物彫刻 ドローイング	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
5	動物彫刻 ドローイング	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
6	動物彫刻 ドローイング	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
7	動物彫刻 芯作り	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
8	動物彫刻 芯作り	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
9	動物彫刻(塑像) 芯作り	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
10	動物彫刻(塑像) 芯作り	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
11	動物彫刻(塑像) 芯作り 修正	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
12	動物彫刻(塑像) 芯作り 修正	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
13	動物彫刻(塑像)	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
14	動物彫刻(塑像)	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
15	動物彫刻(塑像)	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
16	動物彫刻(塑像)	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	動物彫刻(塑像)	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
18	動物彫刻(塑像)	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
19	動物彫刻(塑像)	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
20	動物彫刻(塑像)	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
21	動物彫刻(塑像)	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
22	動物彫刻(塑像)	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
23	動物彫刻(塑像)	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
24	動物彫刻(塑像)	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
25	動物彫刻(塑像) 細部を制作	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
26	動物彫刻(塑像) 細部を制作	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
27	動物彫刻(塑像) 仕上げ	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
28	動物彫刻(塑像) 仕上げ	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
29	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備(45分)	プレゼンテーション振り返り(45分)
30	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備(45分)	プレゼンテーション振り返り(45分)
31	講評	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと(45分)	講評を再考し、理解を深めること(45分)
32	講評 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと(45分)	講評を再考し、理解を深めること(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スクールソーシャルワーク論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 上原 正希)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>なぜスクールソーシャルワークが必要なのかについて理解する。</li> <li>スクールソーシャルワークとはなにかについて理解する。</li> <li>スクールソーシャルワークの歴史と動向について理解する。</li> <li>学校教育の特徴について理解する。</li> <li>教育(学校)が連携する機関とその機能について理解する。</li> <li>スクールソーシャルワークの基礎理論について理解する。</li> <li>スクールソーシャルワークの展開過程およびスクールソーシャルワーク実践について理解する。</li> <li>スクールソーシャルワークの課題と展望について理解する。</li> </ol>
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する(2023年度)

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>なぜスクールソーシャルワークが必要なのかについて理解できる。</li> <li>スクールソーシャルワークとはなにかについて理解できる。</li> <li>スクールソーシャルワークの歴史と動向について理解できる。</li> <li>学校教育の特徴について理解できる。</li> <li>教育(学校)が連携する機関とその機能について理解できる。</li> <li>スクールソーシャルワークの基礎理論について理解できる。</li> <li>スクールソーシャルワークの展開過程およびスクールソーシャルワーク実践について理解できる。</li> <li>スクールソーシャルワークの課題と展望について理解できる。</li> </ol>
------	---

授業全体の内容と概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>なぜスクールソーシャルワークが必要なのかについて学ぶ。</li> <li>スクールソーシャルワークとはなにかについて学ぶ。</li> <li>スクールソーシャルワークの歴史と動向について学ぶ。</li> <li>学校教育の特徴について学ぶ。</li> <li>教育(学校)が連携する機関とその機能について学ぶ。</li> <li>スクールソーシャルワークの基礎理論について学ぶ。</li> <li>スクールソーシャルワークの展開過程およびスクールソーシャルワーク実践について学ぶ。</li> <li>スクールソーシャルワークの課題と展望について学ぶ。</li> <li>「SDG3.すべての人に健康と福祉を」、「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。</li> </ol>
授業の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業形態は「講義」形式である。</li> <li>テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明・板書を行う。</li> <li>適宜質問を促し、質問に対応する。</li> <li>不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。</li> </ol>

アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										

履修上の注意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>教科書は必ず持参すること。</li> <li>必要な資料等は適宜配布する。</li> <li>板書した内容をしっかり写し、毎回の授業後にノートの整理をする。</li> <li>適宜質問に対応する。</li> <li>自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。</li> <li>スクールソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。</li> <li>大学のペーパーレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。</li> </ol>
----------	---

修学サポート(合理的配慮)	<p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
資格指定科目	<p>スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程 社会福祉士国家試験受験資格課程</p>

評価方法・基準

評価前提条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>教科書は必ず持参する。</li> <li>必要な資料等は適宜配布する。</li> <li>出席回数最低10回なければ試験を受験できない。</li> <li>その他については、出席状況15%・ノート確認15%の評価である。</li> <li>成績評価分布の目標として「S」は履修者の10%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の40%以内とする。但し、履修者が10人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする(絶対評価と相対評価を併用する)。</li> </ol>												
評価方法	<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	70%	0%	0%	0%	0%	30%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
70%	0%	0%	0%	0%	30%								

ルーブリック	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間に係るレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解する。</td> <td>今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について非常に理解できた。</td> <td>今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程についておおむね理解できた。</td> <td>今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解できた。</td> <td>今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について一部理解できなかった。</td> <td>今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について理解する。</td> <td>今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について非常に理解できた。</td> <td>今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援についておおむね理解できた。</td> <td>今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について理解できた。</td> <td>今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について一部理解できなかった。</td> <td>今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解する。</td> <td>今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について非常に理解できた。</td> <td>今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援についておおむね理解できた。</td> <td>今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解できた。</td> <td>今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について一部理解できなかった。</td> <td>今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解できなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に係るレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解する。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について一部理解できなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解できなかった。	【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について理解する。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について一部理解できなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について理解できなかった。	【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解する。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について一部理解できなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解できなかった。
評価項目	評価基準																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に係るレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																									
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解する。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について一部理解できなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解できなかった。																									
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について理解する。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について一部理解できなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について理解できなかった。																									
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解する。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について一部理解できなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解できなかった。																									

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スクールソーシャルワーク論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『よくわかるスクールソーシャルワーク』	山野剛子など	ミネルヴァ書房	2016年	9784623078349	価格 \ 3,080 (本体 \ 2,800)
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『入門 スクールソーシャルワーク論』	内田 宏明	ミネルヴァ書房	2022	9784623093373	価格 \ 3,080
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(授業改善アンケート結果反映及びシラバスの説明) 児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
2	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域について 子どもの貧困・発達・マノリティ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
3	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域について 教員の実態・地域の機関	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
4	スクールソーシャルワークの価値・倫理について - スクールソーシャルワークとは	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
5	スクールソーシャルワークの価値・倫理について - 人権と社会正義	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
6	スクールソーシャルワークの発展過程について・日本・アメリカ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
7	スクールソーシャルワーカーの役割と活動について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
8	スクールソーシャルワークにおけるソーシャルワークについて	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
9	スクールソーシャルワークの支援方法について・個別・集団支援(ミクロレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
10	スクールソーシャルワークの支援方法について・個別・集団支援(ミクロレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
11	スクールソーシャルワークの支援方法について・学校・家庭・地域(メゾレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
12	スクールソーシャルワークの支援方法について・学校・家庭・地域(メゾレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
13	スクールソーシャルワークの支援方法について・制度・政策(マクロレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
14	スクールソーシャルワークの支援方法について・制度・政策(マクロレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
15	スクールソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて 授業改善アンケートの実施	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
16	【定期試験】60分の試験終了後、残りの30分で解説	テストの勉強をしておくこと(90分)	テストの振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	応用物理 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	伊藤 裕康(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

物理現象の本質を理解するため、物体の運動状態を的確に表現するために必要となる知識と記述方法を学び、静力学や運動状態に対して物理学的にアプローチする方法を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)  
 建築学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度)  
 建築学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

ベクトル量の基本演算を理解しており、外力の影響がある場合の物体の運動状態について説明できる。また、固体にかかる力のつり合いの式を立てることができる。

授業全体の内容と概要

「SDG 4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。  
 主に物体の運動と固体のつり合いについて扱う。物体の状態を表現するため、さまざまな物理量やベクトルの演算を学習する。また、ニュートンの運動3法則を理解し、物体の運動状態を把握するのに3法則がどのように関わっているのかを学習する。個体のつり合い問題については、力のモーメントを理解し、つり合いの式を立てられるように学習する。さらに演習問題を随時出題し、応用力を身につける。

授業の方法

授業は、板書とパワーポイントおよび配付資料で実施する。学生の不明点・質問は、まず一人で考え、次に隣の人と意見交換し、最後に教室全体で共有して議論する。その後、授業内で解答を呈示してフィードバックする。授業の最後には「ふりかえり」レポートを提出し、レポートにはコメントにてフィードバックする。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は欠席とみなす。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	25%	0%	0%	25%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ベクトル演算についての理解	複数のベクトルの合成と分解について、三角関数を用いて成分計算することができた。	物体に加わっている複数の力ベクトルの幾何ベクトルについて、成分計算および図形表示ができた。	ベクトルを任意の2方向に分解し、成分計算および図形表示ができた。	2つのベクトルの和や差について、成分計算および図形表示ができた。	2つのベクトルの和・差について、成分計算および図形表示ができなかった。
ニュートンの運動3法則についての理解	演習問題において、3法則を用いて物体運動を説明できた。	簡単な演習問題において、物体の運動方程式を立てることができた。	運動方程式を用いて、力と加速度、質量の関係を説明できた。	物体に外力が加わるとき、物体の運動状態がどのように変化するのかを説明できた。	物体に外力が加わるとき、物体の運動状態がどのように変化するのかを説明できなかった。
固体のつり合いについての理解	重心まわりのモーメントのつり合いの式を立てることができ、重心の位置を求めることができた。	複数の力が作用しているときに、水平方向と垂直方向のつり合いの式を立てることができた。	力のモーメントのつり合いの式を立てることができた。	力のつり合いの式を立てることができた。	力のつり合いの式を立てることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	応用物理 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	伊藤 裕康(建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階	
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスと教科書をよく読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
2	ベクトルの大きさや表記について	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
3	ベクトルの合成・分解と作図法	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
4	ニュートンの運動第1法則	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
5	慣性系について	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
6	ニュートンの運動第2法則と第3法則	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
7	ケプラーの法則について	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
8	加速度運動問題についての討論	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
9	地球スケールの運動についての討論	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
10	質点の力のつり合い問題	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
11	力のモーメントと固体のつり合い	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
12	力のモーメントの計算	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
13	重心まわりのつり合い	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
14	固体のつり合い問題について	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
15	まとめと演習	これまでの授業内容についての質問をまとめる(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
16	授業改善アンケートの実施/定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う)	試験範囲について復習しておくこと(90分)	試験内容について復習しておくこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	デザイン製図 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

<p><b>履修目標</b></p> <p>学生が美術、デザインの専門家に必要な基本的素養としての表現である製図の作図の基となる線、文字、数字の描き方、スケール等を練習問題とともに、実測した椅子の図面の作図を通して各自が理解しながら製図表現の基礎を身につけることを目標とする。さらに展開図をもとに紙模型を制作することで表現される物体と図の関係性の感覚を身に付けることも目的とする。</p>
--

<p><b>授業の位置づけ</b></p> <p>デザイン学科のDP1、DP4、DP5に対応する。(2024年度)          デザイン学科のDP1、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)          デザイン学科のDP1、DP2、DP3に対応する。(2021年度)</p>
--

<p><b>到達目標</b></p> <p>学生が、製図機を使い基本的な製図表現(ある程度)正確にできる。</p>
---

<p><b>授業全体の内容と概要</b></p> <p>美術、デザインにおける基本的素養としての製図表現について各自が理解しながら製図表現の基礎を身につけるために、最初に製図機を用いた手書きの作図の基となる「線の練習問題」、「文字や数字の練習問題」、「スケールについての練習問題」などの要素毎の練習問題を描き方の手順とともに学習する。つぎに各自が椅子を実測してそれを、手書きの製図やCADを用いた製図を制作することを通して主要な製図の表現である三面図や断面図を学習する。また、表現する対象(椅子)の展開図の制作しそれを組み立てることによって表現される物体と図の関係性の感覚も身につける。進度に応じて漸次、課題を更新しながら進める。</p>
---

<p><b>授業の方法</b></p> <p>授業のプレゼンテーションの方法として板書と各課題に関連する資料を配布し授業を実施する。講義形式で授業をすすめると共に製図機やパソコンを用いて制作手順および要点を示す。各回の授業の要点を学生各自が自筆ノートにまとめる。これらをもとに、アクティブラーニングとして各自が自らが主体となって能動的に毎回の手書き、または、アプリケーションソフトを用いて課題を制作する。学生が図的なプレゼンテーションとして各課題を制作する。実験・実習・実技として各自が制作した課題の確認・評価を双方向授業としておこなう。また、毎回の提出する課題に対して、フィードバックとして添削およびコメントをする。</p>
---

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。但し、高等学校教諭一種免許状(工芸)の科目として履修している学生は除く。自筆ノートやスケッチ、データ、各自が制作した課題、および用具等を持ってくる。使用する用具等については、1回目、2回目の授業で解説する。出席を取り終わったあとは欠席とする。</p>
--

<p><b>修学サポート(合理的配慮)</b></p> <p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
<p><b>資格指定科目</b></p> <p>教職課程(工芸)必修科目</p>

評価方法・基準

<p><b>評価前提条件</b></p> <p>単位認定に必要なとなる最低出席回数は、10回以上。</p>												
<p><b>評価方法</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	60%	0%	40%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	60%	0%	40%	0%							

<b>ルーブリック</b>					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
製図の基本となる図表現の方法について理解し表現できる。	板書を写したノートや配付した各課題に関する資料の解説や、製図機やパソコンを用いて示した作図手順通りに作図することが、十分に目標に達成していた。	板書を写したノートや配付した各課題に関する資料の解説や、製図機やパソコンを用いて示した作図手順通りに作図することが、概ね出来ていた。	板書を写したノートや配付した各課題に関する資料の解説や、製図機やパソコンを用いて示した作図手順通りに作図することが、十分ではあるが出来ていた。	板書を写したノートや配付した各課題に関する資料の解説や、製図機やパソコンを用いて示した作図手順通りに作図することが、最低限出来ていた。	板書を写したノートや配付した各課題に関する資料の解説や、製図機やパソコンを用いて示した作図手順通りに作図することが、全く出来ていなかった。
テクニカル・ドローイングの意味合いも含めた製図表現について理解し表現できる。	点線、破線、一点鎖線、寸法線、寸法補助線などの表現と意味を理解し表現することが、十分に目標に達成していた。	点線、破線、一点鎖線、寸法線、寸法補助線などの表現と意味を理解し表現することが、概ね出来ていた。	点線、破線、一点鎖線、寸法線、寸法補助線などの表現と意味を理解し表現することが、十分ではあるが出来ていた。	点線、破線、一点鎖線、寸法線、寸法補助線などの表現と意味を理解し表現することが、最低限出来ていた。	点線、破線、一点鎖線、寸法線、寸法補助線などの表現と意味を理解し表現することが、全く出来ていなかった。
各自が意図したものを製図表現できる。	各自が制作した練習課題や板書を写したノートや配付資料での解説等や実測データをもとに、各自が理解し作図することが十分に目標に達成していた。	各自が制作した練習課題や板書を写したノートや配付資料での解説等や実測データをもとに、各自が理解し作図することが概ね出来ていた。	各自が制作した練習課題や板書を写したノートや配付資料での解説等や実測データをもとに、各自が理解し作図することが十分ではあるが出来ていた。	各自が制作した練習課題や板書を写したノートや配付資料での解説等や実測データをもとに、各自が理解し作図することが最低限出来ていた。	各自が制作した練習課題や板書を写したノートや配付資料での解説等や実測データをもとに、各自が理解し作図することが全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	デザイン製図 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス, デザイン製図の概要, 授業の進め方, 使用する用具等の解説 シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説	シラバスの確認(90分)	ガイダンス, デザイン製図の概要 (90分)
2	製図機の使い方と横線の描き方の練習 使用する用具等の解説	ガイダンス, デザイン製図の概要の確認(90分)	製図機の使い方と横線の描き方の練習(90分)
3	製図機の使い方と縦線の描き方の練習	製図機の使い方と横線の描き方の練習(90分)	製図機の使い方と縦線の描き方の練習(90分)
4	100分の1, 200分の1, 300分の1の寸法記入の練習	製図機の使い方と縦線の描き方の練習(90分)	100分の1, 200分の1, 300分の1の寸法記入の練習(90分)
5	400分の1, 500分の1, 600分の1の寸法記入の練習	100分の1, 200分の1, 300分の1の寸法記入の練習(90分)	400分の1, 500分の1, 600分の1の寸法記入の練習(90分)
6	製図機の使い方と格子線の描き方の練習	400分の1, 500分の1, 600分の1の寸法記入の練習(90分)	製図機の使い方と格子線の描き方の練習(90分)
7	40分の1, 50分の1, 60分の1の寸法記入の練習	製図機の使い方と格子線の描き方の練習(90分)	40分の1, 50分の1, 60分の1の寸法記入の練習(90分)
8	椅子の上面図, 断面図, 正面図のスケッチ	40分の1, 50分の1, 60分の1の寸法記入の練習(90分)	椅子の上面図, 断面図, 正面図のスケッチ(90分)
9	椅子の上面図, 断面図, 正面図の実測	椅子の上面図, 断面図, 正面図のスケッチ(90分)	椅子の上面図, 断面図, 正面図の確認(90分)
10	椅子の上面図	椅子の上面図, 断面図, 正面図の確認(90分)	椅子の上面図(90分)
11	椅子の断面図	椅子の上面図(90分)	椅子の断面図(90分)
12	椅子の正面図	椅子の断面図(90分)	椅子の正面図(90分)
13	CADを用いた椅子の正面図	椅子の正面図(90分)	CADを用いた椅子の正面図(90分)
14	椅子の展開図	CADを用いた椅子の正面図(90分)	椅子の展開図(90分)
15	椅子の紙模型	椅子の紙模型(90分)	椅子の紙模型(90分)
16	講評 課題返却 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項をまとめておく(90分)	評価を受け講義全体の理解を深める(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（楠本）（科目ナンバリング：）				
授業担当者（所属・職名）	楠本 祐弘(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室・アトリエ棟2階クラフト教室		
単位数	2（単位認定責任者：楠本 祐弘）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	ガラス工芸家としての活動	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	複数の技法を扱う制作活動経験を活かし、技法、発想力・デザインの指導を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標
課題に対し、適正な発想展開しデザインする事、安全で効率良い制作作業、作品の説明までを一つの作品制作として行う。それぞれのプロセスの質を高めるよう努める。また素材知識を身につける事と段取りをして効率の良い進め方をする。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。（2024年度） デザイン学科のDP 1、DP 2、DP 3、DP 5に対応する。（2023・2022年度） デザイン学科のDP 2、DP 3、DP 5、DP 6に対応する。（2021年度）

到達目標
ガラスの素材知識を得る事とガラス工芸の手法を理解する。作品を具現化する為の発想展開が出来る。安全確保し、効率よく作業が行える。作品を明確に説明できる。

授業全体の内容と概要
コールドガラス（スタンドグラス・キルンワーク）のテクニック、素材等の理解と作品の製作。ホットガラス（バーナーワーク）による作品製作

授業の方法
講師による技術指導での製作実習

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
安全を確保し、怪我に十分注意し作業する事。作業要点的メモを取る事。 成績を主に作品で評価するため、必ず作品提出する事。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
出席数20回以上及び作品提出にて評価する。発想・作業・完成度・作品説明を考慮して評価。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>90%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	90%	0%	0%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	90%	0%	0%	10%							

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
発想力及びデザイン展開	テーマに対し、ユニークな発想、デザイン展開がスムーズに行えた。	テーマに対し、発想の独自性、デザイン展開の整合性が取れている。	修正を行い制作可能なデザインができた。	スケジュール内にデザインを決められた。	発想が枯渇して、デザインが進まなかった。具現化出来る案がデザインできなかった。
作品制作のプランニング及び理解	作業の目的と要点を把握し、効率良く作業出来た。テーマに対し明快に答えた。	作業の目的と要点を把握し、効率良く作業出来た。	テーマに相応しい形態に仕上げられた。	スケジュール内に作品が完成した。	スケジュール内に作品が完成しなかった。
技術の習得	ガラスの切断が出来る	ガラスを削る事が出来る	デザインに合わせてガラスを切断、切削する事が出来る	工具の使い方を理解する	ガラスを扱うことが出来ない
作品説明の表現	作品説明を的確な言葉使いでできた。形と説明が合致していた。質問に明快に返答できた。	テーマ、コンセプトが理解出来る作品説明ができた。	質問をやりとりして、テーマ、コンセプトが理解出来る作品説明ができた。	作品と制作意図に整合性が弱い。	テーマに対応した説明ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習 (楠本) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	楠本 祐弘(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室・アトリ棟2階クラフト教室		
単位数	2 (単位認定責任者: 楠本 祐弘)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	ガラス工芸家としての活動	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	複数の技法を扱う制作活動経験を活かし、技法、発想力・デザインの指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明・技法説明を行う。	シラバスを読んでおくこと。(45分)	アイデアの素材収集する。(45分)
2	コールドガラス(スタンドグラス技法によるサンキヤッチャー等の製作)-1	アイデアの素材収集する。(45分)	メモを取り要点整理。(45分)
3	コールドガラス(スタンドグラス技法によるサンキヤッチャー等の製作)-2	アイデア、素材の収集(45分)	作業の準備(45分)
4	コールドガラス(スタンドグラス技法によるサンキヤッチャー等の製作)-3	作業の段取りをする。(45分)	作業の準備(45分)
5	コールドガラス(スタンドグラス技法によるサンキヤッチャー等の製作)-4	アイデアの素材収集する。(45分)	作業の準備(45分)
6	コールドガラス(スタンドグラス技法によるサンキヤッチャー等の製作)-5	作業の段取りをする。(45分)	作業の準備(45分)
7	コールドガラス(スタンドグラス技法によるサンキヤッチャー等の製作)-6	アイデアの素材収集する。(45分)	メモを取り要点整理。(45分)
8	コールドガラス(スタンドグラス技法によるサンキヤッチャー等の製作)-7	作業の段取りをする。(45分)	作業の準備(45分)
9	コールドガラス(フュージングによる小物、小皿の製作)-1	アイデアの素材収集する。(45分)	作業の準備(45分)
10	コールドガラス(フュージングによる小物、小皿の製作)-2	作業の段取りをする。(45分)	メモを取り要点整理。(45分)
11	コールドガラス(フュージングによる小物、小皿の製作)-3 ホットガラス(バーナーワーク等)-1	作業の段取りをする。(45分)	作業の準備(45分)
12	コールドガラス(フュージングによる小物、小皿の製作)-4 ホットガラス(バーナーワーク等)-2	作業の段取りをする。(45分)	作業の準備(45分)
13	コールドガラス(フュージングによる小物、小皿の製作)-5 ホットガラス(バーナーワーク等)-3	アイデアの素材収集する。(45分)	作業の準備(45分)
14	コールドガラス(フュージングによる小物、小皿の製作)-6 ホットガラス(バーナーワーク等)-4	作業の段取りをする。(45分)	作業の準備(45分)
15	コールドガラス(フュージングによる小物、小皿の製作)-7 ホットガラス(バーナーワーク等)-5	作業の段取りをする。(45分)	作業の準備(45分)
16	コールドガラス(フュージングによる小物、小皿の製作)-8 ホットガラス(バーナーワーク等)-6	作業の段取りをする。(45分)	作業の準備(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	コールドガラス(フュージングによる小物、小皿の製作)-9 ホットガラス(バーナーワーク等)-7	作業の段取りをする。(45分)	作業の準備(45分)
18	コールドガラス(フュージングによる小物、小皿の製作)-10 ホットガラス(バーナーワーク等)-8	作業の段取りをする。(45分)	作業の準備(45分)
19	コールドガラス(フュージングによる小物、小皿の製作)-11 ホットガラス(バーナーワーク等)-9	作業の段取りをする。(45分)	作業の準備(45分)
20	コールドガラス(フュージングによる小物、小皿の製作)-12 ホットガラス(バーナーワーク等)-10	作業の段取りをする。(45分)	作業の準備(45分)
21	コールドガラス(パート・ド・ヴェールによる立体物の製作)-1	アイデアの素材収集する。(45分)	作業の準備(45分)
22	コールドガラス(パート・ド・ヴェールによる立体物の製作)-2	アイデアの素材収集する。(45分)	作業の準備(45分)
23	コールドガラス(パート・ド・ヴェールによる立体物の製作)-3	作業の段取りをする。(45分)	製作手順の確認
24	コールドガラス(パート・ド・ヴェールによる立体物の製作)-4	作業の段取りをする。(45分)	製作手順の確認
25	コールドガラス(パート・ド・ヴェールによる立体物の製作)-5	作業の段取りをする。(45分)	製作手順の確認
26	コールドガラス(パート・ド・ヴェールによる立体物の製作)-6	作業の段取りをする。(45分)	製作手順の確認
27	コールドガラス(パート・ド・ヴェールによる立体物の製作)-7	作業の段取りをする。(45分)	製作手順の確認
28	コールドガラス(パート・ド・ヴェールによる立体物の製作)-8	作業の段取りをする。(45分)	製作手順の確認
29	コールドガラス(パート・ド・ヴェールによる立体物の製作)-9	作業の段取りをする。(45分)	製作手順の確認
30	コールドガラス(パート・ド・ヴェールによる立体物の製作)-10	作業の段取りをする。(45分)	製作手順の確認
31	コールドガラス(パート・ド・ヴェールによる立体物の製作)-11	作業の段取りをする。(45分)	メモを取り要点整理。(45分)
32	講評会「授業改善アンケートの実施」	プレゼンテーション案(45分)	メモを取り要点整理。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（中島知）（科目ナンバリング：）				
授業担当者（所属・職名）	中島 知之（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室・アトリ工棟	
単位数	2	（単位認定責任者：中島 知之）	CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	作家活動の中で培った陶芸制作技法、経験を学生により分かりやすく伝える。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

日常の中にある「うつわ」をテーマにした陶芸制作を通じ、「陶器」という素材における表現方法と知識、技術を深めることで、美術表現の幅を広げる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。（2024年度）  
 デザイン学科のDP 1、DP 2、DP 3、DP 5に対応する。（2023・2022年度）  
 デザイン学科のDP 2、DP 3、DP 5、DP 6に対応する。（2021年度）

到達目標

陶芸の知識・技法の理解を目標とする。その上で豊かな発想をもって新しく活動を展開する力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

2年次での工芸実習の内容をふまえ、これまでの実習の応用と新しい技術の習得を目指し、電動ろくろでの成形技術の実習を中心に進める。「土ねり」「装飾」「絵付け」「釉掛け」「窯詰め」「窯焚き」なども、作品の制作過程に沿ってより深く学ぶ。それと同時に全国の焼き物、自窯業地などの特色なども学ぶ。

授業の方法

課題作品の説明、実演ののちに各自練習。講師の示す期間内に課題作品提出し作品批評をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題提出期限は厳守。遅刻、欠席の無いよう注意すること。課題作品の提出を課す。課題作品の説明、提出の方法は授業時間に指示する。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

課題提出期限は厳守。遅刻、欠席の無いよう注意すること。課題作品の提出を課す。課題作品の説明、提出の方法は授業時間に指示する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	0%	50%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
陶芸における関心、意欲及び授業態度	授業前事後の学習は、授業中に積極的な質問を行い、作業など積極的な授業態度が出来る。	授業前事後の学習がなされている。授業中の課題、作業をこなしている。また、理解を深めるため真剣に作業に取り組んだ。	授業中の課題、作業をこなしている。また、理解を深めるため真剣に作業に取り組んだ。	授業中の課題、作業をこなした。	授業中の課題、作業をしていない。
陶芸の知識	授業内容を超越する陶芸の知識を積極的に学び理解を深めた。	授業内容における陶芸の知識をほぼ理解した。	授業内容における陶芸の知識をおおむね理解した。	授業内容における陶芸の知識を最低限理解した。	授業内容における陶芸の知識を理解できていない。
陶芸技法の習得度	課題作品に必要な技法を習得し課題を完成させる。そして、より高難度技法の課題に取り組りくんだ。	課題作品に必要な技法をほぼ習得し課題を完成させた。	課題作品に必要な技法をおおむね習得し課題を完成させた。	課題作品に必要な技法を最低限習得し課題課題を完成させた。	課題を完成できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（中島知）（科目ナンバリング：）				
授業担当者（所属・職名）	中島 知之（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室・アトリ工棟		
単位数	2（単位認定責任者：中島 知之）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 作家活動の中で培った陶芸制作技法、経験を学生により分かりやすく伝える。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス説明・授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
2	基本的な陶芸の知識と制作の説明 土ねり指導（荒ねり、菊ねり）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
3	電動ろくろによる作品制作 カップ（電動ろくろによる粘土成型）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
4	電動ろくろによる作品制作 カップ（電動ろくろによる粘土成型）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
5	電動ろくろによる作品制作 カップ（電動ろくろによる粘土成型、装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
6	電動ろくろによる作品制作 カップ（電動ろくろによる粘土成型、装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
7	電動ろくろによる作品制作 カップ（装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
8	電動ろくろによる作品制作 カップ（装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
9	釉がけ、窯詰め、電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
10	釉がけ、窯詰め、電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
11	電動ろくろによる作品制作 茶碗（電動ろくろによる粘土成型、装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
12	電動ろくろによる作品制作 茶碗（電動ろくろによる粘土成型、装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
13	電動ろくろによる作品制作 茶碗（電動ろくろによる装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
14	電動ろくろによる作品制作 茶碗（電動ろくろによる装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
15	電動ろくろによる作品制作 皿（装飾、仕上げ） 釉がけ、窯詰め、電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
16	電動ろくろによる作品制作 皿（装飾、仕上げ） 釉がけ、窯詰め、電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	電動ろくろによる作品制作 皿（装飾、仕上げ） 釉がけ、窯詰め、電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
18	電動ろくろによる作品制作 皿（装飾、仕上げ） 釉がけ、窯詰め、電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
19	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
20	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
21	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型、装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
22	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型、装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
23	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型、装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
24	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型、装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
25	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型、装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
26	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型、装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
27	電動ろくろによる作品制作 花器（装飾、釉がけ、焼成）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
28	電動ろくろによる作品制作 花器（装飾、釉がけ、焼成）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
29	釉がけ、窯詰め、電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
30	釉がけ、窯詰め、電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自で制作作業について振り返る（45分）
31	課題作品の批評会		人の作品を見て自分の作品との違い等についてイメージしておく（45分）
32	課題作品の批評会・まとめ・解説・授業改善アンケートの実施	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（森迫）（科目ナンバリング：）				
授業担当者（所属・職名）	森迫 暁夫（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室・アトリ工棟	
単位数	2	（単位認定責任者：森迫 暁夫）	CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	版画家として活動している教員が、その経験を活かして実践において活用できる様々な版表現の実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調節をし、非常勤講師室などで対応。				

概要

履修目標
------

各課題について考える事を大事に扱う。技術を学ぶ事と版の可能性について考える事、自分の個性を知り、それを磨いていく事。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。（2024年度）  
 デザイン学科のDP 1、DP 2、DP 3、DP 5 に対応する。（2023・2022年度）  
 デザイン学科のDP 2、DP 3、DP 5、DP 6 に対応する。（2021年度）

到達目標

版という制約を知り、制約による美を発見して自己の制作につなげる。

授業全体の内容と概要

間接的な表現や直接的表現など、様々な版を体験する。

授業の方法

授業においては、各課題の説明の後に、実技制作にあたる。各回のテーマごとに課題提出を行い、課題ごとにプレゼンテーションをしてもらう。授業の始めに必ず、主に札幌市で行われている展覧会やイベントの告知をしています。自分にとっての制作の立ち位置や、可能性について考えるためのフィールドワークとして、定期的に展示を見に行くことを目標としたい。そこから自ら調査、個人の制作につなげられるようにしていきたい。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	P B L
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

自由度の高い授業形態で遅刻や欠席についても理由を聞き配慮しますが、しっかりと授業受けるという意識は持ってきてください。筆記用具を持ってこなかったり、ポツポツと欠席、遅刻があったりする場合はこちらから履修を取り消してもらう場合もあります。授業時間以外では、原画、版下などの制作が必要となる。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

なし

評価方法・基準

評価前提条件

自由度の高い授業形態で遅刻や欠席についても理由を聞き配慮しますが、しっかりと授業受けるという意識は持ってきてください。筆記用具を持ってこなかったり、ポツポツと欠席、遅刻があったりする場合はこちらから履修を取り消してもらう場合もあります。課題は多くありませんので全て提出が単位認定の条件となり単位に必要な最低出席回数は、2 2 回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	5 0 %	0 %	5 0 %	0 %

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理解度	自ら進んで取り組み、授業の内容を理解した。	授業の内容を十分理解した。	授業の内容を概ね理解した。	授業の内容を最低限理解した。	授業の内容を理解できなかった。
課題	各課題に対して優先し、きちんと考えて制作している。	課題は全部出していて、十分考えている。	課題を全部出している。そこそこ考えて制作している。	課題を全部出している。	課題を出していない。
オリジナリティーの追求	自分のオリジナリティーを追求できている。	自分のオリジナリティーをそこそこ追求できている。	自分のオリジナリティーが向かを考えられる。	自分のオリジナリティーが最低限考えられている。	何も考えていない。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（森迫）（科目ナンバリング：）				
授業担当者（所属・職名）	森迫 暁夫（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室・アトリ工棟		
単位数	2（単位認定責任者：森迫 暁夫）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	版画家として活動している教員が、その経験を活かして実践において活用できる様々な表現の実習を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 オリエンテーション 授業概要について、授業改善アンケート結果反映の	シラバスを見ておく（45分）	四版式について復習する（45分）
2	オリエンテーションと4版式についての講義。	シラバスを見ておく（45分）	四版式について復習する（45分）
3	消しゴムスタンプで遊ぶ。簡単なスタンプを作り、遊ぶ。	デザインカッター用意。四半式について復習。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
4	消しゴムスタンプで遊ぶ。簡単なスタンプを作り、遊ぶ。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
5	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
6	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
7	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
8	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
9	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
10	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
11	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
12	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
13	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
14	消しゴムスタンプで名刺を作る。名刺交換の基本を学ぶ。プレゼンテーション。	各自資料を用意。（45分）	ケシ版について考える（45分）
15	マーブリング	汚れても良い格好。四版式について復習。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
16	マーブリング	汚れても良い格好。四版式について復習。（45分）	楽しかったことを思い出す。四版式について復習。（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	手形	自分の手について考える。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
18	手形	自分の手について考える。（45分）	押されたものについて考える。（45分）
19	フロッタージュ	B2鉛筆用意。学校内を探検しておく。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
20	フロッタージュ	B2鉛筆用意。学校内を探検しておく。（45分）	課題の意図について考える。（45分）
21	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。原画描き。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
22	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。原画描き。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
23	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
24	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
25	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
26	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
27	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
28	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
29	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。刷り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
30	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。刷り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
31	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。刷り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
32	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。刷り。プレゼンテーション。授業改善アンケートの実	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（45分）	課題から。版画について考える。（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（島田）（科目ナンバリング：）				
授業担当者（所属・職名）	島田 晶夫（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室・アトリ工棟		
単位数	2	（単位認定責任者：島田 晶夫）	CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	木工作家としての活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践に即した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、研究室、非常勤講師室などに対応。				

概要

履修目標
クラフトを課題として、実際にデザインを制作する過程で、木材を主とした素材を体験し、作る楽しさと、それを生活の中で利用する喜びを知る。同時に美と用途を兼ね備える器物「工芸」に対する理解度を深めることができる。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。（2024年度） デザイン学科のDP 1、DP 2、DP 3、DP 5 に対応する。（2023・2022年度） デザイン学科のDP 2、DP 3、DP 5、DP 6 に対応する。（2021年度）

到達目標
使える物を丁寧に作る。ノミ、鉋、ノコの使い方（手工具の使い方）を身につける。

授業全体の内容と概要
木工の工作機械と工具、道具類の使い方を知り、作業手順の大切さと作業後の片付けの大切さを知る。あわせて、刃物の危険性を学ぶ。

授業の方法
実際に作業を見せて説明し、実技を行う。

アクティブラーニングの実施方法						
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
作品の制作が長期にわたるため、制作途中で欠席すると次の作業が不可能になる。途中で欠席すると、作品が完成しないので注意すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
--------

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	80%	0%	0%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	80%	0%	0%	20%							

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
手工具の使い方、授業態度	授業事前事後の学習はもとより、授業中の積極的な取り組み、模範的な授業態度であった。	授業事前事後の学習がなされている。授業中の課題や取り組みをこなしている。また、理解を深めるため内容を真剣に聞いていた。	授業中の課題や作業をこなしている。また、理解を深めるため内容を真剣に聞いていた。	授業中の課題や作業をこなしていた。	授業中着席するものの課題や作業をしていなかった。
木材への知識、理解	授業内容を越える学習を積極的にこなし理解度を深めていた。	授業内容をほぼすべて理解していた。	授業内容の概ねを理解していた。	最低限の授業内容を理解していた。	授業内容を理解できていなかった。
木工作業への展開、安全	授業内容にとどまらず、問題点と課題を把握させ、よいアイデアがでる、安全な作業を展開できた。	授業内容をほぼすべて理解し、安全な作業を展開できた。	授業内容の概ねを理解し、安全な作業を展開できた。	授業内容の一部から安全な作業の展開を見つけていた。	授業内容を理解できていないため、安全な作業を展開することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（島田）（科目ナンバリング：）				
授業担当者（所属・職名）	島田 晶夫（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室・アトリ工棟		
単位数	2（単位認定責任者：島田 晶夫）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	木工作家としての活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践に即した実習を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 授業説明 第一課題「象嵌」	シラバスを読んでおくこと、象嵌作業とは何かを理解しておく。（45分）	説明を受けたことの確認（45分）
2	第一課題 制作 デザインする	前回までの確認を済ませておく（45分）	制作状況の確認。（45分）
3	第一課題 制作 デザインを基に象嵌作業をする	完成までの計画を立てる事。（45分）	制作状況の確認。（45分）
4	第一課題 制作 デザインを基に象嵌作業をする	完成までの計画を立てる事。（45分）	制作状況の確認。（45分）
5	第一課題 制作 デザインを基に象嵌作業をする	完成までの計画を立てる事。（45分）	説明を受けたことの確認（45分）
6	第一課題 制作 デザインを基に象嵌作業をする	完成までの計画を立てる事。（45分）	制作状況の確認。（45分）
7	第一課題 制作 デザインを基に象嵌作業をする	完成までの計画を立てる事。（45分）	制作状況の確認。（45分）
8	第一課題 制作 象嵌作業を終わらせる	完成までの計画を立てる事。（45分）	制作状況の確認。（45分）
9	第一課題 塗装 完成させる	完成までの計画を立てる事。（45分）	制作したものについての自分なりの感想を 考えておく（45分）
10	第一課題 品評会	制作したものについての自分なりの感想を 考えておく（45分）	指摘事項を確認すること。（45分）
11	授業説明 第二課題「三本脚ツール」	「三本脚」とは何かを調べておく。（45分）	説明を受けたことの確認（45分）
12	第二課題 授業説明続き、計画を立てる	前回の説明の確認をしておくこと（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）
13	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）
14	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）
15	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）
16	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）

授業計画				
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）	
17	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）	
18	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）	
19	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）	
20	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）	
21	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）	
22	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）	
23	第二課題 加工 大まかな加工をすべて終わらせる	加工作業の終了の見通しを立てる。（45分）	終了までの見通しの確認と把握をしておく（45分）	
24	第二課題 加工を終了させ、細部の確認をしておく	終了までの見通しの確認と把握をしておく（45分）	作業の遅れないようにする。（45分）	
25	第二課題 細部手直し、組み立て	作業の準備をしておく。（45分）	終了までの見通しの確認と把握をしておく（45分）	
26	第二課題 細部手直し、組み立て	前回の説明の確認をしておく（45分）	組み立て技術を理解しておく。（45分）	
27	第二課題 細部手直し、組み立て	作業の準備をしておく。（45分）	作業の遅れないようにする。（45分）	
28	第二課題 細部手直し、組み立て	作業の準備をしておく。（45分）	組み立て技術を理解しておく。（45分）	
29	第二課題 細部手直し、組み立て	作業の準備をしておく。（45分）	作業の遅れないようにする。（45分）	
30	第二課題 塗装、完成	作業の準備をしておく。（45分）	完成へ向けた準備を行って行く。（45分）	
31	第二課題 解説 授業改善アンケートの実施	全体を通しての質問事項を整理する。（45分）	質問と感想を自分で確認しておくこと（45分）	
32	第二課題 フィードバック	自分の質問と感想を整理しておくこと（45分）	指摘事項を確認すること。（45分）	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（中島義）（科目ナンバリング：）				
授業担当者（所属・職名）	中島 義博（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	アトリエ棟 2階		
単位数	2（単位認定責任者：中島 義博）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

天平の三織（束織、繰織、編織）から束織と繰織の実技体験をする。正倉院御物から伝わる防染技法を体験することによって日本の古代文化に想いを馳せる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。（2024年度）  
 デザイン学科のDP 1、DP 2、DP 3、DP 5に対応する。（2023・2022年度）  
 デザイン学科のDP 2、DP 3、DP 5、DP 6に対応する。（2021年度）

到達目標

染色の歴史の中での防染の位置付けとバリエーションを知る。  
 二つの技法を習得し制作ができる。  
 染料と道具の実践的知識を身につけ正しく使用できる。

授業全体の内容と概要

天平の三織を知り古代の技法に挑戦する。  
 束織は板締め絞り染めとして、繰織はろうけつ染めとしてそれぞれ現代に伝わるが古式に近い作業方法をとる。

授業の方法

視聴覚メディアと板書、作例によって歴史と作業の基礎を学び各自の発想による原画をもとに三織の作品を制作する実技科目である。完成作品の発表を行う機会を設け講評をする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

工具類、染料の使用に対応した服装の用意。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

20回以上の出席と課題作品の完成、提出を求める。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	0%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
防染とは何かを知る。	防染とは何かを詳しく知り作品に応用できた。	防染とは何かを詳しく知っていた。	防染とは何かを知っていた。	防染とは何か、最低限のことを知っていた。	防染とは何かを知らなかった。
二つの技法を習得し制作できる。	二つの技法を習得し優れた作品を制作し、後進に技法を伝えることができた。	二つの技法を習得し優れた作品を制作できた。	二つの技法を習得し制作できた。	どちらか一つの技法を習得し制作できた。	どちらもできなかった。
染料と道具を正しく使用できる。	2種類以上の染料と、今回の道具を全て正しく使用できた。	2種類以上の染料と、今回の道具を全て正しく使用できた。	染料と道具を正しく使用できた。	染料と道具をある程度正しく使用できた。	染料と道具を正しく使用できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（中島義）（科目ナンバリング：）				
授業担当者（所属・職名）	中島 義博（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	アトリエ棟 2階		
単位数	2（単位認定責任者：中島 義博）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
2	夾織課題説明	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
3	実作業による作例（大玉を例として）	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
4	各自方眼紙にデザイン	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
5	締め板作り	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
6	締め板作り	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
7	締め板作り	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
8	締め板作り	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
9	染色作業（植物染料）	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
10	染色作業（植物染料）	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
11	染色作業（重ね）	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
12	染色作業（重ね）	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
13	洗い、定着、乾燥	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
14	作品発表作品発表、講評	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
15	編織課題説明	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
16	実作業による作例（ブロック、筆）	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	各自原画	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
18	各自原画	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
19	原画着色	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
20	原画着色	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
21	染色作業一層め（直接染料）	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
22	染色作業一層め	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
23	染色作業二層め	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
24	染色作業二層め	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
25	染色作業三層め	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
26	染色作業三層め	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
27	修正、加筆	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
28	アイロン脱蠟	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
29	蒸し、脱蠟	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
30	洗い、定着	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
31	作品発表、講評	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
32	課題解説、質疑応答 授業改善アンケートの実施	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	作品を持ち帰り使用または展示し課題を振り返る。（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築設備 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	君 興治(建築学科・特任准教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 君 興治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長として設計監理をしている経験から、躯体、断熱、金物との干渉やスペースの確保、またどのタイミングで設備工事が行われるかをイメージしながら設備計画を進める。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。				

概要

履修目標

建築設備で学んだことを応用し、公共施設や店舗などの規模の設備の計画・作図を学ぶ。利用者や、施工する立場になって、動線を考えた計画、その作図を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)  
 建築学科のDP3、DP4に対応する。(2023・2022年度)  
 建築学科のDP2、DP3に対応する。(2021年度)

到達目標

大規模建築で必要とされる設備の計画ができ、それを正確に図面で表すことができる。

授業全体の内容と概要

給水給湯設備・衛生排水設備・空調設備・電気設備・照明設備について、そのシステムとメカニズムを中心に解説し、その設計手法を学ぶ。  
 「SDG7 エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」  
 「SDG12 つくる責任 つかう責任」  
 これからの時代のエネルギーに合わせた設備設計や設備図面の描き方を指導していく。

授業の方法

授業では、板書やICT(チームスを使用しながら、設備図をオンライン上その場で液晶ペンタブレットで添削し、毎事業ごとに保存することで、授業の課題経過をデジタル的に残し、振り返りの自習を実現する。)を活用しながら事例を紹介し、双方向授業で実施する。  
 また、授業中毎回、設備計画図を提出し添削を行いフィードバックする。  
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業ごとに行われる課題をすべて提出することが単位履修の条件とする。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
住宅よりも設備の種類や数が増す大規模建築において、設備の計画ができ、正確に図面表現ができるようになったか	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。
管理者が管理しやすい設備計画となっているか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。
利用者が使いやすい設備計画となっているか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。
設備の能力上支障がないか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築設備 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	君 興治(建築学科・特任准教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 君 興治)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長として設計監理をしている経験から、躯体、断熱、金物との干渉やスペースの確保、またどのタイミングで設備工事が行われるかをイメージしながら設備計画を進める。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『やさしい建築設備図面の見方・かき方』	千葉 孝男	オーム社	1999	9784274102509	
2	『世界で一番やさしい建築設備』	山田 浩幸	エクスナレッジ	2013	9784767815480	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと (90分)	プリントを読んで理解しておくこと(90分)
2	給水設備・給湯設備とボイラー計画(1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
3	給水設備・給湯設備とボイラー計画(2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
4	給水設備・給湯設備とボイラー計画(3)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
5	衛生設備・排水設備と配管計画(1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
6	衛生設備・排水設備と配管計画(1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
7	衛生設備・排水設備と配管計画(3)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
8	空調調和・排煙設備とダクト計画(1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
9	空調調和・排煙設備とダクト計画(2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
10	空調調和・排煙設備とダクト計画(3)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
11	電気設備と冷暖房計画(1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
12	電気設備と冷暖房計画(2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
13	電気設備と冷暖房計画(3)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
14	照明設備と消火・防災設備計画(1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
15	照明設備と消火・防災設備計画(2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
16	照明設備と消火・防災設備計画(3) 授業改善アンケートの実施	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子ども家庭支援論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照すること				

概要

履修目標

現代家族が抱える諸課題、個々の機能、家族と社会の関係性の形成、家族政策を理解したうえで、効果的な子育て支援方法とは何か、を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3に対応する。(2023年度)

到達目標

家族支援の意義と役割、家庭生活を取り巻く社会的状況、子育て家庭への支援体制、家族形態の多様化と、それに対応した支援方法を学習し、学生自身の身近な地域社会における家庭支援の方法を模索し、現状に即した支援方法を考察し、構築する。

授業全体の内容と概要

家族についての概念、家族変動、現代家族の課題など、家族社会学の基本的概念を学習したうえで、子育て支援ネットワークの事例及び家族システム理論について講義を行う。

授業の方法

各時間ごとに、教員が講義プリントを配布し、それに基づいて講義を行う。配布プリントの内容を教員が説明し、重要事項は黒板に板書する。課題等は特に設定しないが、乳児保育の復習をしておくことが望ましい。学生の要望には可能な限り対応するが、教育上好ましくないと思われる要望には応えられない。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

主体的・積極的な参加を望む。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の最低出席回数10回をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
明治時代以降の、家族の構造・機能変動について理解する。	明治時代からの家族の構造・機能変動について、事例と家族社会学の諸理論を用いて説明できた。	明治時代からの家族の構造・機能変動について、概略を説明できた。	明治時代からの家族の構造・機能変動について、事例を用いて説明できた。	明治時代からの家族の構造・変動についての概略を説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
現代日本における子育てが家族が抱える課題について理解する。	子育てが家族が抱える諸課題と児童虐待発生の関係性を、関係法規と家族社会学理論及びシステム理論を用いて説明できた。	子育てが家族が抱える諸課題と児童虐待発生の関係性を、関係法規を交えて説明できた。	子育てが家族が抱える諸課題と、特に児童虐待発生の関係について説明できた。	子育てが家族が抱える諸課題の概略を説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
子育ての課題を抱えた家族の支援方法について理解する。	地域ネットワーク構築の方法論を、ネットワーク構築理論を用いて説明でき、且つ事例を用いて説明でき、さらに事例に用いられた支援方法の課題を説明できた。	地域ネットワーク構築の方法論を、ネットワーク構築理論を用いて説明でき、且つ、事例を用いて解説できた。	地域ネットワーク構築の方法論を、ネットワーク構築理論を用いて説明できた。	地域ネットワーク構築の方法論の概略を説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子ども家庭支援論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明(授業改善アンケート結果反映の説明)	乳児保育復習(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
2	家族支援の意義と役割1 家族の意義と機能	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
3	家族支援の意義と役割2 家族支援の必要性	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
4	家族支援の意義と役割3 保育士が行う家族支援の原理	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
5	家族生活を取り巻く社会的状況1 現代社会における人間関係の変化	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
6	家族生活を取り巻く社会的状況2 地域社会の変容と家族支援	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
7	家族生活を取り巻く社会的状況3 男女共同参画社会とワークライフバランス	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
8	子育て家族への支援体制1 子育て家族の福祉を図るための社会資源	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
9	子育て家族への支援体制2 子育て支援施設・次世代育成支援施設の推進	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
10	多様な支援の展開と関係機関との連携1 子育て支援サービスの概要	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
11	多様な支援の展開と関係機関との連携2 保育所入所児童の家庭への支援	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
12	多様な支援の展開と関係機関との連携3 地域の子育て家族への支援	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
13	多様な支援の展開と関係機関との連携4 要保護児童及びその家族に関する支援	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
14	多様な支援の展開と関係機関との連携5 子育て支援における関係機関との連携	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
15	多様な支援の展開と関係機関との連携6 子育て支援サービスの課題(授業改善アンケートの実施)	前回プリントの読み込み(90分)	講義全体の総復習(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説を行います)	講義全体の総復習(90分)	自己総括(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	インテリアデザイン (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

インテリアデザインは、建築の専門科目のなかでも、自分の生活からみて身近な対象である。自分の部屋の設えはその基本であるからだ。しかし、その見聞には限界がある。学生はインテリアデザインに関する知識を豊富に習得すること、また人間の生活行動やそれぞれの機能、人それぞれの身体状況に対しどのような計画が必要かを認識し理解することを習得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)  
 建築学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度)  
 建築学科のDP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

一にセンスアップ、二にセンスアップ、三に優しい心を育むことができる。

授業全体の内容と概要

実務と現物に触れることによって、インテリアデザインの現状を把握する。また、内部空間、野外家具(ストリートファニチャー)、店舗ファサードなどについて解説する。それらの空間計画と思想を学ぶと共に、実際の製作を通して発想とプレゼンテーションのトレーニングを行う。

授業の方法

前半は、講義によるインテリアデザインの計画的側面を中心にPPを用いて解説をおこなう。受講時に授業ノート(演習1)をとり授業終了後提出、演習2は自宅学習課題として次週の開始時に提出し、コメントを記したものを後日返却する。後半は、インテリア関係メーカーのショールームの見学(フィールドワーク)を行い、商品や実作に触れインテリアデザインの実態を経験し、そこから得た知見をレポートとしてまとめる。レポート提出後、講義を記述して返却する。基本的に授業は対面で実施するが、不測の事態が起きた際に、授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席して、講義を聴かなければ意味がない。旅行、外出の際は、スケール・カメラまたはクローキープックを所持し、参考になるものを記録する。ショールームなどの視察と調査後は、各自のテーマについての研修事項をレポートとして提出する。作品は模型による提出とする。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)、授業内で行う演習の評価点(平常点)と見学会レポート(レポート)が単位認定(成績評価)の過半を占めるので、授業欠席や演習未提出は不合格に直結する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	0%	0%	30%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ショールームの見学を通じ本物を見て触ってみることで、見学から多くの示唆を受けたことが判断できた。	レポートがすべて提出され見学から多くの示唆を受けたことが判断できた。	レポートがすべて提出され見学から示唆を受けたことが判断できた。	レポートがすべて提出され見学からおおた示唆を受けたことが判断できた。	レポートがすべて提出できた。	見学に参加またはレポートが提出できなかった。
インテリアデザインに関する知識を豊富に習得する。	対象インテリアとそれ以外の視点からグローバルに捉えた成果が演習から確認できた。	インテリアを複数の視点で捉えたことが作成された演習から確認できた。	インテリアをひとつのテーマや視点で捉えた演習を作成できた。	演習を作成し提出できた。	演習が提出されなかったため、知識を修得したことが確認することができなかった。
人間の生活行動やそれぞれの機能、人それぞれの身体状況に対しどのような計画が必要かを認識し理解する。	十分に条件を理解し優れた表現の課題を作成することができた。	条件を理解し優れた表現の課題を作成することができた。	条件を理解した課題を作成することができた。	条件理解に多少の問題があるが課題を作成することができた。	課題を作成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	インテリアデザイン (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、インテリアデザインで学ぶこと	シラバス事前確認(90分)	授業内容の確認(90分)
2	人間工学 家具への応用	予習(教科書確認)(90分)	演習2作成(90分)
3	人間工学 行動・動作	予習(教科書確認)(90分)	演習2作成(90分)
4	光と色	予習(教科書確認)(90分)	演習2作成(90分)
5	内装材・塗装	予習(教科書確認)(90分)	演習2作成(90分)
6	構法と納まり	予習(教科書確認)(90分)	演習2作成(90分)
7	家具デザイン	予習(教科書確認)(90分)	演習2作成(90分)
8	建具・金物	予習(教科書確認)(90分)	演習2作成(90分)
9	ショールーム見学会の説明と模型課題出題	予習(教科書確認)(90分)	模型作成(90分)
10	見学会1 家具メーカー ショールーム	見学場所と道具の確認(90分)	レポート作成(90分)
11	見学会2 テキスタイルメーカー ショールーム	見学場所と道具の確認(90分)	レポート作成(90分)
12	見学会3 住宅総合メーカー ショールーム	見学場所と道具の確認(90分)	レポート作成(90分)
13	見学会4 家具卸会社 ショールーム	見学場所と道具の確認(90分)	レポート作成(90分)
14	見学会5 住宅設備メーカー 工場	見学場所と道具の確認(90分)	レポート作成(90分)
15	模型課題 提出・発表	発表準備(90分)	発表内容の振り返り(90分)
16	総評(提出課題・レポートの確認と講評) 授業改善アンケートの実施	提出作品の最終確認(90分)	総評の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	造形論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が美術、デザインの専門家に必要な基礎的素養としての造形解釈について理解することが目的である。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)  
 デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)  
 デザイン学科のDP1、DP2、DP3に対応する。(2021年度)

到達目標

学生が造形論に関わる内容に関して(最低限の)口頭での発表またはレポート形式で記述することを学ぶことができる。

授業全体の内容と概要

学生が美術、デザインにおける基本的素養としての造形解釈について理解するために授業計画に記載されている「形態と表皮」や「遍在する形態と空間」などの直観的造形の本質に関するテーマに触れ、理解した内容やコンセプト、自らの思考を口頭での発表やレポート形式で記述する。

授業の方法

授業のプレゼンテーションの方法としてパワーポイントを用いて授業を実施し、講義形式で授業をすすめる。毎回の授業の要点を各自が自筆ノートにまとめる。これらをもとに、各自が毎回のテーマについてアクティブラーニングとして各自が自ら主体となって能動的に口頭での発表や、レポート形式で記述(レポート制作)する。  
 学生が、プレゼンテーションとしての口頭での発表やレポート形式で記述を行う。  
 実験・実習・実技として各自が制作した課題レポート(13課題)の確認とアドバイスによる双方向授業を行う。  
 また、毎回の口頭での発表や、レポートに対して、フィードバックとして添削およびコメントをする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。但し、高等学校教諭一種免許状(工芸)の科目として履修している学生は除く。  
 自筆ノートを制作すること。  
 レポートの作成について、特に、ウェブを参考にした場合、その記述について注意すること。  
 出席を取り終わったあとは欠席とする。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工芸)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

10回以上の最低出席回数。および、レポート課題10課題以上の提出の双方。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
造形論における対象が、人間に関わる文化的な表徴であることを理解し表現している。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものが表現されていることについて、十分に目標に達成していた。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものが表現されていることについて、概ね出来ていた。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものが表現されていることについて、不十分ではあるが出来ていた。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものが表現されていることについて、最低限出来ていた。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものが表現されていることについて、全く出来ていなかった。
各回のテーマに対して対象としたものの解説と、さらに自らが対象としたものについての考察の内容が充実している。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの「発明」「発見」的な要素のある内容が含まれていることが、十分に目標に達成していた。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの「発明」「発見」的な要素のある内容が含まれていることが、概ね出来ていた。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの「発明」「発見」的な要素のある内容が含まれていることが、不十分ではあるが出来ていた。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの「発明」「発見」的な要素のある内容が含まれていることが、最低限出来ていた。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの「発明」「発見」的な要素のある内容が含まれていることが、全く出来ていなかった。
レポートとしての構成、内容、および、基本的な記述の形式が正しく表現されている。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、十分に目標に達成していた。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、概ね出来ていた。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、不十分ではあるが出来ていた。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、不十分ではあるが出来ていた。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	造形論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス, 授業の進め方, 単位認定について シラバスの説明 レポートの書き方についての解説	シラバスの確認(90分)	ガイダンス, 授業の進め方についての確認 (90分)
2	形態と表皮 レポートの書き方についての解説	形態と表皮(90分)	形態と表皮(90分)
3	遍在する形態と空間 レポートの書き方についての解説	遍在する形態と空間(90分)	遍在する形態と空間(90分)
4	路上観察で見つかる絵画作品とオブジェ	路上観察で見つかる絵画作品とオブジェ(90分)	路上観察で見つかる絵画作品とオブジェ(90分)
5	透明な造形	透明な造形(90分)	透明な造形(90分)
6	象られた"かたち"	象られた"かたち"(90分)	象られた"かたち"(90分)
7	パターン考	パターン考(90分)	パターン考(90分)
8	白黒のもの	白黒のもの(90分)	白黒のもの(90分)
9	「作品じゃないけど作品に見えるもの」	「作品じゃないけど作品に見えるもの」	「作品じゃないけど作品に見えるもの」
10	プリミティブ志向	プリミティブ志向(90分)	プリミティブ志向(90分)
11	形態の変容	形態の変容(90分)	形態の変容(90分)
12	対の造形	対の造形(90分)	対の造形(90分)
13	埋め尽くそうとする	埋め尽くそうとする(90分)	埋め尽くそうとする(90分)
14	コレクション	コレクション(90分)	コレクション(90分)
15	まとめ レポート提出	コレクション(90分)	まとめ レポート提出(90分)
16	講評 レポート返却 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項をまとめておく(90分)	講義全体を通して質問事項をまとめておく(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	國松 明日香(デザイン学科・客員教授)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 國松 明日香)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

この科目の(課題)では「私の肖像」をテーマに作品を制作する。「私」とは何かという問いかけとそこで見出す自分を造形化することにより、自分自身を客観的に見つめ、よく知っているつもり「私」をもう一度見つめ直すことを目標とする。(課題)ではJR札幌駅東コンコースにある「アートボックス」内に設置する作品の制作をとおして、社会の中でのアートの役割について考察する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)  
 デザイン学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度)  
 デザイン学科のDP2、DP3、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

(課題)では制作をとおして自分自身をよく見つめ、その一部でも理解できるようになることとそれを他者に伝えることができる能力を身につけることができる。  
 (課題)では自分が表現したものが、社会の中でどの様な役割を担うことができるか考えられることができる。

授業全体の内容と概要

(課題)は作品制作をとおして「私」を理解するために、「私の肖像」をテーマに不用になった段ボール箱を素材に立体作品を制作する。「私とは?」という問いをもとにしながら、理解の手がかりになるものを採り調べる。調査したものから作品を構想し、立体作品にするためのアイディアスケッチを制作。その後不要になった段ボール箱を素材として作品を制作する。  
 (課題)はJR札幌駅東コンコースにある「アートボックス」内に設置する彫刻作品の制作。パブリックな空間に美術作品を設置することの意義を理解するため、決められた特殊な空間での作品制作を行う。実際に設置されている「アートボックス」を視察し、併せて周囲の空間を読み取り、作品プランと模型を制作する。

授業の方法

(課題)はパワーポイント及び授業担当者作成の資料を基に課題についてのプレゼンテーションを行う。自分について改めて調べてみたいと思う資料を収集する。併せて自分が興味を惹かれるものを収集する。通学途中に見つけ出す「気になる風景や物」、「魅力を感じた人や物」などを写真に収めたり拾ってきたりする。それらを基に不用になった段ボール箱で「私の肖像」を立体作品として制作する。  
 (課題)はパワーポイント及び担当者作成の資料を基にプレゼンテーションを行う。設置予定となる「アートボックス」の取材。参考になると思われるものを写真に収めたりスケッチなどとする。それらを基に制作用のイメージスケッチをし、作品プランと模型を制作する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

実制作に入ってから、作業に適した服装で受講すること。  
 また北広島市や札幌市の公共空間に設置されている美術作品を機会を見つけて視察しておくこと。  
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
資料の活用(知識の習得)	課題の意味をしっかりと理解し、それに関する確かな調査し、必要な資料等を活用しながら的確に作品に反映させることができた。	課題の意味をしっかりと理解し、それらの資料等の収集に努め、それらの内の数点を的確に作品に反映させることができた。	課題の意味を理解し、資料を複数収集し、それらの資料をよく活用しながら作品に反映させることができた。	資料を収集しそれを活用して作品を完成させることができた。	資料の収集ができなかった。更に作品を完成させることができなかった。
作品とコンセプトの考え方(思考力・表現力)	作品制作のコンセプトが的確であり、それらの表現力に優れ、更に技術力・完成度が高い作品ができた。	作品制作のコンセプトをしっかりと持って、それらの表現力も的確に持ってきており、完成度が高い作品ができた。	作品制作のコンセプトを持っている。それを作品に反映させている作品ができた。	作品制作のコンセプトを持っていて、それを作品に反映させている作品ができた。	作品制作のコンセプトが認められない。更に作品を完成させることができなかった。
プレゼンテーション(表現力)	自分自身が制作した作品について、作品を客観的に眺めることができ、その制作プロセスやコンセプトを他者に的確にプレゼンテーションすることができた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることがしっかりとできた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることがある程度できた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	國松 明日香(デザイン学科・客員教授)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 國松 明日香)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明(課題)に関するオリエンテーション 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(45分)	自分の周辺にある資料の収集(45分)
2	(課題)に関するオリエンテーション	シラバスを読んでおくこと(45分)	自分の周辺にある資料の収集(45分)
3	持参した資料を基に発表	自分の周辺にある資料の収集(45分)	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集(45分)
4	持参した資料を基に発表	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集(45分)	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集(45分)
5	集めた資料などを基にアイデアスケッチの制作	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集(45分)	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集(45分)
6	集めた資料などを基にアイデアスケッチの制作	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集(45分)	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集(45分)
7	段ボール箱による実制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
8	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
9	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
10	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
11	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
12	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
13	作品の完成・プレゼンテーション・講評及び採点	提出すべき作品の確認(45分)	講義全体を振り返り、まとめを行うこと(45分)
14	作品の完成・プレゼンテーション・講評及び採点	提出すべき作品の確認(45分)	講義全体を振り返り、まとめを行うこと(45分)
15	(課題)に関するオリエンテーション	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく(45分)
16	(課題)に関するオリエンテーション	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	アートボックス(札幌駅東コンコース)の現地視察	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく(45分)	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく(45分)
18	アートボックス(札幌駅東コンコース)の現地視察	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく(45分)	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく(45分)
19	世界のパブリックアートについて、パワーポイントを使い講義	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく(45分)	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく(45分)
20	世界のパブリックアートについて、パワーポイントを使い講義	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく(45分)	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく(45分)
21	アイデアスケッチの制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
22	アイデアスケッチの制作	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
23	プレゼンテーションボードの制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
24	プレゼンテーションボードの制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
25	プレゼンテーションボードの完成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
26	プレゼンテーションボードの完成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
27	模型の制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
28	模型の制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
29	模型の制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
30	模型の制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
31	模型の完成・講評及び採点	提出すべき作品の確認(45分)	講義全体を振り返り、まとめを行うこと(45分)
32	模型の完成・講評及び採点 授業改善アンケートの実施	提出すべき作品の確認(45分)	講義全体を振り返り、まとめを行うこと(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子どもの保健 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	宮崎 剛司(社会福祉学科・講師)	研究室等所在	1号館2階常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮崎 剛司)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。人の生命誕生から成長過程を学び、社会の構成員としての子どもを健全に育む意義・保育の役割を説明する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について学ぶ。また、子どもに多い疾病とその予防法及び適切な対応について理解を深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023年度)

到達目標

子どもの健康と保健の意義を理解し、子どもの発育・発達及び子どもの疾病と保育について説明できる。

授業全体の内容と概要

子どもの保健の意義、子どもの健康と心身機能、発育・発達と保健及び子どもに多い疾病と予防について学習する。

授業の方法

講義形式。板書やテキストを活用し、子どもを取り巻く社会問題や背景と関連付けて解説を行う。また、まとめや確認のために小試験やレポートを課題とし、検索後返却し、解答・解説を行いフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	10%	0%	20%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
子どもの保健の意義	子どもの特徴や健康と生命の安全、心身の健やかな育ちを関連させ非常によく理解できた。	子どもの特徴や健康と生命の安全、心身の健やかな育ちを関連させ概ね理解できた。	子どもの特徴や健康、生命の安全や心身の健やかな育ちについて部分的に理解できた。	子どもの特徴や健康、生命の安全、心身の健やかな育ちについて助言により理解できた。	助言しても理解できなかった。
子どもの発育・発達	子どもの発育・発達の原則を列挙し、心身機能、生理・運動機能、社会性の発達過程を詳しく説明できた。	子どもの発育・発達の原則を列挙し、心身機能、生理・運動機能、社会性の発達過程を概ね説明できた。	子どもの発育・発達の原則、心身機能、生理・運動機能、社会性について部分的に説明できた。	子どもの発育・発達の原則、心身機能、生理・運動機能、社会性について助言により説明できた。	助言しても説明できなかった。
子どもに多い疾病	子どもの健康状態の把握方法を学び、子どもに多い病気を列挙し、その病気の特徴や症状・対応について詳しく説明できた。	子どもの健康状態の把握方法を学び、子どもに多い病気を列挙し、その病気の特征や症状・対応について概ね説明できた。	子どもの健康状態の把握方法を学び、子どもに多い病気の対応について部分的に説明できた。	子どもの健康、子どもに多い病気について助言により説明できた。	助言しても説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子どもの保健 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	宮崎 剛司(社会福祉学科・講師)	研究室等所在	1号館2階常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮崎 剛司)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。人の生命誕生から成長過程を学び、社会の構成員としての子どもを健全に育む意義・保育の役割を説明する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『新・基本保育シリーズ 子どもの健康と安全』	児童育成協会/松田博雄	中央法規	2019	9784805857915	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『子どもの健康と安全 改訂第2版』	大西文子	中山書店	2022	9784521749778	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明 子どもの健康と保健の意義(1)	事前に教科書全体に目をとっておく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
2	子どもの健康と保健の意義(2) 健康の概念と健康指標	教科書の「子どもの保健の意義」について事前に読んでおくこと(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
3	子どもの健康と保健の意義(3) 子どもの健康に関する現状と課題	教科書の「子どもの保健の意義」について事前に読んでおくこと(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
4	子どもの健康と保健の意義(4) 地域における保健活動と児童虐待防止	教科書の「子どもの保健の意義」について事前に読んでおくこと(90分)	授業終了時に出す課題についてレポート作成すること(90分)
5	子どもの発育・発達と保健(1) ヒトの成り立ちと身体発育	教科書の「子どもの発育・発達」について事前に読んでおくこと(90分)	返却レポートを見直し子どもの保健の意義を再確認する(90分)
6	子どもの発育・発達と保健(2) 生理機能の発達と保健	教科書の「子どもの発育・発達」について事前に読んでおくこと(90分)	当日の授業で行ったことを復習しておくこと(90分)
7	子どもの発育・発達と保健(3) 子どもの運動機能の発達と保健	教科書の「子どもの発育・発達」について事前に読んでおくこと(90分)	小テストを行うので前半の授業の復習を欠かさぬこと(90分)
8	前半の総括と学習到達度の確認テスト	前半の授業・ノートを見直しテストに臨むこと(90分)	確認テスト問題を見直し自己採点しておく(90分)
9	子どもの精神機能の発達と保健	教科書の「子どもの精神機能の発達」について事前に読んでおくこと(90分)	当日の授業で行ったことを復習しておくこと(90分)
10	子どもの健康状態の把握(1) 健康観察と健康状態把握	教科書の「子どもの健康状態の把握」について事前に読んでおくこと(90分)	当日の授業で行ったことを復習しておくこと(90分)
11	子どもの健康状態の把握(2) 発育・発達の把握と保護者	教科書の「子どもの健康状態の把握」について事前に読んでおくこと(90分)	当日の授業で行ったことを復習しておくこと(90分)
12	子どもの疾病と保育(1) 子どもの疾病の特徴	教科書の「子どもの疾病と保育」について事前に読んでおくこと(90分)	当日の授業で行ったことを復習しておくこと(90分)
13	子どもの疾病と保育(2) 子どもの発達と疾病	教科書の「子どもの疾病と保育」について事前に読んでおくこと(90分)	授業終了時に出す課題について復習すること(90分)
14	子どもの疾病と保育(3) 子どもの疾病の予防と適切な対応	教科書の「子どもの疾病の予防と対応」について事前に読んでおくこと(90分)	授業終了時に出す課題についてレポート作成すること(90分)
15	総括と子どもの保健の課題 授業改善アンケート実施	これまで授業で行ったことを振り返り準備しておくこと(90分)	返却レポート結果を見直し子どもの保健の課題に今後も取り組んでいくこと(90分)
16	定期試験60分の終了後残りの時間で解説	定期試験の準備をすること(90分)	試験の振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習（健康）（科目ナンバリング： ）				
授業担当者（所属・職名）	宮崎 剛司（社会福祉学科・講師）	研究室等所在	1号館2階常勤講師室		
単位数	1（単位認定責任者： 宮崎 剛司）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。子どもの観察を行い、健やかな子どもについて理解を深め、健康を考えた生活習慣と活動（遊び）について演習する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標	養護と教育にかかわる保育内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を養う。また、子どもの発達を保育内容の領域を通して捉え、子ども理解を深めながら「健康」について具体的に学ぶ。																								
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。（2023年度）																								
到達目標	健康な子どもを捉える視点を学び子どもの観察を行い、健康を考えた生活・生活習慣について説明できる。領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動（健康につながる遊び）を提案できる。																								
授業全体の内容と概要	保育内容の各領域を関連させて学ぶことにより、子どもの発達促進、健康生活・活動、安全な生活のための支援方法など健康について具体的に学ぶ。また、子どもの健康と健康を守る力を育むことの必要性を総合的に検討し理解を深める。																								
授業の方法	講義と実習形式。参考図書や配布資料を活用、実施前に基本学習事項、事前課題への取り組み方を提示する。テーマについて説明後、グループワークや課題解決学習の発表・実施、その後レポート提出（2回）を行う。その都度、コメントを返す。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td>○</td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL		模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																		
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																		
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）																		
履修上の注意事項																									

修学サポート（合理的配慮）	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目	保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は6回以上。												
評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	40%	40%	0%	10%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
0%	40%	40%	0%	10%	10%								

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
健康な子どもを捉える視点	子どもの健康把握の視点を学び、生活の中の子どもを観察。その観察結果を非常にまとめ発表できた。	子どもの健康把握の視点を学び、生活の中の子どもを観察。その観察結果を概ねまとめ発表できた。	子どもの健康把握の視点が子どもの観察を行い部分的にまとめることができた。	子どもの健康把握の視点で子どもの観察を行い助言によりまとめることができた。	助言してもまとめることができなかった。
子どもの健康を考えた生活・生活習慣	子どもの健康的な生活と生活習慣獲得過程を項目別に整理し詳しく説明することができた。	子どもの健康的な生活と生活習慣獲得過程を項目別に整理し概ね説明することができた。	子どもの健康的な生活と生活習慣について部分的に整理し説明することができた。	子どもの健康的な生活と生活習慣について、部分的に説明することができた。	助言しても説明できなかった。
領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動	領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動を討議し、非情に良い提案・発表ができた。	領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動を討議し、提案・発表ができた。	領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動を討議し、一部を提案・発表できた。	領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動を助言により提案できた。	助言しても提案できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習（健康）（科目ナンバリング： ）				
授業担当者（所属・職名）	宮崎 剛司（社会福祉学科・講師）	研究室等所在	1号館2階常勤講師室		
単位数	1（単位認定責任者： 宮崎 剛司）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。子どもの観察を行い、健やかな子どもについて理解を深め、健康を考えた生活習慣と活動（遊び）について演習する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『指定はしないが授業の中で随時案内する。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『保育内容「健康」、「子どもの保健」など』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバス説明、授業改善アンケート結果反映の説明。 健康の概念と健やかな子ども、子どもの成長・発達	履修を終えている「保育内容」の概要を理解しておく（90分）	授業で行った課題について調べておく（90分）
2	健康の概念と健やかな子ども 子どもの成長・発達・特徴（子どもの観察）	調べた課題の討議・発表の準備をしておく（90分）	授業で出された課題について要領に沿って調べ、レポート作成する（90分）
3	子どもの健康生活と習慣（生理的欲求と習慣）	討議・発表準備のため十分に予習して授業に臨む（90分）	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し追加修正しておく（90分）
4	子どもの健康生活と習慣（基本的な生活習慣の形成）	指定した参考図書と配布資料を読んでおく（90分）	当日の授業で行った課題について調べ、ノートにまとめておく（90分）
5	健康的な活動と環境構成（健康的な遊びの計画）	指定した参考図書・配布資料を読んでおく（90分）	授業で出された課題について要領に沿って調べ、レポート作成する（90分）
6	健康的な活動と環境構成（健康的な遊びの指導）	発表・実施準備のため十分に予習して授業に臨む（90分）	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し整理しておく（90分）
7	事故防止と安全指導	指定した参考図書・配布資料を読んでおく（90分）	授業で行った課題について調べておく（90分）
8	提出レポート・課題について解説、フィードバックし総括 授業改善アンケートの実施	これまで授業で行ったことを振り返り、準備しておく（90分）	子どもの健康問題や保育課題に今後とも取り組んでいく（90分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	一級対策製図 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	君 興治(建築学科・特任准教授) 向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館4階	
単位数	2	(単位認定責任者: 君 興治)	CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。				

概要

履修目標
国家資格である「一級建築士二次試験(製図試験)」における技量の修得を目的とする。

授業の位置づけ
建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度) 建築学科のDP3、DP4に対応する。(2023・2022年度) 建築学科のDP2、DP3に対応する。(2021年度)

到達目標
一級建築士二次試験で実施される製図試験と記述試験の基礎スキルを修得することができる。

授業全体の内容と概要
提示されたテーマ課題に従い、テキストを参考に製図演習問題を実施、その製図・記述に対し、添削指導により、製図スキルを向上させていく。

授業の方法
実際に一級建築士二次試験(製図試験)で使用するA2サイズの平行定規盤を使用し、与えられた課題を担当教員の指導のもと、期限内に完成させる。完成させた課題については、個別指導を行う。不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
課題は、与えられた期限内に提出すること、平行定規盤は各履修者が用意して毎回持参すること。配布したテキストおよびプリントは毎回持参すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
---

資格指定科目
--------

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要な最低出席回数11回以上。課題はすべて提出のこと。

評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	100%	0%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	100%	0%	0%	0%							

評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	100%	0%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	100%	0%	0%	0%							

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
一級建築士二次試験(製図試験)の過去問題または想定問題に対する正確なエスキスや平面プランの構築できる能力を習得することができる。	設計課題をすべて理解した上で、不備のないエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をすべて理解した上で、エスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をおおむね理解した上で、エスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をある程度理解した上で、エスキスや平面プランを構築できた。	設計課題の内容を理解することができなかった。
記述問題に対する適切な解答を修得することができる。	記述問題に対するすべてを満足させる適切な解答ができた。	記述問題を満足させる適切な解答ができた。	記述問題をおおむね満足させる適切な解答ができた。	記述問題をおおむね満足させる解答ができた。	記述問題をおおむね満足させる解答ができなかった。
限られた時間内に図面を完成することのできる作図スピードとクオリティを修得することができる。	時間内にすべての図面を書き残すことなく完成することができた。	時間内に書き上げることができた。	時間内におおむね書き上げることができた。	時間内にほぼ書き上げることができた。	時間内に完成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	一級対策製図 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	君 興治(建築学科・特任准教授) 向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館4階	
単位数	2	(単位認定責任者: 君 興治)	CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。授業の進め方について説明。テキスト・課題1の配布。	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	授業の作図の継続(90分)
2	課題1 製図トレース 課題2 エスキスの方法	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
3	課題3 製図トレース 課題4 エスキスの方法	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
4	課題5 製図トレース 課題6 エスキスの方法	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
5	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
6	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
7	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
8	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
9	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
10	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
11	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
12	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
13	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
14	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
15	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
16	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
18	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
19	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
20	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
21	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
22	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
23	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
24	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
25	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
26	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
27	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
28	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
29	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
30	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
31	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
32	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の復習(90分)



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	一級建築士演習 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	伊藤 裕康(建築学科・教授)、君 興治(建築学科・特任准教授)、佐々木 哲之(実務経験あり)		研究室等所在	各教員研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	君 興治(実務経験あり)、佐々木 哲之(実務経験あり) 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		君 興治(一級建築士)、佐々木 哲之(一級建築士)		
オフィスアワー	各研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国家資格である一級建築士試験の学科 (環境・設備分野) に合格できる学力の修得を目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)  
 建築学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度)  
 建築学科のDP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

提示された一級建築士試験の学科 各分野の過去問題に対し、解答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要

「SDG3、すべての人に健康と福祉を」と「SDG11、住み続けられるまちづくりを」の関連授業。  
 一級建築士試験の学科 (環境・設備分野) に出題される内容について、小テストを実施し、その解説書に基づいて復習を行う。

授業の方法

授業では、各章の問題をテスト形式で実施し、次回にその解説を行う。事前学習と各章の小テストの解説によって理解を深める。  
 不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

建築プロフェッショナル専攻の一級建築士特別養成コース学生のみ履修可能。  
 毎回、テキストを必ず持参すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則、全ての授業に出席すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
30%	0%	0%	70%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題を半分程度解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題内容を理解することができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題内容を理解することができなかった。
建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題を半分程度解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題内容を理解することができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題内容を理解することができなかった。
環境・設備融合分野の用語の定義と各項目の理解	環境・設備融合分野の用語の定義と各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	環境・設備融合分野の用語の定義と各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	環境・設備融合分野の用語の定義と各項目の理解に関する問題を半分程度解くことができた。	環境・設備融合分野の用語の定義と各項目の理解に関する問題内容を理解することができた。	環境・設備融合分野の用語の定義と各項目の理解に関する問題内容を理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	一級建築士演習 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	伊藤 裕康(建築学科・教授)、君 興治(建築学科・特任准教授)、佐々木	研究室等所在	各教員研究室		
単位数	1 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	君 興治(実務経験あり)、佐々木 哲之(実務経験あり)	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	君 興治(一級建築士)、佐々木 哲之(一級建築士)		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	*1級建築士学科テキスト 学科 環境・設備		日建学院	2023		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明/問題(環境・換気・伝熱・結露)(伊藤・佐々木)	試験範囲の学習(45分)	試験内容の確認(45分)
2	問題(環境・換気・伝熱・結露)の解説(伊藤・佐々木)	試験問題の復習(45分)	試験範囲の復習(45分)
3	問題(日照・日影・日射・採光・色彩)(佐々木)	試験範囲の学習(45分)	試験内容の確認(45分)
4	問題(日照・日影・日射・採光・色彩)の解説(佐々木)	試験問題の復習(45分)	試験範囲の復習(45分)
5	問題(音響・環境工学融合)(伊藤)	試験範囲の学習(45分)	試験内容の確認(45分)
6	問題(音響・環境工学融合)の解説(伊藤)	試験問題の復習(45分)	試験範囲の復習(45分)
7	問題(空気調和設備)(君)	試験範囲の学習(45分)	試験内容の確認(45分)
8	問題(空気調和設備)の解説(君)	試験問題の復習(45分)	試験範囲の復習(45分)
9	問題(給排水衛生設備・電気・輸送設備)(君)	試験範囲の学習(45分)	試験内容の確認(45分)
10	問題(給排水衛生設備・電気・輸送設備)の解説(君)	試験問題の復習(45分)	試験範囲の復習(45分)
11	問題(照明設備・消火防火設備)(君)	試験範囲の学習(45分)	試験内容の確認(45分)
12	問題(照明設備・消火防火設備)の解説(君)	試験問題の復習(45分)	試験範囲の復習(45分)
13	問題(環境・設備融合)(君)	試験範囲の学習(45分)	試験内容の確認(45分)
14	問題(環境・設備融合)の解説(君)	試験問題の復習(45分)	試験範囲の復習(45分)
15	定期試験/授業改善アンケートの実施(伊藤・君・佐々木)	試験範囲全体の復習(45分)	試験内容の確認(45分)
16	定期試験の解説(伊藤・君・佐々木)	試験問題の復習(45分)	試験範囲の復習(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・デザイン学科・建築学科 4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	教育相談(カウンセリング)を (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	蝦名 美穂(社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 蝦名 美穂)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、スクールカウンセラーとしての経験を踏まえて、講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくは事前にチャットにて連絡後調整をし、研究室にて対応。				

概要

履修目標
現代社会の変容の中で、児童生徒の抱える問題が多様化し、深刻化する傾向も見られる。こうした様々な問題に対して、学校の対応が求められている。その現状を踏まえ、「チーム学校」の一員として対応するために必要な教育相談の進め方について学び、こどもの不応問題に対しての基礎知識を習得する。
授業の位置づけ
経営学科のDP2, DP4に対応する科目(2021年度)。 デザイン学科のDP2, DP3に対応する科目(2021年度)。 建築学科のDP3に対応する科目(2021年度)。

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談の基本的な進め方について理解する。</li> <li>こどもの不応行動について理解する。</li> <li>支援をする上で利用可能なリソースを知る。</li> <li>対応するために教師、スクールソーシャルワーカーとしてできることを自分なりに考える。</li> </ul>

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談の基本的な進め方について理解する。</li> <li>こどもの不応行動について理解する。</li> <li>支援をする上で利用可能なリソースを知る。</li> <li>対応するために教師、スクールソーシャルワーカーとしてできることを自分なりに考える。</li> </ul>

授業全体の内容と概要
学校教育における教育相談の意義、役割について学ぶ。こどもの不応に関する授業の際には、事前に授業で取り上げる事柄について自ら調べるなどして、受講生は関心を高める努力をする。そして、実際に対応に必要なことは何かを考える。 「SDG.4質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
授業では、教科書、パワーポイント、配布資料などを使用して、講義形式で行う(グループワーク、ロールプレイ、ディスカッション含む)。授業の終わりに質問や感想(リアクションシート)をteamsの課題から提出する。質問は随時受け付ける。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
授業の進行を妨害するような行為、他の受講者の迷惑となる行為を慎む。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。テキストを必ず購入すること。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
教職課程(全教科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は11回とする。レポート、授業態度等、授業の終わりに提出する感想等(リアクションシート)を評価の対象とする。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	60%	0%	0%	40%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	60%	0%	0%	40%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等を見ずに説明することができた。</td> <td>授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等を見ながら説明することができた。</td> <td>授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等の中から探すことができるようにノートや資料がまとめられた。</td> <td>授業で扱った内容について、ノートにまとめることができた。</td> <td>授業で扱った内容について、ノートにまとめることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>知識の応用</td> <td>授業で学んだ知識を利用して、学校で起こる教育的諸課題について、資料等を見ずに説明することができた。</td> <td>授業で学んだ知識を利用して、学校で起こる教育的諸課題について、資料等を見ずに説明することができた。</td> <td>学校で起こっている教育的諸課題について、資料等から探し出すことができた。</td> <td>学校で起こっている教育的諸課題について、キーワードを見つけることができた。</td> <td>左記の内容が何一つすることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>授業に主体的に取り組む態度(リアクションシート含む)</td> <td>授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想だけでなく、疑問点を明確にすることができ、自分なりの考えを述べられた。</td> <td>授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想を述べ、疑問点を明確にすることができた。</td> <td>授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想を述べられた。</td> <td>授業内容を振り返り感想を述べられた。</td> <td>左記の内容が何一つすることができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・理解	授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等を見ずに説明することができた。	授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等を見ながら説明することができた。	授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等の中から探すことができるようにノートや資料がまとめられた。	授業で扱った内容について、ノートにまとめることができた。	授業で扱った内容について、ノートにまとめることができなかった。	知識の応用	授業で学んだ知識を利用して、学校で起こる教育的諸課題について、資料等を見ずに説明することができた。	授業で学んだ知識を利用して、学校で起こる教育的諸課題について、資料等を見ずに説明することができた。	学校で起こっている教育的諸課題について、資料等から探し出すことができた。	学校で起こっている教育的諸課題について、キーワードを見つけることができた。	左記の内容が何一つすることができなかった。	授業に主体的に取り組む態度(リアクションシート含む)	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想だけでなく、疑問点を明確にすることができ、自分なりの考えを述べられた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想を述べ、疑問点を明確にすることができた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想を述べられた。	授業内容を振り返り感想を述べられた。	左記の内容が何一つすることができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識・理解	授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等を見ずに説明することができた。	授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等を見ながら説明することができた。	授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等の中から探すことができるようにノートや資料がまとめられた。	授業で扱った内容について、ノートにまとめることができた。	授業で扱った内容について、ノートにまとめることができなかった。																								
知識の応用	授業で学んだ知識を利用して、学校で起こる教育的諸課題について、資料等を見ずに説明することができた。	授業で学んだ知識を利用して、学校で起こる教育的諸課題について、資料等を見ずに説明することができた。	学校で起こっている教育的諸課題について、資料等から探し出すことができた。	学校で起こっている教育的諸課題について、キーワードを見つけることができた。	左記の内容が何一つすることができなかった。																								
授業に主体的に取り組む態度(リアクションシート含む)	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想だけでなく、疑問点を明確にすることができ、自分なりの考えを述べられた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想を述べ、疑問点を明確にすることができた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想を述べられた。	授業内容を振り返り感想を述べられた。	左記の内容が何一つすることができなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・デザイン学科・建築学科 4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	教育相談(カウンセリング)を (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	蝦名 美穂(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 蝦名 美穂)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、スクールカウンセラーとしての経験を踏まえて、講義を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ガイドブック あつまれ!みんなで取り組む教育相談 ケース理解&チームづくりスキルアップ』	益子洋人・平野直己	明石書店	2022	978-4-7503-5462-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『深掘り!関係行政論 教育分野 公認心理師必修』	高坂 康雄	北大路書房	2021	978-4-7628-3178-2	
2	『「支える生徒指導」の始め方』	新井 肇	教育開発研究所	2023	9784865608052	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明, 授業改善アンケート結果反映の説明 教育相談とは	教育相談について調べる(90分)	授業で学ぶ内容について振り返る(90分)
2	教育相談におけるチームづくり 学校組織の内外に於ける教	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
3	教育相談におけるチームづくり 学校組織の内外に於ける教	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
4	教育相談におけるチームづくり 学校組織の内外に於ける教	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
5	対応の基本スキルを学ぶ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
6	対応の基本スキルを学ぶ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
7	対応の基本スキルを学ぶ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
8	学校で起きる諸課題の特徴 いじめ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
9	学校で起きる諸課題の特徴 不登校	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
10	学校で起きる諸課題の特徴 発達障害	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
11	学校で起きる諸課題の特徴 アタッチメントに関わる課題	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
12	学校で起きる諸課題の特徴 児童虐待	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
13	学校で起きる諸課題の特徴 自然災害	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
14	学校で起きる諸課題の特徴 「危機」対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
15	学校で起きる諸課題の特徴 保護者支援	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
16	レポート作成についての説明。質疑応答。授業改善アンケートの実施。	レポート作成についての準備・疑問点の整理(90分)	レポート作成(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	教育相談(カウンセリング)を (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	蝦名 美穂(社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 蝦名 美穂)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、スクールカウンセラーとしての経験を踏まえて、講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくは事前にチャットにて連絡後調整をし、研究室にて対応。				

概要

履修目標
現代社会の変容の中で、児童生徒の抱える問題が多様化し、深刻化する傾向も見られる。こうした様々な問題に対して、学校の対応が求められている。その現状を踏まえ、「チーム学校」の一員として対応するために必要な教育相談の進め方について学び、こどもの不応問題に対しての基礎知識を習得する。

授業の位置づけ
社会福祉学部のDP 1, DP 2, DP 4, DP 5, DP 6, DP 7, DP 9に対応する科目(2021年度)

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談の基本的な進め方について理解する。</li> <li>こどもの不応行動について理解する。</li> <li>支援をする上で利用可能なリソースを知る。</li> <li>対応するために教師、スクールソーシャルワーカーとしてできることを自分なりに考える。</li> </ul>

授業全体の内容と概要
<p>学校教育における教育相談の意義、役割について学ぶ。こどもの不応に関する授業の際には、事前に授業で取り上げる事柄について自ら調べるなどして、受講生は関心を高める努力をする。そして、実際に対応に必要なことは何かを考える。</p> <p>「SDG. 4 質の高い教育をみんなに」の関連科目。</p>

授業の方法
<p>授業では、教科書、パワーポイント、配布資料などを使用して、講義形式で行う(グループワーク、ロールプレイ、ディスカッション含む)。授業の終わりに質問や感想(リアクションシート)をteamsの課題から提出する。質問は随時受け付ける。</p>

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
<p>授業の進行を妨害するような行為、他の受講者の迷惑となる行為を慎む。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。 テキストを必ず購入すること。</p>

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程(全教科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
<p>単位認定に必要な最低出席回数は11回とする。 レポート、授業態度等、授業の終わりに提出する感想等(リアクションシート)を評価の対象とする。</p>												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	60%	0%	0%	40%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	60%	0%	0%	40%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等を見ずに説明することができた。</td> <td>授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等を見ながら説明することができた。</td> <td>授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等の中から探すことができるようにノートや資料がまとめられた。</td> <td>授業で扱った内容について、ノートにまとめることができた。</td> <td>授業で扱った内容について、ノートにまとめることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>知識の応用</td> <td>授業で学んだ知識を利用して、学校で起こる教育的諸課題について、資料等を見ずに説明することができた。</td> <td>授業で学んだ知識を利用して、学校で起こる教育的諸課題について、資料等を見て説明することができた。</td> <td>学校で起こっている教育的諸課題について、資料等から探し出すことができた。</td> <td>学校で起こっている教育的諸課題について、キーワードを見つけることができた。</td> <td>左記の内容が何一つすることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>授業に主体的に取り組む態度(リアクションシート含む)</td> <td>授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想だけでなく、疑問点を明確にすることができ、自分なりの考えを述べられた。</td> <td>授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想を述べ、疑問点を明確にすることができた。</td> <td>授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想を述べられた。</td> <td>授業内容を振り返り感想を述べられた。</td> <td>左記の内容が何一つすることができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・理解	授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等を見ずに説明することができた。	授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等を見ながら説明することができた。	授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等の中から探すことができるようにノートや資料がまとめられた。	授業で扱った内容について、ノートにまとめることができた。	授業で扱った内容について、ノートにまとめることができなかった。	知識の応用	授業で学んだ知識を利用して、学校で起こる教育的諸課題について、資料等を見ずに説明することができた。	授業で学んだ知識を利用して、学校で起こる教育的諸課題について、資料等を見て説明することができた。	学校で起こっている教育的諸課題について、資料等から探し出すことができた。	学校で起こっている教育的諸課題について、キーワードを見つけることができた。	左記の内容が何一つすることができなかった。	授業に主体的に取り組む態度(リアクションシート含む)	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想だけでなく、疑問点を明確にすることができ、自分なりの考えを述べられた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想を述べ、疑問点を明確にすることができた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想を述べられた。	授業内容を振り返り感想を述べられた。	左記の内容が何一つすることができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識・理解	授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等を見ずに説明することができた。	授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等を見ながら説明することができた。	授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等の中から探すことができるようにノートや資料がまとめられた。	授業で扱った内容について、ノートにまとめることができた。	授業で扱った内容について、ノートにまとめることができなかった。																								
知識の応用	授業で学んだ知識を利用して、学校で起こる教育的諸課題について、資料等を見ずに説明することができた。	授業で学んだ知識を利用して、学校で起こる教育的諸課題について、資料等を見て説明することができた。	学校で起こっている教育的諸課題について、資料等から探し出すことができた。	学校で起こっている教育的諸課題について、キーワードを見つけることができた。	左記の内容が何一つすることができなかった。																								
授業に主体的に取り組む態度(リアクションシート含む)	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想だけでなく、疑問点を明確にすることができ、自分なりの考えを述べられた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想を述べ、疑問点を明確にすることができた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想を述べられた。	授業内容を振り返り感想を述べられた。	左記の内容が何一つすることができなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	教育相談(カネリガ)を (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	蝦名 美穂(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 蝦名 美穂)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、スクールカウンセラーとしての経験を踏まえて、講義を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ガイドブック あつまれ!みんなで取り組む教育相談 ケース理解&チームづくりスキルアップ』	益子洋人・平野直己	明石書店	2022	978-4-7503-5462-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『深掘り!関係行政論 教育分野 公認心理師必修』	高坂 康雄	北大路書房	2021	978-4-7628-3178-2	
2	『「支える生徒指導」の始め方』	新井 肇	教育開発研究所	2023	9784865608052	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明, 授業改善アンケート結果反映の説明 教育相談とは	教育相談について調べる(90分)	授業で学ぶ内容について振り返る(90分)
2	教育相談におけるチームづくり 学校組織の内外に於ける教	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
3	教育相談におけるチームづくり 学校組織の内外に於ける教	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
4	教育相談におけるチームづくり 学校組織の内外に於ける教	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
5	対応の基本スキルを学ぶ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
6	対応の基本スキルを学ぶ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
7	対応の基本スキルを学ぶ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
8	学校で起きる諸課題の特徴 いじめ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
9	学校で起きる諸課題の特徴 不登校	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
10	学校で起きる諸課題の特徴 発達障害	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
11	学校で起きる諸課題の特徴 アタッチメントに関わる課題	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
12	学校で起きる諸課題の特徴 児童虐待	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
13	学校で起きる諸課題の特徴 自然災害	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
14	学校で起きる諸課題の特徴 「危機」対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
15	学校で起きる諸課題の特徴 保護者支援	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
16	レポート作成についての説明。質疑応答。授業改善アンケートの実施。	レポート作成についての準備・疑問点の整理(90分)	レポート作成(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	映像表現 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	映像制作の実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして映像制作の基礎から応用までを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

映像分野について、そのメディアも含めて知識を深め、設計作業を通じて、そのデザイン工程を正しく理解する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)  
 デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4に対応する。(2023・2022年度)  
 デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

映像制作を行う上で、一般的な作業工程と既成の作品を分析し、必要な業務内容やスタッフの役割分担を認識して、作品の完成度を上げるための基本的な方法論を用いることができる。

授業全体の内容と概要

映像史を含めた作品研究を行い、様々な技術の成り立ちや演出法の発達にふれることで基本から応用までの流れを吸収する。さらに、シナリオやストーリーボードの作成を通して適切な情報提供が行える映像作品の設計と制作工程を学ぶ。  
 『SDGs・産業と技術革新の基盤をつくろう』の関連授業。

授業の方法

1～10回までは様々な過去の映像作品を資料としたPowerPointを用いて講義形式の授業を行う。毎回のレポートは、其々の注目すべき点を取り上げて調査・分析し、映像制作に必要な知識を積み上げることを目的として作成する。質問に対しては随時対応し、レポートについては次回授業の導入に於いて講評を行う。  
 11～15回は、それまでに得た知識を基にして、実際に映像作品を構想し、設計する。その際に、専用の用紙を必要枚数配布し、それを用いて映像の設計(ストーリーボードの作成)を行う。完成したストーリーボードは各自のプレゼンテーションとする。  
 前回は随時対応し、作画やト書きなどの表現的指導は個別に行う。授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業内で提示される資料映像は、授業時間の関係もあるため、断片での紹介になる。よって、時間外では可能な限り全編を観る努力をしなければならない。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

教職課程(美術)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能「映像史を基にした映像の表現や技法を系統的に理解できている」	映像の成り立ちや理論を正しく理解し、設計作業に於いては、それを反映させ充実した表現を思案することができた。	映像の成り立ちや理論を理解し、設計作業に於いては、それを表現に反映させ、内容の充実に図ることができた。	映像の成り立ちや理論を理解し、設計作業に於いては、内容を十分に理解し、内容を不完全だった。	映像の成り立ちや理論の理解が不十分であり、関連付けが不十分であり、内容が不十分であった。	映像の成り立ちや理論が理解できず、設計作業ができていなかった。
思考力・判断力・表現力「参考資料によって提示された様々な知識を基にして映像作品の設計が行える」	与えられた参考資料を徹底して読み解き、そこから自らの表現を編み出すことができた。	与えられた参考資料の分析は適切である。それを自らの表現に応用しようとする意識は見えた。	与えられた参考資料の分析は行っているが、自らの表現に応用する意識は低かった。	与えられた参考資料を理解が不十分のため、自らの表現に応用する意識が持てなかった。	与えられた参考資料を理解できなかった。
主体性・多様性・協働性「映像によって提供される情報の形態を理解し、適切な情報の構築が行える」	映像による情報提供や問題解決のために必要な対応ができており、表現や技法の実験に積極的であった。	映像による情報提供や問題解決に努力し、表現や技法の実験に取り組む必要性も理解していた。	映像による情報提供や問題解決のために必要な対応が不十分で、表現や技法の実験に積極的ではなかった。	映像による情報提供や問題解決のために必要な対応が不十分で、表現や技法の実験が適切に行えていなかった。	映像による情報提供や問題解決ができなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	映像表現 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 映像制作の実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして映像制作の基礎から応用までを指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス-シラバス及び授業改善アンケート結果 反映の説明 映像の学び方	シラバスを一読しておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
2	「サイレントピクチャー」 完成形とは何か?	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持つ ておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
3	「トーキングピクチャー」 新旧技術の対比 総合芸術としての映像	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持つ ておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
4	「SFX(特殊効果撮影)の誕生」 カメラ技術によるトリック映像撮影	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持つ ておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
5	「VFX(特殊効果撮影)の効果」 リアルから誇張表現	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持つ ておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
6	「アニメーションの進化」 作画+合成による進化	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持つ ておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
7	「サウンド表現」 音響作家の仕事	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持つ ておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
8	「感情操作」 観客の喜怒哀楽を操作する	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持つ ておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
9	「シナリオ、演出、撮影」 著名な監督の演出方法を分析する	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持つ ておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
10	ストーリーボード(絵コンテ) 用紙の使い方	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持つ ておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
11	映像の設計 ストーリーボードの作成	前週に配布された用紙の複製をおこなっておくこと (45分)	構想-ラフ作成(45分)
12	映像の設計 ストーリーボードの作成	作業進捗の確認と調整。資料映像の再確認(45分)	期間内に課題提出可能なスケジュール設定で、時間 外制作を行うこと(45分)
13	映像の設計 ストーリーボードの作成	作業進捗の確認と調整。資料映像の再確認(45分)	期間内に課題提出可能なスケジュール設定で、時間 外制作を行うこと(45分)
14	映像の設計 ストーリーボードの作成	作業進捗の確認と調整。資料映像の再確認(45分)	期間内に課題提出可能なスケジュール設定で、時間 外制作を行うこと(45分)
15	映像の設計 ストーリーボードの作成	作業進捗の確認と調整。資料映像の再確認(45分)	期間内に課題提出可能なスケジュール設定で、時間 外制作を行うこと(45分)
16	映像の設計 ストーリーボードの講評 授業改善アンケートの実施	完成したストーリーボードの自己評価(45分)	ストーリーボードの映像化をシミュレーションする (45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	一級建築士演習 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授) 佐々木 哲之(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	安藤淳一(佐々木哲之(実務経験あり))	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	安藤淳一(一級建築士取得教員) 佐々木哲之(一級建築士取得教員)		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

将来受験する一級建築士試験(学科1計画)に合格するための受験対策を目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)  
 建築学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度)  
 建築学科のDP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

一級建築士学科試験(学科1計画)合格

授業全体の内容と概要

建築計画に係る内容が単元ごとにまとめられているテキストと問題集を用いて、試験問題に取り組み、終了後自己採点をおこなう。単元ごとのポイント、出題問題のポイントについてテキストならびに問題集の解説をもとに説明をおこなう。

授業の方法

各自単元ごとの試験問題に取り組み、解答終了後自己採点をおこなう。終了後、問題内容の解説をおこなう。基本的に授業は対面で実施するが、不測の事態が起きた際に、授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○ その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

本科目を履修できるのは一級建築士特別養成コースの学生のみ  
 テキストは毎回持参のこと

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則、全ての授業に出席すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	80%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
各種建築に求められる役割とそのための空間構成が理解できる。	主要事項と関連する事項についても理解できている	完璧に理解できている	理解できている	なんとか理解できている	理解できていない
各種建築の規模・空間の大きさ・高さをはじめとする数値に係ることが理解できる。	主要事項と関連する事項についても理解できている	完璧に理解できている	理解できている	なんとか理解できている	理解できていない
社会状況の変化に伴い建築に求められる新たな課題や専門的用語を理解できる。	主要事項と関連する事項についても理解できている	完璧に理解できている	理解できている	なんとか理解できている	理解できていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	一級建築士演習 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授) 佐々木 哲之(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	安藤淳一・佐々木哲之(実務経験あり)	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	安藤淳一(一級建築士取得教員) 佐々木哲之(一級建築士取得教員)		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『1級建築士学科テキスト 学科 計画』		日建学院	2023		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業ガイダンス 担当 安藤 佐々木	事前配布資料の確認(45分)	ガイダンス説明内容の確認(45分)
2	第1章 建築基本計画 担当 安藤	対象内容の予習(45分)	回答結果の振り返りと復習(45分)
3	第2章 住宅建築計画 担当 安藤	対象内容の予習(45分)	回答結果の振り返りと復習(45分)
4	第3章 公共建築計画 担当 安藤	対象内容の予習(45分)	回答結果の振り返りと復習(45分)
5	第4章 商業建築計画 担当 安藤	対象内容の予習(45分)	回答結果の振り返りと復習(45分)
6	第5章 公共・商業建築計画融合 担当 安藤	対象内容の予習(45分)	回答結果の振り返りと復習(45分)
7	第6章 建築計画一般 担当 安藤	対象内容の予習(45分)	回答結果の振り返りと復習(45分)
8	第7章 建築積算 担当 佐々木	対象内容の予習(45分)	回答結果の振り返りと復習(45分)
9	第8章 建築生産 担当 佐々木	対象内容の予習(45分)	回答結果の振り返りと復習(45分)
10	第9章 都市計画 担当 安藤	対象内容の予習(45分)	回答結果の振り返りと復習(45分)
11	第10章 建築史 担当 安藤	対象内容の予習(45分)	回答結果の振り返りと復習(45分)
12	建築計画 振り返り1 担当 安藤	対象内容の予習(45分)	回答結果の振り返りと復習(45分)
13	建築計画 振り返り2 担当 安藤	対象内容の予習(45分)	回答結果の振り返りと復習(45分)
14	建築計画 振り返り3 担当 安藤 佐々木	対象内容の予習(45分)	回答結果の振り返りと復習(45分)
15	建築計画 振り返り4 担当 安藤 佐々木	対象内容の予習(45分)	回答結果の振り返りと復習(45分)
16	総括	受講結果・成績の確認(45分)	最終結果の確認と振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標
建築の外構空間やアプローチ空間の再構成をテーマとした課題に取り組む。さらに、建築模型課題では外観から内部空間までを製作の対象とし、細かな材質感の表現のほか、模型写真を用いたプレゼン表現や、建築透視図の表現力を修得する。

授業の位置づけ
建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度) 建築学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度) 建築学科のDP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標
建築表現や模型の基本的な技術はすでに習得していることを前提として、道具・材料の選択から表現方法まで、模型による多様な表現能力の向上を、空間構成では製図ペンを用いた表現能力修得と透視図技法の理解することができる。

授業全体の内容と概要
建築模型課題については、作品完成後に模型と模型写真を用いたプレゼンテーションボードによる作品講評をおこなう。空間構成については、課題ごとに講評会をおこなう。未完成の場合、次の授業開始時まで完成させたものに限り受け付ける。

授業の方法
シリーズごとに課題の目的・到達目標等について説明をし、課題制作に取り組む。課題のシリーズ終了ごとに講評会を開催し、各自作品のプレゼンテーションをおこない、その後指導教員が講評・評価をおこなう。原則授業にはすべて出席し、授業時間内に課題制作をおこなうこと。基本的に授業は対面で実施するが、不測の事態が起きた際に、授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
実技科目であるため、全授業に出席し期限内に課題を製作し提出すること。また作品講評会に出席し自分の作品の解説(プレゼンテーション)することも評価する。原則授業にはすべて出席し、授業時間内に課題制作をおこなうこと。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
原則毎回出席する(ただし最低出席回数10回以上)こととし、積極的に課題に取り組むこと。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>85%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>15%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	85%	0%	0%	15%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	85%	0%	0%	15%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を越えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建築表現や模型の基本的技術を習得していることを前提とし、道具・材料の選択から模型による多様な表現能力を修得する。</td> <td>道具と材料の選択に対し最適な判断のうえで制作できた。</td> <td>道具と材料の選択を自己判断でおこない制作できた。</td> <td>道具と材料の選択をおおむね自己判断でおこない制作できた。</td> <td>道具と材料の選択をし制作できた。</td> <td>模型の製作することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>製図用インクペンを用いた手書きでの空間構成の表現力と透視図技法を修得する。</td> <td>透視図法を完璧に理解した上での表現ができた。</td> <td>透視図法を理解した上での表現ができた。</td> <td>透視図法をおおむね理解した上での表現ができた。</td> <td>透視図法で表現ができた。</td> <td>透視図法が理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>模型写真を用いたデジタルツールによるプレゼン表現を修得する。</td> <td>デジタルツールを完璧に使いこなした表現ができた。</td> <td>デジタルツールを使いこなした表現ができた。</td> <td>デジタルツールをおおむね使いこなした表現ができた。</td> <td>デジタルツールを使った表現ができた。</td> <td>デジタルツールが使いこなせなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	建築表現や模型の基本的技術を習得していることを前提とし、道具・材料の選択から模型による多様な表現能力を修得する。	道具と材料の選択に対し最適な判断のうえで制作できた。	道具と材料の選択を自己判断でおこない制作できた。	道具と材料の選択をおおむね自己判断でおこない制作できた。	道具と材料の選択をし制作できた。	模型の製作することができなかった。	製図用インクペンを用いた手書きでの空間構成の表現力と透視図技法を修得する。	透視図法を完璧に理解した上での表現ができた。	透視図法を理解した上での表現ができた。	透視図法をおおむね理解した上での表現ができた。	透視図法で表現ができた。	透視図法が理解できなかった。	模型写真を用いたデジタルツールによるプレゼン表現を修得する。	デジタルツールを完璧に使いこなした表現ができた。	デジタルツールを使いこなした表現ができた。	デジタルツールをおおむね使いこなした表現ができた。	デジタルツールを使った表現ができた。	デジタルツールが使いこなせなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
建築表現や模型の基本的技術を習得していることを前提とし、道具・材料の選択から模型による多様な表現能力を修得する。	道具と材料の選択に対し最適な判断のうえで制作できた。	道具と材料の選択を自己判断でおこない制作できた。	道具と材料の選択をおおむね自己判断でおこない制作できた。	道具と材料の選択をし制作できた。	模型の製作することができなかった。																								
製図用インクペンを用いた手書きでの空間構成の表現力と透視図技法を修得する。	透視図法を完璧に理解した上での表現ができた。	透視図法を理解した上での表現ができた。	透視図法をおおむね理解した上での表現ができた。	透視図法で表現ができた。	透視図法が理解できなかった。																								
模型写真を用いたデジタルツールによるプレゼン表現を修得する。	デジタルツールを完璧に使いこなした表現ができた。	デジタルツールを使いこなした表現ができた。	デジタルツールをおおむね使いこなした表現ができた。	デジタルツールを使った表現ができた。	デジタルツールが使いこなせなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)		研究室等所在	2号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明, 授業改善アンケート結果反映の説明, 授業計画の説明	シラバスの事前確認(45分)	授業内容の確認(45分)
2	建築模型1(課題及び材料の説明)	授業資料の確認(45分)	使用道具の確認(45分)
3	建築模型制作	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
4	プレゼンテーション(建築模型写真)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
5	講評会(建築模型・建築模型写真)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
6	空間構成1(階段)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
7	空間構成2(アプローチ)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
8	講評会(階段・アプローチ)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
9	空間構成3(アプローチと外観)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
10	空間構成4(空間の展開)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
11	講評会(アプローチと外観・空間の展開)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
12	建築パース1(外観)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
13	建築パース2(内観)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
14	建築パース3(彩色)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
15	講評会(建築パース)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
16	総評(全作品の講評) 授業改善アンケートの実施	提出作品の最終確認(45分)	総評の振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	体育史 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	尾西 則昭 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制	講義		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

近代体育に、スポーツの特徴とその成立過程を学び、ヨーロッパの近代体育の成立・展開過程を踏まえて、日本の近代体育の成立・展開過程についての認識を深め、体育の特徴と相違点について理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

- ・我が国ならびに欧米における学校体育出現について理解している。
- ・時代背景や因果関係をおさえながら体育・スポーツの発展・展開について具体例を示しながら説明できる。
- ・近代オリンピック復興の思想について説明できる。
- ・オリンピック・ムーブメントの概念と内容について説明できる。

授業全体の内容と概要

体育・スポーツの歴史について、主に日本や欧米諸国の通史を概説する。また、体育・スポーツと関連のある歴史にも触れ、広範な知識を身に付ける。  
「SDG3: すべての人に健康と福祉を」の関連授業科目。

授業の方法

- ・資料に基づき、講述とパワーポイントによる解説を中心としながら授業を進める。
- ・毎時間、学修した内容を確認するためのミニレポートを課す。
- ・パワーポイントで1人1回課題を発表する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	P B L
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・積極的に取り組むことを期待します。
- ・20分以上の遅刻は欠席とみなします。
- ・中間テストを行います。
- ・授業中の飲食および携帯電話の使用は厳禁。
- ・災害等不測の事態によりオンラインで授業する場合もある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	20%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
体育およびスポーツに対する概念理解	体育・スポーツについての概念について深く理解できる。	体育・スポーツについての概念についておおむね理解できる。	体育・スポーツについての概念について理解できる。	体育・スポーツについての概念について多少理解できる。	体育・スポーツについての概念について理解できない。
オリンピックの歴史と定義と理解	オリンピックの歴史について知識を深く理解できる。	オリンピックの歴史について知識をおおむね理解できる。	オリンピックの歴史について知識を理解できる。	オリンピックの歴史について知識を多少理解できる。	オリンピックの歴史について知識を理解できない。
スポーツ競技の歴史の知識と理解	各スポーツ競技の歴史について深く理解できる。	各スポーツ競技の歴史についておおむね理解できる。	各スポーツ競技の歴史について理解できる。	各スポーツ競技の歴史について多少理解できる。	各スポーツ競技の歴史について理解できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	体育史 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	尾西 則昭 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制	講義		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『体育史講義』	岸野雄三	大修館書店	1984年	9784469261011	
2	『体育・スポーツ史概論』	木村吉次	市村出版	2001年	9784902109399	
3	『資料配布』					
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス「シラバス説明」 「授業改善アンケート結果反映の説明」	事前にシラバスを読んで確認する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
2	体育・スポーツの歴史を学ぶ意義	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
3	競技の歴史調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
4	競技の歴史調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
5	競技の歴史調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
6	競技の歴史調査発表録画	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
7	競技の歴史発表録画	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
8	競技の歴史発表録画	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
9	古代オリンピックと近代オリンピック	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
10	オリンピックの歴史	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
11	オリンピックの歴史	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
12	我が国における体育・スポーツ	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
13	女性とスポーツ	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
14	スポーツとメディア	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
15	各県のスポーツの歴史調査 定期試験	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
16	まとめ 「授業改善アンケート実施」	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)	解説の内容を確認する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	プロダクトデザイン (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	X		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板参照				

概要

履修目標
------

モノ、コト、商品をデザインする、プロダクトデザイナーになる為に必要な知識、技術、人間力を習得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)  
 デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2023・2022年度)  
 デザイン学科のDP1、DP2、DP3に対応する。(2021年度)

到達目標

プロダクトデザイナーとしてモノの見方、考え方、問題解決のためのアイデア展開、造形力、表現技術、プレゼンテーション技術、デザイナーとしての人間力を習得する。

授業全体の内容と概要

デザインするテーマをマーケットリサーチし、現状を把握、問題点抽出、アイデア展開、造形、ボスター等、表現方法を考察、プレゼンテーションして第三者の意見を考察し、自分の力量を認識する。

授業の方法

課題に沿ってマーケットリサーチをグループでしてモノの潜在価値を把握する。問題点を抽出しアイデアを発想し、デザインして第三者にプレゼンテーションする。ディスカッションをして自分の考察し、デザインの深さを認識する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようすること。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は20回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
モノの本質を捉え、新しい価値を創り出せる。	モノの本質を完璧に捉え、今まで以上の価値を完璧に創造出来た。	モノの本質を上手に捉え、今まで以上の価値を高められた。	モノの本質を捉え、今まで以上の価値を出せた。	モノの本質を幸うして捉え、今まで以上の価値を幸うして出せた。	モノの本質を捉えられない、今まで以上の価値を出せなかった。
問題解決のアイデアを出せる。	問題解決のアイデアを完璧に出せる。従来の価値以上のものを創造出来た。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを幸うして具現化出来て、造形力やアプローチも幸うして出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。
新デザインを提案出来る	自分のアイデアを完璧に具現化出来て、造形力やアプローチも完璧であった。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを幸うして具現化出来て、造形力やアプローチも幸うして出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	プロダクトデザイン (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	X		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 プロダクトデザインとは デザインテーマ表	プロダクトデザインとは?調べておく、シラバスを読む。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
2	マーケットリサーチ 潜在意識探求、問題点抽出	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
3	グループに分かれてブレインストーミング	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
4	マーケットチャート作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
5	まとめ グループごとに見解を発表	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
6	問題定義から解決アイデアを展開 アイデアスケッチスタート	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
7	アイデアスケッチ	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
8	アイデアスケッチまとめ1	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
9	アイデアスケッチ1プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
10	アイデアスケッチ2	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
11	アイデアスケッチ2まとめ	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
12	アイデアスケッチ2プレゼンテーション デザイン審議会	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
13	デザイン方向決定 デザイン作業	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
14	デザイン作業 コンセプト確認	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
15	デザイン作業 造形確認	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
16	デザイン作業 プレゼンの方法を考える	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	デザイン審査	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
18	デザイン再考 第三者の意見を汲む	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
19	デザイン修正	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
20	デザイン修正 自分の意志は反映されているか確認	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
21	レンダリング 構図を考える	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
22	レンダリング 商品の特徴が出ているか	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
23	レンダリング 効果的な表現か	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
24	レンダリング 色味、色彩構成確認	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
25	レンダリング 第三者に伝わるか	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
26	レンダリングフィニッシュに向ける	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
27	レンダリング完成させる	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
28	ポスター作成 プレゼンボード作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
29	ポスター作成 プレゼンボード作成 レイアウト等考察	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
30	ポスター作成 プレゼンボード作成 見せ方を考える	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
31	プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
32	総評 授業改善アンケートの実施	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	授業全体を俯瞰して、今後の計画を考察する。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	学校保健 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	天野 雅斗(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 天野 雅斗)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学校保健活動を構成する「保健管理」と「保健教育」の二大領域とこれらの円滑な運営のための保健組織活動について、それぞれに含まれる「健康管理・環境管理」、「保健学習・保健指導」の具体的な活動内容と法的背景、またこれを支える組織・体系等について学習・理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP2、DP3、DP4に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

児童、生徒の健康問題の解決、改善に関わる学校保健活動について、具体的な取り組みについて理解し、学校教育活動の実践との繋がりを理解する。

授業全体の内容及概要

児童、生徒の健康問題の現状、改善、解決に向けた学校保健の取り組みについて、実態把握、学校における児童、生徒の具体的な例をもとに討議をまじえ、学校保健に関する知識を身につける。

授業の方法

児童、生徒の健康問題の現状等については主としてパワーポイントを用いて説明し、加えて視聴覚メディア、具体的事例の提示、アンケート調査結果から学生自身の考えについてグループワークを行い理解を深める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

遅刻は講義開始後20分までとし、その時間以降の受講は欠席扱いとする。公欠及び病欠は大学で認められているものに準ずることとし、その場合は欠席課題を提出する。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(保健体育)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、13回以上。復習を中心に毎回の授業内容を自分で応用できるようにする。授業時間と同様の復習および次回の授業に向けた予習時間を確保するようにする。毎回、小テストを実施し理解度を評価する。次回の学習内容に関わる予習課題を提示するのてしっかり取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
30%	0%	40%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
学校保健活動の領域構成について理解できている。	学校における子どもの安全、健康問題の発現と現状を踏まえ、健康問題の予防、改善の取組みについて「保健教育」「保健管理」「組織活動」の学校保健3領域と関連づけて具体的な活動内容例も含めて説明できていた。	学校における子どもの安全、健康問題の発現と現状を踏まえ、健康問題の予防、改善の取組みについて「保健教育」「保健管理」「組織活動」の学校保健3領域と関連づけて具体的な活動内容例を列挙しながら説明できていた。	学校における子どもの安全、健康問題の予防、改善の現状について、学校保健活動を構成している「保健教育」「保健管理」「組織活動」の各領域ごとに列挙できていた。	学校における子どもの安全、健康問題の予防、改善の現状について列挙できていた。	学校における子どもの安全、健康問題の予防、改善の現状について列挙できていなかった。
学校保健活動に係る法的根拠と具体的な活動について理解できている。	教育基本法、学校教育法、学校保健安全法の歴史的変遷を踏まえ、子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動の法的根拠を整理し、具体的な活動内容について各法と学校保健活動の3領域を関連づけながら説明できていた。	教育基本法、学校教育法、学校保健安全法に記されている内容を基に、子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動について各法との関わりを整理できていた。	学校保健安全法と学校における子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動を関連づけて整理できていた。	学校保健安全法における子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動について列挙できていた。	子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動の根拠となる関連法規、具体的な学校保健活動について列挙できていなかった。
子どもの安全、健康問題の予防、改善につなげるための個別ならびに集団に対する具体的な支援について理解できている。	子どもの発達特徴を踏まえ、健康問題を関連づけながら整理し、予防、改善につなげるための具体的な個別、集団保健指導について自分の考えやアイデアを根拠を持って相手に伝えることができていた。	子どもの発達特徴を踏まえ、健康問題を関連づけながら整理し、予防、改善につなげるための具体的な個別、集団保健指導について自分の考えをまとめることができていた。	校種ごとに特徴的な安全、健康問題の把握と予防、改善に向けた取り組みについて、主として個別保健指導の観点から自分の考えをまとめることができていた。	校種ごとに特徴的な安全、健康問題の把握と予防、改善に向けた取り組みの現状について列挙できていた。	校種ごとに特徴的な安全、健康問題の把握と予防、改善に向けた取り組みの現状について列挙できていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	学校保健 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	天野 雅斗 (経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 天野 雅斗)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『学校保健ハンドブック 第7次改訂』	教員養成系大学保健協議会	株式会社ぎょうせい	2019	9784324105771	
2	『新版 学校保健 チームとしての学校で取り組むヘルスプロモーション』	徳山美智子ほか	東山書房	2019	9784827815702	
3	『学校保健』	門田新一郎、大津一義	大学教育出版	2016	9784864294102	
4	『学校保健統計調査』	文部科学省	双葉レイアウト	2019	9784990813048	
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス、シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、学校保健の意義	シラバスを熟読し、本講義について理解しておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
2	学校保健の仕組み(担い手、組織活動、計画、行政)	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
3	健康の考え方、学校保健の歴史と課題	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
4	育成すべき保健の学力とその学習の進め方	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
5	保健の担当教員として求められる力量形成	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
6	学校の教育活動全体を通して行う健康に関する指導	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
7	学校における性教育	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
8	喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
9	食育、がん教育	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
10	児童生徒の発育発達、疾病・異常、感染症	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
11	精神の健康、児童生徒の自殺、いじめ問題	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
12	児童生徒の健康状態の把握と指導	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
13	障害のある児童生徒への健康上の支援	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
14	学校環境衛生、学校安全	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
15	応急手当 授業改善アンケートの実施	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
16	定期試験	教科書等を活用し、試験内容に関連する事項について事前に復習しておく。(90分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級対策製図 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として設計事務所にて設計業務に携わった経験を踏まえ、授業を実施する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

今日の生活習慣や価値観の多様化は、建築空間にも急速に進展してきた。そしてそれは建築士試験における出題傾向にも色濃く反映されている。建築士試験の2次試験製図課題の傾向を探り、実践的な設計手法を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

設計業務に於いて即座に提示される付与条件と課題目標に対応した設計手順を学び、多様な図面表現をすることができる。

授業全体の内容と概要

建築士の想定製図課題を提示し、出題者の意図を探り、計画上の決まりごとや作図上の留意点をエスキス等をもとに理解し、作図する。

授業の方法

授業は授業初めに板書と配布資料、ビデオによる視聴覚資料により解説をおこない、エスキス・作図については基本的に個別にチェックをしてフィードバックする。最後の講評会は全員による発表会形式で行う。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

コンセプトを構築し空間として具現化を図るためには、とりもなおさず人の話を「注意深く」聞き、その内容を理解するという作業から始まる。時間外の指導及び作業を課す。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席し全課題に取り組むこと(ただし最低出席回数11回以上)と、積極的に課題に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	10%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
一級建築士製図試験想定問題に対する正確なエスキスと平面プランの構築をすることができる。	設計課題をすべて理解した上で不備のないエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をすべて理解した上でエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をおおむね理解した上でエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をある程度理解した上でエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題の内容を理解することができなかった。
設計と条件に対する適切な解答としての表現力を修得することができる。	与条件すべてを満足させる適切な表現ができた。	与条件を満足させる適切な表現ができた。	与条件をおおむね満足させる適切な表現ができた。	与条件をおおむね満足させる表現ができた。	与条件をおおむね満足させる表現ができなかった。
限られた時間内に図面を完成することのできる作図スピードを修得することができる。	時間内にすべての図面を書き残すことなく完成することができた。	時間内に書き上げることができた。	時間内におおむね書き上げることができた。	時間内にほぼ書き上げることができた。	時間内に完成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級対策製図 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2	(単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として設計事務所にて設計業務に携わった経験を踏まえ、授業を実施する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの確認。授業の進め方と課題提出までのスケジュール	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
2	問題の読み解きとその手法	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
3	建築士試験想定製図課題の設計	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
4	平面計画とプランニング	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
5	プランニングの陥穽	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
6	プランニングからエスキスへ	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
7	エスキスの注意点	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
8	良いエスキスと悪いエスキス	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業の作図の継続(90分)
9	作図への移行	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
10	各階平面図の同時作成	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
11	立面図作図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
12	断面図作図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
13	面積表・仕上表:各伏図1	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
14	設計主旨のまとめ方:各伏図2	作図準備をする(90分)	プレゼンテーション準備(90分)
15	全体チェック	プレゼンテーション準備(90分)	感想レポート提出(90分)
16	講評会	プレゼンテーション準備(90分)	感想レポート提出(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	衛生学及び公衆衛生学（科目ナンバリング： ）				
授業担当者（所属・職名）	宮崎 剛司（社会福祉学科・講師）		研究室等所在	1号館2階常勤講師室	
単位数	2（単位認定責任者： 宮崎 剛司）		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保健師として従事した経験から、衛生学を主に感染や健康被害などから集団全体における予防・健康増進について学びます。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

健康管理および疾病予防の実践につなげる衛生学、公衆衛生の取り組みの現状について、国民衛生の動向や健康日本21から現在の日本人の健康状態について理解し、その後生活習慣病や感染症などの疾病の原因そして予防方法、また環境要因と健康の関連性などについて理解を深める。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4に対応する。（2022年度）

到達目標

健康を保持・増進するための具体的な支援として、健康と環境の両側面から理解を深める。健康な生活と疾病予防についての衛生及び公衆衛生の地域保健の具体的な取り組みについて理解する。

授業全体の内容と概要

各ライフステージにおける特徴的な健康問題および対策の現状について、衛生統計、地域保健の取り組みの現状や事例を通して理解を確実なものにする。

授業の方法

各ライフステージにおける健康問題の現状等は主として統計資料及びパワーポイントを用いて説明し、加えて視聴覚メディア、具体的な取り組み事例を提示して、学生自身の健康問題の予防及び改善に関する考えについてグループワークとプレゼンテーションを行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻は講義開始後20分までとし、その時間以降の受講は欠席扱いとする。なお、私的都合による3回以上の欠席は単位を認定しない。公欠及び病欠は大学で認められているものに準することとし、その場合は欠席課題を提出する。基本は対面授業の実施であるが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は11回以上。20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。復習を中心に毎回の授業内容を自分で応用できるようにする。授業時間と同様の復習および次回の授業に向けた予習時間を確保するようにする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	30%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
健康管理および疾病予防の実践につなげる衛生学、公衆衛生の取り組みの意義、目的について理解できている。	疾病及び健康課題の変遷から衛生学及び公衆衛生学の歴史と現状を踏まえ、健康課題の改善、取組みに関する資料を整理、解釈できている。	疾病及び健康課題の現状と衛生学及び公衆衛生学の取組みを関連づけて説明できている。	衛生学及び公衆衛生学の意義、目的について説明できている。	衛生学及び公衆衛生学の取組みの現状について列挙できている。	衛生学及び公衆衛生学の取組みの現状について列挙できていなかった。
各ライフステージにおける健康課題について理解できている。	各ライフステージに特徴的な健康課題の変遷及び現状について資料を解釈し、主体と環境の両側面から健康課題の改善、予防について自分の考えを伝えることができていた。	各ライフステージに特徴的な健康課題の現状について資料を整理し、健康課題の改善、予防について自分の考えを伝えることができていた。	各ライフステージに特徴的な健康課題の現状について資料を整理できている。	健康課題の現状について列挙できている。	健康課題の現状について列挙できていなかった。
地域ごとに特徴的な健康課題の現状について理解できている。	地域ごとに異なる健康課題の特徴について資料を基に自分の考えを整理し、主体と環境の両側面から健康課題の改善、予防について自分の考えを伝えることができていた。	地域ごとに異なる特徴的な健康課題の現状について資料を整理し、健康課題の改善、予防について自分の考えを伝えることができていた。	地域ごとの健康課題の特徴について資料を整理できている。	地域に特徴的な健康課題について列挙できている。	各々が抱えている健康課題について列挙できていなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	衛生学及び公衆衛生学（科目ナンバリング： ）				
授業担当者（所属・職名）	宮崎 剛司（社会福祉学科・講師）	研究室等所在	1号館2階常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者： 宮崎 剛司）		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保健師として従事した経験から、衛生学を主に感染や健康被害などから集団全体における予防・健康増進について学びます。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『シンプル衛生公衆衛生学2024』	小山羊監修	南光堂	2024	978-4-524-21022-0	
2	『国民衛生の動向 2023/2024（第70巻第9号）』	一般財団法人厚生労働統計協会	一般財団法人厚生労働統計協会	2023	978-4-87511-898-5	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 オリエンテーション、日本における健康問題の現状	シラバスを熟読し、本講義について理解しておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
2	公衆衛生学序論 - 公衆衛生の目的と内容 -	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
3	公衆衛生学序論 - 疫学の目的・調査方法 -	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
4	疾病予防と健康管理（ ）母子保健の現状と取組み	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
5	疾病予防と健康管理（ ）：学校保健の現状と取組み	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
6	疾病予防と健康管理（ ）：成人・老人保健の現状と取組み	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
7	疾病予防と健康管理（ ）：産業保健の現状と取組み	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
8	病予防と健康管理（ ）：感染症と現状の予防	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
9	環境保健（ ）環境因子による健康影響と評価	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
10	環境保健（ ）健康を守り育てるための環境条件	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
11	老人保健福祉・地域保健と衛生行政	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
12	老人保健福祉・地域保健と衛生行政	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
13	介護保険制度の現状と課題	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
14	精神保健、保健医療の制度と法規	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
15	国際保健：各国における健康課題の現状と取組み	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと。（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	工業科教育法 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が高等学校工業科教員としての必要な資質を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP2に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

工業教育の意義と役割を考え、基礎的知識及び技術、指導内容及び指導方法を理解することができる。

授業全体の内容と概要

工業教育の基礎的知識及び技術、指導内容・指導方法を理解し学ぶ。授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

授業は、板書で実施し、板書にて説明しながら、演習を行う。課題提出後、解説も行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	〇 双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

積極的に教育に関心をもつこと。授業時間の半分以上の遅刻は欠席とみなします。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

11回以上の出席、レポート課題の提出と平常点の結果を総合して判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	20%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
工業教育の意義と役割の理解	講義の内容から工業教育の意義と役割について完璧に理解した。	講義の内容から工業教育の意義と役割について理解した。	講義の内容から工業教育の意義と役割についてほぼ理解した。	講義の内容から工業教育の意義と役割について大体理解した。	工業教育の意義と役割について理解しなかった。
工業教育の基礎的知識及び技術の理解	講義の内容から工業教育の基礎的知識及び技術について完璧に理解した。	講義の内容から工業教育の基礎的知識及び技術について理解した。	講義の内容から工業教育の基礎的知識及び技術についてほぼ理解した。	講義の内容から工業教育の基礎的知識及び技術について大体理解した。	工業教育の基礎的知識及び技術について理解しなかった。
指導内容及び指導方法の理解	講義の内容から指導内容及び指導方法について完璧に理解した。	講義の内容から指導内容及び指導方法について理解した。	講義の内容から指導内容及び指導方法についてほぼ理解した。	講義の内容から指導内容及び指導方法について大体理解した。	指導内容及び指導方法について理解しなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	工業科教育法 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『高等学校学習指導要領』	文部科学省				
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜指示』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス、シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
2	教育と教師像	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
3	工業教育の目的、目標の変遷、役割	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
4	工業教育の内容及び教科内容1	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
5	工業教育の内容及び教科内容2	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
6	工業教育の内容及び教科内容3	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
7	一般教育としての工業・技術教育	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
8	西欧の工業教育	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
9	工業教育の始まり	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
10	明治以前の工業教育	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
11	明治の工業教育	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
12	大正期の工業教育	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
13	昭和期の工業教育	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
14	戦後の工業教育	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
15	文部科学省『高等学校学習指導要領』(平成21年3月告示)による改訂	学習指導要領の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
16	授業改善アンケートの実施及び総解説しフィードバックします	総復習(90分)	総理解(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「資格が無ければ食えない」とも言われる建設業界でその根幹である建築士、その中でも大学卒業後すぐに受験可能な2級建築士試験の学科「建築計画」にターゲットを絞り、その傾向と対策を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)  
 建築学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度)  
 建築学科のDP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

提示された建築士の過去問題に対し出題者の意図を探り、試験の決まりごとや回答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要

2級建築士学科試験学科 に出題される過去問題の回答・解説について網羅する。  
 「SDG11・住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

テキストや配布資料をもとに、視聴覚資料も交えて講義を行う。また講義後には毎回確認実施テストを行う。不測の事態の際にオンライン及びオンデマンドにて授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

資格試験対策は、通常授業とはそのアプローチも異なり、そして学習方法もちがう。しかし3年生までの専門科目の集大成と総まとめとして、そして建築士は建築学科出身の学生には選けては通れないものなので、覚悟を以って取り組んで欲しい。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	60%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題を正確に解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題を解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題を解くことができなかった。
建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題を正確に解くことができた。	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題を解くことができた。	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題を解くことができなかった。
建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題を正確に解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題を解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題を解くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。環境工学 気象・室内環境・屋外気候・換気・通風 授業改善アンケート結果反映の説明	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	環境工学 伝熱・結露・日照・日射	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	環境工学 採光・音響・色彩	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	環境工学 環境工学融合・用語	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	建築計画 独立住宅	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	建築計画 集合住宅	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	建築計画 商業建築	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	建築計画 公共建築	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	建築計画 計画一般	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
10	建築計画 都市計画・地域計画	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
11	建築設備 用語・空調調和設備	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
12	建築設備 給水・給湯・排水・衛生設備	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
13	建築設備 電気設備	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
14	建築設備 照明設備 指	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
15	建築設備 消火・防災・設備融合 授業改善アンケートの実施	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
16	実力診断試験・解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営分析論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として200社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、守秘義務に配慮しつつ身近な企業の事例を活用した講義を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

本講義は、経営学部における会計科目の仕上げ科目と位置づけ、学生が会社経営の安全性、収益性、成長性など、財務分析の手法について学ぶことを目的としている。分析の結果を踏まえて、会社とはどうあるべきか考えられる力を養成することも本講義のねらいである。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

本講義修了時の達成目標は以下の通り。貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の内容が理解できる。対象企業における資産状況、負債状況、自己資本比率を理解できる。貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書を使い会社経営の安全性、収益性、成長性の数値を導き出すことができる。

授業全体の内容と概要

本講義は、会社経営における財務分析の手法を学ぶ。貸借対照表(B/S)、損益計算書(P/L)、キャッシュフロー計算書(C/S)の数値を使い会社の安全性、収益性、成長性などを導き出す。経営分析の過程で数学を使うが、基本的には割り算と掛け算である。計算の際は計算機の使用を認める。

授業の方法

本講義はパワーポイント及び配布物資料で進める。1枚のパワーポイントを掲示して、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。また、本講義では、アクティブラーニングを活用し、一つの公式を解説後、グループワークやディスカッションを行い、学生の理解をより深めることとする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

本講義は、財務会計論の発展科目であることから、「財務会計論」の単位を取得していなければ受講できない。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
100%	0%	0%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
企業会計の必要性について	企業における会計の必要性について、業種別の特徴を踏まえて説明できた。	企業における会計の必要性について、具体的な事例を挙げて説明できた。	企業における会計の必要性について理解していた。	企業における会計の必要性を最低限理解していた。	企業における会計の必要性を理解していなかった。
財務諸表の理解	3つの財務諸表を使いこなし、企業財務の現状を述べることができた。	3つの財務諸表の違いを述べることができ、それぞれの諸表を読んで理解できた。	3つの財務諸表の違いを述べることができた。	3つの財務諸表を述べることができた。	そもそも財務諸表とは何かを理解していなかった。
経営分析に対応した数学的計算力	企業会計の法則に沿ってスムーズに数学的な計算ができた。	企業会計の法則に沿って数学的な計算ができた。	企業会計の法則に沿って、多少の時間がかかるが計算ができた。	企業会計の法則に沿って、最低限の計算ができた。	企業会計の法則に沿った数学的な計算ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営分析論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として200社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、守秘義務に配慮しつつ身近な企業の事例を活用した講義を展開する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『経営分析入門』	森田松太郎	日本経済新聞出版社	2009年	9784532133658	
2	『第五版中小企業の財務分析経営・原価指標の分析・活用』	宇田川荘二	同友館	2020年	9784496054877	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明(講義全体の概要、講義のやり方、評価方法など)、授業改善アンケート結果反映の説明	必ずシラバスを読んでから、初回ガイダンスを受講すること。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
2	財務諸表の見方 貸借対照表	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
3	財務諸表の見方 損益決算書	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
4	会社分析のねらいと財務分析の手法	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
5	会社の財務安全性 流動比率 当座比率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
6	会社の財務安全性 自己資本比率 固定比率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
7	会社の収益性 資本の収益力	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
8	会社の収益性 売上対利益と損益分岐点	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
9	会社の活性度 回転率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
10	会社の活性度 設備効率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
11	会社の発展性 成長性	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
12	キャッシュフロー	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
13	会社の人材	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
14	会社の総合評価	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
15	まとめ 試験対策、授業改善アンケートの実施	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
16	定期試験とフィードバック	定期試験に向けて準備しておくこと。(90分)	定期試験のフィードバックを受けて、経営分析論を総括する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経営分析論 (SP) (科目ナンバリング: )				
授業担当者 (所属・職名)	石山 玄幸 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として200社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、守秘義務に配慮しつつ身近な企業の事例を活用した講義を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

本講義は、経営学部における会計科目の仕上げ科目と位置づけ、学生が会社経営の安全性、収益性、成長性など、財務分析の手法について学ぶことを目的としている。分析の結果を踏まえて、会社とはどうあるべきか考えられる力を養成することも本講義のねらいである。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

本講義修了時の達成目標は以下の通り。貸借対照表、損益決算書、キャッシュフロー計算書の内容が理解できる。対象企業における資産状況、負債状況、自己資本比率を理解できる。貸借対照表、損益決算書、キャッシュフロー計算書を使い会社経営の安全性、収益性、成長性の数値を導き出すことができる。

授業全体の内容と概要

本講義は、会社経営における財務分析の手法を学ぶ。貸借対照表(B/S)、損益決算書(P/L)、キャッシュフロー計算書(C/S)の数値を使い会社の安全性、収益性、成長性などを導き出す。経営分析の過程で数学を使うが、基本的には割り算と掛け算である。計算の際は計算機の使用を認める。

授業の方法

本講義はパワーポイント及び配布物資料で進める。1枚のパワーポイントを掲示して、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。また、本講義では、アクティブラーニングを活用し、一つの公式を解説後、グループワークやディスカッションを行い、学生の理解をより深めることとする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

本講義は、財務会計論の発展科目であることから、「財務会計論」の単位を取得していなければ受講できない。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	0%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
企業会計の必要性について	企業における会計の必要性について、業種別の特徴を踏まえて説明できた。	企業における会計の必要性について、具体的な事例を挙げて説明できた。	企業における会計の必要性について理解していた。	企業における会計の必要性を最低限理解していた。	企業における会計の必要性を理解していなかった。
財務諸表の理解	3つの財務諸表を使いこなす、企業財務の現状を述べることができた。	3つの財務諸表の違いを述べることができ、それぞれの諸表を読んで理解できた。	3つの財務諸表の違いを述べることができた。	3つの財務諸表を述べることができた。	そもそも財務諸表とは何かを理解していなかった。
経営分析に対応した数学的計算力	企業会計の法則に沿ってスムーズに数学的な計算ができた。	企業会計の法則に沿って数学的な計算ができた。	企業会計の法則に沿って、多少の時間がかかるが計算ができた。	企業会計の法則に沿って、最低限の計算ができた。	企業会計の法則に沿った数学的な計算ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経営分析論（SP）（科目ナンバリング： ）				
授業担当者（所属・職名）	石山 玄幸（経営学科・准教授）	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2（単位認定責任者：石山 玄幸）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として200社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、守秘義務に配慮しつつ身近な企業の事例を活用した講義を展開する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『経営分析入門』	森田松太郎	日本経済新聞出版社	2009年	9784532133658	
2	『第五版中小企業の財務分析経営・原価指標の分析・活用』	宇田川荘二	同友館	2020年	9784496054877	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（講義全体の概要、講義のやり方、評価方法など）、授業改善アンケート結果反映の説明	必ずシラバスを読んでから、初回ガイダンスを受講すること。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
2	財務諸表の見方 貸借対照表	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
3	財務諸表の見方 損益決算書	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
4	会社分析のねらいと財務分析の手法	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
5	会社の財務安全性 流動比率 当座比率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
6	会社の財務安全性 自己資本比率 固定比率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
7	会社の収益性 資本の収益力	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
8	会社の収益性 売上対利益と損益分岐点	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
9	会社の活性化 回転率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
10	会社の活性化 設備効率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
11	会社の発展性 成長性	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
12	キャッシュフロー	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
13	会社の人材	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
14	会社の総合評価	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
15	まとめ 試験対策、授業改善アンケートの実施	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
16	定期試験とフィードバック	定期試験に向けて準備をしておくこと。（90分）	定期試験のフィードバックを受けて、経営分析論を総括する。（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	美術科教育法 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	中学校教諭専修免許状(美術)と高等学校教諭専修免許(美術)を有し、公立小学校で教員経験がある教員が、その経験を元に美術科教育法について授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

美術科教育の目標、内容及び指導の方法について、学習指導要領を基に基礎的な理解を深め、美術科の学習指導に必要な基礎的な知識や技能を身につける。

授業の位置づけ
---------

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、に対応する。(2021・2022・2023年度)

到達目標
------

- ・学習指導要領を理解し、美術科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解できる。
- ・中等・高等教育段階における美術教育の意義を踏まえ、学習指導案を作成することができる。

授業全体の内容と概要
------------

中学校を中心に美術科の学習指導要領を基に基礎的な内容を理解する。いくつかの教材研究を通して、中等・高等教育における美術科の意味を考え、表現に関する指導計画の作成および学習の方法などを学び、美術科の学習指導に必要な基礎的な知識や技能を身につけていく。授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法
-------

授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーション、指導案の作成などを行う。指導案の作成では他の学生の指導案についてお互いに検討し、ディスカッションを行う。最終講義までに再度修正した指導案を提出する。なお、提出された指導案にはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法
-----------------

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
----------

指導案の作成・検討などを実施するため、やむを得ない場合を除き欠席はしないことが望ましい。授業内で行うグループワークやディスカッションには積極的に参加する態度が求められる。  
『中学校美術の教科書1-3年』(開隆堂出版、日本文教出版、光村図書出版など)について、授業で何冊か準備するが、どの学年でもよいので1冊各自購入し、持参すると学びにつながる。  
授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

修学サポート(合理的配慮)
---------------

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
--------

教職課程(美術)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件
--------

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法
------

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	20%	0%	50%	0%

ルーブリック
--------

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
美術科の内容に対する理解度	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
学習指導案作成能力	学習指導要領や題材研究の成果と課題を踏まえて学習指導案を適切に作成することができた。	学習指導要領に沿って適切に学習指導案を作成することができた。	学習指導要領に沿ってある程度適切に学習指導案を作成することができた。	学習指導要領に沿って学習指導案を作成することができた。	学習指導案を作成することができなかった。
演習を通じた考察	自ら進んで課題の範囲を越えて調べ、自主的な学習が認められた。	演習において他者との意見交換を通して考察を深めることができた。	演習を通して考察を深めることができた。	演習を通して考察することができた。	演習を通して考察することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	美術科教育法 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	中学校教諭専修免許状(美術)と高等学校教諭専修免許(美術)を有し、公立小学校で教員経験がある教員が、その経験を元に美術科教育法について授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『美術教育概論 新訂版』	大橋 功他	日本文教出版	2018年	9784536601030	
2	『中学校学習指導要領解説 美術編 平成29年7月 平成29年度版』	文部科学省	日本文教出版大版	2018年	9784536590136	
3	『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽・美術・工芸・書道)編・音楽編・美術編 平成30年7月版』	文部科学省	教育図書	2019年	9784877304201	
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業についてのオリエンテーション 美術科教育の目的・意義(1)美術科教育の位置づけ	シラバスを読んでおく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
2	美術科教育の目的・意義(2)学習指導要領における目的	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく。(90分)	配布プリントや教科書を読み、授業内容を復習する(90分)
3	美術科教育の歴史:子どもの発達、造形教育と美術教育	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
4	美術科教育の教科特性:美術科教育における「表現」と「鑑賞」	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
5	美術科教育の教科特性:絵画・彫刻領域とデザイン・工芸領域	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
6	学習指導要領(中学):美術科の各学年の内容	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
7	学習指導要領(高校):目標と内容 指導計画・学習指導案の構成	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
8	「表現」の教材研究(1)	とりあげる教材について事前に特性などを調べておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
9	「表現」の教材研究(2)	とりあげる教材について事前に特性などを調べておく。(90分)	事前配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する(90分)
10	「表現」の教材研究(3)	とりあげる教材について事前に特性などを調べておく。(90分)	事前配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する(90分)
11	「表現」の教材研究(4)	とりあげる教材について事前に特性などを調べておく。(90分)	事前配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する(90分)
12	学習指導案の作成(1):方法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく。(90分)	指導案を作成する(90分)
13	学習指導案の作成(2):検討の視点と方法	指導案を作成する(90分)	指導案を作成する(90分)
14	学習指導要領:指導上の留意点、評価について	指導案を作成する(90分)	指導案を作成する(90分)
15	指導案の作成の振り返り	指導案を作成する(90分)	自分の作成した指導案についての気づきをまとめる(90分)
16	指導案の講評 フィードバック 授業改善アンケートの実施	これまでの内容を振り返り、疑問点を挙げておく。(90分)	フィードバックを受けて授業の内容の理解を深める(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『美術科教育の基礎知識』	福田隆真、茂木一司、福本謹一	建帛社	2012年	9784767921013	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 正人(デザイン学科・客員教授)		研究室等所在	2号館7階・1号館1階非常勤講師室	
単位数	2	(単位認定責任者: 佐藤 正人)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に即した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

本科目は、デザイン現場に於けるイラスト制作やイラストの多様性、表現方法を学び、イラストレーターとしての役割を実践形式で学び習得する。イラスト、デザイン、アートのみならず様々なものから積極的な探求心、研究心を養う。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。(2024年度)  
 デザイン学科のDP 1、DP 2、DP 3、DP 5に対応する。(2023・2022年度)  
 デザイン学科のDP 1、DP 2、DP 3、DP 5に対応する。(2021年度)

到達目標

アドバタイジング、エディトリアル各媒体目的を意識して完成度の高いオリジナル作品の完成を目指し、独自のイラスト表現を確立できる。

授業全体の内容と概要

マチエール、下地と画材表現の研究。また各課題のテーマ、コンセプトに合わせて個々の表現を模索して、オリジナルの方向性を確立。作品制作の中で実践的創作過程を学び、画材表現、イラスト表現を習得する。

授業の方法

各課題説明書に沿って各テーマに合ったアイデア発想、表現を考え、その後実技にてイラスト作品制作を行っていく。作品提出ごとにプレゼンを実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

遅刻3回で欠席1回とみなす。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は20回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イラストレーションに対する制作意欲および授業態度。	授業の事前事後学習を進め意欲的な制作態度、取り組みがなされる模範的な授業態度であった。	授業の事前事後学習を進め、真面目に授業課題の作品制作に取り組んでいた。	授業課題、内容に真面目に取り組んでいた。	授業課題へ取り組みながらも制作意欲が乏しかった。	授業に対しての意欲が感じられず制作態度の取り組みに欠けていた。
イラスト表現における表現・描法への知識および理解。	授業内容に積極的に真剣に取り組む、知識の習得と理解度を深めていた。	授業内容に真剣に取り組む授業内容を充分理解していた。	授業内容を真面目に取り組む概ね理解していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解していなかった。
イラスト表現への研究および習得。	授業内容を深く理解して研究心、習得の向上心が著しくあり実践的にも優れていた。	授業内容を充分理解して研究心があり習得して形になっていた。	授業内容を概ね理解して真面目に研究、習得していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解せず研究心、習得への意欲に欠けていた。
イラストの多様性・実践的創作への理解。	授業内容を深く理解して実践的应用や表現の多様性にも優れ、完成度にも著しく優れていた。	授業内容を充分理解して実践的創作、多様性を習得して表現していた。	授業内容を概ね理解して真面目に多様性・実践的創作をしていた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解せず制作意欲に欠けていた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 正人(デザイン学科・客員教授)	研究室等所在	2号館7階・1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 正人)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に即した実習を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『マイワーク31a』	北海道イラストレーターズクラブアルファ				
2	『雑誌イラストレーション』		玄光社			バックナンバー
3	『イラストノート』		誠文堂新光社			バックナンバー
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(イラストレーターの仕事について、イラスト表現の多様性、イラスト制作過程の注意点などについて講義)、シラバスの説明、授業	シラバスを読んでおくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
2	オリエンテーション(イラストレーターの仕事について、イラスト表現の多様性、イラスト制作過程の注意点などについて講義)、シラバスの説明。	シラバスを読んでおくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
3	マチエール、下地の研究1。ジェツツを中心に各メディアの特性を実技して行く。	制作作業に使用する道具の準備を行っておくこと。(45分)	各マチエール、メディアの特性の理解を深めておくこと。(45分)
4	マチエール、下地の研究1。ジェツツを中心に各メディアの特性を実技して行く。	制作作業に使用する道具の準備を行っておくこと。(45分)	各マチエール、メディアの特性の理解を深めておくこと。(45分)
5	マチエール、下地の研究2。ジェツツを中心に各メディアの特性を実技して行く。	制作作業に使用する道具の準備を行っておくこと。(45分)	各マチエール、メディアの特性の理解を深めておくこと。(45分)
6	マチエール、下地の研究2。ジェツツを中心に各メディアの特性を実技して行く。	制作作業に使用する道具の準備を行っておくこと。(45分)	各マチエール、メディアの特性の理解を深めておくこと。(45分)
7	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
8	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
9	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・2。	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
10	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・2。	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
11	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・3。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
12	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・3。	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
13	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・4。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
14	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・4。	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
15	アドバタイジングイラストレーション研究、実習・5。コンセプトシート記載後にプレゼン実施。作品提出。	作品完成、プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
16	アドバタイジングイラストレーション研究、実習・5。コンセプトシート記載後にプレゼン実施。作品提出。	作品完成、プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	エディトリアルイラストレーション研究、実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
18	エディトリアルイラストレーション研究、実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
19	エディトリアルイラストレーション研究、実習・2。	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)
20	エディトリアルイラストレーション研究、実習・2。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
21	エディトリアルイラストレーション研究、実習・3。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)
22	エディトリアルイラストレーション研究、実習・3。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
23	エディトリアルイラストレーション研究、実習・4。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)	作品完成へ向けて取り組みを進めること。(45分)
24	エディトリアルイラストレーション研究、実習・4。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)	作品完成へ向けて取り組みを進めること。(45分)
25	エディトリアルイラストレーション研究、実習・5。コンセプトシート記載後にプレゼン実施。作品提出。	作品完成、プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
26	エディトリアルイラストレーション研究、実習・5。コンセプトシート記載後にプレゼン実施。作品提出。	作品完成、プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
27	オリジナルイラストレーション研究、実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
28	オリジナルイラストレーション研究、実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
29	オリジナルイラストレーション研究、実習・2。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)
30	オリジナルイラストレーション研究、実習・2。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)
31	オリジナルイラストレーション研究、実習・3。総合プレゼンテーション&全体講評会。	作品完成、プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
32	オリジナルイラストレーション研究、実習・3。総合プレゼンテーション&全体講評会。授業改善のアンケート実施。	作品完成、プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	向井 実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 設計事務所での経験を活かして、実践的な授業を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「資格が無ければ食えない」とも言われる建設業界でその根幹である建築士、その中でも大学卒業後すぐに受験可能な2級建築士試験の学科「建築法規」にターゲットを絞り、その傾向と対策を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)  
 建築学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度)  
 建築学科のDP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

提示された建築士の過去問題に対し出題者の意図を探り、試験の決まりごとや回答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要

2級建築士学科試験学科 に出題される過去問題の回答・解説について網羅する。  
 「SDG11・住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

テキストや配布資料をもとに、視聴覚資料も交えて講義を行う。また講義後には毎回確認実施テストを行う。不測の事態の際にオンライン及びオンデマンドにて授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

資格試験対策は、通常授業とはそのアプローチも異なり、そして学習方法もちがう。しかし3年生までの専門科目の集大成と総まとめとして、そして建築士は建築学科出身の学生には選ばれては通れないものなので、覚悟を以って取り組んで欲しい。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	60%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項の理解	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題を正確に解くことができた。	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題を解くことができた。	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題を解くことができなかった。
建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項の理解	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題を正確に解くことができた。	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題を解くことができた。	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題を解くことができなかった。
建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項の理解	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題を正確に解くことができた。	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題を解くことができた。	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題を解くことができなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	向井 実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所での経験を活かして、実践的な授業を展開する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。用語・面積・高さ 授業改善アンケート結果反映の説明	オリエンテーションで配布した資料の熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	手続き	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	採光・換気	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	階段・傾斜路	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	構造強度、構造計算	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	法22条区域内・特殊建築物	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	木造3階建共同住宅等	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	防火地域・準防火地域内	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	防火区画・内装制限・用途地域	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
10	容積率・建ぺい率・高さの制限	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
11	道路・壁面線	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
12	雑則・その他、基準法融合	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
13	バリアフリー法・耐震改修法	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
14	建築士法・都市計画法	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
15	品確法・長期優良住宅法 授業改善アンケートの実施	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
16	実力診断試験	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	必修・選択
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: )		
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在	
単位数	1 (単位認定責任者: )	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		
オフィスアワー			

概要

履修目標

授業の位置づけ

到達目標

授業全体の内容と概要

授業の方法

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業	ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

修学サポート(合理的配慮)

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	必修・選択
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: )		
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在	
単位数	1 (単位認定責任者: )	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	人的資源管理論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認すること				

概要

履修目標

経営学の基礎として人的資源管理とは何なのか。経営資源における「ヒト」の項目に関する理解を深める。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

経営学の基礎的知識である人的資源に関する様々な知識を身に付ける。

授業全体の内容と概要

教科書を中心に理解すべき内容と記憶すべき内容を分けて修得して欲しい。ハンドアウトを多用する。

授業の方法

テキストを用いての講義に加え、PCを活用した課題なども実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合があります。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

学習を妨げる行為(私語等)は厳禁とする。出席および授業参加度を重視する。教科書を持参しない学生に関しては、期限を切って用意できなかった場合、評価対象から除外する。各自の責任において履修中止を行うこと。ハンドアウト・講義・教科書の内容はホワイトボードにまとめてノートに記載すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、修学サポートを実施するので、必ず事前に相談に来て欲しい。

資格指定科目

教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上(出席数は自身で管理すること)。12回以上の出席を標準とする。加えて、指定課題の提出・ノートチェックを受けることを単位要件とする。特段の理由がない限りリモートの授業は行わない。個人向けのリモート授業は本科目には存在しない。対面出席できない場合は、欠席とする。20分までを遅刻としてそれ以上遅れた場合及び15分以上上述中退席した場合は、欠席とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	経営システムや構造に関する基礎的な知識を具体的な事例に当てはめ、日常に活かすことができる。	経営システムや構造に関する基礎的な知識を具体的な事例に当てはめ、日常に活かすことができる。	経営システムや構造に関する基礎的な知識と事例を理解している。	経営システムや構造に関する基礎的な知識を理解している。	経営システムや構造に関する基礎的な知識を理解していない。
思考力・判断力・表現力	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を具体的な事例に当てはめ、日常に活かすことができる。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を具体的な事例に当てはめ、日常に活かすことができる。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識と事例を理解している。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を理解している。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を理解していない。
主体性	組織・人的資源管理を活かす活動に関して、知識の蓄積や活動準備を終え自身のキャリアプランに当てはめ、活用することができる。	組織・人的資源管理を活かす活動、知識の蓄積や準備について、自身のキャリアプランに当てはめ、活用することができる。	組織・人的資源管理を活かす活動、知識の蓄積、事例を理解している。	組織・人的資源管理を活かす活動、知識の蓄積やキャリアを理解している。	組織論・人的資源管理論を活かした関連活動を理解していない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	人的資源管理論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『1からの人的資源管理』	西村孝史・島貫晋行・西岡由美	視学舎・中央経済グループパブリッ	2022	9784502407017	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	イントロダクション(人的資源管理とは) シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
2	人的資源管理とは何か	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
3	組織構造と職場マネジメント	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
4	日本の経営の成り立ち	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
5	社員区分制度と格付け制度	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
6	人的資源確保 採用と定着	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
7	人的資源確保 評価	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
8	人的資源確保 配置と異動	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
9	人的資源確保 育成とキャリア	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
10	人的資源確保 報酬管理	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
11	人的資源管理 退職管理と雇用調整	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
12	人的資源管理 労働時間管理	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
13	労働環境 健康管理と安全衛生	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
14	ダイバーシティと労働多様性 ノートチェック指導	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
15	まとめ(期末試験に向けて) 授業改善アンケートの実施	テキストの該当箇所を熟読すること(90分)	試験勉強に取り組むこと(90分)
16	試験(60分)と総括(30分)	試験勉強に取り組むこと(90分)	各自で科目総括を行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	人的資源管理論（SP）（科目ナンバリング： ）				
授業担当者（所属・職名）	信濃 吉彦（経営学科・教授）	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2（単位認定責任者： 信濃 吉彦）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認すること				

概要

履修目標

経営学の基礎として人的資源管理とは何なのか。経営資源における「ヒト」の項目に関する理解を深める。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

経営学の基礎的知識である人的資源に関する様々な知識を身に付ける。

授業全体の内容と概要

教科書を中心に理解すべき内容と記憶すべき内容を分けて修得して欲しい。ハンドアウトを多用する。

授業の方法

テキストを用いての講義に加え、PCを活用した課題なども実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合があります。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

学習を妨げる行為（私語等）は厳禁とする。出席および授業参加度を重視する。教科書を持参しない学生に関しては、期限を切って用意できなかった場合、評価対象から除外する。各自の責任において履修中止を行うこと。ハンドアウト・講義・教科書の内容はホワイトボードにまとめてノートに記載すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、修学サポートを実施するので、必ず事前に相談に来て欲しい。

資格指定科目

教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上（出席数は自身で管理すること）。12回以上の出席を標準とする。加えて、指定課題の提出・ノートチェックを受けることを単位要件とする。特段の理由がない限りリモートの授業は行わない。個人向けのリモート授業は本科目には存在しない。対面出席できない場合は、欠席とする。20分までを遅刻としてそれ以上遅れた場合及び15分以上上述中退席した場合は、欠席とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	経営システムや構造に関する基礎的な知識を具体的な事例に当てはめ、日常に活かすことができる。	経営システムや構造に関する基礎的な知識を具体的な事例に当てはめ、日常に活かすことができる。	経営システムや構造に関する基礎的な知識と事例を理解している。	経営システムや構造に関する基礎的な知識を理解している。	経営システムや構造に関する基礎的な知識を理解していない。
思考力・判断力・表現力	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を具体的な事例に当てはめ、日常に活かすことができる。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を具体的な事例に当てはめ、日常に活かすことができる。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識と事例を理解している。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を理解している。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を理解していない。
主体性	組織・人的資源管理を活かす活動に関して、知識の蓄積や活動準備を終え自身のキャリアプランに当てはめ、活用することができる。	組織・人的資源管理を活かす活動、知識の蓄積や準備について、自身のキャリアプランに当てはめ、活用することができる。	組織・人的資源管理を活かす活動、知識の蓄積、事例を理解している。	組織・人的資源管理を活かす活動、知識の蓄積やキャリアを理解している。	組織論・人的資源管理論を活かした関連活動を理解していない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	人的資源管理論 (SP) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『1からの人的資源管理』	西村孝史・島貫晋行・西岡由美	視学舎・中央経済グループパブリッ	2022	9784502407017	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	イントロダクション (人的資源管理とは) シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと (90分)	講義内での指定課題に取り組むこと (90分)
2	人的資源管理とは何か	テキストの該当箇所を一読すること (90分)	講義内での指定課題に取り組むこと (90分)
3	組織構造と職場マネジメント	テキストの該当箇所を一読すること (90分)	講義内での指定課題に取り組むこと (90分)
4	日本の経営の成り立ち	テキストの該当箇所を一読すること (90分)	講義内での指定課題に取り組むこと (90分)
5	社員区分制度と格付け制度	テキストの該当箇所を一読すること (90分)	講義内での指定課題に取り組むこと (90分)
6	人的資源確保 採用と定着	テキストの該当箇所を一読すること (90分)	講義内での指定課題に取り組むこと (90分)
7	人的資源確保 評価	テキストの該当箇所を一読すること (90分)	講義内での指定課題に取り組むこと (90分)
8	人的資源確保 配置と異動	テキストの該当箇所を一読すること (90分)	講義内での指定課題に取り組むこと (90分)
9	人的資源確保 育成とキャリア	テキストの該当箇所を一読すること (90分)	講義内での指定課題に取り組むこと (90分)
10	人的資源確保 報酬管理	テキストの該当箇所を一読すること (90分)	講義内での指定課題に取り組むこと (90分)
11	人的資源管理 退職管理と雇用調整	テキストの該当箇所を一読すること (90分)	講義内での指定課題に取り組むこと (90分)
12	人的資源管理 労働時間管理	テキストの該当箇所を一読すること (90分)	講義内での指定課題に取り組むこと (90分)
13	労働環境 健康管理と安全衛生	テキストの該当箇所を一読すること (90分)	講義内での指定課題に取り組むこと (90分)
14	ダイバーシティと労働多様性 ノートチェック指導	テキストの該当箇所を一読すること (90分)	講義内での指定課題に取り組むこと (90分)
15	まとめ (期末試験に向けて) 授業改善アンケートの実施	テキストの該当箇所を熟読すること (90分)	試験勉強に取り組むこと (90分)
16	試験 (60分) と総括 (30分)	試験勉強に取り組むこと (90分)	各自で科目総括を行うこと (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代の精神保健分野の動向と課題、精神保健の基本的考え方、現代社会における精神保健の諸課題の実際、精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種との連携、国際連合の精神保健活動その他の国々における精神保健の現状と対策に関わる精神保健福祉士に必要な知識を習得する。

授業の位置づけ

経営学科のDP2に対応する。(2021年度)

到達目標

現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。  
 精神保健の基本的考え方を理解する。  
 現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。  
 精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種との連携について理解する。  
 国際連合の精神保健活動その他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。

授業全体の内容と概要

ライフサイクルや生活習慣をはじめとする精神保健の基本的な考え方と、それに関連する人間の心理行動面の特徴と現在の動向について学ぶ。  
 現在注目されている精神保健の問題と解決策について学ぶ。  
 精神障害の発生予防や偏見・差別の解消について学ぶ。  
 精神保健活動を行っている関係機関について学ぶ。  
 世界的な精神保健の動向について学ぶ。  
 「SDG3. すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習(グループワーク等)も取り入れる。配布される資料に板書事項を記述すること。  
 毎回の振り返り(小テスト・感想・質問等)をMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。  
 第10回目の前半には中間テストを実施し、理解度を確認する(出題形式・試験時間等は授業内で説明)。  
 授業資料の配信や感想等の提出にMicrosoft Teamsを活用する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教科書は毎回持参すること。  
 配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。  
 ニュース等で報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。  
 新聞記事等を題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。

修学サポート(合理的配慮)

・事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(保健体育)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

出席回数は定期試験前までに10回以上あることを評価の前提条件とし、第10回目に実施する中間テスト(30点)、第16回目に実施する定期試験(70点)の結果を総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	30%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね説明できた。	現代の精神保健分野の動向と課題に関するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
現代社会における精神保健の諸課題の実際を理解する。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね説明できた。	現代社会における精神保健の諸課題の実際に関するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。	関係するキーワードを用いて精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携についておおむね説明できた。	精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携に関するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座2 現代の精神保健の課題と支援』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	4805882530	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、精神保健の概要、現代の精神保健の動向と基本的考え方	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
2	家族に関連する精神保健の課題と支援(家族関係における暴力と精神保健、出産・育児をめぐる精神保健、介護をめぐる精神保健、社会的ひきこもりを)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
3	家族に関連する精神保健の課題と支援(家族関係の課題、グリーフケア、精神保健支援を担う機関)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
4	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ(学校教育における精神保健の課題、教員の精神保健)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
5	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ(関与する専門職と関係法規、スクールソーシャルワーカーの役割、学校精神保健にかかわる社)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
6	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ(現代日本の労働環境、産業精神保健とその対策)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
7	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ(職場のメンタルヘルスのための相談、職場内の問題を解決するための機関および関係法規)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
8	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ(災害被害者の精神保健、犯罪被害者等の支援、自殺予防、身体疾患に伴う精神保健、貧困問題)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
9	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ(社会的孤立、性的マイノリティと精神保健、多文化に接することで生じる精神保健上の課題、反)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
10	中間テスト、振り返り	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えたところ、理解があまりなかった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)
11	精神保健に関する発生予防と対策(精神保健における予防の考え方、アルコール関連問題に対する対策、薬物依存対策、ギャンブル依存対策、うつ病)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
12	精神保健に関する発生予防と対策(子育て支援と暴力・虐待予防、認知症高齢者に対する対策、発達障害者に対する対策、社会的ひきこもりに対する対)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
13	地域精神保健に関する偏見・差別等の課題について	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
14	精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携について	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
15	諸外国の精神保健活動の現状および対策について	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説)、授業改善アンケートの実施	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えたところ、理解があまりなかった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学概論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	松下 守邦(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム(本科目)には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

授業の目的は、以下の2つに具体化される。社会学の基礎を学修する。現代社会の特質、社会生活の変化、青年期の意義、自己形成、自己実現、職業生活、高等学校・学習指導要領、公民、公共の部分に対応する、社会学用語、思考を修得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2022年度)

到達目標

社会学の基本になる学術用語の説明ができる。社会学応用領域における社会問題について、社会学の概念、理論の枠組みを用いることで課題を把握して考察ができる。社会学の概念について、専門辞書を読解することで定義と問題を説明ができる。下記のルーブリック、評価基準(C)は、合格の最低レベル、到達目標である。上位の基準である、履修目標をめざしてペストをつくすこと。成績は、相対性と絶対性により評価される。

授業全体の内容と概要

「SDGs4 質の高い教育をみんなに」の関連科目。  
社会学の概念と理論的特徴について、社会化、社会集団、現代日本社会、教育社会学の基礎的概念を学ぶ。  
高校公民(現代社会)の基礎となる、社会学(現代日本社会の歴史社会学、学校教育の比較社会学)の文献精読(小熊英二:2019)、渡辺雅子(2004)をおこなう。

授業の方法

・「授業の進行方法」: 授業の初回にて、文献精読の方法、学生分担発表について説明をおこなう。  
・文献精読は三色線引き読み(齋藤孝『三色ボールペンで読む日本語』角川書店、2005)の技法をもとに、プレゼンテーション(分担発表)、文献読解(下記)、アクティブラーニングの実施方法、その他の授業構成になる。  
・「課題に関する説明-課題に対するフィードバック」「要望等への対応方法」: 授業中の個別報告、授業のまとめレポートなど課題や要望等の質問相談には、随時、対応する。授業中、あるいは研究室オフィスアワー利用により、気軽に相談してほしい。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・教職課程科目(中学社会・高校公民)必修。中学校、高校教員準備のための自律的学修、教材研究は「単に教えられたことを暗記しきだすのではなく、深い理解、深い学習」(松下佳代:2015)をおこなう。  
・教育実習前年度の科目であることから、中学校、高校の教員の行動モデル(時間管理、体調管理、仕事責任遂行力)測定する。  
・大学から交付される学生メールアドレスを使い、マイクロソフト社Teams科目チャネル、Formsを学修利用する。パソコンスキル(レポート作成、準備学修の確認、教員への授業外連絡など、情報通信機器利用マナー)を高めていく。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進めるので、授業開始前に授業者へ相談してほしい。

資格指定科目

教職課程(社会・公民)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定のためには、全授業回数の3/2以上である。計11回以上の出席が必要になる。  
・文献読解(分担報告;本文、ソースノートの要旨をまとめる。新しい知見、学術用語について、例をあげて説明記述する)、プレゼンテーション(分担発表)をする。学修のまとめとしてレポート作成提出する。  
・分担割合は履修登録にもつき調整をおこなう。小熊英二(2019)、渡辺雅子(2004)を、計2回以上の分担を基本にする。(個別報告、レポート作成提出を含む)  
・前年度は履修人数による課題内容、報告手順の調整をおこなった。テキストに各自が線を引き、書き込みながら読み込む「アクティブ・リーディング」実践確認のため、各自、テキスト作業後、提出準備をすすめる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	40%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
テキスト資料により学修した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することができる。情報分析力としての知識、技能	テキスト資料の要旨をていねいにまとめてあり、これまでの学修内容のいくつかも関連づけて適切にふまえていた。新しく学ぶことについて、複数の例をあげながら、自分の言葉でていねいに説明をしていた。	テキスト資料の要旨をまとめてあり、これまでの学修内容のいくつかも関連づけていた。新しく学ぶことについて、自分の言葉で例をあげて説明をした。	テキスト資料の要旨をまとめてあり、新しく学ぶことについて、自分の言葉で説明をしていた。	テキスト資料の要旨は、改善の余地があるが、まとめている。新しく学ぶことについて、説明することが難しいが、情報分析の知識・自分の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめる作業、新しく学ぶことについて、説明することが難しく、情報分析の知識・技能の修得はできなかった。
文献資料の信頼性を保ちながら、学術概念を使って考察すること、客観的立場から社会的現象について論理的に分析表現をすることができる。思考力・判断力・表現力	課題に関連して、信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと同様に分析表現をすることができ、思考力・判断力・表現力をあげながら表現をした。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、適切な手書きで引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと同様に論理的に表現をした。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと同様に表現をした。	課題に関連して、改善の余地があるが、文献資料を適切に引用した。新しく学ぶことは、充分ではないが、これまでのものを関連づけて表現をおこなうことができた。	課題に関連して、文献資料を選び、引用すること、新しく学ぶことを表現することが難しく、思考力・判断力・表現力の修得はできなかった。
大学の学修環境を創造するメンバー(教職課程の教生)としての自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めることとする。関心・意欲・態度	大学生(教職課程の教生)として積極的に行動することができた。	大学生(教職課程の教生)として役割は、おおむね理解しており、行動することができた。	大学生(教職課程の教生)として自分の役割は、基本的な行動をすることができた。	大学生(教職課程の教生)として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	大学生(教職課程の教生)として自分の役割は、自らの理解して行動することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学概論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	松下 守邦(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『日本社会のしくみ』	小熊英二	講談社	2019	9784065154298	講談社現代新書2528
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『納得の構造』	渡辺雅子	東洋館	2004	9784491020211	
2	『社会学事典』	日本社会学会	丸善出版	2019	9784621082546	
3	『社会学用語図鑑』	田中正人/香月孝史	プレジデント社	2019	9784833423113	
4	『社会学文献辞典(縮刷版)』	見田宗介	弘文堂	2014	9784335551642	
5	『現代文解釈の基礎(新訂版)』	遠藤嘉基/渡辺実	筑摩書房	2021	9784480510730	

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス、前年度本科目、授業改善アンケート結果の説明、履修学生状況をふまえ、報告役割分担の確認をおこなう。	シラバスを熟読する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
2	文献精読 小熊英二(2019)；日本社会の三つの生き方	テキストを予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
3	文献精読 小熊英二(2019)；日本の働き方、世界の働き方	テキストを予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
4	文献精読 小熊英二(2019)；「日本型雇用」の起源	テキストを予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
5	文献精読 小熊英二(2019)；慣行の形成	テキストを予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
6	文献精読 小熊英二(2019)；民主化と「社員」の平等	テキストを予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
7	文献精読 小熊英二(2019)；高度成長と「学歴」	テキストを予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
8	文献精読 小熊英二(2019)；「一億総中流」から「新たな二重構造」へ	テキストを予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
9	文献精読 小熊英二(2019)；「社会のしくみ」と「正義」のありか	テキストを予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
10	文献精読 小熊英二(2019)と高校「公共」の比較	テキストを予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
11	文献精読 渡辺雅子(2004)；学校教育の比較 社会論(作文、歴史1-2)を精読する。	配布資料を読んで予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
12	文献精読 渡辺雅子(2004)；学校教育の比較 社会論(作文、歴史1-2)を精読します。	配布資料を読んで予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
13	文献精読 渡辺雅子(2004)；学校教育の比較 社会論(作文、歴史3-4)を精読する。	配布資料を読んで予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
14	文献精読 渡辺雅子(2004)；学校教育の比較 社会論(作文、歴史5)を精読する。	配布資料を読んで予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
15	文献精読 渡辺雅子(2004)；学校教育の比較 社会論(作文、歴史6-7)を精読する。	配布資料を読んで予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
16	社会学の基礎的理解、現代日本社会、日本の学校教育について総括する。授業改善アンケートの実施	これまでのテキスト、資料、視覚教材の学習内容を整理する。(90分)	全授業を振り返り、学習内容の内省的レポートを期日までに提出する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	教職課程必修
科目名称	工芸科教育法 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教諭専修免許状(美術)を有し、公立高等学校で教員経験がある教員が、その経験をもとに工芸科教育法について授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

<b>履修目標</b>															
工芸科教育の意味と目的を理解し、教員に必要な資質を身につける。															
<b>授業の位置づけ</b>															
デザイン学科のDP 1、DP 3、DP 5に対応する。(2023-2022年度) デザイン学科のDP 1、DP 2、DP 3に対応する。(2021年度)															
<b>到達目標</b>															
工芸科教育の意味と目的を考え、教員として最低限の知識と技能を身につける。															
<b>授業全体の内容と概要</b>															
工芸教育の基礎知識と技術、学習指導要領の内容、授業計画、教材研究、指導方法、評価方法を学び、模擬授業の準備を行う。 授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。 「SDGs4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。															
<b>授業の方法</b>															
学習指導要領解説を用いて行い、学習内容はパワーポイントやプリント資料で説明する。 主体的に対話的な学びを目指し、グループワーク・ディスカッション・発表などを行う。															
<b>アクティブラーニングの実施方法</b>															
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	○	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業		ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL											
○	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業											
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)											
<b>履修上の注意事項</b>															
教育について興味・関心を持ち、教員としての心構えを身につけ、行動すること。 課題は期日までに提出すること。															

<b>修学サポート(合理的配慮)</b>
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
<b>資格指定科目</b>
教職課程(美術・工芸)必修科目

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>												
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。												
<b>評価方法</b>												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	40%	20%	0%	40%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	40%	20%	0%	40%	0%							

<b>ルーブリック</b>																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点や目指すことを述べる事ができた。</td> <td>工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点を考える事ができた。</td> <td>工芸科教育の意味と目的を理解できた。</td> <td>工芸科教育の意味と目的を考える事ができた。</td> <td>学習指導要領の要点をまとめる事ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べ、問題に対応する事ができた。</td> <td>課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べることができた。</td> <td>課題を捉え、自分の意見を述べることができた。</td> <td>自分の意見を述べる事ができた。</td> <td>意見を述べる事ができない。</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度</td> <td>責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てて、考察する事ができた。</td> <td>責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てることができた。</td> <td>責任や自覚を持ち、知識を身につけ、役立てることができた。</td> <td>責任や自覚を持ち、知識を身につける事ができた。</td> <td>責任や自覚を持ち、知識を身につける事ができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・理解	工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点や目指すことを述べる事ができた。	工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点を考える事ができた。	工芸科教育の意味と目的を理解できた。	工芸科教育の意味と目的を考える事ができた。	学習指導要領の要点をまとめる事ができなかった。	思考力・判断力・表現力	課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べ、問題に対応する事ができた。	課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べることができた。	課題を捉え、自分の意見を述べることができた。	自分の意見を述べる事ができた。	意見を述べる事ができない。	関心・意欲・態度	責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てて、考察する事ができた。	責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけ、役立てることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につける事ができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につける事ができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識・理解	工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点や目指すことを述べる事ができた。	工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点を考える事ができた。	工芸科教育の意味と目的を理解できた。	工芸科教育の意味と目的を考える事ができた。	学習指導要領の要点をまとめる事ができなかった。																								
思考力・判断力・表現力	課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べ、問題に対応する事ができた。	課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べることができた。	課題を捉え、自分の意見を述べることができた。	自分の意見を述べる事ができた。	意見を述べる事ができない。																								
関心・意欲・態度	責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てて、考察する事ができた。	責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけ、役立てることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につける事ができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につける事ができなかった。																								



基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	教職課程必修
科目名称	工芸科教育法 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)		CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教諭専修免許状(美術)を有し、公立高等学校で教員経験がある教員が、その経験をもとに工芸科教育法について授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領解説 美術編』	文部科学省	日本文教出版大版	2018	9784536590136	
2	『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽・美術・工芸・書道)編・音楽編・美術編』	文部科学省	教育図書	2019	9784877304201	
3	『工芸の教育』	大坪圭輔	武蔵野美術大学出版局	2017	9784864630580	
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 「工芸とは何か」学校教育の中の「用と美」	シラバスをよく読んでおくこと(90分)	授業内容を復習する(90分)
2	工芸教育の歴史と背景	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
3	中学校学習指導要領解説美術編「美術科の目標と内容」におけるデザイン、工芸の学習について	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
4	中学校学習指導要領解説美術編「各学年の目標及び内容」におけるデザイン、工芸の学習について	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
5	中学校学習指導要領解説美術編「指導計画の作成と内容の取り扱い」及び映像メディアの活用について	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
6	高等学校学習指導要領解説芸術編「工芸」の性格、目標、内容、内容の取り扱いについて	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
7	学習指導計画	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
8	教材研究	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
9	教材研究	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
10	教材研究	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
11	教材研究	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
12	学習指導案の作成1	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
13	学習指導案の作成2	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
14	模擬授業	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
15	指導案作成の振り返り	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
16	課題・レポートの解説 授業改善アンケートの実施	講義全体をふりかえりまとめを行うこと(90分)	フィードバックの内容を受けて、講義全体のふりかえりを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築積算 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 哲之(建築学科・特任教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 哲之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所に勤務していたころ、設計物件に対する積算業務を行っていた。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
建築積算は建築物を造るために必要な費用を算出し、かつ予測することにある。近年の建築をめぐる社会経済情勢の変化が激しい中、建築物のコスト管理はますます重要になっている。そこで国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「建築数量積算基準」、建築工事内訳書標準式式、に基づく積算数量の正確な計算方法を習得する。
授業の位置づけ
建築学科のDP3, DP4, DP5に対応する。(2024年度) 建築学科のDP1, DP2に対応する。(2023・22年度) 建築学科のDP2, DP3, DP5に対応する。(2021年度)
到達目標
建築投資のコスト面を支える建築積算の意義を知り、建築生産の中で、数量の算出がいかに重要な役割を担っているかを理解できる。さらに、建築数量積算基準を習得し建築資材などの数量算出と積算ができる。

到達目標																					
建築投資のコスト面を支える建築積算の意義を知り、建築生産の中で、数量の算出がいかに重要な役割を担っているかを理解できる。さらに、建築数量積算基準を習得し建築資材などの数量算出と積算ができる。																					
授業全体の内容と概要																					
建築工事の各工法の理解度を高め、使用材料の数量積算を行う。現場で使われている道具、材料など細部にわたりプロジェクターなどにより説明を行う。建築産業を支える建築積算の意義と役割並びに建築工事員の構成を学ぶ。																					
授業の方法																					
テキストに加えて、プロジェクターによる画像、図表で解説するので、ノートに講義内容と資料を整理すること。また各単元ごとに演習課題出題し、提出してもらう。課題返却後、それを解説する。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施し、欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。																					
アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															
履修上の注意事項																					
講義にはテキスト、ノート、電卓は必ず持参し、講義内容と資料を整理すること。4回目以降は演習課題を実施し、課題提出の評価配分は高いので遅刻、欠席には注意すること。 30分以上の遅刻は欠席とする。また、遅刻3回で欠席1回とみなすので注意すること。																					

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	0%	40%	0%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
60%	0%	40%	0%	0%	0%							

ルーブリック																																			
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を越えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>建築積算に関わる基礎的知識について</td> <td>知識を十分に習得しており、それを応用でき、説明・解説ができた。</td> <td>知識を十分に習得しており、それを応用できた。</td> <td>知識を十分に習得していた。</td> <td>基礎的な知識を理解できていた。</td> <td>基礎的な知識が不足していた。</td> </tr> <tr> <td>土工事・地業工事の数量積算に関する知識や計算について</td> <td>知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。</td> <td>知識を十分に習得して計算ができ、さらにそれを応用できた。</td> <td>知識を習得して計算ができた。さらにそれを十分ではないが応用できた。</td> <td>知識を習得して計算ができた。</td> <td>知識が不足し計算ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>躯体工事の数量積算に関する知識や計算について</td> <td>知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。</td> <td>知識を十分に習得して計算ができ、さらにそれを応用できた。</td> <td>知識を習得して計算ができた。さらにそれを十分ではないが応用できた。</td> <td>知識を習得して計算ができた。</td> <td>知識が不足し計算ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>仕上げ工事の数量積算に関する知識や計算について</td> <td>知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。</td> <td>知識を十分に習得して計算ができ、さらにそれを応用できた。</td> <td>知識を習得して計算ができた。さらにそれを十分ではないが応用できた。</td> <td>知識を習得して計算ができた。</td> <td>知識が不足し計算ができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	建築積算に関わる基礎的知識について	知識を十分に習得しており、それを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得しており、それを応用できた。	知識を十分に習得していた。	基礎的な知識を理解できていた。	基礎的な知識が不足していた。	土工事・地業工事の数量積算に関する知識や計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができ、さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができた。さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。	躯体工事の数量積算に関する知識や計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができ、さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができた。さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。	仕上げ工事の数量積算に関する知識や計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができ、さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができた。さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。
評価項目		評価基準																																	
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																														
建築積算に関わる基礎的知識について	知識を十分に習得しており、それを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得しており、それを応用できた。	知識を十分に習得していた。	基礎的な知識を理解できていた。	基礎的な知識が不足していた。																														
土工事・地業工事の数量積算に関する知識や計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができ、さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができた。さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。																														
躯体工事の数量積算に関する知識や計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができ、さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができた。さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。																														
仕上げ工事の数量積算に関する知識や計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができ、さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができた。さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。																														



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築積算 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 哲之(建築学科・特任教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 哲之)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所に勤務していたころ、設計物件に対する積算業務を行っていた。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『基準にもとづく建築積算入門』	赤堀弘	彰国社	2013	978-4-395-00921-3	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『建築数量積算基準・同解説』	日本建築積算協会	建築コスト管理システム研究所	2017	4-8028-8979-8	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 建築産業界を支える建築積算の意義と役割	シラバスにより次回の部分を予習すること(90分)	授業内容を復習すること(90分)
2	コストプランニング、コストコントロール、施工発注方式・請負契約	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
3	建築工事費の構成	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
4	積算数量：設計数量、所要数量、計画数量	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
5	建築数量積算基準 1 土工・地業の数量積算	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
6	建築数量積算基準 2 躯体の定義と区分、計測・計算の共通事項	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
7	建築数量積算基準 3 コンクリート・型枠の計測・計算	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
8	建築数量積算基準 4 コンクリート・型枠の計測・計算	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
9	建築数量積算基準 5 鉄筋の数量積	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
10	建築数量積算基準 6 鉄骨の数量積	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
11	建築数量積算基準 7 仕上げの定義と区分、計測・計算の共通事項	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
12	建築数量積算基準 8 仕上げ各部分の計測・計算	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
13	市場単価と分掛り単価	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
14	科目別構成比と部分別構成比	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
15	事例分析：部分別数量と躯体の数量分析 授業改善アンケートの実施	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
16	定期試験(60分)及び解説(30分)	これまでの授業範囲を見直し予習すること(90分)	試験内容を振り返り、特に専門用語を復習すること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	施工管理技士演習 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

1級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識を修得し、学科試験に合格できる学力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のD P 2に対応する。(2024年度)  
 建築学科のD P 2に対応する。(2023・2022年度)  
 建築学科のD P 2に対応する。(2021年度)

到達目標

国家資格である「1級建築施工管理技士」の学科試験に合格できる学力を備えることができる。

授業全体の内容と概要

使用テキストに沿って「1級建築施工管理技士学科試験」項目の講義および演習問題の実施・解説を行い、建築施工管理について修得する。

授業の方法

授業は配布する各章の過去問題をテスト形式で実施し、次回にその解説を行う。事前学習と各章の小テストの解説によって理解を深める。不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

準備学習として教科書の読み込みを行い、当日の過去問題の小テストに備え、講義後はその復習に努める。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。また、定期試験にて成績評価を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
100%	0%	0%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
1級建築施工管理技士の学科試験に必要な知識を修得できる。	1級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識を修得できていた。	1級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識をおおむね修得できていた。	1級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識を最低限修得できていた。	1級建築施工管理技士(学科)試験の合格に向けて取り組む意志があった。	1級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識を修得できていなかった。または、取り組む意志がなかった。
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	施工管理技士演習 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『令和5年度 1級建築施工管理技士学科テキスト』		建築資料研究社	2023		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 授業改善アンケート結果に関する説明(小笠原)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
2	施工計画・問題・解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
3	施工管理・工程管理・品質管理1 - 問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
4	施工管理・工程管理・品質管理1 - 解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
5	品質管理2 - 問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
6	品質管理2 - 解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
7	安全管理・応用能力 - 問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
8	安全管理・応用能力 - 解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
9	法規1 - 問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
10	法規1 - 解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
11	法規2 - 問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
12	法規2 - 解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
13	模擬試験 - 問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
14	模擬試験 - 解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
15	定期試験 - 問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
16	定期試験 - 解説 授業改善アンケートの実施	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク実習指導 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・ 上原 正希(社会福祉学科・教授)・杉		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2	(単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験がある教員が実践現場の具体的事例を踏まえながら事前・事中・事後の実習指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照すること				

概要

履修目標

ソーシャルワーク各領域(高齢、障がい、児童、地域、行政)の現場実習を通じて、ソーシャルワーク各領域における利用者理解、現場理解、職種理解、他職種・他機関との連携、地域における共生、今後の社会福祉行政の課題について学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2022年度)

到達目標

専門知識、相談援助技術及び関連知識を実際に活用し、福祉ニーズを抱える人々に対する相談援助業務に必要な資質、技術、倫理、課題把握能力など、総合的なジェネリックソーシャルワークに対応できる能力を習得する。相談援助実習の事前訪問を含め、個別の実習計画を作成する。

授業全体の内容と概要

2年次において「相談援助実習指導」及び「相談援助演習」の単位を修得し、実習生としてふさわしい態度と意欲のある学生(面接を行う)に対し、「相談援助実習指導」及び「相談援助実習」は開講される。「相談援助実習指導」と「相談援助実習」は3つの授業に分かれているが、一体のものとして理解すべきである。「相談援助実習指導」は事前指導、「相談援助実習」は現場実習、「相談援助実習指導」は事後学習と考える。

授業の方法

高齢、障がい、児童、地域、行政の各々の実習領域に分かれて授業を展開する。授業内容は担当教員に一任されているが、各領域の職場・職種・ソーシャルワークについての事例・法規・制度が中心となり、使用する教材は各教員が用意する。年間を通しての課題として実習終了後のレポート提出、報告書の提出課題を義務付ける。学生の要望・課題には、可能な範囲で随時対応する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

各領域実習担当教員の指示を厳守すること  
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール(学校)ソーシャルワーク資格課程、子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	0%	0%	30%	40%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
事前学習における各領域の利用者理解ができている。	実習領域の利用者の特性を説明でき、個々の利用者の自己実現に必要なSWの視点と連携について説明できる。	実習領域の利用者の特性を説明でき、個々の利用者の自己実現の視点を説明できる。	実習領域の利用者の特性について説明でき、且つ、それに必要なSWの視点を説明できる。	実習領域の利用者の特性について説明できる。	左記の内容が何一つできていない。
事前学習における実習領域の関係法規と制度の特徴が理解できている。	実習領域の関連法規と制度の特徴を説明でき、且つ、地域行政との関連をも説明できる。	実習領域の関連法規の特徴を説明できる。	実習領域の関連法規と制度の関係を説明できる。	実習領域の関連法規を説明できる。	左記の内容が何一つできていない。
実習領域における具体的ソーシャルワーク技法を理解している。	実習領域におけるソーシャルワークの具体的技法を説明でき、それを実習中にどのように活用するかを説明でき、且つ、自分の実習計画に昇華できる。	実習領域におけるソーシャルワークの具体的技法(面接、記録、コミュニケーション、他職種連携、地域連携)が説明できる。	実習領域におけるソーシャルワークの具体的技法を説明でき、それを実習中にどのように活用するかを説明できる。	実習領域におけるソーシャルワーク技法のうち、利用者との具体的にかけかわる技法を説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク実習指導 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・ 上原 正希(社会福祉学科・教授)・杉	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験がある教員が実践現場の具体的事例を踏まえながら事前・事中・事後の実習指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明と事前学習(利用者理解)	2年時の講義の復習(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
2	事前学習(利用者理解)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
3	事前学習(利用者理解)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
4	事前学習(関連法規・制度理解)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
5	事前学習(関連法規・制度理解)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
6	事前学習(関連法規・制度理解)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
7	事前学習(ソーシャルワーク技法)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
8	事前学習(ソーシャルワーク技法)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
9	事前学習(ソーシャルワーク技法)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
10	事前学習(他職種・他機関連携)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
11	事前学習(他職種・他機関連携)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
12	事前学習(他職種・他機関連携)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
13	事前学習(地域連携)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
14	事前学習(地域連携)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
15	事前学習(地域連携)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
16	実習計画作成と修正	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技 (バスケットボール) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	天野 雅斗(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 天野 雅斗)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、バレーボール教材を活用した教育方法について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標
学校教育においてバスケットボールを教材を扱うのに相応しい、態度・能力・指向性のある人材を目指す。そのため、授業において履修者自身のバスケットボールの上達はもちろんだこと、他者との関わり方や実施環境への配慮といった要素についても留意できるようにする。
授業の位置づけ
経営学科のDP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)
到達目標
まずはバスケットボールの基礎技術を履修者自身が習得する。競技の特性やルールを学び理解するとともに、ゲームの作戦・攻防におけるチーム内の役割を理解する。健康・安全に留意でき、適切な授業目標を設定し、達成させられるような教員としての指導能力を身につける。

授業全体の内容と概要																					
バスケットボールの基礎技術の習得及びゲームを中心に授業を進める。																					
授業の方法																					
基礎的練習およびゲーム等の中で、まずは履修者自身がバスケットボールの基礎技術の習得・上達することを目標の中心に据えて授業を展開していく。その過程の中で、他者からの、また他者に対する指導や助言を経て、履修者自身による指導や授業実施へと結びつけられるようにする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。																					
アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															
履修上の注意事項																					
実技科目のため、運動できる服装および履内履きを用意すること。その他注意事項及び詳細に関しては、オリエンテーションで説明する。																					

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程(保健体育)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な出席回数は、11回以上。授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判定する。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>60%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	30%	0%	0%	0%	60%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
30%	0%	0%	0%	60%	10%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>バスケットボールの技術習得</td> <td>バスケットボールの技術が高い水準で身に付き、ゲーム等、複合的な場面で十分発揮することができた。</td> <td>バスケットボールの技術が高い水準で身に付き、練習ム等、複合的な場面で十分発揮することができた。</td> <td>バスケットボールの技術が身に付いており、発揮できる場面もあった。</td> <td>バスケットボールの技術が最低限度のレベルで身に付いている。</td> <td>バスケットボールの技術が身に付かなかった。</td> </tr> <tr> <td>役割の認識およびその展開</td> <td>チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる発言が、主体的にできた。</td> <td>チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる発言が出来る場面があった。</td> <td>チームやグループにおける戦術や技術についての発言に対し、自己の役割を認識した上で、意見を述べることができた。</td> <td>チームやグループにおける役割や、戦術的な自己の働きを認識することができた。</td> <td>チームや練習のグループ・スアにおいて、役割を発揮することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>他者との主体的なコミュニケーション</td> <td>他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを常にとることができた。</td> <td>他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを十分にとることができた。</td> <td>他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを自らとることがあった。</td> <td>他の履修者とコミュニケーションがとれた。</td> <td>他の履修者と十分なコミュニケーションがとれなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	バスケットボールの技術習得	バスケットボールの技術が高い水準で身に付き、ゲーム等、複合的な場面で十分発揮することができた。	バスケットボールの技術が高い水準で身に付き、練習ム等、複合的な場面で十分発揮することができた。	バスケットボールの技術が身に付いており、発揮できる場面もあった。	バスケットボールの技術が最低限度のレベルで身に付いている。	バスケットボールの技術が身に付かなかった。	役割の認識およびその展開	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる発言が、主体的にできた。	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる発言が出来る場面があった。	チームやグループにおける戦術や技術についての発言に対し、自己の役割を認識した上で、意見を述べることができた。	チームやグループにおける役割や、戦術的な自己の働きを認識することができた。	チームや練習のグループ・スアにおいて、役割を発揮することができなかった。	他者との主体的なコミュニケーション	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを常にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを十分にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを自らとることがあった。	他の履修者とコミュニケーションがとれた。	他の履修者と十分なコミュニケーションがとれなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
バスケットボールの技術習得	バスケットボールの技術が高い水準で身に付き、ゲーム等、複合的な場面で十分発揮することができた。	バスケットボールの技術が高い水準で身に付き、練習ム等、複合的な場面で十分発揮することができた。	バスケットボールの技術が身に付いており、発揮できる場面もあった。	バスケットボールの技術が最低限度のレベルで身に付いている。	バスケットボールの技術が身に付かなかった。																								
役割の認識およびその展開	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる発言が、主体的にできた。	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる発言が出来る場面があった。	チームやグループにおける戦術や技術についての発言に対し、自己の役割を認識した上で、意見を述べることができた。	チームやグループにおける役割や、戦術的な自己の働きを認識することができた。	チームや練習のグループ・スアにおいて、役割を発揮することができなかった。																								
他者との主体的なコミュニケーション	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを常にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを十分にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを自らとることがあった。	他の履修者とコミュニケーションがとれた。	他の履修者と十分なコミュニケーションがとれなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技 (バスケッホール) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	天野 雅斗 (経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 天野 雅斗)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、バレーボール教材を活用した教育方法について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ステップアップ高校スポーツ2021』	大修館書店編集部	大修館			
2	『ステップアップ中学体育2023』	大修館書店編集部	大修館			
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 ガイダンス、レクリエーション 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認 (45分)	ガイダンス内容の理解(45分)
2	バスケットボールの構造把握・スキルチェック	基本技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
3	基本技術 ドリブルシュート	基本技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
4	基本技術 ジャンプシュート	基本技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
5	基本技術 パス・コンビネーション	基本技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
6	オフェンス 1対1での攻め方	習得した技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
7	オフェンス アウトナンバー	習得した技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
8	ディフェンス マンツーマンディフェンス	習得した技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
9	ディフェンス ゾーンディフェンス	習得した技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
10	戦術練習 ハーフコートでの攻防	基本戦術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
11	戦術練習 オールコートでの5体5	基本戦術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
12	ゲームにおける展開・戦術の組み立て	ゲーム展開の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
13	課題練習、ゲーム形式	ゲーム展開の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
14	課題練習、ゲーム形式	ゲーム展開の確認(45分)	試験課題の確認(45分)
15	実技試験	試験課題の確認(45分)	試験の出来の振り返り(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	授業全体の振り返り(45分)	身に付いた事の確認(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技 (バレーボール) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	天野 雅斗(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 天野 雅斗)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、バレーボール教材を活用した教育方法について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
学校教育においてバレーボール教材を扱うのに相応しい、態度・能力・嗜好性のある人材を目指す。授業において履修者自身のバレーボールの上達はもちろんのこと、他者との関わり方や実施環境への配慮といった要素についても留意できるようにする。
授業の位置づけ
経営学科のDP2、DP3、DP4に対応する。(2023・2022年度)
到達目標
まずはバレーボールの基礎技術を履修者全員が習得する。競技の特性やルールを学び理解するとともに、ゲームの作戦・攻防におけるチーム内の役割を理解する。健康・安全に留意でき、適切な授業目標を設定し、達成させられるような教員としての指導能力を身につける。

授業全体の内容と概要																								
バレーボールの基礎技術の習得及びゲームを中心に授業を進める。																								
授業の方法																								
基礎的練習およびゲーム等の中で、まずは履修者自身がバレーボールの基礎技術の習得・上達することを目標の中心に据えて授業を展開していく。その過程の中で、他者からの、また他者に対する指導や助言を経て、履修者自身による指導や授業実施へと結びつけられるようにする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模範授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																	
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																	
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
実技科目のため、運動できる服装および屋内履きを用意すること。その他注意事項および詳細に関しては、オリエンテーションで説明する。																								

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程(保健体育)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判定する。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>60%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	30%	0%	0%	0%	60%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
30%	0%	0%	0%	60%	10%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>バレーボールの技術習得</td> <td>バレーボールの技術が高い水準で身につけ、ゲーム等の複合的な場面で十分発揮することができた。</td> <td>バレーボールの技術が高い水準で身につけ、練習といった基本的な場面で十分発揮することができた。</td> <td>バレーボールの技術が身につけており、発揮できる場面もあった。</td> <td>バレーボールの技術が最適切なレベルで身につけている。</td> <td>バレーボールの技術が身につけられなかった。</td> </tr> <tr> <td>役割の認識およびその展開</td> <td>チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる発言が主体的にできた。</td> <td>チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる発言ができた。</td> <td>チームやグループにおける、戦術や技術についての発言に対し、自己の役割を認識した上で、意見を述べることができた。</td> <td>チームやグループにおける役割や、戦術的な自己の働きを認識することができた。</td> <td>チームや練習のグループ・スアにおいて、役割を発揮することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>他者との主体的なコミュニケーション</td> <td>他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを常にとることができた。</td> <td>他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを十分にとることができた。</td> <td>他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを自らとることがあった。</td> <td>他の履修者とコミュニケーションがとれた。</td> <td>他の履修者と十分なコミュニケーションがとれなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	バレーボールの技術習得	バレーボールの技術が高い水準で身につけ、ゲーム等の複合的な場面で十分発揮することができた。	バレーボールの技術が高い水準で身につけ、練習といった基本的な場面で十分発揮することができた。	バレーボールの技術が身につけており、発揮できる場面もあった。	バレーボールの技術が最適切なレベルで身につけている。	バレーボールの技術が身につけられなかった。	役割の認識およびその展開	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる発言が主体的にできた。	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる発言ができた。	チームやグループにおける、戦術や技術についての発言に対し、自己の役割を認識した上で、意見を述べることができた。	チームやグループにおける役割や、戦術的な自己の働きを認識することができた。	チームや練習のグループ・スアにおいて、役割を発揮することができなかった。	他者との主体的なコミュニケーション	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを常にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを十分にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを自らとることがあった。	他の履修者とコミュニケーションがとれた。	他の履修者と十分なコミュニケーションがとれなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
バレーボールの技術習得	バレーボールの技術が高い水準で身につけ、ゲーム等の複合的な場面で十分発揮することができた。	バレーボールの技術が高い水準で身につけ、練習といった基本的な場面で十分発揮することができた。	バレーボールの技術が身につけており、発揮できる場面もあった。	バレーボールの技術が最適切なレベルで身につけている。	バレーボールの技術が身につけられなかった。																								
役割の認識およびその展開	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる発言が主体的にできた。	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる発言ができた。	チームやグループにおける、戦術や技術についての発言に対し、自己の役割を認識した上で、意見を述べることができた。	チームやグループにおける役割や、戦術的な自己の働きを認識することができた。	チームや練習のグループ・スアにおいて、役割を発揮することができなかった。																								
他者との主体的なコミュニケーション	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを常にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを十分にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを自らとることがあった。	他の履修者とコミュニケーションがとれた。	他の履修者と十分なコミュニケーションがとれなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技 (バレーボール) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	天野 雅斗(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 天野 雅斗)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、バレーボール教材を活用した教育方法について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ステップアップ高校スポーツ2021』	大修館書店編集部	大修館書店	2021		
2	『ステップアップ中学体育2023』	大修館書店編集部	大修館書店	2021		
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、ガイダンス、レクリエーション 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認(45分)	ガイダンス内容の理解(45分)
2	バレーボールの構造把握、スキルチェック	基本技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
3	基本技術 オーバーハンドバスの習得・指導	基本技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
4	基本技術 アンダーハンドバスの習得・指導	基本技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
5	基本技術 ボールヒット(サーブ)の習得・指導	基本技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
6	基本技術 スパイクの習得・指導	基本技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
7	応用技術 実践的な場面におけるオーバーハンドバスの活用について	習得した技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
8	応用技術 アンダーハンドバスにおけるレセプション・ディグの実際	習得した技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
9	応用技術 ブロックの習得・指導、ディフェンスにおけるチーム戦術の提示	基本戦術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
10	バレーボールにおける複合的練習 オフェンス(コンビネーション攻撃)	基本戦術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
11	バレーボールにおける複合的練習(トータルディフェンス)	基本戦術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
12	ゲームにおける展開・戦術の組み方	ゲーム展開の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
13	課題練習、ゲーム形式	ゲーム展開の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
14	課題練習、ゲーム形式	ゲーム展開の確認(45分)	試験課題の確認(45分)
15	実技試験	試験課題の確認(45分)	試験の出来の振り返り(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	授業全体の振り返り(45分)	身についたことの確認(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技（ソフトボール）（科目ナンバリング： ）				
授業担当者（所属・職名）	米野 宏（経営学科・准教授）		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1	（単位認定責任者： 米野 宏 ）	CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	本授業の実務経験は5年以上となる。また、中学・高等学校の教員免許更新講習においてソフトボールの講習を担当した経験も活かして授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標	ソフトボールの基礎からゲームに至るまでの技術や方法を実践し、競技特性やルールを学ぶ。また、中学・高等学校の体育実技に於いて、健康・安全に留意できる指導能力を身に付ける。
授業の位置づけ	経営学科のDP4、DP5に対応する。（2023・2022年度）
到達目標	ソフトボールの基本技術や練習方法を学び、自主的にゲームが運営できるように導く。また、ゲームを通してルールや審判法を習得する。

到達目標	ソフトボールの基本技術や練習方法を学び、自主的にゲームが運営できるように導く。また、ゲームを通してルールや審判法を習得する。
------	--

授業全体の内容と概要	前半は、ソフトボールの歴史や競技の特性を概説するとともに、攻撃や守備の基本動作の理論と練習方法を習得し、徐々に応用技術や実践的練習方法へと展開する。後半は試合形式の練習やゲームの中でルールや審判法も学ぶ。また、少人数での特殊なゲームも体験する。
------------	--

授業の方法	ソフトボールの実技及びゲームは、野球場で行う。雨天時は、基本的に室内練習場で行うが、ビデオ視聴を利用する場合は、教室で実施する。授業内での準備運動では不十分な場合は、早めに到着し、自主的に実施してください。基本技術の習得には個人差が生じます。未熟な技術を自覚できた場合は、熟練者に手伝ってもらい、技術の向上に努めてください。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	双方向授業
				その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項	ソフトボールまたは野球のユニホームを着用するのが望ましいが、屋外での運動にふさわしい物であれば構わない。金具の付いたスパイクシューズは危険なので使用禁止。ジョギングシューズで構わない。グローブは数に限りがあるので、できるだけ個人で用意するのが望ましい。不測の事態の際にオンライン授業を実施する可能性がある。
----------	---

修学サポート（合理的配慮）	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目	教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な出席回数は、11回以上。												
評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>60%</td> <td>10%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	30%	60%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
0%	0%	0%	30%	60%	10%								

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ルールや審判法の理解	ルールや審判法を熟知し、競技の特性や歴史的な知識も備わった。	ルールや審判法を熟知し、試合を進行させることができた。	ルールや審判法をある程度は知っていて、試合を進行させることができた。	ルールや審判法をある程度は知っているが、周りのアドバイスを受けながら試合を進行させることができた。	ルールや審判法をほとんど理解していなかった。
守備の基本技術と動きの理解	送球と捕球の基本動作に正確性とスピードがあり、理想的な動きを理解し、模範的な動きを示すことができた。	送球と捕球の基本動作に正確性とスピードがあり、理想的な動きを理解した。	送球と捕球の基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが模範となる動きを理解できた。	基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが正しい動きは理解できた。	基本動作の正しい動きを理解できなかった。
打撃の基本技術と攻撃の理解	打基本動作に十分な正確性と強さがあり、理想的な動きを示すことができた。	打基本動作に正確性と強さがあり、理想的な動きを理解できた。	基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが模範となる動きを理解できた。	基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが正しい動きは理解できた。	基本動作の正しい動きを理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技（ソフトボール）（科目ナンバリング： ）				
授業担当者（所属・職名）	米野 宏（経営学科・准教授）		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1（単位認定責任者： 米野 宏）		CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	本授業の実務経験は5年以上となる。また、中学・高等学校の教員免許更新講習においてソフトボールの講習を担当した経験も活かし授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明） （授業改善アンケート結果反映の説明） ソフトボールの歴史	シラバスを読んで確認する。（45分）	資料は保管し、ノートで確認する。（45分）
2	基本技術（送球・捕球）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
3	基本技術（ゴロ捕球・飛球の捕球）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
4	基本技術（打撃）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
5	応用技術（攻撃・守備・走塁）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
6	戦術に関する理解と実践（攻撃、走塁）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
7	戦術に関する理解と実践（守備）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
8	審判法とゲームの進行（実技テスト兼ねる）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
9	審判法とゲームの進行（実技テスト兼ねる）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
10	審判法とゲームの進行（実技テスト兼ねる）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
11	審判法とゲームの進行（実技テスト兼ねる）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
12	多人数での実戦練習とゲームの工夫（10人制のゲーム）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
13	多人数での実戦練習とゲームの工夫（10人制のゲーム）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
14	少人数での実戦練習とゲームの工夫（6人制のゲーム）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
15	少人数での実戦練習とゲームの工夫（6人制のゲーム）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
16	ふりかえり、達成度のチェック	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	学んだことを再確認する。（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。  
 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。  
 精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。  
 精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。  
 個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をマイクロ・メソ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。  
 精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2022年度)

到達目標

ソーシャルワークの展開に必要な知識や手法を理解する。

授業全体の内容と概要

ソーシャルアドミニストレーション、コミュニティワークについて学ぶ。  
 ソーシャルアクションについて学ぶ。  
 各分野における精神保健福祉士の実践展開について学ぶ。  
 「SDG3.すべての人に健康と福祉を」の関連科目

授業の方法

授業形態は講義形式で行う。  
 テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとすべき箇所は説明、板書を行う。  
 質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。  
 確認テストを実施し、解答回収後解説を行う。  
 Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教科書は必ず持参すること。  
 必要な資料等は適宜配布する。  
 20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。  
 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	10%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識をおおむね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開についておおむね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことをおおむね説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法 [精神専門]』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版株式会社	2021	9784805882573	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業内容の説明、シラバスの説明 ソーシャルワークについて	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
2	コミュニティワークについて (精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
3	コミュニティワークについて (地域における精神保健福祉の向上)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
4	ソーシャルアクションについて (基本的視点・体制整備)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
5	ソーシャルアクションについて (政策提言・政策展開)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
6	多職種連携について (意義・目的・留意点など)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
7	多職種連携について (チームビルディング・チーム形態と特徴)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
8	多職種連携について (連携における精神保健福祉士の役割)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
9	ソーシャルアドミネストレーションについて (概念・意義)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
10	ソーシャルアドミネストレーションについて (組織と精神保健福祉士の関係性)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
11	ソーシャルアドミネストレーションについて (実践モデル・組織運営管理の実践)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
12	実践展開について (学校・教育分野)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
13	実践展開について (産業分野)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
14	実践展開について (司法分野)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
15	実践展開について (災害・その他)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
16	試験(60分)実施、終了後解説(30分) 授業改善アンケートの実施	試験のための学習(90分)	試験の振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	コンテンツデザイン (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	上坂 恒章(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上坂 恒章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生がコンピュータを用いWebデザインの基礎の学び、表現手法を修得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)  
 デザイン学科のDP1、DP3、DP5に対応する。(2023・2022年度)  
 デザイン学科のDP2、DP3、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

Webプログラミングの基礎とコンテンツデザインの手法をマスターし、実際のコンテンツ制作の基礎、応用まで可能なスキルを修得することができる。

授業全体の内容と概要

コンセプト設定、情報の構造化、ページデザイン、インターフェース、画像処理手法等の講義とHTML、CSSのコーディングを学び、その成果を作品として制作し発表する。

授業の方法

授業では、テキスト及び配布したプリントの内容をプロジェクターにより投影し解説する。各項目ごとの課題に対してそれぞれが解決しながら学習する。提出された課題のプレゼンテーションを行い、評価をフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

コンピュータを利用するため、遅刻・欠席すると次の授業の理解が厳しくなるので注意すること。  
 「デジタルデザイン」の知識が必要なので履修済みであること。  
 WEBデザイナー検定(CG-ARTS)の受験を推奨する。  
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施することができる。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	20%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
インターネットやWebデザインに関する知識の理解	学習した内容から範囲を広げて、自ら学び、理解を深めていた。	学習した内容を理解していた。検定に合格できるレベルに達している。	学習した内容を概ね理解していた。	学習した内容を最低限理解していた。	学習した内容を理解していなかった。
Webコーディングの理解	HTML5やCSS3を完全に理解し、自ら更に理解を深めていた。	HTML5やCSS3を理解し、検定に合格できるレベルに達している。	HTML5やCSS3をお概ね理解していた。	HTML5やCSS3を最低限理解していた。	HTML5やCSS3の理解できていなかった。
Webサイトの制作	学んだ知識、技術を更に深めて、意図したとおりWebサイトを制作することができる。	Webサイトを制作することができる。	Webサイトを概ね制作することができる。	Webサイトを最低限制作することができる。	Webサイトを制作することができなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	コンテンツデザイン (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	上坂 恒章(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上坂 恒章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『入門Webデザイン 第四版』	画像情報教育振興協会		2022	9784903474663	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション・シラバスの説明、コンテンツデザインとは 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読み、コンテンツの意味を調べておくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
2	インターネットとWeb	テキストの該当部分読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
3	Webサイトのしくみ	テキストの該当部分読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
4	情報の構造化とアクセラート、画面構成	テキストの該当部分読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
5	Webページを実現する技術の基礎 (HTMLの基本構成)	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
6	Webページを実現する技術の基礎 (画像表示、リンク処理)	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
7	Webページを実現する技術の基礎 (表組処理)	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
8	Webページを実現する技術の基礎 (文字の装飾)	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
9	コンセプトメイキング	テキストの該当部分読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
10	レイアウトデザイン	テキストの該当部分読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
11	オリジナルWeb制作 1	レイアウトのラフを完成させること(90分)	Web制作(90分)
12	オリジナルWeb制作 2	Web制作(90分)	Web制作(90分)
13	オリジナルWeb制作 3	Web制作(90分)	Web制作(90分)
14	オリジナルWeb制作 4	Web制作(90分)	Web制作(90分)
15	オリジナルWeb制作 5 プレゼンテーション	プレゼン用レジユメの準備をすること(90分)	フィードバックするので、自己評価をすること(90分)
16	作品講評 授業改善アンケートの実施	全授業の振り返りを行う(90分)	作品講評の内容を振り返り自己評価を行う(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科SP・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技（サッカー）（科目ナンバリング： ）				
授業担当者（所属・職名）	木島 敦（経営学科・非常勤講師） 小 助川 真木（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階スポーツ課		
単位数	1（単位認定責任者：木島 敦）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	サッカー指導に関する経験・業績を有する教員が、その経験を基に実践的な授業を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、スポーツ課で対応。				

概要

履修目標
------

基本からゲームに至るまでの技術や方法を実践し、自らの技術向上のみならず作戦を生かした攻防を展開しゲームが出来るようにする。

授業の位置づけ

経営学科のDP4、DP5に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

競技の特性やルールを学び理解するとともに、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意できる教員としての指導能力をつける。

授業全体の内容と概要

サッカーの基礎技術の習得及びゲームを中心に授業を進める。

授業の方法

実技を中心とし競技の特性を生かしたグループワークから課題解決（模擬授業を含む）、確認テスト等により深くサッカー理解を深める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

服装はトレーニングウェア等を着用。  
グラウンドでの実技はアップシューズで行う。  
雨天の場合は体育館で行う。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	20%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本技術の理解と習得。ドリブル・パス・シュート・ヘディング・ボールコントロール	試合形式の中で高いレベルで正確にできた。	試合形式の中でおおむね正確にできた。	技術練習の中では一定の達成していた。	技術練習の中では達成していた。	技術練習の中でも達成していなかった。
個人戦術に関する理解と実践。守備・攻撃	試合形式の中でも高いレベルで理解できていた。	試合形式の中でおおむね理解できていた。	導入練習の中でおおむね理解できていた。	導入練習の中では一定の理解できていた。	導入練習の中でも理解できていなかった。
指導の実践	設定と導入が目標を越えたレベルを達成できた。	設定と導入が目標レベルをおおむね達成できた。	設定と導入が目標レベルを一定の達成できた。	設定と導入が理解できていた。	目標レベルを達成できていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科SP・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技 (サッカー) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	木島 敦(経営学科・非常勤講師) 小助川 真木(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階スポーツ課		
単位数	1 (単位認定責任者: 木島 敦)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	サッカー指導に関する経験・業績を有する教員が、その経験を基に実践的な授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 サッカーガイダンス 授業の進め方	シラバスの確認(45分)	シラバスの再確認(45分)
2	基本技術の理解と習得 ドリブル・パス	試合映像確認(45分)	ドリブル・パスの練習(45分)
3	基本技術の理解と習得 シュート・ヘディング	試合映像の確認(45分)	シュート・ヘディングの練習(45分)
4	基本技術の理解と習得 ボールコントロール	試合映像の確認(45分)	ボールコントロールの練習(45分)
5	基本技術の確認	ドリブル・パス・ヘディングシュートボールコントロールの練習(45分)	試合映像の確認(45分)
6	応用技術の理解と習得	基本技術の確認練習(45分)	応用技術の確認練習(45分)
7	戦術に関する理解と実践 守備における基本と原則	試合映像の確認(45分)	試合映像による守備における基本と原則の確認(45分)
8	戦術に関する理解と実践 攻撃における基本と原則	試合映像の確認(45分)	試合映像による攻撃における基本と原則の確認(45分)
9	戦術に関する理解と実践 攻撃における戦術	試合映像の確認(45分)	試合映像による守備・攻撃における戦術の確認(45分)
10	レフリングとチーム運営	試合映像の確認(45分)	試合映像によるレフリングとチーム運営の確認(45分)
11	試合形式によるレフリーの実践	試合映像の確認(45分)	試合映像によるレフリーの確認(45分)
12	試合形式による基本・応用・戦術の理解と実践・守備	試合映像の確認(45分)	試合映像の確認(45分)
13	試合形式による基本・応用・戦術の理解と実践・攻撃	試合映像の確認(45分)	試合映像の確認(45分)
14	試合形式による基本・応用・戦術の理解と実践・守備と攻撃	試合映像の確認(45分)	試合映像の確認(45分)
15	試合	試合映像の確認(45分)	試合映像の確認(45分)
16	実技試験 フィードバック 授業改善アンケートの実施	基本・応用のトレーニング(45分)	試合映像の確認(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)、 畠山 明子(社会福祉学科・准教)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助に従事していた教員が現場で求められる役割や基礎的な知識、技術、倫理などを伝達する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

**履修目標**

精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎を獲得する。  
 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにする。  
 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるようになる。  
 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。  
 精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。

**授業の位置づけ**

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2022年度)

**到達目標**

ソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎を獲得する。  
 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。

**授業全体の内容及び概要**

1、2年次のソーシャルワーク演習で学んできた、自己覚知(自己理解と他者理解)、基本的なコミュニケーション技術(言語的技術(質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約等)、非言語的技術(表情、態度、身振り、位置取り等))、基本的な面接技術(面接の構造化、場の設定(面接室、生活場面、自宅等))、ソールの活用(電話、e-mail等)、ソーシャルワークの展開過程(ケースの発見、インタビュー、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の最終と事後評価、アフターケア)、ソーシャルワークの記録(支援経過の把握と整理)、グループダイナミクスの活用(グループワークの構成(グループリーダー・コリレーター・グループメンバー)、グループワークの展開過程(準備期・開始期・作業期・終結期)、プレゼンテーション技術(個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション)について、精神保健福祉分野の教材を活用して復習する。  
 \*SDG3、すべての人に健康と福祉を」の関連授業。

**授業の方法**

個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。  
 教科書および配布資料を使用し、ポイントとなるべき箇所は説明、板書を行う。  
 質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。  
 Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

**アクティブラーニングの実施方法**

	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
○	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

**履修上の注意事項**

教科書は毎回持参すること。  
 演習は、自分で考え実践すること。また、仲間と協同して取り組むことが重要であることから、積極的な発言や参加を求める。  
 講義、演習を含めた形態とするが、施設見学や外部講師等による講義等も実施予定である。学生である前提に社会人としてのマナーを意識し、日頃の自らの言動に気を付けて行動すること。  
 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

**修学サポート(合理的配慮)**

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

**資格指定科目**

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

**評価前提条件**

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。成績は、レポート(50点)、平常点(50点)で総合して評価する。

**評価方法**

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

**ルーブリック**

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎を獲得する。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎についておおむね具体的に説明・記述できた。	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎についておおむね具体的に説明・記述が不十分だった。
精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにする。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるように具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにおおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるように具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるように具体的に説明・記述できた。	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるように具体的に説明・記述が不十分だった。
精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるようになる。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるように具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるように具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるように具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるように具体的に説明・記述できた。	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開する際のコーディネーター役を担えることについて関係するキーワードを説明・記述が不十分だった。
精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるよう具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるよう具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるように具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるように具体的に説明・記述できた。	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージすることに不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師) 、 畠山 明子(社会福祉学科・准教)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助に従事していた教員が現場で求められる役割や基礎的な知識、技術、倫理などを伝達する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ソーシャルワーク演習【精神専門】』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	978-4-8058-8258-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション、シラバスの説明	本演習で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
2	自己覚知(自己理解と他者理解)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
3	基本的なコミュニケーション技術(言語的技術(質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約等))	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
4	基本的なコミュニケーション技術(非言語技術(表情、態度、身振り、位置取り等))	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
5	基本的な面接技術(面接の構造化)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
6	基本的な面接技術(場の設定(面接室、生活場面、自宅等))	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
7	基本的な面接技術(ツールの活用(電話、e-mail等))	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
8	ソーシャルワークの展開過程(講義)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
9	ソーシャルワークの展開過程(事例検討:医療)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
10	ソーシャルワークの展開過程(事例検討:地域)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
11	ソーシャルワークの記録(講義)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
12	ソーシャルワークの記録(実習日誌の作成)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
13	グループダイナミクスの活用(グループワークの構成(グループリーダー・コリダー・グループメンバー))	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
14	グループダイナミクスの活用(グループワークの展開過程(準備期・開始期・作業期・終結期))	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
15	プレゼンテーション技術(個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
16	まとめ	15回分の内容を復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)、 畠山 明子(社会福祉学科・准教)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助に従事していた教員が現場で求められる役割や基礎的な知識、技術、倫理などを伝達する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

<p><b>履修目標</b></p> <p>精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎を獲得する。</p> <p>精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにする。</p> <p>精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。</p> <p>精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようにする。</p> <p>精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。</p>
--

<p><b>授業の位置づけ</b></p> <p>社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2022年度)</p>
---

<p><b>到達目標</b></p> <p>ソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎を獲得する。</p> <p>精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようにする。</p>
---

<p><b>授業全体の内容と概要</b></p> <p>ソーシャルワーク演習を踏まえ、精神保健福祉士による実践の専門性を習得するために、事例検討を中心に進める。具体的には、事例に登場する精神保健福祉士が勤める職場と支援対象となるクライアントを理解したうえで、問題の発生経過や支援経過をたどりながら、自分が精神保健福祉士として支援する立場になった時の状況をどう捉え、どのような社会資源を活用しながら支援を展開していくのが、個人ワークやグループワークを通して検討を行う。</p> <p>「SOC3. すべての人に健康と福祉を」の関連授業。</p>
---

<p><b>授業の方法</b></p> <p>個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。</p> <p>教科書および配布資料を使用し、ポイントとなるべき箇所は説明、板書を行う。</p> <p>質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。</p> <p>Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。</p>
--

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>							
	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>教科書は毎回持参すること。</p> <p>演習は、自分で考え実践すること。また、仲間と協同して取り組むことが重要であることから、積極的な発言や参加を求める。</p> <p>講義、演習を含めた形態とするが、施設見学や外部講師等による講義等も実施予定である。学生である前提に社会人としてのマナーを意識し、日頃の自らの言動に気を付けて行動すること。</p> <p>不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。</p>
--

<p><b>修学サポート(合理的配慮)</b></p> <p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
<p><b>資格指定科目</b></p> <p>精神保健福祉士国家試験受験資格課程</p>

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。成績は、レポート(50点)、平常点(50点)で総合して評価する。					
<b>評価方法</b>					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎を獲得する。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎について具体的な	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎について具体的な	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎について具体的な	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎について具体的な	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎について具体的な
精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにする。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるように具体的な説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるように具体的な説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるように具体的な説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるように具体的な説明・記述できた。	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるように具体的な説明・記述が不十分だった。
精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるように具体的な説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるように具体的な説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるように具体的な説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるように具体的な説明・記述できた。	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開する際のコーディネート役を担えることについて関係するキーワードを理解できず、説明・記述が不十分だった。
精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようにする。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるように具体的な説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるように具体的な説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるように具体的な説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるように具体的な説明・記述できた。	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるように具体的な説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師) 、 畠山 明子(社会福祉学科・准教)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 精神保健福祉士として相談援助に従事していた教員が現場で求められる役割や基礎的な知識、技術、倫理などを伝達する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ソーシャルワーク演習【精神専門】』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	978-4-8058-8258-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション、シラバスの説明	本演習で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
2	ソーシャルワークの課題を通じた演習(個人に対する相談援助の理解)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
3	ソーシャルワークの課題を通じた演習(グループにおける相談援助の理解)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
4	ソーシャルワークの課題を通じた演習(コミュニティソーシャルワークの理解)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
5	支援の場に応じた相談援助の理解(精神科医療機関)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
6	支援の場に応じた相談援助の理解(精神科医療機関)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
7	支援の場に応じた相談援助の理解(精神科医療機関)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
8	支援の場に応じた相談援助の理解(障害福祉サービス事業所)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
9	支援の場に応じた相談援助の理解(障害福祉サービス事業所)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
10	支援の場に応じた相談援助の理解(障害福祉サービス事業所)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
11	支援の場に応じた相談援助の理解(行政機関)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
12	支援の場に応じた相談援助の理解(行政機関)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
13	支援の場に応じた相談援助の理解(教育機関)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
14	支援の場に応じた相談援助の理解(司法)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
15	支援の場に応じた相談援助の理解(産業・労働)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
16	まとめ	15回分の内容を復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	アグリビジネス論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

本講義は、食料生産に関連する農業という産業の成り立ちから、その特殊性・必要性について学んだ上で、農業関連ビジネスの発展過程と今後について学ぶことを目的としている。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

本講義終了時の達成目標は、以下の3つである。農業における必要性・特殊性を述べることができる。農業関連ビジネスとは何かを述べることができる。今後の農業関連ビジネスの展望について述べることができる。

授業全体の内容と概要

本講義は、農業に関連するビジネスについて学ぶことを目的としているため、農業という産業の必要性・特殊性を基本として、農業政策・農業市場・農産物の流通等、農業経済学の側面からアプローチする。そのため、本講義は農業に関する専門的な知識がなくても理解できる内容としている。

授業の方法

本講義は、パワーポイント及び配布物資料で進める。1枚のパワーポイントを提示し、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。また、本講義では、アクティブラーニングを活用し、グループワークやディスカッションを行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

本講義ではノートの作成を義務付ける。筆記用具やノートを持参しない者は受講を認めない。評価方法の「その他」10%は講義ノートの評価とする。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	0%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
アグリビジネス論に係るレポート・試験に対応した文章表現力	講義で学んだ以上の内容を理解し、論理的に優れた文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で論理的な文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で書いていた。	講義で学んだ内容が書かれていた。	読み手に内容が伝わらなかった。
農業の必要性・特殊性についての理解	講義で学んだ農業の必要性・特殊性を具体的な事例を使い、論理的に優れた説明ができた。	講義で学んだ農業の必要性・特殊性を具体的な事例を使い説明できた。	講義で学んだ農業の必要性・特殊性を全て理解していた。	最低限、講義で学んだ農業の必要性・特殊性を1つ理解していた。	農業の必要性・特殊性を全く理解していなかった。
アグリビジネスの理解	アグリビジネスの発展過程と今後の展望を個性的に高い自分の言葉で述べることができた。	アグリビジネスの発展過程と今後の展望を述べることができた。	アグリビジネスの発展過程を含め説明できた。	アグリビジネスとは何か最低限の説明ができた。	そもそもアグリビジネスについて理解していなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	アグリビジネス論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『農業のしくみとビジネスがしっかりわかる教科書』	山口亮子・窪田新之助	技術評論社	2020年	9784297113636	
2	『アグリビジネス進化論』	有限会社トーマツ・農林水産業ビジネス推進室	プレジデント社	2017年	9784833451178	
3	『アグリビジネス論』	中野一新	有斐閣ブックス	1998年	4641085943	
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	「アグリビジネス論」ガイダンス シラバスの説明(講義の進め方、評価方法など)、授業改善アンケート結果反映の説明	必ずシラバスを読んでから、初回ガイダンスを受講すること。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
2	産業としての農業	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
3	農業の必要性・特殊性	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
4	農業協同組合の仕組み	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
5	農業協同組合の仕組み	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
6	農業政策について	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
7	農業政策について	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
8	農業市場について	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
9	農業市場について	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
10	農産物の流通について	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
11	農産物の流通について	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
12	アグリビジネスの定義	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
13	アグリビジネスの事例	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
14	アグリビジネスの事例	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
15	アグリビジネスの事例、授業改善アンケートの実施	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
16	定期試験とフィードバック	定期試験に向けた準備をしておくこと。(90分)	定期試験のフィードバックを受けて、アグリビジネス論を総括すること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	スクールソーシャルワーク演習 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

学校教育現場にスクール(学校)ソーシャルワーカーが存在する意義・役割、スクールソーシャルワークの広範な専門性について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP 1、DP 2、DP 3、DP 4、DP5に対応する(2022年度)。

到達目標

- 今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性に理解・説明できる。
- 発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解・説明できる。
- スクールソーシャルワークについてジェネリックおよびスペシフィックな視点での広範な知識・技術、支援方法について理解・説明できる。

授業全体の内容と概要

- 学校教育現場にスクール(学校)ソーシャルワーカーが存在する意義・役割について、いじめ・不登校・学習保障・保護者対応・児童虐待への対応など、具体的な事例に基づいて、演習形式でスクールソーシャルワークの広範な専門性について理解する。
- 「SDG s 3.すべての人に健康と福祉を」「SDG s 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

- 授業形態は「演習」形式である。
- テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。
- 適宜質問を促し、質問に対応する。
- 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模範授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- 教員や学生が板書した内容や演習で話し合った内容、フィードバックなどもある授業であるので、しっかりとノートに写し、毎回の授業後にノートの整理をする。
- 適宜質問に対応する。
- 自然災害等などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
- スクールソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。
- 大学のペーパーレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程課程

評価方法・基準

評価前提条件

- 教科書は必ず持参する。
- 必要な資料等は適宜配布する。
- 出席回数(最低7回)なければ試験を受験することはできない。
- その他について、出席状況、演習における話し合いの態度や発言などの取り組みで評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性を理解する。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について一部理解ができた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について理解ができなかった。
【知識】発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解する。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について非常に理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割についておおむね理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について一部理解ができた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解ができなかった。
【知識】スクールソーシャルワークについてジェネリックおよびスペシフィックな視点での広範な知識・技術、支援方法について理解する。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について非常に理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割についておおむね理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について一部理解ができた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	スクールソーシャルワーク演習 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 上原 正希)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『よくわかるスクールソーシャルワーク』	山野剛子など	ミネルヴァ書房	2016年	9784623078349	価格 \ 3,080 (本体 \ 2,800)
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜紹介する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション・シラバスの説明・前年度実施した授業改善アンケートの結果反映の事例検討: スクールソーシャルワークと『いじめ・不登校・非行』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
2	事例検討: スクールソーシャルワークと『自殺防止』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
3	事例検討: スクールソーシャルワークと『発達障害・精神疾患』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
4	事例検討: スクールソーシャルワークと『児童虐待』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
5	事例検討: スクールソーシャルワークと『性的マイノリティ』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
6	事例検討: スクールソーシャルワークと『保護者対応-いじめ・不登校・非行・発達障害・貧困など』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
7	事例検討: スクールソーシャルワークと『災害に備えた学校づくり』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
8	事例検討: スクールソーシャルワークと『新たな求められていること』への対応- 演習に取り組んできた事後エッセンス-	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会的養護 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

以下について理解することで、児童福祉施設における援助者としての保育士の役割や援助のあり方について必要なことは何かを考える。  
 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。  
 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。  
 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。  
 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。  
 社会的養護の現状と課題について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解することができる。  
 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解することができる。  
 社会的養護の制度や実施体系等について理解することができる。  
 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解することができる。  
 社会的養護の現状と課題について理解することができる。

授業全体の内容と概要

現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について学ぶ。  
 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について学ぶ。  
 社会的養護の制度や実施体系等について学ぶ。  
 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について学ぶ。  
 社会的養護の現状と課題について学ぶ。

授業の方法

授業は、配布資料を活用しながら説明を行う。講義中、テーマを提示し思考・考察、小グループによる意見交換・討論、発表の場面を設定する。毎回、講義開始時に前回の講義に関する質問事項や理解不足に対する点に対してフィードバックを行う。レポートについても解説によるフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

次回の講義でフィードバックを行うので、受講カードにその日の講義の理解についての記述を求める。子どもの健やかな成長とより良い育ちを支える保育士に必要な事柄を理解するとともに、自らの将来のあるべき保育士像を構築しながら受講することを求める。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、理解を深めた。	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、ほぼ理解を深めた。	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、やや理解を深めた。	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、理解することができた。	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、理解することができなかった。
子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、理解を深めた。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、ほぼ理解を深めた。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、やや理解を深めた。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、理解することができた。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、理解することができなかった。
社会的養護の制度や実施体系等について	社会的養護の制度や実施体系等について、理解を深めた。	社会的養護の制度や実施体系等について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護の制度や実施体系等について、やや理解を深めた。	社会的養護の制度や実施体系等について、理解することができた。	社会的養護の制度や実施体系等について、理解することができなかった。
社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、理解を深めた。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、やや理解を深めた。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、理解することができた。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、理解することができなかった。
社会的養護の現状と課題について	社会的養護の現状と課題について、理解を深めた。	社会的養護の現状と課題について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護の現状と課題について、やや理解を深めた。	社会的養護の現状と課題について、理解することができた。	社会的養護の現状と課題について、理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会的養護 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバス確認を含む)、現代社会における社会的養護の意義(社会的養護の理念と概念)、授業改善アンケート結果反映の説明	社会的養護とは(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
2	社会的養護の歴史の変遷	社会的養護の歴史の変遷(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
3	社会的養護の基本 子どもの人権擁護と社会的養護	子どもの権利擁護(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
4	社会的養護の基本 社会的養護の基本原則	社会的養護の基本原則(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
5	社会的養護の基本 社会的養護における保育士等の倫理と責務	保育士等の倫理と責務(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
6	社会的養護の制度と法体系	社会的養護の法体系(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
7	社会的養護の仕組みと実施体系	社会的養護の実施体系(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
8	社会的養護の対象	社会的養護の対象(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
9	家庭養護と施設養護	家庭養護と施設養護(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
10	社会的養護に関わる専門職	社会的養護に関わる専門職(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
11	社会的養護の現状と課題 社会的養護に関する社会的状況	社会的養護に関する社会的状況(90分)	ノート整理、疑問点の解消、レポート作成(90分)
12	社会的養護の現状と課題 施設等の運営管理	施設等の運営管理(90分)	ノート整理、疑問点の解消、レポート作成(90分)
13	社会的養護の現状と課題 被措置児童等の虐待防止	被措置児童等の虐待防止(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
14	社会的養護の現状と課題 社会的養護と地域福祉	地域福祉とは(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
15	まとめ(事例研究)授業改善アンケートの実施	文献学習(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
16	課題(レポート)に対する解説を行いフィードバックする	文献学習(90分)	文献学習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	必修・選択
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: )		
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在	
単位数	1 (単位認定責任者: )	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		
オフィスアワー			

概要

履修目標

授業の位置づけ

到達目標

授業全体の内容と概要

授業の方法

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL		
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業		
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)		

履修上の注意事項

修学サポート(合理的配慮)

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない



基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	必修・選択
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: )		
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在	
単位数	1 (単位認定責任者: )	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	子どもの食と栄養 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。  
 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。  
 3. 食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。  
 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。  
 5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科の DP2、DP5に対応する。(2023年度)

到達目標

小児期の栄養と食生活は生涯にわたる健康と生活の基礎であり小児期から成人にいたる一貫した食生活の意義を理解し、また、保育との関連の中で小児に適切な食事が提供できることの意義と保育における食生活が心の健康にも影響すること、食生活が家族の健康や生活地域との密接な関係があること、食生活を通じて生活全般や環境の望ましい姿を理解する。

授業全体の内容と概要

小児期の成長・発達は、最も著しい時期である。とくに小児期の栄養は、生涯を通じての健康の基盤を確立するためにも重要である。小児期の身体発育や運動機能・精神的発達などを十分に理解し、適正な栄養のあり方を学び、実習を行う。  
 『SDGs3.「すべての人に健康と福祉を」の関連科目。』

授業の方法

授業は板書を中心に、パワーポイントや視聴覚教材(DVD・ブルーレイ)も取り入れながら講義形式で行う。調理実習も行うので必要に応じてグループワークやグループ学習も実施し、その都度発生した疑問・質問などにはフィードバックとして解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・実習を含む科目(グループで実習)なので欠席は極力さけること。単位認定に必要な出席回数は11回以上とする。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

定期試験、レポート、出席、その他(授業態度、平常点(活動状況、表等))を上表の基準で評価する。単位認定に必要な出席回数は11回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	5%	0%	0%	10%	5%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能(理解力)	食生活の意義や栄養に関する基本的知識を十分に理解できた。	食生活の意義や栄養に関する基本的知識を概ね理解できた。	食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解できた。	食生活の意義や栄養に関する基本的知識を多少理解できた。	食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解できなかった。
汎用的機能(思考力)	子どもの発育・発達と食生活の関連について十分に理解し深く考察できた。	子どもの発育・発達と食生活の関連について理解し概ね考察できた。	子どもの発育・発達と食生活の関連について十分に理解し考察できた。	子どもの発育・発達と食生活の関連について十分に理解し多少考察できた。	子どもの発育・発達と食生活の関連について考察できなかった。
態度・志向性(意欲)	授業を休まず出席できた。(16回)	授業を概ね休まず出席できた。(15回)	授業を休むことがあるが出席できた。(14-13回)	授業を休みがちだが出席できた。(12-11回)	評価前提条件を満たす事ができなかった。(10-0回)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	子どもの食と栄養 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『子どもの食生活 第6版 栄養・食育・保育』	上田玲子	ななみ書房	2022	9784903355986	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス及びシラバスの説明と授業改善アンケート結果反映の説明	子どもの食生活に関係した話題を調べる(90分)	シラバスの確認をする。毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
2	子どもの健康と食生活の意義・子どもの心身の健康と食生活・子どもの食生活の現状と課題	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
3	栄養に関する基本的知識(1)栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
4	栄養に関する基本的知識(2)食事摂取基準と献立作成・調理の基本	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
5	子どもの発育・発達と食生活(1)乳児期の授乳・離乳の意義と食生活	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
6	子どもの発育・発達と食生活(2)幼児期の心身の発達と食生活	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
7	子どもの発育・発達と食生活(3)学童期の心身の発達と食生活・生涯発達と食生活	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
8	食育の基本と内容(1)食育における養護と教育の一体性	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
9	食育の基本と内容(2)食育の内容と計画及び評価・食育のための環境	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
10	食育の基本と内容(3)地域の関係機関や職員間の連携・食生活指導及び食を通じた保護者への支援	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
11	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
12	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
13	調理実習(1)	調理実習に必要な要件について調べておく事(90分)	うまく行かなかった点や反省点を次回に繋げる様考える(90分)
14	調理実習(2)	調理実習に必要な要件について調べておく事(90分)	調理実習についてレポートを作成する(90分)
15	まとめ	子どもの栄養について理解したことをまとめる(90分)	受講後の考察をレポートにまとめる(90分)
16	授業改善アンケートの実施及び定期試験実施 60分の試験終了後、残りの30分で解説を行います。	試験準備(90分)	試験のふりかえり(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	データ入論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 由水 伸)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの開発経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報機材の特徴とシステム構築に必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

<p><b>履修目標</b></p> <p>この世界にはあらゆる種類の膨大な情報が存在する。情報は目的に応じて、収集、管理、検索可能なデータベースとすることで、ビジネスや科学技術の発展に強力なツールとなる。実際、行政や医療、企業等の組織活動の他、日頃利用するブログやSNSといったネットサービスの裏方でもデータベースが活躍している。本講義では経営学部学生として必要になる、データ処理や管理に関する基本的なスキルを習得し、合わせて企業活動や組織のデータ分析や意思決定についても利用すべく、データベースに対する理解を深めることを目指すものである。</p>
---

授業の位置づけ

経営学科における全てのDPに対応する。

到達目標

効率的なデータベースを設計、構築、および管理できる。  
 ユーザーのニーズに合わせたアプリケーションの開発とカスタマイズできる。  
 データを分析し、ビジネスや実務上の問題を解決するための利用法を提案することができる。

授業全体の内容と概要

データベースの概念の基本的な理解と、構築、運用、保守とカスタマイズの能力を、段階的に学ぶ。  
 最後に、各自が事例研究した内容をプレゼンテーションし、まとめて知識を共有する。  
 『SDGs 9.産業と技術革新の基盤をつくろう』の関連授業。

授業の方法

授業はパソコンやモバイル端末などICT機器を活用して、講義と実習を交えて行い、知識を体系的に理解することを可能としている。  
 事例研究の際はグループに分けて実施する。  
 なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・専門的内容につき、情報処理に関する基礎知識が必要である。情報システム論、プログラミング論を受講しておくことが望ましい。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は11回以上。  
 30分以上の遅刻、早退は欠席とみなす。  
 6回の授業で課題がある。したがって、遅刻・欠席は成績に影響する。  
 事例研究の成果物を提出しない場合は、作品・課題点の50点を失うので、不合格となる点に注意が必要である。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
データベース設計と開発能力 効率的なデータベースを設計、構築、および管理する能力。	高度に複雑なデータベースを自立的に設計・開発でき、データベースの高度な機能を駆使して最適化を図ることができる。	必要なデータベース設計と開発タスクを適切に実行できる。標準的な手法に従い効率的なデータベースの利便性を構築できる。	基本的なデータベース設計と開発はできるが、複雑な要件や最適化には苦勞するところがある。	単純なデータベースの設計と開発には対応できるが、エラーや非効率性を含むことがある。	データベース設計と開発の基本的なタスクを遂行できない。
アプリケーション開発とカスタマイズ ユーザーのニーズに合わせたアプリケーションの開発とカスタマイズの能力。	データベースを用いて高度にカスタマイズされたアプリケーションを開発できる。ユーザーニーズを適切に理解し、要件に応じたカスタマイズを行うことができる。創造的かつ革新的な解決策を提案できる。	効率的かつ機能的なデータベースシステムを開発できる。ユーザーニーズを適切に理解し、要件に応じたカスタマイズを行うことができる。	基本的なカスタマイズはできるが、複雑なデータベース構築やユーザーインターフェースの設計には限界がある。	簡単なフォームやレポートのカスタマイズはできるが、データベース構築・管理には能力が不十分である。	データベースの利用に必要な基本的なスキルが欠けている。
解析と問題解決 データを分析し、ビジネスや実務上の問題を解決するための利用法を提案する能力。	複雑なビジネス問題をデータベースを使用して効果的な解決策を提案できる。また、データ分析とレポート作成スキルが優れている。	実務上の問題に対する実用的な解決策を提案できる。また、良好なデータ分析能力を持ち、適切なレポートを作成できる。	基本的な問題解決は可能だが、複雑な問題に対する分析や解決策の提案には助けが必要である。	単純なデータ解析は行えるが、問題解決のための利用法の提案には能力が不十分である。	解析と問題解決のスキルが不足しており、適切なデータベースの利用法を提案できない。
事例研究への取り組み 自ら課題を見つけ、調査してまとめたものを、プレゼンテーションする能力。	真面目に取り組み、成果物の内容は積極的に優秀であった。プレゼンテーションに説得力があった。	真面目に取り組み、成果物の内容が優秀であった。プレゼンテーションも優れていた。	真面目に取り組み、成果物の内容は十分であった。プレゼンテーションは十分であった。	取り組み意欲が薄く、成果物の内容は必要最小限のものであった。プレゼンテーションは控えめな内容だった。	興味を示さず、取り組みは消極的で、成果物が提出されなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	データベース論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの開発経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報機材の特徴とシステム構築に必要な知識について講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション 授業改善アンケート結果反映の説明 授業の概要	データベースについて概要を調べておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
2	データベースの基礎 基本概念と歴史の経緯 データベースの基本用語	学習内容欄の用語について事前に調べておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
3	データモデリングの基本 テーブル作成とデータの型 ERダイアグラムとデータベース、他	学習内容欄の用語について事前に調べておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
4	データ入力と管理 レコードの追加、検索、編集 データのインポートとエクスポート	SQL言語について理解しておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
5	リレーショナルデータベースの基本 テーブル間のリレーションシップの設定、キーの指定、他	データベース管理ツールについて調べておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
6	データ操作言語 SQL入門	学習内容欄の用語について事前に調べておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
7	フィールドの高度な設定 計算フィールドと集計フィールド データのバリデーション	データウェアハウスとビッグデータについて事前に調べておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
8	データの抽出・更新・削除 クエリ操作 スクリプト・マクロの利用	前回、教員から支持された内容を調べておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
9	データベースとセキュリティ セキュリティ機能(パスワード保護、データのセキュリティ)	前回、教員から支持された内容を調べておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
10	データベースとWeb データベースサーバーとWebサーバーの連携 アプリ開発	前回、教員から支持された内容を調べておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
11	トラブルシューティングと最適化 パフォーマンスのモニタリング データベースの最適化	前回、教員から支持された内容を調べておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
12	ビッグデータとデータベース ビッグデータ概念の理解と利用価値、他	前回、教員から支持された内容を調べておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
13	データベーストレンド 各種データベース技術の比較 事例紹介	前回、教員から支持された内容を調べておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
14	事例研究 グループ分け グループによる事例研究テーマ選択と発表資料作成	前回、教員から支持された内容を調べておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
15	事例研究(発表) グループ毎のプレゼンテーション フィードバックと質疑応答	前回、教員から支持された内容を調べておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
16	定期試験(60分)および解答解説	定期試験合格に向けて復習を行う(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	子育て支援 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照すること				

概要

履修目標
以下について理解し、事例研究やロールプレイ等を通して自己覚知を行う。 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開について理解する。 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術について理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標
保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開について理解することができる。 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術について理解することができる。

授業全体の内容と概要
保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に学ぶ。 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に学ぶ。

授業の方法
授業は、演習テーマに基づき思考・考察・意見交換・討論・発表等の一連の活動を行う。小グループでの話し合い、事例分析・ロールプレイング等に基づく各自の感想、意見、振り返りを毎回述べてもらう。グループ発表、個人発表等に対してコメントを述べフィードバックを行う。レポートについても解説によるフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
演習テーマに基づき小グループでの話し合い、ロールプレイング等を行うので主体的に参加して欲しい。専門職としての自己を成長させるための時間として活用して欲しい。そのためにも「準備学習」については、示したテーマに係るこれまでの学びを踏まえて整理すること。「事後学習」については、その日取り組んだ演習内容を記録し専門職を目指す者としての自己覚知を重視すること。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	30%	0%	0%	70%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	30%	0%	0%	70%	0%							

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育相談支援の特性について	保育相談支援の特性について、理解を深めた。	保育相談支援の特性について、ほぼ理解を深めた。	保育相談支援の特性について、やや理解を深めた。	保育相談支援の特性について、理解することができた。	保育相談支援の特性について、理解することができなかった。
保育相談支援の展開について	保育相談支援の展開について、理解を深めた。	保育相談支援の展開について、ほぼ理解を深めた。	保育相談支援の展開について、やや理解を深めた。	保育相談支援の展開について、理解することができた。	保育相談支援の展開について、理解することができなかった。
保育士の行う子育て支援の内容について	保育士の行う子育て支援の内容について、理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の内容について、ほぼ理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の内容について、やや理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の内容について、理解することができた。	保育士の行う子育て支援の内容について、理解することができなかった。
保育士の行う子育て支援の方法及び技術について	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、ほぼ理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、やや理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、理解することができた。	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	子育て支援 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバス確認を含む)、子育て支援の特性、子どもの保育とともに行う保護者の支援、授業改善アンケート結果反映の説明	保護者の支援について(45分)	演習の記録と自己覚知(45分)
2	子育て支援の特性、日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成	信頼関係の形成について(45分)	演習の記録と自己覚知(45分)
3	子育て支援の特性、保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解	多面的な理解について(45分)	演習の記録と自己覚知(45分)
4	子育て支援の特性、子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供	多様な機会や場の提供について(45分)	演習の記録と自己覚知(45分)
5	子育て支援の展開、子ども及び保護者の状況・状態の把握	クライアントの状況・状態の把握について(45分)	演習の記録と自己覚知(45分)
6	子育て支援の展開、支援計画と環境の構成	支援計画について(45分)	演習の記録と自己覚知(45分)
7	子育て支援の展開、支援の実践・記録・評価・カンファレンス及び職員間の連携・協働	職員間の連携・協働について(45分)	演習の記録と自己覚知(45分)
8	子育て支援の展開、社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働	社会資源の活用について(45分)	演習の記録と自己覚知(45分)
9	子育て支援とその実際(内容・方法・技術) 保育所等における支援	保育所等における支援(45分)	演習の記録と自己覚知(45分)
10	子育て支援とその実際(内容・方法・技術) 地域の子育て家庭に対する支援	地域の子育て家庭に対する支援(45分)	演習の記録と自己覚知(45分)
11	子育て支援とその実際(内容・方法・技術) 障害のある子ども及びその家庭に対する支援	障害のある子ども家庭に対する支援(45分)	レポート作成(45分)
12	子育て支援とその実際(内容・方法・技術) 特別な配慮を要する子ども家庭に対する支援	特別な配慮を要する子ども家庭に対する支援(45分)	レポート作成(90分)
13	子育て支援とその実際(内容・方法・技術) 子ども虐待の予防と対応	子ども虐待の予防と対応(90分)	演習の記録と自己覚知(45分)
14	子育て支援とその実際(内容・方法・技術) 要保護児童等の家庭に対する支援	要保護児童等の家庭に対する支援(45分)	演習の記録と自己覚知(45分)
15	子育て支援とその実際(内容・方法・技術) 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解、まとの授業改善アンケートの実施	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭(45分)	事例研究(45分)
16	課題(レポート)に対する解説を行いフィードバックする	事例研究(45分)	事例研究(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	病弱教育 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	千葉 聡美(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 千葉 聡美)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験から、その経験を活かして具体的な実践例を中心に各特性等の理解を図り、さらに教育実習にも必要な内容を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

病弱教育の教育課程及び支援の方法を理解し、教育課程の枠組みを踏まえ、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と方法を理解する。病弱・身体虚弱教育に必要な基本的な知識と健康や病気の状態に応じた指導の在り方等の知識を取得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP2、DP4、DP5に対応する。(2023年度・2022年度)

到達目標

病弱・身体虚弱児教育の教育課程、指導内容・方法等についての基礎的知識を理解することができる。

授業全体の内容と概要

病弱・身体虚弱児の健康や病気の状況に応じた教育課程や指導内容・方法、医療機関との連携、医療的ケアの在り方等について構成する。  
「SDGs すべての人に健康と福祉」「SDG4 質の高い教育をみんなに」の関連授業。

授業の方法

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。授業ではパワーポイント及び配布物(レシメ)で実施し、資料にて説明した後、グループワーク等でグループ協議を行う。また具体的な事例のVTR教材視聴後のレポート提出を行う。レポート等については、コメントにてフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

○20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(特別支援)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	20%	0%	0%	20%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
病弱教育の基礎的な知識・技能の習得	知識・技能についての基礎的内容について高い関心をもって理解し、さらに深めることができた。	知識・技能の基礎的内容について関心をもって理解し、学修できた。	知識・技能の基礎的内容についてほぼ学修できた。	知識・技能について不十分な理解ができた。	知識・技能の基礎的内容について理解できなかった。
病弱教育に関する思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで感性的に表現できた。	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで取り組みができた。	テーマの受け止め方が不十分で思考・判断に課題がみられ、表現できなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が低いが参加できた。	授業への態度に課題があり、参加できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	病弱教育 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	千葉 聡美 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 千葉 聡美)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験から、その経験を活かして具体的な実践例を中心に各特性等の理解を図り、さらに教育実習にも必要な内容を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 2020』	ジアース教育新社	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-543-6	
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス説明とオリエンテーション 授業改善アンケート結果反映の説明	教科書から「病弱教育」についての課題を整理する(90分)	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること。(90分)
2	病弱教育の歴史の変遷	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
3	病弱教育の特別支援学校・特別支援学級	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
4	教育課程と学習指導要領(1)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
5	教育課程と学習指導要領(2)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
6	個別の教育支援計画と個別の指導計画	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
7	教科指導	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な語句や内容の整理とレポートの作成(90分)
8	自立活動	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
9	病弱教育におけるICTの活用	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
10	病気等の状態に応じた指導と配慮	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
11	重度重複児の指導	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
12	訪問教育	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
13	保護者との連携	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
14	多職種連携と医療的ケア	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
15	進路指導と自立 授業改善アンケートの実施	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な語句や内容の整理とレポートの作成(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説する。)	講義内容の重要事項について整理しておくこと(90分)	試験の結果を見直す(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際経営論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国際経営の歴史的变化、全体像、国際経営の成果 課題について学ぶ。国際企業の社会的責任や役割、グローバル企業として成長していく為の質質を考える。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP6に対応する。(2021年度)

到達目標

国際経営についての基礎的知識の修得。

授業全体の内容と概要

日本企業の国際経営について学び、実際の動きや将来の課題について考える。

授業の方法

板書、パワーポイントを用い、講義形式・学生参加型授業を行う。中間テスト、定期試験の解説等のフィードバックを実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席重視、テキスト持参

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

成績評価には10回以上の出席が必要です。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	0%	40%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表も多く積極的だった。	意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表に努め積極的だった。	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。やや積極的だった。	あまり意欲・関心・興味を感じられなかった。無難に授業を消化していた。やや積極性に欠けていた。	全く意欲・関心・興味を感じられなかった。遅刻・欠席が目立った。積極性に欠けていた。
知識	試験の成績9割以上。用語・理論共によく理解していた。	試験の成績8割以上。用語・理論を理解していた。	試験の成績7割以上。用語・理論をある程度理解していた。	試験の成績6割以上。用語・理論の理解が浅かった。	試験の成績6割以下。用語・理論の理解ができていなかった。
思考力・表現力	思考力に長けている。表現方法も豊かで自分の考えを正確に伝えることができていた。	思考力・表現力共に良。自分の考えを適切に伝えることができていた。	思考力・表現力共に普通。自分の考えを伝えることができていた。	思考力・表現力共に若干弱かった。自分の考えを伝えるのに苦勞していた。	思考力・表現力共に弱い。自分の考えを正確に伝えることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際経営論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『「はじめての国際経営」』	中川 功一, 林 正 他	有華閣スタジオ	2017	978-4-641-15017-1	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業全般、評価方法についてガイダンス(シラバスの説明) 国際経営とは何か	シラバスを読むこと。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
2	国際経営とは何か 海外進出の理由	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
3	海外直接投資の理論	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
4	多国籍企業による国際競争の歴史 多国籍企業の栄枯盛衰	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
5	多国籍企業による国際競争の歴史 第二次世界大戦前後	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
6	多国籍企業の組織デザイン 組織デザインから見えること	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
7	多国籍企業の組織デザイン 多国籍企業の戦略と組織	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
8	中間テスト 海外子会社の経営	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
9	海外子会社の経営 海外子会社が担う多様な役割	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
10	国際マーケティング マーケティングとは何か	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
11	国際マーケティング 国際マーケティングのプロセス	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
12	ものづくりの国際拠点展開 単独海外生産拠点の設立・運営	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
13	ものづくりの国際拠点展開 国際生産ネットワーク	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
14	国際的な人的資源管理 グローバル人材の時代	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
15	国際的な人的資源管理 海外駐在員のマネジメント	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
16	総合評価、定期試験60分、解説30分 授業改善アンケートの実施	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	発達障害等教育総論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	堀川 厚志(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 堀川 厚志)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、特別支援教育に必要な今日的課題等について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標	重複障害の概要及び限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理、病理、認知特性や行動特性等の基礎的な知識を理解するとともに、その特性等に合わせた教育内容、方法等の対応に必要な基本的な知識、配慮事項等を理解する。
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP2、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標	重複障害の概要及び限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理、病理、認知特性や行動特性等の基礎的な内容がわかり、指導上の基本的な配慮事項等がわかる。
------	---

授業全体の内容と概要	重複障害の概要及び限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等に関する定義、原因、医学的診断、状態の把握(アセスメント、心理検査)、認知特性、行動特性等について、教育的な望ましい対応の視点から説明する。 「SDGs4：質の高い教育をみんなに」の関連科目。
------------	---

授業の方法	授業は、パワーポイントのスライド資料の提示と資料配布による講義形式を主とする。 授業前半には、前時使用の資料を使用し、内容の振り返りと確認を実施する。 資料中に課題を用意し、少人数によるグループワークやペアワークを実施する。 内容によっては、Webサイトを検索を通して内容を探究する。 授業後半には、内容の確認小テストを実施し、重要ポイントなどを確認する。 Microsoft Forms等を活用し、小テストなどを実施するなどして、理解度を把握し指導する。 学生の不明点等については、チャットなどを活用して迅速に解決できるようにする。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習		反転授業
	ディスカッション	実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	授業内容に関するプレゼン資料の毎時間の配付や、レポート課題の出題、小テストを実施するので、欠席をしないようにすること。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
----------	--

修学サポート(合理的配慮)	大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。 事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容及び評価の成立要件等を調整し、修学サポートを実施する。
---------------	---

資格指定科目	教職課程(特別支援)必修科目
--------	----------------

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。 途中で提示課題に沿ったレポートの提出は、単位取得に必須条件とする。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	60%	30%	0%	0%	10%	0%

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
重複障害及び限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理や生理、病理、行動特性等の基本的な内容の理解	限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理や生理、病理、行動特性等の基本的な内容の理解ができた。	限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理や生理、病理、行動特性等を十分に理解できた。	限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理や生理、病理、行動特性等を一定程度、理解できた。	限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等について部分的に理解できた。	限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理や生理、病理、行動特性等を理解できなかった。
基本的内容及び指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について、的確かつ発展的に整理し、思考力、判断力、表現力の向上	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について、的確かつ発展的に整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、部分的に思考力、判断力、表現力を高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができなかった。
授業への参加意欲や学修に向かう姿勢・態度	授業には意欲的に参加し、自ら発言するなど、常に積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、部分的に積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、ときどき積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、積極的に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	発達障害等教育総論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	堀川 厚志(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 堀川 厚志)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、特別支援教育に必要な今日的課題等について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジヤース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2	『新版子どもの発達障害事典』	原 仁	合同出版	2019	978-4-7726-1382-8	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、重複障害、発達障害等の概要について)	シラバスを読む(90分)	内容を振り返る(90分)
2	重複障害と発達障害等の理解について	状態像を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
3	重複障害と発達障害等の定義と診断基準について	定義と診断基準を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
4	重複障害と発達障害等の行動の特徴と原因等の変遷について	行動の特徴と原因論を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
5	重複障害及び自閉スペクトラム症等の状態像とその理解について	高機能自閉症等について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
6	重複障害及び限局性学習症の状態像とその理解について	学習障害について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
7	重複障害及び注意欠如多動症の状態像とその理解について	注意欠如多動性障害について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
8	知的障害と重複障害等について	知的発達の違いについて調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
9	知的障害児及び重複障害児への学習支援について	知的障害児について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
10	発達障害児の学びと状態状態の変化について	二次的な障害について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
11	限局性学習症の子への教育的な対応について	望ましい対応について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
12	注意欠如多動症の子への教育的な対応について	望ましい対応について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
13	自閉スペクトラム症(高機能自閉症、アスペルガー症候群症候群)等の子への教育的な対応について	望ましい対応について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
14	自閉スペクトラム症(アスペルガー症候群)の子への教育的な対応について	望ましい対応について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
15	アセスメントと実態把握等について 授業改善アンケートの実施	アセスメント等について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
16	定期試験(60分間の筆記テスト、終了後15分間の解答解説の実施)	全内容を整理する(90分)	全内容を振り返る(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	産業社会論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標
------

近代産業社会はどのように成り立ってきたのか、その構造と特質はどのようなものか、また、現代の産業社会の変化について学習する。

授業の位置づけ

経営学科のDP2、DP3、DP7に対応する。(2021年度)

到達目標

産業社会に関する理論や実態について単に知識を習得するだけでなく、高度産業化の過程をわれわれの日常生活との多面的な関わりでとらえ、批判的に考察する姿勢を持てるようになることが目標となる。

授業全体の内容と概要

まず、産業革命によって近代産業社会が生み出されたこと、近代化と産業化の関係と矛盾などについて学ぶ。次に、産業化は社会をどのように変えたかを理解し、20世紀半ば以降の第三世界の産業化にも触れる。そして、現代の産業社会の変化はわれわれの生活に向をもちあらしめているかを探り、新しい生産世界について展望し、考察する。

授業の方法

授業は現代のさまざまな事例を素材としながら講義形式で行ない、必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の理解を知るための小文を提出してもらい、授業で概要を発表してフィードバックする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	○	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習		反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自ら考える「主体的・能動的」な姿勢での受講を求める。本試験・追再試験結果が保留の場合、レポート課題の提出が必要。再試験合格の場合、評価はCとする。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	0%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	定期試験における基礎事項該当部分で90%以上の正答があった。	同部分で80%以上90%未満の正答であった。	同部分で70%以上80%未満の正答であった。	同部分で60%以上70%未満の正答であった。	同部分の正答が60%に満たなかった。
思考力・判断力等	脱工業化概念を軸にして、現代産業社会の構造的特質を十分に考察できていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。
高度産業社会への分析力・主体性等	近代産業社会が脱工業化社会・脱産業社会へ変化してきたことに伴うさまざまな社会的問題への十分な主体的分析ができていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	産業社会論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	科目ガイダンス…全体概要、目的とねらい、履修上の注意、評価方法説明(シラバス説明を含む)、前年度授業アンケート結果概要説明	シラバス内容の事前確認(90分)	目的とねらいについての復習・確認(90分)
2	近代化と産業社会の成立…インダストリアリスの誕生	産業社会とは何かに関する事前考察(90分)	近代化における産業化・工業化についての復習・理解(90分)
3	産業社会の構造…基礎社会の衰耗、エンプロイ化、市場化	産業化・工業化が社会に何をもたらしたかの事前考察(90分)	産業化・工業化による社会変動についての復習・理解(90分)
4	高度産業社会への移行 1. 脱工業化社会の到来	現代産業社会の特質に関する事前考察(90分)	脱工業化・脱産業化の意味と趨勢についての復習・理解(90分)
5	高度産業社会への移行 1. 脱工業化社会の到来 (1) 産業構造・職業構造の変	現代の産業構造・職業構造の特質に関する事前考察(90分)	産業・職業の構造変化による働くことの変化についての復習・理解(90分)
6	高度産業社会への移行 1. 脱工業化社会の到来 (2) 知識集約化	高度産業化段階における知識集約化に関する事前考察(90分)	知識集約社会・知識基盤社会についての復習・理解(90分)
7	高度産業社会への移行 1. 脱工業化社会の到来 (3) 資本主義の文化的矛盾	現代産業社会の問題点についての事前考察(90分)	解決すべき問題の復習・確認(90分)
8	高度産業社会への移行 2. 生産の高度化と労働・職業の変容 (1) グローバリゼーションと産業	グローバリゼーションとはどのような過程かについての事前考察(90分)	グローバリゼーションによる産業・地域社会の変化についての復習・理解(90分)
9	高度産業社会への移行 2. 生産の高度化と労働・職業の変容 (2) 産業官僚制と日本の経営システム	近代社会の官僚制とは何かについての事前考察(90分)	近代組織が官僚制であることの復習・確認(90分)
10	高度産業社会への移行 2. 生産の高度化と労働・職業の変容 (2) 産業官僚制と日本の経営システム	産業活動における企業組織と官僚制に関する事前考察(90分)	産業官僚制とは何かについての復習・理解(90分)
11	高度産業社会への移行 2. 生産の高度化と労働・職業の変容 (2) 産業官僚制と日本の経営システム	日本的経営システムの特質についての事前考察(90分)	日本的経営システムの非官僚制的側面についての復習・理解(90分)
12	高度産業社会への移行 2. 生産の高度化と労働・職業の変容 (2) 産業官僚制と日本の経営システム	日本的経営システムが迫られている変化についての事前考察(90分)	日本的経営システムに対する評価の変遷と環境変化についての復習・理解(90分)
13	高度産業社会への移行 2. 生産の高度化と労働・職業の変容 (3) 就業者のネットワーク	日本的経営システムが迫られている変化についての事前考察(90分)	働く者の連帯とネットワークのあり方に関する復習・理解(90分)
14	新しい「生産世界」へ…産業主義を超えて	産業社会を超える社会のあり方についての事前考察(90分)	インダストリアリズムとは何であったかの復習・再確認・理解(90分)
15	総括と試験概要説明、授業アンケート実施	ノートの整理と重要事項のチェック(90分)	評価に関する確認・理解 試験対応のための復習・理解(90分)
16	試験および解説 60分の試験終了後、残りの30分で解説	試験対応準備(90分)	解説内容の確認・理解(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授) 中島 義博(デザイン学科・非常勤講師) 三	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
(金属) : 金属(鋳金)の特性を活かした美しい作品を制作することが出来る。 (染色) : 広大な染色の世界の一端としての型染めを知る。技法の特質と道具、材料の名称、使用方法を知る。型の連続によるデザインの可能性を知る。 (テキスタイルデザイン) : 身の回りにあふれるテキスタイルデザインを知り、知識を深める。スクリーンプリント技法を学ぶ。
授業の位置づけ
デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度) デザイン学科のDP1、DP3、DP5に対応する。(2023-2022年度) デザイン学科のDP1、DP2、DP4、DP5に対応する(2021年度)

到達目標
(金属) : 金属(鋳金)の特性を理解して作品を制作することが出来る。 (染色) : 型染めの歴史と特性を知り説明できる。型染めの道具、材料の使用方法和技法の基礎を知り制作ができる。型染め特有のデザインの方法を知り実践できる。 (テキスタイルデザイン) : 身の回りにあふれるテキスタイルデザインを知る。スクリーンプリント技法を体験する。

授業全体の内容と概要
(金属)では、「鋳金」を行う。道具の名称や使用方法を実践を通じて学ぶ。制作した作品はポスター(プレゼンテーションボード)にまとめて提出する。 (染色)では、型染めの歴史と技法を学び、自身のデザインで制作に取り組み授業である。オムニバスの少ない授業時間であるが型彫から水元までの型染め全行程を体験する。 (テキスタイルデザイン)では、身の回りにあふれるテキスタイルデザインに注目し、オリジナルのデザインを考える。スクリーンプリント技法を学び、実践する。 テキスタイル小作品を制作し、発表・展示を行う。 「SDG12、つくる責任 つかう責任」の関連授業。
授業の方法
(金属)スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、作品評価及び講評を行う。学生は各自で画像を撮影して保存する。最終的に保存した画像を編集し、ポスターを作成し提出する。 (染色)板書、作例によって歴史と作業の基礎を学び、各自の構想による原画をもとに型染めの制作を行う実技科目である。完成作品の発表を行う機会を設け講評をする。ここで学ぶ型染めは四方送りの技法である。 (テキスタイルデザイン)授業は板書・パワーポイント・資料配布・実演等の方法で説明する。授業後に説明用動画はTeam s に保存するので振り返りが可能。課題は添削、講評にてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法			
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
(金属)制作した作品は撮影して保存し、最終的にはポスターにまとめて提出すること。 (染色)限られた時間の中で工程数が多いので遅刻、欠席は極力避けることが肝要である。 染料と水を使う作業なので対応する服装を心がける。 (テキスタイルデザイン)授業開始から30分間で作業の説明を行うので遅刻しないこと。作業計画のスケジュールは変更できないので必ず出席すること。簡単なレポート提出あり。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程(美術・工芸)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
オムニバスの各講座につき、それぞれ8割以上の出席をすること。 各講座で課される作品等を全て完成させ、期限内に提出をすること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
工芸作品の基本的な特性の理解	工芸における道具の使い方を理解し、技法の特性を活用して美しい作品を制作した。	工芸における道具の使い方を理解し、技法の特性を活用して作品を制作した。	工芸における道具の使い方を理解し、作品を制作した。	工芸技法を使って作品を制作した。	工芸技法を使って作品を制作できなかった。
表現力	課題の意図を理解して制作テーマに活かし、作品に十分に表現することができた。	課題の意図を理解して制作テーマに活かし、作品に表現することができた。	課題の意図を受け止め、制作テーマを決定し、作品に表現することができた。	制作テーマを考え、作品に表現することができた。	制作テーマを考え、作品に表現することができなかった。
主体的に学習に取り組む態度	綿密な制作計画を立て、十分な準備をして、高度で丁寧な制作を行った。	制作計画を立て、十分な準備をして、丁寧な制作を行った。	制作計画を立て、適度な準備をして、順調な制作を行った。	制作計画を立て、計画通りに制作を行った。	制作計画を立て、計画通りに制作を行えなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授) 中島 義博(デザイン学科・非常勤講師) 三	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(梅田・中島・三上) シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスをよく読んでおくこと(45分)	オリエンテーションを振り返り、内容を理解する事(45分)
2	(梅田) 鋸金について	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	ポスター作成(45分)
3	(梅田) アイスブーン デザイン案(鋸金)	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	ポスター作成(45分)
4	(梅田) アイスブーン デザイン案(鋸金)	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	ポスター作成(45分)
5	(梅田) アイスブーン (鋸金)	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	ポスター作成(45分)
6	(梅田) アイスブーン (鋸金)	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	ポスター作成(45分)
7	(梅田) アイスブーン (鋸金)仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	ポスター作成(45分)
8	(梅田) アイスブーン (鋸金)仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	ポスター作成(45分)
9	(梅田) ポスターセッション (講評)	事前に質問したい事をまとめておく(45分)	講評を再考し、理解を深めること(45分)
10	(梅田) ポスターセッション (講評)	事前に質問したい事をまとめておく(45分)	講評を再考し、理解を深めること(45分)
11	(中島) 型染めの歴史、特性、技法の説明	シラバスをよく読んでおくこと(45分)	課題を理解し、準備を進める事(45分)
12	(中島) 型の図案作成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
13	(中島) 型の図案作成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
14	(中島) 型彫り 洋型紙に図案を彫る	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
15	(中島) 型彫り	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
16	(中島) 型彫り 糊を作り生地に着く	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	(中島) 染色 色糊を作り、型の上から引く	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
18	(中島) 染色	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
19	(中島) 蒸し、水元、定着	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
20	(中島) 完成作品発表・講評	事前に質問したい事をまとめておく(45分)	作品を持ち帰り、鑑賞、使用、反省すること(45分)
21	(三上) テキスタイルデザインとスクリーンプリント技法についての説明	シラバスを読んでどんな作品を作るか考えておくこと(45分)	課題を理解し、準備を進める事(45分)
22	(三上) 作業計画を立てる	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
23	(三上) ラフデザイン	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
24	(三上) ラフデザイン	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
25	(三上) 版下作成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
26	(三上) 版下作成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
27	(三上) 製版	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
28	(三上) 刷り	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
29	(三上) 落版・掃除	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
30	(三上) 定着・仕上げ	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
31	(梅田・中島・三上) 展示・発表・講評	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
32	(梅田・中島・三上) まとめ 授業改善アンケートの実施	事前に質問したい事をまとめておく(45分)	講評を受けて今後の制作に活かす(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク演習(専門) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)・小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・大	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てて理解する。</li> <li>2. 社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を理解する。</li> <li>3. 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。</li> <li>4. 地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。</li> <li>5. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。</li> <li>6. 実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。</li> <li>7. ソーシャルワーク演習(専門) で学んだ内容や技術を基礎に、実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。</li> </ol>
授業の位置づけ
社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5、DP6、DP7に対応する(2021年度)。

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てて理解できる。</li> <li>2. 社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力について学ぶ。</li> <li>3. 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。</li> <li>4. 地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解できる。</li> <li>5. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解できる。</li> <li>6. 実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解できる。</li> <li>7. ソーシャルワーク演習(専門) で学んだ内容や技術を基礎に、実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解できる。</li> </ol>

授業全体の内容と概要
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てて学ぶ。</li> <li>2. 社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力について学ぶ。</li> <li>3. 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に学ぶ。</li> <li>4. 地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に学ぶ。</li> <li>5. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に学ぶ。</li> <li>6. 実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に学ぶ。</li> <li>7. 相談援助演習(専門) で学んだ内容や技術を基礎に、実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に学ぶ。</li> <li>8. 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。</li> </ol>

授業の方法
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業形態は演習形式で、適宜、グループワークやディスカッションを含む。</li> <li>2. 適宜、質疑応答を交える。</li> <li>3. 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。</li> <li>4. ソーシャルワーカーのお話を聞く授業もある。</li> <li>5. 大学のペーパー化に伴い、資料はなるべく少なく対応する。</li> </ol>

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td>○</td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 必要な資料等は適宜配布する。</li> <li>2. 配布資料は必ず持参すること。</li> <li>3. 授業は8回であり、5回は出席すること。</li> <li>4. 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。</li> <li>5. ソーシャルワーカーや学生・教員のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。</li> </ol>

<p>修学サポート(合理的配慮)</p> <p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
<p>資格指定科目</p> <p>社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、保育士課程科目(選択)</p>

評価方法・基準

<p>評価前提条件</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席回数は最低5回なければ単位の認定はできない。</li> <li>2. その他については、80%は出席40%、演習における話し合いの態度や発言の取り組み態度40%で評価します。20%は授業内で作成した作成物で評価します。</li> <li>3. 成績評価分布の目標について「S」は履修者の10%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の40%以内とする。但し、履修者が10人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする(絶対評価と相対評価を併用する)。</li> </ol>												
<p>評価方法</p> <table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>%</td> <td>80%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	20%	0%	%	80%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	20%	0%	%	80%							

<p>ルーブリック</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ソーシャルワークにおける自己理解、他者理解の重要性を理解する・実習経験をふまえる</td> <td>自己覚知の概念、自己開示の概念、他者理解の概念、他者理解の重要性を言語で説明できた・実習経験をふまえる</td> <td>自己覚知の概念、他者理解の概念、他者理解の重要性を言語で説明できた・実習経験をふまえる</td> <td>自己覚知の概念、自己開示の概念、他者理解の概念、他者理解の重要性を言語で説明できた・実習経験をふまえる</td> <td>自己覚知の概念を言語で明確に理解できた・実習経験をふまえる</td> <td>左記の専門用語を一つも説明できなかった・実習経験をふまえる</td> </tr> <tr> <td>ソーシャルワークにおける面接技法を理解する・実習経験をふまえる</td> <td>ソーシャルワーク面接の一通のプロセスと重要タームを説明できた・実習経験をふまえる</td> <td>ソーシャルワーク面接の一通のプロセスと重要タームを説明できた・実習経験をふまえる</td> <td>ソーシャルワーク面接の一通のプロセスを説明できた・実習経験をふまえる</td> <td>面接における身体技法を実践できた・実習経験をふまえる</td> <td>左記の専門ターム及び実践技法を一つも説明及び実践できなかった・実習経験をふまえる</td> </tr> <tr> <td>ソーシャルワークにおけるアセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について理解する・実習経験をふまえる</td> <td>アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について明確に言語で説明できた・且つ各々の矢張り区別をロールプレイングで実践できた・実習経験をふまえる</td> <td>アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価における各々の役割をロールプレイングで実践できた・実習経験をふまえる</td> <td>アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、評価、モニタリングの理論と重要性を言語で明確に説明できた・実習経験をふまえる</td> <td>アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価の重要性を説明できた・実習経験をふまえる</td> <td>左記の用語の説明およびロールプレイング実践を一つもできなかった・実習経験をふまえる</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	ソーシャルワークにおける自己理解、他者理解の重要性を理解する・実習経験をふまえる	自己覚知の概念、自己開示の概念、他者理解の概念、他者理解の重要性を言語で説明できた・実習経験をふまえる	自己覚知の概念、他者理解の概念、他者理解の重要性を言語で説明できた・実習経験をふまえる	自己覚知の概念、自己開示の概念、他者理解の概念、他者理解の重要性を言語で説明できた・実習経験をふまえる	自己覚知の概念を言語で明確に理解できた・実習経験をふまえる	左記の専門用語を一つも説明できなかった・実習経験をふまえる	ソーシャルワークにおける面接技法を理解する・実習経験をふまえる	ソーシャルワーク面接の一通のプロセスと重要タームを説明できた・実習経験をふまえる	ソーシャルワーク面接の一通のプロセスと重要タームを説明できた・実習経験をふまえる	ソーシャルワーク面接の一通のプロセスを説明できた・実習経験をふまえる	面接における身体技法を実践できた・実習経験をふまえる	左記の専門ターム及び実践技法を一つも説明及び実践できなかった・実習経験をふまえる	ソーシャルワークにおけるアセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について理解する・実習経験をふまえる	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について明確に言語で説明できた・且つ各々の矢張り区別をロールプレイングで実践できた・実習経験をふまえる	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価における各々の役割をロールプレイングで実践できた・実習経験をふまえる	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、評価、モニタリングの理論と重要性を言語で明確に説明できた・実習経験をふまえる	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価の重要性を説明できた・実習経験をふまえる	左記の用語の説明およびロールプレイング実践を一つもできなかった・実習経験をふまえる
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
ソーシャルワークにおける自己理解、他者理解の重要性を理解する・実習経験をふまえる	自己覚知の概念、自己開示の概念、他者理解の概念、他者理解の重要性を言語で説明できた・実習経験をふまえる	自己覚知の概念、他者理解の概念、他者理解の重要性を言語で説明できた・実習経験をふまえる	自己覚知の概念、自己開示の概念、他者理解の概念、他者理解の重要性を言語で説明できた・実習経験をふまえる	自己覚知の概念を言語で明確に理解できた・実習経験をふまえる	左記の専門用語を一つも説明できなかった・実習経験をふまえる																								
ソーシャルワークにおける面接技法を理解する・実習経験をふまえる	ソーシャルワーク面接の一通のプロセスと重要タームを説明できた・実習経験をふまえる	ソーシャルワーク面接の一通のプロセスと重要タームを説明できた・実習経験をふまえる	ソーシャルワーク面接の一通のプロセスを説明できた・実習経験をふまえる	面接における身体技法を実践できた・実習経験をふまえる	左記の専門ターム及び実践技法を一つも説明及び実践できなかった・実習経験をふまえる																								
ソーシャルワークにおけるアセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について理解する・実習経験をふまえる	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について明確に言語で説明できた・且つ各々の矢張り区別をロールプレイングで実践できた・実習経験をふまえる	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価における各々の役割をロールプレイングで実践できた・実習経験をふまえる	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、評価、モニタリングの理論と重要性を言語で明確に説明できた・実習経験をふまえる	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価の重要性を説明できた・実習経験をふまえる	左記の用語の説明およびロールプレイング実践を一つもできなかった・実習経験をふまえる																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク演習(専門) (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)・小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・大	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(授業改善アンケート結果反映及びシラバスの説明)・ソーシャルワーク演習(専門)の説明	資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
2	ソーシャルワークの展開過程-児童分野のミクロの事例を用いて-実習経験をふまえて	資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
3	ソーシャルワークの展開過程-児童分野のメソ・マクロの事例を用いて-実習経験をふまえて	資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
4	ソーシャルワークの展開過程-地域分野・高齢分野のミクロの事例を用いて-実習経験をふまえて	資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
5	ソーシャルワークの展開過程-地域分野・高齢分野のメソ・マクロの事例を用いて-実習経験をふまえて	資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
6	ソーシャルワークの展開過程-障害分野のミクロの事例を用いて-実習経験をふまえて	資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
7	ソーシャルワークの展開過程-障害分野のメソ・マクロの事例を用いて-実習経験をふまえて	資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
8	ソーシャルワークの展開過程-児童分野・地域分野・高齢分野・障害分野をソーシャルワークのグローバル定数を用いて-実習経験をふまえて	資料を事前に読んでおくこと(90分)	全てのノート整理・全ての自己の言動の振り返り(90分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神医学と精神医療 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	伊東 隆雄(社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2	(単位認定責任者: 伊東 隆雄(社会福祉学科・非常勤講師))	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健指定医、精神科専門医として、大学病院や総合病院精神科での豊富な臨床経験に基づいて、授業を展開する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

<b>履修目標</b>
精神医学の歴史や現状を理解する。脳および神経の解剖と生理を理解する。さらに、代表的な精神疾患を理解し、精神を病む人間存在を支援するための福祉の理念を論じる。
<b>授業の位置づけ</b>
社会福祉学科のDP1、DP2、DP9に対応する。(2021年度)
<b>到達目標</b>
1. 精神医学、精神医療の歴史を説明する。2. 脳および神経の生理・解剖の基礎を説明する。3. 代表的な精神障害について説明する。

<b>授業全体の内容と概要</b>
精神保健福祉士の業務に必要な精神医学の知識の理解、とくに主要な精神疾患の症状、経過、治療等についての理解を深める。 SDG3「すべての人に健康と福祉を」の関連科目
<b>授業の方法</b>
講義形式で各授業を進行する。教科書の概説および毎回、関連する資料を配布し説明する。適宜グループワークやディスカッションを行い理解を深める。授業の冒頭において、前回のまとめを行う。わからない部分については質問を受け付ける。

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>																								
<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模範授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																	
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																	
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)																	
<b>履修上の注意事項</b>																								
必ず予習をして、積極的に質問して、わからないことをその場できちんと理解してほしい。授業の冒頭で前回のまとめを行う。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。																								

<b>修学サポート(合理的配慮)</b>
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
<b>資格指定科目</b>
精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。 筆記試験で規定の成績を得たもの。												
<b>評価方法</b>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	100%	0%	0%	0%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
100%	0%	0%	0%	0%	0%							

<b>ルーブリック</b>																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を越えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>精神医学の歴史についての理解が目標のレベルを達成しているか。</td> <td>精神医学、精神医療の歴史を、批判的に考察して、支援のあり方について説明できた。</td> <td>精神医学、精神医療の歴史から、支援のあり方を説明できた。</td> <td>精神医学、精神医療の歴史の詳細を説明できた。</td> <td>精神医学、精神医療の歴史の概要を説明できた。</td> <td>精神医学、精神医療の歴史を説明できなかった。</td> </tr> <tr> <td>脳や神経の解剖学と生理学の理解が目標のレベルを達成しているか。</td> <td>脳の解剖学と生理学について理解し、精神症状との関連を説明できた。</td> <td>脳の解剖学と生理学について理解し、精神疾患の病態を説明できた。</td> <td>脳の解剖学と生理学についての基本的な知識について説明できた。</td> <td>脳の解剖学についての基礎的な知識を説明できた。</td> <td>脳の解剖学について説明できなかった。</td> </tr> <tr> <td>代表的な精神疾患についての理解が目標のレベルを達成しているか。</td> <td>代表的な精神疾患の原因、診断、治療および福祉的支援のあり方について説明できた。</td> <td>代表的な精神疾患の原因、診断、治療の詳細について説明できた。</td> <td>代表的な精神疾患の診断と治療の概要について説明できた。</td> <td>代表的な精神疾患の概要について説明できた。</td> <td>代表的な精神疾患について説明できなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	精神医学の歴史についての理解が目標のレベルを達成しているか。	精神医学、精神医療の歴史を、批判的に考察して、支援のあり方について説明できた。	精神医学、精神医療の歴史から、支援のあり方を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史の詳細を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史の概要を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史を説明できなかった。	脳や神経の解剖学と生理学の理解が目標のレベルを達成しているか。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神症状との関連を説明できた。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神疾患の病態を説明できた。	脳の解剖学と生理学についての基本的な知識について説明できた。	脳の解剖学についての基礎的な知識を説明できた。	脳の解剖学について説明できなかった。	代表的な精神疾患についての理解が目標のレベルを達成しているか。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療および福祉的支援のあり方について説明できた。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療の詳細について説明できた。	代表的な精神疾患の診断と治療の概要について説明できた。	代表的な精神疾患の概要について説明できた。	代表的な精神疾患について説明できなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
精神医学の歴史についての理解が目標のレベルを達成しているか。	精神医学、精神医療の歴史を、批判的に考察して、支援のあり方について説明できた。	精神医学、精神医療の歴史から、支援のあり方を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史の詳細を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史の概要を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史を説明できなかった。																								
脳や神経の解剖学と生理学の理解が目標のレベルを達成しているか。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神症状との関連を説明できた。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神疾患の病態を説明できた。	脳の解剖学と生理学についての基本的な知識について説明できた。	脳の解剖学についての基礎的な知識を説明できた。	脳の解剖学について説明できなかった。																								
代表的な精神疾患についての理解が目標のレベルを達成しているか。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療および福祉的支援のあり方について説明できた。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療の詳細について説明できた。	代表的な精神疾患の診断と治療の概要について説明できた。	代表的な精神疾患の概要について説明できた。	代表的な精神疾患について説明できなかった。																								



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神医学と精神医療 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	伊東 隆雄(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊東 隆雄(社会福祉学科・非常勤講師))	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健指定医、精神科専門医として、大学病院や総合病院精神科での豊富な臨床経験に基づいて、授業を展開する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座第1巻 精神医学と精神医療』	日本精神保健福祉士養成校協会 編集	中央法規出版	2021年	978-4-8058-8252-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
2	精神医学、精神医療の歴史	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
3	脳および神経の生理・解剖	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
4	精神医学の概念	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
5	精神障害の成因と分類	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
6	診断法 診断の手順と方法	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
7	診断法 精神症状と状態像	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
8	診断法 心理検査と身体的検査	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
9	代表的な精神障害 症状性を含む器質性精神障害(老人性認知症を含む)	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
10	代表的な精神障害 および行動の障害 精神作用物質使用による精神	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
11	代表的な精神障害 および妄想性障害 統合失調症、統合失調型障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
12	代表的な精神障害 気分(感情)障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
13	代表的な精神障害 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
14	代表的な精神障害 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
15	まとめ	講義全体でわからないことがあれば質問をまとめておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
16	定期試験 60分の試験終了後、残りの30分で解説 授業改善アンケートの実施	試験に備えて講義全体のふりかえりを行うこと(90分)	試験および解説を受けて講義全体をふりかえり理解を深めること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)、 西野 克俊(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標
<p>ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について理解する。          精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。          ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的なかつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。          精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。          具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p>

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標
精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

授業全体の内容と概要
障害福祉サービス事業所や行政機関等、及び精神科病院等の医療機関理解のための個別指導及び集団指導を受ける。 精神保健福祉における精神保健福祉士の倫理・責務・義務理解のための個別指導及び集団指導を受ける。 「SDGs、すべての人に健康と福祉を」の関連科目領域

授業の方法
個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。 教科書および配布資料を使用し、ポイントとなるべき箇所は説明、板書を行う。 質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。 Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。 基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td>○</td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業															
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
精神保健福祉援助実習指導 を修了していることを前提とする。 テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとすべき箇所は説明、板書を行う。 Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	0%	0%	100%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	0%	0%	100%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を越えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の発展的な知識を概ね理解できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・考察力</td> <td>精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。</td> <td>精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について概ね考察できた。</td> <td>精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。</td> <td>精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。</td> <td>精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。</td> </tr> <tr> <td>主体性・情意</td> <td>精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明・表現できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを概ね説明・表現できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明・表現できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を概ね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。	思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について概ね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。	主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを概ね説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を概ね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。																								
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について概ね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。																								
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを概ね説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)、 西野 克俊(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新 精神保健福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習「精神福祉教育」	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021	978-4-8058-8259-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバス説明	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
2	ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導 における個別指導及び集団指導の意義	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
3	精神保健医療福祉の現状(利用者理解を含む。) に関する基本的な理解	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
4	精神保健医療福祉の現状(利用者理解を含む。) に関する基本的な理解	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
5	実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域 社会等に関する基本的な理解	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
6	精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体験	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
7	精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体験	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
8	精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体験	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
9	精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体験	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
10	現場体験学習及び見学実習	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
11	現場体験学習及び見学実習	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
12	現場体験学習及び見学実習	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
13	実習先で必要とされる精神保健福祉士としての ソーシャルワークに係る専門的知識と技術に関する理解	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
14	実習先で必要とされる精神保健福祉士としての ソーシャルワークに係る専門的知識と技術に関する理解	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
15	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的 責務に関する理解	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
16	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的 責務に関する理解	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			